

**2023年度
文学部
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A2000】卒業論文（英文学科）[英文学科教員] 年間授業/Yearly	1
【A2000】卒業論文（日本文学科）[日本文学科教員] 年間授業/Yearly	2
【A2000】卒業論文（心理学科）[心理学科教員] 年間授業/Yearly	3
【A2000】卒業論文（哲学科）[哲学科教員] 年間授業/Yearly	4
【A2000】卒業論文（地理学科）[地理学科教員] 年間授業/Yearly	5
【A2000】卒業論文（史学科）[史学科教員] 年間授業/Yearly	6
【A3819】歴史地理学（1）[米家 志乃布] 春学期授業/Spring	7
【A3820】歴史地理学（2）[米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	8
【A3809】民俗学Ⅰ [室井 康成] 春学期授業/Spring	9
【A3810】民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	10
【A3811】イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	11
【A3812】イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall	12
【A3813】文学部生のキャリア形成 [荒井 弘和、川崎 貴子、小寺 浩二] 春学期授業/Spring	13
【A3814】現代のコモンセンス [菅沢 龍文、王 安、内藤 一成] 秋学期授業/Fall	14
【A2304】哲学概論1 [中釜 浩一] 春学期授業/Spring	15
【A2305】哲学概論2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	16
【A2306】論理学概論1 [安東 祐希] 春学期授業/Spring	17
【A2307】論理学概論2 [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	18
【A2308】倫理学概論1 [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	19
【A2309】倫理学概論2 [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	20
【A2310】西洋哲学史Ⅰ-1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	21
【A2311】西洋哲学史Ⅰ-2 [奥田 和夫] 秋学期授業/Fall	22
【A2312】西洋哲学史Ⅱ-1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	23
【A2313】西洋哲学史Ⅱ-2 [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	24
【A2206】基礎演習1 [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	25
【A2207】基礎演習1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	26
【A2209】基礎演習2 [西塚 俊太] 秋学期授業/Fall	27
【A2210】基礎演習2 [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	28
【A2212】哲学特講（1）-1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	29
【A2213】哲学特講（1）-2 [山下 真] 秋学期授業/Fall	30
【A2216】哲学特講（3）-1 [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	31
【A2217】哲学特講（3）-2 [古屋 俊彦] 秋学期授業/Fall	32
【A2218】哲学特講（4）-1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	33
【A2219】哲学特講（4）-2 [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	34
【A2220】哲学特講（5）-1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	35
【A2221】哲学特講（5）-2 [相原 博] 秋学期授業/Fall	36
【A2222】哲学特講（6）-1 [大橋 基] 春学期授業/Spring	37
【A2223】哲学特講（6）-2 [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	38
【A2224】哲学特講（7）-1 [酒井 健] 春学期授業/Spring	39
【A2225】哲学特講（7）-2 [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	40
【A2226, A3672】哲学特講（8）-1 / 科学哲学Ⅰ [木島 泰三] 春学期授業/Spring	42
【A2227, A3673】哲学特講（8）-2 / 科学哲学Ⅱ [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	43
【A2301】国際哲学特講 [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	44
【A2230】哲学演習（1）[佐藤 真人] 年間授業/Yearly	45
【A2231】哲学演習（2）[奥田 和夫] 年間授業/Yearly	47

【A2232】	哲学演習（3）〔菅沢 龍文〕年間授業/Yearly	48
【A2233】	哲学演習（4）〔酒井 健〕年間授業/Yearly	49
【A2234】	哲学演習（5）〔吉田 敬介〕年間授業/Yearly	51
【A2235】	哲学演習（6）〔君嶋 泰明〕年間授業/Yearly	53
【A2236】	哲学演習（7）〔西塚 俊太〕年間授業/Yearly	54
【A2237】	哲学演習（8）〔安東 祐希〕年間授業/Yearly	55
【A2238】	哲学演習（9）〔中釜 浩一〕年間授業/Yearly	56
【A2239】	哲学演習（10）〔板橋 勇仁〕年間授業/Yearly	57
【A2240】	哲学演習（11）〔内藤 淳〕年間授業/Yearly	58
【A2241】	科学哲学1〔中釜 浩一〕春学期授業/Spring	59
【A2242】	科学哲学2〔中釜 浩一〕秋学期授業/Fall	60
【A2245】	現代思想2（フランスの思想）1〔大池 惣太郎〕春学期授業/Spring	61
【A2246】	現代思想2（フランスの思想）2〔大池 惣太郎〕秋学期授業/Fall	62
【A2247】	美学・芸術学1〔吉田 敬介〕春学期授業/Spring	63
【A2248】	美学・芸術学2〔吉田 敬介〕秋学期授業/Fall	64
【A2249】	東洋哲学史1〔青野 道彦〕春学期授業/Spring	65
【A2250】	東洋哲学史2〔頼住 光子〕秋学期授業/Fall	66
【A2251】	宗教学1（伝統宗教）1〔松本 力〕春学期授業/Spring	67
【A2252】	宗教学1（伝統宗教）2〔松本 力〕秋学期授業/Fall	68
【A2260】	日本思想史1〔西塚 俊太〕春学期授業/Spring	69
【A2261】	日本思想史2〔西塚 俊太〕秋学期授業/Fall	70
【A2262, A3851】	文化史1／文化史1（資格）〔伊藤 直樹〕春学期授業/Spring	71
【A2263, A3852】	文化史2／文化史2（資格）〔伊藤 直樹〕秋学期授業/Fall	72
【A2264】	社会思想1（社会学概論）1〔岩野 卓司〕春学期授業/Spring	73
【A2265】	社会思想1（社会学概論）2〔岩野 卓司〕秋学期授業/Fall	74
【A2266】	社会思想2（社会思想史）1〔政井 啓子〕春学期授業/Spring	75
【A2267】	社会思想2（社会思想史）2〔鈴木 由加里〕秋学期授業/Fall	76
【A2268】	ラテン語1〔金子 佳司〕春学期授業/Spring	77
【A2269】	ラテン語2〔金子 佳司〕秋学期授業/Fall	78
【A2270】	ギリシア語1〔白根 裕里枝〕春学期授業/Spring	79
【A2271】	ギリシア語2〔白根 裕里枝〕秋学期授業/Fall	80
【A2413, A2414, A2415, A2416, A2417, A2418, A2419, A2420, A2421, A2422, A2423】	大学での国語力〔伊海 孝充、佐藤 未央子、坂本 勝、中丸 宣明、小林 ふみ子、遠藤 星希、藤村 耕治、加藤 昌嘉、阿部 真弓〕春学期授業/Spring	81
【A2401】	日本文芸学概論A〔遠藤 星希他〕春学期授業/Spring	82
【A2402】	日本文芸学概論A〔遠藤 星希他〕春学期授業/Spring	83
【A2403】	日本文芸学概論B〔遠藤 星希他〕秋学期授業/Fall	84
【A2404】	日本文芸学概論B〔遠藤 星希他〕秋学期授業/Fall	85
【A2409】	日本語学概論A〔間宮 厚司〕春学期授業/Spring	86
【A2410】	日本語学概論A〔古牧 久典〕春学期授業/Spring	87
【A2411】	日本語学概論B〔尾谷 昌則〕秋学期授業/Fall	88
【A2412】	日本語学概論B〔古牧 久典〕秋学期授業/Fall	89
【A2405】	日本文芸史ⅠA〔坂本 勝〕春学期授業/Spring	90
【A2406】	日本文芸史ⅠA〔加藤 昌嘉〕春学期授業/Spring	91
【A2407】	日本文芸史ⅠB〔阿部 真弓〕秋学期授業/Fall	92
【A2408】	日本文芸史ⅠB〔小林 ふみ子〕秋学期授業/Fall	93
【A2425】	文学概論A〔中丸 宣明〕春学期授業/Spring	94
【A2427】	文学概論B〔中丸 宣明〕秋学期授業/Fall	95
【A2429】	日本文芸史ⅡA〔藤村 耕治〕春学期授業/Spring	96
【A2430】	日本文芸史ⅡA〔矢澤 美佐紀〕春学期授業/Spring	97
【A2431】	日本文芸史ⅡB〔藤村 耕治〕秋学期授業/Fall	98
【A2432】	日本文芸史ⅡB〔矢澤 美佐紀〕秋学期授業/Fall	99
【A2615】	ゼミナール1A〔遠藤 星希〕春学期授業/Spring	100
【A2616】	ゼミナール1B〔遠藤 星希〕秋学期授業/Fall	101
【A2617】	ゼミナール2A〔坂本 勝〕春学期授業/Spring	102
【A2618】	ゼミナール2B〔坂本 勝〕秋学期授業/Fall	103
【A2619】	ゼミナール3A〔加藤 昌嘉〕春学期授業/Spring	104

【A2620】	ゼミナール3 B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	105
【A2621】	ゼミナール4 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	106
【A2622】	ゼミナール4 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	107
【A2623】	ゼミナール5 A [小秋元 段] 春学期授業/Spring	108
【A2624】	ゼミナール5 B [小秋元 段] 秋学期授業/Fall	109
【A2625】	ゼミナール6 A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	110
【A2626】	ゼミナール6 B [小林 ふみ子] 秋学期授業/Fall	111
【A2627】	ゼミナール7 A [ステイーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	112
【A2628】	ゼミナール7 B [ステイーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	113
【A2629】	ゼミナール8 A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	114
【A2630】	ゼミナール8 B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	115
【A2631】	ゼミナール9 A [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	116
【A2632】	ゼミナール9 B [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	117
【A2635】	ゼミナール11 A [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	118
【A2636】	ゼミナール11 B [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	119
【A2637】	ゼミナール12 A [三井 喜美子] 春学期授業/Spring	120
【A2638】	ゼミナール12 B [三井 喜美子] 秋学期授業/Fall	121
【A2639】	ゼミナール13 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	122
【A2640】	ゼミナール13 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	123
【A2641】	ゼミナール14 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	124
【A2642】	ゼミナール14 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	125
【A2643】	ゼミナール15 A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	126
【A2644】	ゼミナール15 B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	127
【A2645】	ゼミナール16 A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	128
【A2646】	ゼミナール16 B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	129
【A2647】	ゼミナール17 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	130
【A2648】	ゼミナール17 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	131
【A2649】	ゼミナール18 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	132
【A2650】	ゼミナール18 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	133
【A2651】	ゼミナール19 A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	134
【A2652】	ゼミナール19 B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	135
【A2653】	ゼミナール20 A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	136
【A2654】	ゼミナール20 B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	137
【A2655】	ゼミナール21 A [山口 和人] 春学期授業/Spring	138
【A2656】	ゼミナール21 B [山口 和人] 秋学期授業/Fall	139
【A2735】	ゼミナール22 A [王 安] 春学期授業/Spring	140
【A2736】	ゼミナール22 B [王 安] 秋学期授業/Fall	142
【A2657】	日本文芸研究特講 (1) 上代A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	144
【A2658】	日本文芸研究特講 (1) 上代B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	145
【A2659】	日本文芸研究特講 (1) 上代C [萩野 了子] 春学期授業/Spring	146
【A2660】	日本文芸研究特講 (1) 上代D [萩野 了子] 秋学期授業/Fall	147
【A2661】	日本文芸研究特講 (2) 中古A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	148
【A2662】	日本文芸研究特講 (2) 中古B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	150
【A2665】	日本文芸研究特講 (3) 中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	151
【A2666】	日本文芸研究特講 (3) 中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	152
【A2667】	日本文芸研究特講 (3) 中世C [阿部 亮太] 春学期授業/Spring	153
【A2669】	日本文芸研究特講 (4) 近世A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	154
【A2670】	日本文芸研究特講 (4) 近世B [齊藤 千恵] 秋学期授業/Fall	155
【A2672】	日本文芸研究特講 (4) 近世D [宮本 祐規子] 秋学期授業/Fall	156
【A2673】	日本文芸研究特講 (5) 近代A [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring	157
【A2674】	日本文芸研究特講 (5) 近代B [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall	158
【A2677】	日本文芸研究特講 (6) 現代A [藤木 直実] 春学期授業/Spring	159
【A2678】	日本文芸研究特講 (6) 現代B [藤木 直実] 秋学期授業/Fall	160
【A2679】	日本文芸研究特講 (6) 現代C [高口 智史] 春学期授業/Spring	161
【A2680】	日本文芸研究特講 (6) 現代D [梅澤 亜由美] 秋学期授業/Fall	162
【A2681】	日本文芸研究特講 (7) 漢文A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	163
【A2682】	日本文芸研究特講 (7) 漢文B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	164

【A2685】	日本文芸研究特講 (8) 言語A [王安] 春学期授業/Spring	165
【A2686】	日本文芸研究特講 (8) 言語B [問宮 厚司] 秋学期授業/Fall	166
【A2687】	日本文芸研究特講 (9) 表現A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	167
【A2688】	日本文芸研究特講 (9) 表現B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	168
【A2689】	日本文芸研究特講 (10) 演劇A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	169
【A2690】	日本文芸研究特講 (10) 演劇B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	170
【A2691】	日本文芸研究特講 (10) 演劇C [上野 火山] 春学期授業/Spring	171
【A2692】	日本文芸研究特講 (10) 演劇D [上野 火山] 秋学期授業/Fall	172
【A2693】	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史A [本塚 亘] 春学期授業/Spring	173
【A2694】	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史B [本塚 亘] 秋学期授業/Fall	174
【A2695】	日本文芸研究特講 (12) 詩歌A [四元 康祐] 春学期授業/Spring	175
【A2696】	日本文芸研究特講 (12) 詩歌B [四元 康祐] 秋学期授業/Fall	176
【A2697】	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸A [三井 喜美子] 春学期授業/Spring	177
【A2698】	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸B [三井 喜美子] 秋学期授業/Fall	178
【A2699】	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸A [福 寛美] 春学期授業/Spring	179
【A2700】	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸B [福 寛美] 秋学期授業/Fall	180
【A2703】	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	181
【A2704】	日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	182
【A2707】	日本文芸研究特講 (16) 特域C [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	183
【A2708】	日本文芸研究特講 (16) 特域D [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	184
【A2605, A2606, A2607, A2608, A2609, A2610, A2611, A2612, A2613, A2614】	ゼミナール入門 [坂本 勝、中丸 宣明、佐藤 未央子、小林 ふみ子、伊海 孝充、藤村 耕治、スティーヴン ネルソン、中沢 けい、加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	185
【A2433】	日本語史A [問宮 厚司] 春学期授業/Spring	186
【A2435】	日本語史B [問宮 厚司] 秋学期授業/Fall	187
【A2437】	日本文法論A [松浦 光] 春学期授業/Spring	188
【A2438】	日本文法論A [松浦 光] 春学期授業/Spring	189
【A2439】	日本文法論B [松浦 光] 秋学期授業/Fall	190
【A2440】	日本文法論B [松浦 光] 秋学期授業/Fall	191
【A2441】	日本文章史A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	192
【A2443】	日本文章史B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	193
【A2445】	文章表現論A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	194
【A2446】	文章表現論A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	195
【A2568】	メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	196
【A2447】	文章表現論B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	197
【A2448】	文章表現論B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	198
【A2553】	日本文芸批評史A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	199
【A2555】	日本文芸批評史B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	200
【A2558】	日本語学特殊研究A [問宮 厚司] 春学期授業/Spring	201
【A2560】	日本語学特殊研究B [問宮 厚司] 秋学期授業/Fall	202
【A2561】	中国文芸史A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	203
【A2562】	中国文芸史A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	204
【A2563】	中国文芸史B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	205
【A2564】	中国文芸史B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	206
【A2566】	書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring	207
【A2569】	音楽芸能史特殊研究A [野川 美穂子] 春学期授業/Spring	208
【A2571】	音楽芸能史特殊研究B [野川 美穂子] 秋学期授業/Fall	209
【A2709】	編集理論A [福江 泰太] 春学期授業/Spring	210
【A2710】	編集理論B [福江 泰太] 秋学期授業/Fall	211
【A2574】	編集実務A [谷村 順一] 春学期授業/Spring	212
【A2576】	編集実務B [谷村 順一] 秋学期授業/Fall	214
【A2584】	表現と著作権A [内藤 裕之] 春学期授業/Spring	216
【A2586】	表現と著作権B [内藤 裕之] 秋学期授業/Fall	217
【A2604】	古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	218
【A2719】	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 春学期授業/Spring	219
【A2721】	書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 春学期授業/Spring	220
【A2720】	書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 秋学期授業/Fall	221

【A2722】書道 B(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 秋学期授業/Fall	222
【A2577, A3853】美術史 (西洋) A / 美術史 (西洋) A (資格) [安藤 智子] 春学期授業/Spring	223
【A2578, A3854】美術史 (西洋) B / 美術史 (西洋) B (資格) [安藤 智子] 秋学期授業/Fall	224
【A2715】情報リテラシー実習 A [谷村 順一] 春学期授業/Spring	225
【A2716】情報リテラシー実習 B [谷村 順一] 秋学期授業/Fall	227
【A2717】情報メディア演習 A [武田 俊] 春学期授業/Spring	229
【A2718】情報メディア演習 B [武田 俊] 秋学期授業/Fall	230
【A2724】国語科教育法 (1) [木村 陽子] 春学期授業/Spring	231
【A2725】国語科教育法 (2) [木村 陽子] 秋学期授業/Fall	232
【A2727】国語科教育法 (3) [南崎 徳彦] 春学期授業/Spring	233
【A2728】国語科教育法 (4) [南崎 徳彦] 秋学期授業/Fall	234
【A2901】英語史 A [福元 広二] 春学期授業/Spring	235
【A2902】英語史 B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	236
【A2903】英文学史 A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	237
【A2904】英文学史 B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	238
【A2905】米文学史 A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	239
【A2906】米文学史 B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	240
【A2804】英語学概論 A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	241
【A2805】英語学概論 B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	242
【A2806】言語学概論 A [石川 潔] 春学期授業/Spring	243
【A2807】言語学概論 B [石井 創] 秋学期授業/Fall	244
【A2808】英語・言語学講義 A [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	246
【A2809】英語・言語学講義 B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	247
【A2810】社会言語学 [椎名 美智] 春学期授業/Spring	248
【A2811】応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	249
【A2907】英米文学講義 I A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	250
【A2908】英米文学講義 I B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	251
【A2909】英米文学講義 II A [小澤 央] 春学期授業/Spring	252
【A2910】英米文学講義 II B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	253
【A2911】英語学講義 A [福元 広二] 春学期授業/Spring	254
【A2912】英語学講義 B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	255
【A2913, A2326】言語学講義 I A / 言語と論理 I (言語学講義 I) A [石川 潔] 春学期授業/Spring	256
【A2914, A2327】言語学講義 I B / 言語と論理 I (言語学講義 I) B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	257
【A2915】言語学講義 II A [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	258
【A2916】言語学講義 II B [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	259
【A2917】英語音声学 A [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	260
【A2918】英語音声学 B [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	261
【A2919】英語音声学 A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	262
【A2920】英語音声学 B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	263
【A2923】英語・言語学特殊講義 A [岸山 健] 春学期授業/Spring	264
【A2924】英語・言語学特殊講義 B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	265
【A2824】比較文学 A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	266
【A2825】比較文学 B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	267
【A2826】英語表現演習 (Writing)(1) A [畑 和樹] 春学期授業/Spring	268
【A2827】英語表現演習 (Writing)(1) B [畑 和樹] 秋学期授業/Fall	269
【A2828】英語表現演習 (Writing)(2) A [安藤 和弘] 春学期授業/Spring	270
【A2829】英語表現演習 (Writing)(2) B [安藤 和弘] 秋学期授業/Fall	271
【A2830】英語表現演習 (Writing)(3) A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	272
【A2831】英語表現演習 (Writing)(3) B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	274
【A2834】英語表現演習 (Writing)(5) A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	276
【A2835】英語表現演習 (Writing)(5) B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	277
【A2836】英語表現演習 (Writing)(6) A [岸山 健] 春学期授業/Spring	278
【A2837】英語表現演習 (Writing)(6) B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	279
【A2838】英語表現演習 (Writing)(7) A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	280
【A2839】英語表現演習 (Writing)(7) B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	282
【A2840】英語表現演習 (Writing)(8) A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	284
【A2841】英語表現演習 (Writing)(8) B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	285

[A2846]	英語表現演習 (Speaking)(1) A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	286
[A2847]	英語表現演習 (Speaking)(1) B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	287
[A2848]	英語表現演習 (Speaking)(2) A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	288
[A2849]	英語表現演習 (Speaking)(2) B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	289
[A2850]	英語表現演習 (Speaking)(3) A [岸山 健] 春学期授業/Spring	290
[A2851]	英語表現演習 (Speaking)(3) B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	291
[A2854]	英語表現演習 (Speaking)(5) A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	292
[A2855]	英語表現演習 (Speaking)(5) B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	293
[A2856]	英語表現演習 (Speaking)(6) A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	294
[A2857]	英語表現演習 (Speaking)(6) B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	296
[A2858]	英語表現演習 (Speaking)(7) A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	298
[A2859]	英語表現演習 (Speaking)(7) B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	300
[A2860]	英語表現演習 (Speaking)(8) A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	302
[A2861]	英語表現演習 (Speaking)(8) B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	304
[A2844]	英語表現演習 (翻訳) (1) A [吉川 純子] 春学期授業/Spring	306
[A2845]	英語表現演習 (翻訳) (1) B [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	307
[A2866]	英語表現演習 (翻訳) (2) A [安藤 和弘] 春学期授業/Spring	308
[A2867]	英語表現演習 (翻訳) (2) B [安藤 和弘] 秋学期授業/Fall	309
[A2889]	海外英語演習 [田中 裕希] 夏期集中/Intensive(Summer)	311
[A2935]	英語学演習 (1) A [福元 広二] 春学期授業/Spring	312
[A2936]	英語学演習 (1) B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	313
[A2937]	英語学演習 (2) A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	314
[A2938]	英語学演習 (2) B [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	315
[A2939]	言語学演習 (1) A [石川 潔] 春学期授業/Spring	316
[A2940]	言語学演習 (1) B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	317
[A2941]	言語学演習 (2) A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	318
[A2942]	言語学演習 (2) B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	319
[A2943]	英米文学演習 (1) A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	320
[A2944]	英米文学演習 (1) B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	321
[A2947]	英米文学演習 (3) A [迫 桂] 春学期授業/Spring	322
[A2948]	英米文学演習 (3) B [迫 桂] 秋学期授業/Fall	324
[A2951]	英米文学演習 (5) A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	326
[A2952]	英米文学演習 (5) B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	327
[A2953]	英米文学演習 (6) A [小澤 央] 春学期授業/Spring	328
[A2954]	英米文学演習 (6) B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	329
[A2957]	英米文学演習 (8) A [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	330
[A2958]	英米文学演習 (8) B [山崎 暁子] 秋学期授業/Fall	331
[A2959]	英米文学演習 (9) A [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	332
[A2960]	英米文学演習 (9) B [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	333
[A2961]	英語教育学演習 A [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	334
[A2962]	英語教育学演習 B [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	335
[A2965]	英米文学特殊講義 I [宮川 雅] 春学期授業/Spring	336
[A2966]	英米文学特殊講義 II [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	337
[A2967]	英米文学特殊講義 III [吉田 裕] 春学期授業/Spring	338
[A2968]	英米文学特殊講義 IV [吉田 裕] 秋学期授業/Fall	340
[A2969]	文学研究方法論 A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	342
[A2970]	文学研究方法論 B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	343
[A2971]	2 年次演習 (1) [小澤 央] 春学期授業/Spring	344
[A2972]	2 年次演習 (2) [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	345
[A2973]	2 年次演習 (3) [小島 尚人] 春学期授業/Spring	346
[A2974]	2 年次演習 (4) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	347
[A2975]	2 年次演習 (5) [福元 広二] 春学期授業/Spring	348
[A2976]	2 年次演習 (6) [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	349
[A2977]	英語の文法力 I [椎名 美智] 春学期授業/Spring	350
[A2978]	英語の文法力 II [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	351
[A2979]	メディア・リテラシー I [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	352
[A2980]	メディア・リテラシー II [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	353

【A2981】 比較文化論（1）[小島 尚人] 秋学期授業/Fall.....	354
【A2982】 英米文化概論 A [田中 裕希] 春学期授業/Spring.....	355
【A2983】 英米文化概論 B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall.....	356
【A2984】 Academic Writing A [中谷 安男] 春学期授業/Spring.....	357
【A2985】 Academic Writing B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall.....	358
【A2986】 Seminar in Cross-cultural Studies A [田中 裕希] 春学期授業/Spring.....	359
【A2987】 Seminar in Cross-cultural Studies B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall.....	360
【A2988】 Comparative Culture(2) [小島 尚人] 春学期授業/Spring.....	361
【A2991】 Public Speaking [椎名 美智] 秋学期授業/Fall.....	362
【A2993, A2994】 英語表現演習(総合) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring.....	363
【A2995, A2996】 英語表現演習(総合) [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall.....	364
【A3001】 言語習得論演習 A [近藤 隆子] 春学期授業/Spring.....	365
【A3002】 言語習得論演習 B [近藤 隆子] 秋学期授業/Fall.....	366
【A3101】 日本史概説 I [古庄 浩明] 春学期授業/Spring.....	367
【A3102】 日本史概説 II [大塚 紀弘] 秋学期授業/Fall.....	368
【A3103】 日本史概説 III [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring.....	369
【A3104】 日本史概説 IV [内藤 一成] 秋学期授業/Fall.....	370
【A3105】 東洋史概説 I [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring.....	371
【A3106】 東洋史概説 II [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall.....	372
【A3107】 東洋史概説 III [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring.....	373
【A3108】 東洋史概説 IV [宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall.....	374
【A3109】 西洋史概説 I [内田 康太] 春学期授業/Spring.....	375
【A3110】 西洋史概説 II [内田 康太] 秋学期授業/Fall.....	376
【A3111】 西洋史概説 III [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring.....	377
【A3112】 西洋史概説 IV [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall.....	378
【A3113, A3856】 日本考古学/日本考古学(資格) [古庄 浩明] 秋学期授業/Fall.....	379
【A3114】 日本古代史 [春名 宏昭] 春学期授業/Spring.....	380
【A3115】 日本中世史 [及川 亘] 秋学期授業/Fall.....	381
【A3116】 日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall.....	382
【A3117】 日本近代史 [内藤 一成] 春学期授業/Spring.....	383
【A3118】 日本現代史 [劉 傑] 春学期授業/Spring.....	384
【A3119】 日本考古資料学 I [阿部 朝衛] 春学期授業/Spring.....	385
【A3120】 日本考古資料学 II [阿部 朝衛] 秋学期授業/Fall.....	386
【A3121】 日本古代史科学 I [春名 宏昭] 秋学期授業/Fall.....	387
【A3124】 日本近世史科学 I [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring.....	388
【A3125】 日本近世史科学 II [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall.....	389
【A3126】 日本近代史科学 [内藤 一成] 秋学期授業/Fall.....	390
【A3127】 日本現代史科学 [劉 傑] 秋学期授業/Fall.....	391
【A3128】 日本考古学演習 [小倉 淳一] 年間授業/Yearly.....	392
【A3129】 日本古代史演習 [小口 雅史] 年間授業/Yearly.....	393
【A3130】 日本中世史演習 [大塚 紀弘] 年間授業/Yearly.....	395
【A3131】 日本近世史演習 [松本 剣志郎] 年間授業/Yearly.....	396
【A3134】 日本現代史演習 [柏木 一郎] 年間授業/Yearly.....	397
【A3135】 東洋古代史 [飯尾 秀幸] 春学期授業/Spring.....	398
【A3136】 東洋中世史 [宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall.....	399
【A3139】 東洋史外書講読 I [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring.....	400
【A3140】 東洋史外書講読 II [宇佐美 久美子] 秋学期授業/Fall.....	401
【A3143】 西洋古代史 [内田 康太] 春学期授業/Spring.....	402
【A3144】 西洋中世史 [大貫 俊夫] 春学期授業/Spring.....	403
【A3145】 西洋近代史 [島田 顕] 春学期授業/Spring.....	404
【A3146】 西洋現代史 [古川 高子] 秋学期授業/Fall.....	405
【A3147】 西洋史外書講読 I [内田 康太] 秋学期授業/Fall.....	406
【A3148】 西洋史外書講読 II [古川 高子] 春学期授業/Spring.....	407
【A3149】 西洋現代史演習 [大澤 広晃] 年間授業/Yearly.....	408
【A3150】 西洋前近代史演習 [内田 康太] 年間授業/Yearly.....	409
【A3151】 西洋近代史演習 [高澤 紀恵] 年間授業/Yearly.....	410
【A3152, A3855】 考古学概論/考古学概論(資格) [古庄 浩明] 春学期授業/Spring.....	411

【A3153, A2274】 史学概論／歴史思想（史学概論）[高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	412
【A3154】 日本史特講Ⅰ [中山 学] 春学期授業/Spring	413
【A3155】 日本史特講Ⅱ [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	414
【A3156】 日本史特講Ⅲ [稲田 奈津子] 秋学期授業/Fall	415
【A3157】 日本史特講Ⅳ [中山 学] 秋学期授業/Fall	416
【A3158】 日本史特講Ⅴ [宮間 純一] 秋学期授業/Fall	417
【A3159】 日本史特講Ⅵ [米崎 清実] 春学期授業/Spring	418
【A3160】 日本史特講Ⅶ [山田 康弘] 春学期授業/Spring	419
【A3162】 東洋史特講Ⅰ [飯尾 秀幸] 秋学期授業/Fall	421
【A3163】 東洋史特講Ⅱ [澁谷 由紀] 春学期授業/Spring	422
【A3164】 東洋史特講Ⅲ [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall	423
【A3165】 東洋史特講Ⅳ [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	424
【A3166】 東洋史特講Ⅴ [宇佐美 久美子] 春学期授業/Spring	425
【A3168】 西洋史特講Ⅰ [内田 康太] 秋学期授業/Fall	426
【A3169】 西洋史特講Ⅱ [大貫 俊夫] 秋学期授業/Fall	427
【A3170】 西洋史特講Ⅲ [吉岡 潤] 秋学期授業/Fall	428
【A3171】 西洋史特講Ⅳ [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	429
【A3172】 西洋史特講Ⅴ [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall	430
【A3173】 西洋史特講Ⅵ [大鳥 由香子] 春学期授業/Spring	431
【A3174】 西洋史特講Ⅶ [遠藤 泰生] 秋学期授業/Fall	432
【A3176, A3857】 美術史（日本）A／美術史（日本）A（資格）[稲本 万里子] 春学期授業/Spring	433
【A3177, A3858】 美術史（日本）B／美術史（日本）B（資格）[稲本 万里子] 秋学期授業/Fall	434
【A3201】 日本史特講Ⅸ [内藤 一成] 春学期授業/Spring	435
【A3202】 日本史特講Ⅹ [森田 貴子] 秋学期授業/Fall	436
【A3203】 日本近代史演習 [内藤 一成] 年間授業/Yearly	437
【A3204】 日本古代史科学Ⅱ a [山口 英男] 春学期授業/Spring	438
【A3206】 日本古文書学Ⅰ [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	439
【A3207】 日本古文書学Ⅱ [大塚 紀弘] 秋学期授業/Fall	440
【A3208】 東洋近現代史 [芦沢 知絵] 春学期授業/Spring	441
【A3209】 東洋考古・美術史 [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	442
【A3210】 東洋史物質資料演習 [塩沢 裕仁] 年間授業/Yearly	443
【A3211】 東洋史文献史料演習 [齋藤 勝] 年間授業/Yearly	444
【A3214】 東洋史序説 [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	445
【A3215】 西洋史序説 [志内 一興] 春学期授業/Spring	446
【A3216】 日本史特講Ⅺ [遠藤 慶太] 秋学期授業/Fall	447
【A3217】 東洋史特講Ⅶ [徳留 大輔] 春学期授業/Spring	448
【A3218】 東洋史特講Ⅷ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	450
【A3219】 西洋史特講Ⅸ [大澤 広見] 春学期授業/Spring	451
【A3226】 日本史序説 [齋藤 智志] 春学期授業/Spring	452
【A3227】 歴史特講 [大澤 広見、内藤 一成、宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall	453
【A3401】 地理学概論（1） [前空 英明] 春学期授業/Spring	454
【A3402】 地理学概論（2） [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	455
【A3403】 地理実習（1） [前空 英明] 秋学期授業/Fall	456
【A3404】 地理実習（1） [前空 英明] 春学期授業/Spring	457
【A3405】 地理実習（2） [小原 丈明] 春学期授業/Spring	458
【A3406】 地理実習（2） [小原 丈明] 秋学期授業/Fall	459
【A3407】 現地研究 [地理学科教員] 年間授業/Yearly	460
【A3408】 地誌学概論（1） [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	461
【A3412】 地球科学概論Ⅰ [宍倉 正展] 春学期授業/Spring	462
【A3901】 地誌学概論 [南 春英] 春学期授業/Spring	463
【A3413】 地球科学概論Ⅱ [宍倉 正展] 秋学期授業/Fall	464
【A3416】 地質・岩石学及び実験 [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	465
【A3417】 自然環境論 [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	466
【A3418】 地形学及び実験Ⅰ [前空 英明] 春学期授業/Spring	467
【A3419】 地形学及び実験Ⅱ [前空 英明] 秋学期授業/Fall	468
【A3420】 生物・土壌地理学及び実験Ⅰ [小川 滋之] 春学期授業/Spring	469
【A3421】 生物・土壌地理学及び実験Ⅱ [小川 滋之] 秋学期授業/Fall	470

【A3422】	気候・気象学及び実験Ⅰ [山口 隆子] 春学期授業/Spring	471
【A3423】	気候・気象学及び実験Ⅱ [山口 隆子] 秋学期授業/Fall	472
【A3424】	海洋・陸水学及び実験Ⅰ [飯泉 佳子] 春学期授業/Spring	473
【A3425】	海洋・陸水学及び実験Ⅱ [飯泉 佳子] 秋学期授業/Fall	474
【A3426】	社会経済地理学(1) [小原 文明] 秋学期授業/Fall	475
【A3427】	社会経済地理学(2) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	476
【A3428】	社会経済地理学(3) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	477
【A3434】	自然地理学演習(1) [山口 隆子] 年間授業/Yearly	478
【A3435】	自然地理学演習(2) [小川 滋之] 年間授業/Yearly	479
【A3436】	自然地理学演習(3) [前杢 英明] 年間授業/Yearly	480
【A3437】	人文地理学演習(1) [佐々木 達] 年間授業/Yearly	481
【A3438】	人文地理学演習(2) [村田 陽平] 年間授業/Yearly	482
【A3439】	人文地理学演習(3) [小原 文明] 年間授業/Yearly	483
【A3440】	人文地理学演習(4) [伊藤 達也] 年間授業/Yearly	485
【A3441】	人文地理学演習(5) [米家 志乃布] 年間授業/Yearly	486
【A3443】	世界地誌(1) [堤 純] 秋学期授業/Fall	487
【A3444】	世界地誌(2) [小原 文明] 春学期授業/Spring	489
【A3445】	世界地誌(3) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	490
【A3449】	地理学読図演習(1) [山口 隆子] 春学期授業/Spring	491
【A3450】	地理学読図演習(2) [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	492
【A3453】	自然地理学特講(3) [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	493
【A3455】	人文地理学特講(1) [小田 宏信] 秋学期授業/Fall	494
【A3457】	人文地理学特講(3) [松井 圭介] 秋学期授業/Fall	495
【A3459】	地図学Ⅰ [若林 芳樹] 春学期授業/Spring	497
【A3460】	地図学Ⅱ [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	498
【A3461】	測量学及び測量実習Ⅰ [菅 富美男] 春学期授業/Spring	499
【A3462】	測量学及び測量実習Ⅱ [菅 富美男] 春学期授業/Spring	500
【A3463】	写真判読Ⅰ [八木 浩司] 春学期授業/Spring	501
【A3464】	写真判読Ⅱ [郭 栄珠] 秋学期授業/Fall	503
【A3465】	数理地理学(1) [永保 敏伸] 春学期授業/Spring	504
【A3469】	外書講読(1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	505
【A3470】	外書講読(2) [村田 陽平] 春学期授業/Spring	506
【A3471】	地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期授業/Spring	507
【A3472】	地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 春学期授業/Spring	508
【A3482】	文化地理学(1) [村田 陽平] 春学期授業/Spring	509
【A3903】	地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	510
【A3483】	文化地理学(2) [村田 陽平] 秋学期授業/Fall	511
【A3904】	地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	512
【A3500】	自然地理学特講(1) [藁谷 哲也] 春学期授業/Spring	513
【A3510】	地学実験(1) (コンピュータ活用含む) [吉岡 美紀] 春学期授業/Spring	515
【A3511】	地学実験(2) (コンピュータ活用含む) [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	516
【A3513】	地理学史 [村田 陽平] 秋学期授業/Fall	517
【A3514】	物理学概論Ⅰ [石川 壮一] 春学期授業/Spring	518
【A3515】	物理学概論Ⅱ [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	519
【A3516】	化学概論Ⅰ [中島 弘一] 春学期授業/Spring	520
【A3517】	化学概論Ⅱ [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	521
【A3518】	生物学概論Ⅰ [宇野 真介] 春学期授業/Spring	522
【A3519】	生物学概論Ⅱ [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	524
【A3520】	物理学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [吉田 智] 春学期授業/Spring	526
【A3521】	物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含) [吉田 智] 秋学期授業/Fall	527
【A3522】	化学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [向井 知大] 春学期授業/Spring	528
【A3523】	化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含) [向井 知大] 秋学期授業/Fall	529
【A3524】	生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [島野 智之] 春学期授業/Spring	530
【A3525】	生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用含) [島野 智之] 秋学期授業/Fall	531
【A3527】	理科教育法(1) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	532
【A3528】	理科教育法(2) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall	533
【A3530】	理科教育法(3) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	534

【A3531】理科教育法（４）〔狩野 真規〕秋学期授業/Fall.....	535
【A3601, A2254】心理学概論／心理学１（心理学概論）１〔伊藤 尚枝〕春学期授業/Spring	536
【A3902】日本地誌〔村田 陽平〕秋学期授業/Fall	537
【A3602, A2255】心理学史／心理学１（心理学史）２〔矢口 幸康〕秋学期授業/Fall.....	538
【A3611】心理学測定法Ⅰ〔押尾 恵吾〕春学期授業/Spring	539
【A3612】心理学測定法Ⅰ〔押尾 恵吾〕春学期授業/Spring	540
【A3613】心理学測定法Ⅱ〔押尾 恵吾〕秋学期授業/Fall	541
【A3614】心理学測定法Ⅱ〔押尾 恵吾〕秋学期授業/Fall	542
【A3615】心理検査法Ⅰ〔森 彩乃〕春学期授業/Spring.....	543
【A3616】心理検査法Ⅰ〔森 彩乃〕春学期授業/Spring.....	544
【A3617】心理検査法Ⅱ〔森 彩乃〕秋学期授業/Fall	545
【A3618】心理検査法Ⅱ〔森 彩乃〕秋学期授業/Fall	546
【A3619】脳の科学〔高橋 敏治〕秋学期授業/Fall	547
【A3620】認知心理学〔竹島 康博〕秋学期授業/Fall.....	548
【A3621】認知科学入門〔田嶋 圭一〕春学期授業/Spring	549
【A3622】発達心理学〔渡辺 弥生〕春学期授業/Spring	550
【A3623】教育心理学〔梶井 直親〕秋学期授業/Fall.....	551
【A3624】学習心理学〔藤田 哲也〕春学期授業/Spring	552
【A3625, A2256】社会心理学／心理学２（社会心理学）１〔越智 啓太〕春学期授業/Spring	553
【A3626】学校心理学〔原田 恵理子〕秋学期授業/Fall	554
【A3627】演習Ⅰ（１）〔高橋 敏治〕春学期授業/Spring	555
【A3628】演習Ⅰ（２）〔渡辺 弥生〕春学期授業/Spring	556
【A3629】演習Ⅰ（３）〔三浦 大志〕春学期授業/Spring	557
【A3630】演習Ⅰ（４）〔下山 晃司〕春学期授業/Spring	558
【A3631】演習Ⅰ（５）〔梶井 直親〕春学期授業/Spring	559
【A3643】研究法Ⅰ（１）〔高橋 敏治〕春学期授業/Spring.....	560
【A3644】研究法Ⅰ（２）〔竹島 康博〕春学期授業/Spring.....	561
【A3645】研究法Ⅰ（３）〔渡辺 弥生〕春学期授業/Spring.....	562
【A3647】研究法Ⅰ（５）〔田嶋 圭一〕春学期授業/Spring.....	563
【A3648】研究法Ⅰ（６）〔藤田 哲也〕春学期授業/Spring.....	564
【A3649】研究法Ⅰ（７）〔島宗 理〕春学期授業/Spring	566
【A3650】研究法Ⅰ（８）〔越智 啓太〕春学期授業/Spring.....	567
【A3651】研究法Ⅱ（１）〔高橋 敏治〕秋学期授業/Fall	568
【A3652】研究法Ⅱ（２）〔竹島 康博〕秋学期授業/Fall	569
【A3653】研究法Ⅱ（３）〔渡辺 弥生〕秋学期授業/Fall	570
【A3655】研究法Ⅱ（５）〔田嶋 圭一〕秋学期授業/Fall	571
【A3656】研究法Ⅱ（６）〔藤田 哲也〕秋学期授業/Fall	572
【A3657】研究法Ⅱ（７）〔島宗 理〕秋学期授業/Fall.....	573
【A3658】研究法Ⅱ（８）〔越智 啓太〕秋学期授業/Fall	575
【A3659】精神生理学特講〔高橋 敏治〕春学期授業/Spring.....	576
【A3660, A2557】言語学特講Ⅰ／日本言語学特殊研究Ａ〔田嶋 圭一〕春学期授業/Spring.....	577
【A3661, A2559】言語学特講Ⅱ／日本言語学特殊研究Ｂ〔田嶋 圭一〕秋学期授業/Fall	578
【A3662】認知科学特講〔田嶋 圭一〕秋学期授業/Fall	579
【A3663】認知心理学特講〔竹島 康博〕春学期授業/Spring.....	580
【A3664】スポーツ心理学特講〔荒井 弘和〕秋学期授業/Fall	581
【A3665】生理心理学〔松田 いづみ〕春学期授業/Spring	582
【A3666】生理心理学実習〔松田 いづみ〕秋学期授業/Fall.....	583
【A3667】言語心理学〔菊池 理紗〕秋学期授業/Fall	584
【A3668】感情心理学〔足立 にかか〕秋学期授業/Fall	585
【A3669】行動分析学特講〔島宗 理〕秋学期授業/Fall	586
【A3670】行動分析学〔島宗 理〕春学期授業/Spring.....	587
【A3674】人工知能〔市瀬 龍太郎〕春学期授業/Spring	588
【A3675】情報処理技法Ⅰ〔山口 剛〕春学期授業/Spring	589
【A3676】情報処理技法Ⅰ〔山口 剛〕春学期授業/Spring	590
【A3677】情報処理技法Ⅱ〔山口 剛〕秋学期授業/Fall.....	591
【A3678】情報処理技法Ⅱ〔山口 剛〕秋学期授業/Fall.....	592
【A3680】発達心理学特講〔渡辺 弥生〕秋学期授業/Fall.....	593

【A3682】 学習心理学特講 [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	594
【A3683】 発達臨床心理学Ⅰ [桜井 美加] 春学期授業/Spring.....	595
【A3684】 発達臨床心理学Ⅱ [桜井 美加] 秋学期授業/Fall	596
【A3685】 精神保健学Ⅰ [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	597
【A3686】 精神保健学Ⅱ [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall.....	598
【A3687】 社会心理学特講 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	599
【A3690, A2258】 臨床心理学/心理学3 (臨床心理学) 1 [杉山 崇] 秋学期授業/Fall	600
【A3691, A2259】 犯罪心理学/心理学3 (犯罪心理学) 2 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall.....	601
【A3701】 心理統計法Ⅰ [三浦 大志] 春学期授業/Spring	602
【A3702】 心理統計法Ⅱ [三浦 大志] 秋学期授業/Fall.....	603
【A3703】 心理統計法実習Ⅰ [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring.....	604
【A3704】 心理統計法実習Ⅰ [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring.....	605
【A3705】 心理統計法実習Ⅱ [伊藤 尚枝] 秋学期授業/Fall	606
【A3706】 心理統計法実習Ⅱ [伊藤 尚枝] 秋学期授業/Fall	607
【A3707】 心理学基礎実験Ⅰ [島宗 理] 春学期授業/Spring	608
【A3708】 心理学基礎実験Ⅰ [島宗 理] 春学期授業/Spring	609
【A3709】 心理学基礎実験Ⅱ [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	610
【A3710】 心理学基礎実験Ⅱ [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	611
【A3711】 演習Ⅱ (1) [押尾 恵吾] 秋学期授業/Fall.....	612
【A3712】 演習Ⅱ (2) [藤巻 峻] 秋学期授業/Fall	613
【A3713】 演習Ⅱ (3) [竹島 康博] 秋学期授業/Fall.....	614
【A3714】 演習Ⅱ (4) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall.....	615
【A3715】 演習Ⅱ (5) [田嶋 圭一] 秋学期授業/Fall.....	617
【A3716】 研究法Ⅰ (9) [荒井 弘和] 春学期授業/Spring	618
【A3717】 研究法Ⅰ (10) [林 容市] 春学期授業/Spring.....	619
【A3718】 研究法Ⅱ (9) [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	620
【A3719】 研究法Ⅱ (10) [林 容市] 秋学期授業/Fall	621
【A3720】 心理学英語Ⅰ [常深 浩平] 春学期授業/Spring	622
【A3721】 産業組織心理学 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	623
【A3722】 心理学特殊講義Ⅰ [島宗 理] 秋学期授業/Fall	625
【A3724】 人格心理学 [杉山 崇] 春学期授業/Spring.....	626
【A3725, A2303】 集団社会心理学/心理学2 (集団社会心理学) 2 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	627
【A3726】 カウンセリング心理学 [下山 晃司] 秋学期授業/Fall.....	628
【A3727】 心理学特殊講義Ⅱ [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	629
【A3730】 心理学英語Ⅱ [常深 浩平] 秋学期授業/Fall.....	630
【A3738】 身体運動の心理と生理 [林 容市] 春学期授業/Spring	631

HUM400BD

卒業論文（英文学科）**英文学科教員**

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部英文学科では、卒業論文を必修としています。論文の分量としては、タイトルページと目次、そして謝辞がある場合はそれものぞいて、400字詰め原稿用紙に換算して35枚以上、英語の場合は5000語以上とします。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成される、4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標ののっとり、①批判的思考能力の涵養、②英語・日本語能力の養成を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章で他者に伝える営みに徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「卒業論文計画書」によって学科の決定した指導教員の指導のもとで、指定されたプロセスを踏みながら論文を完成させます。卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行われますが、3年次の春から、「ゼミ」などの授業に参加しながら卒業論文について各自意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です（登録は4年次の科目ですが、1年間だけで完成できるものではありません）。英文学科全体では11月に「第一稿提出」をすることになっています（教員によっては10月締め切りもあります）。卒業論文提出後に、面接審査をおこないますが、この、一般の授業でいえば定期試験に相当する口頭試問までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導は原則的に個別の指導教員による個人指導となります。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、テーマの設定や方法論も含めて主体的に選択し執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1～28回	成果報告	研究 → 報告 → 執筆 → 指導 → 推敲 → 提出 → 面接審査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、テーマや方法を主体的に選び、研究や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト（教科書）】

各自

【参考書】

各自

【成績評価の方法と基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、成績の判定をおこないません。

- ① 論文研究の目的が明瞭で、先行研究を踏まえた独創性を含むか。
- ② 論理の展開が、飛躍や不整合がなく、明快であるか。
- ③ 十分な調査がなされ、根拠・論証や分析が示されているか。
- ④ 文章が明瞭で、誤字脱字がなく、指定された書式で書かれているか。
- ⑤ 指導教員の指導をきちんと受け、まじめに取り組んだか。

【学生の意見等からの気づき】

執筆の過程で、専門知識だけでなく、社会人として今後も必要とされるタイムマネジメントの力や文章力も身についたという声が多かったです。

【その他の重要事項】

- ・3年次秋の卒業論文ガイダンスに始まる一連の卒業論文関係の行事や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文の個別手続きについて」の当学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意すること。
- ・卒論「第一稿提出」手続きを経ること。
- ・「卒業論文計画書」「卒業論文指導願」を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので注意すること。
- ・卒業論文ガイダンスの際に配布される「英文学科卒業論文作成・提出上の注意事項」をよく読み、作成のルールに従うこと。とくに剽窃(plagiarism)についてはくれぐれも留意すること。
- ・優秀論文が英文学科 Links の雑誌『Smile』に掲載される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students write their graduation thesis, which is the culmination of their undergraduate studies.

(Learning objectives)

At the end of this course, students are expected to complete their graduation thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to work on their graduation thesis.

(Grading criteria /Policy)

Grading will be decided based on the following:

1. Thesis and originality
2. Organization and logic
3. Research and support
4. Sentence craft and style
5. Commitment

LIT400BC/LIN400BC/ART400BC

卒業論文（日本文学科）

日本文学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によってZoomによる面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文（内容と結論）を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: This is a year-long course for the preparation and completion of BA theses.

Learning Objectives: The goal of this course is the completion of a thesis worthy of the award of a BA degree.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to undertake research activities required by their supervisor for the preparation and completion of their theses.

Grading Criteria/Policy: The final grade is determined according to the contents of the thesis and a year-end oral examination (100%).

PSY400BG

卒業論文（心理学科）**心理学科教員**

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によってZoomによる面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時 研究メモも参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時 研究メモも参照、確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか確認 時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文（内容と結論）を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

PHL400BB

卒業論文 (哲学科)

哲学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことに付いて必要な指導を行なう (3週間に1回程度)。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によってZoomによる面談を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定 (どのような問題があるか) 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定 (暫定)	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成 (随時、補正する) 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 注のメモ作成
第12回	本文執筆継続	研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文 (内容と結論) を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

GEO400BF

卒業論文（地理学科）

地理学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部地理学科では卒業論文を必修としています。卒業論文はこれまで学んできた専門知識に加え、思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などをすべてを傾注して作成されるべき4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

地理学科では、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認めています。

- (1) 人間の生活の舞台である地球表面の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身に付けている。
- (2) 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
- (3) 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって的確に発信することができる能力、地域社会のニーズに応えられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行なわれ、履修登録は4年次に行なわれますが、卒業論文は1年間で作成できるものではありません。3年次から履修可能な「演習（いわゆるゼミ）」等に参加し、担当教員の指導を受けながら、主体的に卒業論文についての意識を高め、自分の研究テーマ（卒業論文の論題に直結します）を探していきましょう。ここで重要なのは「主体的」ということです。各自で研究テーマを見いだしていくには、「主体的」に学ぶことが必要になってきます。基本的には、3年次秋に提出してもらった「卒業論文申請書」に記載されている研究予定テーマ、さらに履修している演習等によって、卒業論文の指導教員は決定されます。しかし教員側が「研究テーマ」を一方向的に与えるという事は無く、あくまでも「主体的」にテーマを選定し、そのテーマを研究成果として結実させるための指導を各指導教員が担当するのです。個別の論題（テーマ）に即した指導は、基本的には演習の授業時での口頭発表、それに対する質疑応答を通して行なわれます。

1月上旬の卒業論文提出後は、1月末頃に卒業論文面接試験が実施されます。この面接試験は一般の授業の「定期試験」に該当します。卒業論文は「主体的」に取り組むことが要求され、したがってレポートとは異なり、方法論も含めて学び、執筆・作成することが求められる科目であることを再確認してください。卒業論文に対するフィードバックは、主に面接試験時に行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1～27回	指導・成果報告	卒業論文作成に向け、指導を受ける。
28回	提出・面接	卒業論文を提出し、面接試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文には独創性が求められます。これまでの研究成果を踏まえるために、研究論文を多く読むことが必要です。また、論題に応じて、地域調査や実験・観測も必要となります。但し、卒業論文作成の時間には限りがあります。従って、効率良く実施できるように、予め研究計画を練っておくことも必要となります。毎回の演習（ゼミ）の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定はありません。卒業論文作成に必要な参考文献・資料を使用してください。

【参考書】

参考書の指定はありません。必要があれば、卒業論文作成の指導を受ける教員に問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

地理学科では、卒業論文の評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められます。

①研究課題設定の妥当性、②研究対象地域選定の妥当性、③既往研究上での位置づけ、④調査方法や分析・解析手順の妥当性、⑤適切な分量、⑥論文構成の妥当性、⑦論旨の展開、⑧適切な文章表現、⑨文献等の適切な引用、⑩図表の体裁と正確さ、⑪分析・解析や考察と結果導出の妥当性、⑫論文全体の独創性（オリジナリティ）等。

卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案して以下の基準で成績の判定を行ないます。

- ・ S：評価項目の要件を十分に満たし、特に優れた論文と認められる場合
- ・ A+, A, A-：評価項目の要件を満たし、優れた論文と認められる場合
- ・ B+, B, B-：評価項目のほとんどの要件を満たしていると認められる場合
- ・ C+, C, C-：評価項目の要件のある程度満たし、論文作成の努力が認められる場合
- ・ D：多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に適わないと評価される場合
- ・ E：未提出

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

- (1) 卒業論文については、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の記事をよく読み、Hoppii内の「学科からのお知らせ」に常に注意してください。
- (2) 3年次の秋に開催される卒業論文ガイダンスで配布される卒業論文申請書を、所定の期日までに提出しなければなりません。
- (3) Hoppii内の「学科からのお知らせ」や地理学科HPに掲載されている『卒業論文について』をよく読んでください。そこには執筆要領（まとめ方やワープロ使用の際の形式等）が掲載されています。
- (4) 卒業論文作成上のルールについても、上述の『卒業論文について』に記載されています。特に剽窃には留意してください。

【Outline (in English)】

Course outline

For writing a graduation thesis, it is needed that in addition to specialized knowledge you learned, thinking ability, writing ability, research ability, criticism ability, and judgment ability.

Learning Objectives

The Department of Geography allows students who have reached the following standards to receive a "Bachelor's Degree (Literature)".

- (1) Acquire basic knowledge about the natural environment, humanities and social environment of the earth's surface, which is the stage of human life, understand the basic mechanism of geographical events, and acquire a wide range of education. It is attached.
- (2) To be able to acquire geographical thinking ability and perspectives, and to consider using research methods based on them.
- (3) With the knowledge of geography, we are interested in social issues, listen to the voices of others, and have the ability to accurately express our thoughts through oral and written expressions, and the needs of the local community. Acquire the ability to respond and solve various problems.

Learning activities outside of classroom

The graduation thesis requires originality. It is necessary to read a lot of research papers in order to take into account the research results so far. In addition, depending on the subject, regional surveys and experiments / observations are also required. However, the time to write a graduation thesis is limited. Therefore, it is also necessary to formulate a research plan in advance so that it can be carried out efficiently. The standard preparation and review time for each seminar is 4 hours each.

Grading Criteria / Policy

In the Department of Geography, the evaluation of a graduation thesis is comprehensively decided by paying attention to the following items.

- (1) Validity of research theme setting, (2) Validity of selection of research target area, (3) Positioning in past research, (4) Validity of research method and analysis / analysis procedure, (5) Appropriate amount, (6) Validity of paper structure, (7) Development of thesis, (8) Appropriate sentence expression, (9) Appropriate citation of documents, (10) Format and accuracy of figures and tables, (11) Validity of analysis / analysis and consideration and result derivation, (12) Originality of the entire paper.

Grades will be judged based on the following criteria, taking into consideration the content of the graduation thesis and the content of the interview examination.

- ・ S: When the requirements of the evaluation items are fully satisfied and the paper is recognized as a particularly excellent paper.
- ・ A +, A, A-: When the requirements of the evaluation items are met and the paper is recognized as excellent.
- ・ B +, B, B-: When it is recognized that most of the requirements of the evaluation items are satisfied.
- ・ C +, C, C-: When the requirements for evaluation items are met to some extent and efforts to write a dissertation are recognized.
- ・ D: When it is evaluated that it is not suitable for graduation because it does not meet the requirements of the evaluation items in many respects.
- ・ E: Not submitted

HUM400BE

卒業論文（史学科）

史学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したことについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によってZoomによる面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成
第2回	補 足	論文の提出に関する諸注意の確認 テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノートの作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認 テーマと本文の議論にズレがないか確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考 構成、行論	構成、行論の確認
第15回	本文再考 主張	主張の確認
第16回	本文再考 根拠資料	根拠資料の確認
第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し 構成と行論	構成、行論の最終確認
第24回	読み直し 主張	主張の最終確認
第25回	読み直し 注、参考文献表	注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し 文章全体について	全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文（内容と結論）を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：「歴史地理学 I」を修得済みの場合は履修不可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
 本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第 14 回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
 取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題 50 %、ビデオ鑑賞コメント提出 25 %、平常点 25 % で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるように、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and

practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports:50% Short reports:25 % and in class contribution:25 %

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%、ビデオ鑑賞コメント提出 25%、平常点 25%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書をもとに説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports: 100% Short reports:25% and in class contribution:25%

CUA200BA

民俗学 I

室井 康成

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的な位置づけを推し進めます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。

第 14 回 試験と総括

本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010 年、森社）
室井康成『政治風土のフォークローア—文明・選挙・韓国』（2023 年、七月社）
岩本通弥他編『民俗学の思考法—（いま・ここ）の日常と文化を捉える』（2021 年、慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の 3～4 回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

【Learning Objectives】

Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.

【Learning activities outside of classroom】

Reading the bibliography.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination;100%

CUA200BA

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、後期の対象ともなるが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身につけることで、日本文化の正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありませんが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、積極的に調べる。また授業外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100%）。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam on the last day of the lecture

HIS200BA

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考えたための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。

この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。ペーパーの作成には講義後半の 20～30 分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	イスラムにおける『クルアーン』とアラビア語の重要性について
第 3 回	イスラムの教義	六信五行などイスラムの基本的な教義について
第 4 回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第 6 回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第 7 回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム
第 10 回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 11 回	モンゴルとイスラム	アッバース朝の滅亡とその影響
第 12 回	20 世紀のイスラム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラム
第 13 回	20 世紀のイスラム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラム
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるのが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
 佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
 鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートにおいて、もっと画像等でイメージを示してほしいとの声がありました。特に地図については必要性が高いと考えられるので、できるだけ授業内で示していきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自 PC やスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もおお進中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを旨とする。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえたペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第3回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第5回	イスラムとジェンダー	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第6回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第7回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景
第8回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割
第9回	スーフィズム	スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第10回	イスラムと奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方
第11回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理
第12回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第13回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

小杉泰、江川ひかり編、『イスラム：社会生活・思想・歴史』、新曜社、2006年。
小杉泰ほか編、『大学生・社会人のためのイスラム講座』、ナカニシヤ出版、2018年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017年。
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートにおいて、授業資料の記述が時に簡素にすぎるとの指摘がありました。それを踏まえ、受講者がノートを取りつつ講義に耳を傾けることのできる、適切な塩梅を探っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意して、そちらで授業資料を閲覧してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせて、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%, Short reports : 40%

CAR200BA

文学部生のキャリア形成

荒井 弘和、川崎 貴子、小寺 浩二

授業コード：A3813 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方を話していきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。

*この授業は、就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】

以下の3つが到達目標です。

- ① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
- ② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
- ③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
 日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
 英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
 史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
 地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
 心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦勞などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行ないます。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。

授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行ないます。そのための時間を十分に確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/7)
第2回	ゲスト講師の講演 (1)	ホテル業務 (4/14)
第3回	ゲスト講師の講演 (2)	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/21)
第4回	ゲスト講師の講演 (3)	中学校教員 (4/28)
第5回	Workshop (1)	キャリアセンター職員によるワークショップ (5/12)
第6回	ゲスト講師の講演 (4)	中高校教師 (5/19)
第7回	ゲスト講師の講演 (5)	教育 (5/26)
第8回	ゲスト講師の講演 (6)	人事関係 (6/2)
第9回	ゲスト講師の講演 (7)	鉄道会社（経営企画）(6/9)
第10回	Workshop (2)	キャリアセンター職員によるワークショップ (6/16)
第11回	ゲスト講師の講演 (8)	外資系サービス業 (6/23)
第12回	ゲスト講師の講演 (9)	民間放送業（総合職）(6/30)
第13回	ゲスト講師の講演 (10)	法人向け地図商材の企画 (7/7)
第14回	まとめ	総括レポート作成 (7/14)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。この講義の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】

適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）の成績（80%）

②学期末レポートの成績（20%）

※①②は成績評価のために必須とします。

・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。

・また、4回以上の欠席がある場合にはE評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。

・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。

※第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

「今後の人生・生活」における働き方や働くことの意義を考えるために、各ゲスト講師に「働き方」や「働くこと」に関連したいくつかのキーワードをふまえてご講演をお願いし、半期の授業全体を通して受講生が自らのライフプランを描くことが可能となるよう授業内容に配慮しました。

多様な職種の多様なゲスト講師それぞれのワーク・ライフバランスとワーク・ライフヒストリーを学生のみなさんは各自の視点から、また多様な関心の次元で受け止め、評価していることが、各回のレポートや学期末のレポートから読み取れました。そうした面でこの科目が学生のみなさんのキャリア形成、またワーク・ライフプランの形成過程に少なからず貢献できていると感じています。

そうした多様性（diversity）を今後も大事にしていきたいと思っています。

また、出席の取り方について、指示が細かいのではないかと意見をもらいました。オンライン授業で、講師の先生方の支援をしながら、約200名の出欠を管理するのは、なかなか大変です。皆さんに多少の負担はかかってしまうかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願ひします。

【その他の重要事項】

☆2023年度はオンラインで実施します。

①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

②定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。

③担当教員が全授業に同席し、担当します。

④本学学部を卒業し、公務員、教員、銀行、教育、放送などでの勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。

⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】

This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.

This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.

Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (80%), term-end report (20%).

CAR200BA

現代のコモンセンス

菅沢 龍文、王安、内藤 一成

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事柄を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインで行う。学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに伴う質疑・応答、そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	社会と規範 1	LGBT と日本の性教育
第 3 回	実践と倫理 1	人助けの倫理
第 4 回	社会と規範 2	ビジネス・コンプライアンス入門
第 5 回	対人問題	発達障害とパーソナリティ障害
第 6 回	実践と倫理 2	宗教上の理由による輸血拒否
第 7 回	社会と規範 3	国際条約、国際的契約、 Global Goods（国際公益）とはなにか
第 8 回	社会と規範 4	自立的キャリアを紡ぐためのモラルとマナーとは
第 9 回	実践と倫理 3	働き方を変える主体は「耐える」・「辞める」以外の選択肢を考えるー
第 10 回	実践と倫理 4	著作権の現在地——創作・媒介・受容をめぐって
第 11 回	社会と規範 5	身近なハラスメントと DV
第 12 回	社会と文化	日本庭園を通して見た世界
第 13 回	社会と規範 6	大学生の消費者問題と法
第 14 回	まとめ	総括 レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に挙げた省察力や改善力、表現力や伝達力、諸問題への対処力の現れが小レポートや学期末試験の評価基準となる。

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）の成績（80%）

②学期末レポートの成績（20%）

※①②は成績評価のために必須とします。

・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。

・また、4回以上の欠席がある場合にはE評価とします。10分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。

・Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。

※第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

「初めて聞く領域の話が多く、とても勉強になる」などの感想をもらいました。今年度も、様々な角度から現代のコモンセンスを考えることができる授業を行います。

【その他の重要事項】

①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

②担当者が全授業に同席し、担当します。

③成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning objectives】

This course aims to learn various approaches to solving the problems our society faces today. Many social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding by participating in group activities and individual literature studies.

【Learning activities outside of the classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

【Grading Criteria/Policies】

The manifestation of the ability to reflect and improve, to express and communicate, and to deal with various problems, as listed in the learning objectives, will be the criteria for evaluation in small reports and the end-of-semester examination.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (80%), term-end report (20%).

PHL100BB

哲学概論 1

中釜 浩一

授業コード：A2304 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学概論では、哲学や哲学史の詳しい知識を前提とすることなく、「哲学的問が現実の中でどのような仕方て生じてくるか」を直接検討することで、各自が「哲学的に思考する能力」の基礎を身につけることを目指す。哲学概論 I では、より基本的なトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②科学・宗教・芸術など他のどんな思考とも区別される「哲学的思考法」が、どんな方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の現代的役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	常識の批判としての哲学
第 2 回	知識の問題（1）	自分は一体何を知っているのか
第 3 回	知識の問題（2）	夢と現実（フェイクとリアル）
第 4 回	知識の問題（3）	懐疑論（われわれは何も知りえない）とその批判
第 5 回	他者問題（1）	「他人の心を知る」とはどういうことか？
第 6 回	他者問題（2）	他人が「ゾンビ」でないと考える理由はあるのか
第 7 回	他者問題（3）	ロボットに心を認めてならない理由はあるのか
第 8 回	心の正体（1）	心身二元論と唯物論（心とは脳の何か）
第 9 回	心の正体（2）	二元論の致命的弱点
第 10 回	心の正体（3）	唯物論は勝利したのか
第 11 回	決定論と自由（1）	因果の根本原理
第 12 回	決定論と自由（2）	決定論（すべては決定されている）の証明
第 13 回	決定論と自由（3）	それでもなお「自由」は可能なのか
第 14 回	まとめ	まとめの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に出される小課題の解答を Hoppii 上で提出する

指定された図書やプリント等を読んでおく。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）

【参考書】

プラトン「ゴルギアス」、デカルト「省察」、ヒューム「人間本性論」、カント「プロレゴメナ」、ラッセル「哲学の諸問題」

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーの内容：70%

期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題を授業内容により即したものとし、解説をさらに充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course will introduce some basic philosophical problems to students without presupposing any knowledge of history of philosophy.

Learning Objectives: To acquire the ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers:70%, term-end examination:30%

PHL100BB

哲学概論2

中釜 浩一

授業コード：A2305 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学概論1に引き続き、いくつかの「哲学的パラドクス」を検討することで、自ら哲学的に思考する能力の基礎を身につけることを目指す。哲学概論2では、哲学概論1よりもさらに進んだトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の現代的意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	パラドクスと哲学
第2回	パルメニデスと否定のパラドクス（1）	「ないもの」はあるのか
第3回	パルメニデスと否定のパラドクス（2）	「ないもの」についてどうして語れるのか
第4回	パルメニデスと否定のパラドクス（3）	「ないものがある」とは何を意味するか
第5回	ゼノンと運動のパラドクス（1）	飛ばない矢とアキレス
第6回	ゼノンと運動のパラドクス（2）	数学的解決と「無限」の概念
第7回	ゼノンと運動のパラドクス（3）	パラドクスは解決したのか？ 数学と哲学の関係
第8回	時間のパラドクス（1）	「本当の今」は存在するのか？
第9回	時間のパラドクス（2）	宿命論（未来は変えられない）の議論
第10回	時間のパラドクス（3）	ニューカムの問題（過去は変えられない）の検討
第11回	道徳の逆説（1）	道徳の不自然さ
第12回	道徳の逆説（2）	罪と罰（道徳的運の問題）
第13回	道徳の逆説（3）	幸福と道徳（幸せに生きることと正しく生きること）は本当に両立できるのか？
第14回	まとめ	哲学的に思考するとはどういうことか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課される小課題の解答を Hoppii 上で提出する。

指定された図書やプリント等を読んでおく。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

セインズブリー「パラドクスの哲学」（勁草書房）。

サンデル「これからの「正義」の話をしよう」（ハヤカワ文庫）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーの内容：70%

期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

課題は授業内容をより反映させたものとし、解説を充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some of the famous philosophical paradoxes and representative arguments concerning them.

Learning Objectives: To deepen the ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers: 70%, term-end examination : 30%

PHL100BB

論理学概論 1

安東 祐希

授業コード：A2306 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであるか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・命題はどのように表すことができるのか。
- ・命題が「正しい」とはどういうことか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論理的な言明	日常言語における例
第 2 回	命題と論証	真偽と妥当性
第 3 回	命題の組み立て	論理結合子
第 4 回	主語と述語	変数と述語記号
第 5 回	「全て」と「存在」	量子化
第 6 回	形式的表現の整理	括弧の省略
第 7 回	多義性の分析	量子化の順序
第 8 回	命題論理の意味論	付値と真理値関数
第 9 回	命題の比較	論理式の同値
第 10 回	命題とは（再考）	同値による分類
第 11 回	論理的とは（再考）	恒真式と妥当な論証
第 12 回	述語の取り扱い	1 変数述語記号の解釈
第 13 回	述語論理の意味論	量子化と解釈
第 14 回	関係の取り扱い	2 変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

- ・松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
- ・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室の大きさに合わせて、板書の字を大きく書くようにする。

【その他の重要事項】

単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論 2」を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course deals with basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the way of the formalization for propositions and the semantics for propositional and predicate logic.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- How can we express propositions?
- What is the meaning of the word "valid"?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:
 Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL100BB

論理学概論 2

安東 祐希

授業コード：A2307 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、論証の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・ 論証の妥当性を判定することは可能か。
- ・ 妥当な論証をすべて作り出す方法はあるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	前提と結論の表現	推件式の定義
第 2 回	論理式との関係	推件式の意味論
第 3 回	妥当性の表現	恒真な推件式
第 4 回	判定機の組立て	木構造の表現
第 5 回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第 6 回	「または」の分析	選言の恒真分解
第 7 回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第 8 回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第 9 回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第 10 回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第 11 回	演繹体系の定義	LK 証明図の推論規則
第 12 回	構造規則の役割	LK 証明図（命題論理）
第 13 回	変数の選択	LK 証明図（述語論理）
第 14 回	演繹体系の性質	健全性と完全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

- ・ 松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
- ・ Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室の大きさに合わせて、板書の字を大きく書くようにする。

【その他の重要事項】

履修にあたり、春期科目「論理学概論 1」の内容を理解していることが求められる。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the analysis for the validity of sequents and the definition of one of the sound and complete logical systems.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- Is the validity of arguments decidable?
- Are there any algorithms generating all of the valid arguments?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL200BB

倫理学概論 1

君嶋 泰明

授業コード：A2308 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とはどのような学問かを、関連するいくつかの基本概念の概観を通じて学ぶ。

【到達目標】

- ①倫理学の基本概念を理解する。
- ②倫理学とは何を明らかにしようとする学問かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	倫理学とはどのような学問か
第2回	善	さまざまな「よさ」について
第3回	自律性	自分を律するとは
第4回	自由	自由とは何か
第5回	行為	行為の構造
第6回	責任	責任の条件
第7回	死	死について考える
第8回	自己①	自己とは何か
第9回	自己②	自己の一貫性
第10回	正義	正義についての諸理論
第11回	愛	愛の種類
第12回	悪	悪とは何か
第13回	神	神の視点
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が50%、期末試験が50%。前者は授業への参加度とリアクションペーパーの内容や質問、後者は上記「到達目標」の①②がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの参考文献を挙げるなどして、学生のさらなる学習を後押しできるよう心がける。

【Outline (in English)】

We will learn what ethics is by way of an overview of some relevant basic concepts.

PHL200BB

倫理学概論 2

君嶋 泰明

授業コード：A2309 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代にかけて登場した西洋のいくつかの倫理思想を概観することを通じて、倫理学が歴史的にどのように展開してきたかを学ぶ。

【到達目標】

- ①西洋哲学史における主要な倫理思想の基本的主張を理解する。
- ②倫理学にはさまざまな立脚点がありうることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	倫理思想史を学ぶということ
第 2 回	古代①	ソクラテス、プラトン
第 3 回	古代②	アリストテレス
第 4 回	古代③	エピクロス、ストア派
第 5 回	中世	アウグスティヌス、トマス・アクィナス
第 6 回	ライブニッツ	神学と倫理
第 7 回	ホッブズ	社会契約①
第 8 回	ロック	社会契約②
第 9 回	ヒューム	共感に基づく倫理
第 10 回	カント	義務論
第 11 回	ベンタム	功利主義
第 12 回	ニーチェ	習俗の倫理
第 13 回	ハイデガー	実存と倫理
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が 50%、期末レポートが 50%。前者は授業への参加度とリアクションペーパーの内容や質問、後者は上記「到達目標」の①②がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの参考文献を挙げるなどして、学生のさらなる学習を後押しできるような心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the historical development of western ethics.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand the historical development of western ethics.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL100BB

西洋哲学史 I - 1

奥田 和夫

授業コード：A2310 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 2」（秋学期）とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開し成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。小レポートは小試験に代えることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	哲学史を学ぶ意義 古代哲学史研究の対象と時間的・地理的範囲、研究上の制限
第 2 回	ミレトス学派	哲学の始まり
第 3 回	ピュタゴラスとその学派	輪廻転生と数的世界観
第 4 回	ヘラクレイトス	対立するものの調和、ロゴスの哲学
第 5 回	パルメニデス	有ると有らぬ
第 6 回	ゼノン、メリッソス	運動と多のパラドクス 空虚など
第 7 回	エンペドクレス	多元論 1
第 8 回	アナクサゴラス	多元論 2
第 9 回	レウキッポス、デモクリトス	多元論 3（原子論）
第 10 回	ソフィストたち	プロタゴラス、ゴルギアス、ヒッピアス、プロディコス、「ノモスとピュシス」
第 11 回	ソクラテス 1	生涯、善美なるものについての無知の自覚
第 12 回	ソクラテス 2	魂の配慮、エレンコス
第 13 回	ソクラテス 3	哲学と政治
第 14 回	小ソクラテス学派 春学期のまとめ	キュレネ学派、キュニコス学派、メガラ学派 ミレトス学派から小ソクラテス学派までの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期用：広川洋一『ソクラテス以前の哲学者』（講談社学術文庫）

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

適宜提出する小レポートまたは小テストの内容と期末試験の内容によって評価する。小レポートまたは小試験の評価 30 % 期末試験の評価 70 % 計 100 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

Hoppii の「お知らせ」などに注意すること。
 「西洋哲学史 I - 2」（秋学期）とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Thales to the Minor Socratics in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

PHL100BB

西洋哲学史 I - 2

奥田 和夫

授業コード：A2311 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 1」（春学期）とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、履修生は適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。小レポートは小試験に代えることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	ソクラテスまでの哲学史の復習 生涯、著作
第 2 回	プラトン 1	ソクラテス哲学の継承
第 3 回	プラトン 2	『国家』等の著作に見られるアイデア論
第 4 回	プラトン 3	哲人統治説と政治哲学
第 5 回	プラトン 4	生涯、著作
第 6 回	アリストテレス 1	哲学体系、形而上学
第 7 回	アリストテレス 2	自然学、倫理学
第 8 回	アリストテレス 3	政治学
第 9 回	アリストテレス 4	認識論、自然学、倫理学
第 10 回	エビクロス	認識論、自然学、倫理学
第 11 回	ストア学派	認識論、倫理学
第 12 回	懐疑派	認識論、倫理学
第 13 回	プロティノス 1	形而上学 三つの原理的なもの
第 14 回	プロティノス 2	一者からの発出と一者への帰還
第 14 回	古代哲学の終焉 秋学期のまとめ	古代哲学の思考世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期：教科書は使用しない（配布プリント、資料を使用）。

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

適宜提出する小レポートまたは小テストの内容と期末試験の内容によって評価する。小レポートまたは小テストの評価 30 % 期末試験の評価 70 % 計 100 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。ただし、Hoppii を利用する場合は、PC 等が必要となる。

【その他の重要事項】

Hoppii の「お知らせ」などに注意すること。
「西洋哲学史 I - 1」（春学期）とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Plato to Plotinus in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated

according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－1

菅沢 龍文

授業コード：A2312 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。春学期は、西洋のルネサンスから始めて、18世紀の哲学者カント以前の啓蒙思想に至る主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、その問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の哲学思想史を視野に入れて、現代にいたる西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、現代思想の中でこれまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関して

- (1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
- (2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
- (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
- (4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントのPDFを事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。（※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集のPDF（パスワード付）が復習用に提供されます。フィードバックとして授業冒頭に前回の選択問題と課題に関して説明します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	(1) 授業について、(2) 哲学史、(3) ルネサンス、(4) プラトン哲学の復興、など
第2回	ピコ・デッラ・ミランドラ	(1) 二重真理説、(2) カバラ、(3) 自由意志、など
第3回	ジョルダノ・ブルーノ	(1) 宇宙の無限性、(2) 汎神論、(3) 近代宇宙論の展開、など
第4回	デカルト（1）	(1) 永遠真理の創造説、(2) 哲学の第一原理、(3) 神の存在、など
第5回	デカルト（2）	(1) 物体の存在、(2) 心身関係、(3) 高邁の精神、など
第6回	スピノザ	(1) 神学と理性、(2) 汎神論と決定論、(3) 神の知的愛、など
第7回	ライブニッツ	(1) モナドロジー、(2) 予定調和、(3) オプティミズム、など
第8回	ベーコン、ホブズ	(1) 帰納法、(2) ホブズの自然主義、(3) 社会契約と政教分離、など
第9回	ジョン・ロック	(1) 観念、(2) 知識、(3) 社会契約と宗教的寛容、など
第10回	パークリ、ヒューム	(1) 唯心論、(2) ヒュームの自然主義、(3) 道徳感情、など
第11回	パスカル	(1) 科学者パスカル、(2) 繊細の精神、(3) 気晴らしと信仰、など
第12回	ジャン・ジャック・ルソー	(1) フランス啓蒙思想、(2) 文明批判、(3) 社会契約と一般意志、など
第13回	トマジウス、ヴォルフ	(1) 近代自然法、(2) 倫理と法、(3) 完全性の原理、など
第14回	15～18世紀半ばの西洋思想	(1) 人間、宇宙、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントのPDFや参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業課題を行い、その後に提供される課題小作文集（パスワード付PDF）を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（粹出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫本をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関する、諸思想の理解、そして思想の潮流、諸思想の関係、哲学的テーマに関する理解、さらに現代への視点、といった到達目標に関して、次の2つの方面から成績評価する。

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
 - (2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- これらのうち(1)を70%(2)を30%の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thought. What we learn during the spring semester is the thoughts of the major philosophers who worked from the Renaissance to the Enlightenment of the 18th century before the philosopher Kant. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. Our aim is to examine the meaning of modern Western civilization up to the present day and the problems it faces in the context of modern thought, with a view to the history of modern Western philosophical thought.

【Goal】

In terms of the Western thoughts of the great philosophers from the Renaissance to the Enlightenment of 18th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of the great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of the great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of the great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosopher when needed.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－2

菅沢 龍文

授業コード：A2313 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。秋学期は、西洋の 18 世紀末のカントから 19 世紀末のニーチェに至るまでの主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、現代にいたる西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、現代思想の中でこれまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

- 18 世紀末のカントから 19 世紀末の主要な西洋思想に関して
- (1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
 - (2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
 - (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
 - (4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、哲学思想を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントの PDF を事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。（※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集の PDF（パスワード付）が復習用に提供されます。授業冒頭にフィードバックとして前回の選択問題と課題に関して説明します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	カント（1）	(1) コペルニクス的転回、(2) アプリオリな総合判断、(3) 現象と物自体、など
第 2 回	カント（2）	(1) 仮象、(2) アンチノミー、(3) 理念の統制的使用、など
第 3 回	カント（3）	(1) 定言命法、(2) 目的の国、(3) 最高善、など
第 4 回	フィヒテ	(1) カント哲学の発展的継承、(2) 自我と非我、(3) 無神論論争、など
第 5 回	シェリング	(1) 自然哲学、(2) 同一哲学、(3) 神の実存、など
第 6 回	ヘーゲル（1）	(1) カントからの自立、(2) フィヒテ、シェリングからの自立、(3) 弁証法、など
第 7 回	ヘーゲル（2）	(1) 精神の現象学、(2) 論理学、(3) 法哲学、など
第 8 回	ショーペンハウアー	(1) 根拠律、(2) 意志と表象としての世界、(3) ベシズムと解脱、など
第 9 回	キルケゴール	(1) アイロニー、(2) 実存の三段階、(3) 絶望と信仰
第 10 回	ニーチェ	(1) 主知主義の批判、(2) 超人、(3) ニヒリズム、など
第 11 回	フォイエルバッハ、マルクス	(1) 神学の本質は人間学、(2) マルクスの近代市民社会批判、(3) 史的唯物論、など
第 12 回	ベンサム、ミル	(1) 功利主義、(2) ミルの功利主義と経験主義、(3) 自由論、など
第 13 回	コント、スペンサー	(1) 実証哲学、(2) 社会有機体説、(3) 社会進化論、など
第 14 回	18 世紀末～19 世紀末の西洋思想	(1) 人間、世界、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントの PDF や参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業の理解度チェックの選択問題の解答をして、授業で示された課題の小作文を提出し、その後に提供される小作文集（パスワード付 PDF）を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9 巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史（近代編）』（ミネルヴァ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（粹出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

18 世紀末のカントから 19 世紀末までの主要な西洋思想に関する、基礎知識、諸思想の関係の理解、哲学的テーマへの哲学的理解、現代への視点、といった到達目標に関して、次の 2 つの方面から成績評価する。

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
 - (2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- これらのうち (1) を 70% (2) を 30% の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thought. What we learn during the autumn semester is the thoughts of the major philosophers from Kant to Nietzsche who worked from the end of the 18th century to the end of the 19th century. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. Our aim is to examine the meaning of modern Western civilization up to the present day and the problems it faces in the context of modern thought, with a view to the history of modern Western philosophical thought.

【Goal】

In terms of the Western thoughts of the great philosophers from the end of the 18th century to the end of the 19th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosopher when needed.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL200BB

基礎演習 1

[2年A組]

佐藤 真人

授業コード：A2206 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

セネカのテキストの精読を通し、後期ストア派の到達点である倫理学を学びます。

セネカの文章は平易でありながら、鋭い洞察と知恵の力に満ちており、その思索は古代ギリシアと初期ストア派の伝統の上に築かれています。われわれはいかに生きるべきかという、古来の最も普遍的・哲学的な問題に対するセネカの考察の読解を通して、哲学者の思索を自らの論理的な議論の構築のために活かす力を養うこと、そして翌年の哲学演習へ向けた基盤を築くことがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① セネカとストア派の思想について、必要な文献を探して読み、理解する。
- ② 自身で問いを見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 考察した内容をもとに自身の言葉で論理的に議論を組み立て、表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業です。授業の前半は、教員が前回の講読箇所についての概説や質問への回答を行います。授業後半では、予め作成したレジュメに基づいて発表担当グループが発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。

具体的な手順は以下の通り。

- ① グループワークによるレジュメ作成と発表
- ② 全体での質疑応答を通じた考察の深化
- ③ 毎回の授業内容について各自で考察した小レポート（リアクション・ペーパー）を作成。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方（文献の読解、問題設定、議論の組み立て）を訓練します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	授業の概要や今後の進め方、グループ分け等
第2回	初期ストア派の哲学の概要	論理学、自然学、倫理学の体系とは
第3回	『生の短さについて』①	第一節～第八節、発表と議論
第4回	『生の短さについて』②	第九節～第一三節、発表と議論
第5回	『生の短さについて』③	第一四節～第一九節、発表と議論
第6回	『心の平静について』①	第一節～第三節、発表と議論
第7回	『心の平静について』②	第四節～第九節、発表と議論
第8回	『心の平静について』③	第十節～第一三節、発表と議論
第9回	『心の平静について』④	第一四節～第一七節、発表と議論

第10回	『幸福な生について』①	第一節～第六節、発表と議論
第11回	『幸福な生について』②	第七節～第一二節、発表と議論
第12回	『幸福な生について』③	第一三節～第一九節、発表と議論
第13回	『幸福な生について』④	第二〇節～第二四節、発表と議論
第14回	『幸福な生について』⑤	第二五節～第二八節、発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

セネカ、『生の短さについて 他二篇』（大西英文訳）、岩波文庫、2010年。

【参考書】

まずはセネカとストア派の著述を丁寧に読み取ることから始めてください。

- ・セネカ、『怒りについて 他二篇』、岩波文庫、2008年。
- ・『セネカ哲学全集』、全六巻、岩波書店、2005年～2006年。
- ・『初期ストア派断片集』、全五巻、京都大学学術出版会、2000年～2006年。

そのうえで、参考書を各自で探してみてください（授業内でも参考書については言及しますが、参考書を自身で探すことは大学で必要な作業です）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の課題や参加姿勢など）25%、発表 25%、期末試験／レポート 50%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促せるような授業を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop basic skills to read philosophical writings through Seneca's texts and understand the ethics of the late stoics.

Seneca's writings are plain and simple, yet full of the power of acute insight and wisdom, and his thoughts are built on the ancient Greek and early Stoic tradition. By reading Seneca's reflections on the most ancient and philosophical question of how we should live, this course aims to develop the ability to read philosophical writings carefully and construct logical arguments, and build the foundations for the philosophical seminars of the following year.

Students are expected by the end of the course to understand the thoughts of Seneca, to construct their arguments logically through readings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Presentation: 25%, Term-end examination or report: 50%.

PHL200BB

基礎演習 1

[2 年 B 組]

西塚 俊太

授業コード：A2207 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】

- ・ 哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・ 哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語る事が出来る。
- ・ 議論を通じて、自身の思考内容を深める事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

※初回のみオンラインで実施し、2 回目以降は対面式で実施する予定。

※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

- (1) 受講者全員に三木清の『パスカルにおける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
- (2) 担当者は担当箇所に関するレジュメを作成し発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
- (4) 討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルにおける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一の発表と検討
第 4 回	「第一 人間の分析」の二	「第一 人間の分析」の二の発表と検討
第 5 回	「第一 人間の分析」の三	「第一 人間の分析」の三の発表と検討
第 6 回	「第二 賭」の一	「第二 賭」の一の発表と検討
第 7 回	「第二 賭」の二	「第二 賭」の二の発表と検討
第 8 回	「第三 愛の情念に関する説」の前半	「第三 愛の情念に関する説」の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一の発表と検討
第 10 回	「第四 三つの秩序」の二	「第四 三つの秩序」の二の発表と検討
第 11 回	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一の発表と検討
第 12 回	「第五 方法」の二	「第五 方法」の二の発表と検討
第 13 回	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一の発表と検討
第 14 回	「第六 宗教における生の解釈」の二 総まとめ	「第六 宗教における生の解釈」の二 および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の担当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。本授業の準備・復習時間はそれぞれ 3 時間、計 6 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルにおける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40%）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（38%）と学期末レポート（22%）の合算によって評価する。

講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものと見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の討論時間を長く確保できるように、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】

※重要

学習支援システム hoppii を毎週欠かさず確認することが不可欠である。

※初回のみオンラインで実施し、2 回目以降は対面式で実施する予定。

※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 40%, in-class contribution 38%, and term-end reports 22%.

PHL200BB

基礎演習2

[2年A組]

西塚 俊太

授業コード：A2209 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】

- ・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語る事が出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深める事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

※初回のみオンラインで実施し、2回目以降は対面式で実施する予定。

※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

- (1) 受講者全員に三木清の『パスカルにおける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
- (2) 担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
- (4) 討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルにおける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第2回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第3回	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一	三木清『パスカルにおける人間の研究』「第一 人間の分析」の一の発表と検討
第4回	「第一 人間の分析」の二	「第一 人間の分析」の二の発表と検討
第5回	「第一 人間の分析」の三	「第一 人間の分析」の三の発表と検討
第6回	「第二 賭」の一	「第二 賭」の一の発表と検討
第7回	「第二 賭」の二	「第二 賭」の二の発表と検討
第8回	「第三 愛の情念に関する説」の前半	「第三 愛の情念に関する説」の前半部分の発表と検討
第9回	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一の発表と検討
第10回	「第四 三つの秩序」の二	「第四 三つの秩序」の二の発表と検討
第11回	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一の発表と検討
第12回	「第五 方法」の二	「第五 方法」の二の発表と検討
第13回	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一の発表と検討
第14回	「第六 宗教における生の解釈」の二 総まとめ	「第六 宗教における生の解釈」の二 および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。

特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。

本授業の準備・復習時間はそれぞれ3時間、計6時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）

教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルにおける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。

参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40%）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（38%）と学期末レポート（22%）の合算によって評価する。

講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものと見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の討論時間を長く確保できるように、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】

※重要

学習支援システム **hoppii** を毎週欠かさず確認することが不可欠である。

※初回のみオンラインで実施し、2回目以降は対面式で実施する予定。

※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ>京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
<主要研究業績>

①「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第2号』、2014）

②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）

③「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第26巻』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 40%, in-class contribution 38%, and term-end reports 22%.

PHL200BB

基礎演習2

[2年B組]

佐藤 真人

授業コード：A2210 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

セネカのテキストの精読を通し、後期ストア派の到達点である倫理学を学びます。

セネカの文章は平易でありながら、鋭い洞察と知恵の力に満ちており、その思索は古代ギリシアと初期ストア派の伝統の上に築かれています。われわれはいかに生きるべきかという、古来の最も普遍的・哲学的な問題に対するセネカの考察の読解を通して、哲学者の思索を自らの論理的な議論の構築のために活かす力を養うこと、そして翌年の哲学演習へ向けた基盤を築くことがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① セネカとストア派の思想について、必要な文献を探して読み、理解する。
- ② 自身で問いを見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 考察した内容をもとに自身の言葉で論理的に議論を組み立て、表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業です。授業の前半は、教員が前回の講読箇所についての概説や質問への回答を行います。授業後半では、予め作成したレジュメに基づいて発表担当グループが発表をし、それについての質疑応答を受講者全員で行います。具体的な手順は以下の通り。

- ① グループワークによるレジュメ作成と発表
 - ② 全体での質疑応答を通じた考察の深化
 - ③ 毎回の授業内容について各自で考察した小レポート（リアクション・ペーパー）を作成。
- これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方（文献の読解、問題設定、議論の組み立て）を訓練します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	授業の概要や今後の進め方、グループ分け等
第2回	初期ストア派の哲学の概要	論理学、自然学、倫理学の体系とは
第3回	『生の短さについて』①	第一節～第八節、発表と議論
第4回	『生の短さについて』②	第九節～第一三節、発表と議論
第5回	『生の短さについて』③	第一四節～第一九節、発表と議論
第6回	『心の平静について』①	第一節～第三節、発表と議論
第7回	『心の平静について』②	第四節～第九節、発表と議論
第8回	『心の平静について』③	第十節～第一三節、発表と議論
第9回	『心の平静について』④	第一四節～第一七節、発表と議論
第10回	『幸福な生について』①	第一節～第六節、発表と議論
第11回	『幸福な生について』②	第七節～第一二節、発表と議論
第12回	『幸福な生について』③	第一三節～第一九節、発表と議論
第13回	『幸福な生について』④	第二〇節～第二四節、発表と議論
第14回	『幸福な生について』⑤	第二五節～第二八節、発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。この作業はグループ発表時のレジュメ作成や、個人での小レポートの作成に役立ちます。

発表担当のグループは、各メンバーが内容を調べ、話し合いながら、発表用のレジュメを作成してください。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

セネカ、『生の短さについて 他二篇』（大西英文訳）、岩波文庫、2010年。

【参考書】

まずはセネカとストア派の著述を丁寧に読み取ることから始めてください。
 ・セネカ、『怒りについて 他二篇』、岩波文庫、2008年。
 ・『セネカ哲学全集』、全六巻、岩波書店、2005年～2006年。
 ・『初期ストア派断片集』、全五巻、京都大学学術出版会、2000年～2006年。
 そのうえで、参考書を各自で探してみてください（授業内でも参考書については言及しますが、参考書を自身で探すことは大学で必要な作業です）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の課題や参加姿勢など）25%、発表25%、期末試験/レポート50%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促せるような授業を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop basic skills to read philosophical writings through Seneca's texts and understand the ethics of the late stoics.

Seneca's writings are plain and simple, yet full of the power of acute insight and wisdom, and his thoughts are built on the ancient Greek and early Stoic tradition. By reading Seneca's reflections on the most ancient and philosophical question of how we should live, this course aims to develop the ability to read philosophical writings carefully and construct logical arguments, and build the foundations for the philosophical seminars of the following year.

Students are expected by the end of the course to understand the thoughts of Seneca, to construct their arguments logically through readings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Presentation: 25%, Term-end examination or report: 50%.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではアリストテレスの倫理思想を検討する。具体的にはアリストテレスの『ニコマコス倫理学』の内容・意義を考察することが目的である。また、そのさい、現代社会の倫理的諸問題を対置する時、アリストテレス倫理学はどのように対応するのか（しないのか）という問題も受講生には考察してもらいたい。

【到達目標】

アリストテレスの倫理学の内容を理解しその意義を考察することができること、が到達目標である。意義を考察するさい、現代社会の倫理的諸問題、たとえば幸福の問題を対置してみよう。そのとき、アリストテレスの倫理学はどのように対応するのか（しないのか）という問題をどこまで自分で考えることができるか。その考えを自分ですこし先までのばすことを試みてみよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

アリストテレス『ニコマコス倫理学』の内容に沿いながら、各トピックスを検討する。質問は随時受けつける。リアクションペーパーによる質問には、次の授業の冒頭にて前回の復習を行なう際に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アリストテレスの哲学
	生の目的	目的の階層と最高善（幸福）
第 2 回	性格の徳と中庸説	性格の徳の形成と中庸説の検討・理解
第 3 回	性格の徳とは何か	性格の徳の検討・理解
第 4 回	性格の徳各論 1	勇気と節制の検討・理解
第 5 回	性格の徳各論 2	気前のよさ、度量の大きさ、高邁、等の検討・理解
第 6 回	正義と不正 1	完全な徳としての正義、徳の部分としての正義、の検討・理解
第 7 回	正義と不正 2	配分的、是正的、比例的正義、の検討・理解
第 8 回	思考の徳	思考の徳の検討・理解
第 9 回	思考の徳各論	エピステーメー、テクネー、プロネーシス等の検討・理解
第 10 回	無抑制と節制	無抑制と節制の検討・理解
第 11 回	快楽	もっともよきものとしての快楽の検討・理解
第 12 回	友愛論	友愛論の検討・理解
第 13 回	快楽と幸福	快楽と幸福の諸問題の検討・理解
第 14 回	『ニコマコス倫理学』 全体のまとめ	『ニコマコス倫理学』全体の検討・理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際に『ニコマコス倫理学』を読み、内容を把握すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回の講義で講義概要と資料を配布する。『ニコマコス倫理学』の邦訳書としては次のものがある。

1. 高田三郎 訳（岩波文庫）
2. 加藤信朗 訳（岩波旧版『アリストテレス全集』）
3. 朴一功 訳（京都大学学術出版会）
4. 神崎繁 訳（岩波新版『アリストテレス全集』第 15 巻）
5. 渡辺邦夫・立花幸司 訳（光文社古典新訳文庫）

【参考書】

山口義久『アリストテレス入門』（ちくま新書）。中畑正志『アリストテレスの哲学』（岩波新書）。その他は講義にて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小レポートの内容と期末レポートの内容によって評価する。小レポートの回数により、小レポートの内容評価の割合が 20～40 % になり、比例して期末レポートの割合が 80～60 % になる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This class gives a lecture on Aristotle's "Nicomcean Ethics". We analyze the points of his ethical thoughts and estimate their philosophical values.

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ヤスパーズと共同性の哲学」です。ドイツ語のゲマインシャフト **Gemeinschaft**（英語だと **community**）という言葉は、〈共同体〉とも〈共同性〉とも訳すことができます。それは一方では、家族や仲間、組織、民族、国家など、様々なレベルでの具体的な「集団」のことです。また他方では、そうした集団の内部で共有され、人間たちを取りまとめて統一している「性質」をも意味します。今日もなお私たちは、或る共同体が別の共同体を侵略したり、共同体の成員が権力によって支配されたりする様子を目の当たりにしています。特定の性質を強要し、異質な存在を排除する時、集団は抑圧的・閉鎖的となります。では、人々を結びつけて一つにしなから、同時に多様性をも保持する開かれた共同体は、どのように可能なのでしょう。

本講義では、20 世紀ドイツの実存哲学者、カール・ヤスパーズの思考を通じて、この問題を考えます。ヤスパーズは、個としての人間存在を〈実存 **Existenz**〉と呼び、実存たちの間に成り立つ〈交わり **Kommunikation**〉という事態を追究しました。それは、異質な他者との共存の理路を示す、〈共同性の哲学〉だと言えます。さらに彼の交わり概念は、あらゆる実存へと可能に開かれた、限界なき交わりの構想へと拡大されていきます。その背景には、第二次大戦中、ナチス・ドイツの全体主義体制の渦中で自らもマイノリティとして迫害された、ヤスパーズの体験と反省がありました。

受講者は、こうしたヤスパーズ哲学の展開過程と全体像を学ぶことで、〈共同性/共同体〉という問題事象への理解と考察を深めることとなるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① ヤスパーズの基本概念と全体構想、および彼の〈共同性の哲学〉の特質を学ぶ。
- ② 哲学的背景や 20 世紀の社会状況との関連を視野に入れ、実存的な〈共同性〉思想が持つ意義や可能性を理解する。
- ③ 〈共同性〉概念をめぐる今日の問題状況を哲学的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。

受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次回の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	ヤスパーズ哲学と〈共同性〉の問題
第 2 回	限界状況と実存（1）	〈実存〉概念の意味とその背景
第 3 回	限界状況と実存（2）	〈限界状況〉における自己生成
第 4 回	実存的交わり（1）	他者の実存との共同的自己生成
第 5 回	実存的交わり（2）	〈愛しながらの争い〉と実存的共同性
第 6 回	暗号解読の形而上学（1）	超越者の〈暗号〉とは何か
第 7 回	暗号解読の形而上学（2）	超越者のもとでの存在の共同性
第 8 回	形而上学的責め	ドイツ戦争責任論と共同性の拡張
第 9 回	理性の哲学へ	後期哲学の形成と〈理性〉概念の導入
第 10 回	包括者論と哲学的根本知	〈包括者〉への問いと哲学的論理学
第 11 回	哲学的信仰の多元性	哲学と宗教との対話の可能性
第 12 回	哲学史との交わり	ヤスパーズの哲学史観とその特徴
第 13 回	原子爆弾と人間の未来	ヤスパーズの原爆論と人類の共同性
第 14 回	講義全体の総括	〈共同性の哲学〉と〈哲学の共同性〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

ヤスパーズの主要著作の邦訳は、『哲学』全 3 巻（創文社）や『ヤスパーズ選集』全 37 巻（理想社）などで読めます。高価・入手難のものが多いので、まずは図書館を利用してください。また、さしあたりの概説的な書物として、

- ・宇都宮芳明『人と思想 ヤスパーズ』清水書院
- ・重田英世『人類の知的遺産 ヤスパーズ』講談社
- ・中山剛史『ヤスパーズ』野家啓一責任編集『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学（20 世紀 I）』所収、中央公論社
- ・W・シュスラー『ヤスパーズ入門』岡田聡訳、月曜社

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50%）と、学期末の課題レポート（50%）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。コメントカードへの応答は参考になるとの声が多いので、各回時間を取って対応しています。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with Karl Jaspers' philosophy and the concept of "Gemeinschaft" (community). "Gemeinschaft" means not only various groups of people but also its "commonality" that unites members as one group. This commonality act as the structural element to creation of pluralistic community. But if it is forced on people, the community will become closed and authoritarianistic. Jaspers thought the idea of "existential community" of human beings as free individuals by his central concept of "Kommunikation" (communication). "Kommunikation" is coexistence with otherness through conflicts. Jaspers' thought can be interpreted as the "philosophy of community". The student will obtain basic knowledge about the Jaspers' philosophy and the concept of "Gemeinschaft" as a philosophical issue by this lecture.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to

- (1) learn basic knowledge about the development and concepts of Jaspers' philosophy.
- (2) understand philosophical and contemporary problems of the concept of "Gemeinschaft" (community).

[Learning activities outside of classroom]

Before/ after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and final paper (50%).

PHL300BB

哲学特講（3）－1

佐藤 真人

授業コード：A2216 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルト哲学の最も困難な問題の一つである心身合一と情念の理論を、古代（古代ギリシア、ストア派）、中世（トマス）、近世（スピノザ）の理論との対比で考察します。関連する著述を読み解きながら、デカルトが晩年の『情念論』でめざしたものは何だったのか、その哲学の最終到達点を明らかにするとともに、デカルト哲学が残した課題への批判的解答としてのスピノザの情念論を最後に検討します。

【到達目標】

- ① デカルトの心身合一と情念の理論を精確に理解する。
- ② スピノザの情念論を精確に理解する。
- ③ 両者の哲学の相違や問題点を情念論の観点から説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、哲学者の思想や配布した著述について、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（各自の考察を論述）を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。

また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予備的考察①	古代の情念論（古代ギリシア、ストア派）
第 2 回	予備的考察②	中世の情念論（トマス・アクィナス）
第 3 回	デカルト哲学における情念論の発生	実体の区別と心身合一
第 4 回	心身合一の構造①	『方法序説』第五部と『人間論』
第 5 回	心身合一の構造②	「第六省察」と「諸答弁」
第 6 回	心身合一と原初的な概念	エリザベトとの往復書簡①
第 7 回	情念と道徳の考察へ	エリザベトとの往復書簡②
第 8 回	『情念論』第一部	自然学としての情念論と人間の本性
第 9 回	『情念論』第二部	情念の分類と原初的情念
第 10 回	『情念論』第三部	情念の効用と人生の善
第 11 回	デカルトからスピノザへ	倫理学としての情念論
第 12 回	『エチカ』の情念論①	第三部「感情の起源と本性」
第 13 回	『エチカ』の情念論②	第四部「人間の隷属あるいは感情の力」
第 14 回	『エチカ』の情念論③	第五部「人間の自由」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいつそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、もっと知りたいという思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入は義務ではありませんが、『方法序説（叙説）』『省察』『情念論』（以上デカルト）と『エチカ』（スピノザ）はいずれも哲学史上の名著であり、手元に置いてすぐ参照できれば便利です。

重要な著述は、授業支援システムで適宜配布予定です。

【参考書】

- ・G・ロデイス・レヴィス、『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990 年
- ・野田又夫、『デカルト』、岩波新書、1966 年
- ・小林道夫、『デカルト入門』、ちくま新書、2006 年
- ・一、『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995 年
- ・上野修、『スピノザの世界』、講談社現代新書、2005 年
- ・廣川洋一、『古代感情論』、岩波書店、2000 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの内容や参加姿勢）約 25%、期末試験（またはレポート）約 75%の割合で評価します。

なお、欠席 4 回で不可としますので注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、テキストを熟読し、ぜひ自分で考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

This lecture examines one of the most difficult problems of Descartes' philosophy, the theory of the union of mind and body and the passions, by contrasting it with ancient (Stoics), medieval (Thomas Aquinas), and early modern (Spinoza) theories.

By reading the relevant writings, we will clarify what Descartes was aiming for in his late theory of the passions, which was the final destination of his philosophy, and finally, examine Spinoza's theory of the passions as a critical response to the challenges left behind by Descartes' philosophy.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely the contents of the Cartesian theory of morals and passions in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Term-end examination or report: 75%.

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の日に返答する。受講報告についても同様に次の日に詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第2回	まえおき その1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第3回	まえおき その2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第4回	まえおき その3	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第5回	前年度までの内容 1	序論
第6回	前年度までの内容 2	第1部 一般原理
第7回	前年度までの内容 3	第2部 共時言語学
第8回	前年度までの内容 4	第3部 通時言語学 第1章から第6章
第9回	第3部 通時言語学	第7章 膠着
第10回	第3部 通時言語学	第8章 通時的な単位、同一性、現実性
第11回	第3部と第4部への付録	A 主観的分析と客観的分析 B 主観的な分析と下位単位の確定 C 語源学
第12回	第4部 言語地理学	第1章 言語の多様性について 第2章 地理的多様性の複雑化 第3章 地理的多様性の原因 第4章 言語的な波の伝播
第13回	第5部 回顧的言語学の諸問題	第1章 通時言語学の2つの観点 第2章 最古の言語と原型 第3章 再建
第14回	第5部 回顧的言語学の諸問題 まとめ	第4章 人類学と先史学での言語の証拠 第5章 語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

(Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 80%
short reports to each lecture: 20%

PHL300BB

哲学特講（4）－1

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カントの『たんなる理性の限界内の宗教』を通じて、「理性信仰」による人類の宗教について、カントがどのように考えたのかを知る。これにより、宗教のあり方について、宗教への多様な関心に従って考えを深める。

【到達目標】

カントによる人類の理性的宗教論にかんして、次の3点を到達目標とする。
 (1) カントの宗教論で説かれていることを理解できる。
 (2) 宗教について、カントの宗教論の観点から考察できる。
 (3) 多様な観点からカントの宗教論の意義を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 受講者は、事前に学習支援システム（Hoppii）で配布される授業プリント PDF に目を通しておきます。
 (2) 授業の最初に、前回の復習により、自分たちの理解を確認します。
 (3) 次に、当該の回の課題について説明を受けて、授業のなかで考察します。
 (4) 最後に、課題について考察したことを作文にして、学習支援システムで提出します。（提出された課題作文は無記名・順不同の形で、文集としてパスワード付 PDF で授業内で配布され、次回の復習に役立てられます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) オリエンテーション (2) 道徳から宗教へ	(A) 本授業について (B) 理性的宗教 (1) 最高善 (2) 神の存在証明 (3) 純粹な理性宗教
第 2 回	悪への性癖	テキスト第 1 編 (1) 性善説と性悪説 (2) 善への根源的素質 (3) 悪への性癖
第 3 回	人間本性の悪の起源	テキスト第 1 編 (1) 根本悪（根元悪） (2) 悪の根拠 (3) 悪の起源
第 4 回	恩寵の作用	テキスト第 1 編 (1) 人間の根源的素質 (2) 考え方の革命 (3) よき生き方の宗教
第 5 回	善の原理	テキスト第 2 編 (1) 善の原理の人格化 (2) 神の御子の理念 (3) 3つの困難と解決
第 6 回	悪の原理との戦い	テキスト第 2 編 (1) 悪魔および悪の国 (2) 一個の人格、イエス (3) 道徳的結末、迫害
第 7 回	奇跡	テキスト第 2 編 (1) 歴史の序曲：奇跡 (2) 2種類の奇跡 (3) 科学や道徳と奇跡
第 8 回	倫理的公共体	テキスト第 3 編 (1) 倫理的公共体 (2) 人類の人類自身に対する義務 (3) 純粹宗教信仰
第 9 回	善の原理の支配	テキスト第 3 編 (1) ユダヤ教とキリスト教 (2) 普遍的な世界宗教 (3) 神の国
第 10 回	神秘	テキスト第 3 編 (1) 自由と神秘 (2) 神の三つの位格 (3) 三位一体論と神秘
第 11 回	神への奉仕	テキスト第 4 編 (1) 自然的宗教 (2) 学識的宗教 (3) 真の奉仕と偽奉仕

第 12 回	神への偽奉仕	テキスト第 4 編 (1) 宗教妄想 (2) 聖職制 (3) 良心の要請
第 13 回	恩寵の手段	テキスト第 4 編 (1) 儀式 (2) キリスト教とマホメット教 (3) 妄想信仰
第 14 回	カントによる人類の宗教の意義について	全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、学習支援システム（Hoppii）にアップされた授業プリントの PDF に目を通して、あらかじめ授業内容について考えておく（2 時間）。授業後には、授業内容を復習し、課題について考えたことを作文して、学習支援システムで提出する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』（北岡武司訳、岩波書店・カント全集 10）

※新刊本は入手不可能なので、図書館等で利用するか、古書店で入手するかありません。（これ以前の理想社版のカント全集第九巻に宇都宮芳明訳もありますが、やはり新刊では入手不可能です。）なお、入手できなくても、授業で配布するプリント（PDF）によりテキストが紹介されるので大丈夫です。

【参考書】

○高峯一愚『カント講義』（論創社）
 ※本書で、カントの宗教論を読み解くための基礎知識が得られる。
 ○有福孝岳／牧野英二【編】『カントを学ぶ人のために』（世界思想社）
 ○牧野英二【編】『新カント読本』（法政大学出版局）
 ○浜田義文【編】『カント読本』（法政大学出版局）
 ○中島義道『カントの「悪」論』（講談社学術文庫）
 ○中島義道『悪について』（岩波書店・岩波新書）
 ○氷見潔『カント哲学とキリスト教』（近代文藝社）
 ○量義治『宗教哲学としてのカント哲学』（勁草書房）
 ○宇都宮芳明『カントと神』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

(1) 参加の姿勢と、毎回の課題レポートで確認された到達目標達成度
 (2) セメスター末の期末レポートで確認された到達目標達成度
 (1) を 7 割、(2) を 3 割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Through Kant's "Religion within the boundaries of mere reason" we will learn how Kant thought about the religion of mankind through "rational belief (Vernunftglaube)". This will deepen our thinking about the nature of religion according to our diverse interests in religion.

【Learning Objectives】

The following three points are to be achieved in relation to Kant's theory of the rational religion of mankind.

(1) To be able to understand what Kant's theory of religion teaches.
 (2) To be able to consider religion from the perspective of Kant's theory of religion.
 (3) To be able to evaluate the significance of Kant's theory of religion from various perspectives.

【Work to be done outside of classroom】

Before class, students are required to read through the PDF of the class handout uploaded on the learning support system (Hoppii) and think about the class content in advance (2 hours). After class, they are required to review the class content, write an essay on what they thought about the assignment, and submit it on the learning support system (2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

(1) Attitude toward participation and achievement of the learning objectives as confirmed in each assignment report

(2) Level of achievement of the learning objectives confirmed by the final report at the end of the semester.

* The overall evaluation will be made by assigning 70% for (1) and 30% for (2).

PHL300BB

哲学特講（４）－２

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの哲学思想の現代的意義をフリードリッヒ・ニーチェの哲学思想との関係に注目して検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

カントの主要著作を読み、関連文献を参照しながら、カントと現代の哲学思想の関係を考察する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	カント哲学の概要
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カントの理論哲学
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの実践哲学
第 5 回	カントの哲学思想 (4)	カントの世界市民主義
第 6 回	カントとニーチェ (1)	ニーチェ思想の概要
第 7 回	カントとニーチェ (2)	カントとニーチェの初期思想
第 8 回	カントとニーチェ (3)	カントとニーチェの中期思想
第 9 回	カントとニーチェ (4)	カントとニーチェの後期思想
第 10 回	カントと現代の哲学思想 (1)	現代の哲学思想
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとプラグマティズム
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (4)	カントと分析哲学
第 14 回	カントの哲学思想の現代的意義	ニーチェからカントへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018 年。
近堂秀『『純粹理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、晃洋書房、2018 年。
トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』、牧野英二監訳、法政大学出版局、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ 30 % と 70 % の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容と学生の内容理解度とのバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the philosophical problems of Kant and Nietzsche.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy and modern philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚 俊太

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の近代哲学を代表する西田幾多郎の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】

- ・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において「対面式」で実施する予定です。

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第2回	第一編第一章「純粹経験」	西田幾多郎『善の研究』（岩波文庫）pp.17-27 以下の回のページ数はすべて岩波文庫2012年以降の版による
第3回	第一編第二章「思惟」	『善の研究』 pp.28-40 の解説
第4回	第一編第三章「意志」	『善の研究』 pp.41-55
第5回	第一編第四章「知的直観」、第二編第一章「考究の出立点」	『善の研究』 pp.56-70
第6回	第二編第二章「意識現象が唯一の実在である」、第三章「実在の真景」	『善の研究』 pp.71-84
第7回	第二編第四章「真実には常に同一の形式を有って居る」、第五章「真実の根本形式」、第六章「唯一実在」、第七章「実在の分化発展」	『善の研究』 pp.85-109
第8回	第二編第八章「自然」、第九章「精神」	『善の研究』 pp.110-127
第9回	第二編第十章「実在としての神」、第三編第一章「行為 上」、第二章「行為 下」	『善の研究』 pp.128-146
第10回	第三編第三章「意志の自由」、第四章「価値的研究」	『善の研究』 pp.147-159
第11回	第三編第五章「倫理学の諸説 その一」、第六章「倫理学の諸説 その二」、第七章「倫理学の諸説 その三」、第八章「倫理学の諸説 その四」	『善の研究』 pp.160-186
第12回	第三編第九章「善（活動説）」、第十章「人格的善」	『善の研究』 pp.187-200
第13回	第三編第十一章「善行為の動機（善の形式）」、第十二章「善行為の目的（善の内容）」、第十三章「完全なる善行」	『善の研究』 pp.201-221

第14回 第四編第一章「宗教的要 善の研究」 pp.223-263 西田の思想
第二章「宗教の本 の総まとめ
質」、第三章「神」、第四章「神と世界」、第五章「知と愛」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。本授業の準備・復習時間は準備1時間・復習4時間の計5時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書として西田幾多郎『善の研究』（岩波文庫）の2012年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。教科書指定してあるので、受講希望の場合は必ず購入すること。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45%）と、学期末レポート（55%）によって評価する。講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。※すべての回において対面式で実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合は hoppii の掲示板機能などを利用しての質問を随時受け付けている。※すべての回において対面式で実施する予定です。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

＜主要研究業績＞

- ① 「「ひと」であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第2号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第26輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading "An Inquiry into the Good" by Kitaro Nishida. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の内容は、「考えながら学ぶ西洋哲学史」です。受講生は、古代から現代にいたる、西洋の主要な哲学者たちの生涯や考えを学びます。哲学史は、偉大な哲学者たちの対話や論争の歴史であり、それ自身が一つの哲学の営みです。授業では、過去の哲学者たちの思考をたどりながら、彼らがどのような事柄を哲学の問題として理解しており、その問題にどのような解答を与えたのか、具体的に学んでいきます。それによって、自分で考える力、哲学的に考える能力を得ることを目的とします。

【到達目標】

第一に、哲学史にかんする知識を身につけながら、自分で説明することができる。
第二に、日常の様々な出来事について、哲学的に問題を立てて考え、論じることができる。
第三に、議論を通して、多様な意見の存在を知り、自分の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、毎回の授業では二人一組で議論し、その結論を発表してもらいます。受講にあたっては、自分自身で考えること、他の受講生と議論すること、また授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・西洋哲学史とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第 2 回	神話から哲学へ	神話の否定と哲学の誕生について説明する
第 3 回	論理とエレア学派	説得の技術と対話の技術について説明する
第 4 回	ソクラテスと人間	ソクラテスによる知恵の探究について説明する
第 5 回	プラトンとイデア	普遍や理想の存在を認めた、プラトンのイデア論について説明する
第 6 回	アリストテレスと徳倫理学	よい人生を送ることを目的とする、徳倫理学について説明する
第 7 回	ヘレニズムとローマの哲学	個人の生き方を問題にした、ヘレニズムとローマの哲学について説明する
第 8 回	キリスト教と哲学	キリスト教の影響と、異教徒に対するキリスト教の弁護について説明する
第 9 回	宗教改革の思想	ローマ・カトリック教会の支配の終わりと、その影響について説明する
第 10 回	デカルトと近代哲学	「私は考える」をもとに世界を捉えなおす哲学について、説明する
第 11 回	イギリス経験論の系譜	生得観念を否定し、経験を重視した哲学について説明する
第 12 回	カントとドイツ観念論	現象と物自体の二元論とその克服の試みについて、説明する
第 13 回	実存主義の哲学	抽象的な人間一般でなく、「今ここにいる私」を重視する哲学について説明する
第 14 回	現代の哲学	存在の意味の探究と、哲学における言語分析について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は発展的な内容も含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』、有斐閣、1975 年。
野家啓一（責任編集）『哲学の歴史』（第 1 巻- 第 12 巻）、中央公論新社、2007-2008 年。

牧野英二、小野原雅夫、山本英輔、齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境』、法政大学出版局、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、過去の哲学者の考えを理解しているかどうか、また自分の考えを表現できるかどうか評価します（40%）。また学期末レポートによって、過去の哲学者の考えを正しく理解しているかどうか、また哲学的に問題を立てて考え、論じることができるかどうか評価します（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

The content of this class is the history of Western philosophy. Students will study the lives and ideas of major Western philosophers from antiquity to the modern era. The history of philosophy is a history of dialogues and debates among great philosophers and is a philosophical activity in itself. In the class, students will follow the thoughts of philosophers and learn specifically what they understood as philosophical problems and what answers they gave to those problems. By

doing so, students will gain the ability to think for themselves and to think philosophically. By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. While acquiring knowledge about the history of philosophy, students will be able to give their explanations.

B. Students will be able to formulate, think about, and discuss philosophical issues regarding various everyday events.

C. Through discussion, students can learn about the existence of diverse opinions and deepen their thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%、Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヘーゲルの『法の哲学』における「自由」と「国家」の関係を学ぶことを通じて、個人と政府の両面から、現代社会の政治統合の問題点を探る。

【到達目標】

ヘーゲルが「相互承認」論に基づいて構想した「自由」概念の哲学史的特徴を説明できる。

「自由の最高の形式」が「愛国心に基づく政治統合への関与」とされた理由を説明できる。

「国家」が「愛国心」の対象になるために満たさなければならない諸条件を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が学習支援システムからプリントアウト・持参する、または、授業時に PC で参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要・授業方法・成績評価の説明
第 2 回	「意志の概念」としての「自由」	『法の哲学』の原理としての「自由」概念の哲学史的特徴
第 3 回	「自由」の具体像としての「相互承認」	「制度化された承認関係」としての「人倫共同体」
第 4 回	「客観的義務の必然的体系」	「自由意志」に対する善悪の規定根拠としての「人倫共同体」
第 5 回	近代的現実に基づく「国家」の二重性格	「家庭」と「職業団体」を基底としつつ、それらの前提である「国家」
第 6 回	プロイセン王国における政治と哲学の連動	大国の覇権に抗うドイツの自由主義的ナショナリズム
第 7 回	憲法制定をめぐる伝統と理性の争い	対立する歴史法学派と理性法学派のあいだでの立ち位置
第 8 回	市民の「教養形成」の倫理的限界	「私的欲望」から家族や同業者の「幸福」を経て「万人の福祉」へ
第 9 回	「愛国心」に値する「国家」の形式的条件	「信頼と服従の感情」を調達する前提としての「権力分立」
第 10 回	「君主権」における自然と精神の関係	血統にもとづくが、実権をもたない「国家の統一的意志の象徴」
第 11 回	「統治権」に向けられる不偏性請求	私利私欲を排除する「行政組織」と「官僚」の倫理
第 12 回	「立法権」としての議会における代表性の欠如	政治信条なき集団の利害を集約するための「身分制議会」
第 13 回	「戦争」で問われる「国民の精神的健康」	市民に対して奉仕を義務づけうる「戦争」の諸条件
第 14 回	期末レポート	現代において個人生活と政治権力の関係はどうあるべきか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

ヘーゲル『法の哲学』（Ⅰ、Ⅱ）中公クラシックス、2001 年、各 1650 円
 アヴィネリ『ヘーゲルの近代国家論』未来社、1978 年
 ビビン『ヘーゲルの実践哲学』法政大学出版局、2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70%、平常点 30% の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic problem of Hegel's ethical thought in his "Philosophy of Right". On the one hand Hegel explained "the truth of freedom" as the mutual recognition between free persons, but on the other hand he represented the obedience to the modern state as "the highest form of freedom". In order to resolve this contradiction, Hegel expounded "the ethical community (Sittlichkeit)" such as domestic division of labor, professional organization, and political integration, as the instituted relationship of recognized agents, in which they verify the significance of their existence. However, does the Hegel's theory as above succeed to convince us? To answer this question, it deals with four themes as follow: 1. The concept of freedom and its realization forms as the ethical communities, 2. Two bases of the state as modern family and civic society, 3. The self-education (Bildung) of the citizen necessary to participate in politics, 4. Some requirements for the government which deserves patriotism. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possible relation between the people and the government in our present day. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

内藤 淳

授業コード：A2223 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メタ倫理学における「道徳の存在論」に関する講義を行う。メタ倫理学とは、「努力するのは善いことだ」「泥棒は悪い」などというときの「善い」「悪い」とは正確にはどういう意味なのかという「善悪の分析」をする学問で、その中の「道徳の存在論」とは、「善悪」は客観的な真理として実在しているものなのか、そうでないのかという議論を指す。こうした議論に関する基本的な学説や理論を解説し、そこでの論点や問題点を分析するのが講義の内容である。これらを学ぶことにより、受講生が、物事の善悪を通常よりも一段階踏み込んだ次元で理解し、自分や他者の考えをメタレベルの視点で分析できるようにすることが授業の目的である。

【到達目標】

- ①メタ倫理学における存在論の基本的な論点を把握する。
- ②それに関する主要な学説と理論の内容、それらの間の対立点などを理解する。
- ③それぞれの学説・理論に対する賛成／反対を含めた自分の考えを形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で重要論点についてのディスカッションやコメント提出などを適宜行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説をする。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースに応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とメタ倫理学の概要について
第 2 回	メタ倫理学の基礎	客観主義と主観主義、相対主義について
第 3 回	実在論と非実在論	存在論の論点について
第 4 回	非実在論の主要理論	錯誤理論について
第 5 回	非実在論の問題点	錯誤理論への批判について
第 6 回	実在論の主要理論の第一（1 回目）	自然主義について
第 7 回	実在論の主要理論の第一（2 回目）	自然主義の中の立場の違いについて
第 8 回	実在論の主要理論の第二（1 回目）	非自然主義について
第 9 回	実在論の主要理論の第二（2 回目）	非自然主義の中の立場の違いについて
第 10 回	実在論の問題点	実在論の諸立場への非難について
第 11 回	第三の立場の検討（1 回目）	準実在論について
第 12 回	第三の立場の検討（2 回目）	感受性理論について
第 13 回	第三の立場の検討（3 回目）	静寂主義について
第 14 回	全体のまとめ	道徳の実在／非実在とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 事前にテキストの該当箇所を読み、記載されている参考文献を適宜読んでおく。
 2. 復習として、各回の授業で解説された内容を見直し、特に理論の筋道を整理して理解する。
 3. コメントや小論文の課題などが出された場合は、テキストと参考文献の内容を踏まえて自分の考えをまとめてそれらを作成する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤岳詩『メタ倫理学入門：道徳のそもそもを考える』勁草書房、2017 年

【参考書】

佐藤岳詩『「倫理の問題」とは何か：メタ倫理学から考える』光文社新書、2021 年
永井均『倫理とは何か：猫のインジヒトの挑戦』ちくま学芸文庫、2011 年
安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか：要説・倫理学言論』世界思想社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末課題により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末課題ではなく期末試験もしくは授業内試験にする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規の授業担当のため、これまでのアンケートがないが、理論的な内容が多く含まれるため、なるべく具体的に平易な説明を心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the ontology of morality in meta-ethics.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to understand basic theories of the ontology of morality in meta-ethics and to be able to analyze their own ideas about right and wrong.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 80%, Short reports in class: 20%.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

酒井 健

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 西欧近代の実存主義思想を基礎から学んでいく。
- 2) とくにフランス現代思想初期の思想家ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）の 2 本の雑誌掲載論文（「実存主義から経済の優位へ」（1947-48）と「実存主義」（1950））を読んで、理解を深めていく。
- 3) 毎回、課題に対して授業内で論述する。さらに期末課題の提出もある。勉強になるがかなりハードな授業。

【到達目標】

- ①キルケゴールに発しハイデガーを経由し、1940 年代後半にサルトル、さらにレヴィナスに至る実存主義思想の系譜を学ぶ。
- ②実存主義思想とフランス現代思想との接点および相違をバタイユの解釈とともに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 主要テキストとしてバタイユの実存主義解釈の上記 2 本の論文の邦訳を用いて、基本的な問題点を理解していく。
- 3) 毎回、授業の後半で課題が呈示にされ、これに対するレスポンスを論述形式で授業内に 15 - 20 行ほど書いて提出する。
- 4) そのフィードバックは翌週、教室あるいは hoppii を通してなされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業に関する概要説明
第 2 回	バタイユの論文「実存主義」（1950）①	配布テキスト 307-308 頁「実存」という言葉およびこれをめぐる西欧近代思想の系譜
第 3 回	バタイユの論文「実存主義」（1950）②	配布テキスト 309-310 頁
第 4 回	バタイユの論文「実存主義」（1950）③	配布テキスト 311 - 313 頁
第 5 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」①	配布テキスト 256 - 260 頁
第 6 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」②	配布テキスト 261-264 頁
第 7 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」③	配布テキスト 265-269 頁
第 8 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」④	配布テキスト 270-274 頁
第 9 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑤	配布テキスト 275-279 頁
第 10 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑥	配布テキスト 280-284 頁

第 11 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑦

第 12 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑧

第 13 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑨

第 14 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）が書評誌『クリティック』に発表した 2 本の論文（「実存主義から経済の優位へ」（1947-48）と「実存主義」（1950））。その邦訳を用いる。コピーにて配布。

【参考書】

- 1) キルケゴール著『ドン・ジョヴァンニ 音楽的エロスについて』浅井真男訳、白水社 U ブックス、2006 年
- 2) ハイデガー著『存在と時間』（全 3 巻）原佑・渡辺二郎訳、中公クラシックス、2006 年
- 3) サルトル著『実存主義とは何か』伊吹武彦他訳、人文書院、2022 年
- 4) レヴィナス著『実存から実存者へ』西谷修訳、ちくま学芸文庫、2006 年
- 5) バタイユ著『戦争/実存/政治』（バタイユ著作集第 11 巻）山本功訳、二見書房、1972 年

【成績評価の方法と基準】

授業の平常点が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the Existentialist thought in Western modernity.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand the fundamentals of existentialism and Georges Bataille's interpretation on this subject.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL300BB

哲学特講（7）－2

編澤 和彦

授業コード：A2225 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『判断力批判』を読む ― 美学と自然目的論の基礎づけ

カントは 1780 年代後半、認識能力と欲求能力の他に、快と不快の感情（生命感情）にもア・プリオリな原理（合目的性）を認め、批判哲学を体系的に深化・発展させました。その影響は、同時代の詩人のシラーやゲーテから、現代思想の様々な分野（政治哲学、現象学、解釈学）にまで及んでいます。本授業は『判断力批判』を取り上げ、カントによる美学と自然目的論の基礎づけのほか、第一批判と第二批判を媒介する第三批判の体系的意義を明らかにします。生命感情の分析から神学の議論に行きつく思索を辿ることで、カント批判哲学の到達点を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

- ① 哲学の古典テキストを読解する仕方や内容のまとめ方を学ぶことができる。
- ② 18 世紀の美学および自然目的論の概念史を学ぶことができる。
- ③ 反省的判断力の原理（合目的性）の体系的意義を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行ないます。テーマの変わり目で、グループワークと質疑応答の時間を作り、授業内容の理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出で出席となります。質問への回答は、次の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用します。受講生の積極的な参加を望みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の概要と目的、授業の方法などを説明するほか、授業の導入として『判断力批判』の成立史と影響作用史、ならびに、問題設定と第三批判の体系的位置づけについて解説します。
第 2 回	反省的判断力：教科書第 IV 章第 1 節	反省的判断力概念、並びに、その原理としての合目的性とその体系的意義を解説します。
第 3 回	美感的判断力の批判：教科書第 IV 章第 2 節	趣味判断の四つの契機（質・量・関係・様相）を学びます。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 1 回から第 3 回までの授業に関するグループワーク、並びに、質疑応答を行います。
第 5 回	崇高の分析論：教科書第 IV 章第 2 節	崇高の概念、および、数学的崇高と力学的崇高の区別について学びます。
第 6 回	純粹美感的判断の演繹（1）：教科書第 IV 章第 2 節	第三批判における演繹の意味、趣味判断の固有性と共通感官を説明します。
第 7 回	純粹美感的判断の演繹（2）：教科書第 IV 章第 2 節	カントの天才論、芸術論について解説します。

第 8 回	美感的判断力の弁証論：教科書第 IV 章第 2 節	趣味のアンチノミー、合目的性の観念論、道徳性の象徴としての自然美について学びます。
第 9 回	グループワークと質疑応答	第 5 回から第 8 回までの授業に関するグループワークと質疑応答を行います。
第 10 回	目的論的判断力の批判：教科書 IV 章第 3 節	自然の客観的・形式的合目的性、自然目的、自然の相対的合目的性と内的合目的性について学びます。
第 11 回	目的論的判断力の方法論：教科書 IV 章第 3 節	判断力のアンチノミーとその解決、自然の客観的合目的性の概念、自然目的を説明します。
第 12 回	目的論的判断力の方法論：教科書 IV 章第 3 節	機械論の目的論への従属、物理的神学と倫理的神学、道徳的信仰について学びます。
第 13 回	グループワークと質疑応答	第 10 回から第 12 回までの授業のグループワークと質疑応答を行います。
第 14 回	授業全体のまとめ	美学と自然目的論の内容をまとめ、第三批判の体系的意義について解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所や参考文献を読み、理解できない点をまとめるほか、それに関連する諸概念を調べてください（2 時間）。復習：再度、授業資料とテキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、授業支援システム Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題も提出してください（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

高峯一愚（著）『カント講義』、論創社：四六版（2022）、3300 円

【参考書】

- ① 牧野英二（訳）『判断力批判』カント全集第 8 巻と第 9 巻、岩波書店（2017 年）
- ② 牧野英二（編）『新・カント読本』法政大学出版局（2018 年）
- ③ 牧野英二（著）『崇高の哲学 情感豊かな理性の構築に向けて』法政大学出版局（2007 年）
- ④ 相原博（著）『カントと啓蒙のプロジェクト 《判断力批判》における自然の解釈学』法政大学出版局（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

各授業の課題（A）と期末レポート（B）を、それぞれ 50 % の評価とし、総合的に成績を算出します。また、評価については（1）カントの問題設定、概念、方法を適切に理解できているかどうか、（2）問いに対する答えという仕方、課題やレポートの構成と表現が、読者に理解できるように書かれているか、という点を基準にします。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされますので、病気などで欠席した場合、このシステムを活用して各自自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他、授業の詳細については、学習支援システム Hoppii に掲載していますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

In the late 1780s, Kant systematically deepened and developed his critical philosophy by recognizing the a priori principle in the pleasant and unpleasant emotions (life emotions). This influence extends from his contemporaries, the poets Schiller and Goethe, to various fields of modern thought (political philosophy, phenomenology, and hermeneutics). This class will focus on "The Critique of Judgment" to clarify Kant's foundations of aesthetics and natural teleology and the systematic significance of the Third Critique. By tracing the speculations that lead from the analysis of life emotions to the discussion of theology, we aim to learn the innermost truths of critical philosophy. Read the textbook and find points you do not understand (2 hours). Review whether your questions find an answer (2 hours). If you have any questions, please write them down in the posting section of Hoppii, the class support system. The assignment (A) and the final report (B) will be 50 % each. The evaluation standard will lie in (1) whether you have a correct understanding of Kant's problem setting, concepts, and methods, and (2) whether the structure and expression of the assignments and reports, in the form of answers to questions, are written in a way that readers can understand.

PHL300BB

哲学特講（8）－1／科学哲学 I

木島 泰三

授業コード：A2226, A3672 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学 I」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自然主義的人間観——その歴史と現在」というテーマで、自然主義的人間観という主題を、その歴史的な由来と現在について、哲学的観点から学んでいく。

本講義で取り上げる「自然主義的人間観」とは、近代自然科学の知見に基づく人間観を指し、また本講義では主にこのような人間観と伝統的な人間観との関わり（不一致、対立、調停の可能性、など）を考察する。そのために講義中盤まででは近代科学の始まりやそれ以前の世界観との対立、またその中での人間観の問題を取り上げる。そして終盤では現代における自然主義的人間観とその問題を、それまでの歴史的な知見も踏まえながら学び、考えていく。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた哲学的諸問題やそれに関連する歴史的な諸事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、自然主義的人間観をめぐる哲学的諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するの再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第 2 回	自然と超自然／「神話から哲学へ」／ソクラテスの問いかけ	「自然」や「自然主義」という概念についての本講義の理解を明らかにし、その後初期古代ギリシャ哲学における人間観の問題を見る
第 3 回	アリストテレスの自然観とデモクリトスの自然観	古代における対象的な自然観としてのアリストテレスの自然観と古代原子論の自然観を見ていく
第 4 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	近代科学（天文学、力学）の基礎をもたらした 17 世紀科学革命とそのアリストテレス自然学との相違を見ていく
第 5 回	デカルトの人間観／ホッブズの人間観 (1)	科学革命を経て成立した 1 つの典型的な人間観としてのデカルトの「心身二元論」に基づく思想を学び、続いてそれとは対象的なホッブズの唯物論的人間観を学ぶ
第 6 回	ホッブズの人間観 (2)／18 世紀の自然主義的人間観	引き続きホッブズの人間観を学び、その後 18 世紀における唯物論的な思想を概観する
第 7 回	近代における生命およびデザインの問題／ダーウィンの自然選択説とその意義 (1)	科学革命後に「生命」および「デザイン」の問題が焦点化されていく過程を概観し、続いてそれに対するダーウィンの自然選択説の意義を学ぶ
第 8 回	ダーウィンの自然選択説の意義 (2)／19 世紀-20 世紀前半の自然主義的人間観	引き続き自然選択説の意義について学び、その後 19 世紀後半の進化論の登場後盛んになった様々な形態の自然主義的人間観を概観する
第 9 回	非ダーウィン主義的進化論から「進化の総合説」へ	19 世紀後半から 20 世紀前半まで支配的だった「非ダーウィンの進化論」の諸形態と、20 世紀半ばに成立し現代に至る「進化の総合説」について見ていく

第 10 回 第二次大戦後の文化主義と社会生物学論争

第二次大戦後に主流となった「文化主義」の人間論と、1970 年代から 80 年代に繰り広げられた「社会生物学論争」を見ていく

第 11 回 認知革命と進化心理学の成立

時代を少しさかのぼり、20 世紀半ばに生じた「認知革命」について学び、さらに、認知革命の成果と進化生物学の成果の合流としての進化心理学の成立という経過を追っていく

第 12 回 現代の自然主義的人間観 (1)：文化と言語の進化

現代における文化および言語の自然主義的＝進化論的アプローチを学ぶ

第 13 回 現代の自然主義的人間観 (2)：宗教の自然化

現代の自然主義的アプローチの典型例として、宗教研究における進化心理学の適用について学ぶ

第 14 回 現代の自然主義的人間観 (3)：自由意志と責任の問題

自由意志および責任という古来からの人間観のも根本問題に関する自然主義的アプローチを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

本講義全般に関連する主題を別の観点から取り上げた書物として、木島泰三『自由意志の向こう側——決定論をめぐる哲学史』（講談社選書メチエ 2020 年）を挙げておく。その他個別のトピックに関連する文献については、講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1) の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う (40%)。加えて、期末レポートによる (2) の到達度の評価を行う (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、Hoppii にアクセス可能な端末が必要となる。講義資料を PDF ファイルで配布する場合があります、pdf 閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Naturalistic view of humanity: on its history and contemporary problems". You can learn various philosophical problems about the naturalistic view of humanity, firstly from historical point of view and secondly in terms of contemporary scientific perspectives.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on philosophy and history on the naturalistic view of humanity so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class and from other extra-class studies.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (60%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(40%).

PHL300BB

哲学特講（8）－2／科学哲学Ⅱ

中釜 浩一

授業コード：A2227, A3673 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

その他属性：〈優〉

Learning Objectives: To acquire a deeper understanding of nature and functions of language and to learn more about methods of analytical philosophy.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write a short paper concerning the subject.

Grading Criteria: short reports: 70%, term-end report: 30%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：言語哲学の展開

言語が哲学の問題になるのは、言語が人間の「心の構造」を写し出すものだからである。たとえ「言葉にならない思い」が存在するとしても、その「思い」の正体を自分自身で正しく理解できるようになるためには、まずは言語化される必要がある。言語は思考・知識・信念・感情など、人間の心の働きすべてに関わり、単なるコミュニケーション手段である以上に、人間の心を形成する中心的な要素である。したがって、その働きを知ることは、人間の心そのものを知ることもある。この講義では、20世紀以降に革命的に発展した言語に対するアプローチを解説し、言語と心の問題を考えるための基本的素材を与える。

【到達目標】

フレーゲ・ラッセル・タルスキらの言語に関する考え方の革新性を理解し、心の問題を含む哲学的諸問題に対する言語哲学的アプローチの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解説によって議論を進める。

毎回小課題を課し、次回授業の冒頭で前回の小課題の解説し、質問や疑問に解答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	20世紀の言語哲学の革新性
第2回	フレーゲの言語哲学（1）	意味と意義
第3回	フレーゲの言語哲学（2）	概念と関数
第4回	フレーゲの言語哲学（3）	思想と意義
第5回	フレーゲの言語哲学（4）	論理的意味論の展開
第6回	ラッセルの言語哲学（1）	記述の謎
第7回	ラッセルの言語哲学（2）	ラッセルの記述理論
第8回	ラッセルの言語哲学（3）	論理形式と文法形式
第9回	ラッセルの言語哲学（4）	ストローソンの批判と語用論
第10回	タルスキーと真理の問題	真理に関する代表的な考え方（1）
第11回	タルスキーと真理の問題	タルスキーの真理の定義（2）
第12回	タルスキーと真理の問題	嘘つきパラドクス（3）
第13回	タルスキーと真理の問題	タルスキーへの批判（4）
第14回	まとめ	20世紀の言語哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題を Hoppii 上で提出する。

言語哲学の種々の参考書を読んでおく。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

フレーゲ、ラッセル、タルスキの諸著作

飯田隆、言語哲学大全 1～IV 勁草書房

K. Taylor, Truth and Meaning, Blackwell

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出 70%、期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題を工夫して授業内容をより反映させたものとし、また解説を充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces philosophies of language since the beginning of 20th century.

PHL200BB

国際哲学特講

君嶋 泰明

授業コード：A2301 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の問題を教室だけではなく、学期末に海外に出かけ、実際に異文化との接触の中で学びます。

海外研修ではストラスブール大学（フランス）とハイデルベルク大学（ドイツ）の日本学科の学生と合同ゼミを行います。交流は日本語で行います。また合同ゼミの合間をぬって、滞在地フランス、ドイツの文化遺産を見学し、食を始めとする生活文化に触れます。

【到達目標】

- ①合同ゼミで取り上げるテキストを通じて日本文化を学び直します。
- ②海外研修では、フランス、ドイツの風物とともに、交流する学生たちの考え方に直接触れて、両文化をいわば肌で学びます。
- ③日本文化理解に打ち込むフランス、ドイツの学生たちとの交流を通して、自分自身の学ぶべきことやあるべき姿を見つめ直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

■国内での授業

9月からの授業期間には、教室で通常のゼミ形式の授業を行います。ただそれは、学期末に行く海外研修に備えてのもので、合同ゼミで取り上げられる問題に応じたテーマが取り扱われます。扱うテーマはハイデルベルク大学、ストラスブール大学との協議の上で、夏休み明けに決定します（下の「授業計画」は昨年度のもので、あくまでも一つの先例として見て下さい）。ストラスブール大学との間では、秋学期の通常授業期間中にも、Zoomで合同ゼミを数回行います。

■海外での研修

2月初旬に1週間、フランス、アルザス地方にあるアルザス欧州日本学研究所（CEEJA）の協力でハイデルベルクとコルマルに滞在し、そこを拠点として、両大学の学生と合同ゼミを行います。その他の時間には、アルザスの歴史と現在に触れる多方面の見学を行います。

■注意事項

この特講での単位取得には海外研修参加が必要です。ですから、長時間の飛行機での移動が健康上可能であること、また航空券代金を含む参加費の負担が可能であることが受講の条件となります。

参加費は旅費・滞在費すべてを含めて25万円ほどを予定しています。なおその内の4分の1（上限5万円）については大学から一人一人に補助が出ます（以上の数字はあくまでも目安です。為替レートや航空運賃の変動に左右されます。とくに2022年度はウクライナ情勢も絡み参加費は割高となりました）。これは特講ですので2年生～4年生まで受講可能です。また他の特講とは違って、原則的に複数回の受講はできません。他方で、2年生の特講受講の上限は、この特講を取るときは6単位まで引き上げられます（そうでなければ4単位まで）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業の意義と流れの説明
第2回	中井正一『美学入門』(1) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第1-2章の検討
第3回	中井正一『美学入門』(2) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第3-4章の検討
第4回	中井正一『美学入門』(3) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第5章の検討
第5回	中井正一『美学入門』(4) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第1部第6-7章の検討
第6回	中井正一『美学入門』(5) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第1章の検討
第7回	中井正一『美学入門』(6) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第2-3章の検討
第8回	中井正一『美学入門』(7) —ストラスブール大との合同ゼミ準備	第2部第4章の検討

第9回 中井正一『美学入門』(8) 第2部第5章の検討

—ストラスブール大との合同ゼミ準備

第10回 中井正一『美学入門』(9) 第2部第6-7章の検討

—ストラスブール大との合同ゼミ準備

第11回 慰安婦問題(1) —ハイデルベルク大との合同ゼミ準備 基本文献の調査・収集

第12回 慰安婦問題(2) —ハイデルベルク大との合同ゼミ準備 基本文献の内容についての報告

第13回 慰安婦問題(3) —ハイデルベルク大との合同ゼミ準備 問題点の整理

第14回 慰安婦問題(4) —ハイデルベルク大との合同ゼミ準備 発表準備の仕上げ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・扱うテキストに事前に目を通す。
 - ・当番の各回で発表準備を行う。
 - ・海外合同ゼミでの発表準備を行う。
- ※本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業計画中に上げたものは、昨年度の合同ゼミでの共通テキストです。今年度のものについては、今後、ハイデルベルク大学およびストラスブール大学との協議で、合同ゼミテーマと同時に決定されます。

【参考書】

滞在するアルザスについては次のようなものがあります。
 新田俊三『アルザスからヨーロッパの文化を考える』（東京書籍）
 内田日出美『物語ストラスブールの歴史』（中公新書）
 内村卓彦『アルザス文化史』（人文書院）

【成績評価の方法と基準】

学期内の通常の教室授業での平常点が5割、海外研修の合同ゼミでの平常点が5割。各々到達目標がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

国内・国外のプログラムの充実を図りつつも、過密・過重にならない工夫を行っていきます。

【その他の重要事項】

この特講についての説明会を4月新学期時に開催します。関心ある人は参加して下さい（説明会の詳細については別途掲示します）。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will learn about cultural understanding problems not only in the classroom but also abroad at the end of the term, actually in contact with different cultures. Concretely speaking, we will hold a joint seminar at Strasbourg University (France) and Heidelberg University (Germany), and visit the cultural heritage of France and Germany, and touch life and culture.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to learn about cultural understanding problems.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the texts. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and contribution to the joint seminar (50%).

PHL400BB

哲学演習（1）

佐藤 真人

授業コード：A2230 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルト晩年の書簡と『情念論』の精読を通し、デカルト哲学の到達点である道徳を学びます。

学問の連鎖と体系を重視するデカルトの哲学では、情念（ひいては道徳）を考えるためには形而上学と自然学の考察が欠かせないため、『省察』や『人間論』等の著述や書簡、そしてデカルト哲学の背景にあるスコラ哲学や神学等を適宜参照しつつ読解を進めます。それらの内容と意義を吟味することで、デカルトが晩年に打ち立てた道徳とはいかなるものだったのかを考察します。

【到達目標】

- ① デカルトの情念と道徳の理論を精確に読解し、その革新性をスコラ哲学との対比の上で理解する。
- ② 自身で問いを見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ③ 考察した内容をもとに自身の言葉で論理的に議論を組み立て、表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の手順で進めます。

- ① 発表担当者によるレジュメ作成と発表
 - ② それに基づく質疑応答や全体での議論（特定の質問・コメント担当者を毎回割り当てることも考えますが、基本は全員での議論です）
 - ③ 教員による補足説明と質疑応答。
- 授業後には課題の論述（リアクション・ペーパー）を提出し、そのうちの幾つかを次回授業で共有し、さらなる考察と議論のための材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入部	授業の概要と目的、今後の進め方～デカルトの道徳とは
第 2 回	後期デカルトの哲学体系	『哲学原理』の完成と残された課題
第 3 回	デカルトとエリザベトの書簡①	三つの原初的な概念、心身の区別と合一
第 4 回	デカルトとエリザベトの書簡②	情念と精神の関係とは
第 5 回	デカルトとエリザベトの書簡③	情念の効用とは
第 6 回	デカルトとエリザベトの書簡④	デカルトの「公共哲学」～幸福と善
第 7 回	デカルトとエリザベトの書簡⑤	自由意志と情念
第 8 回	『情念論』第一部①	第一項～第一六項
第 9 回	『情念論』第一部②	第一七項～第二六項
第 10 回	『情念論』第一部③	第二七項～第三五項
第 11 回	『情念論』第一部④	第三六項～第四四項
第 12 回	『情念論』第一部⑤	第四五項～第五〇項と第一部まとめ
第 13 回	『情念論』第二部①	第五一項～第六八項
第 14 回	『情念論』第二部②	第六九項～第七八項

第 15 回	『情念論』第二部③	第七九項～第九〇項
第 16 回	シャニュ宛書簡①	愛について①
第 17 回	シャニュ宛書簡②	愛について②
第 18 回	シャニュ宛書簡③	愛について③
第 19 回	『情念論』第二部④	第九一項～第一一二項
第 20 回	『情念論』第二部⑤	第一一三項～第一二七項
第 21 回	『情念論』第二部⑥	第一二八項～第一四〇項
第 22 回	『情念論』第二部⑦	第一四一項～第一四八項
第 23 回	『情念論』第三部①	第一四九項～第一六一項
第 24 回	『省察』『哲学原理』『書簡』から	意志の自由と高邁について
第 25 回	『情念論』第三部②	第一六二項～第一八四項
第 26 回	『情念論』第三部③	第一八五項～第二〇三項
第 27 回	『情念論』第三部④	第二〇四項～第二一二項
第 28 回	まとめ	デカルトにとって情念とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。発表担当者は、発表用レジュメを作成することになりますが、必ず自分の言葉で書き、参考書の文言をそのまま引き写さないこと（これは厳禁）。この点は、論文・レポートと同様です。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デカルト、『省察・情念論』、中公クラシックス、2002 年
『デカルト＝エリザベト往復書簡』、講談社学術文庫、2001 年（本書は絶版で入手困難なので、入手は任意。『デカルト全書簡集』は少し高価ですが入手は可能です。どちらも図書館で利用可能。『デカルト全書簡集』から、該当部分を適宜 Hoppii に載せるか、またはコピー配布を検討します）。

【参考書】

デカルト哲学の参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、テキストを丁寧に読み取ることから始めてください。そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探してみてください（授業内でも参考書について言及しますが、まずは以下のみ掲げます）。

野田又男、『デカルト』（岩波新書）
所雄章、『人類の知的遺産〈32〉デカルト』（講談社）
一、『デカルト』全二巻（勁草書房）
小林道夫、『デカルト入門』、ちくま新書、2006 年
一、『デカルト哲学の体系—自然学、形而上学、道徳論』、勁草書房、1995 年
デカルト研究会（編）、『現代デカルト論集』全三巻（勁草書房）、1996 年
山田弘明、『デカルトと哲学書簡』、知泉書館、2018 年
また、インターネット上の哲学辞典としては「スタンフォード哲学百科事典」を勧めます。
<https://plato.stanford.edu/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや議論への参加など）25%、発表 25%、期末試験・レポート 50%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な探究を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

最後まで読むことより、受講者の丁寧な読解と議論を重視したいので、年度中に読了しない可能性もあります。

【Outline (in English)】

We will carefully read and interpret Descartes' late letters and *Passions of the Soul* step by step, and learn the "decisive moral" of his philosophical attainment.

In Descartes' philosophy, which emphasizes unity and systematicity of sciences, consideration of his metaphysics and his physics is indispensable for considering the passions (and thus the morality), therefore, the reading proceeds with referring to related writings such as the *Meditations* and *Treatise on Man*, as well as scholastic philosophy and theology, which exist in the background source to Descartes' philosophy.

By examining the meaning and significance of these writings, our aim is to consider what the moral of Descartes in his later years was like.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely the contents of the Cartesian theory of morals and passions in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Presentation: 25%, Term-end examination or report: 50%.

PHL400BB

哲学演習（2）

奥田 和夫

授業コード：A2231 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、西洋哲学の大本にあるギリシア哲学の古典の中からプラトンの著作『プロタゴラス』を読む。史上初めてプロタゴラスは「ソフィスト」を名乗って世界史に登場した。これに対してプラトンは登場人物ソクラテスを介してソフィスにどのような問題を見出し、何を論じているのか。そして、プラトンはわれわれに何を問いかけているのか。綿密な読解をおとして、文学作品としても定評のあるこの作品を精読する。

【到達目標】

『プロタゴラス』の内容（各対話の場面）を正確に捉えながら、そこで扱われている「問題」を正確にとらえ、その「問題」の全体についてみずから考え、その考えを他者に伝えることができるようになること、そして上の【授業の目的】に記した主旨をふまえて「哲学とは何か」について自分なりの考えをもつことが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

プラトン『プロタゴラス』のすぐれた日本語訳を使用して読解をすすめ、精読する。必要に応じて、英訳等を参照する（英訳等は教員が用意する）。

授業は毎回報告者が担当箇所の「要旨」、「重要事項」、「疑問点・考察」を発表し、それを糸口にしてテキストにもとづいて出席者で討議し内容理解を深める。履修者は必ず数回の報告（発表）を担当する。詳細は春学期の初回時に説明するので、必ず出席のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	『プロタゴラス』と授業の進め方の説明。
第 2 回	導入部	登場人物ソクラテスの語り
第 3 回	プロタゴラス宿舎への訪問前に 1	ヒポクラテスの願い
第 4 回	プロタゴラス宿舎への訪問前に 2	ソクラテスとヒポクラテスの対話 反省を促すソクラテス
第 5 回	プロタゴラス宿舎訪問	徳の教師とソクラテスの疑問
第 6 回	プロタゴラスの演説 1	プロメテウス神話
第 7 回	プロタゴラスの演説 2	徳と徳の教師
第 8 回	プロタゴラスとソクラテスの対話 1	それぞれの徳は部分としてあるのか
第 9 回	プロタゴラスとソクラテスの対話 2	徳は全体として一つなのか
第 10 回	対話の中断	周囲の者たちの意見表明 1
第 11 回	対話の中断から再開へ	周囲の者たちの意見表明 2
第 12 回	シモニデスの詩をめぐる議論 1	プロタゴラスのシモニデス批判
第 13 回	シモニデスの詩をめぐる議論 2	ソクラテスのシモニデス擁護
第 14 回	シモニデスの詩をめぐる議論 3	ソクラテスのシモニデス解釈

第 15 回	徳に関する議論の再開	各徳目の性格と関係について
第 16 回	プロタゴラスの反論	勇気の徳だけは特殊である
第 17 回	ソクラテスの反論	勇気も知にもとづくとの主張
第 18 回	プロタゴラスの再反論	ソクラテスの推論批判
第 19 回	ソクラテスの再反論 1	善と快との関係
第 20 回	ソクラテスの再反論 2	計量術と勇気と知の関係
第 21 回	ソクラテスの主張	「徳は知である」との主張とプロタゴラス、ソクラテスの当初の主張との矛盾
第 22 回	プロタゴラスとソクラテスの対話の終局	徳の探求のさらなる必要の確認
第 23 回	『プロタゴラス』邦訳書の解説の検討 1	藤澤説の検討
第 24 回	『プロタゴラス』邦訳書の解説の検討 2	中澤説の検討
第 25 回	専門研究邦語論文 A の検討 1	A の検討前半
第 26 回	専門研究邦語論文 A の検討 2	A の検討後半
第 27 回	専門研究邦語論文 B の検討 1	B の検討前半
第 28 回	専門研究邦語論文 B の検討 2	B の検討後半
	まとめ	期末レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『プロタゴラス』と関連作品を熟読し内容をよく考える。参考文献を精読する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プラトン『プロタゴラス』の共通テキストは藤沢令夫訳（岩波文庫）を使用する。光文社古典新訳文庫の中澤務訳『プロタゴラス』も下調べの余裕があれば参照すること。

英訳は教員が用意する。

【参考書】

田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書）、藤沢令夫『プラトンの哲学』（同）、中畑正志『はじめてのプラトン』（講談社現代新書）など。その他は必要時に応じて適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の担当レポート＋授業への貢献度（40%）② 期末レポートの内容（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度はとくになし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回のみオンライン（Zoom 接続）で実施する。Hoppii などの「お知らせ」欄には常に注意すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we peruse Plato's "Protagoras". (Learning Objectives) The goals of this course are careful reading of texts, and understanding of the way how Plato thinks and estimates the sophist.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution (50%).

PHL400BB

哲学演習（3）

菅沢 龍文

授業コード：A2232 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』の第二編「人間の支配をめぐる善の原理による悪の原理との戦いについて」のテキストを、始めから終わりまで読み解きます。ここでは「神の子」と「悪魔」とが論ぜられ、「奇跡」について考察されます。この「神の子」はカントの説く道徳の体現者と考えられます（若きヘーゲルはイエス・キリストをこのように理解しました）。このテキスト読解を通じて、カントの宗教論の観点での「神の子」を理解し、「神の子」の道徳的・宗教的意義を様々な観点から考察することが目的です。

【到達目標】

- (1) カントの宗教論における「神の子」と「悪魔」および「奇跡」について理解し、考察を加えて、様々な観点で評価できる。
- (2) ゼミでのプレゼン用レジュメを作成することで、テキスト読解力を鍛え、論理的で明晰な文書作成力をつける。
- (3) ゼミでのプレゼンにおける質疑応答のなかで、様々な観点で意見交換できるコミュニケーション力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 始めに前回ゼミの作文課題により前回は振り返ります（フィードバック）。
- (2) 複数の担当者が分担でテキストについてのレジュメを作成してプレゼンを行います。
- (3) それぞれのプレゼンについての質疑応答をします。
- (4) 主としてゼミの作文課題にかんじて意見交換します。
- (5) ゼミ後に「学習支援システム」で課題作文を提出します。
- (6) それぞれの課題作文に対してコメントが返されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	カント『たんなる理性の限界内の宗教』について	ゼミのイントロダクション
第 2 回	徳と傾向性	テキスト： 75-76 頁 プレゼンと質疑応答、課題にかんする意見交換（以下、毎回同様）
第 3 回	悪霊、神のひとり子	テキスト： 77-78 頁
第 4 回	神の御子と人間性	テキスト： 79-80 頁
第 5 回	神の御子への実践的信仰	テキスト： 81-82 頁
第 6 回	神意にかなった人間の模範	テキスト： 83-84 頁
第 7 回	擬人観	テキスト： 85-86 頁
第 8 回	回心	テキスト： 87-88 頁
第 9 回	神の慈愛と道徳的幸福	テキスト： 89-90 頁
第 10 回	浄福への永遠なる展望	テキスト： 91-92 頁
第 11 回	地獄の罰	テキスト： 93-94 頁
第 12 回	根元悪と無限の罰	テキスト： 95-96 頁
第 13 回	回心と罰	テキスト： 97-98 頁
第 14 回	贖罪（しょくざい）	テキスト： 99-100 頁
第 15 回	道徳と宗教	夏期レポート発表会（1）
第 16 回	神の子	夏期レポート発表会（2）
第 17 回	罪と罰	夏期レポート発表会（3）
第 18 回	よき心術の開発と促進	テキスト： 101-102 頁
第 19 回	審判者	テキスト： 103-104 頁
第 20 回	悪魔と、悪の国	テキスト： 105-106 頁
第 21 回	この世の支配者	テキスト： 107-108 頁
第 22 回	処女懐胎 そして純粹に道徳的な意図の不首尾（十字架）と、後の宗教変革	テキスト： 109-110 頁
第 23 回	サタンの策略	テキスト： 111-112 頁
第 24 回	奇跡	テキスト： 113-114 頁
第 25 回	有神論的奇跡	テキスト： 115-116 頁
第 26 回	奇跡の可能性	テキスト： 117-118 頁
第 27 回	自然法則と奇跡	テキスト： 119-120 頁
第 28 回	「人間の支配をめぐる善の原理の悪の原理との戦い」とは何だったのか。	テキスト全体

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習（2 時間）：プレゼン担当者はプレゼン用レジュメを作成して、ゼミ前日までに学習支援システムにアップする。プレゼン担当でない場合は、ゼミで取り上げるテキストを読み、提出されたプレゼン用レジュメも読んで、内容を把握しておく。

復習・宿題（2 時間）：授業後に「学習支援システム」で課題作文を提出する。テキストを読み返し、参考書も読んで理解を深める。

【テキスト（教科書）】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』北岡武司訳（岩波書店の『カント全集 10』）を用いる。本書は古書でしか入手できないので、該当箇所のコピー（PDF）を配布する。

【参考書】

○高峯一愚『カント講義』（論創社）

※本書により、カントのテキストを理解するための前提的知識を得ておくことが望ましい。

○カント『道徳形而上学の基礎づけ（人倫の形而上学の基礎づけ）』（入門的な中山訳（光文社）のほか多数あるが、直近には御子柴訳（人文書院）が注目される。）

※本書の第 1 章と第 2 章を読んで、カント自身の著述によるカント倫理学入門をしておくことが望ましい。（ゼミ内でも必要に応じて基礎知識の解説がなされます。）

○その他、適宜ゼミ内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストの内容にかんする理解力および思考力、評価力、プレゼンでの論理的に明晰な表現力、意見交換のコミュニケーション力、といった観点から、次の 2 方面で評価します。

- (1) 毎回の課題作文およびプレゼン担当の充実度、ゼミへの参加態度（70 %）
- (2) 学年末レポートの完成度（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

- (1) ゆっくりとした明晰な話し方を心がける。
- (2) ゼミの始めと終わりの時間厳守を心がける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will read from beginning to end the text of the Part two of Kant's "Religion within the boundaries of mere reason": "Concerning the battle of the good against the evil principle for the dominion over the human being. Here the "Son of God" and the "devil" are discussed, and "miracles" are examined. This "Son of God" is considered the embodiment of Kant's morality (the young Hegel understood Jesus Christ in this way). Through this text reading, the objective is to understand the "Son of God" in terms of Kant's theory of religion and to consider the moral and religious significance of the "Son of God" from various perspectives.

【Learning Objectives】

- (1) Understand and discuss the "Son of God" and the "Devil" and "miracles" in Kant's theory of religion, and be able to evaluate them from various perspectives.
- (2) Develop reading comprehension skills and writing skills by preparing resumes for seminar presentations.
- (3) Develop communication skills to exchange opinions from various viewpoints during question and answer sessions in seminar presentations.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study (2 hours): Presenters are to prepare their presentation resumes and upload them to the Learning Support System (Hoppii) by the day before the seminar. If you are not in charge of presentation, read the text to be covered in the seminar and also read the submitted presentation resumes to understand the contents.

Review/Homework (2 hours): Submit the assigned essay in the Learning Support System after class. Reread the text and also read the reference books to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

The following two aspects will be evaluated from the viewpoints of comprehension and thinking skills related to the contents of the textbook, evaluation skills, logically clear expression skills in presentations, and communication skills in exchanging opinions.

- (1) The quality of each student's writing assignments and presentations, and their participation in the seminar (70%)
- (2) Completion of the end-of-year report (30%)

PHL400BB

哲学演習（4）

酒井 健

授業コード：A2233 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 哲学と芸術の交わりを大きな課題に掲げる。
- 2) フランス現代思想の広さと深さを学ぶ。
- 3) 戦争、芸術、共同体、宗教、政治、性愛などアクチュアルな問題とのつながりを学んでいく。とくに今年度は戦争と芸術の関係を学びの対象にする。

【到達目標】

▶今年度はジョルジュ・バタイユ（1897-1962）の短めのテキストを中心に、戦争と芸術の関係について哲学的視点から考察を進める。

▶ロシア軍の侵攻によって廃墟と化したウクライナの町にバンクシーが壁画を残したことはよく知られている。住民の反応は、何の役にも立たないという批判から、心の支えになったという賛辞まで様々であったが、この賛否両論にすでにバタイユの考察との接点がかげがえる。たとえば芸術の無益性とアルテラシオン（廃墟の石壁をも絵画のキャンバスに変える芸術表現の特性）、戦争の物質的暴力性と近代的な無の思想などである。

▶バタイユ自身、二つの世界大戦を生きたが、彼がテキストで言及した戦争は西欧史の全幅に及ぶ。古代ローマに始まり中世キリスト教社会、中南米への近世西欧諸国の侵略戦争、近代初期のスペインへのナポレオン軍の侵攻、第一次世界大戦、1930年代のファシズムの台頭、スペイン内戦、そして第二次世界大戦、ヒロシマの悲劇、その後の東西冷戦と核使用の問題等々。

▶バタイユは思索の最初期から最晩年までこれらの戦争を背景に芸術について考察を深めた。この授業では彼のこの考察の跡を追いかける。

▶大きな到達目標として以下の三点をあげておく。

1. 人間における理性と非理性の相克の実態を学ぶ＝人間の無益な欲望の発露と、これを抑止したり狡猾に活用する理性との矛盾、葛藤、戯れをフランス現代思想の視点から相対化して（どちらかに偏ることなく）捉える。
2. 理性の可能性と限界に関して哲学的に考察を進める＝「論理的に表現しうるもの」と「しえないもの」の識別を踏まえて、理性の働きの可能性と限界について新たな見方を手に入れる。
3. 戦争を通して近代社会における芸術の意義を確認する＝近代社会においては単なる娯楽や趣味とみなされがちな芸術作品の制作と享受について、その本来的な意義を戦争の問題系からしっかり認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 学生の発表が中心になる。毎回、授業の最後に論述式のリアクションペーパーを書いて提出する。
- 2) 今年度の開校日は4月7日金曜日（3時限）とする。初回はオン・ラインでのズーム授業になる予定。
- 3) その後の授業は教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 4) 今年度から新たな試みとして何回かの授業において、4年生が卒論計画と作成中の原稿を発表して質疑応答の場を設ける。卒論作成の進捗とテーマの共有化をはかるためである。
- 5) 課題等の提出・フィードバックは教室において、あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	この演習の特色について。戦争と芸術に対するバタイユの考え方について。過去の優秀卒業論文の紹介。
第2回	『ランスの大聖堂』（1918年出版）第1回	バタイユ最初期のテキスト。中世ゴシック大聖堂の建設と都市民の不安、および聖母信仰について。
第3回	『ランスの大聖堂』第2回	第1次世界大戦時におけるドイツ軍によるランス大聖堂の破壊とバタイユの廃墟観。
第4回	『ランスの大聖堂』第3回	廃墟と芸術の関係について。キリスト教精神と廃墟の問題について。
第5回	「消えたアメリカ」（1928）第1回	中南米のコロンブス以前の文明とスペイン人の侵略および現地人の弱さについて。
第6回	「消えたアメリカ」第2回	西欧の新大陸発見とモンテーニュの懐疑主義および文化相対主義について。
第7回	「アカデミックな馬」（1929）第1回	古代ケルト文明と古代ギリシア・ローマ文明に見る美意識と軍事意識の相違について。
第8回	「アカデミックな馬」第2回	1920年代におけるこの論文の意義。現体制の転覆への野心と芸術の本来的な弱さについて。
第9回	「サン・スヴェールの黙示録」（1929）第1回	キリスト教の黙示録と中世スペインの終末論について。
第10回	「サン・スヴェールの黙示録」第2回	中世ロマネスク時代の写本挿絵と武勲詩に見る恐怖と笑いについて。
第11回	「プリミティブ・アート」（1930）第1回	エチオピアのキリスト教会堂の扉に記された子供たちの落書きとアルテラシオンについて。
第12回	「プリミティブ・アート」第2回	フロイトの無意識論と彼の晩年のテキスト「人はなぜ戦争をするのか」（1932）をめぐって。
第13回	「プロメテウスとしてのファン・ゴッホ」（1938）	巨大な太陽風景画と古代ギリシアのプロメテウス神話について。ナチスドイツによる退廃芸術展について。
第14回	前期のまとめと第1回卒論発表会	期末課題の提示と卒論の計画発表会。
第15回	第2回卒論発表会	卒論の第1章を開示して、検討しあう。
第16回	「ニーチェ時評」（1937）第1回	古代ローマ軍によって攻囲されたイベリア・ケルトの町の悲劇を題材にしたセルバンテスの演劇「ヌマンシア」と1930年代後半のスペイン内戦について。
第17回	「ニーチェ時評」（1937）第2回	実存の悲劇の本質と芸術表現の可能性を問うバタイユの思想。
第18回	「ゴヤ」（1948）	異端審問による拷問を素描するゴヤの情念について。
第19回	「ゴヤの作品と階級闘争」（1950）	戦争絵画の代表作とされる《1808年5月3日》と晩年の《黒い絵》シリーズについて。
第20回	「芸術、残虐の実践としての」（1950）第1回	あえて残虐な光景を描く絵画の実存的な意義について。
第21回	「芸術、残虐の実践としての」（1950）第2回	作品と鑑賞者の交わりについて。
第22回	「ヒロシマの人々の物語」（1947）第1回	原爆投下を伝える文字表現の違いについて。

- 第23回 「ヒロシマの人々の物語」(1947) 第2回 悲劇的な光景を笑うニーチェの脱近代的笑いとバタイユについて。
- 第24回 第3回卒論発表会 卒論の第2章を開示し、検討しあう。
- 第25回 『宗教の理論』(1948年頃の遺稿) バタイユの「内奥性」と「自己意識」について。
- 第26回 『呪われた部分』第1巻『全般経済学試論・蕩尽』 世界大戦の回避策としての贈与
- 第27回 「人の住みえぬ地球に？」(1961) 核戦争へのバタイユの危惧。
- 第28回 まとめ 秋学期の復習をかねた課題の呈示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. バタイユの入門書および授業で言及されるテキストを読んでおくこと。
2. 課題の優秀回答を毎回公表するので、それを参考にして各自、書き方から思想内容までしっかり確認しておくこと。
3. 本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上記の授業形態のテーマ欄に紹介した文献の拙訳を教科書とする。授業内においてコピーを配布する予定。

【参考書】

- 1) バタイユ自身のテキストの邦訳
 - ①『フランスの大聖堂』（拙訳、ちくま学芸文庫、2005年）
 - ②『純然たる幸福』（拙訳、ちくま学芸文庫、2009年）
 - ③『ヒロシマの人々の物語』（拙訳、景文館書店、2015年）
 - ④『呪われた部分』第1巻『全般経済学試論・蕩尽』（拙訳、ちくま学芸文庫、2018年）
 - ⑤『ドキュマン』（江澤健一郎訳、河出文庫、2014年）
 - ⑥『無頭人』（兼子正勝・中沢信一・鈴木創士訳、現代思潮社、1999年）
 - ⑦『沈黙の絵画・マネ論』（ゴヤ論所収）（宮川淳訳、二見書房、1972年）
 - ⑧『宗教の理論』（湯浅博雄訳、ちくま学芸文庫、2002年）
- 2) 関連書
 - ①拙著『バタイユ入門』（ちくま新書、1996年）
 - ②拙著『絵画と現代思想』（新書館、2003年）
 - ③拙著『バタイユと芸術—アルテラシオンの思想』（青土社、2019年）
 - ④拙著『ゴシックとは何か—大聖堂の精神史』（ちくま学芸文庫、2006年）
 - ⑤拙著『ロマネスクとは何か—石とぶどうの精神史』（ちくま学芸文庫、2020年）
 - ⑥モンテーニュ著『エッセー』（とくに原本第1巻第10章の「人食い人種について」）（宮下志郎訳、第2巻、白水社、2007年）
 - ⑦アインシュタイン/フロイト著『人はなぜ戦争をするのか』（浅見昇吾訳、講談社学術文庫、2016年）
 - ⑧前田良三著『ナチス絵画の謎—逆襲するアカデミズムと「大ドイツ美術展」』（みすず書房、2021年）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 上記「到達目標」に記した3つの目標をどれだけ達成しているかに基準をおく。
- 2) 授業での発表（40%）、毎回のレスポンス・ペーパー（30%）、期末のレポート（30%）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

卒論制作をゼミに組み込んでほしいとの要望があったので今年度から対応した。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

- 1) 特講7-1（木曜日5時限）との関連があるので受講を勧める。
- 2) ゼミの先達たちのレポートや卒論について紹介されているので、次の拙著を紹介しておく。
『私にとって文学部とは何か』（景文館書店、2021年）
- 3) バタイユと芸術に関しては近刊の次の拙著も参考にいただきたい。
『モーツァルトの至高性—音楽に架かるバタイユの思想』（青土社、2022年）

- 4) 授業には熱心に参加してほしい。やむなく欠席する場合はメールで連絡すること。
- 5) アクティブラーニングとして春学期と秋学期にそれぞれ1回、休日を利用して美術館見学を予定している。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the fundamental of French contemporary thought.

【Learning Objectives】

Especially at the end of this course, students are expected to a good comprehension of Georges Bataille's thought on war and art. That is mainly by learning of his text.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be based on the following. Presentation in the class meeting:50 % and term-examination :50%.

PHL400BB

哲学演習（5）

吉田 敬介

授業コード：A2234 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ホルクハイマーとアドルノの『啓蒙の弁証法』（1947年）の読解を通して、現実の社会やそこに生きる個人のあり方について考察します。

ドイツ出身のホルクハイマーとアドルノは、第二次世界大戦下、亡命先のアメリカで共著『啓蒙の弁証法』を著しました。そこで彼らは、人間的な社会を目指していたはずの「啓蒙」が、非人間的な「野蠻」へと陥ってしまうのはどうしてなのか、という問いを立てました。そしてそこから、現実の社会において人間の知性や感性がどのようなあり方をしているのかを、批判的に明らかにしたのです。

授業では、『啓蒙の弁証法』の主要な論点を理解するために、そのうちの「啓蒙の概念」および「文化産業」という二つの章を読解・検討します。そして同時に、現代における私たちの知性や感性と社会との関係についても、考察したいと思います。

【到達目標】

- (A) ホルクハイマーとアドルノのテキストの内容を理解できる。
(B) テキスト読解から、現実の社会のあり方について考察できる。
(C) 理解・考察した内容を他者に提示し、議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめにホルクハイマーとアドルノの生涯や思想について簡単に導入をした後、基本的には『啓蒙の弁証法』の「啓蒙の概念」章および「文化産業」章を（教科書で挙げた徳永恂訳に沿って）講読します。その際、適宜ドイツ語原文や英語訳も参照しながら、テキストの内容を丁寧に確認し、そこに見出される諸問題を検討・考察していきます。

講読に際しては、各回に報告者と質問者を設定します。担当箇所について、報告者は内容のまとめや考察を、質問者は疑問点や確認したい点を、それぞれレジュメにまとめて発表してください。またそれ以外の受講者も、テキストを事前に読み疑問点やコメントを考えておいてください。報告者・発表者を中心に、テキストについて議論をするので、受講する皆さんには積極的な参加を望みます。また秋学期には、受講者の希望に応じて、卒業論文に関する発表の機会も作るつもりです。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、授業の内容に関連するレポート課題を提出してもらう予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。レポート課題の内容・評価基準・提出時期については、授業内で説明します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第 2 回	ホルクハイマーとアドルノについて導入	両者の生涯や著作、批判理論の思想について導入
第 3 回	『啓蒙の弁証法』について導入	『啓蒙の弁証法』の成立事情と性格、授業で読む各章の論点について導入

第 4 回 『啓蒙の弁証法』講読 「序文」（7-20 頁）

(1)

第 5 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（23-30 頁）

(2)

第 6 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（30-36 頁）

(3)

第 7 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（36-45 頁）

(4)

第 8 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（45-55 頁）

(5)

第 9 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（55-65 頁）

(6)

第 10 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（66-71 頁）

(7)

第 11 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（71-77 頁）

(8)

第 12 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（77-82 頁）

(9)

第 13 回 『啓蒙の弁証法』講読 「啓蒙の概念」（82-89 頁）

(10)

第 14 回 春学期のまとめ 春学期の講読内容の整理・検討

第 15 回 春学期の振り返りと秋学期の展望 春学期の講読内容の振り返り
秋学期の進め方について展望

第 16 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（251-258 頁）

(11)

第 17 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（258-264 頁）

(12)

第 18 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（264-272 頁）

(13)

第 19 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（272-278 頁）

(14)

第 20 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（272-287 頁）

(15)

第 21 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（287-296 頁）

(16)

第 22 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（296-305 頁）

(17)

第 23 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（306-315 頁）

(18)

第 24 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（315-328 頁）

(19)

第 25 回 『啓蒙の弁証法』講読 「文化産業」（328-338 頁）

(20)

第 26 回 「文化産業」論の射程 芸術論の観点から見た文化産業論の読解可能性

第 27 回 秋学期のまとめ 秋学期の講読内容の整理・検討

第 28 回 一年間のまとめ・展望 一年間の講読内容の整理・検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法 哲学的断想』徳永恂（訳）、岩波書店〔岩波文庫〕

【参考書】

・Max Horkheimer / Theodor W. Adorno, *Dialektik der Aufklärung: Philosophische Fragmente*, Fischer〔ドイツ語原文〕

・Max Horkheimer / Theodor W. Adorno, *Dialectic of Enlightenment: Philosophical Fragments*, ed. by Gunzelin Schmid Noerr, trans. by Edmund Jephcott, Stanford University Press〔英語訳〕

・上野成利／高幣秀知／細見和之『『啓蒙の弁証法』を読む』岩波書店
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（報告者・質問者としての発表、議論への参加、リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、レポート課題の評価 40%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用しながら、受講者相互の意見交換や議論が活発になされるよう努めます。

・わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について、原文や英語訳、二次文献などを紹介しながら丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Horkheimer and Adorno's Critical Theory of society by reading Dialectic of Enlightenment.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Horkheimer and Adorno's texts, (B) examine their conception of society, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report (40%).

PHL400BB

哲学演習（6）

君嶋 泰明

授業コード：A2235 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルティン・ハイデガーの 1935 年の講義『形而上学入門』を読む。この講義は次の問いを問うことから始められる——「なぜ一体、存在者があるのか、そして、むしろ無があるのではないのか」。これはライブニッツによってはじめて明確なたちで提出された問いであるが、ハイデガーはこの問いを主著『存在と時間』（1927 年）以来の自身の「存在」をめぐる独自の思索に結びつけてゆく。この講義を読むことで、『存在と時間』をすでに読んでいる受講生も、そうでない受講生も、ハイデガーの思索の主題を一から学ぶ（学び直す）ことができる。

【到達目標】

- ①ハイデガー『形而上学入門』の基本思想を理解する。
- ②哲学文献を読み解くのに必要な態度とスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指摘するポイントを押さえつつ作成し、授業で報告する。授業ではそれに基づいて全員で議論し、内容の理解を深める。
 なお、以下の授業計画に記した章・節番号はあくまで目安であり、進度に応じて適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	『形而上学入門』の思想	踏まえておくべき予備知識を解説する
第 3 回	第 1 章 形而上学の根本の問い	報告と討議（導入）
第 4 回	第 1 章 形而上学の根本の問い	報告と討議（議論）
第 5 回	第 1 章 形而上学の根本の問い	報告と討議（結論）
第 6 回	第 2 章 「ある」という語の文法と語源学とよせて	報告と討議（導入）
第 7 回	第 2 章 「ある」という語の文法と語源学とよせて	報告と討議（議論）
第 8 回	第 2 章 「ある」という語の文法と語源学とよせて	報告と討議（結論）
第 9 回	第 2 章第 1 節 「ある」という語の文法	報告と討議（導入）
第 10 回	第 2 章第 1 節 「ある」という語の文法	報告と討議（議論）
第 11 回	第 2 章第 1 節 「ある」という語の文法	報告と討議（結論）
第 12 回	第 2 章第 2 節 「ある」という語の語源学	報告と討議（導入）
第 13 回	第 2 章第 2 節 「ある」という語の語源学	報告と討議（議論）
第 14 回	第 2 章第 2 節 「ある」という語の語源学	報告と討議（結論）
第 15 回	第 3 章 存在の本質についての問い	報告と討議（導入）
第 16 回	第 3 章 存在の本質についての問い	報告と討議（議論）
第 17 回	第 3 章第 1 節 存在と生成	報告と討議（導入）
第 18 回	第 3 章第 1 節 存在と生成	報告と討議（議論）
第 19 回	第 3 章第 1 節 存在と生成	報告と討議（結論）
第 20 回	第 3 章第 2 節 存在と仮象	報告と討議（導入）
第 21 回	第 3 章第 2 節 存在と仮象	報告と討議（議論）

第 22 回	第 3 章第 2 節 存在と仮象	報告と討議（結論）
第 23 回	第 3 章第 3 節 存在と思考	報告と討議（導入）
第 24 回	第 3 章第 3 節 存在と思考	報告と討議（議論）
第 25 回	第 3 章第 3 節 存在と思考	報告と討議（結論）
第 26 回	第 3 章第 4 節 存在と当為	報告と討議（導入）
第 27 回	第 3 章第 4 節 存在と当為	報告と討議（議論）
第 28 回	第 3 章第 4 節 存在と当為	報告と討議（結論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指示に従って作成する。参加者は該当箇所を熟読してくる。

【テキスト（教科書）】

M. ハイデガー著、川原栄峰訳、1994、『形而上学入門』、平凡社ライブラリー

【参考書】

適宜授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

担当者としての評価が 70%、議論への参加度の評価が 30%。上記の到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度を配慮しながら適宜解説を加えつつ授業を進める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Martin Heidegger's *Introduction to Metaphysics*. (Learning Objectives)

The goal of this course is to understand Heidegger's thought in *Introduction to Metaphysics*.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and short reports (50%).

PHL400BB

哲学演習（7）

西塚 俊太

授業コード：A2236 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

山本常朝『葉隠』（春学期）と坂口安吾『墮落論他』（秋学期）を読み進めることを通じて、日本思想の一端を把握していく。特に、日本近代において一体何が問われていたのか、日本の近代性とは一体いかなるものであったのか、などの点に関する理解を目指していく。

【到達目標】

- ・日本古典と日本近代のテキストの双方を読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 受講者全員に山本常朝『葉隠』（春学期）と坂口安吾『墮落論・日本文化私観』（秋学期）の担当箇所を割り当てる。
- (2) 担当者は担当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈について参加者全員で議論する。
- (4) 演習の開始時に、前回の議論の論点を講評することを通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の実施方法	原典を読む技法の伝達 演習の実施方法についての説明
第 2 回	参考文献の検索方法 論文形式の文章の作成技法	哲学的な論文を作成する際の技法の伝達
第 3 回	『葉隠』『夜陰の閑談』、『開書第一』の 1 から 12 まで	山本常朝『葉隠』『夜陰の閑談』、『開書第一』の 1 から 12 まで 『葉隠』（講談社学術文庫） pp.14-56（以下、ページ数は講談社学術文庫版による）
第 4 回	『開書第一』の 13 から 44 まで	『開書第一』の 13 から 44 までの検討 pp.56-102
第 5 回	『開書第一』の 45 から 72 まで	箇所の考察 『開書第一』の 45 から 72 まで pp.102-148
第 6 回	『開書第一』の 73 から 116 まで	『開書第一』の 73 から 116 までの検討 pp.148-194
第 7 回	『開書第一』の 117 から 164 まで	『開書第一』の 117 から 164 までの確認 pp.194-241
第 8 回	『開書第一』の 165 から 203 まで	『開書第一』の 165 から 203 までの考察 pp.241-289
第 9 回	『開書第二』の 1 から 32 まで	『開書第二』の 1 から 32 までの検討 pp.290-334
第 10 回	『開書第二』の 33 から 69 まで	『開書第二』の 33 から 69 までの考察 pp.334-380
第 11 回	『開書第二』の 70 から 113 まで	『開書第二』の 70 から 113 までの考察 pp.380-424
第 12 回	『開書第二』の 114 から 140 まで	『開書第二』の 114 から 140 までの検討 pp.424-471
第 13 回	『開書第三』の 1 から 27 まで	『開書第三』の 1 から 27 までの考察 pp.472-519
第 14 回	『開書第三』の 28 から 56 まで	『開書第三』の 28 から 56 までの検討と『葉隠』総まとめ pp.519-563
第 1 回	「ピエロ伝道者」 「FARCE に就て」	坂口安吾の文学論に関する考察 pp.7-30（以下、ページ数は坂口安吾『墮落論・日本文化私観』（岩波文庫）による）
第 2 回	「ドストエフスキーとバルザック」 「意欲的創作文章の形式と方法」	坂口安吾の方法論の確認 pp.31-52

第 3 回	「枯淡の風格を排す」「文章の一形式」	坂口安吾の企図についての考察 pp.53-75
第 4 回	「茶番に寄せて」「文字と速力と文学」	戯作者としてのスタンスの確認 pp.77-89
第 5 回	「文学のふるさと」	文学の根本とは何かという点の考察 pp.91-100
第 6 回	「日本文化私観」の 1 回	ラディカルな日本文化論の検討の第一回 pp.101-120 の 2 行目まで 根本から日本文化観を検討する方法について pp.120-139
第 7 回	「日本文化私観」の 2 回	文学と「青春」についての考察の第一回 pp.141-170 の 8 行目 文学と「青春」についての考察の第二回 pp.170-202
第 8 回	「青春論」の 1 回	モラルとは異なる軸の「墮落」についての検討 pp.217-230
第 9 回	「青春論」の 2 回	モラルとは異なる生き方の検討 pp.231-244
第 10 回	「墮落論」	文学と感情との関係を確認する pp.203-215、pp.245-251
第 11 回	「続墮落論」	高尚ではない形で成立する文学について pp.253-269、pp.317-327
第 12 回	「罌堂小論」「武者ぶるい論」	坂口安吾の視点からの小林秀雄像についての検討 pp.337-361
第 13 回	「デカダン文学論」「恋愛論」	
第 14 回	「教祖の文学」	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。本演習の準備・復習時間は、各 3 時間合計 6 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期：山本常朝『葉隠』（講談社学術文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で演習に参加すること。
秋学期：坂口安吾『墮落論・日本文化私観』（岩波文庫）教科書指定しておくので、参加者は各自必ず入手した上で参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、原典そのものにあたって入念に読み込むことが先決である。そこで理解しきれなかった点を、講義内の議論を通じて深めていくことになる。参考文献は講義内で適宜指示していくことになるが、まずは図書館を積極的に利用し文献検索に慣れることが重要である。論文の検索については、この演習を通じて CiNii の利用に慣れていくこと。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40%）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（40%）と、学期末レポート（20%）によって評価する。講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求めるので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

発表時間と討論時間の配分がうまく機能するように調整を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいうように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史
<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
<主要研究業績>
①「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」（『倫理学紀要 第 24 輯』、2017）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese philosophy through reading thoroughly "Hagakure" and "An Depravity Theory" by Ango Sakaguchi. By the end of this course, students should be able to fully grasp the background of Japanese thought in modern times.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than six hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 50%, in-class contribution 30%, and term-end reports 20%.

PHL400BB

哲学演習（8）

安東 祐希

授業コード：A2237 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

決定問題について学ぶ。その意味するところは以下の通り。
 何か問題を考えているとしよう。どうも難しい。いろいろ試してみるがうまくゆかない。ふと、もしかすると解けない問題なのではないかとの疑念がわく。では、この問題が解けないということを示すにはどうしたらよいのか。元の問題は解ける問題なのか、それとも解けない問題なのか。これは新たな問題である。そこで、元の問題自体を対象とする新たな問題を、超（メタ）問題とよぶことにする。

この授業では、パズルを題材として、超（メタ）問題について考察する。具体的なパズルを解いたあと、同種のものうち、どのような範囲のパズルに解法があると言えるのか、という問題に進む。パズルが解けるかどうかというパズル、すなわち超（メタ）パズルである。パズルとは言ってもなかなか侮れない。数理論理学の問題や、さらに数学一般もある意味ではパズルである。なお、最大の超（メタ）パズルは、全てのパズルを対象とする判定機があるか否か、つまり、どんなパズルを与えてもそれが解けるか解けないか判定できるような、ひとつの手続きが存在するか否か、である。これは否定的に解決されているが、この問いを扱っているチューリングの論文「解ける問題と解けない問題」（教科書の付録として和訳されている）も学ぶ。

【到達目標】

決められた手続きによる解法があるかないかの判定可能性について、論理学上のあるいは数理的な観点から説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に従い、省略されている詳細部分も含め、内容説明や問題解答を履修者が分担して発表し、それに対して教員および他の参加者により質疑応答を行う。（発表が「課題」であり、質疑応答において「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	超パズルとは	教科書第 1 章
第 3 回	畳敷きパズル	教科書第 2 章前半
第 4 回	テトロミノ・パズル	教科書第 2 章後半
第 5 回	一筆書き	教科書第 3 章前半
第 6 回	グラフ・パズル	教科書第 3 章後半
第 7 回	15 パズル	教科書第 4 章前半
第 8 回	あみだくじ	教科書第 4 章後半
第 9 回	結び目	教科書第 5 章前半
第 10 回	九連環	教科書第 5 章後半
第 11 回	算木	教科書第 6 章前半
第 12 回	チューリング機械	教科書第 6 章後半
第 13 回	置換パズル	教科書第 7 章前半
第 14 回	生成変形文法	教科書第 7 章後半
第 15 回	決定不能なパズルとは	教科書第 8 章前半
第 16 回	ワン（王）のタイル	教科書第 8 章後半
第 17 回	帽子パズルの今昔	教科書第 9 章前半
第 18 回	決定不能な帽子パズル	教科書第 9 章後半
第 19 回	期待値とは	教科書第 10 章前半
第 20 回	3 囚人問題	教科書第 10 章後半
第 21 回	ベグ・ソリティア	教科書第 11 章前半
第 22 回	逆パズル	教科書第 11 章後半
第 23 回	不可能パズル	教科書第 12 章前半
第 24 回	対話ゲーム	教科書第 12 章後半
第 25 回	スライド・パズル	教科書付録導入部
第 26 回	置換パズルと標準形	教科書付録前半
第 27 回	解けないパズル	教科書付録後半
第 28 回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の問題について、紙に書きながら試行錯誤して自ら解くことを目指し、十分な演習を行うこと。また、発表に際しては、内容を整理して、説明する項目の取捨選択を含めて準備しておくこと。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

田中一之『チューリングと超（メタ）パズル』（東京大学出版会）2013 年

【参考書】

参考書については、教科書の各章末にある注を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容（60%）において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者間の議論に使える時間をより多く確保できるよう、工夫したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with decision problems appearing in mathematical puzzles.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- What does "decidable" mean?
- How can we define the "meta-puzzle" for some given puzzles?

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Presentation as the person in charge for some parts of the text (60%) and contribution in question-and-answer sections (40%).

PHL400BB

哲学演習（9）

中釜 浩一

授業コード：A2238 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代アメリカを代表する心の哲学の研究者ドレツキの「心を自然化する」を精読し、「物理的世界の中になぜ心が存在できるのか」という現代の哲学や科学にとっての最大の謎のアプローチする。

【到達目標】

「心」の持つ様々な問題を検討し、テキストの読解やディスカッションを通して「心」に対する理解を深めるとともに、現代哲学の「方法」を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストの分担部分に関して、発表者・反論者・司会者を指名し、担当学生およびフロア側学生による発表・反論・討論によって授業を進める。学生間のディスカッションやディベートを主体とし、教員による解説を適宜挿入する。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員によるゼミの目的・方法の説明
第 2 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（1）	1. 表象の本性
第 3 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（2）	2. 自然的表象と規約的表象
第 4 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（3）	3. 表象システムと表象状態（前半）
第 5 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（4）	3. 表象システムと表象状態（後半）
第 6 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（5）	4. 表象される性質と表象される対象
第 7 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（6）	5. 志向性
第 8 回	第 1 章 感覚経験の表象的性格（7）	6. 心と脳
第 9 回	第 2 章 内観（1）	1. 置換知覚
第 10 回	第 2 章 内観（2）	2. 他人の心を知る（1）
第 11 回	第 2 章 内観（3）	2. 自分自身の心を知る（2）
第 12 回	第 2 章 内観（4）	3. 他人の心を知る（1）
第 13 回	第 2 章 内観（5）	3. 他人の心を知る（2）
第 14 回	第 2 章 内観（6）	4. 経験なしの知識
第 15 回	第 3 章 クオリア（1）	1. フレンチブードルとフレンチワイン
第 16 回	第 3 章 クオリア（2）	2. 表象される性質としてのクオリア
第 17 回	第 3 章 クオリア（3）	3. 視点
第 18 回	第 3 章 クオリア（4）	4. 電場を経験するとはいかなることか
第 19 回	第 3 章 クオリア（5）	5. 電場を経験するものであるとはいかなることか
第 20 回	第 4 章 意識（1）	1. 意識的存在者と意識の状態
第 21 回	第 4 章 意識（2）	2. 状態意識にかんする高階理論
第 22 回	第 4 章 意識（3）	3. 意識の機能
第 23 回	第 5 章 外在主義と付随性（1）	1. 見えと付随性
第 24 回	第 5 章 外在主義と付随性（2）	2. 置き換え論法とクオリア欠如
第 25 回	第 5 章 外在主義と付随性（3）	3. 説明上の関連性
第 26 回	第 5 章 外在主義と付随性（4）	4. 進化的起源（1）
第 27 回	第 5 章 外在主義と付随性（5）	4. 進化的起源（2）
第 28 回	全体のまとめ	まとめのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者とコメントータは分担部分に関するレジュメを作成する
司会者は発表者・コメントータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論をどう進めていくかのプランを立てる。

フロア側の学生はテキストを精読し、発表者とコメントータのレジュメを読んだ上で、疑問点や反論をまとめておく。

本講義の予習復習時間は、テキストの読解・授業ノートの整理・コメントの執筆を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

フレッド・ドレツキ「心を自然化する」（勁草書房）

【参考書】

ダニエル・デネット「心はどこにあるのか」（ちくま学芸文庫）

トマス・ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（勁草書房）

ジョン・サール「マインド」（ちくま学芸文庫）など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業コメント：40%

発表と討論への参加：40%

期末レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの者が毎回の議論に加われるように、グループディスカッションを工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims at deepening students' ability to understand and discuss philosophy of mind by reading Dretske's book 'Naturalizing the Mind'

Learning Objectives: To understand human mind more deeply and to acquire modern methods of discussion on philosophical topics.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students should carefully read the assigned part of the text and construct their opinions and after each meeting students should write a short paper concerning the topic of the day. Students are expected to spend four hours for each class meeting.

Grading Criteria: In-class activities: 85%, term-end test: 15%

PHL400BB

哲学演習（10）

板橋 勇仁

授業コード：A2239 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ショーペンハウアー哲学とニーチェ哲学が持つ思想的可能性を検討する。特に、主観と客観、過去・現在・未来、精神と身体、意志と理性、意識と無意識、などの対立をめぐる両者の見解を手掛かりにして、我々が現代において生きるとはどのようなことかを考察していきたい。両哲学の比較や、教員のもう一つの専門分野である近代日本哲学との比較なども試みていきたい。主に翻訳書をテキストとする予定であるが、受講者の希望に応じて、ドイツ語原典も参照することにした。

【到達目標】

ショーペンハウアー哲学とニーチェ哲学の思想的可能性を十分に理解し、生きることについての自分なりの哲学思想を展開する際に適切に生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では主としてショーペンハウアー『意志と表象としての世界』第二巻と第四巻、後半では主としてニーチェ『喜ばしき智恵』第五書を扱う。その授業回で扱うテキストの範囲を定めて、その個所についての受講者による発表とそれについての質疑応答を主たる形式として進める予定である。詳細は初回にて、受講者の希望も聞きながら確定したい。そのため、授業計画も一部変更する可能性がある。また受講生に対して、当日の議論において、あるいは次週の冒頭において授業内に口頭でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	『意志と表象としての世界』第 1 巻（1-16 節） ガイダンス	表象としての世界
第 3 回	『意志と表象としての世界』18 節	意志とは何か
第 4 回	『意志と表象としての世界』19 節	意志と身体
第 5 回	『意志と表象としての世界』20 節	意志の現象としての世界
第 6 回	『意志と表象としての世界』21 / 22 節	現象と物自体
第 7 回	『意志と表象としての世界』23 節	物自体としての意志
第 8 回	『意志と表象としての世界』26 節	意志の客観化とイデア
第 9 回	『意志と表象としての世界』29 節	意志の目的
第 10 回	『意志と表象としての世界』61 節	意志とエゴイズム
第 11 回	『意志と表象としての世界』67 節	意志と共善の倫理
第 12 回	『意志と表象としての世界』69 節	自殺と意志の否定
第 13 回	『意志と表象としての世界』70 節	意志の自由
第 14 回	『意志と表象としての世界』71 節	意志の否定と無
第 15 回	『喜ばしき智恵』ガイダンス 1（第 1 書を中心に）	生存の目的
第 16 回	『喜ばしき智恵』ガイダンス 2（第 3 書を中心に）	神の死
第 17 回	『喜ばしき智恵』343-344 節	真理への意志
第 18 回	『喜ばしき智恵』345-348 節	信仰
第 19 回	『喜ばしき智恵』349-353 節	宗教の起源
第 20 回	『喜ばしき智恵』354-355 節	認識
第 21 回	『喜ばしき智恵』356-357 節	ドイツ哲学

第 22 回	『喜ばしき智恵』358-359 節	道徳への復習
第 23 回	『喜ばしき智恵』360-363 節	男女と愛
第 24 回	『喜ばしき智恵』364-368 節	芸術
第 25 回	『喜ばしき智恵』369-371 節	ロマン主義
第 26 回	『喜ばしき智恵』372-376 節	科学／学問
第 27 回	『喜ばしき智恵』377-380 節	故郷喪失
第 28 回	『喜ばしき智恵』381-383 節	大いなる健康

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの事前・事後の読解。発表担当者は発表の事前準備。本授業の準備・復習時間は、各授業につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ショーペンハウアー『意志と表象としての世界 I』（西尾幹二訳・中公クラシックス）

ショーペンハウアー『意志と表象としての世界 III』（西尾幹二訳・中公クラシックス）

ニーチェ『喜ばしき智恵』（村井則夫訳・河出文庫）

【参考書】

村井則夫『ニーチェ』（知泉書館）

板橋勇仁『底無き意志の系譜』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

原則として、発表や質疑応答などへの取り組み（40%）と、中間・期末の両レポート（60%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

This course deals with the philosophy of A.Schopenhauer and F.Nietzsche philosophy. It also enhances the development of students' consideration of the human life. At the end of the course, students are expected to understand the essence of both philosophy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Reports (60%) and in-class contribution(40%).

PHL400BB

哲学演習（11）

内藤 淳

授業コード：A2240 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「結婚と家族」に関する議論と検討を行う。春学期は、千田有紀『日本型近代家族』（勁草書房、2011 年）を精読し、「結婚と家族」の歴史的な変容について考察する。秋学期は、山田昌弘『結婚不要社会』（朝日新書、2019 年）を精読し、今後の日本社会で「結婚と家族」がどう変わっていくかを検討する。これらを通じて、「結婚と家族」の社会的な意義や機能の理解を深めながら、人間ひとりひとりが生きていく上で「結婚と家族」にどういう意味があるかを哲学的に考察することが授業の目的である。あわせて、卒業論文に関する構想報告と書き方の指導を随時行う。

【到達目標】

- (1) 「結婚と家族」の歴史的な変容を踏まえて、近代における「結婚と家族」の特徴を理解する。
- (2) 現代の日本社会での「結婚と家族」の特性と問題点を把握し、将来に向けた課題解決について自分なりの意見を形成する。
- (3) 筋道立てた「論」を正確に理解する読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
- (4) 自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回あらかじめ報告者と応答者、小論文担当者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見、小論文担当者による自説の主張を中心に、参加者間での討論を行う。それらを通じて、受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。また、期間中に 4 年生の卒業論文の構想報告とそれについての議論・検討も行う予定である。

なお、ここでの内容は、「結婚と家族」に関する学問的な分析と考察がねらいであって、政治的・宗教的な主張やイデオロギーを唱えたり戦わせたりすることはしないので十分注意すること。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。開講後の議論・検討状況等に応じて、進度や検討箇所は随時柔軟に設定していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・やり方の説明
第 2 回	進行準備	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など
第 3 回	『日本型近代家族』第 1 章 1～4 講読	近代家族の特徴について
第 4 回	『日本型近代家族』第 1 章 5～7 講読	近代家族における規範について
第 5 回	『日本型近代家族』第 2 章 講読	システムとしての近代家族について
第 6 回	『日本型近代家族』第 3 章 1～2 講読	日本と欧米の近代家族の比較について
第 7 回	『日本型近代家族』第 3 章 3～4 講読	近代家族の変容について
第 8 回	『日本型近代家族』第 4 章 講読	戦前と戦後の家族論について
第 9 回	『日本型近代家族』第 5 章 1～3 講読	家長長制の理解について
第 10 回	『日本型近代家族』第 5 章 4～6 講読	家長長制の問題点について
第 11 回	『日本型近代家族』第 6 章 講読	核家族の形成と問題点について
第 12 回	卒業論文構想報告：1 回目（1）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第 1 グループ
第 13 回	卒業論文構想報告：1 回目（2）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第 2 グループ
第 14 回	卒業論文構想報告：1 回目（3）	卒業論文のテーマについての報告：4 年生の第 3 グループ
第 15 回	『結婚不要社会』第 1 章前半講読	結婚をめぐる日本の現状について

第 16 回	『結婚不要社会』第 1 章後半講読	未婚化現象のロジックについて
第 17 回	卒業論文構想報告：2 回目（1）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第 1 グループ
第 18 回	卒業論文構想報告：2 回目（2）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第 2 グループ
第 19 回	卒業論文構想報告：2 回目（3）	卒論の内容構成の報告と検討：4 年生の第 3 グループ
第 20 回	『結婚不要社会』第 2 章講読	結婚の社会的機能について
第 21 回	『結婚不要社会』第 3 章前半講読	近代的結婚の成立要素について
第 22 回	『結婚不要社会』第 3 章後半講読	近代的結婚の矛盾について
第 23 回	卒業論文構想報告：3 回目（1）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第 1 グループ
第 24 回	卒業論文構想報告：3 回目（2）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第 2 グループ
第 25 回	卒業論文構想報告：3 回目（3）	卒論の中心主張の報告と検討：4 年生の第 3 グループ
第 26 回	『結婚不要社会』第 4 章講読	戦後日本の結婚状況について
第 27 回	『結婚不要社会』第 5 章講読	欧米の「結婚不要社会」について
第 28 回	『結婚不要社会』第 6 章講読	日本の「結婚困難社会」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は、担当回の授業までに担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。小論文担当者は、担当箇所を読み、その内容について自分の考えを論じた小論文を書く。その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。報告者をはじめいずれの立場においても、テキストの内容について「分かったところ」「分からないところ」を正確且つ具体的に特定できるよう求めるので、中途半端でない十分な読解を予習として行うこと。詳細は授業の中で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

千田有紀『日本型近代家族』（勁草書房、2011 年）
山田昌弘『結婚不要社会』（朝日新書、2019 年）

【参考書】

筒井淳也『結婚と家族のこれから：共働き社会の限界』光文社新書、2016 年
上野千鶴子『近代家族の成立と終焉 新版』岩波現代文庫、2020 年
服部早苗監修『歴史のなかの家族と結婚』森話社、2011 年
山田昌弘『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか？：結婚・出産が回避される本当の原因』光文社新書、2020 年
井上たか子編著『フランス女性はなぜ結婚しないで子どもを産むのか』勁草書房、2012 年
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①担当回の報告内容、②執筆小論文の内容、③討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した(1)～(4)の達成度を評価する。評価割合は①②の点数が 80 %（①②のいずれか自身が担当したもの）、③が 20 %の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見やコメントを積極的に取り上げて、討論での検討の材料にしたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)
This course deals with "marriage and family," especially in modern Japanese society.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the characteristics and problems of modern family, and to form your own opinions about the future of marriage and family in Japan.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content including writing short essays on the content of each class.
(Grading Criteria/Policy)
Final Grade will be decided based on assigned essays, presentations at seminars (80% each in charge of either) and contribution in class discussion (20%).

PHL200BB

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the first order logic by using the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the day's content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination: 30%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しく論証を組み立て、間違った議論を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、現代論理学のシステムを実際の議論に応用することは必ずしも容易ではない。科学哲学 1 では、直観的な理解が容易で、議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」の技法を習得し、論理的な議論を組み立て反論するための技法に熟達することを目指す。

【到達目標】

タブロー法を用いた論証の妥当性の判定や証明のテクニックに習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と、練習問題の解答および解説によって進める。
 授業の冒頭で、前回の練習問題の解答と解説、誤りやすい点の指摘等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と言語	論理の目的
第 2 回	命題論理とタブロー法 (その 1)	命題論理と記号言語
第 3 回	命題論理とタブロー法 (その 2)	記号化のポイント
第 4 回	命題論理とタブロー法 (その 3)	タブロー法と推理規則
第 5 回	命題論理とタブロー法 (その 4)	タブロー法による妥当性の判定
第 6 回	命題論理とタブロー法 (その 5)	タブロー法の補助規則
第 7 回	命題論理とタブロー法 (その 6)	中間テストと解説
第 8 回	述語論理とタブロー法 (その 1)	述語論理とは何か
第 9 回	述語論理とタブロー法 (その 2)	記号化とモデル
第 10 回	述語論理とタブロー法 (その 3)	述語タブロー
第 11 回	述語論理とタブロー法 (その 4)	述語タブローと論証の妥当性
第 12 回	述語論理とタブロー法 (その 5)	タブローも用いた証明の方法
第 13 回	述語論理とタブロー法 (その 6)	述語論理の完全性
第 14 回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を整理し、課題として出される練習問題を解く。
 論理学の参考文献を自分で読み進める。
 本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

Wilfrid Hodges, Logic (penguin books)
 リチャードジェフリー 「形式的論理学」(産業図書)
 中釜他「論理学の初歩」(粹出版)

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 40 %
 中間試験 30 %
 期末の試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 は科学哲学 1 の発展なので科学哲学 1 と合わせて年間受講することが望ましい。

PHL200BB

科学哲学2

中釜 浩一

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to solve problems of exercise.

Grading Criteria: assignments: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination: 30%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相の概念（必然、偶然、可能、不可能）は、言語の意味理解、原因結果の概念、責任や義務の分析等々、現代の重要な諸問題を展開する上で必須の概念的装置である。科学哲学2では、科学哲学1に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系 K、T、S4、S5 への展開を扱う。

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とした上で、タブローの方法の様相論理の体系 K、T、S4、S5への拡張してその技法に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および練習問題とその解説によって進める。
各回の授業の冒頭で課題の解答と解説を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	タブロー法に関する復習	タブロー法のポイント
第2回	様相とは何か (その1)	様相概念の説明
第3回	様相とは何か (その2)	可能世界の概念
第4回	体系 K (その1)	K の説明
第5回	体系 K (その2)	K タブロー
第6回	体系 K (その3)	K タブローによる証明
第7回	中間まとめ	中間テストと解説
第8回	体系 T (その1)	K と T の違い
第9回	体系 T (その2)	T タブローと証明
第10回	体系 S4 (その1)	S4 の説明
第11回	体系 S4 (その2)	S4 タブローと証明
第12回	体系 S5 (その1)	S5 の説明
第13回	体系 S5 (その2)	S5 タブローと証明
第14回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ノートを整理し、練習問題を解く。
論理学の参考文献を読み進める。
本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜浩一「論理学の初歩」（粹出版）Pries
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：40 %
中間試験：30 %
期末の試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくか、参考文献によってタブロー法に習熟しておくこと。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some systems of modal logic by using the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想） 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (80%), and term-end examination (20%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期エマニュエル・レヴィナスの著『全体性と無限』を講読する。レヴィナスは、独自の現象学によって、西洋哲学を規定している「全体性」への傾倒を批判し、そこに包摂されない「無限」を思考しようとした。現代他者論の金字塔であるこの難書をあらためて丁寧に読み直し、レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深めることが本授業の目的である。

【到達目標】

・レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深め、一定程度の水準で哲学的に考察できるようになる。
 ・レポートや発表を通じて、学んだ知見を適切な形で報告・論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
 ・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備し、授業内でディスカッションに使用する。
 ・授業後はリアクションペーパーを提出、教員が次回授業でコメントする。
 ・発表担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要説明
第2回	形而上学と超越について	第1部 A-1,2 の講読
第3回	全体性について	第1部 A-3,4 の講読
第4回	形而上学と存在論	第1部 A-4,5 の講読
第5回	無神論について	第1部 B-1,2 の講読
第6回	語りと真理	第1部 B-3,4,5 の講読
第7回	形而上学と人間性	第1部 B-6,7 の講読
第8回	レヴィナスにおける自由	第1部 C-1,2 の講読
第9回	真理と正義の関係	第1部 C-3,4 の講読
第10回	絶対的なものについて	第1部 D の講読
第11回	現象学と志向性	第2部 A-1,2 の講読
第12回	私と身体の関係	第2部 A-3,6 の講読
第13回	表象化する作用について	第2部 B-1,2,3 の講読
第14回	始原的なものをめぐって	第2部 B-4,5 の講読と今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加（担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する）。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』（上・下）熊野純彦訳、岩波文庫、2006年

【参考書】

エマニュエル・レヴィナス『実存から実存者へ』（西谷修訳、ちくま学芸文庫、2005年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加度、発表）80%とレポート 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The course is an introduction for Emmanuel Levinas's major work, "Wholeness and Infinity". Through his unique phenomenology, Levinas criticized the inclination toward "Totality" that defines profoundly Western traditional philosophy, and tried to think about "Infinity" that is not encompassed by it. The purpose of this course is to reread this difficult book, a milestone in the modern theory of "Other", and to deepen our understanding of such basic concepts as other, identity, finitude, subject, and transcendence.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き、エマニュエル・レヴィナスの名著『全体性と無限』を講読する。レヴィナスは、独自の現象学によって、西洋哲学を規定している「全体性」への傾倒を批判し、そこに包摂されない「無限」を思考しようとした。現代他者論の金字塔であるこの難書をあらためて丁寧に読み直し、レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深めることが本授業の目的である。

【到達目標】

・レヴィナス哲学の基本的な論点を学びながら、他者、同一性、有限性、主体、超越といった基礎概念の理解を深め、一定程度の水準で哲学的に考察できるようになる。
・レポートや発表を通じて、学んだ知見を適切な形で報告・論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備し、授業内でディスカッションに使用する。
・授業後はリアクションペーパーを提出、教員が次回授業でコメントする。
・発表担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要説明
第2回	自存性と依存性	第2部 C の講読
第3回	「住うこと」について	第2部 D 前半の講読
第4回	所有、労働、身体について	第2部 D 後半の講読
第5回	他者とエコノミー	第2部 E の講読
第6回	レヴィナスの「顔」	第3部 A の講読
第7回	顔の倫理学	第3部 B-前半の講読
第8回	言葉と他者	第3部 B-後半の講読
第9回	愛の問題	第4部 A の講読
第10回	エロスの現象学	第4部 B の講読
第11回	エロスと主体性	第4部 C,D の講読
第12回	超越性と水平性	第4部 E,F,G の講読
第13回	有限なもの無限なもの	結論前半の講読
第14回	「存在の彼方」について	結論後半の講読と、今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加（担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する）。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』（上・下）熊野純彦訳、岩波文庫、2006 年

【参考書】

エマニュエル・レヴィナス『実存から実存者へ』（西谷修訳、ちくま学芸文庫、2005 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加度、発表）80%とレポート 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The course is an introduction for Emmanuel Levinas's major work, "Wholeness and Infinity". Through his unique phenomenology, Levinas criticized the inclination toward "Totality" that defines profoundly Western traditional philosophy, and tried to think about "Infinity" that is not encompassed by it. The purpose of this course is to reread this difficult book, a milestone in the modern theory of "Other", and to deepen our understanding of such basic concepts as other, identity, finitude, subject, and transcendence.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (80%), and term-end examination (20%).

ART200BB

美学・芸術学 1

吉田 敬介

授業コード：A2247 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、哲学の一分野としての「美学」の成立と展開を概観します。

「美学」(aesthetica) は、西洋近代哲学の歴史と共に、「感性的認識の学」かつ「芸術の理論」として独自の展開を遂げました。授業ではまず、古代ギリシャ以来の芸術論を踏まえた上で、特に近世・近代の哲学者たち（デカルト、ライプニッツ、バウムガルテンら）の議論の中で「美学」が成立するプロセスを確認します。その上で、ヘルダー、カント、シラー、ヘーゲルらにおいて、「美学」が体系化し独自の重要性を帯びていくその諸相を見ていきます。なお扱う内容に応じて実際の芸術作品にも言及はしますが、芸術作品（やその歴史）それ自体はこの授業の主題でないことには注意してください。春学期の授業では、あくまでも哲学の一分野としての「美学」について基本的な知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 近代哲学における美学の展開を、理解できる。
 (B) 美学の内容を、哲学の一分野として考察できる。
 (C) 美学について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第 2 回	美学を学ぶとは	哲学の一分野として「美学」を学ぶとはどういうことか
第 3 回	「美学」前史 (1)	プラトンの詩人論
第 4 回	「美学」前史 (2)	アリストテレス『詩学』
第 5 回	「美学」の誕生 (1)	デカルトと否定的感性論
第 6 回	「美学」の誕生 (2)	ライプニッツと「混然たる認識」の肯定
第 7 回	「美学」の誕生 (3)	バウムガルテンと「感性的認識の学」としての美学
第 8 回	「美学」の確立 (1)	ヘルダーと「暗き力」としての表現
第 9 回	「美学」の確立 (2)	カントと美的経験の定式化 (1)
第 10 回	「美学」の確立 (3)	カントと美的経験の定式化 (2)
第 11 回	「美学」の展開 (1)	シラーと「美的教育」の綱領
第 12 回	「美学」の展開 (2)	ヘーゲルと「理念の物語」としての美学 (1)
第 13 回	「美学」の展開 (3)	ヘーゲルと「理念の物語」としての美学 (2)

第 14 回 まとめ、課題もしくは 春学期の学習事項のまとめ
 試験 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会
 - ・クリストフ・メンケ『力 美的人間学の根本概念』杉山卓史／中村徳仁／吉田敬介（訳）、人文書院
 - ・ウード・クルターマン『芸術論の歴史』神林恒道／太田喬夫（訳）、勁草書房
 - ・『美学の事典』美学会（編）、丸善出版
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価 60%です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of aesthetics in the context of modern philosophy.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of aesthetics, (B) examine it philosophically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on inclass contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

ART200BB

美学・芸術学2

吉田 敬介

授業コード：A2248 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、19 世紀から 20 世紀にかけての芸術や美的経験をめぐる議論を概観します。

近代における「美学」の確立以来、芸術における美的経験は、きわめて重要な意義を持つものと見なされるようになりました。芸術や美的経験は、一方で社会から自律した純粋なものとして賞賛されるようになり、他方で歴史的・社会的状況に応じた独特の機能を果たすものとして注目されるようになったのです。秋学期の授業では、19 世紀から 20 世紀にかけてのこうした議論の諸相を参照しつつ、時に作品そのものに目を向けながら、「社会に対する社会的アンチテーゼ」としての芸術のあり方について考察していきます。そこからさらに、現代にまで通じる芸術や美的経験のポテンシャルについて検討したいと思います。

【到達目標】

- (A) 19 世紀・20 世紀の芸術論の展開を、理解できる。
- (B) 授業で扱った芸術論の内容を、実際の作品や現実の社会と関連させて考察できる。
- (C) 授業で扱った芸術論について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第 2 回	「芸術」と「美的経験」の理論とは	19-20 世紀の芸術や美的経験の理論に関する導入
第 3 回	芸術と美的経験 (1)	ショーペンハウアーと美的「観照」
第 4 回	芸術と美的経験 (2)	キルケゴールと美的な生への批判
第 5 回	芸術と美的経験 (3)	ニーチェと「芸術家のための芸術」
第 6 回	自律したものとしての芸術 (1)	モダニズムと芸術至上主義
第 7 回	自律したものとしての芸術 (2)	アドルノと否定的な芸術の構想
第 8 回	社会的存在物としての芸術 (1)	芸術と「文化産業」
第 9 回	社会的存在物としての芸術 (2)	ベンヤミンと『複製技術時代の芸術作品』
第 10 回	現実の芸術からの考察 (1)	モダニズム芸術と 20 世紀の「抽象」
第 11 回	現実の芸術からの考察 (2)	プロバガンダ芸術と「大衆の装飾」

第 12 回 現実の芸術からの考察 クラカウアーの映画の理論 (3)

第 13 回 現実の芸術からの考察 ボイスと「社会彫刻」の理念 (4)

第 14 回 まとめ、課題もしくは試験 秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」(『ベンヤミン・コレクション① 近代の意味』浅井健二郎(編訳)／久保哲司(訳)、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕所収)
 - ・テオドル・W・アドルノ『美の理論』大久保健治(訳)、河出書房新社
 - ・ウッド・クルターマン『芸術論の歴史』神林恒道／太田喬夫(訳)、勁草書房
 - ・『美学の事典』美学会(編)、丸善出版
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of art theory in the 19th and 20th centuries.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of art theory, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on inclass contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL200BB

東洋哲学史 1

青野 道彦

授業コード：A2249 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏教について語る際、私たちは信仰や教理・教義に注目することが多いだろう。確かにそれは重要な位置を占めるが、仏教では生活規範や制度もきわめて重要である。本講義では、スリランカ・東南アジアに伝わる上座部仏教の戒律に注目して、仏教の制度・規範の側面について一緒に考えていきたい。

【到達目標】

- ・ 仏教における戒律（制度・行動規範）の概要を理解する。
- ・ 仏教における戒律（制度・行動規範）の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。毎回、講義資料を配布します。リアクションペーパーを提出いただき、注目すべき意見・感想については講義で紹介し、その内容について検討したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	インドでの仏教成立及び諸地域への伝播について概説。
第 2 回	戒律の概要	戒律聖典『ヴィナヤ・ピタカ』の成立経緯、種類、構成等について概説。
第 3 回	戒律の存在意義	戒律聖典『ヴィナヤ・ピタカ』の伝統内部での位置づけ、文化的・社会的背景について概説。
第 4 回	サンガとは何か？	サンガ（出家者の共同体）の構成員、制度的枠組み、基本的な生活形態、成立史について概説。
第 5 回	入門儀礼と育成制度	出家儀礼、受戒儀礼、受戒後の見習い生活について概説。
第 6 回	出家者の日常生活 1	出家者の理想的な生活基盤、生活の心得について概説。
第 7 回	出家者の日常生活 2	出家者が纏う衣、摂取する食べ物について概説。
第 8 回	出家者の日常生活 3	出家者が住まう住居、使用する薬について概説。
第 9 回	出家者の日常生活 4	出家者の共有財産と個人資産について概説。
第 10 回	サンガの儀式	サンガで執り行われる儀式のうち布薩・安居・自恣・カティナについて概説。
第 11 回	サンガの秩序維持の方法	罪を告白する方法と破戒の出家者を懲罰する方法について概説。
第 12 回	現代の上座部仏教の出家者	現代の上座部仏教の出家者達が古代に成立した戒律を現代社会の中でどの様に用いているのか概説。
第 13 回	まとめ	全授業内容の再確認
第 14 回	試験	授業内容の習熟度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、授業中に紹介する参考書を読んで仏教について自ら積極的に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は、2 時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜資料を配布します。

【参考書】

佐々木閑『出家とはなにか』大蔵出版、1999 年。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（26 %）を考慮しつつ、授業内容への理解度を問う試験（74 %）に基づき評価します。
※定期試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

視覚的資料を積極的に活用します。

【None】

None

【Outline (in English)】

This course gives an overview of the monastic discipline of Buddhism based on Theravada Buddhist literature. Students will learn how Buddhist monasticism was established and developed and how Buddhist communities are administrated by monks and nuns. At the end of the course, students are expected to understand that the monastic rules play a vital role in Buddhism. There is no need for preparation, but you will be asked to read the related books introduced during class and actively learn about Buddhism yourself. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Examination 74%, Reaction paper 26%.

PHL200BB

東洋哲学史 2

頼住 光子

授業コード：A2250 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、東洋哲学の基礎をなす仏教を中心として、儒教や神道についてもその思维方式を理解します。特に日本において仏教がどのように受容され日本の思想の中で展開していったのかを具体的に検討します。この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- ・ 仏教、儒教、神道などの重要用語・重要概念を知っている。
- ・ 日本における主な思想の展開を説明できる。
- ・ 東洋哲学の主要なテーマとなる超越、自己、世界、時間などについて、西洋哲学と比較しながら特徴を説明できる。

【到達目標】

仏教に関しては、インドから中国、日本と仏教が展開した経緯とその過程における思想の変容について理解を深めます。その際、具体的な生活文化を取り上げ、考える手掛かりとします。

また仏教、儒教、神道の世界観、人間観、歴史観の具体的に違いについても検討します。

さらに、日本思想や文化において（たとえば茶の湯や武士道など）仏教をはじめとする東洋哲学のどのような考え方が反映されているのかを考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。リアクションペーパーで受けた主要な質問は、次の授業の際に紹介して説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋哲学と宗教	東洋哲学の基本を形作っている仏教、儒教の教えについて概説し、神道の思维方式についても紹介します。
第 2 回	仏教の基本思想	仏教の基本思想として、「無我」「無常」「縁起—無自性—空」等を取り上げ、それが何を意味しているのかを考えます。
第 3 回	インド、中国、日本における仏教の展開	仏教の東洋における具体的な展開について検討します。特に、中国における儒教との相克や融合、日本における神仏習合について取り上げます。
第 4 回	仏教における「食」の意味	仏教において「食」はどのような基本的意味を持っているのかを検討します。
第 5 回	仏教における「食」の諸相	部派仏教、大乘仏教、中国仏教、日本仏教のそれぞれにおける「食」の諸相を検討します。
第 6 回	武士の思想と仏教—武士とは何か	武士の倫理思想について、従来行われてきた諸説を紹介しつつ検討します。
第 7 回	武士の思想と仏教—武士の道徳と仏教との関係	武士の道徳と仏教との関係について、相互補完的關係、対立関係という 2 側面から検討します。
第 8 回	「和」とは何か	「和」について、その語源や、仏教や儒教における「和」の思想を手掛かりとして考えます。
第 9 回	『十七条憲法』における「和」	「和をもって貴しとす」の意味するところ、その現代的意義について検討します。
第 10 回	わび茶における「和敬清寂」	「和」の思想について、千利休の侘び茶の考え方を手掛かりとして考えます。
第 11 回	「和敬清寂」の空間としての茶室	「和」の思想の具体的表現としての茶室について具体例に即しながら検討します。
第 12 回	日本仏教における中世と近世	「修行」と「修養」という二つの概念を手掛かりとして、日本の中世仏教と近世仏教の思想的特徴について検討します。
第 13 回	共生の根柢	仏教、儒教、神道を取り上げて、それぞれにおける共生の根柢を探求します。
第 14 回	総括	授業の総括を行い、理解度をはかる試験をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲を予習しておいてください。

また、適宜、手に入りやすい参考書を授業内で紹介しますので、各自、読んで内容をよく理解し復習しておいてください。

なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

頼住光子『さとりと日本人』ぶねうま舎、2017年

【参考書】

手に入りやすい入門的な辞典としては『岩波 仏教辞典 第二版』（岩波書店、2002年）をおすすめします。それ以外の参考書については、授業内で適宜、ご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）と平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

板書については見やすさを心がけています。また、リアクションペーパーで頂いた、授業をさらに掘り下げることのできる質問を、授業内で取り上げてお答えするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall major terms and concepts in Buddhism, Confucianism, Shintoism and so on.

- ・ Describe and explain development of Japanese philosophy.

- ・ Describe and explain concepts such as transcendence, self, World and time in Eastern philosophy, comparing those in Western philosophy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution:10%.

PHL200BB

宗教学 1 (伝統宗教) 1

松本 力

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

宗教学の準備として、三大宗教 (仏教、キリスト教、イスラーム) を学ぶ。

【到達目標】

学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、Hoppii 上での「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの答えた解答に対して個別にコメントすることはありませんが、次回授業開始時までに「お知らせ」に書き込みますので、確認しておいてください。特に伝えておきたいことがあった場合には、授業内でも解説することになります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第 2 回	仏教①	仏陀について
第 3 回	仏教②	仏陀の教えについて
第 4 回	仏教③	仏教が目指したもの
第 5 回	キリスト教①	旧約聖書について
第 6 回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第 7 回	キリスト教③	キリスト教の神について
第 8 回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第 9 回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第 10 回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第 11 回	イスラーム①	ムハンマドについて
第 12 回	イスラーム②	クルアーンについて
第 13 回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第 14 回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の復習時間は、各 2 時間を標準とします、

【テキスト (教科書)】

資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島菌進『宗教学の名著 30』、ちくま新書。

渡辺照宏『仏教 第二版』、岩波新書。

エルンスト・ベンツ『キリスト教 その本質とあらわれ』、平凡社。

小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題 (30%) と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験 (70%) によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB

宗教学 1（伝統宗教） 2

松本 力

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】

学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を受け、Hoppii 上の「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんが答えた解答に対して個別にコメントすることはしませんが、次回授業開始時まで「お知らせ」に書き込みますので、確認しておいてください。特に伝えておきたいことがあった場合には、授業内でも解説することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第 2 回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第 3 回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとつてのキリスト教について。
第 4 回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第 5 回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第 6 回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	スミノーゼについて。
第 7 回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	スミノーゼの諸要因。
第 8 回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第 9 回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第 10 回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第 11 回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第 12 回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第 13 回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第 14 回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島菌進『宗教学の名著 30』、ちくま新書。
デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集 偶像の黄昏 反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相 下巻』、岩波文庫。
アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』、岩波文庫。
ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラビーデ『人生の意味と神 信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30%）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70%）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PHL200BB

日本思想史 1

西塚 俊太

授業コード：A2260 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び、怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。その際、「やさしさ」「かなしみ」「愛」「別れ」「祈り」「祀り」「道」などの様々なテーマのもとで考察することで、現代にも受け継がれている日本思想・日本文化の特徴を把握することを目的とする。

【到達目標】

- ・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の開始時に、前週に提出されたレポートからいくつかを取り上げ講評し、課題のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と「自然」	日本思想における理想としての「自然」についての考察
第 3 回	別離の思想史的意義	喪失と別離についての日本思想的考察
第 4 回	「祀り」の思想	他なる世界と関係を結ぶことに関する思想史的考察
第 5 回	日本思想史における「仏教」	仏教の受容と日本化の過程についての検討
第 6 回	古の物語に見る思想	神々の世界と人間の世界とを結ぶ思想のあり方について
第 7 回	「物」語りとは	日本語の端々に現れる「物」とは一体何であるのか
第 8 回	「武」の思想	「武」の社会の人間関係のあり方についての検討
第 9 回	「決断」の思想	武の世界に生きる者たちが示した「思い切ること」の意義の考察
第 10 回	集団が生み出す論理	集団の中に生まれてくる思想のあり方について
第 11 回	国際社会と日本の伝統	映像資料を用いて、日本の伝統思想と国際化との関係を考察する
第 12 回	「型」と「道」の思想史	日本の思想史の中に現れる「型」と「道」の思想の確認と検討
第 13 回	「愛」と「粋」	「愛すること」の中に見る思想のあり方の考察
第 14 回	「糸」と「ナイルの一滴」	人と人が出会うことの奇蹟についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
 また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
 本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45%）と、学期末試験（55%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由のない遅刻者に対する対応をより厳密にして、講義が途中入室者への対応で中断しないよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※ hoppii を毎週（出来る限り毎日）確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

<主要研究業績>

- ① 「「ひと」であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL200BB

日本思想史 2

西塚 俊太

授業コード：A2261 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。春学期開講の「日本思想史 1」よりもいっそう「原典」の読解力の養成を重視する。

【到達目標】

- ・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の開始時に、前週の講義で課した要約課題のいくつかを取り上げ講評し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史の原典を読むことの意義	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と神話世界①	『古事記』に表現されている世界像について
第 3 回	日本思想と神話世界②	『古事記』の神代と人代の世界像の相違について
第 4 回	近世世界における神話の受容と変容	本居宣長と平田篤胤における神話世界観の検討
第 5 回	近代的な「記紀神話」読解	丸山真男の記紀神話読解に関する考察
第 6 回	厭離穢土と欣求浄土	求められる「浄土」とは何か、なぜ「浄土」は求められるのか、『往生要集』を通じて考察する
第 7 回	『歎異抄』の思想①	現代人は唯円の語る「悪人」を理解出来ているのだろうか
第 8 回	『歎異抄』の思想②	騙されているとしても「信じる」とはいかなる事態か
第 9 回	王朝文化とは何か	現世で到達し得る最高のあり方とはいかなるあり様か
第 10 回	『曾我物語』の思想①	武士社会の形成の原像についての検討
第 11 回	『曾我物語』の思想②	「敵討ち」で実現された「武士」像の研究
第 12 回	『三河物語』の思想②	戦闘者としての武士の社会から官僚としての侍の社会への変容を検討する
第 13 回	『三河物語』の思想②	大久保彦左衛門はなぜ「詞がけ」を希求したのか
第 14 回	『葉隠』の思想	『葉隠』の思想を、世間に流布しているイメージを排して一から読み直していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。

また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（42%）と、学期末レポート（58%）によって評価する。

講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。講義後に直接質問するだけではなく、Hoppii の掲示板機能などを通じて行うことも可能である。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応を厳密にすることで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※毎週（出来る限り毎日）hoppii を確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

＜主要研究業績＞

① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）

② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）

③ 「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」（『倫理学紀要 第 24 輯』、2017）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 42%, term-end reports 58%.

PHL300BB

文化史 1 / 文化史 1 (資格)

伊藤 直樹

授業コード：A2262, A3851 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3~4 年

備考(履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修(A3851)。

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめる、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。

かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつがAIでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなものでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。

本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

本講義を受講することによって、受講生は、ギリシア悲劇の理解とドラマの本質についての理解を得ることができます。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておい

てください。
はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』——と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「2000年間、クリエイターたちの必読書である。『ストーリー創作』の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ(悲劇)が出来上がるのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。『オイディプス』は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者 H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うようにします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	下記の【その他の重要事項】の部分を参照してください。
第 2 回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第 3 回	アリストテレスの『詩学』	アリストテレス思想の全体像
第 4 回	アリストテレスの『詩学』	アリストテレスの『詩学』について；
第 5 回	アリストテレスの『詩学』	ミメーシス、歴史との違いなど
第 6 回	ギリシア悲劇について	アリストテレスの『詩学』続き：カタルシスなど
第 7 回	ギリシア悲劇について	ソフォクレス『オイディプス王』について
第 8 回	ニーチェ『悲劇の誕生』	『オイディプス王』を観る
第 9 回	ニーチェ『悲劇の誕生』	ニーチェ思想の全体像
第 10 回	ニーチェ『悲劇の誕生』	について(1)
第 11 回	ガダマーの芸術論(1)	ディオニュソスとアポロン
第 12 回	ガダマーの芸術論(2)	について(2)
第 13 回	ガダマーの芸術論(3)	
第 14 回	まとめ	

第 10 回 ニーチェ『悲劇の誕生』 ソクラテス主義と悲劇の死
について(3)

第 11 回 ガダマーの芸術論(1) ガダマー思想の全体像

第 12 回 ガダマーの芸術論(2) 芸術と遊び

第 13 回 ガダマーの芸術論(3) 形態化への変貌、ミメーシスの本質

第 14 回 まとめ 授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート 70 %、授業への積極的な貢献度(コメントカードの記述など) 30 %、となります。

【学生の意見等からの気づき】

マンガや映像などを取り入れ、かつディスカッションなども行った点が、受講生の理解に資することになったようである。
今年度も、そうした方法を取り入れたい。

【Outline (in English)】

This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc. By taking this course, students acquire an understanding of Greek tragedy and the nature of drama. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL300BB

文化史2 / 文化史2 (資格)

伊藤 直樹

授業コード：A2263, A3852 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3~4年

備考(履修条件等)：文学部以外の学生は資格科目として履修(A3852)。

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。そのうえで、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』を、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。

昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。
StylishNoob『今日も、感謝します』、鈴木琢也『バカヤンキーでも死ぬ気でやれば世界の名門大学で戦える。』、マイヤ・プリセツカヤ『闘う白鳥 マイヤ・プリセツカヤ自伝』、元少年A『絶歌』、井川意高『溶ける』、洪沢栄一『現代語訳版 洪沢栄一自伝』、乙武洋匡『五体不満足』、アゴタ・クリストフ『文盲 アゴタ・クリストフ自伝』、森見登美彦『太陽と乙女』、『美女と竹林』、明石家さんま『こんな男でよかったら』、比嘉富子『白旗の少女』、美輪明宏『紫の履歴書』、杉本 鏡子『武士の娘』、熊川哲也『完璧という領域』、漢 a.k.a. GAMI『ヒップホップ・ドリーム』、ジェームズ・ブラウン『俺が』Bだ！ジェームズ・ブラウン自伝』、ミシェル・ザウナー『Hマートで泣きながら』、松谷みよ子『自伝 じょうちゃん』、高史明『生きることの意味 ある少年のおいたち』
いろいろありました。

この授業を受講することによって、自伝の本質を理解することができます。

【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明；自伝とはなにか
第2回	自伝とはなにか(2)	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第3回	アウグスティヌス『告白』(1)	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第4回	アウグスティヌス『告白』(2)	アウグスティヌスの『告白』の構造を解明します。
第5回	ルソー『告白』(1)	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第6回	ルソー『告白』(2)	ルソーの『告白』の構造を解明します。
第7回	ゲーテ『詩と真実』(1)	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第8回	ゲーテ『詩と真実』(2)	ゲーテの『詩と真実』の構造を解明します。
第9回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第10回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第11回	ボーヴォワールの自伝を読む	ボーヴォワールの、『娘時代』『女ざかり』などをとりあげ、紹介します。
第12回	自分史について	「自分史」について紹介します。
第13回	自伝紹介1	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。

第14回 まとめ

全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

11月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。(自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。)

課題レポート。(授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。)

授業への積極的な貢献度(コメントカードの記述など)30% レポート70%

自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分での自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

次の受講生に向けて、コメントを書いてもらいました。
「この授業では「自伝」について学ぶことについて当初検討がつきませんでした。自伝は自伝でしょう、ぐらいいい感じだったと思います。しかし、自伝とはなにかについて学び、三つの毛色の違う自伝を学ぶことで、自伝の奥深さと、自伝をとらえて社会と自己を捉えることが可能だということに気がつきました。」

「多くの自伝を読ませてもらって、内容にかかわらず、それが本人の人生を代表するエピソードとして各々選択されたことが興味深かったです。有名・無名にかかわらず、本人の性質や思考を的確に知ることができるジャンルである「自伝」の面白さがよく分かる講義でした。」

【Outline (in English)】

This course deals with the autobiography. By taking this course, students acquire an understanding of Essence of Autobiography. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL200BB

社会思想 1 (社会学概論) 1

岩野 卓司

授業コード：A2264 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしていく。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えてみると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。

授業ではこの共同性を考えていくために、今期はケアのテーマを取り扱う。現代日本は国民の平均寿命がのび高齢化社会になり、介護が必要な老人が増えてきた。従来、介護は家族によるものという風潮がわが国にはあったが、近年その体制が維持できず公共機関の支援が必要になり、福祉国家のあり方が問われるようになってきた。また、家族による介護に関しては、介護や育児は女性の仕事という考えが根強く残っており、女性差別の温床のひとつになっている。さらに、育児、老人介護、障害者介護をケアという言葉で語ることによって、対象となる社会的弱者に配慮する姿勢がみられる。これは人間関係を、健常者のみの関係としてとらえるのではなく、障害者もふくめてとらえ直さなければならないことを示している。ここに新たな共同体を考えていく必要性が感じられる。

このように授業では、社会制度の問題、差別の問題、人間関係の再定義の問題を考えることを通して、人間の共同性についての理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ケアとは何か?
第 2 回	ケアと現象学	介護や看護における「気遣い」の役割
第 3 回	ケアと家族	ケアはまず家族がやるべきという考えを検討。
第 4 回	ケアと女性差別	ケアは女性の仕事という考えに対するフェミニストたちの批判を検討
第 5 回	ケアの優しさと喜び	平川克美の介護生活における贈与の喜び
第 6 回	ケアの優しさと喜び (2)	最首悟による「相互扶助」の考え方。
第 7 回	ケアの両面性	ケアの喜びとともに存在する辛さ
第 8 回	ケアの両面性 (2)	介護殺人
第 9 回	ケアの両面性 (3)	フロイトの介護論：無意識の憎悪
第 10 回	ケアと贈与	マルセル・モース『贈与論』における贈与の両面性。
第 11 回	ケアと贈与 (2)	歓待と敵意
第 12 回	ケアと贈与 (3)	被介護者による「浮気幻想」と「泥棒幻想」の意味するもの
第 13 回	ケアと贈与 (4)	子供が選択できずに与えられるもの：オヤガチャ
第 14 回	まとめと試験	復習と解説、そして試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との関係に照らし合わせて、よく考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業でプリントを配布

【参考書】

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレーカ)

上野千鶴子『ケアの社会学 当事者主権の福祉社会へ』(太田出版)

マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)

キャロル・キリガン『もうひとつの声で 心理学の理論とケアの倫理』(風行社)

クロボトキン『相互扶助論』(同時代社)

平川克美『俺に似たひと』(医学書院)

平川克美『21世紀の楕円幻想論』(ミシマ社)

広井良典『ケア学』(医学書院)

最首悟『星子が居る』(世織書房)

立岩真也『弱くある自由へ』(青土社)

ベナー/ルーベル『現象学的人間論と看護』(医学書院)

毎日新聞大阪社会部取材班『介護殺人』(新潮文庫)

森村修『ケアの倫理』(大修館書店)

森村修『ケアの形而上学』(大修館書店)

ミルトン・メイヤロフ『ケアの本質』(ゆみる出版)

鷲田清一『〈聴く〉ことの本質 - 臨床哲学試論』(ちくま学平文庫)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と学期末の試験 (70%)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

PHL200BB

社会思想 1 (社会学概論) 2

岩野 卓司

授業コード：A2265 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしていく。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今期のテーマは「借り」である。「借りること」は私たちの日常ではごく当たり前の現象である。私たちは図書館で本を借りたり、友達からノートを借りたり、人からお金を借りたりする。そしてその場合、必ず「返す」ことが前提になっている。未開社会の贈与と交換も貸し借りであるし、商業的な交換でも同時決済であろうとクレジットの決済であろうと貸し借りの論理を前提している。現代の資本主義も、企業が銀行から資金を借りることで成立している。そのみならず、「借り」は精神的な価値を伴う。「貸し手」は「借り手」に対して精神的に優位に立つし、返せない場合は「借り手」は罪悪感を覚える。負債と負い目は密接な関係にあるのだ。授業ではこの「借り」を主に贈与と交換との関係から考えていき、次の5つのテーマを検討していく。(1) 負債(借金)というかたちで、「借り」がどのように資本主義の原動力となっているのか。(2) 負債と負い目という形での「借り」がもつ物質的価値と精神的価値が「贈与と交換」や道徳にどう影響を与えているのか。(3) 人間は生まれながらにして根源的な「借り」を背負っているのではないのか。原罪はどうだろうか。母との関係はどうだろうか。(4) 臓器移植のように相手に「お礼」ができないときに背負う「借り」はどう解消すべきなのか。「返す」ことのできない「借り」はどう考えるべきか。(5) 人から受けた恩は返すものではなく、他の人に「送る」べきではないのか。「借り」は贈与の連鎖を生み出すのではないのか。

授業では、これらのテーマを通して、「借り」と共同体についての理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	共同体における借りと贈与
第2回	借りとは?	マルセル・モース『贈与論』もにおける贈与と借りの関係
第3回	ボトラッチ：いかに借りを作らないかの勝負	マルセル・モース『贈与論』におけるボトラッチの分析
第4回	資本主義とキリスト教	キリスト教はどう資本主義の足かせとなっていたのか。しかし、時代が経つにつれてどう資本主義の発展を促したのか。
第5回	資本主義の交換 VS 慈愛と友情の贈与論。	シェイクスピア『ヴェニスの商人』の分析
第6回	サラ金の地獄	宮部みゆき『火車』から
第7回	負債と負い目	ニーチェ『道徳の系譜』：宗教と道徳の起源における負債
第8回	根源的な借り	原罪とは? フロイトのトーテム論
第9回	根源的な借り(2)	母と子の関係、母の暴力性
第10回	返せない贈与	臓器移植の場合
第11回	贈与の連鎖	「恩送り」の原理：「返す」のではなく「送る」こと
第12回	贈与が贈与を呼ぶ!	ベイ・フォワード：カルマ・キッチンなど
第13回	贈与が贈与を呼ぶ!(2)	クルミド・コーヒー店の冒険
第14回	まとめと試験	復習と解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との

関係を照らし合わせて、よく考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業でプリントを配布

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)

岩野卓司『贈与をめぐる冒険 新しい社会をつくるには』(ヘウレーカ)

【参考書】

マルティン・ハイデッガー『存在と時間』(岩波文庫)

岩野卓司編『共にあることの哲学』(書肆水木)

フリードリッヒ・ニーチェ『道徳の系譜』(岩波文庫)

マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)

宮部みゆき『火車』(新潮社)

ナタリー・サルトルー＝ラジュ『借りの哲学』(太田出版)

ウイリアム・シェイクスピア『ヴェニスの商人』(新潮文庫)

デヴィッド・グレーバー『負債論』(以文社)

マウリツィオ・ラッツァラート『〈借金人間〉製造工場』(作品社)

山崎吾郎『臓器移植の人類学』(世界思想社)

クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』(青弓社)

小島庸平『サラ金の歴史』(中公新書)

平川克美『株式会社の世界史』(東洋経済新報)

三好春樹・芹沢俊介『老人介護とエロス』(雲母書房)

芹沢俊介『現代(子ども)暴力論』(春秋社)

今村仁司『貨幣とは何だろうか』(ちくま新書)

影山知明『ゆっくり、いそげ』(大和書房)

吉本隆明『母型論』(思潮社)

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と学期末の試験(70%)

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。哲学や社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this. Your overall will be credited based on the following Term-end examination 70% and in class contributions 30%.

PHL200BB

社会思想2（社会思想史）1

政井 啓子

授業コード：A2266 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史である。

春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから18世紀までの基本的な諸思想を学ぶ。

古代ギリシャから近世まで、哲学者たちは「自然本来の不変な秩序」を探求していた。この「不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、また人間社会での、真偽、正不正、美醜善悪などを区別するための基盤となるものでもある。探究の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なり、また「人間に認識可能な不変な秩序というものは無い」という懐疑的思想もある。このような探究に基づいて、哲学者たちは多様な世界観と人間観を提示し、様々な望ましい社会のあり方を考案した。

本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ、常識や教科書的な通説とされる事柄を疑ってみるものの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようにすることを旨とする。

【到達目標】

(1) 学生が、古典思想を学ぶことを通して、論理的な思考法と、「理想的な社会」についての基本的な諸研究を理解する。

(2) 学生が、現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養い、自分の考えをできるだけ明確にして、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式でおこない、毎回、授業のレジュメと資料を配布する（学習支援システムを使用）。受講生には、授業の後、リアクションペーパー（質問、感想、意見）を提出してもらい、次回の授業で、質問に答え、感想や意見の中からいくつか選んで紹介する（学習支援システムを使用）。

オンライン授業は Zoom 使用（リアルタイム）でおこなう。

☆学習支援システムの「お知らせ」を毎回確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概説	古代から近代までの社会思想の概観。レポートに関する説明。
第2回	古代ギリシャの民主制社会における思想	「自然本来の不変な秩序」と「人間の法の法」との関係
第3回	プロタゴラスの思想（人間は万物の尺度である）	道徳的相対主義と民主制
第4回	ソクラテスの思想	愛知の精神
第5回	プラトンの思想 1	イデア論
第6回	プラトンの思想 2	理想の「国家」と民主制
第7回	アリストテレスの思想	人間の幸福
第8回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第9回	ルネサンスの思想と科学革命	古代哲学の復興。「自然」の探究
第10回	デカルトの思想	「私は考える、ゆえに私は在る」、自然科学の基礎付け
第11回	科学の制度化	「科学研究（自然科学の探究）」と「技術研究」と社会制度
第12回	近代の自然法思想	社会契約説
第13回	道徳哲学の2潮流	利己主義と利他主義
第14回	モラルセンス説の展開	ヒュームとアダム・スミスの思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、予習と復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『社会思想史』（法政大学通信教育部 発行）。プラトンやアリストテレスなどの哲学者の著作。その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポートと、数回の小レポートを提出。大体の目安としては、期末レポート 35%、小レポート 25%、毎授業後のリアクションペーパー 40%。詳しいことは、最初の授業の時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

板書や配布資料を工夫して、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the 18th century, to students taking this course.

From ancient Greece to the 18th century, philosophers sought "the constant and unchanging order of nature." This unchangeable order of nature is also the basis for discriminating between right and wrong, good and evil, etc. in human society. Through such quests, philosophers expressed diverse opinions about the world and human beings, and devised various ideal social systems.

(Learning Objectives)

(1) The goals of this course are for students to understand logical thinking, and recognize researches on "ideal society", by learning classical philosophy.

(2) At the end of this course, students are expected to be able to calmly analyze various problems in modern society, clarify their thoughts and express them in logical sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (35%), Short reports (25%), and Reaction papers (40%).

PHL200BB

社会思想 2 (社会思想史) 2

鈴木 由加里

授業コード：A2267 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】

社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについての確かな情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようにすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、PowerPoint を使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート(リアクションペーパー)作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。

また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形の講義形式になる。

【遠隔授業の場合】

PowerPoint ファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Google のシステム、ハンアウトを利用。課題は、Hoppii のシステムを利用して個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。

「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。

動画の視聴可能期間は、1 週間。課題提出も 1 週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換(自由参加)は、水曜日 4 限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。

なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第 2 回	社会思想とはどのような学問か？(概論)	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第 3 回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第 4 回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第 5 回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第 6 回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？第二波フェミニズムの日本への影響について。

第 7 回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第 8 回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第 9 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第 10 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第 11 回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第 12 回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第 13 回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第 14 回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。

授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成したデータをレジュメの形で、教室内で配布。遠隔授業の場合は学習支援システム「教材」に PDF ファイルもしくは jpg ファイルの形でアップロードする。

【参考書】

『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子(編集)、金井 淑子(編集) 新曜社(1997/09)

『フェミニズムの歴史』ジャン・ラボー著 加藤康子訳新評論(1987/10)

『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』鹿野政直 有斐閣(2004/07)

『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』水田珠枝 筑摩書房(1994/05)

『フェミニズム(思考のフロンティア)』竹村和子 岩波書店(2000/10/20)

その他授業時、レジュメなどで参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」で出題されるレポート課題すべてを提出すること。単位取得条件は、課題をすべて提出すること。

成績評価は、課題提出の回数 × 取得点数/100 = 総合点数 → 100 点換算して成績評価

レポート・テストは各回 10 点満点

* 課題の回数は対面授業の場合と遠隔授業になった場合では異なるので開講時に具体的な課題の数を提示する。

【学生の意見等からの気づき】

一部対面授業を行ったが、ハイブリット授業には機材の操作などは補助がなくても一人でこなすことは難しい。授業動画配信の場合、各学生が確実に視聴していることを確認する必要がある。対応策を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐えうる情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】

この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討して欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought. "Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality. This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to gain knowledge about feminism as a social thought and write essays on modern gender issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read references and materials to see what knowledge they lack and supplement themselves.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 80%, in class contribution: 20%

LIN200BB

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題 1,2 の解説 第3課～第5課の説明 引用句 1	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題 3,5,7 の解説 第6課～第8課の説明 引用句 2,3	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題 9,11,13 の解説 第9課～第11課の説明 引用句 4,5	名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形
第5回	練習問題 15,17,19 の解説 第12課～第14課の説明 引用句 6,7	前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum, possum の変化 i 音幹名詞
第6回	練習問題 21,23,25 の解説 第15課～第17課の説明 引用句 8,9	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題 27,29,31 の解説 第18課・第19課の説明 引用句 10	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題 33,35 の解説 第20課・第21課の説明 引用句 11,12	動詞受動相 (受動態) 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題 37,39 の解説 第22課・第23課の説明 引用句 13,14	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題 41,43 の解説 第24課・第25課の説明 引用句 15	動詞完了、過去完了、未来完了受動相 (受動態) 動詞の主要部分、volo nolo, malo の変化
第11回	練習問題 45,47 の解説 第26課・第27課の説明 引用句 16	名詞第四、第五活用 能動相 (能動態) 欠如動詞、fio, fero の変化
第12回	練習問題 49,51 の解説 第28課・第29課の説明 引用句 17,18	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題 53,55 の解説 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分（または1課分）の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明 引用句 19,20	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 の解説 第32課・第33課の説明 引用句 21	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 の解説 第34課・第35課の説明 引用句 22,23	事実と反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 の解説 第36課・第37課の説明 引用句 24	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 の解説 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 の解説 第40課・第41課の説明 文例 1	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞 バエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
第7回	練習問題 77,79 の解説 第42課・第43課の説明 引用句 25,26 文例 2	奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級 バエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
第8回	練習問題 81,83 の解説 第44課・第45課の説明	形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題 85,87 の解説 第46課・第47課の説明 引用句 27	動名詞 動形容詞
第10回	練習問題 89,91 の解説 第48課の説明 文例 3 文例 4	動名詞の代わりに用いられる動形容詞 カエサル『ガリア戦記』を読む。 キケロ『善と悪の究極について』を読む。
第11回	練習問題 93,95 の解説 第49課・第50課の説明 引用句 28	命令法 能動相欠如動詞の命令法、主文における接続法
第12回	練習問題 97,99 の解説 第51課の説明 引用句 29 文例 5	目的分詞 デカルト『省察』を読む。
第13回	文例 6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に学んだ文法事項が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらった練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んでも理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回2課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

今年度は隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、氣息記号
第 2 回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第 3 回	動詞、名詞変化 1	3. 動詞現在形
第 4 回	動詞、名詞変化 2	4. 名詞 A 変化 1 5. 名詞 A 変化 2
第 5 回	動詞、名詞変化 3	6. 動詞未来形 7. 名詞 A 変化 3
第 6 回	動詞、名詞変化 4	8. 名詞 A 変化 4 9. 動詞、未完了過去
第 7 回	形容詞変化と前置詞	10. 名詞 O 変化 11. 形容詞変化（第一・第二変化） 12. 前置詞
第 8 回	動詞変化 5	13. 動詞アオリスト 14. 動詞完了形
第 9 回	指示代名詞・強意代名詞、人称語尾 1	15. 指示代名詞、強意代名詞 16. 本時称の人称語尾
第 10 回	人称語尾 2、動詞変化 6(mi 動詞)	17. 副時称の人称語尾 18.mi 動詞
第 11 回	疑問代名詞・不定代名詞、動詞変化 7	19. 疑問代名詞、不定代名詞 20. 動詞中動相
第 12 回	人称代名詞、動詞変化 8	21. 人称代名詞 22. 動詞中動相 2

第 13 回	再帰代名詞、動詞変化 9	23. 再帰代名詞その他 24. 動詞第 2 アオリスト
第 14 回	動詞変化 10 受動形、名詞変化 5 第三変化	25. 動詞受動形 26. 第三変化の名詞 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 3～4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following. Usual performance score : 30% , Submit assignment : 70%.

LIN200BB

ギリシア語2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようにすることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回2課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

今年度は隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第 2 回	約音動詞と第三変化の名詞 2	27. 約音動詞 1 28. 第三変化の名詞 2
第 3 回	約音動詞 2、動詞中動相	29. 約音動詞 2 30. 動詞完了形 2、中動相
第 4 回	第三変化の形容詞、流音幹動詞	31. 第三変化の形容詞 1 32. 流音幹動詞
第 5 回	第三変化の名詞、動詞接続法	33. 第三変化の名詞 3 34. 動詞接続法
第 6 回	動詞接続法、母音交替	35. 接続法中・受動 36. 母音交替
第 7 回	条件文、約音動詞	37. 条件文 38. 約音動詞
第 8 回	不定法 1,2	39. 不定法 1 40. 不定法 2
第 9 回	第三変化の名詞 4、関係代名詞	41. 第三変化の名詞 4 42. 関係代名詞
第 10 回	動詞希求法 1,2	43. 動詞希求法 44. 動詞希求法 2
第 11 回	第三変化の形用詞、約音動詞希求法	45. 第三変化の形容詞 2 46. 約音動詞の希求法
第 12 回	第三変化の名詞、分詞	47. 第三変化の名詞 5 48. 分詞 1

第 13 回	分詞、第三変化の名詞	49. 分詞 2 50. 第三変化の名詞 6
第 14 回	分詞 3、形容詞の比較、まとめ	51. 分詞 3 52. 形容詞の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、練習問題の解答のための学習時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 3～4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しらしい。オンラインの場合は制約もあるが、むしろ、じっくり取り組めたと思う。基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船と一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following, Usual performance score : 30% , Submit assignment : 70%.

BSP100BC

大学での国語力

伊海 孝充、佐藤 未央子、坂本 勝、中丸 宣明、小林 ふみ子、遠藤 星希、藤村 耕治、加藤 昌嘉、阿部 真弓

授業コード：A2413, A2414, A2415, A2416, A2417, A2418, A2419, A2420, A2421, A2422, A2423 | 曜日・時限：A3/Mon.3, A4/Mon.4, C1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research. The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism. 大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search the books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignments and learning attitude in class(60%), term-end report (40%).

1. 授業への積極的な参加（課題提出も含む）：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 最終レポートの出来：40% ※課題の未提出がある場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（10クラス開講）。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of assignments (30%), term-end report (70%).

LIT100BC

日本文学概論A

遠藤 星希他

授業コード：A2401 | 曜日・時限：土 2/Sat.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の2回目の授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	遠藤星希「ガイダンス」
2	近現代文学	中沢けい「アジアの中の日本現代文学」
3	近現代文学	中沢けい「活版印刷からデジタル技術へ」
4	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
5	近現代文学	藤村耕治「研究と批評」
6	近現代文学	中丸宣明「近代文学の形成」
7	近現代文学	中丸宣明「フォローアップ」
8	近世文学	小林ふみ子「近世文学の多様性（1）ーことば・文体ー」
9	近世文学	小林ふみ子「近世文学の多様性（2）ー本文と挿絵ー」
10	能楽	伊海孝充「能が描く空間（1）」
11	能楽	伊海孝充「能が描く空間（2）」
12	中古文学	阿部真弓「日記文学の魅力」
13	中古文学	阿部真弓「本歌取り・物語取りの面白さ」
14	まとめ	遠藤星希「春学期のまとめ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の2回目の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、2回目の授業で課題を出します。定められた期限内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）
2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

Learning Objectives: The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIT100BC

日本文学概論 A

遠藤 星希他

夜間時間帯

授業コード：A2402 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文学概論 A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜 2 限か水曜 6 限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の2回目の授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	遠藤星希「ガイダンス」
2	近現代文学	中沢けい「アジアの中の日本現代文学」
3	近現代文学	中沢けい「活版印刷からデジタル技術へ」
4	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
5	近現代文学	藤村耕治「研究と批評」
6	近現代文学	中丸宣明「近代文学の形成」
7	近現代文学	中丸宣明「フォローアップ」
8	近世文学	小林ふみ子「近世文学の多様性（1）ーことば・文体ー」
9	近世文学	小林ふみ子「近世文学の多様性（2）ー本文と挿絵ー」
10	能楽	伊海孝充「能が描く空間（1）」
11	能楽	伊海孝充「能が描く空間（2）」
12	中古文学	阿部真弓「日記文学の魅力」
13	中古文学	阿部真弓「本歌取り・物語取りの面白さ」
14	まとめ	遠藤星希「春学期のまとめ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の2回目の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6名の教員が、それぞれ、2回目の授業で課題を出します。定められた期限内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）
2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

Learning Objectives: The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC

日本文芸学概論 B

遠藤 星希他

授業コード：A2403 | 曜日・時限：土 2/Sat.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、7名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の2回目の授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える（1）」
2	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える（2）」
3	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（1）」
4	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（2）」
5	中世文学	小秋元段「大学で学ぶ古典文学—『平家物語』—」
6	中世文学	小秋元段「古典文学の常識を疑う—『徒然草』—」
7	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（1）」
8	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（2）」
9	中国文学	遠藤星希「李白「静夜思」を読む」
10	中国文学	遠藤星希「白居易「長恨歌」を読む」
11	上代文学	坂本勝「上代文学の世界（1）」
12	上代文学	坂本勝「上代文学の世界（2）」
13	近現代文学	佐藤未央子「近代文学と映画の交流（1）」
14	近現代文学	佐藤未央子「近代文学と映画の交流（2）」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の2回目の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

7名の教員が、それぞれ、2回目の授業で課題を出します。定められた期限内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）
2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなるとと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

Learning Objectives: The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC

日本文学概論 B

遠藤 星希他

夜間時間帯

授業コード：A2404 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

- ①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。
- ②各専門分野の研究方法を理解する。
- ③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、7名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の2回目の授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える（1）」
2	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える（2）」
3	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（1）」
4	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎（2）」
5	中世文学	小秋元段「大学で学ぶ古典文学—『平家物語』—」
6	中世文学	小秋元段「古典文学の常識を疑う—『徒然草』—」
7	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（1）」
8	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器（2）」
9	中国文学	遠藤星希「李白「静夜思」を読む」
10	中国文学	遠藤星希「白居易「長恨歌」を読む」
11	上代文学	坂本勝「上代文学の世界（1）」
12	上代文学	坂本勝「上代文学の世界（2）」
13	近現代文学	佐藤未央子「近代文学と映画の交流（1）」
14	近現代文学	佐藤未央子「近代文学と映画の交流（2）」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の2回目の授業を受講した後、定められた期限内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

7名の教員が、それぞれ、2回目の授業で課題を出します。定められた期限内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）
2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

Learning Objectives: The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports submitted for each class (80%).

LIN100BC

日本語学概論 A

間宮 厚司

授業コード：A2409 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語に関する知識を幅広く修得し、応用のきく考える力を多方面から養います。沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』の言語を大和古語と比較することで、問題の立て方、資料の集め方、論の組み立て方、書き方についても学びます。その他、日本語の興味深い点について、いろいろと紹介します。

【到達目標】

この授業は、1年生から履修できる日文の必修科目ということで、日本語を様々な角度からよく観察し、客観的に分析する方法を学ぶことによって、日本語学への理解を深め、その魅力を知ることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はプリントとテキストを併用して進めます。前半は、プリントで具体例を示しながら、身近な日本語の意外に知られていない面を受講生と共に考えます。後半は、テキストを用いて、沖縄方言の古い姿を大和古語と比較することで、語源・文法・表記について丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	沖縄古語の語源（1）	グスク（城）の語源
第 3 回	沖縄古語の語源（2）	テダ（太陽）の語源
第 4 回	沖縄古語の語源（3）	オモロ（神歌）の語源
第 5 回	沖縄古語の語源（4）	アヂ（按司）の語源
第 6 回	沖縄古語の語源（5）	ミルヤ・カナヤ（神観念語）の語源
第 7 回	沖縄古語の語源（6）	アマミヤ・シネリヤ（神観念語）の語源
第 8 回	沖縄古語の語源（7）	オボツ・カグラ（神観念語）の語源
第 9 回	沖縄古語の語源（8）	ヂャウ（門）とウリズン（季節語）の語源
第 10 回	沖縄古語の文法（1）	係り結びの種類と用法
第 11 回	沖縄古語の文法（2）	形容詞の種類と用法 自称名詞ア・ワ（我）
第 12 回	沖縄古語の表記（1）	助詞ガの表記 助詞テの表記と語積
第 13 回	沖縄古語の表記（2）	類推表記をめぐって 助詞ハの表記・発音
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『沖縄古語の深層 [増補版]』（森話社、2014 年、1900 円＋税）

【参考書】

山口佳紀編『暮らしのことは新 語源辞典』（講談社、2008 年、4500 円）
山口伸美編『暮らしのことは 擬音・擬態語辞典』（講談社、2003 年、3800 円）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験よりレポートにしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this lecture, we will use the textbook shown in the list. The lectures introduce issues of Japanese language.

Learning Objectives: This class is a compulsory subject for the Department of Japanese Literature and it can be taken from freshman level. Students observe Japanese from different perspectives and analyze it objectively, so that they can deepen their understanding of Japanese linguistics and get to know its appeal.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: usual performance score (based on reaction paper comments, opinions, and questions at each class meeting, 50%); regular exam (50%).

LIN100BC

日本語学概論 A

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2410 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「日本語学概論」の概要
第 2 回	ことばの常識を疑う	言語についての常識
第 3 回	言語学とは？	言語の学問
第 4 回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第 5 回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第 6 回	心とことばの関係は？	心理言語学
第 7 回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第 8 回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第 9 回	「方言」とは？	地域方言学
第 10 回	ことばの世代差とは？	年齢差の社会方言学
第 11 回	ことばのジェンダーとは？	ジェンダーの社会方言学
第 12 回	ことばの比喩とは？	レトリック・比喩論
第 13 回	対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
 斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
 その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
 （ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields, such as the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), and sociology of language (sociolinguistics).

Learning Objectives: The goals of this course are to introduce students to different perspectives on language issues.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports (70%); term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIN100BC

日本語学概論 B

尾谷 昌則

授業コード：A2411 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

言語学には様々な領域があるが、本講義では主要な領域となる音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野を概観する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the basic terms of each area, and (2) to acquire the ability to explain them with proper examples to other people.

- ①言語学の各領域における基礎概念・用語を理解する。
- ②その概念について具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

▼パワーポイントのスライドを用いて、様々なことばの問題・具体例を示しながら、それが言語学でどのように分析されているのかを紹介する。見解が分かれるような問題も取り上げるので、受講生にも意見を述べてもらう機会が多くなると思われる。その際は遠慮無く発言してほしい。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を併用する。その場合は、学習支援システムを通じて「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼リアクションペーパー等における良いコメントは次回の授業内で紹介してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	外国語としてみた日本語
第 2 回	音韻論	音素、異音、音脱落、音添加など
第 3 回	形態論 (1)	形態素と語構成
第 4 回	形態論 (2)	連濁と複合語の意味
第 5 回	統語論 (1)	品詞と活用
第 6 回	統語論 (2)	文の要素と文法
第 7 回	統語論 (3)	4つの文法カテゴリー
第 8 回	意味論 (1)	語彙の意味
第 9 回	意味論 (2)	品詞の意味と文法
第 10 回	意味論 (3)	意味と認知
第 11 回	語用論 (1)	意味論から語用論へ
第 12 回	語用論 (2)	会話の含意
第 13 回	語用論 (3)	敬語と待遇表現
第 14 回	まとめ	半期の講義を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回独自のプリントを配布する。

【参考書】

- 『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか、朝倉書店）
- 『言語学大辞典』（三省堂）
- 『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
- 『日本語学研究事典』（飛田良文ほか、明治書院）
- 『日本語用論のしくみ』（加藤重広、研究社）
- 『日本語音声学のしくみ』（猪塚元・猪塚恵美子、研究社）
- 『認知意味論のしくみ』（棚山洋介、研究社）
- 『日本語文法のしくみ』（井上優、研究社）
- 『日本語学のしくみ』（加藤重広、研究社）
- 『言語学のしくみ』（町田健、研究社）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

リアクションペーパー：50 %

期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

具体例が多く分かりやすいとの意見が多いが、スライドの進行が早いとの苦情もあった。しかし、スライドを全て丸写しするのではなく、要領良くまとめてノートをとる練習もしてほしいので、早すぎず遅すぎずというスピード感を保てるよう注意したい。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to understand the basic terms of each area, and (2) to acquire the ability to explain them with proper examples to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

LIN100BC

日本語学概論 B

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2412 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～3 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第 2 回	「ことば」を考えるととは？	ことばの学問
第 3 回	ことばの様々な側面とは？	言語学の射程
第 4 回	言語学の隣接領域とは？	学際分野としての言語学
第 5 回	コミュニケーションとは？	語用論・コミュニケーション論
第 6 回	ことばの意味とは？	意味論
第 7 回	文法とは？	文法論
第 8 回	文の構造とは？	統語論
第 9 回	単語とは？	形態論
第 10 回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第 11 回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第 12 回	ことばの相違性をどう考えるか？	言語類型論
第 13 回	ことばの共通性をどう考えるか？	言語普遍論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、(質問も歓迎するが) 図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
 斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
 斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
 その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
 (ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。)

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

同科目Aを履修済みであることが望ましい。(必須ではない。)

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics).

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports (70%); Term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIT200BC

日本文芸史 I A

坂本 勝

授業コード：A2405 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

【到達目標】

(A) 古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。(B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。(C) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	授業概説
第2回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第3回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第4回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第5回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第6回	『古今和歌集』	文 g 餉う詩における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第7回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第8回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第9回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第10回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第11回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第12回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第13回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第14回	春学期総括、試験、まとめ。	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国語教育プロジェクト『ビジュアル資料 原色シグマ新国語便覧 増補三訂版』（文英堂）

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、各回のリアクションペーパーなど、授業への参加度（40%）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個々の作品について理解することだけでなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

【Outline (in English)】

Course Outline: This is a lecture course on the history of Japanese literature from the Nara period (710-794) to the Heian period (794-1185). Students will read histories, poetry anthologies, diaries, and stories of these periods, and learn various research methods for approaching classical literature.

Learning Objectives: The objectives of this course are: 1. to learn about the formation, structure, expression, and background of classical literature; 2. to learn about perspectives and methods for researching classical literature; and 3. to understand classical literature in its historical and cultural context.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the listed textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Evaluation will be based on a report exam (60%) and participation in class (40%), including reaction papers for each session.

LIT200BC

日本文学史 I A

加藤 昌嘉

夜間時間帯

授業コード：A2406 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆上代（奈良時代）～中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）に作られた、歌集・日記・物語を読み、文学史を俯瞰します。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学びます。そして、今も議論が続き、定説が更新されつつある、《研究史上の未解決問題・論争点》を考察してゆきます。

※「日本文学史 I A・B」は、日本文学科 2～3 年次、全コースの“必修科目”です。火曜 6 限（加藤 & 小林）クラスか、水曜 2 限（坂本 & 阿部）クラス、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】

◆以下の 3 点を目標とします。

(A) 古典文学の成立・構成・表現などを学ぶ。

(B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。

(C) 古典文学を、歴史の流れの中で捉える目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

◆受講者からの疑問やアイディアは、授業内でフィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	定説は更新される
2	『竹取物語』	複数種類の竹取説話
3	『伊勢物語』	在原業平の実体験？
4	『古今和歌集』	どのように配列しているか？
5	ブックデザイン	写本・版本の形態
6	『源氏物語』	成立の謎
7	『源氏物語』	長編のからくり
8	『蜻蛉日記』『更級日記』	日記？ 自伝？ 物語？
9	『枕草子』	誰のために？ 何のために？
10	『大鏡』	歴史物語とは何か？
11	『日本霊異記』『今昔物語集』	教訓？ 笑い話？
12	『新古今和歌集』	前衛的言語実験
13	『百人一首』『百人秀歌』	編纂プロセスの謎
14	『平家物語』	結末＝最終巻はどれ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業中に紹介された本を、図書館や書店で入手し、読んでみてください。

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆以下の国語便覧を教科書とします。歴史や文化を知るためのビジュアルハンドブックです。高校国語で教えられてきた常識が、最新の研究でどれくらい更新されたのか、この本で確認します。

◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）

【参考書】

◆以下のシリーズには、古典文学の原文と現代語訳が収められています。

◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）

◎講談社学術文庫（講談社）

◎新潮日本古典集成（新潮社）

◎新編日本古典文学全集（小学館）

◆以下の全集には、現代の作家による古典の現代語訳が収められています。

◎池澤夏樹個人編集『日本文学全集』（河出書房新社）のうち、01 巻～12 巻。

◆以下のデータベースで、古典文学の原文・現代語訳を読むことができます。

◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」から入る → 自宅の場合は VPN 接続をする → ログインする → 「ジャパンナレッジ Lib」に入る → 「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」

【成績評価の方法と基準】

◆中間レポート（36%）、期末レポート（36%）、各回のリアクションペーパー（28%）。

※レポートは、課題を選んで小論文を書くものです。

※リアクションペーパーには、疑問やアイディアなどを書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

◆古典文学だけでなく、現代の文学や海外の文学も、積極的に取り上げます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course provides an overview of the history of literature by reading poetry anthologies, diaries, and stories produced during the Nara (8th century), Heian (8th-12th centuries), and Kamakura (12th-14th centuries) periods. At the same time, students learn various research methods to approach classical literature. We will examine "unresolved issues in the history of research" that are still being debated and the theories that are still being updated.

Learning Objectives: The goals of the course are the following three points:

- To understand the formation, composition, expression, etc. of classical literature.

- To understand the viewpoints and methods for studying classical literature.

- To learn to view classical literature in the context of historical trends.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a mid-term report (36%), a final report (36%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC

日本文芸史 I B

阿部 真弓

授業コード：A2407 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史を考察します。

時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、芸能も含まさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

【到達目標】

- (A) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
- (B) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	中世 1	和歌・連歌
第 3 回	中世 2	説話
第 4 回	中世 3	随筆
第 5 回	中世 4	日記文学・紀行文
第 6 回	中世 5	軍記物語
第 7 回	中世 6	中世王朝物語・お伽草子
第 8 回	近世 1	仮名草子
第 9 回	近世 2	近世前期～中期・上方の小説
第 10 回	近世 3	俳諧・和歌・狂歌
第 11 回	近世 4	演劇
第 12 回	近世 5	近世中期・江戸の小説
第 13 回	近世 6	近世後期・江戸の小説
第 14 回	まとめ	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を覚えているうちに復習して課題に取り組み、次の授業およびレポート執筆に備えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付します。

【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（35%）、学期末レポート（35%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】(A)(B)に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにします。

文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

受講生からの質問をできるだけ取り上げ、疑問点を解消できるよう努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Japanese literature from medieval (late12th-16th c.) to early modern (17th-early 19th c.) times.

Learning Objectives: The goals of this course are to understand Japanese classical literary works in their historical and cultural context.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term report (35%); Term-end report: (35%); Short reports (30%).

LIT200BC

日本文芸史 I B

小林 ふみ子

夜間時間帯

授業コード：A2408 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】中世後半～近世（鎌倉時代末～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、韻文・散文、さらに芸能も含むさまざまなジャンルの特徴について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解し、その文体にも触れます。有名作品を紹介していくだけでなく、近代文学が生まれてくるまで約 500 年間にわたる文学のダイナミズムを学びましょう。

【到達目標】

(A) 中世・近世文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
(B) 中世・近世文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と資料（デジタル）に触れてもらう時間、皆さん自身に作品を読解してもらう時間を交互に交えながら展開します。わかったこと、考えたこと Hoppii に 1 日以内に書き込んでもらい（リアクションペーパー）、フィードバックしながら進めるだけでなく、双方向を確保できるように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『徒然草』が拓く世界 - 中世 1	鎌倉時代の末の成立ののち実は江戸時代になって広く読まれるようになった『徒然草』の影響を探ります。
第 2 回	武者たちの物語の展開 - 中世 2	室町時代の軍記物語『太平記』に触れ、その英雄たちがその後の文芸や芸能のなかで活躍するさまを見てみましょう。
第 3 回	昔話の由来 - 中世 3	「御伽草子」として知られる一群の作品について学び、昔話とのつながりを確認します。
第 4 回	漢詩と和歌（1） - 中世から近世へ 1	日本文学史を貫く重要ジャンルである漢詩と和歌が中世～近世前半にどのように展開したのかを学びます。かの一休も登場！
第 5 回	連歌と俳諧 - 中世から近世へ 2	和歌の席の遊戯として始まった連歌と、そこから派生した俳諧が近世文芸の重要ジャンルとして確立するまでを学びます。
第 6 回	近世小説のはじまり - 近世 1	太平の世を迎えて出版を通じて文学が流通し始める時代、どんな文学が生まれ出されたのか、その多様な展開に触れます。
第 7 回	「浮世」の楽しみ - 近世 2	17 世紀の末、大坂に西鶴が登場します。前代とは異なる画期性はどこにあるのか、その次世代の作者たちがどんな工夫で先人を乗り越えようとしたのかを見ていきます。
第 8 回	劇場の愉楽 - 近世 3	江戸時代らしい演劇として歌舞伎と人形浄瑠璃が発展します。双方を紹介しつつ、とりわけ人形浄瑠璃がどんな芸能なのかを理解します。
第 9 回	俳諧のその後、そして川柳 - 近世 4	芭蕉による俳諧の文芸性確立から以後の全国展開、そこから派生した雑俳・川柳が派生するさまを学びます。
第 10 回	詩心のゆくえ：漢詩と和歌（2） - 近世 5	江戸時代中期以後、漢詩や和歌も、近世らしい素材を扱う時代がやってきます。文芸思潮の展開と共に学びましょう。
第 11 回	世にも奇妙な物語：近世編 - 近世 6	浮世草子の時代から移りかわり『雨月物語』をはじめとする前期読本が生まれてくるさまをみてみましょう。
第 12 回	古典と戯れ、知で笑う：江戸の知識人文芸 - 近世 7	18 世紀なかば以降、知的なしなやかな富んだ笑いの文芸が江戸で流行します。黄表紙・洒落本・狂歌など、さまざまなジャンルに触れていきましょう。

第 13 回	落語はどのようにしてできたのか - 近世 8	江戸時代に入って以来、上方でも江戸でも作られてきた笑話集から落語ができるまでを概観します。
第 14 回	事件、冒険、恋、笑い：江戸庶民の世界 - 近世 9	読者層が拡大した 19 世紀、大衆に歓迎されるさまざまなジャンルが展開します。今日のエンタメにもつながるその諸相を学びましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後のリアクションペーパーに 10 分程度。4～5 回に 1 度、数回分の授業内容を踏まえたミニ・レポートを課しますので、毎回しっかり復習しましょう。本授業の準備学習 30 分程度、復習時間 3 時間程度を標準とします。中間・期末課題への取り組みで一コマあたり 4 時間になります。

【テキスト（教科書）】

各回、学習支援システムを通じて資料を配付します。

【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（Hoppii・採点対象）50%、4～5 回に 1 度計 3 回の小レポートで（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なにより、楽しかった、興味が持てたといってもらえるように、各ジャンルのエッセンスをお伝えします。中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成します。単なる知識の習得に終わらないよう、現物やデジタル資料ももちいて、文学＝書物のリアリティを体感できるように工夫します。文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは創作においても言語分析においても不可欠だからです。前向きに履修しましょう！

【その他の重要事項】

（通学の学生のみなさんへ）担当教員の専門が近世であることから、中世についてはのちの時代につながる、影響の大きいジャンルや作品を中心に扱います。中世を重点的に学びたい人は、水曜 2 限の阿部先生の日本文芸史 IB を選択することをオススメします。とはいえ、高校までの教科書では接点が限られていた近世文学の豊かな世界、きっと楽しめるはずですよ！

【Outline (in English)】

Course Outline: Learning the history of Japanese literature from the medieval (late 12th to 16th c.) to early modern (17th to early 19th c.) times in various genres.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn about each genre of the literature of the time, understanding them in the flow of their history.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. In addition, 3 short reports are required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

文学概論 A

中丸 宣明

授業コード：A2425 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	一年間の講義の概要
第 2 回	文学史の時代区分について	口承から写本へ
第 3 回	文学史の時代区分について 1	印刷から出版へ
第 4 回	文学史の時代区分について 2	IT 時代へ
第 5 回	文学史のダイナミズム 1	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 1
第 6 回	文学史のダイナミズム 2	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 2
第 7 回	文学史のダイナミズム 3	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 1
第 8 回	文学史のダイナミズム 4	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 2
第 9 回	文学史のダイナミズム 5	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 3
第 10 回	文学史のダイナミズム 6	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 1
第 11 回	文学史のダイナミズム 7	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 2
第 12 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 3
第 13 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 1
第 14 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということ肝に命ぜられし。本授業の準備学習・復習時間は、各 6 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

講義中に適宜指示。

Instructions during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60%）。および毎講義に提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（40%）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (60%), term-end report (40%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC

文学概論 B

中丸 宣明

授業コード：A2427 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の内容の確認と秋学期授業を聞く上での知識の確認。(春学期講義未受講者への対策指導あり)
第 2 回	メディア論 総論 1	メディアとは何か 1 リテラシーと都市
第 3 回	メディア論 総論 2	リテラシーの質
第 4 回	メディア論 書籍出版 1	仮名草子の世界
第 5 回	メディア論 書籍出版 2	江戸期の出版 1 洒落本系出版物の展開
第 6 回	メディア論 書籍出版 3	江戸期の出版 2 読本系出版物の展開
第 7 回	メディア論 書籍出版 4	江戸期の出版 3 草双紙系出版物の展開
第 8 回	メディア論 書籍出版 4	翻訳論—読本の伝統から 純文学の出發
第 9 回	メディア論 新聞 1	草双紙から小新聞へ
第 10 回	メディア論 新聞	新聞に付属する出版 大衆文学へ
第 11 回	メディア論 雑誌論	投稿雑誌
第 12 回	メディア論 雑誌論	文学雑誌へ／から
第 13 回	デジタルメディア論	IT 革命とは
第 14 回	デジタルメディア論	これからのメディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであると行うことを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

Instructions during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60%）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40%）。リアクションペーパーは単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (60%), term-end report (40%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ A

藤村 耕治

授業コード：A2429 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。

文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受することのできる基本的な力をも身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期 Semester では、明治初期から中期、日本近代文学の出発期の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品に当たりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しい。

授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、授業内で簡単なテストやレポートを随時書いてもらったりすることもあります。あるいは、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	明治日本の国家政策と文芸①	文明開化と啓蒙主義思想—福沢諭吉の思想
第 2 回	明治日本の国家政策と文芸②	江戸末期から明治に至る戯作文学の位置—馬琴から魯文まで
第 3 回	明治日本の国家政策と文芸③	漢詩文と政治小説
第 4 回	近代文学の出發・坪内逍遙①	『小説神髓』を読む
第 5 回	近代文学の出發・坪内逍遙②	『小説神髓』のテーマを考える
第 6 回	二葉亭四迷の挑戦①	二葉亭四迷「小説総論」と「浮雲」
第 7 回	二葉亭四迷の挑戦②	「浮雲」第一編を読む
第 8 回	二葉亭四迷の挑戦③	「浮雲」第二編・第三編を読む
第 9 回	二葉亭四迷の挑戦④	「浮雲」のテーマとはなにか
第 10 回	森鷗外の場合①	森鷗外の業績
第 11 回	森鷗外の場合②	「舞姫」を読む
第 12 回	森鷗外の場合③	「舞姫」のテーマを深掘りする
第 13 回	森鷗外の場合④	「浮雲」と「舞姫」を比較する
第 14 回	春学期のまとめ	近代文学の出發期についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとうよいでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー 70 %、学期末のレポート 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

文学史の学習は、ともすれば作家や作品の羅列的暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史知識とする為には、なるべく多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家・作品を読み進めていってほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

Learning Objectives: It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ A

矢澤 美佐紀

夜間時間帯

授業コード：A2430 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文芸の歴史を通して、現代につながる日本の近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。文学史的事実をただ機械的に覚えてもらうのではなく、主要箇所については具体的な作品に即しながら、その歴史的意義や現代社会との関わりなどについて理解することがテーマとなります。また、女性の文芸や視点から既成の文芸史を相対化させることを試みます。

【到達目標】

日本近現代文芸史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史においてもつ位置づけや意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。たんに受動的に講義を聞いていくのではなく、受講生各自がより多くの作品に触れ、解釈するための基本的な力を身につけ、多様で立体的な視点からものととらえる能力の育成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期では、日本が近代国家として歩み始めた明治期における文芸史の流れをたどります。上記の様々な問題について、できるだけ具体的に作品に即しながら考察します。授業時間内で多くの作品を読むことは不可能ですから、各テーマごとに読んでほしい文献を案内しますので、受講者はそれを積極的に読み進めてください。授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。途中、中間テストを実施します。また、作品への理解を補うために、適宜、関連する映像作品を鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	文明開化と啓蒙主義ー日本近代文学の成立について①
第 2 回	日本近代文学の成立について②	文明開化と戯作文学ー三遊亭円朝を参考に
第 3 回	日本近代文学の成立について③	国家政策と「国語」「標準語」の成り立ち
第 4 回	坪内逍遙と二葉亭四迷の言文一致運動	「小説神髓」「当世書生気質」「浮雲」を読む
第 5 回	坪内逍遙の挑戦と限界	「細君」を読む
第 6 回	中間テスト	5 回までの講義内容から出題
	樋口一葉の文学①	「十三夜」を読む
第 7 回	樋口一葉の文学②	「わかれ道」を読む
第 8 回	森鷗外の文学①	「舞姫」・続編「普請中」を読む
第 9 回	森鷗外の文学②	「半日」「波瀾」を読む
	一森しげを参考に	
第 10 回	島崎藤村と清水紫琴の文学	「こわれ指環」「移民学園」を読む
第 11 回	山田美妙と田澤稲舟の文学の文学	「胡蝶」「しろばら」を読む
第 12 回	夏目漱石の文学①	「こころ」を読む
第 13 回	夏目漱石の文学②	「明暗」を読む

第 14 回 試験・まとめと解説 授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にシラバスの各回の内容に沿って、指定した文学史の書物の該当部分に眼を通してください。おおよその流れを把握しておきましょう。毎回二時間を目安に予習するよう心がけてください。また、講義で身につけた知識を復習し、授業内で紹介したり読むことを指示した作品などをできるだけ多く読んで、自分の読解能力を向上させましょう。復習も毎回二時間を目安にしてください。

【テキスト（教科書）】

安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書、2015）をテキストに指定します。必ず購入してください。適宜、補足資料のプリントを配布します。読むべき作品などについても案内します。

【参考書】

文献は授業の初回と各回ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 70 %、授業内の中間テスト 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明します。また、ポイントを復習したりするなど十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

文芸史の学習は、作家や作品の羅列的な暗記や知識の単純な吸収などに陥りがちな印象があるかもしれません。もちろん、基礎知識を身につける学習は必須ですが、学んだことを自分の興味や関心に引きつけて生きた文学史的知識とするためには、できるだけ多くの作品にふれる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に限られますので、自ら進んで多くの作家に興味を持ち、多様な作品を読み進めてほしいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through a historical study the Japanese literature of the Meiji era, students will learn about the generation of modern Japanese literature, the relationship between literature and society, and literary consciousness and theory. The point of the course is not just to have students memorize historical facts mechanically, but to understand the historical significance of literature and relationship with modern society by referring to specific works. The course also attempts to relativize existing literary history from the perspective of women's literature.

Learning Objectives: The goal is not only to provide students with an overview of the modern history of Japanese literature, but also to enable them to think about the historical position and significance of individual writers and works in their own way. Rather than merely passively listening to lectures, students will be exposed to a great number of works, acquire the basic skills to interpret them, and develop the ability to perceive things from a variety of perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before class, students should read through the appropriate sections of the designated books on literary history according to the contents of each session of the syllabus. Students should have an approximate grasp of the flow of the course. Prepare for two hours each time. Review the knowledge you have acquired in the lectures and improve your reading comprehension by reading as many of the works introduced or assigned to read in class as possible. Allow two hours for review of each lecture. **Grading Criteria/Policy:** The grade will be determined based on an examination (70%) and an in-class mid-term test (30%), supplemented with appraisal of overall attitude toward the class.

LIT200BC

日本文芸史 II B

藤村 耕治

授業コード：A2431 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。

文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

A と同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。

授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で簡単なテストや小レポートを書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近現代文学の見取り	明治期の文芸史についての概括的な解説
第 2 回	硯友社の文学①	硯友社とは何か
第 3 回	硯友社の文学②	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む
第 4 回	浪漫主義の文学①	北村透谷の文学論
第 5 回	浪漫主義の文学②	北村透谷の恋愛論
第 6 回	浪漫主義の文学③	北村透谷と浪漫主義文学
第 7 回	女性作家の登場①	樋口一葉略伝
第 8 回	女性作家の登場②	樋口一葉「たけくらべ」を読む
第 9 回	女性作家の登場③	樋口一葉「たけくらべ」の文学史的位 置
第 10 回	自然主義前史	ゾラの自然主義と日本自然主義前史
第 11 回	自然主義文学①	島崎藤村「破戒」を読む
第 12 回	自然主義文学②	島崎藤村「破戒」の可能性
第 13 回	自然主義文学③	田山花袋「蒲団」を読む
第 14 回	自然主義文学④	自然主義から私小説へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通していただくことで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくといでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー 70 %、学期末のレポート 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

日本文芸史 II A と同じ。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

Learning Objectives: It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ B

矢澤 美佐紀

夜間時間帯

授業コード：A2432 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、大正期から現在に至る文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。文学史的事実をただ機械的に覚えてもらうのではなく、主要箇所については作品に即しながら、具体的にその歴史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。また、女性の文芸や視点から既成の文芸史を相対化させることを試みます。

【到達目標】

春学期と同様、単なる知識の習得ではなく、個々の作家や作品が日本近代の歴史において有する位置づけや意義を受講者が意識的に考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大正期から現代に至る日本近代の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的な作品を読みながら考えていきます。授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で感想を書いてもらったり、とりあげた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。復習の中間テストを実施します。また、作品への理解を補うために適宜関連する映像作品を鑑賞します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大正期の概観／大正文壇の成立	明治期との差異を考察
第 2 回	有島武郎の文学	「或女」を読む
第 3 回	『青鞥』の文学	平塚らいてうと伊藤野枝の作品を読む
第 4 回	芥川龍之介の文学	「藪の中」を読む
第 5 回	日本のモダニズム文学①	モダニズムの概観 梶井基次郎「檸檬」を読む
第 6 回	日本のモダニズム文学②	尾崎翠「第七官界彷徨」「歩行」を読む
第 7 回	中間テスト プロレタリア文学の実相①	6 回までの講義内容から出題 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、プロレタリア短歌等を読む
第 8 回	プロレタリア文学の実相②	松田解子「乳を売る」、佐多稲子「くれない」を読む
第 9 回	戦時下の文学 太宰治の場合	「右大臣実朝」を読む
第 10 回	戦後の文学 大江健三郎・倉橋由美子の場合	「個人的な体験」、「パルタイ」を読む
第 11 回	中上健次・津島佑子の文学	「枯木灘」「寵児」を読む
第 12 回	ポストモダンの時代 村上春樹・吉本ばななの場合	「ノルウェイの森」「キッチン」を読む

第 13 回 現代文学の多様性 「献灯使」「何者」「穴」「信仰」
多和田葉子・朝井リョウ「青かける青」を読む
ウ・小山田浩子・村田沙耶香・川上未映子の文学

第 14 回 試験・まとめと解説 授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本文芸史Ⅱ A に同じ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本文芸史Ⅱ A に同じ。

【参考書】

日本文芸史Ⅱ A に同じ。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 70 %、授業内の中間テスト 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明します。ポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

日本文芸史Ⅱ A に同じ。

【Outline (in English)】

Course Outline: Following on from the spring semester, this course will explain the establishment of modern Japanese literature and its diversifying literary contexts, while focusing on literary works from the Taishō period to the present. The point of this course is not to have students memorize historical facts mechanically, but to understand the historical significance of major works and their relation to the present day, while referring to them in concrete terms. The course also attempts to relativize existing literary history from the perspective of women's literature.

Learning Objectives: As in the spring semester, the goal is not merely to acquire knowledge, but to enable students to consciously consider the position and significance of individual authors and their works in modern Japanese history, and to read and understand literary works with attention to the background of the period and author.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before class, students should read through the appropriate sections of the designated books on literary history according to the contents of each session of the syllabus. Students should have an approximate grasp of the flow of the course. Prepare for two hours each time. Review the knowledge you have acquired in the lectures and improve your reading comprehension by reading as many of the works introduced or assigned to read in class as possible. Allow two hours for review of each lecture.
Grading Criteria/Policy: The grade will be determined based on an examination (70%) and an in-class mid-term test (30%), supplemented with appraisal of overall attitude toward the class.

LIT300BC

ゼミナール1 A

遠藤 星希

授業コード：A2615 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『唐詩選』精読】

『唐詩選』は、明代の李攀龍（1514 — 1570）が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 465 首の詩を収録）であり、江戸時代の日本で最もよく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『唐詩選』の中から比較的短い詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

1. 『唐詩選』についての基礎的な知識を習得する。
2. 唐詩の形式や規則を把握する。
3. 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4. 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	『唐詩選』と唐詩についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	ガイダンス（2）	唐詩の形式と規則についての概説。
第 3 回	ガイダンス（3）	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第 4 回	『唐詩選』精読（1）	張九齡「照鏡見白髮」
第 5 回	『唐詩選』精読（2）	王之涣「登鸛鵲樓」
第 6 回	『唐詩選』精読（3）	王昌齡「送郭司倉」
第 7 回	『唐詩選』精読（4）	王維「竹里館」
第 8 回	『唐詩選』精読（5）	李白「秋浦歌」
第 9 回	『唐詩選』精読（6）	杜甫「秋興四首」其一
第 10 回	『唐詩選』精読（7）	韋応物「秋夜寄丘二十二員外」
第 11 回	『唐詩選』精読（8）	張繼「楓橋夜泊」
第 12 回	『唐詩選』精読（9）	顧況「聽角思婦」
第 13 回	『唐詩選』精読（10）	太上隱者「答人」
第 14 回	『唐詩選』精読（11）	李商隱「夜雨寄北」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・前野直彬注解『唐詩選』上・中・下巻（岩波文庫、1961-1963）
- ・高木正一著『唐詩選』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
- ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
- ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）

その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいうような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めると、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Tang-shi xuan* (*Selection of Tang Poems*) is an anthology of Tang poetry (465 poems) compiled by Li Panlong (1514-1570) during the Ming dynasty, and is known to have been a widely read Chinese classic during the Edo period in Japan. In this course, we will select and closely read relatively short poems from *Tang-shi xuan*, and while appreciating their appeal, we will complete original translations by critically examining existing Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn about the social background, culture and customs during the Tang which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as the forms and rules of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired basic knowledge about *Tang-shi xuan*;
- B. understand the form and rules of Tang poetry;
- C. have acquired basic skills for reading and understanding Tang poetry; and
- D. be able to critically examine existing translations and notes and have acquired the ability to interpret Tang poetry in an original way.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the presentation material prior to each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.

Grading Criteria/Policy: presentations 40%; participation in discussion 20%; final paper 40%.

LIT300BC

ゼミナール1B

遠藤 星希

授業コード：A2616 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『三体詩』精読】

『三体詩』は、南宋の周弼が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 494 首の詩を収録）であり、室町時代の日本で大変よく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『三体詩』の中から代表的な詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】

1. 『三体詩』についての基礎的な知識を習得する。
2. 唐詩の形式や規則を把握する。
3. 唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
4. 既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『三体詩』についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	春学期の復習	春学期で習得した知識の復習と秋学期における新たな課題の提示。
第 3 回	『三体詩』精読（1）	王維「渭城曲」
第 4 回	『三体詩』精読（2）	李白「送友人」
第 5 回	『三体詩』精読（3）	杜甫「客至」
第 6 回	『三体詩』精読（4）	白居易「草」
第 7 回	『三体詩』精読（5）	柳宗元「漁翁」
第 8 回	『三体詩』精読（6）	孟郊「遊子吟」
第 9 回	『三体詩』精読（7）	賈島「題李凝幽居」
第 10 回	『三体詩』精読（8）	杜牧「赤壁」
第 11 回	『三体詩』精読（9）	李商隱「嫦娥」
第 12 回	『三体詩』精読（10）	曹松「己亥歲」
第 13 回	『三体詩』精読（11）	薛濤「海棠溪」
第 14 回	『三体詩』精読（12）	魚玄機「送別」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・村上哲見著『三体詩』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
 - ・田部井文雄著『唐詩三百首詳解』上巻・下巻（大修館書店、1988-1990）
 - ・村上哲見著『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ、1994）
 - ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
 - ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
 - ・村上哲見著『中国文学と日本 十二講』（創文社、2013）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Santi Tangshi (Tang Poetry in Three Forms)* is an anthology (494 poems) believed to have been compiled by Zhou Bi in the South Song Dynasty. It is known to have been read quite broadly in Japan during the Muromachi period. In this course, we will select and closely read exemplary poems from *Santi Tangshi*, and while appreciating their appeal, we will complete original translations by critically examining Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn about the social background, culture and customs during the Tang dynasty which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as the forms and rules of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired basic knowledge of *Santi Tangshi*;
- B. understand the form and rules of Tang poetry;
- C. have acquired basic skills for reading and understanding Tang poetry; and
- D. be able to critically examine existing translations and notes and have acquired the ability to interpret Tang poetry in an original way.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the presentation material prior to each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.

Grading Criteria/Policy: presentations 40%; participation in discussion 20%; final paper 40%.

LIT300BC

ゼミナール2 A

坂本 勝

授業コード：A2617 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究方法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】

古典文学の読み方、研究方法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に付ける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます。ただし本年度は新型コロナウイルス感染症の状況次第で変更する可能性があります。）授業内容、毎回の進め方などはHoppi上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス テキストについて	古事記について基本的な解説を行う。 解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。古事記のテキスト概説
第2回	研究史と参考文献について	古事記の研究史概説と 古事記研究の参考文献概説
第3回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第4回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第5回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第6回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第7回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第8回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第9回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第10回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第11回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第12回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第13回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第14回	まとめ レポート提出	教員による春学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）。ともに漢字原文のついているもの。

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各1回のレポート提出（約60%）、平常点（約40%）。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline (in English)】

We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of study is to acquire basic skills to write bachelor's thesis, like how to read classic literature and how to study them.

以下、A2618 から貼り付ける。

Course Outline: We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of our study is to acquire basic skills to write a bachelor's thesis, such as how to read works of classic literature and how to do research on them.

Learning Objectives: To learn how to study classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read materials that were dealt with or mentioned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for one lecture.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on a term paper (60%) and class performance (40%, evaluating participation in the seminar, presentations, etc.).

LIT300BC

ゼミナール2B

坂本 勝

授業コード：A2618 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究方法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】

古典文学の読み方、研究方法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に付ける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

授業内容などについて、毎回は Hoppii 上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス テキストについて	万葉集について基本的な解説を行う。 解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。万葉集のテキスト概説
第2回	研究史と参考文献について	万葉集の研究史概説。万葉集研究の参考文献概説
第3回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第4回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第5回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第6回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第7回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第8回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第9回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第10回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第11回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第12回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第13回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第14回	まとめ レポート提出	教員による秋学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各1回のレポート提出（約60%）、平常点（約40%）。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline (in English)】

Course Outline: We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of our study is to acquire basic skills to write a bachelor's thesis, such as how to read works of classic literature and how to do research on them.

Learning Objectives: To learn how to study classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read materials that were dealt with or mentioned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for one lecture.

LIT300BC

ゼミナール3A

加藤 昌嘉

授業コード：A2619 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を読解する力
- 2、問題点を発見し、深く調査する力
- 3、わかりやすい発表を行う力
- 4、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

◆担当者が問題点を整理して発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	『源氏物語』概説
2	ガイダンス	薫とは？ 匂宮とは？
3	橋姫	A班発表
4	権本	B班発表
5	総角①	C班発表
6	総角②	D班発表
7	宿木①	E班発表
8	ふりかえり	宇治の解説
9	宿木②	F班発表
10	東屋①	G班発表
11	東屋②	H班発表
12	東屋③	I班発表
13	浮舟①	J班発表
14	まとめ	秋学期の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第3部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆以下のいずれかを座右に置いてください。

- ◎柳井滋ほか『源氏物語』7、8（岩波文庫）
- ◎玉上琢彌『源氏物語 現代語訳付き』7、8（角川ソフィア文庫）
- ◎石田穰二ほか『新潮日本古典集成 源氏物語』6、7（新潮社）

【参考書】

◆以下のような現代語訳から入ることをお勧めします。

- ◎林望『謹訳源氏物語 改訂新修』8、9（祥伝社文庫）
- ◎大塚ひかり『源氏物語』5、6（ちくま文庫）
- ◎瀬戸内寂聴『源氏物語』8、9（講談社文庫）
- ◎角田光代『日本文学全集 源氏物語』下（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

◆自由に発言できる雰囲気作りを心がけます。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will read *The Tale of Genji* and discuss issues related to its content.

Learning Objectives: The objective is to develop competency in the following four areas:

- reading ancient texts accurately;
- discovering and deeply investigating problems;
- giving clear presentations; and
- discussing various issues with others

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the third part of *The Tale of Genji*. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the quality of presentations (50%), and degree of participation in discussion (50%).

LIT300BC

ゼミナール3B

加藤 昌嘉

授業コード：A2620 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

- 1、『源氏物語』の本文を読解する力
- 2、問題点を発見し、深く調査する力
- 3、わかりやすい発表を行う力
- 4、皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

◆担当者が問題点を整理して発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	『源氏物語』概説
2	浮舟②	K班発表
3	浮舟③	L班発表
4	浮舟④	M班発表
5	蜻蛉①	N班発表
6	ふりかえり	宇治の解説
7	蜻蛉②	O班発表
8	手習①	P班発表
9	手習②	Q班発表
10	手習③	R班発表
11	夢浮橋①	S班発表
21	夢浮橋②	T班発表
13	まとめ	総括と来年度の解説
14	卒業論文の準備	卒論テーマ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第3部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆以下のいずれかを座右に置いてください。

◎柳井滋ほか『源氏物語』8、9（岩波文庫）

◎玉上琢彌『源氏物語 現代語訳付き』9、10（角川ソフィア文庫）

◎石田穰二ほか『新潮日本古典集成 源氏物語』7、8（新潮社）

【参考書】

◆以下の入門書を推薦します。ぜひ一読を！

◎竹内正彦監修『図説あらすじと地図で面白いほどわかる！源氏物語』（青春新書）

◎高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

◆源氏絵を使って、装束や建物などの理解を深めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will read *The Tale of Genji* and discuss issues related to its content.

Learning Objectives: The objective is to develop competency in the following four areas:

- reading ancient texts accurately;
- discovering and deeply investigating problems;
- giving clear presentations; and
- discussing various issues with others

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read the third part of *The Tale of Genji*. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the quality of presentations (50%), and degree of participation in discussion (50%).

LIT300BC

ゼミナール4 A

阿部 真弓

授業コード：A2621 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『六百番歌合』を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

『六百番歌合』は鎌倉初期に藤原良経の主催で行われた歌合で、『千載和歌集』撰者の藤原俊成が判者を務め、後に『新古今和歌集』の撰者となる藤原有家、藤原定家、藤原家隆、寂蓮を含め、十二人の歌人が参加したイベントです。和歌史上、きわめて重要な作品であり、また当時の歌人たちの『源氏物語』への評価がうかがえる、物語史上的にも大変興味深い資料です。

伝統と新風、両派の和歌を鑑賞するとともに、歌人たちの和歌に対する考え方を解釈し、和歌史の展開を考察します。

【到達目標】

- ①作品の注解作業を通して、文献調査、作品分析、考究の方法等、中世の文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ②プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ③ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
- ④簡単なくずし字が読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生（ペア）が担当番について調べ、考察したことを、作成した資料を用いながら発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、変体仮名解説練習等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (1)	【六百番歌合】概説
第2回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第3回	変体仮名解説練習	変体仮名についての解説
第4回	変体仮名解説練習	変体仮名についての解説練習
第5回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第6回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第7回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第8回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第9回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第10回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第11回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第12回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第13回	『六百番歌合』読解	発表と討論
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞむこと。発表者以外の受講者は、発表される和歌について予習をした上で授業にのぞむこと。
- ・テキストは影印ですので、各自、くずし字の解説練習に励んでください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

【テキスト（教科書）】

『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988 年）
『六百番歌合』については、プリントを配布します。

【参考書】

新日本古典文学大系 38『六百番歌合』（岩波書店、1998 年）
新日本古典文学大系 11『新古今和歌集』（岩波書店、1992 年）
新編日本古典文学全集 43『新古今和歌集』（小学館、1995 年）
そのほかの参考書については、授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 % (①②③)、レポート 40 % (①②③)、討論への参加状況 20 % (②) という配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行を進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Poetry Contest in Six Hundred Rounds* (六百番歌合 *Ropyyakuban uta'awase*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール4 B

阿部 真弓

授業コード：A2622 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『紫式部日記』を取り上げ、ゼミナール形式で読解し、考察します。
2024 年の大河ドラマは、紫式部が主人公ですね。『紫式部日記』は、『源氏物語』というフィクションを創作した紫式部が残したノンフィクション作品です。日記的に記された期間は短いものですが、平安中期の重要な局面を一女房の視点から描き、当時の宮廷やそこに関わる人々を（紫式部自身を含め）、生々しく、時に冷徹に描写しています。

各自、『紫式部日記』をしっかりと読み込み、疑問点、解明したい点を自ら見だし、適切な資料を用いて考察した結果を発表します。そして提示された問題について、ゼミのメンバーで討論していきます。

また、当授業では、卒業論文執筆・提出に向けた準備を行っていきます。

【到達目標】

- ①自らテーマを選び、考究する力を養う。
- ②文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ④ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自がテーマを決め、調べ、考察したことを発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、卒業論文ミニ発表会等を行います。

また、状況を勘案の上、ゼミ合宿を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	『紫式部日記』概説
第 2 回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第 3 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 4 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 5 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 6 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 7 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 8 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 9 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 10 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 11 回	『紫式部日記』研究	発表と討論
第 12 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括
第 13 回	卒業論文について	卒業論文執筆に関する説明
第 14 回	卒業論文ミニ発表会	3 年生による卒業論文テーマの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞみ、発表者以外の受講者は、事前に配布されたレジュメを読み、発表内容について予習をした上で授業にのぞみましょう。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『紫式部日記 現代語訳付き』（山本淳子 訳注、KADOKAWA、2010 年）

『実用変体がな』（かな研究会 編、新典社）

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 % (①②③)、レポート 40 % (①②④)、討論への参加状況 20 % (③) という配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Diary of Lady Murasaki* (紫式部日記 *Murasaki Shikibu Nikki*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール5 A

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2623 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。

1. 『平家物語』について、その内容を正確に理解すること。
2. 先行研究の批判、諸本の差違の考察、資料との比較などを通じて、虚構化された作品世界の特徴を理解すること。
3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

『平家物語』を教材とする。3～4 名でグループを作り、グループごとに希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、資料を作成し、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中にはレポートも執筆してもらう。レポートに対しては学生・教員による合評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoom で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第 2 回	『平家物語』について (1)	作品の概要、成立、作者の解説。
第 3 回	『平家物語』について (2)	諸本の解説。
第 4 回	研究方法について	先行研究の検索方法についての解説。
第 5 回	模擬演習 (1)	『平家物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第 6 回	模擬演習 (2)	『平家物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第 7 回	発表準備 (1)	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 8 回	発表準備 (2)	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 9 回	発表準備 (3)	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 10 回	発表準備 (4)	グループ発表に向けて、対象とする『平家物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 11 回	発表 (1)	第一グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第 12 回	発表 (2)	第二グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第 13 回	発表 (3)	第三グループによる『平家物語』に関する研究の発表。
第 14 回	発表 (4)	第四グループによる『平家物語』に関する研究の発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備を授業時間以外に行ってもらおう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000 年）

【参考書】

大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）
延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』巻一～十二（汲古書院、2005～19 年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表の内容に 1/2 ずつの比重を置く。なお、欠席は 2 回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

「模擬演習」を積極的に行いたいという要望があったので、これに対応して授業を進める。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007 年度	京都
2008 年度	厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009 年度	平泉（岩手）
2010 年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011 年度	京都
2012 年度	呉、厳島神社（広島）
2013 年度	京都
2014 年度	松江、出雲、大森銀山
2015 年度	京都
2016 年度	札幌、小樽
2017 年度	京都
2018 年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019 年度	京都
2020 年度	実施せず
2021 年度	実施せず
2022 年度	京都

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*).

Learning Objectives: The goals of this course are to understand *Heike monogatari* and the methods for studying it.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated as follows: research presentation (50%) and in-class contribution (50%).

LIT300BC

ゼミナール5 B

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2624 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『曾我物語』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。

1. 『曾我物語』について、その内容を正確に理解すること。
2. 先行研究の批判、諸本の差違の考察、他作品との比較などを通じて、作品世界の特徴を理解すること。
3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

『曾我物語』を教材とする。3～4 名でグループを作り、グループごとに希望する巻をとりあげ、その内容について調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、資料を作成し、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoom で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業内容の紹介。
第 2 回	『曾我物語』について (1)	作品の概要、成立、作者の解説。
第 3 回	『曾我物語』について (2)	中世文芸と『曾我物語』に関する解説。
第 4 回	夏期レポートの講評	夏期レポートについて学生間で読み合わせをし、講評を行う。
第 5 回	模擬演習 (1)	『曾我物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第 6 回	模擬演習 (2)	『曾我物語』の複数の章段を設定し、研究テーマをいかに見いだすか、グループディスカッションする。
第 7 回	発表準備 (1)	グループ発表に向けて、対象とする『曾我物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 8 回	発表準備 (2)	グループ発表に向けて、対象とする『曾我物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 9 回	発表準備 (3)	グループ発表に向けて、対象とする『曾我物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 10 回	発表準備 (4)	グループ発表に向けて、対象とする『曾我物語』の章段についてディスカッション、調査を行う。
第 11 回	発表 (1)	第一グループによる『曾我物語』に関する研究の発表。
第 12 回	発表 (2)	第二グループによる『曾我物語』に関する研究の発表。
第 13 回	発表 (3)	第三グループによる『曾我物語』に関する研究の発表。
第 14 回	発表 (4)	第四グループによる『曾我物語』に関する研究の発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備を授業時間以外に行ってもらおう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

梶原正昭ほか校注・訳 新編日本古典文学全集『曾我物語』（小学館、2002 年）

【参考書】

村上美登志編『曾我物語の作品宇宙』（『国文学解釈と鑑賞別冊』至文堂、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表、夏期レポートの内容に 1/3 ずつの比重を置く。なお、欠席は 2 回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

「模擬演習」を積極的にやりたいという要望があったので、これに対応して授業を進める。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007 年度	京都
2008 年度	厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009 年度	平泉（岩手）
2010 年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011 年度	京都
2012 年度	呉、厳島神社（広島）
2013 年度	京都
2014 年度	松江、出雲、大森銀山
2015 年度	京都
2016 年度	札幌、小樽
2017 年度	京都
2018 年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019 年度	京都
2020 年度	実施せず
2021 年度	実施せず
2022 年度	京都

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Soga monogatari* (*The Tale of the Soga*).

Learning Objectives: The goals of this course are to understand *Soga monogatari* and the methods for studying it.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated as follows: research presentation (1/3), in-class contribution (1/3), and report (1/3).

LIT300BC

ゼミナール6 A

小林 ふみ子

授業コード：A2625 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたる近世文学の中でも、春学期は前期の上方文芸界のスター井原西鶴による『好色五人女』を読みます。
（このテーマは新3年生の話し合いで決めたものです）

【到達目標】

- (1) 辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 考察をしっかりと構成と体裁をもつレポートに上げる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

作品概要や研究法を全体で学んだあと4チームに分かれて担当話を決め、その概要と主題などについて研究する。
各チームの発表ののち、それについてディスカッションします。
それを受けて各チームでは研究を深めて補足の発表をします。
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・各種役割の決定
第2回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第3回	準備①	チーム内で分担した本文の内容を紹介し合い、梗概を把握、担当する話しの見どころを話し合う。
第4回	準備②	チームごとに話し合いをふまえて発表の大枠を決定、分担する。
第5回	発表①	第1話チームの発表
第6回	発表②	第2話チームの発表
第7回	発表③	第3話チームの発表
第8回	発表④	第4話チームの発表
第9回	発表⑤	第1話チームの発表・2回目
第10回	発表⑥	第2話チームの発表・2回目
第11回	発表⑦	第3話チームの発表・2回目
第12回	発表⑧	第4話チームの発表・2回目
第13回	まとめ	『好色五人女』の特徴について総合的に考える
第14回	ふりかえり	春学期をふりかえり、秋学期のすすめ方や作品を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分のチームの担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫・ピギナーズ・クラシックス 谷脇理史『新版 好色五人女』（KADOKAWA 2008）

*新本で968円くらい、古本はアマゾンなら送料込みでも400円台～。手元に用意しましょう。

【参考書】

江本裕校注『好色五人女』（講談社〈講談社学術文庫〉1984）
麻生磯次・富士昭雄校注『対訳西鶴全集』（明治書院 1992）
その他、『新編日本古典文学全集』暉峻康隆、東明雅訳（小学館・JapanKnowledge掲載）などいろいろ見比べ、訳の違いやその理由にも注意して、自分なりの読みを探究しましょう。

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35%）、各期末のレポート（4000字程度・35%）、発言その他のゼミへの貢献度（30%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生間での意見交換が活発にできるように話し合いでは小グループ→全体という流れを継続します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有を行うのでパソコンが使えるように用意しましょう。タブレットでも差し支えありませんが、卒論までにはキーボードやワードに習熟するようにしてください。

【その他の重要事項】

ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席はみんなでもりあげるため、当然の前提です。積極的な参加を期待しています。

ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、それを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。

意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Kōshoku gonin onna (Five Women Who Loved Love)* by Ihara Saikaku.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

Grading Criteria/Policy: Presentation in class (35%); final report (35%); and attitude in class (30%).

LIT300BC

ゼミナール6 B

小林 ふみ子

授業コード：A2626 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
秋学期のテーマや進め方は春学期の様子をふまえて話し合いで決定します。
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと卒論につながる
関心が育っていいかなと教員としては思いますが、どうするのがよいか議論
して決めましょう。

【到達目標】

- (1) 既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。(2年間を通じて)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

チームを作り、チームごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。

各学期に1チーム2回発表。

発表チームは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。

教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第2回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第3回	チーム①	作品の概要紹介
第4回	チーム①	研究発表
第5回	チーム②	作品の概要紹介
第6回	チーム②	研究発表
第7回	チーム③	作品の概要紹介
第8回	チーム③	研究発表
第9回	チーム④	作品の概要紹介
第10回	チーム④	研究発表
第11回	チーム⑤	作品の概要紹介
第12回	チーム⑤	研究発表
第13回	チーム⑥	作品の概要紹介
第14回	チーム⑥	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

他のチームの発表の場合も、各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内の学生の決定に従って、指定する。

【参考書】

『新版 近世文学研究事典』（おうふう 2006年）／『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019年）
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35%）、各期末のレポート（4000字程度・35%）、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に1回）や発言その他のゼミへの貢献度（30%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有や意見交換などをします。

【その他の重要事項】

みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていってくださることを期待しています！

【Outline (in English)】

Course Outline: We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Ugetsu monogatari* (*Tales of Moonlight and Rain*) by Ueda Akinari.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

Grading Criteria/Policy: Presentation in class (35%); final report (35%); and attitude in class (30%).

ART300BC

ゼミナール7A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2627 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『平家物語』と音楽」とします。これには：①音楽（語り物）としての「平家語り」、②『平家物語』の中の音楽、③『平家物語』と同時代（12世紀）の音楽史との関係、④『平家物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（能、幸若舞、浄瑠璃、歌舞伎など）の事柄が含まれます。春学期はガイダンスの後、『平家物語』の音楽場面（巻第一～巻第六）を主たる研究対象とし、特に音楽関係の用語に注意を払いながら、その場面場面の内容を「正しく読む」ことを目的とします。

【到達目標】

1. 音楽（語り物）としての「平家語り」の歴史と音楽構造を理解すること
2. 『平家物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
3. 問題点を発見し、詳しく調査して上で、自らの見解が述べられること
4. 発表が明快に行えること
5. 問題点について客観的に討論できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第4回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループごとに発表してもらい、質疑応答を行います。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。また、演習形式ですので、フィードバックは原則授業内にて行い、必要な場合はメールで補う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介・序説 ガイダンス①	自己紹介（全員）、教員による授業の進め方の説明、発表スケジュールの調整など 導入—『平家物語』と音楽— 音楽場面の調査方法について
第2回	ガイダンス②	『平家物語』に現れる楽器
第3回	ガイダンス③	管絃と舞楽 種々の声楽曲
第4回	巻第一について	奈良～平安時代の楽譜 発表（Aグループ）と討論
第5回	「祇園精舎」を読む	
第6回	「殿上闇打」を読む	発表（Bグループ）と討論
第7回	「鱧」を読む	発表（Cグループ）と討論
第8回	「妓王」を読む	発表（Dグループ）と討論
第9回	「鹿谷沙汰」を読む	発表（Eグループ）と討論
第10回	「徳大寺殿鳥詣」を読む	発表（Fグループ）と討論
第11回	「康頼祝」を読む	発表（Gグループ）と討論
第12回	「卒都婆流」を読む	発表（Hグループ）と討論
第13回	「大臣流罪」を読む	発表（Iグループ）と討論
第14回	「大仁王の笛に関する諸場面」を読む	発表（Jグループ）と討論
第14回	春学期のまとめ、および卒業論文の中間発表	春学期の授業の総括、および4年生による中間発表 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 5分程度の事項紹介を用意し、授業に期待することことが述べられるように考えておくこと
 - 第2～3回 事前配付の資料を読んでくること
 - 第4回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成
 - 第14回 期末レポート・楽譜課題作成
- 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯真一校注、三弥井古典文庫『平家物語』上（三弥井書店、2008年）

【参考書】

山下宏明校注、校注古典叢書『平家物語』上（明治書院、1975年初版の重版）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽、2004年）
五味文彦・櫻井陽子 編『平家物語図典』（小学館、2005年）

今井勉（平家琵琶）、薦田治子（解説）『琵琶法師の世界 平家物語』（CV/DVD、Ebisu-13～19、2009年）
『平家物語大辞典』（東京書籍、2010年）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30%、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30%、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

内容的に深く関わるので、2年次までに特講（11）「音楽芸能史A」の単位取得を済ませることが望ましい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This undergraduate seminar deals with the music of and music in *The Tale of the Heike*. This topic includes: 1. *The Tale of the Heike* as a genre of narrative music (*heike-gatari*); 2. the depiction of music in the tale; 3. its relationship to the music history of the time it depicts (12th century); and 4. the influence of the tale and its music on later genres of performing arts, including *nō*, *kōwaka-mai*, *jōruri* and *kabuki*. In the spring semester, four introductory lectures by the instructor are followed by close reading of episodes from Chapters 1 to 4, with presentations each week by groups of students. Episodes include: "Gion Shōja," "The Night Attack at the Courtiers' Hall," "The Sea Bass," "Giō," "Shishi-no-tani," "The Matter of Tokudaiji," "Yasuyori's Prayer," "Stupas Cast Afloat," "The Exiling of the Ministers of State," and sections of episodes from Chapter 4 dealing with Prince Mochihito and his flutes. Particular attention is paid to the correct understanding of musical structure and terminology.

Learning Objectives: Through this study of music in *The Tale of the Heike*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

Grading Criteria/Policy: presentations 30%; participation in discussion 30%; final paper and music assignment (transnotation) 40%.

ART300BC

ゼミナール7 B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2628 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『平家物語』と音楽」とします。これには：①音楽（語り物）としての「平家語り」、②『平家物語』の中の音楽、③『平家物語』と同時代（12世紀）の音楽史との関係、④『平家物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（能、幸若舞、浄瑠璃、歌舞伎など）の事柄が含まれます。秋学期では、春学期で行った『平家物語』（巻第一～巻第六）の音楽場面の精読を続けるとともに、その影響を受けて成立した作品を取り上げ、影響関係を明らかにします。なお、取り上げる作品は受講者と相談して決めます。

【到達目標】

1. 音楽（語り物）としての「平家語り」の歴史と音楽構造を理解すること
2. 『平家物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
3. 問題点を発見し、詳しく調査して上で、自らの見解が述べられること
4. 発表が明快に行えること
5. 問題点について客観的に討論できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第3回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループごとに発表してもらい、質疑応答を行います。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合わせた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。また、演習形式ですので、フィードバックは原則授業内にて行い、必要な場合はメールで補う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	春学期レポートの講評、秋学期発表スケジュールの調整など
第2回	ガイダンス②	『平家物語』音楽研究史概説
第3回	巻第五について	発表（Aグループ）と討論
第4回	「月見」を読む	発表（Bグループ）と討論
第5回	「咸陽宮」を読む	発表（Cグループ）と討論
第6回	「文覚勸進帳」・「文覚被流」を読む	発表（Dグループ）と討論
第7回	「五節沙汰」を読む	発表（Eグループ）と討論
第8回	「小督殿」を読む	発表（Fグループ）と討論
第9回	「邦綱の事」・「墨俣合戦」を読む	発表（Gグループ）と討論
第10回	卒業論文の中間発表	ゼミ4年生による卒業論文の中間発表、講評
第11回	ガイダンス③	『平家物語』の影響を受けて成立した作品に対する調査方法について
第12回	作品① 未定	発表（Gグループ）と討論
第13回	作品② 未定	発表（Hグループ）と討論
第14回	作品③ 未定	発表（Iグループ）と討論
第15回	作品④ 未定	発表（Jグループ）と討論
第16回	秋学期のまとめ	秋学期の授業の総括、および卒業論文の講評 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1～2、9回 事前配付の資料を読んでくること
 - 第3回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成
 - 第14回 期末レポート・楽譜課題作成
- 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯真一校注、三弥井古典文庫『平家物語』上（三弥井書店、2008年）

【参考書】

山下宏明校注、校注古典叢書『平家物語』上（明治書院、1975初版の重版）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽、2004年）
五味文彦・櫻井陽子 編『平家物語図典』（小学館、2005年）
今井勉（平家琵琶）、藤田治子（解説）『琵琶法師の世界 平家物語』（CV/DVD、Ebisu-13~19、2009年）
『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30%、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30%、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

内容的に深く関わるので、2年次までに特講（11）「音楽芸能史B」の単位取得を済ませることが望ましい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This undergraduate seminar deals with the music of and music in *The Tale of the Heike*. This topic includes: 1. *The Tale of the Heike* as a genre of narrative music (*heike-gatari*); 2. the depiction of music in the tale; 3. its relationship to the music history of the time it depicts (12th century); and 4. the influence of the tale and its music on later genres of performing arts, including *nō*, *kōwaka-mai*, *jōruri* and *kabuki*. In the autumn semester, two introductory lectures are followed by close reading of episodes from Chapters 5 and 6, with presentations each week by groups of students. Episodes are: "Moon-Viewing," "The Xianyang Palace," "The Subscription List," "Mongaku's Exile," "The Matter of the Gosechi Dancers," "Kogō," "The Gion Consort," and "The Hoarse Shouts." Finally, there are group presentations on works from other genres of performing arts influenced by episodes studied in the spring and autumn semesters, selected according to the students' preferences.

Learning Objectives: Through this study of music in *The Tale of the Heike*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale and works from other genres, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

Grading Criteria/Policy: presentations 30%; participation in discussion 30%; final paper and music assignment (transnotation) 40%.

LIT300BC

ゼミナール8A

伊海 孝充

授業コード：A2629 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深めることによって、多角的に能という芸能を捉えることができるようになる。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にグループの発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年1、2回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、夏期は、能楽に関わる芸能の見学を兼ねて合宿に行く予定。

授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。
第2回	能楽の基礎知識	能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。
第3回	能の種類	能の分類について解説する。
第4回	能の歴史について	世阿弥の功績と能作者について。
第5回	能の演技	実技体験（予定）。
第6回	能楽研究事始（1）	研究の方法と実践。
第7回	能楽研究事初（2）	「本説」と他芸能との関係。
第8回	謡曲精読（1）	脇能を口語訳しながら精読する。
第9回	謡曲精読（2）	修羅能を口語訳しながら精読する。
第10回	謡曲精読（3）	鬘物を口語訳しながら精読する。
第11回	謡曲精読（4）	物狂能を口語訳しながら精読する。
第12回	謡曲精読（5）	四番目物を口語訳しながら精読する。
第13回	謡曲精読（6）	鬼能を口語訳しながら精読する。
第14回	春学期のまとめ	これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってみよう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983～1988年）

【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%
授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%
学期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は、能楽鑑賞会など課外活動を多く実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC

ゼミナール8B

伊海 孝充

授業コード：A2630 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対する知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に個人表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけでなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。また1、2回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、ミニ遠足を行なう予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期のまとめと秋学期の展望
第2回	グループ発表—課題曲1 (口語訳)	課題曲の口語訳を行なう。
第3回	グループ発表—課題曲1 (語訳)	重要語句の語訳を行なう。
第4回	グループ発表—課題曲1 (テーマ研究)	課題曲の関連テーマについての分析。
第5回	グループ発表—課題曲1 (まとめ)	問題点のディスカッション。
第6回	グループ発表—課題曲2 (口語訳)	課題曲の口語訳を行なう。
第7回	グループ発表—課題曲2 (語訳)	重要語句の語訳を行なう。
第8回	グループ発表—課題曲2 (テーマ研究)	課題曲の関連テーマについての分析。
第9回	グループ発表—課題曲2 (まとめ)	問題点のディスカッション。
第10回	グループ発表—課題曲3 (口語訳)	課題曲の口語訳を行なう。
第11回	グループ発表—課題曲3 (語訳)	重要語句の語訳を行なう。
第12回	グループ発表—課題曲3 (テーマ研究)	課題曲の関連テーマについての分析。
第13回	グループ発表—課題曲3 (本説)	課題曲の典拠の調査。
第14回	第13回 グループ発表—課題曲3 (まとめ)	問題点のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表は、グループ構成メンバーと綿密に相談し、適宜サブゼミを開いて準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983～1988年）

【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40%

授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40%

学期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

能楽師を招いた実技講習を行いません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire expert knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC

ゼミナール9 A

中丸 宣明

授業コード：A2631 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀・20世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学・芸能・演劇をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第2回	各自の発表	担当作品についての発表
第3回	各自の発表	担当作品についての発表
第4回	各自の発表	担当作品についての発表
第5回	各自の発表	担当作品についての発表
第6回	各自の発表	担当作品についての発表
第7回	各自の発表	担当作品についての発表
第8回	各自の発表	担当作品についての発表
第9回	各自の発表	担当作品についての発表
第10回	各自の発表	担当作品についての発表
第11回	各自の発表	担当作品についての発表
第12回	各自の発表	担当作品についての発表
第13回	各自の発表	担当作品についての発表
第14回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。必要時間は無限。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各24時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、決定する。発表者は当該作品のテキストを決定し、ゼミ員に指示すること。See "Outline and objectives."

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。See "Outline and objectives."

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40%）と討議参加内容（40%）期末レポート（20%）
Completeness of research presentation (40%), quality of discussion (40%), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC

ゼミナール9B

中丸 宣明

授業コード：A2632 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール9Aに引き続き、19世紀・20世紀前半の日本文学の研究。化政期（19世紀前半、天保の改革まで）・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された小説・詩歌・演劇・芸能をとりあげ、文学・文化研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるよう、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化学の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第2回	各自の発表	担当作品についての発表
第3回	各自の発表	担当作品についての発表
第4回	各自の発表	担当作品についての発表
第5回	各自の発表	担当作品についての発表
第6回	各自の発表	担当作品についての発表
第7回	各自の発表	担当作品についての発表
第8回	各自の発表	担当作品についての発表
第9回	各自の発表	担当作品についての発表
第10回	各自の発表	担当作品についての発表
第11回	各自の発表	担当作品についての発表
第12回	各自の発表	担当作品についての発表
第13回	各自の発表	担当作品についての発表
第14回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。準備時間は最大限の努力時間。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各24時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、発表者が本文を指示する。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40%）討議に参加内容（40%）と期末レポート（20%）
Completeness of research presentation (40%), quality of discussion (40%), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC

ゼミナール11A

藤村 耕治

授業コード：A2635 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探求すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。

このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを的確に論として表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの議論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピーでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800字程度）を毎回作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。

毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミナールの進め方Ⅰ	発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス
第2回	ゼミナールの進め方Ⅱ	発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定
第3回	戦後の文学Ⅰ	梅崎春生「桜島」「幻化」（講談社文芸文庫）①問題提起と討議
第4回	戦後の文学Ⅱ	梅崎春生「桜島」「幻化」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第5回	戦後の文学Ⅲ	梅崎春生「桜島」「幻化」③総括とレポートへの課題
第6回	戦後の文学Ⅳ	武田泰淳「審判」「蝮のすえ」（講談社文芸文庫他）①問題提起と討議
第7回	戦後の文学Ⅴ	武田泰淳「審判」「蝮のすえ」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第8回	戦後の文学Ⅵ	武田泰淳「審判」「蝮のすえ」③総括とレポートへの課題
第9回	無頼派の文学Ⅰ	太宰治「御伽草子」（新潮文庫）①問題提起と討議
第10回	無頼派の文学Ⅱ	太宰治「御伽草子」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第11回	無頼派の文学Ⅲ	太宰治「御伽草子」③総括とレポートへの課題

第12回	第三の新人の文学Ⅰ	遠藤周作「沈黙」（新潮文庫）①問題提起と討議
第13回	第三の新人の文学Ⅴ	遠藤周作「沈黙」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第14回	第三の新人の文学Ⅵ	遠藤周作「沈黙」③総括とレポートへの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で5時間、サブゼミで2時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講生も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうこととなります。

【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

【参考書】

各作家の年譜を必ず参照し、作家の作品史における当該作品の位置づけを確認しましょう。また、関連する他作品やエッセイ等にもできるだけ目を通して下さい。

その他、必要と思われる参考文献は、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

全出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が60%、期末の作品論（レポート）の評価が30%、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が10%。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.

Learning Objectives: Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

Learning Activities Outside of the Classroom: The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate the level of the presentation and remarks at 70%, 20% for the final report, and 10% for the short report.

LIT300BC

ゼミナール11B

藤村 耕治

授業コード：A2636 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたりの、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論としての確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

戦後から現在にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。担当班（5名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは簡易書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについて的小レポート（800字程度）を毎回作成し、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらった場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒業論文合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミナールの進め方	発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定
第2回	戦後の文学の展開Ⅰ	日野啓三「夢の鳥」（講談社文芸文庫） ①問題提起と討議
第3回	戦後の文学の展開Ⅱ	日野啓三「夢の鳥」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第4回	戦後の文学の展開Ⅲ	日野啓三「夢の鳥」③総括とレポートへの課題
第5回	ミステリー文学Ⅰ	横溝正史「犬神家の一族」（角川文庫） ①問題提起と討議
第6回	ミステリー文学Ⅱ	横溝正史「犬神家の一族」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第7回	ミステリー文学Ⅲ	横溝正史「犬神家の一族」③総括とレポートへの課題
第8回	現代の沖縄文学Ⅰ	大城立裕「カクテル・パーティー」〔岩波現代文庫〕①問題提起と討議
第9回	現代の沖縄文学Ⅱ	大城立裕「カクテル・パーティー」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第10回	現代の沖縄文学Ⅲ	大城立裕「カクテル・パーティー」③総括とレポートへの課題
第11回	現代の文学Ⅰ	西加奈子「さくら」（小学館文庫）①問題提起と討議
第12回	現代の文学Ⅱ	西加奈子「さくら」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展

第13回 現代の文学Ⅲ

西加奈子「さくら」③総括とレポートへの課題

第14回 卒業論文執筆に向けて

卒業論文ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で5時間、サブゼミで2時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講生も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうこととなります。

【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。なお、作品は変更となる場合もあります。

【参考書】

各作家の年譜を必ず参照し、作家の作品史における当該作品の位置づけを確認しましょう。また、関連する他作品やエッセイ等にもできるだけ目を通しておいて下さい。

その他、必要と思われる参考文献は、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が60%、期末の作品論（レポート）の評価が30%、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が10%。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.

Learning Objectives: Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

Learning Activities Outside of the Classroom: The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate the level of the presentation and remarks at 70%, 20% for the final report, and 10% for the short report.

LIT300BC

ゼミナール12A

三井 喜美子

授業コード：A2637 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学及び翻訳児童文学を研究対象とする。児童文学史や児童文学の作者及び作品、また児童を取り巻く文化などについて研究し、児童文学の歴史と未来について探求する。実際に創作もする。現代児童文学研究に貢献的な研究課題を自ら考えていくことが重要である。ゼミナール形式なので、研究発表および議論を通して研究テーマを深める

【到達目標】グループでテーマを決め、発表をすることができる。発表内容について議論をすることができる。発表と議論したことをレポートにまとめることができる。

【授業時間外の学習】グループで相談しながら研究テーマの資料を探し、発表の準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【到達目標】

児童文学の研究課題を自ら設定し、参考文献及び資料のリストアップの方法を身につけること。グループで研究し、発表をすることで学びあいができること。ディスカッションをすることができる。日本児童文学史の概要を理解すること。近代児童文学の誕生、『赤い鳥』の代表作家と作品、戦後児童文学作家と作品、反戦平和児童文学、現代児童文学の課題などについて理解することができる。児童文学創作をすることができる。発表を通して学んだことをレポートにまとめることができる。評価は発表とレポートの総合評価。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。授業形態はすべて演習。グループ研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。テーマ別に学年混合グループを編成し、グループで協力して研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容も盛り込んだレポートを作成して提出すること。夏季休業中の創作課題の準備をすること。
 ・発表資料は事前に学習支援システムに上げ、全員が資料を読み、質問は事前に同システムに上げておくこと
 ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの心得と今期の目標設定	ゼミに参加する心構えの確認。自己紹介。先輩からのアドバイス。目標設定。演習計画を立て、グループ編成。
第2回	自己紹介を含む研究資料作成について	資料の検索方法の紹介。図書館ガイダンスの場合もあり
第3回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン①	一人5分のプレゼンテーション。質疑応答 5分
第4回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン②	一人5分のプレゼンテーション。質疑応答 5分
第5回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン③	一人5分のプレゼンテーション。質疑応答 5分
第6回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン④	一人5分のプレゼンテーション。質疑応答 5分
第7回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン⑤	一人5分のプレゼンテーション。質疑応答 5分
第8回	研究計画の作成	グループごとに研究計画を作成し、資料収集
第9回	第1回ゼミ発表とディスカッション	第1グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第10回	第2回ゼミ発表とディスカッション	第2グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第11回	第3回ゼミ発表とディスカッション	第3グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。

第12回	第4回ゼミ発表とディスカッション	第4グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第13回	第5回ゼミ発表とディスカッション	第5グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第14回	ゼミ発表の総括 論文の書き方について	過去のレポートや論文を参考に、論文の書き方について講義。今期のゼミ発表から学んだことを発表し合い、各自の次の課題を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマを設定する。発表に向けてグループで立てた研究計画に応じて資料収集、資料整理などをして、発表準備を進める。グループで事前に発表内容を研究し、レジュメを作成する。発表資料は前週に学習支援システムに投稿。他のグループの発表で扱うテキストや資料については事前に読んで質問を学習支援システムに投稿する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『日本児童文学大系』『児童文学辞典』『日本児童文学成立序説』『少年文学の系譜』その他必要に応じて順次紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）20%

発表 50%

レポートはグループ発表を分担執筆でまとめる30%

【学生の意見等からの気づき】

発表に向けた取り組み段階におけるアドバイスを Hoppii や SNS などを通して行うこと
 グループでの話し合いを全体のものに広げること
 ゼミでの議論をレポートに生かすこと

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの SNS を作成し、全体の連絡情報交換などを行う。

【その他の重要事項】

秋学期との通年履修推奨。

卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to research Japanese and translated children's literature, its authors, their works, as well as the fundamentals and history of children's literature.

Learning Objectives: Students will decide on a theme in groups and be able to make presentations and discussions on the topic. They are to summarize what they presented and discussed in a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will discuss, research, and prepare to present their research topic in groups. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: class participation 20%; presentation 50%; final report (group shared writing) 30%.

LIT300BC

ゼミナール12B

三井 喜美子

授業コード：A2638 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期ゼミナール12Aを受け、個人の研究テーマを探求し、ゼミ発表を行う事ができる。

発表に関してディスカッションができるように、各テーマについての事前研究をすることができる。創作集の合評会を行い、児童文学についての理解を深める事ができる。

【到達目標】個人でテーマを決め、発表をすることができる。発表者は議論の課題を提起することができる。発表内容について議論をすることができる。発表と議論したことをレポートにまとめることができる。

【授業時間がの学習】研究テーマの資料を探し、発表の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【到達目標】

春期の研究を活かし、研究課題を新たに個人で設定し、発表をすることができる。発表者は議論の課題を提起することができる。発表内容について議論をすることができる。発表と議論したことをレポートにまとめることができる。研究をまとめて論文を作成する事ができる。

創作集の合評をし、創作活動を促進するとともに、児童文学の理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示に則り、状況によってオンラインの場合もある。授業形態は学習支援システムで随時伝達する。

授業形態はいずれも演習。個人研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。

春期の研究方法を活かし、個人で研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容を踏まえて、30枚程度の論文としてまとめる。

創作合評会を行い、創作意欲を持つ。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏季休暇中の課題の確認。創作と最近の注目作品。注目作品を紹介しあう	夏季休暇中の課題である創作を確認し、合評会の方法を決める。最近の話題作、注目作品を紹介する。各自5分程度
第2回	秋期のゼミ計画を立てる。個人発表。図書館ガイダンスの場合もあり	個人発表の準備
第3回	発表準備	各自発表に向けて計画を提示する
第4回	個人発表1	3年生の個人発表。2名
第5回	個人発表2	3年生の個人発表。2名
第6回	個人発表3	3年生の個人発表。2名
第7回	個人発表4	3年生の個人発表。2名
第8回	3年生の個人発表5	3年生の個人発表。2名
第9回	2年生の個人発表1	2年生の個人発表。2名
第10回	2年生の個人発表2	2年生の個人発表。2名
第11回	2年生の個人発表3	2年生の個人発表。2名
第12回	2年生の個人発表4	2年生の個人発表。2名
第13回	2年生の個人発表5。ゼミ活動の総括	2年生の個人発表。1名。ゼミ討議の総括
第14回	創作合評会。論文の書き方の確認	文集委員による進行で創作の合評会。レポート作成に向けて解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏季休暇中の課題として、創作を完成させることができる。最近の話題作、注目作を選定することができる

文集委員は創作集の編集をリードする。

3年生は卒論を意識して課題を設定し、個人発表を充実させることができる。

ゼミ発表の課題作品と資料を必ず事前に読み、質問を発表前に学習支援システムに投稿すること。当日はディスカッションができるようにすること。

書式と様式を守り、論文を書く事ができる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

児童文学用語集 児童文学事典

【参考書】

児童文学概論 児童文学用語集 日本児童文学史 世界児童文学史など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）20% 発表40% 論文20% 創作作品20% 未提出課題が一つあればマイナス50%

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション能力を高めること。

ディスカッションが活発にできるようにすること。

ゼミのコミュニケーションを大事にすること。

【その他の重要事項】

春学期との通年履修推奨。

卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: Following the contents of Spring Seminar 12A, the aim of this course is for students to pursue his/her personal research theme and conduct seminar presentations. Students will together evaluate the class's collection of created works and deepen their understanding of children's literature.

Learning Objectives: Each student will decide on a theme and make a presentation on the topic. The presenter will pose a topic of discussion and is able to discuss the topic. Students will write a final report based on what they presented and discussed.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are to research and prepare for the presentation of the chosen topic. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: class participation 20%; presentation 40%; report 20%; original creation 20%. (50% is deducted for each unsubmitted assignment.)

LIN300BC

ゼミナール13A

間宮 厚司

授業コード：A2639 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第2回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第3回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・発表（30%）・レポート（40%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善点はありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール13B

間宮 厚司

授業コード：A2640 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第2回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第3回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・発表（30%）・レポート（40%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特に不満はありませんでした。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール14A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2641 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第2回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第3回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・発表（30%）・レポート（40%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業でした。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール14B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2642 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第2回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第3回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつと指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・発表（30%）・レポート（40%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

6限なので、授業開始をもう少し遅くしてほしかった。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール15A

尾谷 昌則

授業コード：A2643 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

日常の言葉を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼春学期は、決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、コンコーダンスの使い方	様々なコーパスとツールの紹介
第 2 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 3 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表 1 (他已紹介)	各グループの自己紹介、他已紹介、テーマ紹介をする
第 5 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 6 回	論文レビュー 1 (定量的な観点からの分析)	定量的分析を行っている論文を読み、皆でその問題点について討議する
第 7 回	グループ発表 2 (先行研究とまとめ)	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第 8 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 9 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 10 回	論文レビュー 2 (意味変化の分析)	意味変化に関する論文を読み、皆でその問題点について討議する
第 11 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 12 回	2 年生 (学生 A, B, C, D, E) による論文リポート	2 年生に論文リポート (発表) をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 13 回	2 年生 (学生 F, G, H, I, J) による論文リポート	2 年生に論文リポート (発表) をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 14 回	グループ発表 3 (調査結果と提案の提示)	各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【1】課題論文の基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。【2】グループワークでは各自の分担を明確にし、毎週のミーティング時に報告し、グループに貢献すること。

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

- (1) 『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
- (2) 『日本語研究のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
- (3) 『日本文学大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で 3 回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント (Google クラウドでも可)。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」(国立国語研究所提供)の利用者登録しておくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%), discussions (30%), assignments (40%).

LIN300BC

ゼミナール15B

尾谷 昌則

授業コード：A2644 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze language grammatically.
現代日本語を客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

- (1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。
- (2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
- (3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自で決めたトピックについてデータを採取し、自分なりに分析し、研究発表を行う。全員で読むべき重要な論文の場合には、課題として要約レポートを書いてもらい、その添削を行いながら内容の確認とディスカッションを行う。数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表 1	3 年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表 2	3 年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表 3	3 年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表 1	2 年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文 1	定量的分析を行って論文を読む
第 6 回	コーパス実習 1	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表 2	2 年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文 2	言語変化について定量的に分析した論文を読む
第 9 回	コーパス実習 2	KWIC コンコーダなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表 3	2 年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表 4	3 年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表 5	3 年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表 6	3 年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表 4	2 年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に備え、各グループで毎週 1 回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などを報告すること。※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で 3 回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will study how to analyze language grammatically.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

LIN300BC

ゼミナール16A

尾谷 昌則

夜間時間帯

授業コード：A2645 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどとは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、KWIC の使い方	様々なコーパスの紹介を行う
第 2 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 3 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表 3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表 1 (他己紹介)	各グループの自己紹介、他己紹介、テーマ紹介をする
第 5 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 6 回	論文レビュー 1 (若者言葉の分析)	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する
第 7 回	グループ発表 2 (先行研究とまとめ)	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第 8 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 9 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 10 回	論文レビュー 2 (ポライトネスに関する若者言葉の分析)	若者言葉とポライトネスに関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 12 回	2 年生 (学生 A, B, C, D, E) による論文リポート	2 年生に論文リポート (発表) をしてもらい、その論文の問題点について討議する

第 13 回 2 年生 (学生 F, G, H, I, J) による論文リポート

2 年生に論文リポート (発表) をしてもらい、その論文の問題点について討議する

第 14 回 グループ発表 3 (調査結果と代案の提示)

各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題論文の基本用語・重要概念については事前に下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

【参考書】

- (1) 『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』(辻幸夫監修、ひつじ書房)
- (2) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』(李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版)
- (3) 『日本語文法大辞典』(山口明徳・秋本守英編著、明治書院)

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で 3 回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント (Google クラウドでも可)。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」(国立国語研究所提供) の利用者登録もしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代日本語における意味論、文法論、語用論、認知言語学

<研究テーマ>

認知言語学からみた意味拡張、文法化、構文ネットワーク

<主要研究業績>

「アマルガム構文としての『全然』+肯定」に関する語用論的分析 (『言葉と認知のメカニズム』 pp.103-115. ひつじ書房、2008 年)

「構文文法の歴史的背景と今後の展望」(『人間情報学研究』第 11 巻、pp.25-43. 2006 年)

「接続詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 — 認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

【Outline (in English)】

Course Outline: We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%), discussions (30%), assignments (40%).

LIN300BC

ゼミナール16B

尾谷 昌則

夜間時間帯

授業コード：A2646 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze language grammatically.
若者ことばを客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

(1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。(2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。(3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、2年生はグループ発表中心で、3年生は個人発表中心で行う。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 2 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 3 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 4 回	グループ発表 1 (先行研究)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 5 回	課題論文 1 (若者ことばの論文)	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する。
第 6 回	コーパス実習 (BCCWJ)	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について学ぶ。
第 7 回	グループ発表 2 (先行研究の問題点)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 8 回	課題論文 2 (文法化の論文)	若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読んで、その問題点を討議する。
第 9 回	コーパス実習 (KWIC 検索)	KWIC コンコーダなどの使用法を学ぶ。
第 10 回	グループ発表 3 (調査結果の提示)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 11 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 12 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 13 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 14 回	グループ発表 4 (提案の提示)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

グループ発表に備え、各グループで毎週 1 回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で 3 回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることとした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will study how to analyze language grammatically.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

LIT300BC

ゼミナール17A

中沢 けい

授業コード：A2647 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第 4 回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きま	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表 発表内容に対する質問を	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表 発表者に質問する前に、	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	受講生による発表 ときには脱線してお喋り	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきま	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	受講生による発表 ゼミ誌制作の進行具	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『東京百年物語』（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像 和重（編集）2018 年 11 月 17 日刊行 891 円
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

『地形で見る江戸・東京発展史』（ちくま新書）鈴木浩三
テキストを読みながら東京の地形について学びます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となる場合があります。あしからずご了解ください。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水水平線にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール17B

中沢 けい

授業コード：A2648 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	人によって読み方はさまざまです。
第11回	受講生による発表	自分の作品の理解者を探してみよう。
第12回	受講生による発表	作品はイメージ通りに書けましたか。
第13回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌

【参考書】

ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了解ください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール18A

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2649 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましよう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもありません。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 レジュメの作り方を研究してみましょう。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたついているといいのですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましよう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましよう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「東京百年物語」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像和重（編集）2018年11月17日刊行 891円
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三
テキストを読みながら東京の地形について学ばします。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加 50%ゼミ誌作品 50%。評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester; the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール18B

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2650 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジюмеにして提出してもらいます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	読みかたは人によって異なります。
第10回	受講生による発表	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第11回	受講生による発表	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第12回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう
第13回	受講生による発表	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうが良いのかを考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんのお本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール19A

藤谷 治

授業コード：A2651 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独自の作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	長篇を読む(1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	長篇を読む(2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	長篇を読む(3)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	長篇を読む(4)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	長篇を読む(5)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	長篇を読む(6)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	長篇を読む(7)	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	長篇を読む(8)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	長篇を読む(9)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	長篇を読む(10)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	長篇を読む(11)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	長篇を読む(12)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	長篇を読む(13)	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3割）と参加状況（2割）、創作の内容（5割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

LIT300BC

ゼミナール19B

藤谷 治

授業コード：A2652 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評(1)	合評と作者質疑。
第4回	創作合評(2)	合評と作者質疑。
第5回	創作合評(3)	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評(4)	合評と作者質疑。
第8回	創作合評(5)	合評と作者質疑。
第9回	創作合評(6)	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ!	文学的なものの調査。
第11回	創作合評(7)	合評と作者質疑。
第12回	創作合評(8)	合評と作者質疑。
第13回	創作合評(9)	合評と作者質疑。
第14回	創作合評(10)	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5割）と平常点（5割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

LIT300BC

ゼミナール20A

藤谷 治

夜間時間帯

授業コード：A2653 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	長篇を読む(1)	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	長篇を読む(2)	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	長篇を読む(3)	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	長篇を読む(4)	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	長篇を読む(5)	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	長篇を読む(6)	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	長篇を読む(7)	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	長篇を読む(8)	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	長篇を読む(9)	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	長篇を読む(10)	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	長篇を読む(11)	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	長篇を読む(12)	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	長篇を読む(13)	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3割）と参加状況（2割）、創作の内容（5割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC

ゼミナール20B

藤谷 治

夜間時間帯

授業コード：A2654 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評 (1)	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評 (2)	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評 (3)	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評 (4)	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評 (5)	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評 (6)	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ!	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評 (7)	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評 (8)	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評 (9)	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評 (10)	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC

ゼミナール21A

山口 和人

授業コード：A2655 | 曜日・時限：月 6/Mon.6
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的なヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。*本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション&オリエンテーション および自己紹介	ゼミ概要、講読テキスト指定と作品批評発表の割り当て
第2回	現代日本の小説読解・批評その1	名作短篇小説を合評。創作のヒント① 優れた小説とは？
第3回	現代日本の小説読解・批評その2	名作短篇小説を合評。創作のヒント② テーマ
第4回	現代日本の小説読解・批評その3	名作短篇小説を合評。創作のヒント③ プロット（ストーリー）
第5回	現代日本の小説読解・批評その4	名作短篇小説を合評。創作のヒント④ 小説構造
第6回	現代日本の小説読解・批評その5	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑤ 書き出し
第7回	現代日本の小説読解・批評その6	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑥ 登場人物
第8回	現代日本の小説読解・批評その7	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑦ 場所（セッティング・トボス）
第9回	現代日本の小説読解・批評その8 ゼミ誌制作の準備	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑧ 場面（シーン） 創作は「本」になって初めて原稿ではなく「作品」になります。
第10回	現代日本の小説読解・批評その9	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑨ 描写

第11回	現代日本の小説読解・批評その10	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑩ 会話
第12回	現代日本の小説読解・批評その11	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑪ 文体
第13回	現代日本の小説読解・批評その12	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑫ 視点
第14回	現代日本の小説読解・批評その13	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑬ 推敲 ※創作のヒントの各項目の扱い順は変動します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定・配布します。

【参考書】

特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】

クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%
無断欠席は3回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください）。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

Wordソフトを搭載したPCを使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】

【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萌、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT300BC

ゼミナール21B

山口 和人

授業コード：A2656 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！という“会心の作”を書いてみたいですね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的なヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トボス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティブ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】

- ・ひとつの小説作品を書けるようになる。
- ・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
- ・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
- ・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。春学期では既存の有名作家の作品を読みます。夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション&オリエンテーション	ゼミ誌の配布。 批評をリアクションペーパーとして提出しましょう。
第2回	創作作品の相互鑑賞	以降毎回、春学期で学んだ下記のポイント（創作のヒント）に着目して作品を読んでみましょう。
第3回	創作作品の相互鑑賞	テーマ（以下順不同）
第4回	創作作品の相互鑑賞	プロット（ストーリー）
第5回	創作作品の相互鑑賞	小説構造
第6回	創作作品の相互鑑賞	書き出し
第7回	創作作品の相互鑑賞	登場人物
第8回	創作作品の相互鑑賞	場所（セッティング・トボス）
第9回	創作作品の相互鑑賞	場面（シーン）
第10回	創作作品の相互鑑賞	描写
第11回	創作作品の相互鑑賞	会話
第12回	創作作品の相互鑑賞	文体
第13回	創作作品の相互鑑賞	視点
第14回	創作作品の相互鑑賞	推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
- ・リアクションペーパー執筆と事前提出。
- ・創作作品執筆とゼミ誌制作。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定・配布します。

【参考書】
特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】

クラス参加への積極性・貢献度50%、提出創作作品の評価50%
無断欠席は3回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください）。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

Word ソフトを搭載した PC を使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】

【プロフィール】

講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷲沢萌、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】

We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.

Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

【Learning Objectives】

- ・ Students will be able to write a novel.
- ・ Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
- ・ Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
- ・ Students will acquire accurate and rich writing expression.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIN300BC

ゼミナール22A

王安

授業コード：A2735 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール22では、言語学的観点から日本語と中国語における主な共通点・相違点や中国語の特徴について学びます。具体的には、文字、語彙、文法、言語行動など様々な側面から日本語と中国語を比較しながら、両言語のらしさとメカニズムを相対的に捉えます。

【到達目標】

- (1) 中国語に関する基礎的な知識を習得する。
- (2) 言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
- (3) テキストの内容を的確に解説し、発表・議論を通して、まとめる力とプレゼンテーション力を身に着ける。
- (4) 自ら問題点を発見し、情報・資料を収集、調査する力を身に着け、最終的に卒業論文の作成に役立つスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、講師が対照言語学及び日中対照研究について全体像を説明します。それから解説、プレゼン、ディスカッションを併用して授業を進めていきます。また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。また、初回の授業では、発表担当などを決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	ゼミの方針、授業内容、進め方に関して説明を行い、発表分担やグループ分けを決める。
第2回	講義	対照研究の方法、研究を行う際の注意点
第3回	グループ発表	3年生ミニ研究発表
第4回	論文精読及び解説、討論	重畳語関連（田梅 2014）
第5回	論文精読及び解説、討論	擬音語擬態語関連（王湘榕 2013）
第6回	論文精読及び解説、討論	役割語研究（深田 2022）
第7回	論文精読及び解説、討論	中国の新語・流行語（趙 2021）
第8回	論文精読及び解説、討論	「犬」に関する日中諺（王雪）
第9回	論文精読及び解説、討論	ことわざに見られる比喩の日中対照（銭 2019）
第10回	論文精読及び解説、討論	心的状態を表す英語の色彩語メタファー（新妻）
第11回	論文精読及び解説、討論	ネット用語の日中対訳（秦）
第12回	論文精読及び解説、討論	日中敬語
第13回	論文精読及び解説、討論	通訳、翻訳の視点から見る日中両言語における語順の逆転現象（朱 2020）
第14回	討論とまとめ	総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
2. 各グループでは各自の分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
3. 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間～6時間を標準とします。
4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントをしてください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。（hoppiiを確認してください）

【参考書】

- 王占華他（2004）『中国語学概論』駿河台出版社
- 相原茂他（1996）『中国語の文法書』同人社
- 杉村博文（1994）『中国語文法教室』大修館書店
- 井上優（2002）『対照研究と日本語教育』
- 『日本語と外国語との対照研究 X』国立国語研究所
- 石綿敏雄 高田誠（1990）『対照言語学』桜楓社
- 生越直樹（2002）『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会
- 大河内康内編（1997）『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- 寺村秀夫（1982）「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学10 外国語との対照』明治書院
- 松岡栄志・古川裕 監訳（2004）『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション40%（レジュメ+発表）+討論20%+期末レポート40%

*発表レジュメは授業前日（月曜日17：00）までにlineで全員あてに送ってください。

【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊は頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業およびzoom形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppiiにて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

- <専門領域>
対照言語学、現代中国語文法、認知言語学
- <研究テーマ>
形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究
- <主要研究業績>
「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社
「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのバースペクティブ』(中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社
第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版
「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

Course Outline: In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of Chinese language from a linguistic point of view.

Learning Objectives:

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese and Chinese.

3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- presentation: 40%
- discussion: 20%
- term-end report: 40%

LIN300BC

ゼミナール22B

王安

授業コード：A2736 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期では日中対照研究に関する重要なトピックを中心に、重要文献・論文を精読し、日中両言語の類似性及び相違点への理解を深める。

【到達目標】

1. 言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
2. 批判的に論文を読む力を身に付け、言語現象における問題発見力を養う。
3. 対照研究の研究方法を理論的かつ体系的に学び、その方法を用いて自分の興味ある言語現象を説明できるように研究力を向上させる。
4. 情報・資料を収集、調査する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行う。初回の授業で読む論文、発表担当を決め、レジュメの作り方や授業のやり方について説明を行う。それ以後一週間または二週間に論文1本のペースで講読していく。具体的には、参加者全員が各自論文を読み、分からない用語や概念があれば事前に調べておく。発表担当者は論文の要点を要約しレジュメ（A4 サイズ3～4枚）を用意する。発表担当者以外の学生は授業でコメント・質問ができるように準備をしておく（例えば質問リストを作成するなど）。

また、毎月ミニ研究発表会を行う。

なお、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容、進め方に関して説明を行い、読む論文・発表担当を決める。
第2回	研究発表	二年生のミニ研究発表（研究テーマと研究方法などについて）（その1）
第3回	研究発表	二年生のミニ研究発表（研究テーマと研究方法などについて）（その1）
第4回	論文精読、解説、討論	日中役割語について
第5回	論文精読、解説、討論	日中言語行動について
第6回	研究発表	三年生の発表（その1）
第7回	研究発表	三年生の発表（その2）
第8回	論文精読、解説、討論	日中メタファーについて
第9回	論文精読、解説、討論	日中翻訳について
第10回	論文精読、解説、討論	日中外来語について
第11回	研究発表	二年生の発表（その1）
第12回	研究発表	二年生の発表（その2）
第13回	研究発表	三年生の発表（その1）
第14回	研究発表	三年生の発表（その2）、期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。

2. 各グループでは各自の発表分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。

3. 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間～6時間を標準とします。

4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントをしてください。

5. 課題を課す場合があるので、しっかり調べて準備すること。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

【参考書】

○王占華他（2004）『中国語学概論』駿河台出版社

○相原茂他（1996）『中国語の文法書』同友社

杉村博文（1994）『中国語文法教室』大修館書店

井上優（2002）『対照研究と日本語教育』

『日本語と外国語との対照研究 X』国立国語研究所

石綿敏雄 高田誠（1990）『対照言語学』桜楓社

生越直樹（2002）『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会

大河内康内編（1997）『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版

寺村秀夫（1982）「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学10 外国語との対照』明治書院

松岡栄志・古川裕 監訳（2004）『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション40%（レジュメ+発表）+討論20%+期末レポート40%

*発表レジュメは授業前日（月曜日17：00）までにメールで全員あてに送ってください。

【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊はよく使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。

2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのパスバケティヴ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社

第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

Course Outline: In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of Chinese language from a linguistic point of view.

【Learning Objectives:】

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese and Chinese.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- presentation: 40%
- discussion: 20%
- term-end report: 40%

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第1回授業、各回の授業内容などについてH o p p i i上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要 自然と文化の共生	授業全体の概説 賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城 国風土記の神話
第2回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第3回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第7回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第8回	ヤロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	神々と出会う《人》	同前
第13回	神々と出会う《時》	同前
第14回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。

書籍がない場合は電子書籍を購入すること

※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google版を除く）

スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。

ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回60点）に平常点（40点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture is about the mythological world of ancient Japan. Learn how the ancients saw, felt, and thought in ways that we today have lost sight of.

Learning Objectives: The objectives of this lecture course are: to ascertain the meaning of why we have created a way of thinking called mythology; and to learn how to decipher documents to understand the mythological world of ancient Japan.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

万葉集読解の基礎的方法を身につける。ことばの面白さと重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きただけでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みしました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。授業形態は「対面あり」となっていますが、当面はオンライン zoom 授業で行います。新型コロナウイルス感染の状況が落ち着いてきた場合には「対面」授業を行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント教材など、Hoppi 上で確認してください。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回、60 点）と平常点（40 点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will explore humanity in ancient Japan, through the study of *Man'yōshū*.

Learning Objectives: To acquire basic methods for reading *Man'yōshū*. To understand how interesting and important words can be.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代C

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2659 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の和歌をテーマごとに読み進める。時代背景、文字表記などを確認しつつ、『万葉集』の和歌表現、延いては古代の人々の世界観に対する理解を深める。

【到達目標】

『万葉集』に載る歌の、用語や文法について詳細に学び、当時の人々が和歌の表現にどのような工夫をしているのかを確認することで、歌の作者の心情に迫ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業で配布するプリントを見ながら学習する。毎回アクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業方針の説明
第 2 回	古代文学史・『万葉集』概説（1）	散文について
第 3 回	古代文学史・『万葉集』概説（2）	韻文について
第 4 回	古代文学史・『万葉集』概説（3）	第一期について
第 5 回	古代文学史・『万葉集』概説（4）	第二期について
第 6 回	古代文学史・『万葉集』概説（5）	第三期について
第 7 回	古代文学史・『万葉集』概説（6）	第四期について
第 8 回	『万葉集』の文字表記と訓み（1）	難訓万葉歌・万葉仮名について
第 9 回	『万葉集』の文字表記と訓み（2）	略体歌について
第 10 回	『万葉集』の文字表記と訓み（3）	義訓・戯書について
第 11 回	『万葉集』の文字表記と訓み（4）	表記と修辞技法の関連性
第 12 回	『万葉集』の修辞技法（1）	枕詞・序詞について
第 13 回	『万葉集』の修辞技法（2）	『万葉集』における縁語・掛詞とは
第 14 回	試験・まとめと解説	論述試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、学んだ内容を自分の中に定着させるべく、授業内容を復習しておく。配布資料内の古典の原文がしっかり解釈出来る状態にあるか確認すること。授業中紹介された「参考文献」を中心に、授業に関わる文献を適宜読みさらに理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布するので、テキストを用意する必要はない。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %・期末試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

授業後、もしくはリアクションペーパーで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *waka* poems from *Man'yōshū* (*Anthology of Myriad Leaves*) sorted by theme. While confirming the historical background, methods of writing, etc., students will deepen their understanding of the *waka* expressions in *Man'yōshū* and the worldview of the ancient people.

Learning Objectives: By learning the terminology and grammar of the poems in the *Man'yōshū* in detail and confirming the ingenuity of the people of the time in composing and expressing *waka*, students will be able to approach the emotions of the authors of the poems.

Learning Activities Outside of the Classroom: After class, students should review the contents of the class in order to consolidate what they have learned in their own minds. Students should make sure that they are in a position to interpret the original classical texts in the handouts. Students are expected to deepen their understanding by reading the references introduced in class and other class-related literature as appropriate.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: regular marks (20%); final exam (80%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代D

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2660 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の和歌をテーマごとに読み進める。『万葉集』で確認出来る伝承や、東歌・防人歌といった地方の歌を学びながら、『万葉集』の和歌表現、延いては古代の人々の世界観に対する理解を深める。

【到達目標】

当時の人々の発想、感覚と、現代の我々のそれとの擦れを意識しながら読解を進めることで、『万葉集』の歌を正しく解釈する力がつくと同時に、固定観念に囚われることなく古典作品に向き合うことが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業で配布するプリントを見ながら学習する。リアクションペーパーの提出を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	万葉で語られる伝承（1）	大和三山について
第2回	万葉で語られる伝承（2）	伝承の話型
第3回	万葉で語られる伝承（3）	恋と夢について
第4回	万葉で語られる伝承（4）	タブーについて
第5回	万葉で語られる伝承（5）	平安文学との比較
第6回	万葉で語られる伝承（6）	女達の描かれ方
第7回	『万葉集』巻十六の特殊性（1）	平安物語の萌芽
第8回	『万葉集』巻十六の特殊性（2）	相手の短所を笑う歌
第9回	『万葉集』巻十六の特殊性（3）	漢字を駆使した技巧
第10回	東国の歌（1）	訛りと方言
第11回	東国の歌（2）	鄙の世界の恋愛
第12回	古代の死生観（1）	記紀における死の表現
第13回	古代の死生観（2）	挽歌の表現
第14回	試験・まとめと解説	論述試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、学んだ内容を自分の中に定着させるべく、授業内容を復習しておく。配布資料内の古典の原文がしっかり解釈出来る状態にあるか確認すること。授業中紹介された「参考文献」を中心に、授業に関わる文献を適宜読みさらに理解を深める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布するので、テキストを用意する必要はない。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

授業後、もしくはリアクションペーパーで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *waka* poems in the ancient collection *Man'yōshū* (*Collection of a Myriad Leaves*) according to theme, and appreciate their means of expression.

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire and understanding of the ancients' view of the world. Students will develop the ability to interpret the poems of the *Man'yōshū* correctly, and, at the same time, learn how to approach classical works without being bound by stereotypes.

Learning Activities Outside of the Classroom: After class, students should review the contents of the class in order to consolidate what they have learned, confirming that they can interpret the original classical texts in the handouts. Students are expected to deepen their understanding by reading references introduced in class, as well as other class-related literature as appropriate.

Grading Criteria/Policy: regular marks (20%), final exam (80%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では『源氏物語』の入門講座として、物語の表現に触れることを通じて、作品の概容やその魅力・文学的達成・文学史的意義についての理解を深めていくことを目指します。具体的には、物語の第一部と呼ばれる光源氏の生涯の前半生を描いた部分について、巻々の名場面を取り上げ講読し、その表現世界を味わっていきます。古典作品を読むのに必要な基礎知識の習得や確認につながるような授業にしたいと思います。

【到達目標】

- ①『源氏物語』の表現に触れ、その物語世界について知ることで、この作品の文学的な達成や文学史的意義について理解する。
- ②古典文学の本文を読んでいくことで、古語や文法についての理解を深め、また古典作品を読むにあたって必要な平安期の習俗や歴史などについての知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを配布し講義を行います。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、リアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに書かれた意見の紹介や質問への解答を通じてフィードバックを行います。
- ・授業は対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと『源氏物語』について	授業内容・方針・方法などについての説明を行い、『源氏物語』の基礎的な知識の確認
第 2 回	桐壺巻冒頭を読む	光源氏の誕生前史にあたる、桐壺帝による桐壺更衣への寵愛ぶりを語る物語の冒頭を講読する。
第 3 回	帚木巻を読むー雨夜の品定とは	第二巻目の帚木巻に書かれた雨夜の品定について考察する。
第 4 回	夕顔巻冒頭を読む	巻の冒頭の夕顔歌について、その解釈の揺れなども含めて講義を行う。
第 5 回	夕顔巻ー夕顔怪死の場面を読む	夕顔怪死の場面を読み、物の怪の出現の意味について考える。
第 6 回	若紫巻を読む	源氏が若紫君（のちの紫の上）を垣間見する場面を中心に講読する。
第 7 回	紅葉賀巻を読むー藤壺と源氏について	紅葉賀巻の青海波の舞の場面などの読解を通じて、光源氏と藤壺との関係について考えていく。
第 8 回	葵巻を読む	葵巻における物の怪出現の場面を中心に、読んでいく。
第 9 回	賢木巻を読む	源氏不遇の時期の物語を、朧月夜との密会発覚の場面を中心に確認していく。
第 10 回	須磨巻を読むー配所における光源氏	光源氏の失意の日々を描いた須磨巻で、古来名文とされてきた場面を中心に取り上げ、鑑賞する。

- 第 11 回 明石～松風巻を読む 光源氏が都へ復帰し、政治家として振り返っていくといった物語の内容を、要点を抑えつつ概観する。
- 第 12 回 薄雲巻・朝顔巻を読む 藤壺の死について書かれた場面を読み、その波紋について考える。
- 第 13 回 少女巻・玉鬘十帖前半の物語についての概観 光源氏の建てた六条院という壮麗な屋敷で展開される栄華の世界と新たなヒロインの投入による波紋を確認していく。
- 第 14 回 玉鬘十帖後半から梅枝・藤裏葉巻の物語の概観／第二部の物語粗描 第一部の大団円にむけての物語世界について確認し、第二部の物語とどのようにつながっていくのかということなどについても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としてはスムーズに授業内容に対応できるように、各回授業の前に取り上げる巻の内容や出てくる登場人物などについて調べておいてください。また授業後には、授業内容を振り返って整理し、より深く掘り下げて主体的に学ぶべく、関連論文などにあたって学びを深めてください（参考論文については授業時にも紹介します）。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講師作成の文書を配信します。

【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）は、系図や巻の順番ごとの要約、物語の年表など、簡便な事典のようにして使えます。林田孝和他編集『源氏物語事典』（大和書房 2002）などはキーワードから物語世界についての知識を得ることができます。物語世界を概観するには、中野幸一『源氏物語みちしるべ』（小学館 1997）、高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）などがあります。また原文を読みたい人には、入手しやすいテキストとして岩波文庫『源氏物語』（柳井滋他校注 2017 から刊行中）や角川ソフィア文庫のものなどがあります。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。<http://www.iz2.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に課すリアクションペーパーや小課題による評価が70%、期末のまとめ課題による評価が30%とします。評価のポイントは、課題への取り組み姿勢と授業内容の理解度の深浅に拠ります。なお課題の提出が三分の二以上であることを単位修得のための必須条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけたいと思います。なお授業に関しての質問や意見にはフィードバックとして次回の授業冒頭で対応をするようにします。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will read *Genji monogatari* (*The Tale of Genji*) by Murasaki Shikibu. Since the story is long, we will focus on the first half of the life of the main character, Hikaru Genji: a story of overcoming setbacks and attaining glory. By carefully reading famous scenes of this work, we will discover what this great work of literature accomplished, the power of its excellent expression and ingenuity, and how it has managed to captivate people throughout the ages.

Learning Objectives: The goals of this lecture course are for students: (1) to understand the literary achievement and historical significance of *The Tale of Genji* by experiencing its expressions and learning about the world of the tale; and (2) to deepen their understanding of ancient language and grammar, and broaden their knowledge of the customs and history of the Heian period, which is necessary for reading classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the relevant chapters of the text. After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content, and complete assignments. These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a long report (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ◆テーマは、『源氏物語』と現代の作家たちです。
- ◆20世紀の小説家や随筆家たちが、どのように『源氏物語』を訳し、どのように『源氏物語』を増補改変して来たのか、考察してゆきます。

【到達目標】

1. 『源氏物語』が孕む問題点を理解する。
2. 作家たちの翻訳方法や創作技法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆プリントを配布し、講義形式で進めます。
- ◆毎回、リアクションペーパーに意見や疑問を書いてもらい、それを次講で解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	小説家が古典を自由に翻訳する
2	町田康ほか	『源氏物語 九つの変奏』
3	円地文子	『源氏物語私見』
4	田辺聖子	『新源氏物語』
5	橋本治	『窠変源氏物語』
6	瀬戸内寂聴	『藤壺』
7	丸谷才一	『輝く日の宮』
8	大塚ひかり	『源氏物語』
9	林望	『謹訳源氏物語』
10	毬矢まりえ&森山恵	A・ウェイリー英訳
11	江川達也ほか	漫画『源氏物語』
12	与謝野晶子	『新新訳源氏物語』
13	谷崎潤一郎	『夢の浮橋』
14	古川日出男	『紫式部日記』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◆授業で取り上げられた本を、入手して、読んでください。
- ※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

- ▼以下の入門書を推薦します。
- ◎小泉吉宏『まる、ん？ 一大掴源氏物語―』（幻冬舎）
- ◎竹内正彦『図説 あらすじと地図で面白いほどわかる！ 源氏物語』（青春新書）
- ◎高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）
- ▼『源氏物語』の原文と現代語訳は、以下に収められています。
- ◎『源氏物語』全9冊（岩波文庫）
- ◎『源氏物語 現代語訳付き』全10冊（角川ソフィア文庫）
- ◎『新潮日本古典集成 源氏物語』全8冊（新潮社）
- ◎『新編日本古典文学全集 源氏物語』全6冊（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- ◆期末レポート（72%）。『源氏物語』の現代語訳や二次創作物を分析する小論文を書いてもらいます。

- ◆リアクションペーパー（28%）。毎回、アイデアや疑問点などを書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

- ◆『源氏物語』だけでなく、その他の古典、さらには、20～21世紀の文学・文化・思想も、積極的に取り挙げます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The theme of this lecture course is “*The Tale of Genji* and Modern Writers.” We will examine how novelists and essayists of the 20th century translated *The Tale of Genji* and modified it as they did so.

Learning Objectives: The goals of the course are the following two points:

- understanding the issues of *The Tale of Genji*; and
- understanding the translation methods and creative techniques of the authors.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を考察し、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	配列の問題について
第4回	『百人一首』の謎	藤原定家について
第5回	『百人一首』の謎	和歌史の流れ
第6回	『百人一首』講読	二条派の歌人について
第7回	『百人一首』講読	天皇の和歌について
第8回	『百人一首』講読	歌合での和歌について
第9回	『百人一首』講読	40「しのぶれど」歌・41「こひすてふ」歌について
第10回	『百人一首』講読	題詠について
第11回	『百人一首』講読	女流歌人の和歌について
第12回	『百人一首』解説	89「たまのをよ」歌
第13回	『百人一首』解説	男歌・女歌について
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）。

その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）

角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）

その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、また、中世・近世で『百人一首』がどのように享受されていたかについて検討し、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』講読	成立について
第3回	『百人一首』講読	中世・近世の古注釈について
第4回	『百人一首』講読	六歌仙の和歌について
第5回	『百人一首』講読	8「わがいはは」歌について
第6回	『百人一首』解説	「然ぞ」か「鹿ぞ」か
第7回	『百人一首』解説	9「はなのいろは」歌について
第8回	『百人一首』解説	12「あまつかぜ」歌について
第9回	『百人一首』解説	17「ちはやぶる」歌について
第10回	『百人一首』解説	「括る」か「潜る」か
第11回	『百人一首』解説	22「ふくからに」歌について
第12回	『百人一首』解説	『百人一首』と絵画の関係について
第13回	『百人一首』解説	『百人一首』とカルタ
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、角川学芸出版、1999 年）。

その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983 年）
角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、角川学芸出版、2010 年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世C

阿部 亮太

夜間時間帯

授業コード：A2667 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の「中世」は平安時代末期の源平合戦、「治承・寿永の乱」に始まります。この合戦に取材したのが、日本古典文学の傑作の一つ『平家物語』です。本授業では、それらのなかから主要な伝本の原文を読みます。そして、各作品の特徴や、それらの生み出された歴史的背景を理解することで、『平家物語』の作品世界を概観し、中世文学の一側面を捉えてみたいと思います。

【到達目標】

1. 『平家物語』を原文で読み、その内容（構想・構成・表現の特徴等）を理解し、説明する力を身につける。
2. 作品の成立する歴史的背景（当時の思想・文化等）を的確に把握した上で、作品世界を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回、作品の解題と本文の読解を行います。授業終盤にはコメントカードを記入、提出していただきます。そこで受けた質問などには、次回授業の冒頭で回答する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「軍記物語」概説	授業の進め方と「軍記物語」の概説。
第 2 回	「平家物語」概説	『平家物語』 諸本・研究史の概説。
第 3 回	語り本系『平家物語』①	覚一本講読。
第 4 回	語り本系『平家物語』②	覚一本講読。
第 5 回	語り本系『平家物語』③	覚一本講読。
第 6 回	語り本系『平家物語』④	覚一本講読。
第 7 回	語り本系『平家物語』⑤	覚一本講読。
第 8 回	語り本系『平家物語』⑥	覚一本講読。
第 9 回	語り本系『平家物語』⑦	覚一本講読。
第 10 回	語り本系『平家物語』⑧	覚一本講読。
第 11 回	読み本系『平家物語』①	延慶本講読。
第 12 回	読み本系『平家物語』②	延慶本講読。
第 13 回	読み本系『平家物語』③	源平盛衰記講読。
第 14 回	授業内試験	春学期授業のまとめと授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品の一部を扱うため、前後の文脈は各自で確認してください。また、原文を読むため、高等学校国語科（古典）程度の古典文法や、高等学校社会科（日本史）程度の基礎知識を理解しておくことよいでしょう。予・復習は各 2 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業でプリントを配布します。

【参考書】

- ・佐伯真一氏『三弥井古典文庫 平家物語』上・下（三弥井書店 1993・2000）
- ・延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』1—12（汲古書院 2005—19）
- ・栃木孝惟氏ほか編『校訂延慶本平家物語』1—12（汲古書院 2000—09）
- ・市古貞次氏ほか校注『中世の文学 源平盛衰記』1—7（三弥井書店 1991—2015）未完
- ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010）
- ・『日本古典文学大辞典』1-6（岩波書店 1983-85）
- ・『日本古典文学大事典』（明治書院 1998）
- ・久保田淳氏編『日本古典文学辞典』（岩波書店 2007）

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するコメントカード 40 %と、期末試験 60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: The Middle Ages of Japan began with the Genpei wars, otherwise known as the disturbances of the Jishō and Juei years, at the end of the Heian period (late 12th century). *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*) deals with these wars. In this class we will read major variants of the tale in their original forms. By understanding the characteristics of each variant and the historical background in which it was created, we will gain an overview of the world of *The Tale of the Heike* and grasp an important aspect of medieval literature.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Read the original text of *The Tale of the Heike*, and understand and explain its content (plot, composition, expression characteristics, etc.); and
2. Understand and explain the world of the tale based on a proper understanding of its historical background (the thought and culture of the period, etc.).

Learning Activities Outside of the Classroom: Since we will work with passages from a literary work, students should acquaint themselves with the context of the passages. To read the original text, you will need to have basic knowledge of classical Japanese grammar at high school level and basic knowledge of Japanese history at high school level. Preparation and review will require about 2 hours.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated as follows: in-class contribution (40%), and term-end examination (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。
江戸時代中期、18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。さまざまなジャンルに触れつつ、知識を基盤としてそれと戯れる笑いの技法のさまざまなふまえて実際に作品を読み解くことで、表現技法の多様性とこの時代の文芸の特質を探る。

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100 分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「江戸っ子」誕生の時代背景を知る。
第 2 回	時代背景 洒落本①	江戸の遊里事情を知り、作品のさまざまなを読む。
第 3 回	洒落本②	江戸人の美学、「通」の概念を考える。
第 4 回	黄表紙①	赤本、黒本・青本という草双紙を「戯作」化したこのジャンルの基本的な性格を学ぶ。
第 5 回	黄表紙②	一例として『仮名手本忠臣蔵』のパロディ『案内手本通人蔵』を講義する。
第 6 回	狂詩	漢詩の形式に俗語をはめ込んだ狂詩のおもしろさを知る。
第 7 回	狂歌①	中世以来の狂歌の歴史に触れ、さまざまな作品を読み解く。
第 8 回	狂歌②	百物語の代わりに、妖怪を題に百首の狂歌を詠んだ『狂歌百鬼夜行』を読み解く。
第 9 回	滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬の試みについて学ぶ。
第 10 回	滑稽本②	『平家物語』敦盛最期をちやかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む。
第 11 回	合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学ぶ。
第 12 回	合巻②	なかでも『源氏物語』の近世番として著名な『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の前半を読む。
第 13 回	合巻③	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む。
第 14 回	まとめ	この時代の文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクション・ペーパーは終了後 10 分程度かけましょう。期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに 3 回程度の小課題を出します。
本授業の準備学習は 30 分・復習時間は平均して 3 時間程度を標準に考えます。
成績評価がアップグレード(?) できる任意課題として、「没後 200 年 江戸の知の巨星 大田南畝の世界」(たばこと塩の博物館・押上 / 4 月 29 日(土)～6 月 25 日(日)) 見学レポートを出します(チケットは配付します)

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』(集英社インターナショナル [インターナショナル新書], 2019)
この時代の文芸についてのまとまった解説があります。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー (Hoppii 40 %)、計 4 回の課題の得点 (60 %) を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と(予習も含めた)個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください!

【学生が準備すべき機器他】

教室の対面授業をメインとしますが、オンライン(双方向)併用も想定して実施します。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も(スマホでもいいのですが)、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。
図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。(授業内で接続方法は案内します)

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらって各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing comic works from late 18th-century Edo (modern Tokyo) to discover the diversity of literary style, vocabulary and expressions in them.

Learning Objectives: The main goal of this course is to become familiar with each genre of literature of the time, understanding the skills applied in them and the various means of expression they make use of. Students also learn how to utilize digitalized materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. Four short reports are also required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世B

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がり学ぶ。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で4回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男女の悲恋を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を理解する。
第7回	さまざまな「忠臣蔵もの」	「忠臣蔵」から派生した作品の諸相に触れる。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第13回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。

第14回 まとめ 「忠臣蔵もの」「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。
のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。

授業外に提出課題を課すことがある。

本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）

『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）

『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）

その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40%

小課題（×4回）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けないが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura (The Treasury of Loyal Retainers)* and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshingura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo-e*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 4 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (4): 60%.

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世D

宮本 祐規子

夜間時間帯

授業コード：A2672 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「怪異」を取り上げる。近世の前期小説である浮世草子を中心に、仮名草子・読本・演劇といったジャンルにおける怪異を扱う作品を読む。一読してすぐに怖い話というよりは、不思議な話に見えるが、よく考えると「恐怖」を感じるような作品を考察したい。また、現代のホラーとは何が共通し、何が違うのかを考えてみてほしい。また、仮名草子・浮世草子は比較的読みやすい板本なので、受講者はくずし字で原文を読むことを目指したい。

【到達目標】

- ①近世期の原本に触れ、くずし字を読むことが出来る。
- ②近世文学に描かれた文化的背景について知る。
- ③井原西鶴を中心に、仮名草子・上田秋成・近世演劇の怪異を描く作品を紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作・簡単なくずし字小試験などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代 くずし字の基本	近世の文化的・経済的背景 くずし字の基本的知識
第 2 回	仮名草子の短編怪談集	初期の素朴な怪談集・百物語について
第 3 回	浮世草子『西鶴諸国はなし』①	西鶴の描きたい「不思議」とは何か
第 4 回	『西鶴諸国はなし』②水筋のぬげ道	女性の怨みの晴らし方
第 5 回	『西鶴諸国はなし』③夢路の風車	桃源郷の理想と現実
第 6 回	『西鶴諸国はなし』④楽みの男地蔵	愛の境界線を探る
第 7 回	『西鶴諸国はなし』⑤行末の宝船	人間の欲望と末路
第 8 回	『西鶴諸国はなし』⑥面影の焼残り	西鶴の描く蘇生譚
第 9 回	『西鶴諸国はなし』⑦身を捨てる油壺	伝説と現実
第 10 回	浮世草子の怪談と笑話	恐怖を突き詰めれば（笑）となるか
第 11 回	読本『雨月物語』①吉備津の釜	中国と日本における恐怖
第 12 回	『雨月物語』②浅茅が宿	男が描く、女の一念
第 13 回	演劇の怪談	四谷怪談 お岩と『仮名手本忠臣蔵』
第 14 回	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料に事前に目を通すことは必須。授業内の提出課題だけでなく、次週までにレポート・創作課題などの提出を課すことがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Before class, students read the materials to be distributed in advance. There may be assignments and creative exercises given for submission by the next class. The standard learning and review time for lessons is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社）、『近世怪異小説研究』（太刀川清著、笠間書院）、『新編日本古典文学全集 西鶴集』（小学館）、『新潮日本古典集成 上田秋成集』（新潮社）など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 52 %（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験 48 %（期末試験は、持ち込み不可・記述式、1 時間の試験を行う。）

Performance in class 52% (including short assignments, reaction papers, etc.); exam 48%.

【学生の意見等からの気づき】

近世文学に関する情報提供をもっと多く望む声もあったので、歌舞伎や文楽などの上演情報なども適宜紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course takes up the theme of *kaii* (lit. 'the strange and mysterious'). We will read works on this theme in the early modern literary genre of *ukiyo zōshi*, and related literary and theatrical genres. These works seem mysterious rather than immediately frightening upon first reading, but on closer examination are "terrifying" in their own right. We will also consider what features they share with contemporary horror stories, and what distinguishes them. We will use the original, illustrated print versions as much as possible, since their texts, written using *kuzushi-ji* with abbreviated and cursive characters, are not so difficult to read.

Learning Objectives: During this course, students:

- (1) will learn to read *kuzushi-ji* characters as used in the original early modern editions;
- (2) learn about the cultural elements depicted in the illustrations; and
- (3) learn to appreciate the interesting and diverse nature of these works of the early modern period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before class, students read the materials distributed in advance. There may be assignments and creative exercises given for submission by the next class. The standard learning and review time for lessons is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class 52% (including short assignments, reaction papers, etc.); exam 48%.

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代A

佐藤 未央子

授業コード：A2673 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1910～20年代の大衆文化を題材にした谷崎潤一郎の短編小説を取り上げる。日本を代表する小説家である谷崎潤一郎は、当時最先端の文化や芸術を作品に積極的に取り入れた。そのサブ・カルチャー的な世界観や、尖端的なジェンダー・セクシュアリティ表現、メディアを横断した活動の実態を学ぶことで、近現代の文化や社会に対する批評眼を養う。また作品読解を通して、戦前の検閲や既成道徳とはいかなるものであったかも学び、文学がいかなる力を持ちうるかを考察を深める。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（内務省検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／谷崎潤一郎の作家性と作品について
第2回	「秘密」①	小説の舞台となる盛り場・浅草の文化について学ぶ。
第3回	「秘密」②	作中で言及される海外文学や思想の内容を確認する。
第4回	「秘密」③	語り手が行う異性装の同時代的意義を考察する。
第5回	文学・映画の表現規制①	文学・映画に対する内務省検閲の実態を取り上げ、特徴を比較する。
第6回	文学・映画の表現規制②	谷崎の作品において、実際にどのような表現が規制されたかを具体的に確認する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	近代女優の誕生	日本近代演劇・映画において、女優という存在がいかに創られてきたのかを学ぶ。
第9回	「人面疽」①	女優の身体表象について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。
第10回	「人面疽」②	作中映画におけるエキゾチズムとその問題について、日米関係をふまえて分析する。
第11回	「人面疽」③	ヴァルター・ベンヤミンの理論をもとに、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。
第12回	谷崎潤一郎の映画製作①	谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。
第13回	谷崎潤一郎の映画製作②	谷崎が映画化を手がけた、泉鏡花の短編「葛飾砂子」を読む。
第14回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

谷崎潤一郎「秘密」 https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/57349_60032.html（青空文庫）

ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンズ（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
- ・五味潤典編『言葉を食べる 谷崎潤一郎、1920-1931』（2009、世織書房）
- ・山中剛史『谷崎潤一郎と書物』（2020、秀明大学出版会）
- ・佐藤未央子『谷崎潤一郎と映画の存在論』（2022、水声社）

ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

・学期末テスト：60%

テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じた資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will focus on Tanizaki Jun'ichirō's short stories about popular culture of the 1910s and 20s. Tanizaki Jun'ichirō, one of Japan's leading novelists, actively incorporated the latest culture and art into his works. By learning about its subcultural elements, gender and sexual expression, and cross-media activities, students develop a critical eye for modern and contemporary culture and society. They also learn about pre-war censorship and established morality.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret the primary sources in history.
- Explain about censorship by the Home Ministry.
- Use knowledge of modern culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%), in-class contribution (40%).

LIT200BC

日本文学研究特講（5）近代B

佐藤 未央子

授業コード：A2674 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

谷崎潤一郎の小説は、1930年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性（女優）の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（内務省/GHQ 検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：アダプテーションとは何か	授業内容と進め方に関する説明。文学作品から多様な形に変換されていく「アダプテーション」（翻案）行為の意義について考える。
第2回	「蛇性の姪」①	谷崎が「雨月物語」をいかに翻案したのか、脚本を分析する。
第3回	「蛇性の姪」②	谷崎の脚本と溝口健二監督「雨月物語」を比較し、それぞれの主題を考察する。
第4回	「春琴抄」①	1930年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。
第5回	「春琴抄」②	昭和から平成の映画化を具体的に確認し、原作と比較する。
第6回	「春琴抄」③	「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味について考察する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	「盲目物語」①	ひらがなを多用した谷崎独自の文体と、歴史を語る手法について学ぶ。
第9回	「盲目物語」②	戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのか分析する。
第10回	「痴人の愛」①	戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。
第11回	「痴人の愛」②	戦後の映画化で、ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。
第12回	「卍」①	女性同性愛の表象について、谷崎による戦前の小説と、戦後の映画版ではいかなる差異がみられるか分析する。
第13回	「卍」②	ナチス政権下のドイツを舞台とした映画化を取り上げ、日本版と比較検討する。
第14回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎「春琴抄」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56866_58169.html
- ・谷崎潤一郎「盲目物語」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56868_58745.html
- ・谷崎潤一郎「痴人の愛」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/58093_62049.html

・谷崎潤一郎「卍」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56873_62035.html

(以上、青空文庫)

・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンズ（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）

・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）

・佐藤未央子

・北村匡平『スター女優の文化社会学 戦後日本が欲望した聖女と魔女』（2017、作品社）

・田中純一郎『日本映画発達史』3～5巻（1976、中央公論社）

ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

・学期末テスト：60%

テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じた資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichirō's novels were made into movies. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actresses' performance. We discuss the new aspects of the film adaptation of literature and its ripple effects, as well as the representation of actresses reflecting social situations.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret primary sources in history.
- Explain about censorship by GHQ/SCAP.
- Use knowledge of postwar culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%), in-class contribution (40%).

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編み込まれた性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第 7 回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第 8 回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第 9 回	鷗外と女性たち	鷗外と明治大正期の女性表現者たちとのかかわりを知る
第 10 回	鷗外と第一波フェミニズム(1)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「さへづり」を読む
第 11 回	鷗外と第一波フェミニズム(2)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「なのりそ」「団子坂」その他を読む
第 12 回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第 13 回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげた作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。

。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鷗外女性論集』（不二出版）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料と視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文学研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先：fujiki@olive.ocn.ne.jp

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」をめぐる私小説としての受容について
第 3 回	森鷗外「半日」の戦略	設定とプロットを検討し、「半日」のテーマを考える
第 4 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラメント	森しげ（鷗外後妻）へのハラメントについて知る
第 5 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014) の鑑賞
第 6 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	鑑賞の続きと解説
第 7 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下で書かれた鷗外作品の概略を知る
第 8 回	森しげ「波瀾」の戦略と「あだ花」の宛先	森しげの代表作を読む
第 9 回	鷗外・しげのインターテクスチュアリティ	二作家の作品群のテキスト間相互関連性について知る
第 10 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	「お鯉さん」に描かれた女性から女性への欲望の様相を読む
第 11 回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(1)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された鷗外作品について
第 12 回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(2)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された森しげと与謝野晶子の作品について
第 13 回	鷗外と与謝野晶子	自然主義時代における与謝野晶子の活動と鷗外との関係について
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context.

2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2679 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦時下の日本文学を読む

「戦時下の文学」というどのような文学を思い浮かべるだろうか。多くの人は国策・戦争に協力した文学が大量生産された不毛の時代を思い浮かべると思う。たしかに表現で戦争に抵抗することは重要だが、しかしそれを戦時下の表現に求める事は難しい。亡命でも出来れば別だが、職業作家は検閲でマークされると発表の場を失うからだ。それは失業を意味していた。

もちろん、だからといって批評としての文学が死んだわけではなかった。私たちの良く知る太宰治や中島敦は、日中戦争の開始、国家総動員法の制定から敗戦までのわずか八年の間に精力的に作品を発表している。このことは改めて考えなければならない問題だと思う。

当然彼らは時代を選ぶことは出来ない。文学を手放さないためには、そのような過酷な状況でもそれを宿命として引き受けざるを得なかった。そして状況との対話を通してそれぞれの思索や表現を深めていったのだ。

旧来の権力や戦争に抵抗した、しなないという「色分け」では、あまりに大雑把すぎて彼らが状況の中でどのように思索を深め、何を表現しようとしたのかは見えない。しかし改めてなぜ彼らの戦時下の作品が今日まで読み継がれる普遍性を持ち得ているのか立ち止って考える必要があるだろう。結論から言えば、彼らが格闘した問題とは、戦時下の〈同調圧力〉に塗り込まれた（牢獄）のような社会のなかで孤独に耐えながら、個を見失わないで如何に生きるか、ということだったのではないかと思う。そしてそのことが同じく生きにくい現代を生きる読者の共感を得ているのではないかと思う。

もちろんリアリズムの死滅した戦時下の小説は、表層の物語を押しさえるだけでは作者のメッセージを捉える事はできない。この授業では井伏鱒二「へんろう宿」太宰治「富嶽百景」「待つ」堀辰雄「曠野」中島敦「山月記」「李陵」など今日でも読まれる戦時下の作品を取り上げて、それぞれの作品の表現構造や状況との関係を丁寧におさえながら、戦時下の文学者の思索と表現の今日の可能性を明らかにしていきたい。また加えて、間に小林秀雄、坂口安吾の評論を読みながら、今日の視点から戦時下の文学の意味を様々な視点から捉え直して再評価していきたい。

【到達目標】

- ・戦時下文学の歴史の意味を理解する。
- ・日本の戦時下文学の批評性が現在にどのような意味を持つのか理解する。
- ・小説の基本的な構造分析と読み方について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。作品ごとに、授業に入る時にその作品についての感想を提出してもらおう。また終了時には、どのような発見、どのような事を学ぶことが出来たか、または授業の質問などについて提出してもらおう。そしてそれらを授業冒頭で適宜発表したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①この授業の方向性について ②戦時下の文学をなぜ読むのか
第2回	第一回 井伏鱒二「へんろう宿」を読む	①基本的な構造分析 ②戦時下の思想と方法 —アレゴリーと韜晦
第3回	第二回 太宰治「富嶽百景」を読む①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（私小説）
第4回	第三回 太宰治「富嶽百景」と「待つ」を読む②	②戦時下の思想—批評としてのプリコラージュ
第5回	第四回 堀辰雄「曠野」①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（古典）
第6回	第五回 堀辰雄「曠野」②	①戦時下の思想—戦時下を如何に生きるかという問い
第7回	第六回 中島敦「山月記」①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（古典）
第8回	第七回 中島敦「山月記」②	①戦時下の思想—自己幻想を開く意味
第9回	第八回 戦時下の批評を読む—坂口安吾・小林秀雄	安吾「文学のふるさと」「日本文化私観」、小林「無常ということ」「戦争について」などをめぐる戦争への対し方

第10回	第九回 中島敦「李陵」を読む①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—「一」の表現の意味（「山月記」からの発展として）
第11回	第九回 中島敦「李陵」を読む②	①戦時下の思想—「二」司馬遷の物語が問いかけるもの
第12回	第九回 中島敦「李陵」を読む③	①戦時下の思想—「三」李陵の物語が問いかけるもの
第13回	第十回 まとめ	戦時下の文学の達成と戦後文学との関係（坂口安吾「白痴」を補助線として）
第14回	学期末試験と解説	①授業の理解を確認する試験 ②試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。さらに今回取り上げる戦時下から戦後の時代についても歴史を予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてほしい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストや資料は、事前に学習システムを通して配布する。いずれも文庫本で手に入りやすいテキストなので、できればその作家の他の作品にも目を通してもらいたい。

【参考書】

- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・土方洋一『物語のレッスン』（青舎舎）手に入りやすいが、読み方をめぐる最良の入門書。探しても読んでほしい。
- ・廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
- ・『日本の歴史 25 太平洋戦争』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点＝各作品をめぐる感想や授業コメント等（50%）
授業に対する取り組み姿勢（作品をしっかり読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）
- ・学期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早くて理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けた。

【Outline (in English)】

Course Theme: Reading Literature in Wartime

Course Outline: As in the past, judging whether literary people resisted war during wartime is not the only way to understand wartime literature. For example, Dazai Osamu and Nakajima Atsushi, with whom we are familiar, vigorously published their works during the period of only eight years between the start of the Sino-Japanese War, the enactment of the National Mobilization Law, and the defeat of Japan. Of course, they were not pandering to war. But why do their works have the universality that allows them to be read to this day? With these questions in mind, we will reconsider what literary people thought and tried to express during wartime.

Learning Objectives: In this class, we will focus on wartime works that are still read today, such as Ibuse Masuji's *Henrōyado*, Dazai Osamu's two works, *Fugaku hyakkei* and *Matsu*, Hori Tatsuo's *Arano*, and especially Nakajima Atsushi's two works, *Sangetsuki*, and *Riryō*. Although it is difficult to capture the author's message from works published under severe censorship, students will learn to explore the possibilities of wartime literature in the modern age, while gaining a careful understanding of the expressive structure of each work and its relationship to the wartime situation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to have read each work before the class in which it is discussed. They should also try to gain a broad grasp of the circumstances of the time, by revising the history of the war years and post-war years.

Grading Criteria/Policy: written reactions to the works and comments on the content of each lecture (50%); final examination (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代D

梅澤 亜由美

夜間時間帯

授業コード：A2680 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*近代小説の語り、および視点と小説の関係について考える。
→ この授業では、1930年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語り、および視点に注目し、その効果を考えます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

- 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
- 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下の3つによって講義を進めます。

- 1、指定された資料を用いての事前学習
- 2、教員による講義、および学生同士の意見交換
- 3、その日のワーク

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析してもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第2回	武田泰淳『審判』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第3回	梅崎春生『蜩』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第4回	坂口安吾『風博士』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第5回	太宰治『トカトントン』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第6回	小松左京『くだんのはは』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第7回	吉屋信子『鶴』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第8回	三島由紀夫『雛の宿』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第9回	安部公房『死んだ娘が歌った……』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第10回	村上春樹『レキシントンの幽霊』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第11回	川上弘美『神様』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第12回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第13回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第14回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。
→ 登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。
→ 語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。
・【事後学習】講義をもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する
→ 語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。語りの特徴について、分析する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小説テキストについては、手に入りやすい文庫は購入しましょう。手に入りにくいものについては、青空文庫などを適宜、使用します。第1回で指示します。

武田泰淳『審判』、『上海の蜩・審判』 P+D BOOKS 所収
梅崎春生『蜩』、『ボロ家の春秋』 講談社文芸文庫
坂口安吾『風博士』、『ちくま日本文学 坂口安吾』ちくま文庫
太宰治『トカトントン』、『ヴィヨンの妻』新潮文庫
小松左京『くだんのはは』、『くだんのはは』ハルキ文庫
吉屋信子『鶴』、『鬼火・底のぬけた柄杓』 講談社文芸文庫
三島由紀夫『雛の宿』、『女神』新潮文庫所収
安部公房『死んだ娘が歌った……』、『R 62号の発明・鉛の卵』新潮文庫所収
村上春樹『レキシントンの幽霊』 文春文庫
川上弘美『神様』 中公文庫

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる—近代小説の試み』 岩波新書
廣野由美子『一人称小説とは何か—異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①各回課題（60パーセント）、②学期末課題（40パーセント）の評価を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

・授業内で他の人の意見を聞いたり、提出されたレポートに関する発表を聞くことができるのが楽しいという声が多いです。一方で、ワークはワードファイルでワークを提出してもらっていましたが、これが少し手間というコメントがありました。今後、検討します。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレット、スマホなど。PDFのファイルを見るのに利用します。

【その他の重要事項】

・秋学期の授業となります。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。なお、選定された小説、および順序に若干の変更ができる可能性があります。
・学期末課題は、以下の2つから1つを選んでもらう予定です。
①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。近代文学～現代文学まで、自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。
②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。
なお、学期末課題の提出は11回授業終了後、12月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1930’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the role of narrative in novels.
- ・ Explain the relation between narrative and theme in novels.
- ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.

【Learning Activities Outside of the Classroom:】

Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.

Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (60%); final paper (40%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【諸子百家の文を読む】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 調点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第 2 回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第 3 回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第 4 回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第 5 回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第 6 回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第 7 回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「斉物論篇」「大宗師篇」等より
第 8 回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第 9 回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第 10 回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第 11 回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲說篇」等より
第 12 回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第 13 回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第 14 回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
- ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）

- ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select relatively famous passages from the writings of the *zhuzi baijia* (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. *Zhuzi* in *zhuzi baijia* refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. *Baijia* refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of *zhuzi baijia*, we will relive their thoughts and in so doing seek to attain a novel perspective from which to revisit contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts;
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have grasped the characteristics of the philosophy of the *zhuzi baijia*; and
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『戦国策』と『史記』を読む】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『戦国策』 ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第 2 回	『戦国策』 精読（1）	「斉策」より
第 3 回	『戦国策』 精読（2）	「燕策」より
第 4 回	『戦国策』 精読（3）	「楚策」より
第 5 回	『戦国策』 精読（4）	「魏策」より
第 6 回	『史記』 ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第 7 回	『史記』 精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第 8 回	『史記』 精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第 9 回	『史記』 精読（3）	「項羽本紀」より
第 10 回	『史記』 精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第 11 回	『史記』 精読（5）	「管晏列伝」より
第 12 回	『史記』 精読（6）	「伍子胥列伝」より
第 13 回	『史記』 精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第 14 回	『史記』 精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を用いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select and read relatively famous passages from *Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States)* and *Shiji (Records of the Grand Historian)* in the original language. *Zhan Guo Ce* is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read thereafter. *Shiji* is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on *The Tale of Genji* but also had enduring effects on subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from *Zhan Guo Ce* and *Shiji*, we will deepen our understanding of ancient Chinese society and culture and absorb the wisdom of the people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts.
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have acquired a basic knowledge of *Zhan Guo Ce* and *Shiji*.
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語A

王安

授業コード：A2685 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉は言葉で独立しているのではなく、使い手である言語主体、すなわち私たち自身の認知のあり方を反映している。あらゆる言語表現の意味には言語主体の解釈や捉え方が関与している。同じ事態でも、言語主体の視点や解釈が違えば言語表現の意味も異ってくる。本講義では、認知言語学の基本を学び、日本語や英語、中国語の言語事例を取り上げ、言語主体の捉え方がどのように言葉の意味に反映されているのかを理解していく。

【到達目標】

- (1) 認知言語学の基本理念、概念を理解する。
- (2) 言語表現の意味と言語主体の「捉え方」との関係を理解する。
- (3) 認知言語学の基本的な考えを利用して、言語表現の意味構造を説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 章	授業ガイダンス、認知言語学と言語学
第 2 回	第 2 章	ことばの記号性
第 3 回	第 3 章	ものの見方と意味
第 4 回	第 4 章	プロトタイプとカテゴリー
第 5 回	第 5 章	イメージ・スキーマ
第 6 回	第 6 章	イメージ・スキーマと比喩
第 7 回	第 7 章	意味のネットワーク
第 8 回	第 8 章	メタファー（隠喩）
第 9 回	第 9 章	メトニミー（換喩）
第 10 回	第 10 章	概念メタファー
第 11 回	第 11 章	方向性のメタファー
第 12 回	第 12 章	色とことば
第 13 回	第 13 章	構文と意味
第 14 回	これまでのまとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業前にテキストを読み、予習を行う。知らない概念や用語があれば、調べておく。（2 時間）
2. 授業のあと、当日授業で学んだ内容を整理し、復習を行う（1～2 時間）
3. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行う（3 時間）

【テキスト（教科書）】

『学びのエクササイズ 認知言語学』谷口一美 ひつじ書房 1200 円

【参考書】

○『言葉のしくみ』高橋英光 2010 北海道大学出版会

○『ファンダメンタル認知言語学』2014 野村益寛 ひつじ書房
 ○『新編 認知言語学キーワード事典』2013 辻幸夫編 研究社
 『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』初山洋介 研究社
 『日本語研究のための認知言語学』初山洋介、研究社
 『認知言語学とは何か』高橋英光 野村益寛 森雄一 くろしお出版
 『認知意味論：言語から見た人間の心』ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店
 『認知意味論のしくみ』初山洋介著、研究社
 『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』谷口一美著、研究社

【成績評価の方法と基準】

課題 40% + リアクションペーパー 20% + 期末レポート 40% = 100% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明がわかりやすく丁寧な点、用例がたくさんあり、内容がわかりやすい点、配布資料が丁寧に作成された点などが評価され、うれしいです。また、たくさんの方から授業を通して認知言語学に対して興味を持つようになったとのコメントを頂いてとてもうれしいです。これからも様々な工夫をしてよい授業をしていきます。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついているものは頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

< 専門領域 >
 対照言語学、現代中国語文法、認知言語学
 < 研究テーマ >

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

< 主要研究業績 >

「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのバースペクティブ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社

第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will study the basic knowledge of cognitive linguistics. Through Japanese, English, and Chinese language examples, we will understand how the cognitive subject's construe is reflected in the meaning and structure of the language.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the basic concepts and ideas of cognitive linguistics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend three or four hours understanding the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Assignments: 40%
- Reaction paper: 20%
- Term-end report: 40%

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語B

間宮 厚司

授業コード：A2686 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難調歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの 5 頁～22 頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第 1 話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第 2 話と第 2 話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第 3 話導入と第 3 話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第 4 話と第 5 話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第 6 話と第 7 話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第 8 話と第 9 話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第 10 話と第 11 話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第 12 話と第 13 話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第 14 話と第 15 話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第 16 話と第 17 話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（11）	テキストの第 18 話と第 19 話
第 14 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（12）	テキストの第 20 話と第 21 話 大レポートの注意事項 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説【増補版】』（森話社、2021 年、2000 円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの 158 頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%)と学期末の大レポート(50%)の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大学の先生は遠い存在だと思っていたが、近い存在に感じました。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture introduces the method for reading the poems of *Man'yōshū*. We use the textbook cited in the Japanese syllabus.

Learning Objectives: Through the process of reading *man'yō-ka*, which were written in *kanji* (Chinese characters) over a thousand years ago, students learn the *uta-kotoba* (words for *man'yō-ka*) of Old Japanese. By reading the textbook and listening to the instructor's commentary, students learn how to discover problems, collect materials, set out arguments, and draw conclusions. Students acquire the ability to think flexibly from different perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignment (comments, thoughts, etc.) at each class meeting (50%), term-end report (50%).

LIT200BC

日本文学研究特講（9）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第21回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第7回本屋大賞第7位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現 B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際を書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50%。レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の「能」の基本を学んでいく。能は難解で敷居の高い芸能だと思われている。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。その視点の一つとして、本講義では、能を日本古典文学の名場面集として捉えていき、それがいかに身体で表現されるかを考えていく。

【到達目標】

本講義では、能という芸能の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば、「幽玄」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能はなぜ難しいと言われるのか？
第2回	能楽の基本	用語と劇構成
第3回	能楽の歴史	室町時代から江戸時代までの能の歴史を概観する。
第4回	能《頼政》を読む①	『平家物語』と能
第5回	能《頼政》を読む②	作品を読む
第6回	能《葵上》を読む①	『源氏物語』と能
第7回	能《葵上》を読む②	作品を読む
第8回	能《高砂》を読む①	和歌と能
第9回	能《高砂》を読む②	作品を読む
第10回	能《安宅》を読む①	義経伝承と能
第11回	能《安宅》を読む②	作品を読む
第12回	能《土蜘蛛》を読む①	土蜘蛛伝承と能
第13回	能《安宅》を読む②	作品を読む
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 50%
授業内小テスト（2～3回） 20%
学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

初めて能について学ぶ学生もついてこられるように、はじめの説明を丁寧に行ないます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to Noh.

Learning Objectives: The goal of this course is to gain basic knowledge of Noh.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on reaction papers (70%), and term-end report (30 %).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典芸能の「狂言」の基本を学ぶ。狂言はテレビや高校までの芸術鑑賞会で観たことがあるかもしれないが、能との関係やその歴史については知らない者も多いだろう。そうした者を対象として、代表的な演目を通し、狂言の特質を学んでいく。また狂言は、作品が作られた時代の文化を反映した史劇であるとともに、フィクション世界でもある。狂言を通して、中近世の人間模様と非現実な遊戯空間を読み解いていく。

【到達目標】

本講義では、「狂言とはこのような芸能である」と自分の言葉で正確に説明できることを目標とする。そのためには、狂言の台本を正確に読み、また舞台のセリフ・演技を理解することが必要である。中近世の口語で構成されている狂言のセリフ慣れ、狂言の舞台を台本なしで鑑賞できるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能と狂言の関係
第2回	狂言の歴史	狂言の形成と展開
第3回	狂言概説	狂言の流派と家
第4回	附子①	狂言「附子」を読む
第5回	附子②	太郎冠者と次郎冠者
第6回	武悪①	狂言「武悪」を読む
第7回	武悪②	下廻上の文学
第8回	髭櫓①	狂言「髭櫓」を読む
第9回	髭櫓②	わわしい女
第10回	首引①	狂言「首引」を読む
第11回	首引②	豪傑と狂言
第12回	川上①	狂言「川上」を読む
第13回	川上②	狂言と〈社会的弱者〉
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 50%
授業内小テスト（2～3回） 20%
学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、狂言のビデオ全部見られない曲もあります。それらの曲について、DVDの貸し出しなども行ないます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to Kyogen.

Learning Objectives: The goal of this course is to gain basic knowledge of Kyogen.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on reaction papers (70%), and term-end report (30 %).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇C

上野 火山

夜間時間帯

授業コード：A2691 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は「比較演劇学」といいます。

ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会的視点、思想的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇の営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままの価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】

< 到達目標 > 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に活用できるようになる。

< 講義内容 > 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かうのだろうか。このまま権力のプロパガンダに墮すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世界観価値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうとも、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行います。授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各講義の最初にリアクションペーパーの内容の一部取り上げ、質問等にも答えていきます。時にはディスカッションも組み込みたいと思いますので、発言を求められた場合は積極的にお願います。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1回 演劇(ドラマ)とは何か	比較演劇学への招待
第2回	テレビドラマの可能性1	テレビという媒体の絶望と希望の間で
第3回	映画と演劇の「劇場性」	その歴史と未来:劇場とは何か
第4回	テレビドラマの可能性2	付度し萎縮する媒体とその未来とは
第5回	<映像作品を観る>	「劇映画」を授業内で観ます
第6回	演劇の制度化:80年代以降のポストモダニズムの系譜	ポストモダニズムとは何だったのか; 現代への影響と余韻
第7回	リアルとは何か	現在のリアリティー; 空気を読む時代

第8回	禁忌(タブー)について	疑問を持つてはならない:教育の刃
第9回	メディアコントロール	劇場化した政治経済と民主主義の幻想; 市民の家畜化
第10回	ネオリベリズムと演劇:もしくはグローバリズムと演劇	ステルスマーケティングとサブミナルの実在; 演劇の価値観付与機能
第11回	<映像作品を観ます>	ドキュメンタリー作品を授業内で観ます
第12回	日本人の戦後教育の実態	終わらなき GHQ の影とその影響; 現在の日本の真の姿と形
第13回	共感の次元へ	「共感」とその可能性:孤立化し分断された時代に「再発見」しなくてはならないもの
第14回	前期試験	与えられたテーマに沿った「小論文」試験です。テーマは前もって講義の中でお伝えします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用致しません。

【参考書】

特に用意して頂く参考書はございません。毎回、レジュメ(プリントもしくはPDF)を講義内、もしくはオンラインでお渡しします。参考文献等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の通りに行います。

●平常点(授業への参加態度を含む)70%

●小論文試験30%

※注意! 「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

種々様々な問題が噴出しているこの萎縮した時代において、例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline (in English)】

Course Outline: The theme of this course is “Comparative Dramatics.” It represents a means of analyzing drama with a view to understanding the meaning and value of our current reality from sociological, ideological, political-economic and other perspectives.

Learning Objectives: On completing this course, students will be able to correctly understand how to think critically, without being passive or in a state of suspended thinking, and will be able to apply this knowledge not only to the appreciation of works of art but also to the real world.

Learning Activities Outside of the Classroom: If you attend this lecture, I would like you to be exposed to as many theatrical or visual works as possible. For preparation and review students should read the literature and view the works mentioned in the lecture. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each, including the viewing of the works introduced in the lecture.

Grading Criteria/Policy: Ordinary marks including class participation (70%); essay exam (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇D

上野 火山

夜間時間帯

授業コード：A2692 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は『比較演劇学』といいます。

ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会学的視点、思想史的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇的営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままにしている価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】

< 到達目標 > 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に活用できるようにする。

< 講義内容 > 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かうのだろうか。このまま権力のプロパガンダに墮すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世界観価値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうと、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心にを行います。授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各講義の最初にリアクションペーパーの内容を一部取り上げ、質問等にも答えていきます。時にはディスカッションも組み込みたいと思いますので、発言を求められた場合は積極的にお願いします。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エンターテインメントを考える	娯楽の価値と、武器としての娯楽
第2回	不条理と物語ること	我々の価値観を知らぬ間に決定づける隠喩とは
第3回	永遠と一日	「反復とずれ」から考える小津安二郎の世界
第4回	夢見る力について	スノビズムとシニシズムの超克
第5回	日常の向う側	創り手のモラル（道徳）とエスィックス（倫理）の問題
第6回	< 映像作品 > を観ます	劇映画を観ます
第7回	コーポラティズム（企業中心主義）の世界	極端な商業主義的、もしくは新自由主義的資本主義の下で「芸術」は可能か
第8回	「ならず者たち」より	J. デリダの最後の言葉から現在の政治のドラマ性と虚偽性を読み解く
第9回	すべてはラストシーンからはじまった	1970年代という時代
第10回	メッセージ	本気の時代から、本気を取り戻す時代へ
第11回	< 映像作品 > を観ます	ドキュメンタリー作品を観ます
第12回	喜劇と悲劇の間	日常の何気ない営為こそドラマである
第13回	「共感の次元」を超えて	「汝と我」を繋ぎ、そして隔てるもの
第14回	後期試験	与えられたテーマに沿った「小論文」試験です。テーマは講義の中でお伝えします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用致しません。

【参考書】

特に用意して頂く参考書はございません。毎回、レジュメ（プリントもしくはPDF）を講義内、もしくはオンラインでお渡しします。参考文献等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の通りに行います。

●平常点（授業への参加態度を含む）70%

●小論文試験 30%

※ 注意点！「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

種々様々な問題が噴出してきているこの萎縮した時代において、例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: The theme of this course is “Comparative Dramatics.” It represents a means of analyzing drama with a view to understanding the meaning and value of our current reality from sociological, ideological, political-economic and other perspectives.

Learning Objectives: On completing this course, students will be able to correctly understand how to think critically, without being passive or in a state of suspended thinking, and will be able to apply this knowledge not only to the appreciation of works of art but also to the real world.

Learning Activities Outside of the Classroom: If you attend this lecture, I would like you to be exposed to as many theatrical or visual works as possible. For preparation and review students should read the literature and view the works mentioned in the lecture. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each, including the viewing of the works introduced in the lecture.

Grading Criteria/Policy: Ordinary marks including class participation (70%); essay exam (30%).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に見える音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回のガイダンスを除き、原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：日本の音楽とは」、「Ⅱ：日本音楽略史」、「Ⅲ：外来楽について」、「Ⅳ：在来楽について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：日本の音楽とは - ガイダンス	【オンライン】授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認を行う。 雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第2回	- ジャンルと楽器	「Ⅰ：日本の音楽とは」に関する履修者の質問への回答。
第3回	- フィードバック	
第4回	Ⅱ：日本音楽略史 - 制度の形成	出土品や『隋書』倭国伝、『古事記』の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第5回	- 確立と発展	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ：日本音楽略史」に関する履修者の質問への回答。
第7回	Ⅲ：外来楽について - 舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第8回	- 管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：外来楽について」に関する履修者の質問への回答。
第10回	Ⅳ：在来楽について - 国風歌謡	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第11回	- 催馬楽について	御遊などで歌われる催馬楽について学び、その音楽性や歌謡の性質について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：在来楽について」に関する履修者の質問に回答する。
第13回	V：補論 - 源氏物語と音楽	『源氏物語』における音楽場面（舞楽・管絃・催馬楽など）について取り上げる。

第14回 - 平家語り、語り物の普遍性

平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外に、hoppii 上で小課題等の入力をお願いします。
- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
- ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
- ・質問（任意）：毎時受け付けます。
- ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
- ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
- ・遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいりたく存じます。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture that provides an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we will focus on the question "What is Japanese music?" by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりや分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回のガイダンスを除き、原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：和歌をうたう」、「Ⅱ：表記と歌唱形式」、「Ⅲ：和歌のレトリック」、「Ⅳ：歌合について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：和歌をうたう - ガイダンス	【オンライン】授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認を行う。
第2回	- 和歌の歌唱例	現代における和歌の歌唱例を鑑賞する。また、記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学ぶ。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：和歌をうたう」に関する履修者の質問への回答。
第4回	Ⅱ．表記と歌唱形式 - 歌謡と歌体	記紀歌謡や『万葉集』における歌体と、『琴歌譜』などで実際に歌われた形式とを比較し、その関係を学ぶ。
第5回	- 催馬楽の歌唱形式	催馬楽における同音グループ間の詞章と旋律の関係を比較し、レパートリーの成立過程について考える。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ．表記と歌唱形式」に関する履修者の質問への回答。
第7回	Ⅲ：和歌のレトリック 上代～中古	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第8回	- 中世・その他	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：和歌のレトリック」に関する履修者の質問への回答。
第10回	Ⅳ：歌合について - 初期の歌合	歌合の歴史を概観しながら、初期歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第11回	- 中世の歌合	中世以降に起こった歌合の変化について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：歌合について」に関する履修者の質問への回答。
第13回	補論 - 越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第14回	- 君が代の歴史	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外に、hoppii 上で小課題等の入力をお願いします。
- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
- ・期末レポート：3000 字程度のレポートを課します。
- ・質問（任意）：毎時受け付けます。
- ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・平野健二ほか編『日本音楽大辞典』（平凡社、1989）
- ・青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
- ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
- ・渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいります。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌A

四元 康祐

授業コード：A2695 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。

コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を隔週で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

可能な限り教室での対面授業といたします。やむなくオンライン授業となった場合は、オンラインでのライブストリーミングを基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。
第2回	講義1：詩と散文	詩のコトバは、新聞や法律の言葉とどこが違うのか？ 詩と小説の関係とは？
第3回	演習1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第4回	講義2：声の詩、文字の詩	詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。
第5回	演習2：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第6回	講義3：モノの詩、ココロの詩	中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイマジスト派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。
第7回	演習3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第8回	講義4：宴と孤心	大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。
第9回	演習4：ミニ連詩	小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。
第10回	講義5：AI(人工知能)に詩は書けるか？	AIを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察する。
第11回	演習5：AI詩で遊ぶ	短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけのAI詩を作ってみる。
第12回	講義6：詩の自由と抵抗	詩による現実への抵抗、現実からの解放について学ぶ。
第13回	演習6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第14回	まとめと解説	春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をする。現代詩相談室も合わせて実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（6回）の授業では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことを基に推敲した上で、その週の課題として提出します。

講義の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015年

四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020年

四元康祐著『ダンテ、李白に会う 四元康祐翻訳集古典詩篇』思潮社 2023年

あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 70%

平常点/Class Participation 30%

【学生の意見等からの気づき】

昨年の授業では、キャンパスの近くを散歩しながら詩を書く「サンボエム」、グループで即興的に1篇の詩を書く「あいうえお連詩」、与えられた課題曲に歌詞をつける（そして唄う）「歌詞ワークショップ」などの演習が好評でした。今年もいろんな詩の書き方を試してみたいと思っています。

【その他の重要事項】

50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Course Outline: In this class we will write, read, and think about poetry: poetry as the magic of words, poetry as an outpouring of the heart; poetry that tells stories, poetry that sings, poetry that prays; poetry for the eyes, poetry for the ears. By becoming familiar with the various forms of poetry, we will gain insight into what poetry is and what it means to be a human being, the only animal that writes poetry, using all of our senses, not just our minds. The spring term will focus on the principles and structure of poetry, while the fall term will consist of lectures and exercises concerning the archetypal image of the poet.

Learning Objectives: Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Learning Activities Outside of the Classroom: For the 6 poetry workshops, students are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand. For the 6 lecture classes, they are required to submit their reactions and/or questions after each lecture. Two hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

Grading Criteria/Policy: Report (70%), class participation (30%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌B

四元 康祐

授業コード：A2696 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

後期の前半部分、初回から 11 月初旬まではズームによる授業となる可能性があります。それ以降は対面です。詳細は後期の履修登録期間開始までに、講義内容を更新いたします。講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。仮登録者が定員（50 名）を超えた場合は抽選により選抜します。
第 2 回	講義 1：放浪と越境の詩人たち	ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。
第 3 回	演習 1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義 2：部族の声としての詩人たち	ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。
第 5 回	演習 2：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 6 回	講義 3：愛と孤独の女性詩人たち	和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。
第 7 回	演習 3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義 4：言語を疑う詩人たち	ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。
第 9 回	演習 4：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 10 回	講義 5：自由と抵抗の詩人たち	金子光晴、マイケル・パーマー、現代のミャンマーの詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。
第 11 回	演習 5：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 12 回	講義 6：笑う詩人たち	ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。
第 13 回	演習 6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめ：詩とは何か	後期の授業のまとめと現代詩相談室。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（全 6 回）では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことをもとに推敲したうえで、その週の課題として提出します。それ以外の授業では、その日に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』滯標 2020 年
四元康祐著『ダンテ、李白に会う 四元康祐翻訳集古典詩篇』思潮社 2023 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 70 %
平常点/Class Participation 30 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年の授業では、キャンパスの近くを散歩しながら詩を書く「サンボエム」、グループで即興的に 1 篇の詩を書く「あいいうお連詩」、与えられた課題曲に歌詞をつける（そして唄う）「歌詞ワークショップ」などの演習が好評でした。今年もいろんな詩の書き方を試してみたいと思っています。

【その他の重要事項】

50 名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Course Outline: In this class we will write, read, and think about poetry: poetry as the magic of words, poetry as an outpouring of the heart; poetry that tells stories, poetry that sings, poetry that prays; poetry for the eyes, poetry for the ears. By becoming familiar with the various forms of poetry, we will gain insight into what poetry is and what it means to be a human being, the only animal that writes poetry, using all of our senses, not just our minds. The spring term will focus on the principles and structure of poetry, while the fall term will consist of lectures and exercises concerning the archetypal image of the poet.

Learning Objectives: Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Learning Activities Outside of the Classroom: For the 6 poetry workshops, students are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand. For the 6 lecture classes, they are required to submit their reactions and/or questions after each lecture. Two hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

Grading Criteria/Policy: Report (70%), class participation (30%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸A

三井 喜美子

授業コード：A2697 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巖谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を理解することができる。巖谷小波「こがね丸」を音読すること。児童文学の創作をし、合評会で意見交換をすることができる。

【授業時間外の学習】講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。講義後の感想を必ず **hoppii** に投稿し出席確認すること。児童文学短編を創作し相互評価すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巖谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解することができる。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えることができる。また、代表的な作家の業績をとらえることができる。実際に児童文学の創作をし、**Hoppii** のシステムを使って相互評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義。大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。対面かオンラインかは随時学習支援システムで伝達する。

講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、相互評価をすること。**Hoppii** の授業内掲示板に授業後の感想を書き、講師とコミュニケーションをとると同時に、出席確認をすること。

具体的な授業の準備や課題など、詳細は授業支援システムで確認すること・授業の初めに、前回の授業で提出された感想（リアクションペーパーに代わる **Hoppii** の投稿）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について 児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巖谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」 ここまで作品を読了しておくこと 児童文学の面白さとは	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の出版を考察することができる
第 4 回	翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそくと人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の児童文学観について 文壇作家の児童文学	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	浜田廣介の作品と作家像 「泣いた赤鬼」を中心に	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる 童心主義とは何かを理解する
第 11 回	創作の相互評価と合評会	実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1

第 13 回	千葉省三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える
第 14 回	坪田譲治その他	大正から昭和へ作品の変化を理解することができる 大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
講義後の感想を必ず **Hoppii** に投稿し出席確認をとること。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をすること。**Hoppii** の相互評価を活用する予定
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各作家の短編集
小川未明・浜田広介・坪田譲治及び赤い鳥傑作集は文庫本で必携のこと

【参考書】

明治の児童文学 大正期の児童文学 現代児童文学
『児童文学入門』（関口安義著 中教出版 2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編 翰林書房 2000 円）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。感想の投稿をもって出席とする

平常点（授業への参加態度と授業感想）40%

児童文学（掌編）の創作 20%と合評 20%

期末レポート 20%

出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大事にすること。

学生同士の交流を取り入れること。

スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】

創作は学習支援システムの相互評価を活用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of the course is for students to be able to understand the history and significance of Japanese children's literature. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

Learning Objectives: At the end of the course, students will be able to understand the major Japanese children's literature from the Meiji era to the present. Students will read aloud Iwaya Sazanami's *Koganemaru*. Students will also create an original children's story and exchange opinions in an evaluation session.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class session, students are expected to read the works discussed in the lecture. After class, they are to post their comments on **Hoppii** and confirm their attendance. During the course, students must create their own children's story and evaluate their classmates' works. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: Participation (attitude and comments) (40%); creation of children's short story (20%); evaluation of classmates' works (20%); short essay (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

三井 喜美子

授業コード：A2698 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の内容を受けて、秋学期では昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義をする。それぞれの作家の作風や表現の特徴を捉えることができる。ジャンルの特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういった「今」が見えてくるか、現代社会を批判的に見据えていくことを視座として、児童文学を考えいくことができる。アクティブラーニングとして推薦絵本のブルリオバトル風に紹介する

【到達目標】 取り上げる作家・作品・ジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価をグループで議論することができる。

【授業時間外の学習】 地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のブルリオバトルは Zoom で行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、考えを伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価を議論することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示にのっとり、状況に応じてオンラインを活用する。授業形態は状況に応じて随時判断し、学習支援システムを使って伝達する。個人的に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、絵本も積極的に取り上げる。新たな児童文学の観点も意識して、推奨絵本作品をプレゼンテーションする。詳細はホッピー（学習支援システム）にて連絡するので、確認すること・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（Hoppii に投稿した感想）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	今学期の授業の進め方のオリエンテーションを含む。 大人も楽しむ児童文学 ブルリオバトルのガイド
第 2 回	新美南吉「ごんぎつね」を中心に	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	新美南吉の民話的作品	新美南吉の人と作品について
第 4 回	絵本の世界～かこさとしとヨシタケシンスケを中心に	絵本の児童文学性、芸術性、多様性について認識を深め、絵本ブルリオに挑む
第 5 回	宮沢賢治のユーモア作品について	宮沢賢治の民話的作品の世界また独特のユーモアを理解することができる
第 6 回	宮沢賢治「なめとこ山の熊」を中心に	宮沢賢治の不条理の世界観 また、独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治のファンタジー世界を理解する
第 8 回	推薦したい絵本を紹介しあい、児童文学の評価を考える	推薦絵本のブルリオバトル
第 9 回	ブルリオバトルのチャンプ本のプレゼンテーション 幼年文学	評価の高かったチャンプ本全体に発表 松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 10 回	戦争児童文学①	「かわいそうな象」「干からびた象と象使いの話」を中心に
第 11 回	戦争児童文学②	今西祐行作品を中心に

第 12 回 歴史児童文学

歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる
児童と大人の狭間の読者論的理解

第 13 回 少年少女小説と YA

第 14 回 ファンタジー

ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のブルリオバトルを Zoom で行う。フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】

別冊太陽特集絵本 ○○年のベスト絵本 その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。投稿感想をもって出席とする
 授業への参加態度と感想文及び授業進行過程での回答 40%、
 推薦絵本プレゼンテーション 20%
 推薦絵本の書評 20%
 レポート 20%
 出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

教員とのコミュニケーションをとること。
 学生間のコミュニケーションをとること。
 プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】

OHC の使用

【その他の重要事項】

絵本紹介はアクティブラーニングとして必須
 詳細は学習支援システムに掲載する

【Outline (in English)】

Course Outline: Following the contents of the spring term, this course's lectures focus on the author Miyazawa Kenji and the different genres that make up children's literature. Students will understand the characteristics of each genre. Students will recommend and evaluate a children's book of their choice.

Learning Objectives: Students will be able to understand the characteristics and historic meaning of each author, their works, and the different genres. They will introduce children's books to each other, following with its evaluation and group discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read as many children's books as possible in their local libraries or bookstores and find a book they wish to introduce to others. A "Bibliobattle" of books they recommend will be conducted on Zoom. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: After each session, students must post their comments on Hoppii and confirm their attendance as well as communicate with others. Class participation and comments (40%); presentation on recommended book (20%); participation in the "Bibliobattle" (20%); report (20%).

LIT300BC

日本文学研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄にはグスクと称される構造物がある。グスクはヤマト的な意味では城だが、日本的な城とは相当異なっている。グスクについての最古の文献は『おもろさうし』のオモロ（神歌）である。グスクについての理解を深めることは、琉球の知られざる歴史を知ることでもある。日本の中の異文化、琉球文化を理解するため、グスクに関連するオモロを読んでいく。

【到達目標】

『おもろさうし』のオモロは平かなを主体に、簡単な漢字を用いて日本語で記載されている。しかし、オモロは神歌なので、何がどうしてどうなった、という論理性を欠く。しかし、豊かなイメージを提示する。一方、オモロはどのような日本文学とも似ていない。そのような文学世界の存在を知ることは、まさに異文化を知ることもある。日本の中の異文化を深く知ることにより、文化と文化の接触のあり方を知ることができる。

成績評価は平常点（出席回数）、学期末試験による。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄文化への理解を深めるため、沖縄関係の DVD や沖縄の音楽の CD を鑑賞することもある。学期末試験は記述式の問題を出題する。授業に出席し、教科書をよく読み、参考文献や参考資料を読めば簡単に記述できる問題を出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オモロ概説	『おもろさうし』とオモロについて概説する。
第 2 回	グスク概説①	琉球の構造物、グスクについて概説する。
第 3 回	グスク概説②	グスクに関するオモロを概説する。
第 4 回	尚真王（しょうしんおう）概説	琉球王国第二尚王統の王であり、「神格化されている尚真王について概説する。
第 5 回	尚真王のオモロの概説	尚真王関係のオモロについて概説する。
第 6 回	石を割る道具について	石を割る道具について概説する。
第 7 回	造営のオモロと歴史事象①	グスク造営のオモロについて概説する。
第 8 回	造営のオモロと歴史事象②	グスク造営のオモロと歴史事象の重なりについて概説する。
第 9 回	「げらへる」という言葉について①	石垣の石を積むことを意味する「げらへる」という言葉を概説する。
第 10 回	「げらへる」という言葉について②	オモロ世界では何を「げらへる」かを概説する。
第 11 回	「げらへる」という言葉について③	オモロ世界では誰が「げらへる」かを概説する。
第 12 回	「げらへる」という言葉について④	美称辞としての「げらへ」について概説する。「げらへる」以外の造営に関わる言葉を概説する。

第 13 回 石について 石垣の石について概説する。

第 14 回 信仰、呪的な石について 信仰される石、呪的な石について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキスト、参考資料を事前に読む。復習も同様にする。
- ・授業外における必要な学習時間は 4 時間程度。
- ・授業計画に沿って授業を進めるが、学生の関心にもある程度はこたえる予定。現代におけるチャーマン文化、琉球の神話の神話学的分析、などを学生が望む場合、授業時間内で、できる範囲で解説することも考えている。講義主体の授業だが、積極的な授業参加を望む。

【テキスト（教科書）】

教科書

『ぐすく造営のおもろ一立ち上がる琉球世界』

(福寛美著 新典社 2015 年 1100 円)

【参考書】

参考書

『『おもろさうし』と群雄の世紀－三山時代の王たち』

(福寛美著 森話社 2013 年 3200 円+税)

【成績評価の方法と基準】

- ・授業 3 回につき 1 回程度、リアクション・ペーパーを配布する。学生のリアクションによって、理解の度合いを確認する。
- ・グスクとグスク造営のオモロ、そして古い時代の琉球文化について理解を深めたかどうかを、学期末試験で確認する。
- ・期末試験は複数の問題から 2 つ選んで記述する、という形をとる。また、平常点もあわせて評価する。学期末試験を 60 %、平常点を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・『おもろさうし』やオモロを素材に講義する場合、「難しい」、「よくわからなかった」という声が出ることがある。わかりにくい素材ではあるが、できるだけ学生に趣旨が伝わるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

- ・対面授業を基本とする。対面授業で参考資料を配布する。
- ・休講の連絡、ほかで学習支援システムを利用する場合がある。大事な連絡は、メールの一斉送信で周知するようにする。また、学習支援システムにインターネットで読める参考資料を提示する予定。

【その他の重要事項】

- ・春学期と秋学期は異なる教科書を用いる。春学期で完結する授業形態とする。

【Outline (in English)】

Course Outline: Structures with stone walls similar to castles or fortresses are called gusuku in Okinawa. The omoro (songs, poems, and prayers) in the Omoro Sōshi are the oldest literature that refer to the gusuku. Deepening one's understanding of the gusuku leads to learning about the unknown history of Ryukyu. In this course, we will read omoro related to gusuku to understand Ryukyuan culture.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand gusuku and ancient Ryukyuan culture.

Learning Activities Outside of the Classroom: Intensive reading of textbooks and references is necessary before and after each class. Required study time is one hour for a class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be evaluated by in-class performance (40%) and the result of a term-end examination (60%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

風は気象現象であるが、民俗世界では悪霊そのものとなる場合がある。平安時代の歴史物語、『栄花物語』には悪霊の風の用例が散見される。その悪霊の風を分析する際、琉球民俗、そして日本民俗の事例が役に立つ。

一見、別次元に見える文学世界と民俗世界が非常に近いこと、民俗事例が根強いものであることを確認し、広く言えば今後の生き方に生かすようにしてほしい。

【到達目標】

・日本の歴史物語、『栄花物語』の世界の悪霊の風について深く知る。
 ・琉球民俗、日本民俗の事例と平安時代の物語の事例の一致について考察する。
 ・霊的世界は、現実社会において「存在しないもの」とみなされる。しかし、霊的世界への関心は高い。そのことの意義、そして現代のスピリチュアル・ブームについても考察してみたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とする。授業 3 回につき 1 回程度、理解度をはかるため、リアクション・ペーパーの提出を求める。沖縄、奄美群島を含む南西諸島についての理解を深めるため、DVD の映像、CD の音源を鑑賞する機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	招魂	死者の魂を呼び戻すための儀礼について考察する。
第 2 回	平安時代の霊的事象	平安時代の霊的事象について考察する。
第 3 回	藤原道長の病と霊的事象	藤原道長の病と霊的事象について考察する。
第 4 回	霊的事象、藤原教通北の方の場合	藤原教通の北の方（正妻）の霊的事象について考察する。
第 5 回	悪霊	悪霊について考察する。
第 6 回	風・風病	平安時代の病を指す、風、風病の用例を考察する。
第 7 回	頼通の風	藤原頼通の霊的な病、風について考察する。
第 8 回	自然現象の風	自然現象の風について考察する。
第 9 回	民俗世界の悪霊の風	民俗世界の悪霊の風について考察する。
第 10 回	民俗辞書の悪しき風の用例	1950 年代にまとめられた民俗の辞書に掲載されている悪しき風の事例を考察する。
第 11 回	悪霊の風	悪霊の風について概説する。
第 12 回	無常の風	無常の風について概説する。
第 13 回	返りの風	民俗世界の返りの風について考察する。
第 14 回	風の行方	風の行方について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書を事前に読む。参考文献や参考資料を読む。授業後、確認のため復習しておく。

・授業外の学習時間は 4 時間程度とする。
 ・授業計画に沿って、教科書を用いて対面授業を行う。

【テキスト（教科書）】

『平安貴族を襲う悪霊の風－『栄花物語』異聞－』（福寛美著 新典社 2022 年 1200 円＋税）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

・霊的事象は不可視なので言語化しにくい、古来、人々は深い関心を持ってきた。その霊的事象が物語、民俗にどのように反映しているかをよく知ることを到達目標とする。
 ・成績評価は平常点と期末試験による。期末試験は出題された問題から 2 問選んで記述する、という形をとる。
 ・平常点を 40 %、期末試験を 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

琉球民俗の事例や古典の文献を用いる場合、学生はなじみがないため、わかりにくい、という声を聞く。なるべくわかりやすく説明するようつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

休講などの情報は学習支援システムを用いて提示する。重要な連絡は、メールで一斉送信するようにする。授業の参考資料は対面授業時に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【その他の重要事項】

授業は通年実施だが、春学期と秋学期の内容は異なるため、学期での完結となる。

【Outline (in English)】

Course Outline: Although the wind is an atmospheric phenomenon, it also means disease in the historical tale Eiga monogatari (A Tale of Flowering Fortunes), which was compiled in the Heian period. The demoniac wind that causes diseases is known in old folktales in every region of Ryukyu and Japan. In this course, students will study to deepen their understanding of the demoniac wind, spiritual power, and Shamanic cultures.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the consistency of folklore and its stories, and to learn about the power of folklore in preserving traditions.

Learning Activities Outside of the Classroom: Intensive reading of textbooks and references is necessary before and after each class. Required study time is one hour for a class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be evaluated by in-class performance (40%) and the result of the term-end examination (60%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第2回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在
第3回	日本意識の芽生えと発展	プレゼンテーションの準備 「中華思想」との接触 中世の日本意識
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	プレゼンテーションの準備（続） キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 テキスト pp. 10-17

第7回 テキスト pp. 18-23

第8回 テキスト pp. 64-69、70-77

第14回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、各自のプレゼンテーションが長くなり、討論が十分できないことがあったので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化的恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 テキスト pp. 182-187

第6回 テキスト pp. 214-219、266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、各自のプレゼンテーションが長くなり、討論が十分できないことがあったので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

備考（履修条件等）：・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修不可。

・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史1」を履修登録してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：

仏教は日本に千年以上根付いている、日本文化の根幹をなすものである。にもかかわらず、近年忘れられつつある。グローバル時代のいまこそ仏教を学び、日本の特徴のようなものを考えたい。

授業の目的：

仏教についての基本的な歴史や考え方を学習する。

仏教が文学のベースにもなっていたことを学習する。

【到達目標】

「日本人は無宗教」とよく言われるが、それに対してきちんと答えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「日本人は無宗教だ」について考える。今までの各自の仏教のイメージを考える。
第2回	仏教のはじまり	インドの釈迦の一生を学ぶ。
第3回	仏教のおわり？	釈迦の死と死後について学ぶ。
第4回	仏教の宇宙観（考え方）を知る1	概要を知る。
第5回	仏教の宇宙観（考え方）を知る2	六道輪廻を知る。
第6回	仏教の宇宙観（考え方）を知る3	仏像を知る。
第7回	仏教の宇宙観（考え方）を知る4	地獄を知る。
第8回	仏教の宇宙観（考え方）を知る5	宇宙観の総復習として「熊野観心十界曼荼羅」を知る。
第9回	日本の仏教を知る1	仏教公伝を知る。
第10回	日本の仏教を知る2	日本仏教の宗派を知る。
第11回	日本の仏教を知る3	神仏習合や修験道などについて知る。
第12回	中近世文学を中心に、仏教と文学の関係性を知る1	説話や説話集を通して仏教と文学の関係性を知る。
第13回	中近世文学を中心に、仏教と文学の関係性を知る2	主に絵入のお伽草子や草双紙などを通して仏教と文学の関係性を知る。
第14回	振り返り	「雨ニモ負ケズ」などを見ながら学んだ仏教について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる。

復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業中に指示する。

【参考書】

特に定めず、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー・リアベクイズ（40%）、中間小テスト（20%）、期末レポート（40%）で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業には、いつも学ぼうとする学生が多く集まり、教室の雰囲気もよく、嬉しく思っています。今回のテーマは仏教なので不安に思う学生もいるかもしれませんが、仏教は文学を読むためにも重要な考え方でしたので、どんな考え方なのかなどを、いつもの通り一緒に学んでいきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii を使って授業をす住めるので、それを見て使える機器を準備すること。

【その他の重要事項】

質問等は授業前に教壇前で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: People from other countries often say that Japanese people are non-religious, but our students will be able to argue about how true that statement is by the time that this lecture course is finished.

Learning Objectives: To understand the fundamentals of the more than one-thousand-year history of Buddhism in Japan, and its function as the base of Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation and revision will each require two hours' study.

Grading Criteria/Policy: Overall grades are determined according to: written reactions to lectures and in-class quizzes (40%); mid-semester test (20%); and final report (40%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：・日本文学科生でない文学部生が「文化史2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」（資格）（A3862）を履修すること。

・本科目を履修済みの場合、「文化史2」（A2582）（夜間）は履修不可。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するには「文化史2」（A2582）を履修登録する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隷書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九揚『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（堂原書房、2005年）

・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）

・名見耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）

そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）平常点（30%）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

BSP100BC

ゼミナール入門

【クラス指定あり】

坂本 勝、中丸 宣明、佐藤 未央子、小林 ふみ子、伊海 孝充、藤村 耕治、スティーヴン ネルソン、中沢 けい、加藤 昌嘉

授業コード：A2605, A2606, A2607, A2608, A2609, A2610, A2611, A2612, A2613, A2614 | 曜日・時限：A3/Mon.3, A4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

日本文学では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion. The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

1. 問題提起的な発表内容を準備することができる
2. わかりやすいレジュメを作成することができる
3. 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる

以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月末に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: discussions and learning attitude in class(60%), presentations (40%).

1. 授業・質疑応答への積極的な参加：60% ※原則4回以上欠席すると単位を修得できません。

2. 発表の内容：40% ※発表をしなかった場合には、単位を修得できないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（10クラス開講）

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.**Learning Objectives:** The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.**Grading Criteria/Policy:** Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); handouts (40%); and discussions (30%).

LIN200BC

日本語史 A

間宮 厚司

授業コード：A2433 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	奈良時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)
第 3 回	奈良時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)
第 4 回	奈良時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)
第 5 回	奈良時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (4)
第 6 回	平安時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)
第 7 回	平安時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)
第 8 回	平安時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)
第 9 回	平安時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)
第 10 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)
第 11 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10)
第 12 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11)
第 13 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12)
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学期末レポートの提出期限は、もう少し遅くしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC

日本語史 B

間宮 厚司

授業コード：A2435 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介し、質問に答えます。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	江戸時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)
	受講生の春学期の大レポートの報告 (1)	
第 3 回	江戸時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)
	受講生の春学期の大レポート報告 (2)	
第 4 回	江戸時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)
	受講生の春学期の大レポート報告 (3)	
第 5 回	江戸時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出 (4)
	受講生の春学期の大レポート報告 (4)	
第 6 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)
	受講生の春学期の大レポート報告 (5)	
第 7 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)
	受講生の春学期の大レポート報告 (6)	
第 8 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)
	受講生の春学期の大レポート報告 (7)	
第 9 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)
	受講生の春学期の大レポート報告 (8)	
第 10 回	戦後の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)
	受講生の春学期の大レポート報告 (9)	
第 11 回	戦後の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10)
	受講生の春学期の大レポート報告 (10)	
第 12 回	戦後の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11)
	受講生の春学期の大レポート報告 (11)	
第 13 回	戦後の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12)
	受講生の春学期の大レポート報告 (12)	
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%) と学期末の大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学期末レポートの提出期限は、もう少し遅くしてほしい。

【その他の重要事項】

◎ 9 月 22 日からの授業は、Zoom を使用し、オンラインで行います。

授業の Zoom ID・パスワードは、学習支援システムに登録されている

メールアドレス宛にご連絡します。

オンラインで受講される場合に必要となる授業の Zoom ID・パスワードは、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛にご連絡します。

【Outline (in English)】

Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIN200BC

日本文法論 A

松浦 光

授業コード：A2437 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語学の基礎を確認しながら、現代日本語の文法的な規則を振り返る。そして、認知言語学による現代日本語文法へのアプローチを検討する。そこから、国語教育をはじめとした社会につながる国語力を身につけていく。

【到達目標】

(1) 国語教員がおさえておきたい日本語文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
(2) 日本語文法の逸脱・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけでなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々な問題・課題を授業内で与える。
▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。
▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業に関するオリエンテーション・アンケート	自分が気になる文法現象についてまとめる。
第 2 回	認知言語学の文法観	認知言語学における文法観を理解する。
第 3 回	社会の中の国語力と学校の中の国語力	自分の国語学習経験を振り返る。
第 4 回	推論と意図理解	推論と意図理解のメカニズムについて理解する。
第 5 回	<文字通りでない意味>の日常性	<文字通りでない意味>が反映された表現を考える。
第 6 回	似ていない比喩	換喩・提喩のメカニズムを理解する。
第 7 回	文法とレトリック	文法とレトリックの連続性を理解する。
第 8 回	物語における<文字通りでない意味の理解>	テキストと意味の関係を検討する。
第 9 回	比喩からみた慣用句	慣用句の成立と比喩的な動機づけを理解する。
第 10 回	文章に書いていないことを読む	言葉の言外の意味について考える。
第 11 回	文法と視点	多様な視点が反映される言語表現を考える。
第 12 回	話しことばにおける<文字通りでない意味>の理解	話しことばの特性と意味解釈のメカニズムを理解する。
第 13 回	現代日本語の用例の収集と整理の方法	現代日本語の用例の収集と整理の方法を学ぶ。
第 14 回	授業のまとめ	授業の内容の復習を行い、期末レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。テキストを読み込み、授業の内容について理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

菅井三実 (2021) 『社会につながる国語教室: 文字通りでない意味を読む力』 東京: 開拓社. (¥2,200)

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート 50%、②小課題 30%、③平常点・授業参加への積極性 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces modern Japanese grammar by cognitive linguistics for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

Learning Objectives: The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIN200BC

日本文法論 A

松浦 光

夜間時間帯

授業コード：A2438 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語学の基礎を確認しながら、現代日本語の文法的な規則を振り返る。そして、認知言語学による現代日本語文法へのアプローチを検討する。そこから、国語教育をはじめとした社会につながる国語力を身につけていく。

【到達目標】

- (1) 国語教員がおさえておきたい日本語文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
- (2) 日本語文法の逸脱・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々な問題・課題を授業内で与える。

▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業に関するオリエンテーション・アンケート	自分が気になる文法現象についてまとめる。
第 2 回	認知言語学の文法観	認知言語学における文法観を理解する。
第 3 回	社会の中の国語力と学校の中の国語力	自分の国語学習経験を振り返る。
第 4 回	推論と意図理解	推論と意図理解のメカニズムについて理解する。
第 5 回	<文字通りでない意味>の日常性	<文字通りでない意味>が反映された表現を考える。
第 6 回	似ていない比喻	換喩・提喩のメカニズムを理解する。
第 7 回	文法とレトリック	文法とレトリックの連続性を理解する。
第 8 回	物語における<文字通りでない意味の理解>	テキストと意味の関係を検討する。
第 9 回	比喻からみた慣用句	慣用句の成立と比喩的な動機づけを理解する。
第 10 回	文章に書いていないことを読む	言葉の言外の意味について考える。
第 11 回	文法と視点	多様な視点が反映される言語表現を考える。
第 12 回	話しことばにおける<文字通りでない意味>の理解	話しことばの特性と意味解釈のメカニズムを理解する。
第 13 回	現代日本語の用例の収集と整理の方法	現代日本語の用例の収集と整理の方法を学ぶ。
第 14 回	授業のまとめ	授業の内容の復習を行い、期末レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。テキストを読み込み、授業の内容について理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

菅井三実 (2021) 『社会につながる国語教室：文字通りでない意味を読む力』 東京：開拓社。（¥2,200）

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート 50%、②小課題 30%、③平常点・授業参加への積極性 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces modern Japanese grammar by cognitive linguistics for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

Learning Objectives: The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIN200BC

日本文法論 B

松浦 光

授業コード：A2439 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1) そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2) そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の 2 点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々なトピックについて議論を行うこともある。

▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの学習の復習を行う。
第 2 回	視点とことば	視点に関与する言語表現を考える。
第 3 回	主観的移動と主観的变化	主観的移動と主観的变化が反映された表現を理解する。
第 4 回	知覚・経験と存在	知覚・経験と存在と言語表現について考える。
第 5 回	話し手としての「私」	話者と人称の関係を検討する。
第 6 回	人称と視点	人称と視点の関係から言語表現を考察する。
第 7 回	視点からみた日本語らしさ	他の言語と日本語について検討する。
第 8 回	モノの性質からみた知覚と行為	モノの性質と身体性による意味づけについて考える。
第 9 回	イメージ・スキーマ	イメージ・スキーマの例と言語表現の関係を考える。
第 10 回	多義語	多義語の例を考えて、分析する。
第 11 回	事物の意味とフレーム	フレームが反映された言語表現を考える。
第 12 回	概念メタファー	概念メタファーの働きについて理解を深める。
第 13 回	自己と主観性	自己と主観性が反映された言語表現を考える。
第 14 回	まとめ	本講義の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・小課題（2 時間）

その日の講義の復習（2 時間）

【テキスト（教科書）】

本多啓 (2013) 『知覚と行為の認知言語学：「私」は自分の外にある』東京：開拓社。（¥2,090）

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート 50%、②小課題 30%、③平常点・授業参加への積極性 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. We will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIN200BC

日本文法論 B

松浦 光

夜間時間帯

授業コード：A2440 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1) そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2) そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の 2 点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけでなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々なトピックについて議論を行うこともある。

▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの学習の復習を行う。
第 2 回	視点とことば	視点に関与する言語表現を考える。
第 3 回	主観的移動と主観的变化	主観的移動と主観的变化が反映された表現を理解する。
第 4 回	知覚・経験と存在	知覚・経験と存在と言語表現について考える。
第 5 回	話し手としての「私」	話者と人称の関係を検討する。
第 6 回	人称と視点	人称と視点の関係から言語表現を考察する。
第 7 回	視点からみた日本語らしさ	他の言語と日本語について検討する。
第 8 回	モノの性質からみた知覚と行為	モノの性質と身体性による意味づけについて考える。
第 9 回	イメージ・スキーマ	イメージ・スキーマの例と言語表現の関係を考える。
第 10 回	多義語	多義語の例を考えて、分析する。
第 11 回	事物の意味とフレーム	フレームが反映された言語表現を考える。
第 12 回	概念メタファー	概念メタファーの働きについて理解を深める。
第 13 回	自己と主観性	自己と主観性が反映された言語表現を考える。
第 14 回	まとめ	本講義の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・小課題（2 時間）

その日の講義の復習（2 時間）

【テキスト（教科書）】

本多啓 (2013) 『知覚と行為の認知言語学：「私」は自分の外にある』東京：開拓社。（¥2,090）

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート 50%、②小課題 30%、③平常点・授業参加への積極性 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. We will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文学史 A

中沢 けい

授業コード：A2441 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んでいきます。

【到達目標】

文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本語文章の変化の概略を辿ります。
第 2 回	原稿用紙について	原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話しします。
第 3 回	活版印刷の登場	デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょうか。
第 4 回	グーテンベルク登場当時の日本	グーテンベルクが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話しします。
第 5 回	宗教改革から大航海時代へ。	活版印刷は欧州に新旧のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。
第 6 回	大航海時代と日本の戦国時代。	日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。
第 7 回	ちょっとお休み。毎月の本だな。	毎月 1 回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話しします。
第 8 回	古代から中世末期までの日本の文章変化 1	中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。
第 9 回	古代から中世末期までの日本の文章変化 2	漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話しします。
第 10 回	古代から沖積末期までの日本の文章変化 3	漢文脈、和文脈の 2 系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話いたします。
第 11 回	町人の文化形成とプレ口語文の時代	近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話いたします。
第 12 回	福沢諭吉と口語文の工夫 活版印刷の登場と造本の変化	幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話します。
第 13 回	樋口一葉は原稿用紙を使っていた。	活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたことをお話いたします。
第 14 回	表現のための技術と文章の関係	最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するように心がけてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】

授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加 40 パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート 40 パーセント、期末レポート 20 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.

Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC

日本文学史 B

中沢 けい

授業コード：A2443 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

【到達目標】

活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と質疑応答。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近代とはどのような時代でしょうか。	文語文から口語文への変化を近代と言う社会背景から概略を説明します。
第 2 回	産業革命から市民革命と日本の近世 1	欧州で産業革命と市民革命が起きた時代と日本の近世を並行的に考察します。
第 3 回	産業革命と市民革命と日本の近世 2	欧州に登場した市民と日本の近世に登場した町人の比較を試みます。
第 4 回	近代口語文の登場	春学期でお話した福沢諭吉の登場がもたらした日本語文章の改革について再度、お話をします。
第 5 回	近代に登場した数々の表現技術と出版文化。	写真、映画、ラジオなどが登場します。また新聞が社会の中で大きな役割を占めることをお話します。
第 6 回	近代の映像を見てみましょう。	HNK で放送された「映像の世紀」から近代初期の映像を視聴します。
第 7 回	近代のイメージ	受講生の皆さんが近代についてどのようなイメージを持ったのかを質問しながら質疑応答いたします。
第 8 回	戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道	日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、日米戦争での主要メディアについてお話します。
第 9 回	テレビの登場、週刊誌の登場	マスメディアについてお話します。マスメディアは後に頂上するパーソナルなメディアとの比較を試みます。
第 10 回	デジタル技術の登場	デジタル技術とインターネットは文章を変化させるのか？この疑問について、現在、考えていることをお話します。
第 11 回	世論形成とフェイクニュース	デジタル技術はパーソナルな情報発信を可能にしました。一方で、フェイクニュースの流布などの問題をもたらしたことをお話します。
第 12 回	アジア諸国の台頭と新しい比較文学	アジア諸国の経済発展は神話学や物語の比較文学に新しい研究成果をもたらしています。
第 13 回	大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。	大航海時代以来、世界に形成された価値観の構造的な問い直しが進んでいます。価値観の問い直しは文章へどのような影響を与えるのでしょうか。
第 14 回	これからの文章	これからどのような文章が創造されて行くのか、受講生に皆さんと質疑応答をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考慮するようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】

授業内の随時ご紹介しします。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。

【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加 40 パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート 40 パーセント、期末レポート 20 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.**Learning Objectives:** The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC

文章表現論 A

伊東 祐吏

授業コード：A2445 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どのような行為なのか。私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】

自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とは何か	文章を書くうえでの心得
第 2 回	メモと設計図	構想の練り方
第 3 回	書き出しと書き終わり	冒頭と末尾の決め方
第 4 回	テーマと題名	書く内容と方向性を定める
第 5 回	文章の呼吸と運動	文章の生命はどこから来るのか
第 6 回	詩と散文	その性質の違い
第 7 回	書きやすさと書きにくさ	文章への力の入れ方
第 8 回	紋切型と一般論	自分だけの言葉を書く
第 9 回	批評という酵母	批評的要素の働きについて
第 10 回	読者の想定	人に届く文章のあり方
第 11 回	物語と小説	両者の違いと関係性
第 12 回	執筆と感情	執筆時の感情との向き合い方
第 13 回	熱意と体力	執筆の肉体労働性について
第 14 回	小説を書く理由	人はなぜ小説を書くのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

梅田卓夫・清水良典・服部左右一・松川由博『新作文宣言』（ちくまライブラリー）、加藤典洋『言語表現法講義』（岩波テキストブックス）

【成績評価の方法と基準】

800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Basic practice for writing novels, criticism, and essays.

Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)

Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT200BC

文章表現論 A

伊東 祐吏

夜間時間帯

授業コード：A2446 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どのような行為なのか。私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】

自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とは何か	文章を書くうえでの心得
第 2 回	メモと設計図	構想の練り方
第 3 回	書き出しと書き終わり	冒頭と末尾の決め方
第 4 回	テーマと題名	書く内容と方向性を定める
第 5 回	文章の呼吸と運動	文章の生命はどこから来るのか
第 6 回	詩と散文	その性質と違い
第 7 回	書きやすさと書きにくさ	文章への力の入れ方
第 8 回	紋切型と一般論	自分だけの言葉を書く
第 9 回	批評という酵母	批評的要素の働きについて
第 10 回	読者の想定	人に届く文章のあり方
第 11 回	物語と小説	両者の違いと関係性
第 12 回	執筆と感情	執筆時の感情との向き合い方
第 13 回	熱意と体力	執筆の肉体労働性について
第 14 回	小説を書く理由	人はなぜ小説を書くのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

梅田卓夫・清水良典・服部左右一・松川由博『新作文宣言』（ちくまライブラリー）、加藤典洋『言語表現法講義』（岩波テキストブックス）

【成績評価の方法と基準】

800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Basic practice for writing novels, criticism, and essays.

Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)

Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT300BC

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？ 表現とは何か？ という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。(中沢けい)
第 2 回	知的財産権の捉え方 1	1 冊の本には多様な著作権者の権利が交错しています。
第 3 回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第 4 回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょうか。
第 5 回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第 6 回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第 7 回	同上	鶴飼哲夫講師（読売編集委員）
第 8 回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第 9 回	同上	仲俣暁生（編集者）
第 10 回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第 11 回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第 12 回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第 13 回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之（建築家、小説家）
第 14 回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分 (%)」：レポート 30 % 平常点 70 %

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

LIT200BC

文章表現論 B

伊東 祐吏

授業コード：A2447 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どのような行為なのか。私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】

自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「書く」までのアプローチ	その道のりと空白を楽しむ
第 2 回	「書く」ことの楽しみ	書くなかでの発見を待つ
第 3 回	「読む」と「書く」	自分の読書方法を点検する
第 4 回	疑問を育てる	論点の見極めとテーマの設定
第 5 回	論を書く	学問の仕組みを知る
第 6 回	学問と文学	「頭のよさ」と「頭の強さ」の違い
第 7 回	描写と比喩	言葉による描写の特徴
第 8 回	事実とフィクション	両者の違いと共通点
第 9 回	リアリティの正体	人は文章のどこに真実味を感じるか
第 10 回	一人称と三人称	人称と小説の関係
第 11 回	フィクションの力	その必要性と可能性
第 12 回	小説への道のり	「私」ではない人物として文章を書く
第 13 回	取材と調査	書き手に必要な準備とは
第 14 回	オリジナルと模倣	独創への近道と回り道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、井上ひさし『自家製文章読本』（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Basic practice for writing novels, criticism, and essays.

Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.

【Learning Activities Outside of the Classroom:】

Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)

LIT200BC

文章表現論 B

伊東 祐吏

夜間時間帯

授業コード：A2448 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どのような行為なのか。私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】

自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「書く」までのアプローチ	その道のりと空白を楽しむ
第 2 回	「書く」ことの楽しみ	書くなかでの発見を待つ
第 3 回	「読む」と「書く」	自分の読書方法を点検する
第 4 回	疑問を育てる	論点の見極めとテーマの設定
第 5 回	論を書く	学問の仕組みを知る
第 6 回	学問と文学	「頭のよさ」と「頭の強さ」の違い
第 7 回	描写と比喩	言葉による描写の特徴
第 8 回	事実とフィクション	両者の違いと共通点
第 9 回	リアリティの正体	人は文章のどこに真実味を感じるか
第 10 回	一人称と三人称	人称と小説の関係
第 11 回	フィクションの力	その必要性と可能性
第 12 回	小説への道のり	「私」ではない人物として文章を書く
第 13 回	取材と調査	書き手に必要な準備とは
第 14 回	オリジナルと模倣	独創への近道と回り道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、井上ひさし『自家製文章読本』（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Basic practice for writing novels, criticism, and essays.

Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)

Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT300BC

日本文芸批評史 A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
 日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
 自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
 講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
 発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、文章を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第 2 回	批評とは何か	その特徴について
第 3 回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第 4 回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第 5 回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第 6 回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第 7 回	高山樗牛	彼の作品の若者への影響について
第 8 回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第 9 回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第 10 回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第 11 回	言文一致運動	その過程の論争
第 12 回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第 13 回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第 14 回	大逆事件	石川啄木の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および [昭和篇] (岩波文庫)。(ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC

日本文芸批評史 B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、文章を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大正・昭和期の文学の概説	20 世紀の欧米文学との比較
第 2 回	夏目漱石の批評	文明批評について
第 3 回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第 4 回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第 5 回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第 6 回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第 7 回	プロレタリア文学と新感覺派	関東大震災後の新たな潮流
第 8 回	小林秀雄の登場	日本における近代文芸批評の確立
第 9 回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第 10 回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第 11 回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第 12 回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第 13 回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第 14 回	ポストモダンとニューアカデミズム	柄谷行人の批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

LIT300BC

日本語学特殊研究 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2558 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30%）・質疑応答の発言（20%）・レポート（50%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの課題が良いと思いました。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the ancient and medieval periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT300BC

日本語学特殊研究 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2560 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30%）・質疑応答の発言（20%）・レポート（50%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善してほしいところは特にありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the early modern to contemporary periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT200BC

中国文芸史 A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第 2 回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第 3 回	詩経	中国最古の歌謡集である「詩経」の歌謡を読む
第 4 回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第 5 回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第 6 回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第 7 回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第 8 回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第 9 回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第 10 回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第 11 回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第 12 回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第 13 回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第 14 回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
 ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
 ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

中国文芸史 A

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2562 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。
有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第 2 回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第 3 回	『孟子』を読む	梁惠王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第 4 回	『詩経』を読む	中国の現存最古の歌謡集である『詩経』について知る。
第 5 回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。齊物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第 6 回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第 7 回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第 8 回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第 9 回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第 10 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第 11 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分を精読し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第 12 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1 回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

【学生が準備すべき機器他】

できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校国語の副教本（便覧・要覧）など。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation (printed versions preferable, but apps may be used). The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: A general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

Lecture format: Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner. In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which checks the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate. In addition to dictionaries, high school supplementary textbooks will also be of use.

Remarks for International Students: This class is conducted through *kundoku*, a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

LIT200BC

中国文芸史 B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第 2 回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第 3 回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第 4 回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第 5 回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第 6 回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第 7 回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第 8 回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説についての概説
第 9 回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第 10 回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第 11 回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第 12 回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第 13 回	唐代古文運動	中唐に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第 14 回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隱の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
 ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005 年）
 ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100% 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
 ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
 B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
 C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

中国文芸史 B

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2564 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話のテキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味・方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第 2 回	『史記』刺客列伝を読む (1)	『史記』の刺客列伝から荆軻の部分を精読する。
第 3 回	『史記』刺客列伝を読む (2)	当時の中国がどのような状況であったのかを理解しつつ読み進める。
第 4 回	『史記』刺客列伝を読む (3)	精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。
第 5 回	『史記』刺客列伝を読む (4)	太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ読解する。
第 6 回	『史記』刺客列伝を読む (5)	秦王暗殺を試みる場面を精読する。
第 7 回	『史記』刺客列伝を読む (6)	荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなったのかを理解する。
第 8 回	『史記』刺客列伝を読む (7)	荆軻列伝全体の流れを整理し、『史記』の他の部分ではこの事件がどう記されているかを見る。
第 9 回	『史記』秦始皇本紀を読む (1)	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第 10 回	『史記』秦始皇本紀を読む (2)	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第 11 回	『史記』秦始皇本紀を読む (3)	始皇帝の本紀から、当時の人々の思想などを読み解く。
第 12 回	『史記』秦始皇本紀を読む (4)	秦の滅亡と、その後の項羽と劉邦の争いに触れる。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校の副教本（便覧・要覧）など。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation (printed versions preferable, but apps may be used). The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

Lecture format: Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner. In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which checks the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate. In addition to dictionaries, high school supplementary textbooks will also be of use.

Remarks for International Students: This class is conducted through *kundoku*, a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

LIT300BC

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解読を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をともに眺めてゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿 (1)	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿 (2)	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について (1)	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について (2)	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史 (1)	・版本の種類に関する概説
第 9 回	版本の歴史 (2)	・中世までの印刷の歴史について ・キリシタン版について
第 10 回	版本の歴史 (3)	・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち (1)	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち (2)	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
 - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
 - ・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
 - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
- このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* ("bibliography") is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (80%); performance in class (20%).

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 A

野川 美穂子

授業コード：A2569 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、「三曲」と呼ばれる種目の特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに「三曲」）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い「三曲」（地歌、箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは「三曲」に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌としての魅力にも富む多彩な作品を紹介します。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。なお、「三曲」の大正時代以降の状況については、秋学期の授業で紹介いたします。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲である段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴② 胡弓楽の歴史と特徴。	尺八本曲の魅力。 胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。
第 14 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。「三曲」の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3 分の 2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline (in English)】

Regarding the Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the spring semester, we mainly target music for the *koto*, *shamisen*, *shakuhachi* and *kokyū*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 B

野川 美穂子

授業コード：A2571 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、歌舞伎、文楽を中心に、それぞれの特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに歌舞伎と文楽）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、箏や尺八などを用いる「三曲」（春学期の授業内容）の大正時代以降の状況、歌舞伎の明治以降の状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。

多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃。	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第 9 回	他の種目との関連①	道成寺物の魅力。
第 10 回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第 11 回	長唄②	長唄の多様性。
第 12 回	他の種目との関連②	石橋物の魅力。
第 13 回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションをはじめ、最新技術を駆使して新しい展開を見せる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3 分の 2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline (in English)】

Regarding Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the fall semester, we mainly focus on *bunraku* and *kabuki*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

LIT200BC

編集理論 A

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2709 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはテキストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web 空間におけるテキストについては秋学期に扱います）。まず、テキストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】

これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現在の書籍や雑誌の制作過程を追体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テキスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際の・具体的な授業内容となるよう心がけます。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	出版・編集の現在	現在の出版界がおかれている状況を概観し、ガイダンスとします。
第 2 回	日本の出版流通の特殊性	再販売価格維持制度について考えます。
第 3 回	日本の出版流通の特殊性 ①	委託制度について考えます。
第 4 回	日本の出版流通の特殊性 ②	出版取次の役割について考えます。
第 5 回	日本の出版流通の特殊性 ③	明治以降、出版物の流通制度がどのように変わったかを概観します。
第 6 回	定価の構成要素	書籍や雑誌の定価はどのように決まるのか、その構成要素から考えていきます。
第 7 回	印税という制度	著作権およびその使用についての基礎的知識を概観していきます。
第 8 回	編集の流れ	8 回からは、実際の編集制作過程について講義します。その初回は「ゲラ」の流れから編集の流れを概観します。
第 9 回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要性を学びます。校正作業の詳細については、編集理論 B で扱い、ここでは全体像を示します。
第 10 回	文字と組版①	本文に使われている文字はどのように選ばれるのか、印刷文字の基礎を学びます。
第 11 回	文字と組版②	本文の読みやすく、美しい版面はどのように構成すればよいのか、組版の基礎を学びます。
第 12 回	折と台割	本文はどのようにして印刷されるのか、「折」という単位について考えます。
第 13 回	紙について①	書籍・雑誌の素材としていちばん大切な「紙」についての基礎知識を概観します。
第 14 回	紙について②	A 判、B 判、四六判など、色々な印刷用紙からどのような書籍・雑誌が作り出されるのか、概観します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くりアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。

「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: We often receive texts in the form of books and magazines (web-based texts will be covered in the fall semester). First, we will gain a solid understanding of the process by which texts are transformed into books and magazines.

Learning Objectives: Students will acquire knowledge to appreciate books and magazines not only from the perspective of “reading” but also from the perspective of “creating,” or editing and producing.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please carefully think about what makes a book or magazine attractive to you, as if you were the editor of the book or magazine, by visiting real bookstores frequently. Key words for the next class will be presented beforehand, so please get as much prior knowledge as possible. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: The evaluation of your performance will be based on your participation in class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT200BC

編集理論 B

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2710 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、日本語の表記法と校正について学びます。基本的な校正記号は使えるようにします。後半は、書物の歴史を振り返りながら、書物の姿がどのように変容してきたのか、その歴史の中に現在の電子書籍や Web 上のコンテンツを位置づけ、書物の将来を考えていきます。

【到達目標】

編集理論 A は、実際の書物や雑誌の編集制作過程を順に講義しましたが、編集理論 B では、A で詳論できなかった「校正」や「表記法」について学びます。皆さんの中には、組版ソフトの InDesign を使って雑誌作りを経験した人も多いと思います。InDesign を使えば誰でも簡単に組版ができます。しかし組版のもとになる表記法の知識がなければ、美しく正確な組版ができません。当たり前と思っていた日本語表記法を編集の視点から見直します。また後半では書物の歴史をラフスケッチし、その歴史の中にデジタル書籍を新しい書物像として位置づけます。しかし現在の電子書籍はまだ未だ未完成です。電子書籍、紙媒体の書籍、それぞれを自由に見るための視点を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な校正記号の理解にはテキストを使います。テキストに準じ、20 程度の校正記号を使えるようにします。書物史の講義では、DVD 視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語の表記法はどのように変わったか	編集者は日本語の表記法について考える最前線に立っています。編集という視点から見た日本語の表記法を考えます。
第 2 回	組版の特性と表記法	原稿用紙に書く場合、ワードで入力する場合、印刷組版の場合、それぞれに表記法のズレが生じます。その違いを理解することが大切です。
第 3 回	約物について	文字以外の句読点や様々な括弧の類を「ヤクモノ」と言います。約物は新たに日本語表記に付与された記号です。約物について概観します。
第 4 回	漢字について① 当用漢字・常用漢字・人名漢字	漢字行政の変遷を概観します。当用漢字と常用漢字、人名漢字、それぞれがもたらした問題について考えていきます。
第 5 回	漢字について② 拡張新字体	新たに生み出された拡張新字体がもたらした問題について考えます。
第 6 回	校正記号について① テキスト 1~5	下記に示したテキストを使って、基本的な校正記号を学び、練習問題を解いていきます。4 回の授業で全篇仕上げます。
第 7 回	校正記号について② テキスト 6~10	字間や行間の訂正など。
第 8 回	校正記号について③ テキスト 11~15	中つきルビ、肩つきルビ、グループルビについて。
第 9 回	校正記号について④ テキスト 16~20	校正記号のまとめ。
第 10 回	書物の歴史① 卷子本から冊子本へ	百万塔陀羅尼から和本の形が成立するまでを概観します。
第 11 回	書物の歴史② 江戸から明治へ	江戸時代の書物文化と洋装本の成立について概観します。
第 12 回	書物の歴史③ 活版印刷と写真の誕生	書物文化にとっての革命、活版印刷と写真について考えます。
第 13 回	書物の歴史④ 活版印刷以降	写真植字、電子組版、オフセット印刷などについて概観します。
第 14 回	書物の歴史⑤ デジタル書物へ	書物が紙という支持体から解放される過程を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

校正練習帳 (1) 校正記号を使ってみよう タテ組編 日本エディタースクール 550 円

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。

「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In the first half of the course, students will learn about how written Japanese is laid out and proofread. Students will learn to use basic proofreading symbols. The second half of the course will look back at the history of the book and how the form of the book has transformed, situate current e-books and web-based content within that history, and consider the future of the book.

Learning Objectives: In the spring semester, we dealt with the process of editing and producing books and magazines. In the fall semester, students will learn about “proofreading” and “layout,” which could not be discussed in detail in the spring semester. Many of you may have used the typesetting software InDesign to create magazines, and anyone can use InDesign to create typesetting easily. However, without knowledge of the norms of layout that form the basis of typesetting, it is impossible to create beautiful and accurate typesetting. This lecture will review how written Japanese is laid out, a subject that we take for granted, from an editorial point of view. In the second half of the course, we will do a rough survey of the history of books and situate digital books as a new image of books within that history. However, the current digital book is still in its infancy. Students will acquire perspectives to view and appreciate both e-books and paper books.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are encouraged to use catalogs available in libraries and other institutions to investigate the various forms of books from the past and present. For the history of books, knowledge of Japanese and world history is required as background. Students should study the historical background of the period applicable to the class content in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: The evaluation of your performance will be based on your participation in the class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT200BC

編集実務 A

谷村 順一

授業コード：A2574 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：定員 25 名を超える場合は選抜を行う。
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具画像編集に使用する Adobe Photoshop、ポスターなどの印刷物やロゴマークなどの制作に使用する Adobe Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、ページものの編集には Adobe InDesign を使用するの、InDesign をあつかう「編集実務 B」と併せて受講することが望ましい。

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行っていただきます。
 ※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【Course content】

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignments.

【Class method】

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation. Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	開講にあたってのガイダンスを行います
第 2 回	DTP とはなにか？	DTP の概略についての説明
第 3 回	Adobe Photoshop を用いた切り抜きと合成	Photoshop を用いた画像の切り抜きと合成について説明を行います
第 4 回	写真のレタッチ	Photoshop を用いた写真のレタッチについて説明を行います
第 5 回	クリッピングマスク（選択範囲の作成）	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（選択範囲を作成する方法）説明を行います
第 6 回	クリッピングマスク（クリッピングパスの作成）	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（クリッピングパスを実際に作成する）説明を行います
第 7 回	Illustrator や InDesign との連携	Photoshop で作成したビットマップ画像を、Illustrator や InDesign といったベクター画像を扱うアプリケーションで使用する方法について説明を行います
第 8 回	Adobe Photoshop まとめ課題	ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでもらいます
第 9 回	Adobe Illustrator 長方形ツールと楕円形ツール	長方形ツールと楕円形ツールの作成方法について説明を行います
第 10 回	オブジェクトの塗りと線の設定	Illustrator での描画の基本となるオブジェクトの塗りと線の設定方法について説明を行います
第 11 回	選択ツールとダイレクト選択ツール	Illustrator の基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて説明を行います
第 12 回	文字の入力	テキストツールを用いた文字の入力方法について説明を行います
第 13 回	Photoshop との連携	Illustrator で作成したオブジェクトを Photoshop で使用する方法について説明を行います
第 14 回	Adobe Illustrator まとめ課題	ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでもらいます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。
 平常点 30 % 小課題 + 期末課題 70 %

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。
 We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがのぞましい。

※ 「情報科学実習 1・2 (f コース中の DTP 入門編) を事前に履修しておくとうりいい。

・ Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

・ It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

・ It is better to take "Information Science Practical Training 1 and 2 (Introduction to DTP in f course)" in advance.

【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

LIT200BC

編集実務 B

谷村 順一

授業コード：A2576 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：「編集実務 B」を履修する場合は、「編集実務 A」も履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的にはページものの作成に不可欠な Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、画像やイラストなど誌面に必要な要素の作成のために Adobe Photoshop、Illustrator を使用するので「編集実務 A」と併せて受講することが望ましい。

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A".

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【Course content】

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【Class method】

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation.

Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	本作りの過程	企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について
第 3 回	Adobe InDesign ①	誌面作成の基礎となる版面の設定 グリッドフォーマットの作成
第 4 回	Adobe InDesign ②	マスターページの役割と文字の流 マスターページの設定 と文字の流し込み
第 5 回	Adobe InDesign ③	組版の基本となる各種設定につ いて
第 6 回	Adobe InDesign ④	ルビの振り方について
第 7 回	Adobe InDesign ⑤	Photoshop や Illustrator で作成 した各種画像の取り込み方につ いて
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	総合課題①	ラフの作成
	Photoshop、 Illustrator、 InDesign を使用して	
第 10 回	総合課題②	素材の準備
	Photoshop、 Illustrator、 InDesign を使用して	
第 11 回	総合課題③	各種アプリケーションを用いたレ イアウト作業
	Photoshop、 Illustrator、 InDesign を使用して	
第 12 回	総合課題④	提出データの最終確認
	Photoshop、 Illustrator、 InDesign を使用して	
第 13 回	発表と講評	発表と講評
第 14 回	発表と講評	発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30 % 小課題 + 期末課題 70 %

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがのぞましい。

※ 「情報科学実習 1・2 (f コース中の DTP 入門編) を事前に履修しておくとうりいい。

· Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

· It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

· It is better to take "Information Science Practical Training 1 and 2 (Introduction to DTP in f course)" in advance.

【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A".

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作人権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した事例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られ、情報の比較ができていく中において、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りと認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権の視点から、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループディスカッションを講義のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権 2	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作人権
第 5 回	知的財産権とトラブル①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての事例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発信、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	SNS 時代の新たな危険と総括	違法アップロード、リーチサイト、知らぬ間に著作権侵害。編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。本授業の準備学習・復習時間として、各メディアのいずれかに一日合計 2 時間程度接し、社会情勢について常識的な知識を持つことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表やグループワークへの参加は必須とし、30%。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20%、通常授業での平常点 30%、課題評価 20%。ただしオンライン授業となった場合、各回にコメントや感想を求める可能性があります。その際は、このコメント提出を以て出席とし、平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ワライになったときは、携帯電話ではなく、PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course aims for an understanding of intellectual property rights. We live while taking advantage of various rights. It is necessary to understand the intellectual property rights around you and confirm your stance of protecting them. Based on examples I have experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field as it differs from the law.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the protection of intellectual property.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the newspaper, and/or watched TV while thinking about the issue of intellectual property.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%); in-class contribution (20%).

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、確かな判断ができる姿勢を獲得することを旨とする。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第2回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第3回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第4回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第5回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第6回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」を理解するには。
第7回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第8回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第9回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。名作からスタンダードに。
第10回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第11回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第12回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数、コロナ流行状況によって形式を変えます）
第13回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第14回	SNS時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	SNS時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けのため、今現実には起きている社会事象や事件について、最低限の情報を持つようにする。

本授業の準備学習・復習時間は、新聞を読む、テレビを見るなど、現実社会の情報に遅れないため、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加算評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30%。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20%。通常授業での平常点30%、課題評価20%。ただしオンライン授業となった場合、各回にコメントや感想を求める可能性ががあります。その際は、このコメント提出を以て出席とし、平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 総合出版の講談社において、文芸分野（フィクション）を統括する元文芸局長。

日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。

<主要研究業績（社歴）>

群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline (in English)】

Course Outline: If you think the news is the same in all of the media, you would be wrong. Each media has its own stance. Newspaper articles are not neutral, and neither is television. Students learn the difference between the news on each media, how different they are, and why such differences exist.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have gained the ability to understand the essence of incidents by selectively choosing media.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read several newspapers, to be familiar with the headlines, and to have watched a number of current affairs programs.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT100BC

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古文や漢文を読むにあたっての基礎的知識の習得・拡充を目指します。具体的には、「紫式部が好んだ漢詩文」というテーマで、『源氏物語』や『紫式部日記』で引用された漢詩文や漢籍の故事を紹介し、それらが引かれた場面を精読して味わうことで、どのように和文として昇華されているのかについて見ていきます。教育実習で古文や漢文を教える予定の人や、古文・漢文の基礎を学び直したいという人に向けての講義です。

【到達目標】

- ①古典文法や漢文の句法についての学びを深め、正確な理解ができる力を養う。
- ②古文・漢文を読むにあたって必要な、時代背景や風俗などの基礎知識を習得する。
- ③漢詩文や漢籍の引用が『源氏物語』や『紫式部日記』においていかになされているかということやその表現効果について学ぶ。さらに漢文学が平安期の文学に深い影響を及ぼしたことへの認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師作成のプリントなどの教材を準備します。授業は対面で行います。
- ・毎回、理解度の確認のための小課題を課します。
- ・講評など、課題に対するフィードバックは授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明 / 「平安期の漢詩文と女性」というテーマの解説を行う。
第 2 回	紫式部と漢文学	紫式部が日記中で漢学と自らの関わりについて述べた箇所を見ていく。
第 3 回	紫式部が見た清少納言の漢学の知識	紫式部が清少納言の漢学の知識をどのように評価していたかを解説する。
第 4 回	『紫式部日記』と漢詩文①	白楽天の詩「海漫漫」の解説と、『紫式部日記』の中でその詩がどのように引用されているかを見ていく。
第 5 回	『紫式部日記』と漢詩文②	紫式部が中宮彰子に漢学を進講するにあたって、白楽天の詩集の中でも「新樂府」を選んだ理由について考察していく。
第 6 回	『源氏物語』と漢詩文①	桐壺巻における白楽天の「長恨歌」の引用について見ていく。「長恨歌」の内容は長いので、二回に分けて講義を行う。
第 7 回	『源氏物語』と漢詩文②	前回に続き桐壺巻における白楽天の「長恨歌」引用について見ていく。
第 8 回	『源氏物語』と漢詩文③	須磨巻における白楽天や菅原道真の詩の引用について見ていく。

- 第 9 回 『源氏物語』と漢詩文④ 『源氏物語』における「高唐賦」や関連作品の影響を見ていく。
- 第 10 回 『源氏物語』と漢詩文⑤ 柏木巻における白楽天の詩「自嘲」の引用について、詩の内容の確認と引用の効果を見ていく。
- 第 11 回 『源氏物語』と漢詩文⑥ 『源氏物語』における白楽天の詩「李夫人」の引用を見ていく。
- 第 12 回 『源氏物語』と漢籍故事① 総合巻で引かれる「王昭君」の故事についての確認と他作品における受容との比較を行う。
- 第 13 回 『源氏物語』と漢籍故事② 弘徽殿女御にまつわる漢籍故事の引用について確認し、その表現効果を見ていく。
- 第 14 回 まとめと確認 授業の総括とフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には、次回授業時で取り上げる『紫式部日記』や『源氏物語』の該当場面や該当巻を読んで内容を理解しておくこと、引用される漢詩文・故事の出典を確認し、内容についての知識を得ておくことを必須とします（2時間程度）。授業後には授業時に出た課題を作成し、授業内容を整理・復習することを必須とします（2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

- 【古文・漢文文法】小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫、2020年、1,540円）、小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫、2010年、1,540円）、塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導 入門講座』（大修館書店、2014年、2,420円）、前野直彬著『精講 漢文』（ちくま学芸文庫、2018年、1,870円）、鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院、2018年5月、1,320円）など。
- 『源氏物語』のテキストは岩波文庫のものが、『紫式部日記』は角川のビギナーズクラシックス『紫式部日記』（山本淳子編）が入手しやすく便利です。
- 白楽天の詩などは、新釈漢文大系の『白氏文集』（明治書院）などで読めます。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の授業時に小課題あるいはコメントシートの作成を課し、これにより授業への取り組み姿勢・授業内容の理解度を計り、平常点として評価していきます。②学期末に課す最終課題では授業内容についての理解の深浅を計り、知識の定着度を見ます。③成績をつけるにあたっての①と②の比重については、①が70%、②が30%の割合とし、その合算により最終的な評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

課題やコメントシートに書かれた疑問には次回の授業冒頭の時間などを利用して答えたり、意見なども紹介を行う形でフィードバックを行います。

【Outline (in English)】

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire and expand basic knowledge of Chinese and Japanese classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the relevant chapters of the text. After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content, and complete assignments. These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a long report (30%).

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2719 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
 備考（履修条件等）：2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆) 背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆) 向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆) 前半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆) 後半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)

適時レポート(20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低 2 0 枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2721 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

備考(履修条件等)：2015年度以降 2018年度以前入学者は年間科目として履修。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところ」に従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆)背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆)向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)前半6文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆)後半6文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト(教科書)】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻(講談社)
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)

適時レポート(20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆(最低各一本)/硯一面/墨一丁(墨汁の使用可ただし墨も必要)/文鎮/水滴(スポイドも可)/半紙(毎回最低20枚ぐらい用意)/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷(書道用フェルト)/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC

書道B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2720 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」(大筆)
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」(大筆)
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」(大筆)
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」(大筆)
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清恵風和暢仰観宇宙之大」(小筆)
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。(80%)

適時レポート(20%)

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低 20 枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2722 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところ」に従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文德懷遠人」（大筆）
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」（大筆）
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」（大筆）
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰觀宇宙之大」（大筆）
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」（小筆）
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80%）

適時レポート（20%）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the students’ expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart’s desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

ART300BC

美術史（西洋）A／美術史（西洋）A（資格）

安藤 智子

授業コード：A2577, A3853 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年
 備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修（A3853）。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。

講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、1年間受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第2回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第3回	美術史の基礎用語	絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する
第4回	絵画のジャンル① 神話画・宗教画	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく
第5回	絵画のジャンル② 寓意画	「アレゴリー」という概念を説明しながら、寓意画を読み解く
第6回	絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画	物語画以外のジャンルの絵画について外観する
第7回	物語から表象へ	聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する
第8回	王侯貴族の絵画	ロココの芸術を中心に、主に王侯貴族がパトロンであった時代の絵画を見る
第9回	フランス革命期の絵画	新古典主義の絵画を中心に、フランス社会が変容した時代の絵画を検証する
第10回	ロマン主義の絵画	時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する
第11回	都市と自然①	文化が開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る
第12回	都市と自然②	とくに都市改造計画で一新したパリの様子や人々の姿を描出した絵画を考察する

第13回 美術制度と芸術 19世紀中葉からのパリの美術制度と俯瞰し、展覧会と芸術作品の関係性について考察する

第14回 まとめと質疑応答 これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み1章につき要約をすることを中間か期末の課題とする。

授業では教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年
 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
 三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年

三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年

E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）学期末レポート（40%）と、平常点（主に授業で紹介した作品に対するコメント、30%）を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

Learning Activities Outside of the Classroom: If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

ART300BC

美術史（西洋）B／美術史（西洋）B（資格）

安藤 智子

授業コード：A2578, A3854 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年
 備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修（A3854）。
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。
 芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
 パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
 授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第2回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第3回	筆触の多様性～印象主義から新印象主義へ	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第4回	視点とパースペクティブ～セザンヌからキュビズムへ	絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。
第5回	素朴さへの憧れ～ゴーガンとゴッホ	近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴーガンやゴッホの絵画を検証する
第6回	異文化との出会い①	19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う
第7回	異文化との出会い②	主に19世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第8回	写真と絵画	19世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する
第9回	アヴァンギャルド芸術①	20世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する
第10回	アヴァンギャルド芸術②	20世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する

第11回	抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第12回	美術市場の形成	19世紀から20世紀にかけて、画商やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る
第13回	美術鑑賞と美術批評	美術作品を見る立場にある鑑賞者の視点に立って、鑑賞形態や作品を批評することについて考える。とくにゴッホという画家の伝説化について検証する
第14回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できれば、春学期と通年で履修してください。
 様々な美術館の展覧会に向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み、その中の1章を要約する課題を出す予定です。
 また授業の内容に沿って参考図書を適宜紹介していきます。

【参考書】

世界美術大全集 西洋編、小学館、19-24巻、1993-96年
 高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
 三浦篤『まなごしのレッスン1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年
 三浦篤『まなごしのレッスン2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年
 E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、中間レポート（30%）学期末レポート（40%）と、平常点（主に授業で紹介した作品についてのコメント、30%）を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。
 状況が許せば、展覧会見学を行いたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

Learning Activities Outside of the Classroom: If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

PRI100BC

情報リテラシー実習 A

谷村 順一

授業コード：A2715 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや各種電子情報通信機器の仕組みや扱い方、情報化社会で求められる著作権などの知識の取得とともに、電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学び、読みやすい文書とは何かについて考える。なお「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」をあつかう「情報リテラシー実習 B」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

In addition to acquiring knowledge of the structure and handling of the Internet and various types of electronic information and communication devices, as well as the copyrights required in the information society, students will learn how to operate applications by actually creating documents, mainly using Microsoft Word, which is often used to create electronic documents. We will learn how to operate the applications and think about what makes a document easy to read. It is recommended to take this course in conjunction with “Information Literacy Practice B” which covers Microsoft Excel and Microsoft PowerPoint. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	情報メディアの歴史	メディアの発達と変化
第 3 回	情報メディアの技術的背景	高度情報化社会と人間との関わり
第 4 回	情報リテラシーの実際	ネットリテラシーについて
第 5 回	アナログ情報メディアと視聴覚メディア	電子メディアの特性と活用方法

第 6 回	インターネットによる情報検索と発信方法	各種データベース（OPAC 等）と情報検索方法
第 7 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題①	知的財産制度について
第 8 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題②	法規範や情報倫理について
第 9 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題③	創造活動や知的財産権、情報倫理について
第 10 回	Microsoft Word の基本操作	文字入力と変換、書式設定
第 11 回	Microsoft Word で案内状を作成する	インデント設定など
第 12 回	Microsoft Word で暑中見舞いを作成する	Word での画像の扱い方について
第 13 回	Microsoft Word でメニューを作成する	段組の設定
第 14 回	Microsoft Word で表の作った文書を作成する	Word での表の作成方法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% + 課題 70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

【学生の意見等からの気づき】

特になし

nothing special

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、30 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

PRI100BC

情報リテラシー実習 B

谷村 順一

授業コード：A2716 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。「情報リテラシー実習 B」では主に Microsoft Excel を用いた表作成、PowerPoint で作成したスライドを用いた効果的なプレゼン方法の実際について学ぶため、文書作成で使用する Word を主にあつかう「情報リテラシー実習 A」とあわせて受講することが望ましい。※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media. In "Information Literacy Practice B," students will learn how to create tables using Microsoft Excel and how to make effective presentations using PowerPoint slides, so it is recommended that students take this course in conjunction with "Information Literacy Practice A," which focuses on Word for document creation. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス

第 2 回	Microsoft Excel ①	Excel の基本操作について 基本操作
第 3 回	Microsoft Excel ②	表作成に必要なセル、行、列 セル、行、列について
第 4 回	Microsoft Excel ③	ワークシートを用いた効率的な表 ワークシート の管理について
第 5 回	Microsoft Excel ④	数値、連続するデータなどの入力 数データ入力方法 方法について
第 6 回	Microsoft Excel ⑤	罫線などの設定方法について 表の作成の実際
第 7 回	Microsoft Excel ⑥	数式と関数を用いて表計算を行う 表計算 方法について
第 8 回	Microsoft PowerPoint	PowerPoint の基本操作について PowerPoint の基本操 作
第 9 回	Microsoft PowerPoint	スライドの読みやすさの基本となる PowerPoint での入力 と書式① 書体のあつかい
第 10 回	Microsoft PowerPoint	行間、インデント等、スライドの PowerPoint での入力 と書式② 見やすさに直接つながる項目の設 定方法について 見やすいスライドとは
第 11 回	Microsoft PowerPoint	共通テーマを設定することでスラ PowerPoint でのデザ イドに統一イメージを持たせる方 インとレイアウト① 法について スライドのテーマ
第 12 回	Microsoft PowerPoint	スライドのデザインをより印象的 PowerPoint でのデザ なものとするための背景と配色に インとレイアウト② ついて スライドのデザイン
第 13 回	Microsoft PowerPoint	アニメーションとトランジション PowerPoint でのスラ の設定 イドの切り替え方法
第 14 回	総合課題	総合課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% + 課題 70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、30名限定とします。受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 30 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

PRI100BC

情報メディア演習 A

武田 俊

夜間時間帯

授業コード：A2717 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この 2 つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義では PC を活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDrive やその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、講師のプロフィールと過去の代表的な仕事を紹介します。
第 2 回	現代メディア論：人類とメディア	メディアとはそもそも何か。人類とメディアの関わりについて、その歴史を旅するように眺めます。
第 3 回	現代メディア論：現代のメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web…現代の主要メディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第 4 回	記事制作ワークショップ 1：WEB メディアにはどのような記事があるか	実在する WEB メディアを参照に、記事のタイプや特徴などをリサーチします。
第 5 回	記事制作ワークショップ 2：取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。
第 6 回	記事制作ワークショップ 3：記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように扱い記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第 7 回	講評	できあがった記事について、発表と講評を行います。
第 8 回	現代編集論：現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがあり、どのような仕事の仕方をしているかお話しします。
第 9 回	編集者とクリエイター：ライター／小説家の場合	ライターや小説家とはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 10 回	編集者とクリエイター：デザイナーの場合	デザイナーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 11 回	編集者とクリエイター：フォトグラファーの場合	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 12 回	企画制作ワークショップ 1：企画のつくり方	企画はどのようにまれるのか。よい企画と悪い企画では、何が異なるのか、事例をもとに学びます。
第 13 回	企画制作ワークショップ 2：企画書のつくり方	アイデアを実現させるために、企画書には何を盛り込むべきなのか。実際に企画書を作成します。
第 14 回	講評／まとめ	企画書課題の講評を行い、春学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

講義では PC を活用します。情報実習室の備品を利用することができますが、使い慣れている自前のデバイスを持ち込むことも歓迎します。

【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

【Outline (in English)】

Course Outline: What are media and what is editing? Based on these two questions, students will learn practically about our relationship with the media, as well as the state of the media business today. The course is designed as a seminar, using a variety of tools to have each student not only think, but also practice. In addition, as an active editor, I will provide specific examples of recent media topics as needed. The purpose of this workshop is to find out the questions each student has about how to handle "information," which is inevitable in our information-oriented society.

Learning Objectives: Through a program that combines classroom lectures and practical workshops, students will gain an understanding of the characteristics of media and editing, and acquire the skills to deal with them with creative intent.

Learning Activities Outside of the Classroom: There will be workshops within the lectures and hands-on assignments. Students will have time to work in the lectures, but may be asked to work outside of the lectures to prepare presentations of their work.

Grading Criteria/Policy: Course evaluation will consist of 70% for assignments in the lecture and 30% for submitted reaction papers. In addition, students' participation in classes will be taken into account and evaluated comprehensively.

PRI100BC

情報メディア演習 B

武田 俊

夜間時間帯

授業コード：A2718 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この 2 つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします

【到達目標】

座学と実践的なワークショップを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義では PC を活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDrive やその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、講師のプロフィールと過去の代表的な仕事を紹介します。
第 2 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第 3 回	現代編集論：編集とはどんな技術か	編集とはどのような技術なのか。歴史と具体例を用いてお話しします。
第 4 回	デジタルメディアワークショップ 1：リサーチ	グループに分かれ、デジタルメディアの特徴やマネタイズモデルをリサーチしてもらいます。
第 5 回	デジタルメディアワークショップ 2：アイデアメイク	生まれたアイデアを元に、具体的に企画書を制作してもらいます。
第 6 回	デジタルメディアワークショップ 3：企画化	生まれたアイデアを元に、具体的に企画書を制作してもらいます。
第 7 回	プレゼン／講評	グループごとに企画書をプレゼンしてもらい、講評します。
第 8 回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的にお話しします。
第 9 回	編集者とクリエイター：Web デザイナーの場合	Web デザイナーとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 10 回	編集者とクリエイター：映像ディレクターの場合	映像ディレクターとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 11 回	編集者とクリエイター：イラストレーターの場合	イラストレーターとはどのような仕事なのか？ ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 12 回	PR ワークショップ 1：PR とはなにか	デジタルメディアを使った PR（パブリックリレーション）の仕方について、具体例を交えて学びます。
第 13 回	PR ワークショップ 2：PR 企画の作り方	お題に対して、デジタルメディアを使った PR 企画を実際につくってもらいます。
第 14 回	講評／まとめ	課題の講評を行い、秋学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

講義では PC を活用します。情報実習室の備品を利用することができますが、使い慣れている自前のデバイスを持ち込むことも歓迎します。

【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

【Outline (in English)】

Course Outline: What are media and what is editing? Based on these two questions, students will learn practically about our relationship with the media, as well as the state of the media business today. The course is designed as a seminar, using a variety of tools to help each student not only think, but also practice. In addition, as an active editor, I will provide specific examples of recent media topics as needed. The purpose of this workshop is to find out the questions each student has about how to handle "information," which is inevitable in our information-oriented society.

Learning Objectives: Through a program that combines classroom lectures and practical workshops, students will gain an understanding of the characteristics of media and editing, and acquire the skills to deal with them with creative intent.

Learning Activities Outside of the Classroom: There will be workshops within the lectures and hands-on assignments. Students will have time to work in the lectures, but may be asked to work outside of the lectures to prepare presentations of their work.

Grading Criteria/Policy: Course evaluation will consist of 70% for assignments in the lecture and 30% for submitted reaction papers. In addition, students' participation in classes will be taken into account and evaluated comprehensively.

EDU200BC

国語科教育法（1）

木村 陽子

授業コード：A2724 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国語科の歴史と課題を踏まえて、学習指導要領に示された国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点などを取り上げる。こうしたことを前提にして、教材研究の方法、学習評価のあり方、発展的な学習内容の学習指導への位置づけなどについて取り上げる。

【到達目標】

学習指導要領に示された中学校、高等学校の国語科の目標や内容、全体構造、指導上の留意点、学習評価の考え方を把握することができる。3つの資質・能力（知識・技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等）を育成するために、国語科を支える国語学、国文学、教育学などの成果を踏まえて教材研究し、その上で、発展的な学習内容を学習指導に位置づけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心とするが、適宜グループディスカッションやディベート、授業内での発表を取り入れる。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でコメントする。後半は学生発表（教材研究）を中心とし、発表後、全体で討議・評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国語科の授業の目的や学習指導内容の全体像を確認する。
第 2 回	国語科の歴史	日本の教科書制度の歴史や学習指導要領の変遷過程を学ぶ。
第 3 回	国語科の課題	「主体的な言語活動」と「古典」という 2 大課題を確認し、有効なツールとしての「翻案」について学ぶ。
第 4 回	学習指導要領（1）	中学の「話すこと・聞くこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 5 回	学習指導要領（2）	中学の「書くこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 6 回	学習指導要領（3）	説明文や論説文など、中学の「読むこと」の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 7 回	学習指導要領（4）	詩・詩歌・小説・古典など、中学の文学教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 8 回	国語科の授業設計	中学国語の実際の教材を例に、学習指導案の作成方法を学ぶ。
第 9 回	国語教科書（1）	個別教材の分析方法を学ぶ。
第 10 回	国語教科書（2）	個別教材の分析を踏まえ、授業計画への有効な活かし方を学ぶ。
第 11 回	教材研究（1）	中学の小説教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。
第 12 回	教材研究（2）	中学の詩歌教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。
第 13 回	教材研究（3）	中学の古文教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。
第 14 回	教材研究（4）	中学の漢文教材で学習指導案を書き、学生が発表する。発表後、全体で討議・評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1 回の授業に対して計 4 時間を標準とします。（復習）配布資料に目を通し、自分の意見をまとめておくこと。また、わからないことは質問できるようにしておくこと。（準備）発表準備やレポートの作成に向けて、授業内に出された課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

【国語編】中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf（印刷、もしくは web 版をその都度確認できるよう準備する）

【参考書】

中学校国語教科書『国語 1』『国語 2』『国語 3』（光村図書出版）
 『中学校 板書で見る全単元の授業のすべて 国語板書シリーズ』（東洋館出版社）
 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』（東洋館出版社）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題やリアクションペーパーの充実度（50 %）、発表（教材研究）の充実度（30 %）、期末レポートの充実度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Students will be required to acquire knowledge about the subjects of Japanese Language based on the Ministry of Education's Course of Study. This knowledge includes the goals and contents, the whole curriculum structure, points of teaching, and learning evaluations. Students also need to research the teaching materials based on academic studies such as Japanese language, Japanese literature, and education.

Learning Objectives:

The objective of this course, "Teaching Method (1)", is to understand and learn the basic structure of the curriculum guidelines of Japanese Language for junior-high and high schools; namely, goals, contents, curriculum structure and special notes for the subject. Students will be required to acquire fundamental knowledge about the curriculum structure and the knowhow to construct guidance plans based on the Course of Study.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be expected to prepare for each class and complete the required assignments after each class. Study time outside class will be more than four hours for each class.

Grading Criteria/Policy:

Final grades will be calculated according to the following elements: in-class report (50%), in-class presentation reflecting teaching material studies (30%), and term-end report (20%).

EDU200BC

国語科教育法（2）

木村 陽子

授業コード：A2725 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学生・高校生の認識や思考、学力などの実態や実践研究の動向を視野に入れて、授業計画の重要性を理解し、国語科の特性に応じた情報機器及び機材の効果的な活用を組み込んだ学習指導案の作成に取り組む。模擬授業の実施とその振り返りを通して、国語科における実践研究の動向を知り、授業をよりよく改善していくことに取り組む。

【到達目標】

国語科教育法（1）の授業のテーマ及び到達目標を前提にして、国語科における基礎的な学習指導理論を学び、具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成することができる。模擬授業に取り組むことによって、授業を改善することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義を中心とするが、適宜グループディスカッションや授業内での発表を取り入れる。毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でコメントする。後半は学生発表（模擬授業）を中心とする。発表者は模擬授業を行い、それ以外の学生は生徒役になり、他者の模擬授業を観察・評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習指導案（1）	高校国語の学習指導案の基本的書式について学ぶ。
第 2 回	学習指導案（2）	「言語文化」「読むこと」のうち、小説教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 3 回	学習指導案（3）	「言語文化」「読むこと」のうち、韻文教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 4 回	学習指導案（4）	「現代の国語」「読むこと」のうち、評論文教材の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 5 回	学習指導案（5）	「現代の国語」「書くこと」のうち、実用的な文章の学習課題を確認し、その指導方法を学ぶ。
第 6 回	模擬授業（1）	高校の小説教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 7 回	模擬授業（2）	高校の小説教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 8 回	模擬授業（3）	高校の評論文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 9 回	模擬授業（4）	高校の現代詩教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 10 回	模擬授業（5）	高校の詩歌教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 11 回	模擬授業（6）	高校の古文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 12 回	模擬授業（7）	高校の漢文教材で学生が模擬授業を行い、発表後、全体で討議・評価する。
第 13 回	学力の形成と教育課程（1）	年間指導計画の作成方法を学ぶ。
第 14 回	学力の形成と教育課程（2）	年間指導計画の作成方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1 回の授業に対して計 4 時間を標準とします。（復習）配布資料に目を通し、自分の意見をまとめておくこと。また、わからないことは質問できるようにしておくこと。（準備）発表準備やレポートの作成に向けて、授業内に出された課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

【国語編】高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説（文部科学省）https://www.mext.go.jp/content/20210909-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf（印刷、もしくは web 版をその都度確認できるよう準備する）

【参考書】

高等学校国語教科書【探求 現代の国語】【探求 言語文化】（桐原書店）

高等学校国語教科書【現代の国語】【言語文化】（大修館書店）

古屋明子『有名古典の言語活動：「言語文化」「古典探究」における実践例』（明治書院、2022 年）

【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校国語】（東洋館出版社、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題やリアクションペーパーの充実度（50 %）、模擬授業の充実度（30 %）、期末レポート（学習指導案）の充実度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Students come to understand the importance of lesson planning by reviewing the actual conditions of junior-high and high-school students' awareness, thinking, and academic ability, as well as trends in recent research on these topics. They create good learning instruction plans and materials, with effective use of information devices and equipment. They improve their teaching methods through mock classes, and also by learning trends in Japanese language education.

Learning Objectives:

The objective of this course, "Teaching Method (2)", is to understand and learn further the basic education theories of the curriculum guidelines of Japanese Language, based on "Teaching Method (1)". Students will acquire the ability to create an effective instruction plan tailored for each specific class. Also, they are expected to enhance their abilities further by teaching mock classes several times throughout the course.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Students will be expected to prepare for and have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy:

Final grades will be calculated according to the following elements: in-class reports(50%), in-class presentation as mock classes(30%), report and term-end report (20%).

EDU200BC

国語科教育法（3）

南崎 徳彦

授業コード：A2727 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、将来国語科教師になるための授業づくりに対する考え方を理解し、多様な授業の方法を習得することであり、国語科における思考力、判断力、表現力等を養う読解力、知識技能を活用するスキルや知識を学ぶ。そのために学習指導要領に示された学習内容と、その背景となる学問や思想と関連させながら、魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。

授業の「振り返りシート」等における良いコメントは、次の授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「中学校学習指導要領解説 国語編」と「高等学校学習指導要領解説 国語編」の学習	国語の授業の目的などについて、「学習指導要領解説 国語編」を参考にしながら考え、意見交換を行う。
第 2 回	小説の読み方概論	小説『羅生門』の様々な作品分析の紹介を行った後、それぞれの学生が作成した「主題文」を材料にして考えを深め合う。
第 3 回	高等学校定番小説教材の分析と実践例①	『羅生門』が小説教材の導入に用いられる理由や、教材としての価値について考えを深め、自分たちなりの授業展開をグループで話し合う。
第 4 回	小説『羅生門』の教材分析と授業実践の展開	語りの構造やメタファーなどの表現の特徴、また登場人物の人物像を深く探り、模擬授業の展開方法についてディスカッションを行う。
第 5 回	国語科の授業における「ICT機器」の効果的な活用法	国語の授業での効果的な ICT 機器の活用法について知識を得るとともに、新しい活用法を考える。
第 6 回	中学校定番小説教材の分析と実践例②	小説教材としての、『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開について具体的に考える。
第 7 回	小説『高瀬舟』の授業実践の展開と模擬授業演習①	模擬授業実践演習のあり方について理解し、『高瀬舟』の授業展開についてのアイデアを全体で共有する。
第 8 回	小説『高瀬舟』の教材分析と模擬授業演習②	小説『高瀬舟』を語りの構造から読み解き、それを模擬授業実践演習に取り入れる方法について考えを深める。
第 9 回	小説教材の授業計画法と評価法	模擬授業実践演習を振り返り、小説教材の学習指導案作成法や定期試験問題の作成法について理解を深める。
第 10 回	詩歌句の読解と授業法	詩歌句の読解方法について意見交換を行い、教材としての詩歌句の指導のポイントや授業実践について考える。
第 11 回	授業教材例として詩歌句の模擬授業演習	「宮沢賢治」「高村光太郎」の作品を教材にした授業実践方法について意見交換を行い、詩歌句の授業法について考えを深める。
第 12 回	古典教材の教材分析と授業法	古典教材の価値やそれを授業で扱う意義などについて、具体的な作品をイメージしながら考える。

第 13 回 古文教材での授業法実践と模擬授業演習 「伊勢物語」「徒然草」など日本古典文学を教材にした授業実践について考え、模擬授業実践演習を行う。

第 14 回 漢文教材での授業法 漢詩や『三国志』など漢文教材の意義について考え、その指導法と模擬授業実践演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

振り返りシート、次回の授業課題、学習指導案作成など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」（東洋館出版社）

【参考書】

参考書・参考資料等 『実践国語教育法』（学文社）、「現代文学理論」（新曜社）、「文学は教育を変えられるか」（コールサク社）、「読むことの教育」（山吹書店）、「文学理論」（ひつじ書房）、「教師の条件」（学文社）、「持続可能な未来のための教職論」（学文社）他

【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価
課題やレポート・学習指導案（40 %）、模擬授業実践演習・質疑応答（20 %）、模擬授業の振り返りシート（20 %）、授業への貢献度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

教師から学生への一方通行の授業ではなく、教師と学生、学生同士が交流し合うような授業を行うため、最初は戸惑う学生も多かったが、慣れていくうちに学生全体に一体感が生まれ、学年の枠を越えて自由にディスカッションができるようになっていた。
意識が高い学生が多かったためか、出席状況も課題提出状況も素晴らしく、楽しみながら真剣に取り組む姿が印象的であった。

【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: Students will learn the knowledge and skills to promote reading comprehension abilities for thinking, judging and expressing in the subjects covered under *kokugo* (Japanese language). They will also need to make their own lesson plans and put them into practice.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (40%), prep work for the next class (40%), and in-class contribution (20%).

EDU200BC

国語科教育法（4）

南崎 徳彦

授業コード：A2728 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、将来国語科教師になるための授業づくりに対する考え方を理解し、多様な授業の方法を習得することであり、学習者の資質能力論を含む学習指導に関する教育学、それに加えて文学や言語学を理解し、具体的な授業場面に即して授業実践をおこなう力を身につける。

【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。

授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	評論文の教材分析及び授業実践	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材として、評論文の読解方法や教材としての評論文の扱い方について考える。
第 2 回	評論文教材分析及び授業実践と模擬授業実践演習	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材として、指導案作成と模擬授業を行う。
第 3 回	評論文教材の模擬授業の振り返り	評論文の授業実践をそれぞれ個人で振り返った後、グループディスカッションを行い、評論文教材の授業について考えを深める。
第 4 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習①	前回の授業理論を踏まえて、評論教材の授業実践を行う。その後、授業に関する質疑応答やディスカッションを行う。
第 5 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習②	評論文教材を用いてのアクティブラーニング、グループ学習の方法について実際に体験した上で、意見交換を行う。
第 6 回	翻訳文学の授業方法	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）を用いて、教材分析及び指導案作成を行う。
第 7 回	翻訳文学の授業実践	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）を用いて、模擬授業実践演習を行う。
第 8 回	現代文学作品の授業法①と教育観	「鞆」や「赤い繭」（安部公房）など、メタファーの強い小説の教材分析及び授業実践方法について考える。
第 9 回	現代文学の授業法②と模擬授業演習	小説教材『鞆』（阿部公房）の指導案作成と模擬授業実践を行い、現代文学の授業についてディスカッションを行う。
第 10 回	国語科の授業における「ICT機器」の活用法と「ICT機器」を活用した授業実践	「ICT機器」を活用することで授業時間の効率を高めたり、映像教材を用いて作品の背景理解に役立てたりする方法を考え実践する。
第 11 回	小説の教材の分析及び授業実践について	小説教材『山月記』を用いて、教材分析及び授業実践例を踏まえた指導案作成と模擬授業実践演習を行う。
第 12 回	教材例として小説『山月記』の教材分析及び授業実践	これまでの授業実践を踏まえて、「トリガー質問（生徒の興味・関心を引き出す質問）の作り方について考えをまとめる。
第 13 回	小説教材の模擬授業実践	小説『山月記』の教材分析及び模擬授業実践演習（グループ学習の方法）

第 14 回 小説教材の指導案と教育実習に向けての心得

小説『山月記』を教材にして、それぞれが学習指導案を完成させるとともに、教育実習に関する質疑応答を行い、教育実習の心得について具体的に考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

振り返りシート、次回の授業課題、学習指導案作成など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（東洋館出版社）

【参考書】

参考書・参考資料等 『実践国語教育法』（学文社）、「現代文学理論」（新曜社）、「文学は教育を変えられるか」（コールサック社）、「読むことの教育」（山吹書店）、「持続可能な未来のための教職論」（学文社）他

【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価

課題やレポート・学習指導案（40%）、模擬授業実践演習・質疑応答（20%）、模擬授業の振り返りシート（20%）、授業への貢献度（20%）

【学生の意見等からの気づき】

「教師中心の覚える授業」ではなく、「生徒中心の考える授業」を自分たちで体験し、また「アクティブラーニング」の本質について理解するだけでなく、模擬授業を通してそれを実践したりたがいにフィードバックし合ったりしながら、「魅力ある国語の授業を実践する」という目標に全員が協力しながら取り組んでいた。

授業改善アンケートにはすべて「楽しかった」という言葉が見られ、学生が積極的に向上しようと努力していた姿が見て取れた。

【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: Based on the Teaching Method of Japanese Language (3), students will be required to understand both the pedagogy of teaching, including learners' competencies, and studies on literature and language. They will also practice their mock classes in real-life settings.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (40%), prep work for the next class (40%), and in-class contribution (20%).

LIN200BD

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
 現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所についても説明します。DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介
第 2 回	世界の英語	世界中に広がる英語について
第 3 回	英語外面史	英語外面史の概説
第 4 回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第 5 回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第 6 回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第 7 回	古英語の代名詞	古英語における代名詞の語形変化
第 8 回	古英語の形容詞・副詞	古英語における形容詞と副詞の特徴
第 9 回	古英語の動詞	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第 10 回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第 11 回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第 12 回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第 13 回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

チャールズ・バーバー『英語発達史』英宝社

【参考書】

寺澤眉 『英語の歴史』（中公新書）
 中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
 岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
 朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。
 期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史 B」と合わせて履修することをお勧めします。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所についても説明します。DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の発音・代名詞	中英語における発音と代名詞の語形変化
第 3 回	中英語の動詞	中英語における強変化動詞と弱変化動詞
第 4 回	中英語の借用語	中英語期における借用語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	Shakespeare の英語	Shakespeare の英語の特徴を概説する
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法と作品講読	後期近代英語期に特徴的な文法と文学作品を講読する
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

チャールズ・バーバー 『英語発達史』 英宝社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIT200BD

英文学史 A

田中 裕希

授業コード：A2903 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古英語の時代（中世前期）から 20 世紀中期までのイギリス詩の歴史をたどりつつ、英詩において「私」がどのように表現されているかについて学ぶ。個人の内面を表現する抒情詩に対する理解を、国家の成立など大きなテーマを扱う叙事詩との比較を通じて深めていく。

【到達目標】

イギリス詩の流れを、歴史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリスにおける抒情詩の伝統がどのように形成されてきたのかを学ぶ。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期	叙事詩と抒情詩
第 2 回	中世後期	Chaucer
第 3 回	ルネサンス（1）	近世の恋愛詩
第 4 回	ルネサンス（2）	Shakespeare の英語
第 5 回	ルネサンス（3）	Shakespeare の登場人物
第 6 回	17 世紀（1）	形而上詩人
第 7 回	17 世紀（2）	Milton と叙事詩
第 8 回	18 世紀	ロマン派と抒情詩
第 9 回	19 世紀（1）	ロマン派第二世代
第 10 回	19 世紀（2）	dramatic monologue を読む
第 11 回	20 世紀（1）	モダニズムとは
第 12 回	20 世紀（2）	第一次世界大戦と詩
第 13 回	20 世紀（3）	第二次世界大戦と詩
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

Shakespeare の作品。

【参考書】

『イギリス名詩選』（岩波文庫）平井 正穂（編集）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This class will cover the history of British poetry from the era of the Old English (the early Medieval period) to the mid 20th century.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: reaction papers (30%), final exam (70%).

LIT200BD

英文学史 B

小澤 央

授業コード：A2904 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス文学の歴史を、散文を中心に学ぶ。近代小説以前の散文から、18 世紀の（反）リアリズム小説、ヴィクトリア朝の社会小説、歴史小説、家庭小説、教養小説、20 世紀のモダニズム小説、ポストコロナリアル小説、さらに多様化する今日の小説まで、名作の抜粋を読みながら英文学史を辿る。政治的・文化的文脈を踏まえ、作品を原作とする映画を確認しながら、授業を進める。

英文学史の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

- ・ 歴史的な文脈において英文学の散文の名作を位置づけられる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、英文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパー（小レポート）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	散文の歴史概観、近代小説以前
第 2 回	18 世紀初期	Defoe, Swift など
第 3 回	18 世紀中後期	Richardson, Sterne など
第 4 回	19 世紀初期 (1)	Austen, Shelley など
第 5 回	19 世紀初期 (2)	映画の鑑賞と議論
第 6 回	19 世紀中期	Dickens, Brontë など
第 7 回	19 世紀後期	Wilde, Conrad など
第 8 回	20 世紀初期 (1)	Forster, Lawrence など
第 9 回	20 世紀初期 (2)	映画の鑑賞と議論
第 10 回	20 世紀初期 (3)	Joyce, Woolf など
第 11 回	20 世紀中期 (1)	Huxley, Golding など
第 12 回	20 世紀中期 (2)	映画の鑑賞と議論
第 13 回	20 世紀後期以降	McEwan, Ishiguro など
第 14 回	期末試験とまとめ	今学期の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された文献（作品の抜粋など）を読むこと、定期的に出される課題（小レポート）を提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自分で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

- ・ 授業で扱う文学作品
- ・ 浦野郁、奥村沙矢香編、『よくわかるイギリス文学史』、ミネルヴァ書房、2020 年
- ・ 白井義昭著、『読んで愉しむイギリス文学史入門』、春風社、2013 年
- ・ 石塚久郎ほか編、『イギリス文学入門』、三修社、2014 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ リアクション・ペーパー（小レポート）などの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- ・ 期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to learn the history of English literature, particularly British fiction, from the 16th to the 21st century, by reading extracts from the text in English and considering the historical background. This course also refers to films based on British fiction. The goals of this course are to position masterpieces of British fiction in historical contexts, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と協役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していききたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

今年度は、昨年度と同様、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、(2) レポートは 3 作品、3 本とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタンのヒーロー像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカのユーモア。アメリカの短篇小説の特徴。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカのロマン主義と自己信頼。ローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソンとロマンス	ホーソンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを示したりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、（まだ「文学史」が成立していた頃の本として）すぐれたものは、だいぶ古いのが、英国の学者による（すなわち他者視点による）Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思ふ。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたくて詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ています）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておいたら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにアクション・ペーパー (20%)、(2) 3 作品を読んだレポート (40%)、(3) 期末試験 (40%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むつかしくなりすぎないようにやさしく語り。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに関心できるのか、どんなふうに関心したいのか、おもしろいのか、などを解説していききたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布）、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サムエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

第 12 回 トマス・ピンチオンとジョン・バース

ポスト=モダンな意識とは何か。

第 13 回 アメリカン・ドラマ

演劇とミュージカル。

第 14 回 同時代作家たち

アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）

平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）

Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)

Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20%）、(2) 作品 3 冊を讀んでのレポート（40%）、(3) 期末試験（40%）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」からの継続履修がかなり絶対的に近いくらい望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIN100BD

英語学概論 A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月11日です。コロナの状況で授業形態（対面かズーム）が変更する場合は、Hoppii での週末までにお知らせします。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいください。毎週 Hoppii 「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしい箇所などの情報を入れます。授業日が月曜日4限ですので、必ず、前日までは Hoppii をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までは Hoppii でお知らせします。Hoppii から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
	毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	
第2回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論 (2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論 (1)	意味論の概説
第8回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論 (1)	文体論の概説
第12回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppii にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppii にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

初めてのことばかりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に Hoppii に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後に Hoppii にアップします。
 ・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (10%), and attendance (20%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	英語学とは	英語学の基本を解説する
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み 音韻論の演習：母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説：子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 11 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 12 回	英語の歴史 (1)	英語史の概説
第 13 回	英語の歴史 (2)	英語の音韻・統語・形態・意味の変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きなからとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 40%
平常点 40%
レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといよりも、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向き判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、および「音素」その 1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、party はカタカナで何と言うべき？
第 2 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 3 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 4 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 5 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 6 回	今日の文法理論その 1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第 7 回	今日の文法理論その 2（統語論）	「5 文型」のアホさ、X-bar Theory
第 8 回	今日の文法理論その 3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第 9 回	今日の文法理論その 4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 10 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出るか
第 11 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	Without her contributions failed to come in. ってどういう意味？ …… 「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 12 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第 13 回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。
 公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

自由記述では、わかりやすかったという声ばかりいただきましたが、わかりにくく感じた人は自由記述を書いていないものと推測します。なので、一部ではなく全体の理解度を上げるべく、一層精進します。また、英文学科以外の学生も履修していることを忘れないように頑張ります。

【その他の重要事項】

この授業は「言語学概論 B」とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.
 (Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.

(Learning activities outside of classroom) Reaction papers

(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

2. 「対面授業」に出席できない受講生 (e.g., 入国できない留学生、基礎疾患を有する学生) は、秋学期開始前にその旨を教員にメールで連絡してください (ハイフレックス授業の準備が必要になるため)。なお、教員のメールアドレスは秋学期開始前に学習支援システムを通じてお知らせします。

3. 本科目に割り当てられた教室に全受講者を収容できない事態が生じた場合、全受講者を2グループに分割し、そのグループごとに「対面授業」と「オンライン授業」を交互に繰り返すハイフレックス授業になる可能性があります。

[Outline (in English)]

1.Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:

- (a) Being able to understand basic knowledge in each field of linguistics.
- (b) Being sensitive to facts about languages that are spoken around them, and being able to do introductory consideration and analysis of a fact which they noticed.
- (c) Having a correct understanding of a scientific research methodology.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

If you read through a handout which is distributed in advance before class, the content of the day's class will be easier to understand. In addition, students are expected to think back to the contents which they have learned in previous classes related to the content of the day's class before class.

(b) Review

You should get the content of the day's class straight by checking handouts and your notes. If a homework is given in the day's class, please work on it prior to attending next week's class. Then, if you have any questions, first of all, please make an effort to provide your answer to it. Furthermore, when you find something similar to the linguistic phenomena that were introduced in this course in daily life, I'd like you to consider the phenomena using the methods that you have learned in this course.

4.Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態は基本的には対面ですが、変更するときは Hoppii で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。

基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までは Hoppii を見てください。

毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第 1 章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第 1 章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第 5 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第 6 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第 3 章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第 3 章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第 9 回	第 4 章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第 4 章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第 11 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第 13 回	第 6 章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方—日本語と敬語のゆくえ—』（角川新書）

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点（提出物等）20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは木曜日 4 限です。事前に予約メールをください。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と「役割語」
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

社会言語学

椎名 美智

授業コード：A2810 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会言語学は文字通り「社会と言語の関係について研究する学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】

世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第 2 回	社会言語学の枠組み	社会と言語の関係
第 3 回	言語と社会の規定関係	言語と社会・文化
第 4 回	社会言語類型論	言語類型論的観点
第 5 回	言語間の格差	言語の捉え方
第 6 回	標準語と方言	言語運用の地域差
第 7 回	言葉の性差	言葉の中に見える性差
第 8 回	集団語	集団語の位置付け
第 9 回	敬語と社会	言語相対性と敬語
第 10 回	日本語の文字	文字と社会
第 11 回	談話の規則性	談話モデルとルール
第 12 回	談話と言語のバリエーション	規則性と創造性
第 13 回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」
第 14 回	社会言語学的センス	これまで勉強した事柄の総括とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。この授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上史雄、田邊和子（共編）『社会言語学の枠組み』（くろしお出版）を使うので、各自購入しておいてください。

【参考書】

内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 8 割（フィールド・ワーク重視）、平常点 2 割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT 資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

【その他の重要事項】

・オフィスアワーは木曜 4 限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

LIN200BD

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学ぶ。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の幅広さを知っていただき、分野に興味を持っていただけたようでよかったですと思います。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
 - (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
 - (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。
- （これを1年の授業をとっておこないたいで、通年の履修が望まれる）

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第2回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第3回	映画と文学（1）	映画を観る。
第4回	映画と文学（2）	映画を観てから映画を読む。→ novel とは何かの理解へ。
第5回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第6回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性としての novel 性。
第7回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性としての romance 性。
第8回	小説の登場人物について	round character と flat character（E・M・フォースターの『小説の諸相』）
第9回	会話と話法について	学校文法のおさらいから。
第10回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第11回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第12回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第13回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第14回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システム（Hoppii）の「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【学生が準備すべき機器他】

ない。ただし、ときどきパソコン等で Hoppii をチェックしてほしい——「教材」に授業のハンドアウトや参考資料を保存するので。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
 - (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
 - (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。
- （これを1年の授業をとっておこないたいの、通年の履修がたいそう望まれる）

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のイントロダクションとして	イントロダクション
第 2 回	キリスト教と英米文学／シェークスピアと演劇	聖書、コンコルダンス。引用と盗用（剽窃）。エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 3 回	アメリカの建国と言語問題——アメリカン・ヴァナキュラー	レポート課題の提示
第 4 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカの短篇小説。
第 5 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。オックスフォード英語大辞典と歴史原則。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 10 回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第 11 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 世紀アメリカの短篇小説。
第 12 回	視点と話法について——話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第 13 回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 10 パーセント

レポート 40 パーセント

期末試験 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

昨年はAの課題が長文だったのでBの課題をなくしたが、Aをとっていない人も多くて反省した——Bでも課題レポートを設定する。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がこころから望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (10%)
- 2) A couple of papers ("reports") (40%)
- 2) End-of-term examination (50%)

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

小澤 央

授業コード：A2909 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア（ディストピアを含む）と関連の深い有名な文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。帝国主義、進化論、マルクス主義、フェミニズム、ポストヒューマニズムといった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。作品を原作とする映画を確認し、具体的イメージを膨らませるとともに、原作との違いから生まれる解釈の差異などを考える。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

・ユートピアというテーマとの関係で英文学を概観できる
・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する
・辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパー（小レポート）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ユートピアとは何か、ユートピア文学史概観
第2回	16, 17 世紀	More, <i>Utopia</i> など
第3回	18 世紀	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など
第4回	19 世紀 (1)	Shelley, <i>Frankenstein</i> など
第5回	19 世紀 (2)	映画の鑑賞と議論
第6回	19 世紀 (3)	Wells, <i>The Time Machine</i> など
第7回	20 世紀前半 (1)	Huxley, <i>Brave New World</i> など
第8回	20 世紀前半 (2)	Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> など
第9回	20 世紀前半 (3)	映画の鑑賞と議論
第10回	20 世紀後半 (1)	Le Guin, <i>The Dispossessed</i> など
第11回	20 世紀後半 (2)	Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> など
第12回	21 世紀 (1)	Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> など
第13回	21 世紀 (2)	映画の鑑賞と議論
第14回	期末試験とまとめ	今学期の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された文献（作品の抜粋など）を読むこと、定期的に出される課題（小レポート）を提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自分で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・授業で扱う文学作品

・グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013 年
・川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993 年
・John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.
・Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパー（小レポート）などの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret English utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as imperialism, Darwinism, Marxism, feminism and posthumanism. This course also refers to films based on utopian literature. The goals of this course are to survey the history of English utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD

英米文学講義ⅡB

田中 裕希

授業コード：A2910 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

【到達目標】

英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英詩の特徴
第2回	英詩のリズム	韻律について
第3回	翻訳ワークショップ（1）	リズムをどう訳すか
第4回	"I"をどう訳すか	英語の"I"と日本語の「私」
第5回	翻訳ワークショップ（2）	人称代名詞をどう訳すか
第6回	英詩の形式	Formとは
第7回	翻訳ワークショップ（3）	詩型をどう訳すか
第8回	英詩の「声」	Voiceとは
第9回	翻訳ワークショップ（4）	口調をどう訳すか
第10回	英詩の多様性	英詩の中の非英語
第11回	翻訳ワークショップ（5）	異文化をどう訳すか
第12回	英詩の読者	歴史的背景と詩
第13回	翻訳ワークショップ（6）	歴史をどう訳すか
第14回	期末試験とまとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度50%（リアクションペーパー、翻訳など）

期末レポート50%

原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については **Hoppii** で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第 3 回	品詞	英語の品詞について
第 4 回	英語の文型	5 文型の分析
第 5 回	自動詞と他動詞	他動性について
第 6 回	意味役割	意味役割とは何か
第 7 回	テンス（1）	現在時制
第 8 回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第 9 回	アスペクト（1）	進行相
第 10 回	アスペクト（2）	完了相
第 11 回	態	受動態
第 12 回	モダリティ（1）	法助動詞
第 13 回	モダリティ（2）	準助動詞
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村田勇三郎・成田圭市 『英語の文法』（大修館）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。
期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。
4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようない方をしてしているのか、何故、このような語順でないといけいないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語学講義 B の授業では、認知言語学や代表的な構文についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	日英語比較	事態把握
第 3 回	認知言語学 (1)	メタファー
第 4 回	認知言語学 (2)	メトニミーとシネクドキ
第 5 回	認知言語学 (3)	文法化
第 6 回	談話標識	談話標識の分析
第 7 回	不定詞 (1)	不定詞節
第 8 回	不定詞 (2)	繰り上げ動詞とコントロール動詞
第 9 回	動名詞	名詞的動名詞と動詞的動名詞
第 10 回	不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の意味
第 11 回	There 構文	There 構文の特徴
第 12 回	二重目的語構文	与格交替について
第 13 回	関係代名詞	関係代名詞の制約
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウトを配布する。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。

期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

LIN200BD

言語学講義 I A / 言語と論理 1 (言語学講義 I) A

石川 潔

授業コード：A2913, A2326 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception and auditory word recognition.

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English!

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

音声知覚や単語の聞き取りに関する心理言語学の入門

【到達目標】

- ・人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得
- ・言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ**、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、グループ・ディスカッションを行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です(フィードバック方法は内容/分量によります)。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	<i>Olympic</i> って、「オリンピック」と「オリンピック」の、どっちが正しい?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その1)
第 3 回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れられないで発音できる?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その2)
第 4 回	「しおり」は可愛い……のかな? 比較対象は?	実験と統計分析の必要性: 統制条件、仮説と予測
第 5 回	英語の L と R、聞き分けられる?	母語の音韻体系に依存した音声知覚(その1): 注目する音響手がかり
第 6 回	母語話者でも、わからない違い	カテゴリー知覚(有声・無声、L と R、など)
第 7 回	わたしが言ったのは「抱っこ」じゃなくて「たっこ」!	音声知覚における語彙効果 (Ganong effect)
第 8 回	「アメリカ人に <i>tloop</i> って言ったら、聞き間違えられた」とのこと。	音声知覚における音素配列制約の効果
第 9 回	<i>straight issue</i> と <i>stray tissue</i> って、どうやって聞き分けるの?	音節の概念、英語の強勢
第 10 回	<i>non-native</i> の方が <i>native</i> より成績が上!?	英語の聞き取り実習など
第 11 回	その単語、どういう意味?(その1)	意味プライミング(その1): 単語検索
第 12 回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第 13 回	その単語、どういう意味?(その2)	意味プライミング(その2): ambiguity resolution
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください(理由は授業を受ければわかる……はず)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

「他の授業と重複している」という声もあり、また他の理由もあり、大幅に内容を変えました。

LIN200BD

言語学講義 I B / 言語と論理 1 (言語学講義 I) B

石川 潔

授業コード：A2914, A2327 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を、意味の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配信教材と講義で、二重に説明を行う予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 1)
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 2)
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味 (基本編)
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語 (や英語) に接していれば見つかるはず。見つけてください。もし学期中に見つければ、教員に反論してくださいませ (有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります)。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年に比べて昨年度の方が、(一部を除いて) 全体的な評価が下がってしまいましたが、自分が感じていた学生の反応とも、それは一致しています。少なくとも一昨年に評価していただけていた良い点を取り戻しつつ、さらに内容・構成ともに改善していきたいと思えます。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.

(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	意味論 (1)	語、句、文の意味
第 9 回	意味論 (2)	直喩、隠喩、換喩
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD

言語学講義ⅡB

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 9 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 10 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 11 回	心理言語学 (1)	文の解析
第 12 回	心理言語学 (2)	言語習得
第 13 回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第 14 回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD

英語音声学 A

田中 邦佳

授業コード：A2917 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Students are required to study at least four hour outside of classroom.
Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』 齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：80%

課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

授業内での練習課題を増やせるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学 B

田中 邦佳

授業コード：A2918 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』 齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：80%

課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

授業内での練習課題を増やせるようにします。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

LIN100BD

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声学的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学び、日本語・英語の基礎的な音声・音韻構造の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解を深められるよう、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

LIN100BD

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ……100%

【学生の意見等からの気づき】

授業の最初に質問への回答や復習を行うことで理解が促進されたようです。また、授業中に紹介した具体例により理解が深まったと好評でしたので、今年度も良い例が提供できるように努力したいと思います。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」（木曜日）と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetics and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

岸山 健

授業コード：A2923 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が音声を聞き分けて単語を認識し、単語の列から文を理解する過程を検証しながら学びます。前期では音声の概要と音声を知覚する過程、そして検証方法を学びます。検証には統計学や心理学、計算機科学の手法を借ります。実験を組み立てたり、データを分析したりする方法も体験できます。

【到達目標】

1. 音声の特徴と生成プロセスを説明できる
2. 人が音声を知覚する処理のモデルを説明できる
3. 実験やシミュレーションで仮説を検証できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の輪読と実習を中心に進めます。各回でフィードバックの時間を設け、第7回では前半の理解を確認、補足します。第14回では後半の理解を確認、補足します。統計学やプログラミングの初学者であることを前提とした内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理言語学の概要1	心理言語学の研究対象・言語学・音声学との関係
第2回	音声の生成と知覚	Praatを用いた音声学入門・不思議な知覚現象
第3回	音声の錯覚とモデル	不思議な知覚現象を説明するモデルの紹介
第4回	音声知覚の実験：概要	対照実験とははじめ・音声ファイルの予備的知識
第5回	音声知覚の実験：実施	実験の実施とデータの取得
第6回	音声知覚の実験：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第7回	理解度の確認と質疑応答	前半の振り返りと理解の補完
第8回	研究とははじめ	IMRaDと研究の進め方の学習・サーベイの体験
第9回	研究立案と推敲	サーベイ内容をまとめて報告、推敲
第10回	音声の概要（準備編）	発展的な概念の学習するため Python を導入
第11回	音声の概要（発展編）	より発展的な概念の学習（フーリエ変換、MFCC等）
第12回	音声の知覚（準備編）	Pythonの機械学習ライブラリの実習
第13回	音声の知覚（発展編）	計算機上で音声の知覚をシミュレーション実験
第14回	理解度の確認と質疑応答	後半の振り返りと理解の補完

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する資料の要約と復習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『パソコンがあればできる！ ことばの実験研究の方法』中谷健太郎、ひつじ書房、2019、定価 2,600 円
ISBN 978-4-89476-964-9

【参考書】

音声学を学ぶ人のための Praat 入門
音声言語処理と自然言語処理

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（タブレット可、OS 不問）

【その他の重要事項】

講義内容が連続する「英語・言語学特殊講義 B」も履修を検討されたい。
統計学やプログラミングの知識は不問とする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the process by which people listen to speech sounds, recognize words, and understand sentences from word sequences. In the first semester, students will learn an overview of speech sounds, the process of perceiving speech sounds, and experimental methods. The methods depend on statistics, psychology, and computer science. You will also experience how to construct experiments and analyze data.

The goals of this course are threefold: 1. to be able to explain the characteristics of speech sounds and the processes by which they are produced; 2. to be able to explain models of the processing where people perceive speech sounds; and 3. to be able to test hypotheses through experiments and simulations.

The class will focus on reading materials in rotation and hands-on practice. Feedback will be provided in each class, and in the 7th class, the understanding of the first half will be checked and supplemented. In the 14th class, that of the second half will be checked and supplemented. Grades will be based on assignments in classes (50%) + mid-term exam and final exam (50%).

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 B

岸山 健

授業コード：A2924 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

The goals of this course are threefold: 1. to be able to explain the relationship between regular expressions and context-free grammars 2. to be able to explain the model of the process by which people give structure to words 3. to be able to test hypotheses through experiments and simulations.

The class will focus on reading materials in rotation and hands-on practice. Feedback will be provided in each class, and in the 7th class, the understanding of the first half will be checked and supplemented. In the 14th class, that of the second half will be checked and supplemented. Grades will be based on assignments in classes (50%) + mid-term exam and final exam (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が単語の列から文を理解する過程を検証しながら学びます。後期では言語を「記号列」とみなし、記号列に構造を与える過程、検証方法を学びます。検証には統計学や心理学、計算機科学の手法を借ります。実験を組み立てたり、データを分析したりする方法も体験できます。

【到達目標】

1. 正規表現と文脈自由文法の関係を説明できる
2. 人が単語に構造を与える処理のモデルを説明できる
3. 実験やシミュレーションで仮説を検証できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の輪読と実習を中心に進めます。各回でフィードバックの時間を設け、第7回では前半の理解を確認、補足します。第14回では後半の理解を確認、補足します。統計学やプログラミングの初学者であることを前提とした内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理言語学の概要2	心理言語学の研究対象・言語学・統語論との関係
第2回	オートマトンと言語理論	構文解析に必要な範囲に絞って文脈自由文法まで解説
第3回	構文解析と心理的実在生	文脈自由文法をベースとした構文解析を比較・検討
第4回	容認性調査：概要	対照実験の復習・that-痕跡効果・PCIBex の導入
第5回	容認性調査：実施	実験の実施とデータの取得
第6回	容認性調査：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第7回	理解度の確認と質疑応答	前半の振り返りと理解の補完
第8回	研究ことはじめ2	IMRaD と研究の進め方の復習・サーベイの実施
第9回	研究立案と推敲	サーベイ内容をまとめて報告、推敲
第10回	構文解析（発展編）	Python を使って構文解析器の挙動を学習
第11回	自己ベース読文実験：概要	ガーデンパス効果・PCIBex の復習
第12回	自己ベース読文実験：実施	実験の実施とデータの取得
第13回	自己ベース読文実験：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第14回	理解度の確認と質疑応答	後半の振り返りと理解の補完

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する資料の要約と復習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『パソコンがあればできる！ ことばの実験研究の方法』中谷健太郎、ひつじ書房、2019、定価 2,600 円
ISBN 978-4-89476-964-9

【参考書】

オートマトン 言語理論 計算論 I [第2版]
音声言語処理と自然言語処理

【成績評価の方法と基準】

平常評価 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（タブレット可、OS 不問）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the process by which people listen to speech sounds, recognize words, and understand sentences from word sequences. In the first semester, students will learn an overview of speech sounds, the process of perceiving speech sounds, and experimental methods. The methods depend on statistics, psychology, and computer science. You will also experience how to construct experiments and analyze data.

LIT200BD

比較文学 A

日中 鎮朗

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては Stoffgeschichte（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

【到達目標】

さまざまな作品の成立過程を学び、また他の諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1 作品に 2～3 回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 比較文学とは何か？ 絵画の見方 マリアについて	比較文学・文化の意味と手法
第 2 回	聖書とマリア	マリアについての概説
第 3 回	マリアの絵画 キリスト教の絵画について	受胎告知から聖母へ マリア以外の聖書の絵画
第 4 回	『われら』 『素晴らしい新世界』 『1984』	歴史と未来とそのヴィジョンの関係
第 5 回	『私を離さないで』	未来文学と SF について
第 6 回	ユートピアの意味と文学と女性 『侍女の物語』 『消滅世界』	ユートピアとディストピアの諸相
第 7 回	椿姫（ラ・トラヴィアータ）（1）	成立史 デュマの原作との比較 病と文学 ドゥミ・モンド
第 8 回	椿姫（ラ・トラヴィアータ）（2）	村上春樹『ノルウェイの森』 エリック・シーガル『ラブ・ストーリー』との比較
第 9 回	ジャポニスムについて 舞台とジャポニスム	ジャポニスムの歴史と作品 フランスにおけるジャポニスム
第 10 回	蝶々夫人（1）	「蝶々夫人」成立史と日本の開国 ビエール・ロチの『お菊さん』との比較
第 11 回	蝶々夫人（2）	ルース・ベネディクト『菊と刀』 恥と日本文化
第 12 回	蝶々夫人（3）	歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』 能『隅田川』との比較
第 13 回	世界文学という考え方	フランコ・モレッティについて
第 14 回	期末試験	春学期の振り返りとまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
本などで作品を確認したり、オペラであればその見どころ、あらすじなどを覚えておくといふ。
また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくといふ。興味が第一です。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50%）と期末のテスト（50%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、スライドの文字情報がやや多く、詰まっているという指摘が以前あったので、留意し、改善したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Learning activities outside of classroom】: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

LIT200BD

比較文学B

日中 鎮朗

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で学んだことを踏まえ、絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては *Stoffgeschichte*（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

【到達目標】

諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1 作品に 2～3 回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	芸術文化の諸ジャンルの比較について
第 2 回	カルメン（1）	成立史 プロスパー・メリメ『カルメン』との比較
第 3 回	カルメン（2）	ファミ・ファタル（1） ホセの人物像
第 4 回	映画『ダメージ』	ファミ・ファタルの諸像
第 5 回	魔笛（1）	『魔笛』の成立史 モーツァルトの生涯
第 6 回	魔笛（2）	フリーメーソンの歴史 松本清張『モーツァルトの伯楽』とシカネーダー
第 7 回	魔笛（3）	グスタフ・クリムトのベートーベン・フリーズ
第 8 回	魔笛（4）	シラー「歓喜に寄せて」 <夜の女王>が象徴するもの <ザラストロ>とは誰/何か？
第 9 回	アーツ・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリスとユートピア
第 10 回	柳宗悦と民芸	民芸運動とモリスの影響
第 11 回	アル・ヌーヴォー	フランスへの影響と美術 ピアズリー
第 12 回	バウハウスと建築	20 世紀の建築と未来都市
第 13 回	現代芸術	21 世紀の美術に向けて
第 14 回	期末試験	秋学期の振り返りとまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

本などでオペラ作品の見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくとよい。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50%）と期末のテスト（50%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、スライドの文字情報がやや多く、詰まっているという指摘が以前あったので、留意し、改善したい。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Work to be done outside of class】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) A

[2年L組]

畑 和樹

授業コード：A2826 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は段階的な執筆活動を通じて、履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じてパラグラフライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持った英文を様々な形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】

本科目は履修生に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。
 a) くだけた表現を避けて形式的な文章を使い続けることができる。
 b) 授業で扱う文法を駆使して、ある程度正確な表現をすることができる。
 c) パラグラフを意識して、一貫性のある文章を構成することができる。
 d) 主張や背景がはっきりした「導入」を構成することができる。
 e) 指定された形式を保ちながら、一貫性をもつ文章を構成することができる。
 f) Oxford 2000 で示された単語を、適宜適切に使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜、授業内、オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明/アカデミック・ライティングの基本解説
2	Sentence and paragraph formation (1)	Paragraph organisation (topic/supporting/concluding sentences)
3	Sentence and paragraph formation (1)	Simple sentence structure; Capitalisation and end punctuation; Fragments and run-on sentences
4	Description (1)	Descriptive organisation
5	Description (2)	Specific language; Adjectives in descriptive writing; "Be" to define and descriptive
6	Example (1)	Examples as supporting details
7	Example (2)	The simple present; Subject-verb agreement
8	Process (1)	Process organisation
9	Process (2)	Time-ordering words; Imperatives; Modals of advice, necessity, and prohibition
10	Narrative (1)	Sensory and emotional details
11	Narrative (2)	Order of events; The simple past; The past continuous
12	Opinion (1)	Reasons to support an opinion
13	Opinion (2)	"There is/are" to introduce facts; "Because of" and "because" to give reasons
14	Wrap-up	エッセイの最終提出およびフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：履修生は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。

復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的なエッセイの加筆・修正を行うこと。

※ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Savage, A. & Shafiei, M. 2021. < u > Effective Academic Writing 1 < /u > (2nd ed). Oxford University Press. ISBN: 9780194323468 (必ず初回授業までに購入しておくこと)

【参考書】

ハンドアウトを適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

最終エッセイ：50%

課題：35%

授業貢献度：15%

毎週、学生を指名して質疑を行い議論を促進させるが、指名されていない学生による積極的貢献を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須）

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】

None

【Outline (in English)】

This course aims to enhance students' prospects for writing essays through step-by-step writing activities. In this module, the students will be provided opportunities to utilise or apply what has been learnt in other modules. In the 14 weeks, the students will be engaged in a series of activities and practices, in which they can apply understanding of several writing styles to construct a coherent paragraph on given topics. The final grade for this module will take into account grades awarded on all assignments and active engagement.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) B

[2年L組]

畑 和樹

授業コード：A2827 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じてアカデミックライティングの基本事項を学び、理解した内容に基づいて、一貫性および論理性を持ったショートエッセイを形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】

本科目は履修生に対し、以下の目標を設定する。

- ・くだけた表現と形式的 (アカデミック) な文章を判別し、使い分けができる。
- ・意味の逸脱のない程度で「文法のおよび語用的」に正しい文章が書ける。
- ・「主張」のはっきりしたパラグラフの構築ができる。
- ・パラグラフ内で「主張の裏付け・論拠」を示すことができる。
- ・各パラグラフの繋がりを意識し、「一貫性を持った」エッセイを書くことができる。
- ・本科目で扱うエッセイの各スタイルの違いを理解し、自らのエッセイに応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の授業となる。各授業の初めに担当教員が講義を行い、扱う単元に関する基本項目や概念を説明する。原則、説明は板書を用いて行う。その後、教材を用いて演習を行うことで、理解の向上や強化および実践を図る。如何なる問いに対しても、担当教員が一時的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明/アカデミック・ライティングの基本解説
2	Paragraph to short essay (1)	Paragraph structure; Unity and coherence in short-essay organisation
3	Paragraph to short essay (2)	Simple and compound sentences; Run-on sentences; Dependent clauses
4	Descriptive essay (1)	Descriptive organisation
5	Descriptive essay (2)	Details in sentences (Prepositional phrases; Similes and simile structure; Adjectives in description)
6	Narrative essays (1)	Narrative organisation
7	Narrative essays (2)	Details in essays (Sequences in narratives; Subordinating conjunctions; The past continuous and past-time clauses; Simultaneous activities)
8	Comparison-contrast essays (1)	Comparison-contrast organisation
9	Comparison-contrast essays (2)	Comparison and contrast connectors; Comparatives in sentences and paragraphs
10	Opinion essays (1)	Opinions and facts; Counter-argument and refutation
11	Opinion essays (2)	Quantity expressions; Connectors to show support and oppositions
12	Cause-and-effect essays (1)	Cause-and-effect and Clustering information
13	Cause-and-effect essays (2)	Phrasal verbs; The future with "will", "if"-clauses and "so that"
14	Wrap-up	各単元のまとめ、および実践への応用性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：履修生は、シラバスにて示された教材 (下記参照) の該当箇所を「授業前に」終わらせること。場合により予習箇所を限定することがあるが、その際は前週の授業内で告知する。

復習：配布資料 (授業で使用したスライドや追加資料) を見直し、該当箇所をもう一度見直すこと。

※ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Savage, A. & Mayer, P. 2021. < u > Effective Academic Writing 2 < /u > (2nd ed). Oxford University Press. ISBN: 9780194323475 (履修者は、必ず初回までに教科書を購入すること)

【参考書】

Hewings, M., & McCarthy, M. (2012). *Cambridge academic English B2 upper intermediate student's book: An integrated skills course for EAP*. Cambridge: Cambridge University Press.

購入不要

【成績評価の方法と基準】

最終エッセイ：50%

課題：35%

授業貢献度：15%

毎週、学生を指名して質疑を行い議論を促進させるが、指名されていない学生による積極的貢献を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

授業形式 (対面・遠隔) が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット (Microsoft Word 必須)

※スマートフォンは不可

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】

None

【Outline (in English)】

This module aims to cultivate competence for short-essay writing through practical activities. Students will be provided solid understanding of key aspects of academic writing alongside with other common academic practices; including general language and critical thinking skills. The final grade for this module will take into account grades awarded on all assignments and active engagement.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) A

[2年M組]

安藤 和弘

授業コード：A2828 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとしますが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法はこの授業では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】

学生が、大学学部レベルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりと構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	主題の設定	Topics; Research
第3回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第4回	レポート全体の構成	The Working Outline
第5回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第6回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第7回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第8回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第9回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第10回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第11回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第12回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第13回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第14回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をおしておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ3時間、1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

David E. Kluge, Matthew A. Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが40%、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが20%、学期末に提出する完成版レポートが40%の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が互いに意見交換をする時間を十分に設ける。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term. Every week, during the session, students make concrete plans for improving their work in progress, making sure that they know what they need to do to prepare for the next week's session. Grading criteria: weekly preparation for and participation in in-class activities 40%, mid-term report 20%, and end-of-term paper 40%.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) B

[2年M組]

安藤 和弘

授業コード：A2829 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとしますが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法はこの授業では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】

学生が、大学学部レベルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりと構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。教材は春学期と同じだが、学生は春学期とは違う話題を選び、春学期に学んだことを活かしてより高いレベルで学習をする。フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	主題の設定	Topics; Research
第3回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第4回	レポート全体の構成	The Working Outline
第5回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第6回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第7回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第8回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第9回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第10回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第11回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第12回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第13回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第14回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をおしておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ3時間、1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

David E. Kluge, Matthew A. Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが40%、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが20%、学期末に提出する完成版レポートが40%の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が互いに意見交換をする時間を十分に設ける。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term. Every week, during the session, students make concrete plans for improving their work in progress, making sure that they know what they need to do to prepare for the next week's session. Grading criteria: weekly preparation for and participation in in-class activities 40%, mid-term report 20%, and end-of-term paper 40%.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) A

[2年N組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2830 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語の俳句・川柳と英語の俳句・川柳には大きな違いがあり、俳句・川柳の起源や歴史に触れた後、その違いに注目する。

このコースの第一の目的は、英語の俳句と川柳を鑑賞し、学び、書くことである。受講生は、すでに書かれた俳句・川柳や、クラスメートの俳句・川柳を分析し、議論する機会を持つことができます。

このコースは、主にライティングのコースですが、スピーキングとリーディングも含まれます。また、分析力、批判的思考力、プレゼンテーション能力を向上させる機会も与えられています。

【到達目標】

By the end of this course, students will be better able to write English-language haiku and short analyses/commentaries on those already written be established haijin.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The professor will expose students to the variations that exist between English-language haiku/senryu and those of Japanese by formal instruction/lecture and by providing examples.

The professor will also teach students how to "read" haiku and dissect/analyze them.

In addition, Students will also be given opportunities to apply theory to practice by writing their own haiku. The professor will guide and advise students in this endeavour.

Feedback will be provided on an ongoing basis, either face-to-face in class or through Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	i) Orientation Syllabus Expectations Academic Honesty/Plagiarism (ii) Introduction to Haiku	The professor will introduce the class and explain in greater detail the syllabus.
第 2 回	A History of Haiku	Students will explore the history of haiku and discuss key stages in the form's development.
第 3 回	What a haiku is...	Students will explore the defining features of haiku and discuss/share their favourite haiku
第 4 回	... And what a haiku isn't	Students will explore the common mistakes that novice haijin make when writing haiku, and discuss/share some of their own ideas.
第 5 回	Prosody: On and Syllables (1)	Students will explore the prosodic differences between on and syllables, and discuss various haiku in relation to this.
第 6 回	Mid-Term Assessment	Short written and discussion test. May also include recitation of haiku composed by students based on input to date.
第 7 回	Mid-term assessment feedback + The need for brevity and to read between the lines	Students will be provided with feedback on their mid-term assessment before exploring the need for brevity and the idea of "what is not said" in haiku. Students will discuss a range of haiku in this regard.
第 8 回	Kigo, Kiyose and Saijiki (Spring and Summer)	Students will explore kigo words for spring and summer and discuss a range of haiku that draw on these.

第 9 回	Kigo, Kiyose and Saijiki (Autumn, Winter and New Years)	Students will explore kigo words for Autumn, winter and new year, and discuss a range of haiku that draw on these.
第 10 回	Kireji	Students will explore the function of kireji and discuss a range of haiku that draw on this feature of haiku.
第 11 回	Lost in translation	Students will explore the pitfalls of translating haiku from Japanese to English, and discuss a range of haiku that have been translated.
第 12 回	Lost (and found) in translation	Students will explore successes of translated haiku, and discuss a range of haiku that have been translated.
第 13 回	Final assessment	Short written and discussion test. May also include recitation of haiku composed by students based on the semester's input.
第 14 回	Final assessment feedback	Students will be provided with feedback on their final assessment

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend around four hours each week on this. Homework will usually consist of writing haiku or commentaries on haiku already in the public domain, but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class. 2-3 longer reports will be assigned throughout the semester.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

【参考書】

There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extempore basis.

【成績評価の方法と基準】

Haiku Portfolio (Portfolio of haiku/senryu written by students that demonstrates understanding of course content, and presented in the format as requested by the professor): 60%

Participation: 15%

Mid-term Assessment: 10%

Final Assessment: 10%

Report: 5%

【学生の意見等からの気づき】

From this year, the course has been given a complete overhaul as a result of students' comments, which not only makes the course more beneficial to students from an educational perspective, but more enjoyable too.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, pen... the usual!

AND

a black signpen and 1 packet of C-531 (5x3 size) blank cards*

* Professor will show an example in the first class.

【その他の重要事項】

* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (authorized or unauthorized, i.e. for ANY reason) that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE: Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.

* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.
* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!

* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.
* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.

* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

There are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English, and this course, after exploring the origins and history of haiku and senryu, will draw students' attention to these differences.

The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to analyze and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.

This course, while predominately a writing course, also involves speaking and reading. Students are also given opportunities to improve their analytic, critical thinking and presentation skills.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) B

[2年N組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2831 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語で書かれた俳句・川柳と英語で書かれた俳句・川柳には大きな違いがあり、このコースでは **Writing 3 B** をベースに、その違いを探索する。このコースの主な目的は、英語の俳句と川柳を鑑賞し、学び、書くことである。生徒は、すでに書かれた俳句と川柳、およびクラスの仲間の俳句と川柳を分析し、議論する機会を与えられる。このコースは主にライティングのコースですが、スピーキングとリーディングも含まれます。また、分析力、批判的思考力、プレゼンテーション能力を向上させる機会も提供されます。

【到達目標】

In building on Writing 3A, by the end of this course (Writing 3B), students will be even better able to write English-language haiku and short analyses/commentaries on those already written be established hajjin.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The professor will expose students to the variations that exist between English-language haiku/senryu and those of Japanese by formal instruction/lecture and by providing examples.

The professor will also teach students how to "read" haiku and dissect/analyze them.

In addition, Students will also be given opportunities to apply theory to practice by writing their own haiku. The professor will guide and advise students in this endeavour.

Feedback will be provided either face-to-face in the classroom or through Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(i) Orientation Syllabus Expectations Academic Honesty/Plagiarism	The professor will introduce the syllabus and answer students' questions.
第 2 回	The Old Masters (Basho and Buson)	The professor will introduce the work of Basho and Buson, and students will practice writing their own haiku.
第 3 回	The Other Two Old Masters (Issa and Shiki)	The professor will introduce the work of Issa and Shiki, and students will practice writing their own haiku.
第 4 回	Women Can Do It Too, Y'know! (1)	The professor will introduce the work of prominent female hajjin, and students will practice writing their own haiku.
第 5 回	Women Can Do It Too, Y'know! (2)	The professor will introduce more work from prominent female hajjin, and students will practice writing their own haiku.
第 6 回	Gendai Haiku	The professor will introduce gendai haiku, and students will practice writing their own haiku.
第 7 回	More Gendai Haiku	The professor will introduce more gendai haiku and students will practice writing their own haiku.
第 8 回	(i) Mid-Term Test (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (1)	Students will take the mid-term test, after which the professor will introduce the need for brevity and reading between the lines. Students will practice writing their own haiku.

第 9 回	(i) Mid-Term Test (Feedback) (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (2)	The professor will provide students with mid-term assessment feedback, after which students will practice writing their own haiku
第 10 回	Death Poems (1)	The professor will introduce death poems, and students will practice writing their own haiku.
第 11 回	Death Poems (2)	The professor will introduce more death poems, after which students will practice writing their own haiku.
第 12 回	Other Devices Used in Haiku	The professor will introduce various devices used in haiku and students will practice writing their own.
第 13 回	Even More Devices Used in Haiku	The professor will introduce more devices used in haiku and students will further practice writing their own.
第 14 回	Final Test * Haiku portfolios must also be submitted today in the exact format as requested by the professor. Test feedback	Students will take the final test, and submit their portfolios.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about four hours each week on this. Homework will usually consist of writing haiku or commentaries on haiku already in the public domain, but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class. 2-3 longer reports will be assigned throughout the semester.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

【参考書】

There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extempore basis.

【成績評価の方法と基準】

Haiku Portfolio (Portfolio of haiku/senryu written by students that demonstrates understanding of course content, and presented in the format as requested by the professor.): 60%
Participation: 15%
Mid-term Assessment: 10%
Final Assessment: 10%
Report: 5%

【学生の意見等からの気づき】

From this year, the course has been given a complete overhaul as a result of student comments, which not only makes the course more beneficial to students from an educational perspective, but more enjoyable too.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, pen... the usual!
AND
a black signpen and 1 packet of C-531 (5x3 size) blank cards*
* Professor will show an example in the first class.

【その他の重要事項】

* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (authorized or unauthorized, i.e. for ANY reason) that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. **DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE:** Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.
* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.
* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!
* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.
* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.

* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそれぞれに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

There are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English, and this course builds on Writing 3 B in exploring these differences.

The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to analyze and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.

This course, while predominately a writing course, also involves speaking and reading. Students are also given opportunities to improve their analytic, critical thinking and presentation skills.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) A

杉 亜希子

授業コード：A2834 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフ構成を学び、その後エッセイへと発展させる。
注) 英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model paragraph/essay, you will

- ・ Be able to recognize and identify key structures
- ・ Learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- ・ Get used to editing and improving your writing
- ・ Apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

論文の基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる Paragraph や Essay の構造とスタイルをマスターしていく。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Acquiring the idea of what an English paragraph should be like, you will improve skills to write your own work.

1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (such as a reading about the topic; vocabulary building exercise) given in the text.

2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

・ Preparation for each class will be a must
・ Active and cooperative performance in every class from each student is fully expected

・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted
論文の基本構成とその論理的展開を理解し、レポート作成の基礎となる paragraph のスタイルをマスターし、その後 essay へと発展させていく。英語で書かれている教科書を使い、予習していることを前提に授業をすすめる。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」やメールを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1: Paragraphs	Understand paragraphs and topic sentences
第 3 回	Unit 1: Paragraphs	Understand paragraph structure (Supporting sentences)
第 4 回	Unit 1: Paragraphs	Understand paragraph structure (Concluding sentences) and features of a well-written paragraph
第 5 回	Unit 1: Paragraphs	Write a paragraph; peer-edit and revise your paragraph
第 6 回	Unit 2: Features of Good Writing	Understand purpose, audience, and clarity
第 7 回	Unit 2: Features of Good Writing	Understand clarity, unity and coherence
第 8 回	Unit 2: Features of Good Writing	Write a paragraph; proofreading
第 9 回	Unit 2: Features of Good Writing	Peer-edit and revise your paragraph
第 10 回	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay	Understand the essay structure (Introductory paragraph)
第 11 回	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay	Understand classification essays; use of subject adjective clauses;

第 12 回	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay	Understand the writing process
第 13 回	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay	Brainstorm and outline for your five-paragraph essay: write your essay
第 14 回	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay	Proofread your draft; peer-edit

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Before each class, students will be expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

模範となるパラグラフやエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てていく。フィードバックされた提出物も再度見直すこと。
本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Keith S. Folse, et al., *Great Writing, Level 3 - From Great Paragraphs to Great Essays* (National Geographic Learning, a Cengage Learning company, 2020, ¥3,640+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

- ① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit
- ② 30% by active participation in each class

注1) 出席が7割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注2) Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価となる。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 paragraph/essay の構成がロジックに沿ったものかを評価する

【学生の意見等からの気づき】

Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことを持てるかどうか、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。

受講者が「英語で長い文章を書くのが億劫でしたが書き方を学んだことで前向きになれた」と感じられた様に、まずは英語の「文章の構成」を理解することから始まります。その後自分でテーマに沿ってドラフトの骨格となる「話の流れ」をしっかりと考えてからドラフト作成に入ります。

基本的に書く作業は一人で行いますが、ドラフトを誰かと読みあい評価するペアまたはグループ・ワークでは、活発に意見を出しあうことでお互いを高められる利点があります。受講者は「自分では気づかない矛盾やあいまいな表現」を指摘され「自分の意図しない文」を避けることでよりわかりやすいエッセイを心がけ成長しました。

刺激をしようレベルの高いクラスになる時と、静かに自分の作業に徹底するクラスと、年度により違いが出るように授業の雰囲気は皆さん次第で決まります。

【学生が準備すべき機器他】

言語の授業なので辞書は必須。授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し提出 (授業内または授業支援システムより) してもらいます。

対面授業では、感染症予防対策として不織布のマスク着用を求めます。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) B

杉 亜希子

授業コード：A2835 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

春学期に学んだパラグラフから発展し、様々なテーマで essay を書いていく。論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるための English essay の構成を学ぶ。

注) 英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model essay, you will

- be able to recognize and identify key structures
- learn how to gather ideas and organize them into groups (=outlining)
- get used to editing and improving your writing
- apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing

論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出た時に必要となる英文の essay スタイルをマスターしていく。各自で選択したトピックでライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

In each unit you will gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- Preparation for each class will be a must
- Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
- Late submission of the assessed work will NOT be accepted

前期にマスターしたパラグラフから発展し英文エッセイの書き方を学んでいく。

* Topics are subject to change

フィードバックは、課題提出後に授業内または授業支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Reviewing	General briefing; reviewing essay structures
第 2 回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Understand cause-effect essays; brainstorm
第 3 回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Develop an outline
第 4 回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Write your draft
第 5 回	Unit 5: Cause-Effect Essays	Peer-edit and finish the final draft
第 6 回	Unit 7: Comparison Essay	Understand comparison essays; brainstorm
第 7 回	Unit 7: Comparison Essay	Develop an outline
第 8 回	Unit 7: Comparison Essay	Write your draft
第 9 回	Unit 7: Comparison Essay	Peer-edit and finish the final draft
第 10 回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Understand problem-solution essays; brainstorm
第 11 回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Develop an outline
第 12 回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Write your draft
第 13 回	Unit 8: Problem-Solution Essays	Peer-edit and finish the final draft
第 14 回	Final Timed Writing	Timed writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before each class, students will be expected to have read and completed the exercises of the relevant section from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

模範となるエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成を把握し、自分のライティングに役立てていく。フィードバックされた提出物も再度見直すこと。

本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期と同様に、Keith S. Folse, et al., *Great Writing, Level 3 - From Great Paragraphs to Great Essays* (National Geographic Learning, a Cengage Learning company, 2020, ¥3,640+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注 1) 出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注 2) Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価となる。各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 Essay の構成が論理的かを評価する

【学生の意見等からの気づき】

Writing には「答」はありません。自分の主張したいことを明確にしているか、それを如何に読者に伝え、自分にしか書けない Essay になっているかが評価の軸となります。

受講生が「英語で長い文章を書くのが億劫でしたが書き方を学んだことで前向きになれた」と感じられた様に、まずは英語の「文章の構成」を理解することから始まります。そのあと自分でテーマに沿ってドラフトの骨格となる Outline をしっかり練りドラフト作成に入ります。

書いたドラフトを仲間と読みあい評価しあう Peer-editing の作業で、活発に意見を出し不明点を指摘し相談しあえるグループがお互いを高めていきます。その際「自分では気づかない矛盾やあいまいな表現」を指摘され「自分の意図しない文」を避けることでよりわかりやすい文章を心がけるようになった受講生は確実に成長します。

積極的に授業やグループ作業に参加し、人に刺激を与え、人から学べる姿勢を身につけていってください。

【学生が準備すべき機器他】

春学期同様、授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し、授業内又は授業支援システムで提出となります。対面授業では、感染症予防対策として不織布のマスク着用を求めます。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6)A

岸山 健

授業コード：A2836 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化や教育、スポーツといった身近な話題から、政治や経済、社会といった普段は議論しない話題まで、決められた時間内で英文を執筆する訓練をします。2 回の授業で一つのトピックを扱い、最初の週は議論の読解を行い次の週はその議論に基づき自分の意見を制限時間内で書いていきます。

【到達目標】

自分が特定の時間で書ける量を把握できる
与えられた時間と書ける量から適切なアウトラインを作成できる
理由と詳細を十分に含めた論証ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の週は議論の読解を行い次の週はその議論に基づき自分の意見を制限時間内で書いていきます。議論の予習と論点の整理が必要です。授業計画はトピックの例で、実際は他にも候補があるため初回の授業で決めます。フィードバックは毎週ワークシートに対しておこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Social networking has improved our lives (1)	講義の説明とハンドアウトを基礎とした議論
第 2 回	Social networking has improved our lives (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 3 回	Marriage (1)	ハンドアウトで紹介する議論の読解
第 4 回	Marriage (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 5 回	Affirmative action (1)	ハンドアウトで紹介する議論の読解
第 6 回	Affirmative action (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 7 回	理解度確認と前期前半のまとめ	中間試験 (課題説明とライティング、フィードバック)
第 8 回	Inheritance tax at 100 percent (1)	ハンドアウトで紹介する議論の読解
第 9 回	Inheritance tax at 100 percent (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 10 回	Sanctions, use of (1)	ハンドアウトで紹介する議論の読解
第 11 回	Sanctions, use of (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 12 回	Democracy (1)	ハンドアウトで紹介する議論の読解
第 13 回	Democracy (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 14 回	期末試験と前期のまとめ	期末試験 (課題説明とライティング、フィードバック)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします (合計 4 時間)。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト (教科書)】

ハンドアウトを利用するので不要

【参考書】

Pros and Cons A Debater's Handbook 19th edition

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン (タブレット PC 可)

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this course, students will practice writing in English on topics ranging from the familiar, such as culture, education, and sports, to the less commonly discussed, such as politics, economics, and society, within a set time frame. The following week, students write their own opinions based on the discussion within a time limit.

The following are the goals in this course. First, students will be able to determine the amount of text they can write in a given amount of time. Second, you will be able to develop an appropriate outline. Finally, you will be able to present an argument that includes sufficient reasons and details.

Outside of classroom, you are supposed to write on topics to be specified in class, summarize and review materials. Grades are given based on in-class assignments (50%) and mid-term and final examinations (50%).

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6) B

岸山 健

授業コード：A2837 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化や教育、スポーツといった身近な話題から、政治や経済、社会といった普段は議論しない話題まで、決められた時間内で英文を執筆する訓練をします。2 回の授業で一つのトピックを扱い、最初の週は議論の読解を行い次の週はその議論に基づき自分の意見を制限時間内で書いていきます。

【到達目標】

自分が特定の時間で書ける量を把握できる
与えられた時間と書ける量から適切なアウトラインを作成できる
理由と詳細を十分に含めた論証ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の週は議論の読解を行い次の週はその議論に基づき自分の意見を制限時間内で書いていきます。議論の予習と論点の整理が必要です。授業計画はトピックの例で、実際は他にも候補があるため初回の授業で決めます。フィードバックは毎週ワークシートに対しておこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	National identity cards (1)	講義の説明と教科書の読解
第 2 回	National identity cards (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 3 回	Mandatory retirement age (1)	教科書の読解と議論
第 4 回	Mandatory retirement age (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 5 回	School uniform (1)	教科書の読解と議論
第 6 回	School uniform (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 7 回	理解度確認と後期前半のまとめ	中間試験 (課題説明とライティング、フィードバック)
第 8 回	Prison v. rehabilitation (1)	教科書の読解と議論
第 9 回	Prison v. rehabilitation (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 10 回	Violent video games, banning of (1)	教科書の読解と議論
第 11 回	Violent video games, banning of (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 12 回	Genetic engineering (1)	教科書の読解と議論
第 13 回	Genetic engineering (2)	課題説明とライティング、相互採点
第 14 回	期末試験と後期のまとめ	期末試験 (課題説明とライティング、フィードバック)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします (合計 4 時間)。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト (教科書)】

ハンドアウトを利用するので不要

【参考書】

Pros and Cons A Debater's Handbook 19th edition

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン (タブレット PC 可)

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this course, students will practice writing in English on topics ranging from the familiar, such as culture, education, and sports, to the less commonly discussed, such as politics, economics, and society, within a set time frame. The following week, students write their own opinions based on the discussion within a time limit.

The following are the goals in this course. First, students will be able to determine the amount of text they can write in a given amount of time. Second, you will be able to develop an appropriate outline. Finally, you will be able to present an argument that includes sufficient reasons and details.

Outside of classroom, you are supposed to write on topics to be specified in class, summarize and review materials. Grades are given based on in-class assignments (50%) and mid-term and final examinations (50%).

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) A

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2838 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate/intermediate course that is focused on writing skills but also containing reading. This course is aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve not only their vocabulary but also cultural knowledge

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about teach week's topic.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction and Topic: Your Personality	READING 1 Right Brain, Left Brain SKILLS The Paragraph Capitalization Rules The Title
第 2 回	Your Personality 2	Right Brain, Left Brain SKILLS The Paragraph Capitalization Rules The Title
第 3 回	Food 1	READING 1 Live a Little: Eat Potatoes! WRITING 1 SKILLS The Topic Sentence PRACTICE Writing about food or drink
第 4 回	Food 2	READING 2 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes WRITING 2 SKILLS Supporting Sentences Concluding Sentences PRACTICE Writing about a special food
第 5 回	Celebrations and Special Days 1	READING 1 Tihar: Festival of Lights WRITING 1 SKILLS Describing a Process Punctuation: Comma (,) with Items in a Series PRACTICE Writing about a special event
第 6 回	Celebrations and Special Days 2	READING 2 Celebrating a Fifteenth Birthday WRITING 2 SKILLS Main and Dependent Clauses Writing a Dependent Clause with before or after PRACTICE Writing about a celebration

第 7 回	Amazing People 1	READING 1 Barrington Irving's Dream to Fly WRITING 1 SKILLS Unity Irrelevant Sentences PRACTICE Writing about the qualities of a person or a pet
第 8 回	Amazing People 2 Mid-Term Writing Test to be submitted to Hoppi	Amazing People 1 READING 1 Barrington Irving's Dream to Fly WRITING 1 SKILLS Unity Irrelevant Sentences PRACTICE Writing about the qualities of a person or a pet
第 9 回	Nature Attacks! 1	Lightning WRITING 1 SKILLS Writing a Narrative Paragraph with Time Words The Comma (,) with Time and Place Expressions PRACTICE Writing about a frightening experience
第 10 回	Nature Attacks! 2	READING 2 Chasing Storms WRITING 2 SKILLS Introducing Reasons with because PRACTICE Writing about dangerous weathe
第 11 回	Inventions 1	READING 1 The GoPro Camera WRITING 1 SKILLS Introducing Effects with so and therefore PRACTICE Writing about an invention
第 12 回	Inventions 2	READING 2 What's in a Name? WRITING 2 SKILLS Writing Business Letters PRACTICE Writing a business letter
第 13 回	Customs and Traditions 1	READING 1 Flowers, Dishes, and Dresses WRITING 1 SKILLS Comparing and Contrasting Showing Contrast with however Showing Similarity with similarly and likewise PRACTICE Writing about wedding customs
第 14 回	Customs and Traditions 2 End-of-Term Writing Test to be submitted to Hoppi	Writing Test 2 READING 2 What's in a Name? WRITING 2 SKILLS Writing Business Letters PRACTICE Writing a business letter

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト (教科書)】

Milada Broukal, Weaving It Together 2, 4th Edition, センゲージ ラーニング株式会社
 ISBN: 978-1-305-25165-6

【参考書】

In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the

student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Speaking)(7) B

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2839 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Following on from Writing 7A, this is an intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve both their vocabulary and cultural knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about teach week's topic.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction Symbols 1	READING 1 Color Me Pink WRITING 1 SKILLS Paragraph Structure PRACTICE Writing a paragraph about colors
第 2 回	Symbols 2	READING 2 And the Lucky Number Is . . . WRITING 2 SKILLS The Parts of an Essay The Thesis Statement PRACTICE Writing two body paragraphs about superstition
第 3 回	Customs 1	READING 1 Thanksgiving — Hawaiian Style WRITING 1 SKILLS The Introduction PRACTICE Writing an introduction about preparing for an event
第 4 回	Customs 2	READING 2 Hop to It! WRITING 2 SKILLS The Conclusion PRACTICE Writing an introduction and a conclusion about a custom
第 5 回	Mind and Body 1	READING 1 Personality Revealed WRITING 1 SKILLS The Example Essay PRACTICE Writing an example essay about character traits

第 6 回	Mind and Body 2	READING 2 Pets to the Rescue WRITING 2 SKILLS Using such as PRACTICE Writing an example essay about keeping healthy
第 7 回	People Making a Difference 1	READING 1 Saving Africa's Largest Animals WRITING 1 SKILLS The Descriptive Essay PRACTICE Writing a description essay about people
第 8 回	People Making a Difference 2 Mid-Term Writing Test	READING 2 Educating Kenya's Girls WRITING 2 SKILLS The Narrative Essay PRACTICE Writing a narrative essay
第 9 回	Food 1	READING 1 Sushi Crosses the Pacific WRITING 1 SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay — Part I Comparison and Contrast Words and Phrases Using while and whereas PRACTICE Writing an essay comparing food preparation and eating
第 10 回	Food 2	READING 2 What's for Breakfast? WRITING 2 SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay — Part II Using although, even though, and though PRACTICE Writing an essay comparing eating customs
第 11 回	Language 1	Keeping It Secret WRITING 1 SKILLS Writing about Reasons Introducing Reasons with because and as PRACTICE Writing an essay that gives reasons for certain behaviors
第 12 回	Language 2	READING 2 English Around the World WRITING 2 SKILLS The Cause-and-Effect Essay Words That Signal Cause and Effect Using therefore and consequently PRACTICE Writing an essay about the effects of the English language
第 13 回	Environment 1	READING 1 Behind Bars at the Zoo WRITING 1 SKILLS The Argument Essay Relevant Support PRACTICE Writing an argument essay about human uses for animals
第 14 回	Environment 2 End-of-Term Writing Test	READING 2 Crops, Codes, and Controversy WRITING 2 SKILLS Using Factual Details to Support Your Opinion PRACTICE Writing an argument essay about agricultural practices

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト (教科書)】

Milada Broukal, Weaving It Together 3, 4th Edition,

センテージ ラーニング株式会社
ISBN: 978-1-305-25166-3

【参考書】

In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Students may contact me at paulkallender@gmail.com

When contacting the instructor:

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7) B

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, specifically Writing 7A, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) A

田中 裕希

授業コード：A2840 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。春学期は詩が中心。

【到達目標】

英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていくやすいよう、お題を出し既存の文学作品を例として使う。詩を中心に書いていくが、学生の興味に応じて他のジャンルにも挑戦したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	英語のリズム	Theodore Roethke, "My Papa's Waltz"
第 4 回	ワークショップ（1）	詩の合評
第 5 回	自分以外の誰かになり きって書く	John Berryman, "Dream Song 14"
第 6 回	ワークショップ（2）	詩の合評
第 7 回	絵画をもとに書く	Anne Sexton, "The Starry Night"
第 8 回	ワークショップ（3）	詩の合評
第 9 回	物になりきって書く	Suji Kwoc Kim, "Monologue for an Onion"
第 10 回	ワークショップ（4）	詩の合評
第 11 回	言葉から連想して書く	Marina Tsvetaeva, "Poems for Blok"
第 12 回	ワークショップ（5）	詩の合評
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	朗読会後半、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じて配布。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

作品評 50%

平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (50%) and the final paper (50%).

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) B

田中 裕希

授業コード：A2841 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。秋学期は散文が中心。

【到達目標】

英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸とし、ディスカッション中心に進めていく。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていくやすいよう、お題を出したり既存の文学作品を例として使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	散文詩を書く	Robert Hass, "A Story about the Body"
第 4 回	ワークショップ（1）	作品の合評
第 5 回	ショートショートを書く	Grace Paley, "Mother"
第 6 回	ワークショップ（2）	作品の合評
第 7 回	風景を描写する	短編小説からの例
第 8 回	ワークショップ（3）	作品の合評
第 9 回	人物を描写する	小説からの例
第 10 回	ワークショップ（4）	作品の合評
第 11 回	エッセイ	他ジャンルへの挑戦
第 12 回	ワークショップ（5）	作品の合評
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	まとめ、朗読会後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じて配布。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

作品群 50%

平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【その他の重要事項】

【重要】

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (50%) and the final paper (50%).

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) A

[2年L組]

杉 亜希子

授業コード：A2846 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではありません。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高めていきます。

【到達目標】

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills
 - Acquire a habit of thinking logically
 - Get used to speaking in front of others in English
 - Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
 - Input: Listening to a model case; understanding the context
 - Output: Making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
- A purpose of learning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
- Instructions will be given primarily in English
- 模範テキストを使用し、発音と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用し自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。
- フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	General briefing
第2回	1. Greetings; My Personality	Learning expressions for greetings; getting to know your partners; Learning model cases
第3回	1. My Personality	Reviewing the model cases
第4回	1. My Personality 2. My Strong Points	Describing yourself to others; Learning model cases
第5回	2. My Strong Points	Reviewing the model cases
第6回	3. My Weak Points	Learning model cases
第7回	3. My Weak Points	Reviewing the model cases; Describing your strong and weak points to others (Preparation)
第8回	Presentation	Describing your strong and weak points to others
第9回	4. My Hobbies	Learning model cases
第10回	4. My Hobbies	Reviewing the model cases; Describing your hobbies (Preparation)
第11回	Final Presentation (Preparation)	Making an outline and writing out your speech
第12回	Final Presentation (Preparation)	Editing your draft
第13回	Final Presentation (Preparation)	Final editing; practicing
第14回	Final Presentation	Presentation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class.

Model cases や pre-activity で習った表現は、声に出して復唱する。復習を徹底し、小テストなどを通して自分のものにしていく。スピーチ作成に向け、アウトラインを作成することで話の流れを自分で明確にすることで Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。

本授業の準備・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Handouts will be given. プリントを配布する。

Note: Topics are subject to change.

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書を使用して使われ方を再確認する癖をつけましょう。

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %、平常点 50 % (小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価)

注意 1 : 出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注意 2 : このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないことありますが、新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。

インプットではできるだけ多くの実用的な表現を学び、「フレーズを意識して」徹底的に「声に出して」練習しました。さらに「言い換える」練習を多くしたことで、アウトプットの際に自分の言いたいことを「いかに相手に伝えるか」を考える機会ともなりました。受講生は「スピーチの流れや構成を意識」し、「聞き手を意識」して原稿を作成することができるようになったと実感したように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢」を身につけました。

また、「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、それまでの「ただ何となく話す」ではなく「聞き手」を意識したコミュニケーションをすることで「相手に伝えるということの本質が理解できた」と思える成功体験を積み重ねました。

「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じると同時に、他人の発表から学んだことを「次に活かす」など受講者同士が刺激しあうことで、自分の考えを「自信をもって」「堂々と」披露しプレゼンテーションすることができるようになりました。

この授業の時間を有効に活用し成長できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で指示します。

【その他の重要事項】

- 適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ (メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp)、根拠となる書類・証拠を添付すること。
- この場合、欠席が考慮されるための代替え措置に関して相談が必要です。
- この授業では口頭練習が多いため、不織布のマスク着用を求めます。

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) B

[2 年 L 組]

杉 亜希子

授業コード：A2847 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではありません。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高めていきます。

【到達目標】

Through pre-activity and input, you will be able to
 -Improve and expand your vocabulary and useful expressions
 Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
 -Activate and develop existing English language skills
 -Acquire a habit of thinking logically
 -Get used to speaking in front of others in English
 -Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
 - Input: Listening to a model text; understanding the context
 - Output: Based on the model text, making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
 - A purpose of learning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
 - Instructions will be given primarily in English
 模範テキストを使用し発音練習と重要な表現のインプットを行う。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。
 フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	5. Summer Holiday	Talk about your holiday
第 3 回	6. Vacations in Tokyo	Understanding the model case
第 4 回	6. Vacations in Tokyo	Reviewing and choosing your topic; Practicing your speech
第 5 回	6. Vacations in Tokyo; 7. My Values Concerning Material Things	Presentation; Understanding the model cases
第 6 回	7. My Values Concerning Material Things	Reviewing
第 7 回	8. My Opinion on Japanese Education	Understanding the model cases
第 8 回	8. My Opinion on Japanese Education	Reviewing
第 9 回	9. Smoking Issues	Understanding the model case
第 10 回	9. Smoking Issues	Reviewing
第 11 回	Preparing for the Final Presentation	Choosing your own topic and outlining
第 12 回	Preparing for the Final Presentation	Drafting
第 13 回	Preparing for the Final Presentation	Editing your draft; practicing
第 14 回	Final Presentation	Presentation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected to review out loud the relevant section from the input exercises. Your required study time is at least four hours for a class.

Model cases や pre-activity で学んだ表現は声に出して復唱する。復習を徹底し、小テストなどを通して自分のものにしていく。スピーチ作成に向け、アウトラインを作成することで話の流れを自分で明確にすることで Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。
 本授業の準備・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Handouts will be given. プリントを配布する。

Note: Topics are subject to change.

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の使用を勧めます
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %、平常点 50 % (提出物、小テスト、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価)

注意 1 : 出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注意 2 : このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともあります。新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。インプットではできるだけ多くの実用的な表現を学び、「フレーズを意識して」徹底的に「声に出して」練習しました。さらに「言い換える」練習を多くしたこと、アウトプットの際に自分の言いたいことを「いかに相手に伝えるか」を考える機会ともなりました。受講生は「スピーチの流れや構成を意識し」、「聞き手を意識」して原稿を作成することができるようになったと実感したように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢」を身につけました。また、「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、それまでの「ただ何となく話す」ではなく「聞き手」を意識したコミュニケーションをすることで「相手に伝えるということの本質が理解できた」と思える成功体験を積み重ねました。

「他の人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じると同時に、他人の発表から学んだことを「次に活かす」など受講者同士が刺激しあうことで、自分の考えを「自信をもって」「堂々と」披露しプレゼンテーションすることができるようになりました。

この授業の時間を有効に活用し成長できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】

発表では自分のパソコンやタブレットを使用しスライドを見せるなどプレゼンの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】

- 適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ (メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp)、根拠となる書類・証拠を添付すること。
 この場合、欠席が考慮されるための代替措置に関して相談が必要です。
 - この授業は口頭練習が多いため、不織布のマスク着用を求めます。
 《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) A

[2年M組]

Niall Murtagh

授業コード：A2848 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course outline
第2回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第3回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第4回	Basic expressions	Application of strategies
第5回	Development	Conversational examples
第6回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第7回	Formal expressions	Detailed descriptions
第8回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第9回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第10回	Applications of topics	Expressing opinions
第11回	Usage of topics	Expressing regret
第12回	Further development	Expressing disagreement
第13回	Conclusions	Summary
第14回	Speeches	Topics from text book

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト (教科書)】

Meet the World - English through Newspapers 2023

Yasuhiko Wakaari SEIBIDO, 2023

ISBN 9784791972715, 2,100 円 (税込 2,310 円)

(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on spoken fluency, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Short presentations and speeches will be made in class.

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) B

[2年M組]

Niall Murtagh

授業コード：A2849 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course outline
第2回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第3回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第4回	Basic expressions	Application of strategies
第5回	Development	Conversational examples
第6回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第7回	Formal expressions	Detailed descriptions
第8回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第9回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第10回	Applications of topics	Expressing opinions
第11回	Usage of topics	Expressing regret
第12回	Further development	Expressing disagreement
第13回	Conclusions	Summary
第14回	Speeches	Topics from text book

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

Meet the World - English through Newspapers 2023
Yasuhiko Wakaari SEIBIDO, 2023
ISBN 9784791972715, 2,100 円（税込 2,310 円）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>**【成績評価の方法と基準】**

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。
※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。
※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on spoken fluency, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Short presentations and speeches will be made in class.

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) A

[2年N組]

岸山 健

授業コード：A2850 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。様々な観点からプレゼンを評価できるようになり、調査したことを、自分の能力と時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に7分程度のプレゼンができるように訓練します。

【到達目標】

プレゼンの評価基準 (構成や態度など) を考慮してプレゼンできる。英語のプレゼンに必要な技術 (発音や表現、構成など) を理解する。自分の特徴 (話速や想起できる量、癖など) を測定し運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短い講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要説明、スクリプトの必要性、グループの作成	授業の概要と相互評価の意義と基準 (興味や理解、話速や身振り手振りなど) を共有します。スクリプトの必要性に関する講義の後、十分な準備時間を設け、英語でのグループ内自己紹介 (1分) を通じて、相互評価の基準や方法を実習します。
第2回	Unit 1: Getting Started & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、前回の自己紹介を改善して共有します。また、Unit 2 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第3回	Unit 2: Getting Started 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第4回	共有会 1	Unit 1 と Unit 2 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第5回	Unit 3: Making a Good Impression & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、前回の自己紹介を改善して共有します。また、Unit 4 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第6回	Unit 4: Making a Good Impression 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第7回	共有会 2 と前半のまとめ	Unit 3 と Unit 4 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第8回	Unit 5: Making Your Point & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 6 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第9回	Unit 6: Making Your Point 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第10回	共有会 3	Unit 5 と Unit 6 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。

第11回	Unit 7: The Visual Story & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 9 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第12回	Unit 8: The Visual Story 2 & グループ発表練習 1	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで相談しながら改善します。図表も準備します。
第13回	Unit 9: The Visual Story 3 & グループ発表練習 2	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第14回	共有会 4 と後半のまとめ	Unit 7 と Unit 8, Unit 9 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします (合計4時間)。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト (教科書)】

教科書名: English Presentations Today アクティビティで学ぶ英語プレゼン術

出版社: 南雲堂

ISBN: 9784523178644

【参考書】

参考書: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker

ISBN: 9781074229108

【成績評価の方法と基準】

出席態度 50%と授業内発表 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当 変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4月初頭) にそちらに申請してください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This class helps students to be able to present in English what they want to tell. They will be able to evaluate presentations from a variety of perspectives and acquire the ability to communicate what they have researched and learned to their audience, using their abilities and time. They will be able to give a 7-minute presentation.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) B

[2年N組]

岸山 健

授業コード：A2851 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。様々な観点からプレゼンを評価、改善できるようになり、調査したことを、自分の能力と時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に10分程度のプレゼンができるように訓練します。

【到達目標】

英語のプレゼンを有利にする技術(質疑応答の予測、回答など)を熟練する。英語での調査(基本的なサーベイや図表の説明など)を実施できる。自分の特徴(話速や想起できる量、癖など)を測定し改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。質問などは学習支援システム・授業内で回答します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期の復習と後期の説明、グループの作成	前期で学んだチェックリストを後期でも活用できるよう、復習します。その後、後期最初のグループ分けを実施します。
第2回	Unit 10: Being Understood & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 11の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。
第3回	Unit 11: Being Understood 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回は決めた原稿をグループで練習します。Checklistに基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第4回	共有会 5a	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第5回	共有会 5b	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第6回	Unit 12: Concluding Your Message & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 13の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。
第7回	Unit 13: Concluding Your Message 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回は決めた原稿をグループで練習します。Checklistに基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第8回	共有会 6a	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第9回	共有会 6b	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第10回	Unit 14: Taking Questions & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、Unit 15の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。
第11回	Unit 15: Taking Questions 2 & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、前回は決めた原稿をグループで練習します。Checklistに基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第12回	共有会 7a	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第13回	共有会 7b	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。

第14回 後半と一年間のまとめ 一年間で学んできた評価基準などを振り返ります。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします(合計4時間)。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト(教科書)】

教科書名: English Presentations Today アクティビティで学ぶ英語プレゼン術

出版社: 南雲堂

ISBN: 9784523178644

【参考書】

参考書: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker

ISBN: 9781074229108

【成績評価の方法と基準】

出席態度 50%と授業内発表 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当 変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内(4月初頭)にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This class helps students to be able to present in English what they want to say. They will be able to evaluate and improve presentations from a variety of perspectives and acquire the ability to communicate what they have researched and learned to their audience, using their abilities and time. They will be able to give a 10-minute presentation.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) A

Niall Murtagh

授業コード：A2854 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course outline
第2回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第3回	Development of conversation strategies	Further ideas
第4回	General topics	Conversational styles
第5回	Academic topics (1)	Application to literary themes
第6回	Academic topics (2)	Application to lifestyle
第7回	Modern themes	Use of Internet search
第8回	News items	Japan-based issues
第9回	Society	International issues
第10回	Political themes	Controversial issues
第11回	Work-place scenarios	Career-based themes
第12回	Work-place presentations	Role playing
第13回	Themes for evaluation	Various topics
第14回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2023 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-156965, ¥1800円 (+ tax)
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) B

Niall Murtagh

授業コード：A2855 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course outline
第2回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第3回	Development of conversation strategies	Further ideas
第4回	General topics	Conversational styles
第5回	Academic topics (1)	Application to literary themes
第6回	Academic topics (2)	Application to lifestyle
第7回	Modern themes	Use of Internet search
第8回	News items	Japan-based issues
第9回	Society	International issues
第10回	Political themes	Controversial issues
第11回	Work-place scenarios	Career-based themes
第12回	Work-place presentations	Role playing
第13回	Themes for evaluation	Various topics
第14回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2023 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-156965, ¥1800円 (+ tax)
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>**【成績評価の方法と基準】**

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) A

JAMES O ESSEX

授業コード：A2856 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学でのスピーキングの授業は、ご存知のように、ある決議の是非を議論するもの、IELTS や英検、TOEFL などのテストに合格するために話すもの、特定の場面で機能したり生き残るために話すもの (例えば、初めての海外旅行で道を尋ねるために外国で列車のチケットを買う、留学プログラムで新しい友人と趣味について話すなど)、また、その週のホットニュースや社会問題など様々な話題について小グループを作って話をする討論形式などがあるかと思えます。

このコースは「パブリックスピーキング」に重点を置いています... このコースは「人前で話す」ことに重点を置いています、このコースの教授は、学生がこれまで遭遇したことのないようなコースになると考えています。パワーポイントによるプレゼンテーションもありません。TED Talks のようなモノログもないし、中学や大学で参加したようなスピーチコンテストもない (かなり強要されることもある**)。しかし、詩の朗読を通して、人前で話す能力を高める機会を提供します。シェイクスピアのソネット、詩、童謡、俳句など、さまざまな詩に出会い、その魅力に触れていきます。

【到達目標】

By the end of this course, students will be more confident in, and better able to speak publicly by engaging with a range of poetry. Research has also shown that poetry aids memory, and this, along with fostering a greater appreciation for and understanding of poetry are the learning objectives/desired outcomes of this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The professor will model specific recitations, and provide students with ample opportunities to practice recitation in small groups/pairs and individually. The course is one in which theory informs practice and practice informs theory. Students will be expected to "learn by doing", meaning the course is very much practical.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the class Expectations Syllabus overview	The professor will provide students with an overview to the course, and draw students' attention to his expectations etc.
第 2 回	(i) Public speaking and speaking publicly: same thing? (ii) What is poetry? How does it relate to public speaking? (iii) How to Read a Poem (iv) How to "Read" a Poem (v) How to Read a Poem So That It Looks Like You're Not Reading a Poem	The professor will introduce the fundamentals of public speaking, poetry and recitation, and the interplay between them. Guidance on how to interpret poems will be given.
第 3 回	Nursery Rhymes	The professor will introduce and model English-language nursery rhymes. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 4 回	The Romantic Poets' Poems	The professor will introduce and model English-language romance poetry. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.

第 5 回	Cinquains	The professor will introduce and model English-language cinquains. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 6 回	Nonsense Poems	The professor will introduce and model English-language nonsense poems. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 7 回	Mid-Term Assessment	The professor will select poems previously studied in the classes prior to the day of assessment. These will be placed in envelopes and each student will take it in turns to choose an envelope and recite the poem inside it. Envelopes will be shuffled prior to each subsequent student.
第 8 回	Mid-Term Assessment Feedback	The professor will provide students with individual feedback on their mid-term assessment.
第 9 回	Shakespearean Sonnets 1	The professor will introduce and model untranslated Shakespearean sonnets. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 10 回	Shakespearean Sonnets 2	The professor will introduce and model more untranslated Shakespearean sonnets. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 11 回	Shakespearean Sonnets 3	Because of their importance to the field, the professor will introduce and model even more untranslated Shakespearean sonnets. Students will also be given yet further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 12 回	Limericks	The professor will introduce and model English-language limericks. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 13 回	Final Assessment	The professor will select poems previously studied in the classes prior to the day of assessment. These will be placed in envelopes and each student will take it in turns to choose an envelope and recite the poem inside it. Envelopes will be shuffled prior to each subsequent student.
第 14 回	Final Assessment Feedback	The professor will provide students with individual feedback on their final assessment.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about one hour each week on this. Homework will usually consist of preparing for the subsequent class's recitation but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

* As will be explained in the first class, research has shown that memorizing and recitation is improved when the material is read from paper rather than a screen, so distribution of material on paper will be the norm.

【参考書】

There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extempore basis.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 28% (It is not enough just to be "in" the classroom: active participation is expected.)

Mid-Term Assessment (Recitation): 20% (Rubric will be provided)

Final Assessment (Recitation): 20% (Rubric will be provided)

Weekly Recitations: 32% (8 throughout the semester: 8x4 points)

【学生の意見等からの気づき】

From this year, the course has been given a complete overhaul as a result of student comments, which not only makes the course more beneficial to students from an educational perspective, but more enjoyable too.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, pen... the usual!

【その他の重要事項】

* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (authorized or unauthorized, i.e. for ANY reason) that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE: Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is

presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.

* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.

* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!

* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.

* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.

* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Speaking classes in university come, as you're likely aware, in many guises: debating the pros and cons of a particular resolution, speaking to pass tests (such as IELTS, EIKEN, TOEFL, etc), speaking to function or survive in particular scenarios (such as buying a train ticket in a foreign country asking for directions on your first trip abroad, talking about hobbies with a new friend on your study abroad programme, for example), and the discussion format in which students form small groups and talk about a range of topics such as the week's hot news stories or social issues.

This course focusses on "public speaking" but...

...the professor of this course believes that it is going to be like one that students have NEVER encountered before. There will be no Powerpoint presentations. There will be no monologues in the style of TED Talks, There will be no speech contests like those students took part in at secondary school or sixth form college* (quite often under duress**).

What there will be is plenty of poetry, providing opportunities for students to improve their public speaking through its recitation.

Students will encounter and engage with a range of poetry including Shakespearean sonnets, limericks, nursery rhymes and haiku.

*高等学校

**強要されて

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) B

JAMES O ESSEX

授業コード：A2857 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期で学んだスキルを発展させる上で このコースは「パブリックスピーキング」に重点を置いています...

このコースは「人前で話す」ことに重点を置いていますが、このコースの教授は、学生がこれまで遭遇したことのないようなコースになると考えています。パワーポイントによるプレゼンテーションもありません。TED Talks のようなモノログもないし、中学や大学で参加したようなスピーチコンテストもない (かなり強要されることもある**).

しかし、詩の朗読を通して、人前で話す能力を高める機会を提供します。シェイクスピアのソネット、詩、童謡、俳句など、さまざまな詩に出会い、その魅力に触れていきます。

【到達目標】

By the end of this course, students will be more confident in, and better able to speak publicly by engaging with a range of poetry. Research has also shown that poetry aids memory, and this, along with fostering a greater appreciation for and understanding of poetry are the learning objectives/desired outcomes of this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The professor will model specific recitations, and provide students with ample opportunities to practice recitation in small groups/pairs and individually. The course is one in which theory informs practice and practice informs theory. Students will be expected to "learn by doing", meaning the course is very much practical.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the class Expectations Syllabus overview	The professor will provide students with an overview to the course, and draw students' attention to his expectations etc.
第 2 回	Limericks	The professor will introduce and model English-language Limericks. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 3 回	Free Verse 1	The professor will introduce and model English-language free verse. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 4 回	Free Verse 2	The professor will introduce and model more English-language free verse. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 5 回	Haiku 1	The professor will introduce and model English-language haiku that students are unlikely to have come across before. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 6 回	Haiku 2	The professor will introduce and model more English-language haiku that students are unlikely to have come across before. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.

第 7 回	Mid-Term Assessment	The professor will select poems previously studied in the classes prior to the day of assessment. These will be placed in envelopes and each student will take it in turns to choose an envelope and recite the poem inside it. Envelopes will be shuffled prior to each subsequent student.
第 8 回	Mid-Term Assessment Feedback	The professor will provide students with individual feedback on their mid-term assessment.
第 9 回	Elegies 1	The professor will introduce and model English-language elegies. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 10 回	Elegies 2	The professor will introduce and model more English-language elegies. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 11 回	Occasional Poems 1	The professor will introduce and model English-language occasional poems. Students will also be given opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 12 回	Occasional Poems 2	The professor will introduce and model more English-language cinquains. Students will also be given further opportunities to recite according to their own interpretation and "reading" of the poem.
第 13 回	Final Assessment	The professor will select poems previously studied in the classes prior to the day of assessment. These will be placed in envelopes and each student will take it in turns to choose an envelope and recite the poem inside it. Envelopes will be shuffled prior to each subsequent student.
第 14 回	Final Assessment Feedback	The professor will provide students with individual feedback on their final assessment.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about one hour each week on this. Homework will usually consist of preparing for the subsequent class's recitation but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

* As will be explained in the first class, research has shown that memorizing and recitation is improved when the material is read from paper rather than a screen, so distribution of material on paper will be the norm.

【参考書】

There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extempore basis.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 28% It is not enough just to be "in" the classroom: active participation is required.

Mid-Term Assessment: 20% (Rubric will be provided)

Final Assessment: 20% (Rubric will be provided)

Weekly Recitations: 32% (8 throughout the semester: 8x4 points)

【学生の意見等からの気づき】

From this year, the course has been given a complete overhaul as a result of students' comments, which not only makes the course more beneficial to students from an educational perspective, but more enjoyable too.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, pen... the usual!

【その他の重要事項】

* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (authorized or unauthorized, i.e. for ANY reason) that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. **DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE:** Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is

presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.

* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.

* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!

* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.

* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.

* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Speaking classes in university come, as you're likely aware, in many guises: debating the pros and cons of a particular resolution, speaking to pass tests (such as IELTS, EIKEN, TOEFL, etc), speaking to function or survive in particular scenarios (such as buying a train ticket in a foreign country asking for directions on your first trip abroad, talking about hobbies with a new friend on your study abroad programme, for example), and the discussion format in which students form small groups and talk about a range of topics such as the week's hot news stories or social issues.

This course focusses on "public speaking" but...

...the professor of this course believes that it is going to be like one that students have NEVER encountered before. There will be no Powerpoint presentations. There will be no monologues in the style of TED Talks, There will be no speech contests like those students took part in at secondary school or sixth form college* (quite often under duress**).

What there will be is plenty of poetry, providing opportunities for students to improve their public speaking through its recitation.

Students will encounter and engage with a range of poetry including Shakespearean sonnets, limericks, nursery rhymes and haiku.

*高等学校

**強要されて

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) A

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2858 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

【到達目標】

Course Objectives

By participating in this course students will

1. Increase their knowledge of particular topics;
 2. Learn how to argue effectively for or against an issue;
 3. Expand vocabulary around current issues;
 4. Understand and apply theories of argumentation to discussions.
- To increase students' ability to succeed at either the TOEFL or the TOEIC test.

The overriding objective is to increase basic fluency and confidence and reinforce listening, speaking and reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

In each class, you will be asked to

1. Research a topic for 10-15 minutes.
2. Give your opinion on three questions. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion.
3. You will do a quick vocabulary-matching exercise
4. You will read a short passage and answer some questions.
5. You will listen to a short discussion
6. You will then quickly research a person, company, institution, organization, or community.
7. You will then make a very short quick speech on your research and discuss your conclusions.

Feedback will be given in class to students individually and in their discussion groups in real-time in the class, and at the end of the class, as necessary. For those students who complete the optional written component, the instructor will give additional feedback in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	What Are Sustainable Development Goals?	Critical Skills: Presentation introduction
第 2 回	What Is a Woman-Friendly Society?	Critical Skills: How to open discussion topics
第 3 回	Does Saving Infants' Lives Slow Population Growth?	Critical Skills: How to ask and express clarification of opinions
第 4 回	Solve the Water Crisis?	Critical Skills: Returning discussion to the main point; changing topics
第 5 回	How Can Quality Education for All Be Achieved?	Critical Skills: How to wrap up discussions
第 6 回	What Does It Mean To Be a Sustainable City?	Critical Skills: Expressing thoughts and opinions
第 7 回	Will Black Companies Survive in the Future?	Critical Skills: Providing evidence and examples
第 8 回	What Can We Do To Help Stop Child Labor?	Critical Skills: Expressing agreement with reasons
第 9 回	How Can We Reduce Food Waste?	Critical Skills: Expressing disagreement

第 10 回	Is a World Without Plastic Possible?	Critical Skills: Paraphrasing another person's ideas
第 11 回	How Can We Embrace Diversity in Society?	Critical Skills: Seeing clarification of the ideas of others
第 12 回	What Kind of Energy Is Affordable and Clean?	Critical Skills: Commenting on ideas and opinions and asking for opinions
第 13 回	What Is Behind the Fashion Industry?	Critical Skills: Introducing ideas and perspectives
第 14 回	Why Should We Protect Endangered Species? or Will Tourism Break Down Cultural and Historical Barriers?	Critical Skills: Summarizing a discussion

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト (教科書)】

Textbooks and References

Required Textbook:

SDGs×Discussion

Authors: Reiko Yoshihara / Chiyo Hayashi / Emi Itoi / Noriko Iwamoto / Audrey Morrell

株式会社 金星堂

¥2,000 (tax included ¥2,200)

978-4-7647-4150-8

【参考書】

The instructor will provide these each and every time.

【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based 100% on in-class performance in discussions.

If students do not try to actively debate in this class, they cannot hope to succeed in getting a good grade.

Students who miss more than several classes cannot expect to get a higher grade.

Students who miss more than four classes cannot expect to get a grade.

The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

Any unexplained absence will disbar the students from an S grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

In more detail:

1. Students are expected to attend all 14 classes.

Classes missed without adequate reason will be registered as absences.

2. Students arriving later than 5 minutes without proof of legitimate reason will be marked as late.

3. A record of lateness (more than a few classes) may impact the student's grade. Persistent lateness will damage the student's grade.

If students do not try to actively debate this class, they cannot hope to succeed in getting a good grade.

Students who miss more than several classes cannot expect to get a higher grade.

Students who miss more than three classes cannot expect to get a grade.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to prepare vocabulary before each class and also to review each lesson in order to deepen and retain cumulative knowledge and skills.

Students are expected to contribute to debates actively according to their abilities.

Students who do not try and contribute cannot receive a higher grade.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender

2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Speaking)(7)A

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

[Outline (in English)]

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2859 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

Objectives

1. Contextualized improved vocabulary acquisition
2. Improved specific question and answer ability
3. Improved ability to explain a point of view about a recognized global topic or issue.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to speaking skills.

Feedback will be given in class to students individually and in their discussion groups in real time in the class, and at the end of the class, as necessary. For those students who complete the optional written component, the instructor will give additional feedback in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study Abroad	Critical Skills: Discussing values
第 2 回	Nuclear Power	Critical Skills: Discussing Facts vs. Opinions
第 3 回	Immigration	Critical Skills: Discussing Beliefs & Prejudices
第 4 回	The Social Safety Net	Critical Skills: Discussing Reasons & Support for Evidence
第 5 回	Global Warming	Critical Skills: Discussing Criteria for Evaluation
第 6 回	Women in the Workplace	Critical Skills: Discussing Relevant & Irrelevant Facts & Details
第 7 回	School on Saturdays	Critical Skills: Critiquing an Argument

第 8 回	Food Labeling	Critical Skills: Identifying Generalizations and Assumptions
第 9 回	Etiquette in the Digital Age	Critical Skills: Understanding & Using Analogies
第 10 回	Merit-based Pay	Critical Skills: Drawing Inferences
第 11 回	American Military Bases in Japan	Critical Skills: Introduction to Logical Fallacies
第 12 回	Taxes	Critical Skills: Identifying the Slippery Slope Fallacy
第 13 回	Animal Rights	Critical Skills: Identifying Ad Hominem Attacks & Straw Man Arguments
第 14 回	Hosting the Olympics	Critical Skills: Identifying Red Herring Arguments

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト (教科書)】

Required Textbook:

Michael Hood, Think Smart Critical Thinking in Critical Times, 株式会社 金星堂

ISBN: 978-4-7647-4043-3

<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4043/>

【参考書】

The instructor will provide these each and every time.

【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based 100% on in-class performance in discussions.

If students do not try to actively debate in this class, they cannot hope to succeed in getting a good grade.

Students who miss more than several classes cannot expect to get a higher grade.

Students who miss more than four classes cannot expect to get a grade. The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

Any unexplained absence will disbar the students from an S grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

【学生の意見等からの気づき】

No changes.

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.

2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.

3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender

2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Speaking)(7) B

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内(4月初頭)にそちらに申請してください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) A

JAMES O ESSEX

授業コード：A2860 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースは、「会話」タイプのスピーキングコースから、日本文化の基本である俳句と川柳について、国際的な視点から話し、説明し、表現できるようにすることを目的としています。また、学期の様々な場面でプレゼンテーションを行い、講師役として俳句・川柳の形式を伝えることが求められます。このコースでは、オリジナルの英語俳句を作ることもありますが、これは主に宿題として出されるものです。受講生は自分の俳句をクラスで口頭発表することが要求されます。

【到達目標】

By the end of this course, students will be better able to talk about, explain and instruct others on haiku/senryu. They will also become adept at writing their own and sharing these orally with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each class will consist of formal instruction (input) followed by students being given opportunities to discuss the content, and subsequently impart this knowledge orally to others (output). Feedback on classwork/assignments will be provided face-to-face during class or through Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(i) Orientation Syllabus Expectations Academic Honesty/Plagiarism (ii) Introduction to Haiku	The professor will introduce the course and syllabus. Students will have the opportunity to ask questions.
第 2 回	A History of Haiku	The professor will introduce the history of haiku, and students will discuss various haiku in small groups.
第 3 回	A further history of haiku	The professor will further introduce the history of haiku, and students will discuss more haiku in small groups.
第 4 回	What a haiku is...	The professor will describe what a haiku is, and students will discuss various haiku in small groups.
第 5 回	...and what a haiku isn't	The professor will explain what a haiku is not, and students will discuss various haiku in small groups.
第 6 回	Prosody: On and Syllables (1)	The professor will introduce prosodic features of haiku, and students will discuss various haiku in small groups.
第 7 回	Prosody: On and Syllables (2)	The professor will further explain prosodic features of haiku, and students will explore more haiku in small groups.
第 8 回	(i) Mid-Term Test (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (1)	Students will take the mid-term test, after which the professor will introduce the idea of brevity in haiku. Students will discuss various haiku in small groups.
第 9 回	(i) Mid-Term Test (Feedback) (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (2)	The professor will provide students with test feedback, after which the need for brevity will be explained further. Students will discuss more haiku in small groups.
第 10 回	Kigo, Kiyose and Saijiki (Spring and Summer)	The professor will introduce spring and summer kigo, and students will discuss various haiku in small groups.

第 11 回	Kigo, Kiyose and Saijiki (Autumn, Winter and New Years)	The professor will introduce autumn, winter and New Years kigo, and students will discuss various haiku in small groups.
第 12 回	Kireji	The professor will introduce kireji and students will discuss various haiku in small groups.
第 13 回	Lost in Translation?	The professor will introduce the controversies that arise when haiku are translated. Students will discuss various haiku in small groups.
第 14 回	Final Test and student counselling. Haiku portfolios must also be submitted today in the exact format as requested by the professor. Test feedback available upon request for a week after the date of the test, or in the first class of the following semester.	Students will take the final test and submit their haiku portfolios.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about four hours each week on this. Homework will usually consist of writing haiku or commentaries on haiku already in the public domain, but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class. 2-3 longer reports will be assigned throughout the semester.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

【参考書】

There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extemporaneous basis. We will, however, be visiting the following website frequently: www.thatoldpond.com

【成績評価の方法と基準】

Participation 30% (It is not enough just to be "in" the classroom: active participation is expected). Ability to impart knowledge and instruct orally: 40% Haiku/Senryu portfolio 30%

【学生の意見等からの気づき】

Although the professor has been teaching at Hosei University for several years, this is the first time for him to teach this course.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, pen... the usual!

【その他の重要事項】

* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (unauthorized, that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE: Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.
* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.
* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!
* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.
* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.
* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭(初回授業日より前)に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This course moves away from 'conversation' type speaking course and more towards helping students to become better able to talk about, explain and describe a fundamental part of Japanese culture: haiku and senryu - from an international perspective. Students will be required to give presentations at various points of the semester in which they take on the role of instructor to communicate an aspect of the haiku/senryu form. The course also involves the writing of original English-language haiku, although this will primarily be given as homework. Students will be required to share their haiku orally with the class.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) B

JAMES O ESSEX

授業コード：A2861 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースは、「会話」タイプのスピーキングコースから、日本文化の基本である俳句と川柳について、国際的な視点から話し、説明し、表現できるようにすることを目的としています。また、学期の様々な場面でプレゼンテーションを行い、講師役として俳句・川柳の形式を伝えることが求められます。このコースでは、オリジナルの英語俳句を作ることもありますが、これは主に宿題として出されるものです。受講生は自分の俳句をクラスで口頭発表することが要求されます。

【到達目標】

By the end of this course, students will be better able to talk about, explain and instruct others on haiku/senryu. They will also become adept at writing their own and sharing these orally with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each class will consist of formal instruction (input) followed by students being given opportunities to discuss the content, and subsequently impart this knowledge orally to others (output). Feedback on assignments/classwork will be provided face-to-face or through Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(i) Orientation Syllabus Expectations Academic Honesty/Plagiarism	The professor will introduce the syllabus and students will have the chance to ask questions.
第 2 回	The Old Masters (Basho and Buson)	The professor will introduce the work of Basho and Buson, and students will explore various haiku,
第 3 回	The Other Two Old Masters (Issa and Shiki)	The professor will introduce the work of Issa and Shiki, and student will explore various haiku.
第 4 回	Women Can Do It Too, Y'know! (1)	The professor will introduce the work of various female haijin, and students will explore various haiku.
第 5 回	Women Can Do It Too, Y'know! (2)	The professor will further introduce the work of female haijin, and students will explore more haiku.
第 6 回	Gendai Haiku	The professor will introduce gendai haiku and students will explore various haiku.
第 7 回	More Gendai Haiku	The professor will further introduce gendai haiku and students will explore various haiku.
第 8 回	(i) Mid-Term Test (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (1)	Students will take the mid-term test, following which the professor will introduce the need for brevity. Students will explore various haiku.
第 9 回	(i) Mid-Term Test (Feedback) (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (2)	The students will receive mid-term test feedback, following which the professor will further introduce the need for brevity. Students will explore various haiku.
第 10 回	Death Poems (1)	The professor will introduce death poems. Students will explore various haiku.
第 11 回	Death Poems (2)	The professor will further introduce death poems. Students will explore various haiku.
第 12 回	Other Devices Used in Haiku	The professor will introduce other devices used in haiku. Students will explore various haiku.

第 13 回	Even More Devices Used in Haiku	The professor will further introduce devices used in haiku. Students will explore various haiku.
第 14 回	Final Test and student counselling. * Haiku portfolios must also be submitted today in the exact format as requested by the professor. Test feedback available upon request for a week after the date of the test, or in the first class of the following semester.	Students will take the final test and submit their haiku portfolio.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about four hours each week on this. Homework will usually consist of writing haiku or commentaries on haiku already in the public domain, but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class. 2-3 longer reports will be assigned throughout the semester.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

【参考書】

There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extemporaneous basis. We will, however, be visiting the following website frequently: www.thatoldpond.com

【成績評価の方法と基準】

Participation 30% (It is not enough just to be "in" the classroom: active participation is expected).
 Ability to impart knowledge and instruct orally: 40%
 Haiku/Senryu portfolio 30%

【学生の意見等からの気づき】

Although the professor has been teaching at Hosei University for several years, this is the first time for him to teach this course.

【学生が準備すべき機器他】

Notebook, pen... the usual!

【その他の重要事項】

* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (unauthorized), that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE: Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.
 * The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.
 * Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!
 * Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.
 * The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.
 * Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が4月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。
 ※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4月初頭) にそちらに申請をしてください。
 ※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

[Outline (in English)]

As was learned in Speaking 8 A, there are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English, and this course will further draw students' attention to these differences.

The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to analyze and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.

This course, while predominately a speaking course, also involves writing and reading. Students are also given opportunities to improve their analytic, critical thinking and presentation skills.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (1) A

吉川 純子

授業コード：A2844 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1 回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、George Orwell の *Animal Farm* を複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの 5 分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	辞書について Orwell (1)	こまめな辞書引き
第 3 回	代名詞 Orwell (2)	代名詞の省略
第 4 回	形容詞 Orwell (3)	落とし穴が多い
第 5 回	補充訳 Orwell (4)	時には必要
第 6 回	訳す順番 Orwell (5)	原文の頭から
第 7 回	国語力 Orwell (6)	磨こう
第 8 回	動詞 Orwell (7)	ふくみを見落とさず
第 9 回	名詞 Orwell (8)	誤訳はごまかせない
第 10 回	助動詞 Orwell (9)	甘く見えてはいけない
第 11 回	態 Orwell (10)	能動態、受動態の転換
第 12 回	品詞転換訳 Orwell (11)	その技法
第 13 回	訳語がない場合 Orwell (12)	自分で作ろう
第 14 回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Basically, students are required to prepare for each class spending one hour, and to review each class spending one hour.

【テキスト (教科書)】

金子光茂『英文翻訳上達の秘訣』南雲堂、2009 年。1500 円 + 税
Orwell のテキストおよび翻訳は、ウェブにアップします。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円 (税別) を薦めます。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 (参加、予習など) 30%、試験 70% で評価する。

Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%).

【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「言葉に対して意識的になった」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。

春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (1) B

吉川 純子

授業コード：A2845 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1 回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Oscar Wilde の "The Happy Prince" を複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの 5 分程度で日本語の語彙クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	英文和訳について Wilde (1)	何を日本語に移し換えるのか?
第 3 回	英文和訳について Wilde (2)	どこまで訳してよいか?
第 4 回	代名詞 Wilde (3)	代名詞の省略 (前期の内容復習を含む)
第 5 回	所有格 Wilde (4)	所有格の省略
第 6 回	形容詞 Wilde (5)	働きに注意
第 7 回	不定詞 Wilde (6)	訳の工夫
第 8 回	動名詞 Wilde (7)	訳し方
第 9 回	分詞 Wilde (8)	訳し方
第 10 回	名詞 Wilde (9)	動名詞のように訳す
第 11 回	態 Wilde (10)	能動態、受動態の転換 (前期の内容復習を含む)
第 12 回	前置詞 Wilde (11)	どう捉えるのか?
第 13 回	訳語がない場合 Wilde (12)	自分で作ろう (前期の内容復習を含む)
第 14 回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%).

【テキスト (教科書)】

矢作三蔵 『Deep Reading 『読みから訳への要領』 開文社、1997 年。1600 円+税

Wilde のテキストおよび翻訳は、ウェブで配布します。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円 (税別) を薦めます。英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 (参加、予習など) 30%、到達度確認 70% で評価します。

Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%).

【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「言葉に対して意識的になった」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。

春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。後期のみの受講はできませんので、注意してください。

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。これらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (2) A

安藤 和弘

授業コード：A2866 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学作品に材をとる翻訳演習。翻訳というのは、辞書は当然のことながら参考にしながらも、英文の口調やニュアンスを聞き取り、辞書から一定の距離を置いて、自分なりに自然で生きた日本語に変換をすることの意。その振り返り、英文を生きた言葉として捉え直す才覚を身につけることが、この授業の最大の目的である。その変換の作業を通じて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。若手作家 Emma Healey のデビュー長編小説 *Elizabeth Is Missing* (2014) を教材に取り上げる。Emma Healey は、日本ではほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。取り上げる作品を簡略に紹介しておく。*Elizabeth Is Missing* の主人公/語り手 Maud は記憶力が不明確な八十代の老婆。近所に住む同じ高齢の友人 Elizabeth が行方不明になったのがきっかけで、何十年も前、若かりし頃に行方不明になり、その後戻って来ることがなかった姉の記憶が蘇り、それら二つの失踪事件が Maud の頭の中で不思議に交錯し始める。娘や警察に相談をしても誰も耳を貸してくれないうので、Maud は自分で二つの事件を解明しようとする。彼女の物語は、老境において孤立する現在の自分と、鮮明に思い出される戦中から戦後にかけての少女時代自分の記憶のあいだを行ったり来たりする。この作品はまずは心理スリラーであると言える。しかし、物語の至るところに老人性痴呆を罹患している Maud の妄想が混ざり込んでいる。コミカルな場面が多く盛り込まれているが、それらの背後には犯罪や老齢と病などの重たい問題が描き込まれている。高齢化社会を反映した趣向の文学を探索する名作としても、この作品は高く評価されている。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。春学期は作品のおよそ前半を取り上げる。

【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり正確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の正確な意味と細かなニュアンスまでもを反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、その振り返りで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。訳す箇所以外は、大まかな物語展開を予め教員が前の回に説明をするが、各自がざっと目とおしてなるべく詳細に把握することが望ましい。授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料 (レジュメ集) としてアップロードする。学生は授業時まで資料を良く吟味し、授業時に意見を述べるができるように準備しておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、学生の提出物と意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	演習第 1 回	プロローグ、第 1 章前編 (1~10 頁)
第 3 回	演習第 2 回	第 1 章後編、第 2 章前編 (10~20 頁)
第 4 回	演習第 3 回	第 2 章後編、第 3 章前編 (20~31 頁)
第 5 回	演習第 4 回	第 3 章後編 (31 頁~41 頁)
第 6 回	演習第 5 回	第 4 章前編 (42~51 頁)
第 7 回	演習第 6 回	第 4 章後編 (51~61 頁)
第 8 回	演習第 7 回	第 5 章 (62~74 頁)
第 9 回	演習第 8 回	第 6 章 (75~87 頁)
第 10 回	演習第 9 回	第 7 章 (88~102 頁)
第 11 回	演習第 10 回	第 8 章 (103~117 頁)
第 12 回	演習第 11 回	第 9 章 (118~128 頁)
第 13 回	演習第 12 回	第 10 章 (129~139 頁)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目とおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 3 時間、1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Emma Healey, *Elizabeth Is Missing* (2014), Penguin, 2015
 ISBN: 978-0241968185

生協に定員分が入荷されるので、必ず生協で購入すること。生協以外のルートで入手しようとする、異なる版が届いたり、配達が遅延し、受講に支障をきたす恐れがある。(Kindle など電機書籍を一時的な補助として併用するのは任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。)

【参考書】

作家についての情報はこのサイトなどを参照のこと。https://www.emmahealey.co.uk/

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 80 %、授業時の発言 20 % の比率で評価をする。無断欠席を 4 回すると評価の対象外となる。レポート課題が期限までに 4 回提出されない場合も評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoom セッション参加に必要な端末 (PC など) を準備し、通信環境を整えておくこと。携帯電話での受講は、原則、認めない。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

【Outline】

On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *Elizabeth Is Missing* (2014) by Emma Healey, a contemporary English novelist.

【Goal】

The objectives of this course are for students to acquire proficiency in reading literature in English, and then on that basis to learn skills for translating English texts into natural and persuasive Japanese that vibrates with voices and nuances of the original English texts integrated into it. Through the acquisition of translation techniques and with a new awareness of the two languages that it brings about in them, students go back to the original English texts and aim at achieving higher levels of reading comprehension.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week students first read designated parts of the novel and then translate into Japanese passages that the teacher designates. Students make weekly progress as they put into practice what they have previously learned when they work on new assignments. For reading the novel and translating, students allow for 3 hours per week; for revision after each session, e.g., organising notes, students allow for another 1 hour.

【Grading criteria】

Written assignments (translation) 80 %, observations made in class on peers' work 20%.

BSP200BD

英語表現演習(翻訳)(2) B

安藤 和弘

授業コード：A2867 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

文学作品に材をとる翻訳演習。翻訳というのは、辞書は当然のことながら参考にしながらも、英文の口調やニュアンスを聞き取り、辞書から一定の距離を置いて、自分なりに自然で生きた日本語に変換をすることの意。その照り返しで、英文を生きた言葉として捉え直す才覚を身につけることが、この授業の最大の目的である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。若手作家 Emma Healey のデビュー長編小説 *Elizabeth Is Missing* (2014) を教材に取り上げる。Emma Healey は、日本ではほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。取り上げる作品を簡略に紹介しておく。*Elizabeth Is Missing* の主人公/語り手 Maud は記憶力が不確かな八十代の老婆。近所に住む同じく高齢の友人 Elizabeth が行方不明になったのがきっかけで、何十年も前、若かりし頃に行方不明になり、その後戻って来ることがなかった姉の記憶が蘇り、それら二つの失踪事件が Maud の頭の中で不思議に交錯し始める。娘と警察に相談をしても誰も耳を貸してくれないので、Maud は自力で二つの事件を解明しようとする。彼女の物語は、老境において孤立する現在の自分と、鮮明に思い出される戦中から戦後にかけての少女時代自分の記憶のあいだを行ったり来たりする。この作品はまずは心理スリラーであると言える。しかし、物語の至るところに老人性痴呆を罹患している Maud の妄想が混ざり込んでいる。コミカルな場面が多く盛り込まれているが、それらの背後には犯罪や老齢と病などの重たい問題が描き込まれている。高齢化社会を反映した趣向の文学を探索する名作としても、この作品は高く評価されている。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。秋学期は作品のおよそ後半を取り上げる。

【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり正確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の正確な意味と細かなニュアンスまでもを反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、その照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。訳す箇所以外は、大まかな物語展開を予め教員が前の回に説明をするが、各自がざっと目とおしてなるべく詳細に把握することが望ましい。授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料(レジュメ集)としてアップロードする。学生は授業時まで資料を良く吟味し、授業時に意見を述べるができるように準備しておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、学生の提出物と意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明と春学期に読んだ範囲の物語展開の概要
第 2 回	演習第 1 回	第 11 章 (140～151 頁)
第 3 回	演習第 2 回	第 12 章前編 (152～162 頁)
第 4 回	演習第 3 回	第 12 章後編、第 13 章前編 (162～175 頁)
第 5 回	演習第 4 回	第 13 章後編、第 14 章前編 (175～185 頁)
第 6 回	演習第 5 回	第 14 章後編 (185～195 頁)
第 7 回	演習第 6 回	第 15 章前編 (196～206 頁)
第 8 回	演習第 7 回	第 15 章後編 (206～216 頁)
第 9 回	演習第 8 回	第 16 章前編 (217～227 頁)
第 10 回	演習第 9 回	第 16 章後編、第 17 章前編 (227～238 頁)
第 11 回	演習第 10 回	第 17 章後編、第 18 章前編 (238～251 頁)
第 12 回	演習第 11 回	第 18 章中編 (251～264 頁)

第 13 回 演習第 12 回

第 14 回 総括

第 18 章後編、エピローグ (264～274 頁)

この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目とおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 3 時間、1 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

Emma Healey, *Elizabeth Is Missing* (2014), Penguin, 2015
ISBN: 978-0241968185

生協に定員分が入荷されるので、必ず生協で購入すること。生協以外のルートで入手しようとすると、異なる版が届いたり、配達が遅延し、受講に支障をきたす恐れがある。(Kindle など電機書籍を一時的な補助として併用するのは任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。)

【参考書】

作家についての情報はこのサイトなどを参照のこと。

<https://www.emmahealey.co.uk/>

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 80 %、授業時の発言 20 % の比率で評価をする。無断欠席を 4 回すると評価の対象外となる。レポート課題が期限までに 4 回提出されない場合も評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoom セッション参加に必要な端末 (PC など) を準備し、通信環境を整えておくこと。携帯電話での受講は、原則、認めない。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

【Outline】

On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *Elizabeth Is Missing* (2014) by Emma Healey, a contemporary English novelist.

【Goal】

The objectives of this course are for students to acquire proficiency in reading literature in English, and then on that basis to learn skills for translating English texts into natural and persuasive Japanese that vibrates with voices and nuances of the original English texts integrated into it. Through the acquisition of translation techniques and with a new awareness of the two languages that it brings about in them, students go back to the original English texts and aim at achieving higher levels of reading comprehension.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week students first read designated parts of the novel and then translate into Japanese passages that the teacher designates. Students make weekly progress as they put into practice what they have previously learned when they work on new assignments. For reading the novel and translating, students allow for 3 hours per week; for revision after each session, e.g., organising notes, students allow for another 1 hour.

【Grading criteria】

Written assignments (translation) 80 %, observations made in class on peers' work 20%.

BSP900BD

海外英語演習

田中 裕希

授業コード：A2889 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

夏期集中/Intensive(Summer)・4単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏期 SA プログラム～ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン。

【到達目標】

アイルランドのユニバーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）で夏期休暇中の3週間を過ごす「夏期 SA プログラム（UCD）」では、英語圏で生活することにより実践的な英語力を集中的に習得し、アイルランドを含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

出発前には主に安全面の確認のための事前指導をおこない、帰国後には SA 報告会と英語による面接試験を通じて事後指導をおこなう。留学先では、UCD の語学センター English Language Academy (ELA) に所属する教員が、英語を母語としない学生を対象とした EFL (外国語としての英語) のプログラムを担当する。

クラスは習熟度別に4段階 (Advanced, Upper Intermediate, Intermediate, Lower Intermediate) に分かれ、指導が行き届くよう少人数教育をおこなう。通常、授業は月曜日から金曜日の午前9時から午後1時頃まで実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1~14	初めにクラス分け試験が実施され、その結果により、学生は各自、適切なクラスに振り分けられる。そのクラスの担当教員により、毎回の授業の目標が示される。	配属されたクラスごとに、学生のレベルにあわせた目標にそった内容を学習する。Reading, Writing, Listening, Speaking の4技能をバランスよく身につけられる内容の授業がおこなわれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地で指示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

現地で提供される。

【参考書】

現地で指示される。

【成績評価の方法と基準】

留学先から送付された成績証明書および出席証明書、留学期間中に現地から SA 委員会に提出する英語レポート、帰国報告会時のプレゼンテーション、口頭試験についての SA 委員会の評価を参考にして総合的に合否を判断する。評価は合格を「RS」、不合格を「D」または「E」とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【その他の重要事項】

詳細は、「夏期 SA プログラム（UCD）」パンフレット参照。

【Outline (in English)】

Students participate in the study abroad program at University College Dublin during the summer term.

LIN300BD

英語学演習 (1) A

福元 広二

授業コード：A2935 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学に関する教科書を読み、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。教科書や参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】

この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語史に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	専門的研究への準備	英語学・言語学の基礎知識の復習
第 3 回	教科書 プレゼンテーション (1)	第 1 章 序論 卒論テーマの発表 (1)
第 4 回	教科書 プレゼンテーション (2)	第 2 章 英文法の成立 屈折の単純化 卒論テーマの発表 (2)
第 5 回	教科書 プレゼンテーション (3)	第 2 章英文法の成立 新素材
第 6 回	教科書 プレゼンテーション (4)	第 2 章英文法の成立 言語変化に伴う得失
第 7 回	教科書 プレゼンテーション (5)	第 3 章 外国語の影響 (1) 前半
第 8 回	教科書 プレゼンテーション (6)	第 3 章 外国語の影響 (2) 後半
第 9 回	教科書 プレゼンテーション (7)	第 4 章 英語の造語法 (1) 前半
第 10 回	教科書 プレゼンテーション (8)	第 4 章 英語の造語法 (2) 後半
第 11 回	プレゼンテーション (1)	4 年生の卒論発表
第 12 回	プレゼンテーション (2)	3 年生の研究発表 (1) 前半
第 13 回	プレゼンテーション (3)	3 年生の研究発表 (2) 後半
第 14 回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる教科書や論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。

辞書を常に手元に置いて活用すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Henry Bradley『英語の成立』（成美堂）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。（タームペーパー 40 %、平常点 60 %）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

また、4 年生の卒業論文に関しての重要な連絡や全般的な注意事項の指導などは、この授業を通じて行います。各自留意してください。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop students' research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically. This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grades will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD

英語学演習 (1) B

福元 広二

授業コード：A2936 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語学に関する教科書を読み、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。教科書や参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】

この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語学に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関する指導も予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	プレゼンテーション (1)	春学期に学んだ内容の確認
第 3 回	プレゼンテーション (2)	8 Change in meaning
第 4 回	プレゼンテーション (3)	9 The origin of dialects
第 5 回	プレゼンテーション (4)	10 Relatedness between languages
第 6 回	プレゼンテーション (5)	11 More remote relations
第 7 回	プレゼンテーション (6)	論文精読 (1)
第 8 回	プレゼンテーション (7)	論文精読 (2)
第 9 回	プレゼンテーション (8)	12 The birth and death of languages
第 10 回	プレゼンテーション (9)	13 Attitudes towards language change
第 11 回	プレゼンテーション (10)	3 年生の研究発表 (1)
第 12 回	プレゼンテーション (11)	3 年生の研究発表 (2)
第 13 回	プレゼンテーション (12)	3 年生の研究発表 (3)
第 14 回	秋学期のまとめ 4 年 卒論発表	卒論についての説明 授業の総まとめ 4 年 卒論発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当者になった場合、割り当てられた教科書や論文は精密に読んで、授業に臨むことが大事です。他のゼミ生からの質問に答えられるようにあらゆる角度から準備しておくことを心がけてください。

担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ハンドアウトを配布します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー 40%、平常点 60%)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

授業を通しての卒業論文に関する連絡事項も増えていくので、授業は必ず出席すること。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

・4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop students' research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.

This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grades will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD

英語学演習 (2) A

椎名 美智

授業コード：A2937 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】

この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的には対面です。変更する場合は、Hoppii で連絡します。担当を決めるので、履修する学生は必ず出席してください。まず（4年生には）復習と（3年生には）導入を兼ねて語用論の色々な理論を概観します。演習なので、基本的に、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3人ずつ発表してもらいます。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で15分～20分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をまとめてみます。テキストの最初の方は重要なので、担当者に全文和訳をしてもらうことになると思います。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず第一回目の授業に出席してください。オフィスアワーに、研究の仕方、レポートのコンサルテーションをします。リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究領域の概説と履修条件について
第2回	Chapter 1: Definition	語用論の理論の概説
第3回	Chapter 1: Background	学生による演習と議論
第4回	Chapter 2: Deixis	学生による演習と議論
第5回	Chapter 2: Distance	学生による演習と議論
第6回	Chapter 3: Reference	学生による演習と議論
第7回	Chapter 3: Inference	学生による演習と議論
第8回	Chapter 4: Presupposition	学生による演習と議論
第9回	Chapter 4: Entailment	学生による演習と議論
第10回	Chapter 5: Cooperation	学生による演習と議論
第11回	Chapter 5: Implicature	学生による演習と議論
第12回	Chapter 6: Speech acts	学生による演習と議論
第13回	Chapter 6: Speech events	学生による演習と議論
第14回	復習	春学期のまとめ、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業で扱う予定の箇所を必ず読んで、和訳できるように予習をして授業に臨む必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

George Yule (1996)*Pragmatics*, (Oxford Introduction to Language Study). Oxford: Oxford University Press 各自、アマゾン等で入手してください。他にも日本語のテキストを使う予定です。

【参考書】

語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とり、3回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表2割、レポート8割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき4年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習 (2)B を引き続き履修しなければなりません。

また椎名に卒論を指導してほしい4年生は、単位に関係なく必ず履修してください。この演習は卒論指導に関して学生と教員が連絡をとる場でもあります。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。よって、木曜6限も空けておいてください。積極的にゼミとゼミ関連の活動に参加する学生にだけ履修してほしいタイプのゼミです。

オフィスアワーは木曜4限です。事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis.

LIN300BD

英語学演習 (2) B

椎名 美智

授業コード：A2938 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】

この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際コミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に対面です。変更する場合は Hoppii で連絡します。春学期に引き続き、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当を決めて、3人ずつ発表してもらいます。担当の学生に全文を和訳してもらおうことになると思います。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分～ 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をします。

学生の要望があれば、ゲスト・スピーカーにコミュニケーションについてレクチャーをしてもらい、学生がプロジェクト発表をする機会を設けることもあります。

オフィスアワーに、勉強の仕方、発表の内容、レポートのコンサルテーションをします。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	Chapter 7: Politeness	学生による演習と議論
第 3 回	Chapter 7: Interaction	学生による演習と議論
第 4 回	Chapter 8: Conversation	学生による演習と議論
第 5 回	Chapter 8: Preference structure	学生による演習と議論
第 6 回	Chapter 9: Discourse	学生による演習と議論
第 7 回	Chapter 9: Culture	学生による演習と議論
第 8 回	復習	ここまでの内容の総括と復習
第 9 回	学生によるプロジェクト	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 10 回	ゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 11 回	学生によるプロジェクトとゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 12 回	復習	プロジェクトの総括と復習
第 13 回	卒論発表会 (1)	4 年生による卒論発表とフィードバック
第 14 回	卒論発表会 (2)	4 年生による卒論発表とフィードバック、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う予定の箇所を目を通してきてください。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

George Yule (1996) *Pragmatics* (Oxford Introductions to Language Study). Oxford: Oxford University Press.

各自アマゾン等で入手してください。日本語のテキストも使用する予定ですが、それについては、授業内に紹介します。

【参考書】

語用論、ポライトネスに関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とり、3 回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表 2 割、レポート 8 割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき 4 年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3 年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

- ・単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習 (2)A を前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独の履修はできません。
- ・椎名に卒論指導を希望する 4 年生は、単位に関係なく必ず履修してください。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。また最終の二回の授業は 4 年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げのための重要なヒントになります。ゼミのコンパへの参加は重要です。
- ・オフィスアワーは木曜 3 限です、事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis.

LIN300BD

言語学演習 (1) A

石川 潔

授業コード：A2939 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

黙読していても頭の中で音が鳴っちゃう……という話があるけど、本当？
そういう話を実験で調べた論文を読み、実験研究のやり方を学びます。
また、実験実施の実習もする予定です。

【到達目標】

実験研究のやり方の入門レベルの知識を身につける。
音韻・統語論の知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の卒論計画の発表、文献の輪読、実験実施を行います (一部、講義あり)。
授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインです。それぞれの発表にはコメントを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	理論研究、調査研究、実験研究の違い
第 2 回	言語学文献研究	ビブリオ・バトル
第 3 回	図書館ガイダンス (日程変更の可能性、大)	文献検索の仕方など
第 4 回	4 年生の卒論テーマ発表	問い+研究方法の発表
第 5 回	4 年生以外の「疑問」の発表	問いへのコメント、そして研究方法についてのヘルプを求める
第 6 回	論文の導入	基本概念、および全体としての問い
第 7 回	実験 1 の設計	刺激のカウンターバランス・デザインでの 2 分割、フィラー
第 8 回	実験 1 の結果 (準備編 1)	統計分析の必要性
第 9 回	実験 1 の結果 (準備編 2)	t 検定 (を外から眺める)
第 10 回	実験 1 の結果と解釈	主語の形の効果となぜ言えるか、そして、それをどう解釈すべきか
第 11 回	実験 1 の再現に向けて (その 1)	刺激設計
第 12 回	実験 1 の再現に向けて (その 2)	実験スクリプト設計
第 13 回	実験 1 の再現実験の結果の分析	t 検定の場合の結果の加工 (と、より進んだ分析方法)
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Hirose, Y. 2000. The role of constituent length in resolving reanalysis ambiguity. In Otsu, Y. ed., *The Proc. of the 1st Tokyo Conference on Psycholinguistics*. Tokyo: Hituzi Syobo, pp. 55 - 74.

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

発表点 40 %

take-home exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の関心を大切にすると同時に、皆で一緒に作業する機会も設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。
事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

原則として「言語学演習 (1) B」と連続履修してください。

また、大学院修士科目「言語科学方法論 A」の並行履修を、強く強く推奨します。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic experiments by reading a research paper on phonological effects on syntactic parsing on the one hand, and by conducting small experiments on the other.

(Learning Objectives) To acquire some general knowledge of experimental research (as well as an idea of what phonological and syntactic aspects have typically attracted researchers' attention).

(Learning activities outside of classroom) To prepare for presentations; to conduct small experiments.

(Grading Criteria /Policy) Participation (40%); presentations (40%); take-home exam (20%)

LIN300BD

言語学演習 (1) B

石川 潔

授業コード：A2940 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

黙読していても頭の中で音が鳴っちゃう……という話があるけど、本当？
そういう話を実験で調べた論文を読み、実験研究のやり方を学びます。
また、音声分析の実習もする予定です。

【到達目標】

実験研究のやり方の入門レベルの知識を身につける。
音韻・統語論の知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の卒論計画の発表、文献の輪読、音声分析実習を行います (一部、講義あり)。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインです。それぞれの発表にはコメントを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期の復習、および秋学期の全体の準備
第 2 回	卒論中間発表/テーマ発表	4 年生による発表
第 3 回	実験 2	実験 2 の結果による実験 1 の解釈
第 4 回	プロソディの構造	accent, downstep, minor phrase, major phrase
第 5 回	プロソディの視覚化と分析	パソコン上での実習
第 6 回	実験 3 (その 1)	全体の設計
第 7 回	実験 3 (その 2)	結果 (ピッチ)
第 8 回	実験 3 (その 3)	結果 (休止の時間長)
第 9 回	プロソディと統語論との関係	major phrase と maximal projection の関係、長さ効果
第 10 回	統語解析におけるプロソディ手がかり	explicit and implicit prosody
第 11 回	全体の結論	長さ効果による implicit prosody の違いが、統語解析にもたらす効果
第 12 回	4 年生の卒論のための時間	卒論のための実験の実施
第 13 回	言語学文献研究	ビプリオ・バトル
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Hirose, Y. 2000. The role of constituent length in resolving reanalysis ambiguity. In Otsu, Y. ed., *The Proc. of the 1st Tokyo Conference on Psycholinguistics*. Tokyo: Hituzi Syobo, pp. 55 - 74.

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

発表・実習参加点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の関心を大切にすると同時に、皆で一緒に作業する機会も設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

原則として「言語学演習 (1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic experiments by reading a research paper on phonological effects on syntactic parsing, as well as a very introductory speech analysis.

(Learning Objectives) To acquire some general knowledge of experimental research (as well as an idea of what phonological and syntactic aspects have typically attracted researchers' attention).

(Learning activities outside of classroom) To prepare for presentations.

(Grading Criteria /Policy) Participation (50%); presentations (50%)

LIT300BD

言語学演習 (2) A

川崎 貴子

授業コード：A2941 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人が知らず知らずのうちにやっている言語処理や言語習得を、身近な事例を通して学びます。言語学・言語習得に関する論文を読み、発表することにより、言語学・言語習得の分野の研究手法を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。自らの研究・調査内容を、十分に理解し、他者に分かりやすく提示する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによってはゼミ学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明・自己紹介
第 2 回	テーマ紹介	自己紹介プレゼン・研究テーマ紹介
第 3 回	音声による言語処理 (1)	音声・音韻論についての基本講義
第 4 回	音声による言語処理 (2)	音声・音韻論と言語処理について一論文発表 (1)
第 5 回	音声による言語処理 (3)	音声・音韻論と言語処理について一論文発表 (2)
第 6 回	第二言語と音声コミュニケーション (1)	学生による発表 (L2 と音声コミュニケーション) (1)
第 7 回	第二言語と音声コミュニケーション (2)	学生による発表 (L2 と音声コミュニケーション) (2)
第 8 回	第二言語と音声コミュニケーション (3)	学生による発表 (L2 と音声コミュニケーション) (3)
第 9 回	言語学文献研究 1	ビブリオバトル 1
第 10 回	言語学文献研究 2	ビブリオバトル 2
第 11 回	グループ発表準備	選択した論文のポスター発表準備
第 12 回	グループごとのポスター発表	選択した論文のポスター発表準備
第 13 回	卒論テーマ発表 1	4 年生による卒論テーマ発表
第 14 回	卒論テーマ発表 2	4 年生による卒論テーマ発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

-発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。(自己紹介を除く。)

-授業で指示される文献を読んできていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・30%

課題・・・40%

●遅刻・欠席は必ずメールにてご連絡ください。

●事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍で対面でのグループワークが少なかったことが残念でした。今年度、活発にグループ内議論ができるよう、工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・ゼミ生 (演習受講生) は授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。

・原則として、所属生のみ履修可です。

・言語学演習 (2) B と連続して履修して下さい。

【Outline (in English)】

Outline: This course aims to introduce research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will develop the ability to analyze linguistic phenomena and present their research to others.

Students are required to study for at least four hours outside of the classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 30%

Assignments: 40%

LIT300BD

言語学演習 (2) B

川崎 貴子

授業コード：A2942 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and present the contents of their own research to others.

Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 30%

Assignments: . . . 40%

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第二言語音韻習得・言語心理学を学びます。また、日常の言語現象を取り上げ、理論的に考えていきます。

【到達目標】

日常の様々な言語データを分析的に見る力を養い、卒業論文につながるテーマを見つけることを目標とします。目的・方法・結果・分析・結論という、論文の構成を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、日常の言語現象を分析することを通じて、第二言語習得・音韻論・言語処理の基礎を学び、研究テーマを見つけていただくと考えております。学生の発表、グループディスカッションを通して、それぞれの履修者が新たな問いを発見してくれればと思います。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L 2 音韻習得 (1)	L 2 音韻習得についての導入
第 2 回	L 2 音韻習得 (2)	L 2 音韻習得についての文献調査
第 3 回	語彙記憶の調査 (1)	語彙知識の測定方法の先行研究 1
第 4 回	語彙記憶の調査 (2)	語彙知識の測定方法の先行研究 2
第 5 回	身の回りの音声イメージ	音象徴 (音とイメージ)
第 6 回	聴覚・視覚・記憶 (1)	3 年生による発表 1
第 7 回	聴覚・視覚・記憶 (2)	3 年生による発表 2
第 8 回	聴覚・視覚・記憶 (3)	3 年生による発表 3
第 9 回	卒論発表 1	4 年生による研究発表 (1 週目)
第 10 回	卒論発表 2	4 年生による研究発表 (2 週目)
第 11 回	教員の研究発表	担当教員による研究発表
第 12 回	グループ研究の発表 (1)	グループ研究のリハーサル・フィードバック
第 13 回	グループ研究の発表 (2)	グループ研究
第 14 回	第二言語習得	音韻の L 2 習得・教育への応用

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。担当者は発表の資料を作成する必要があります。

- 毎回、授業で指示される文献を読んできて、議論に参加していただきたいと思ひます。

- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業で使用する論文などは、学習支援システムにアップロードする予定です。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献 . . . 30%

授業内発表 . . . 30%

授業内課題 . . . 40%

といたします。

遅刻・欠席の連絡は必ずお願いします。

事前に連絡無く 3 回を超えて欠席があった場合には D 評価といたします。

【学生の意見等からの気づき】

発表のリハーサル・修正を行う回が好評であったので、引き続き、そのような機会を設けてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

原則として、春学期の言語学演習 (2) A と継続して履修して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

LIT300BD

英米文学演習 (1) A

宮川 雅

授業コード：A2943 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカ小説研究
半期で読める中篇小説を精読する。今期は、Paul Auster (1947 —) の *Ghosts*(1986) を読む。中篇小説を丁寧に精読しながら、分析・解釈の具体的な方法を学ぶことを目的とする。英語の読解・注釈作業をとおして論理的思考やリサーチ能力を高め、説得力のあるプレゼンテーションと質疑応答の能力を身につける。

【到達目標】

抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、①一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる ②読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることが面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

初版のプリントを使用して過去の研究や批評にも目を向けながら読む。授業はレポーター制の演習形式で展開するが、いっばうで分析や解釈のポイントないし主題について考えながら読み進める (各回のテーマを参照)。レポーターは、①《梗概 (要約)》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べる必要がある。レポーター担当の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	注釈から批評行為へ	歴史的な概説と文学史的評価など/参考文献紹介/レポーター割り振り
第 2 回	論証と精読とリサーチ	レポーターによる発表および意見交換 ①
第 3 回	作品分析——テキスト	レポーターによる発表および意見交換 ②
第 4 回	作品分析——ストーリーとプロット	レポーターによる発表および意見交換 ③
第 5 回	作品分析——登場人物 (キャラクター、ピープル)	レポーターによる発表および意見交換 ④
第 6 回	作品分析——比喩、イメージ、象徴	レポーターによる発表および意見交換 ⑤
第 7 回	作品分析——視点と語り	レポーターによる発表および意見交換 ⑥
第 8 回	作品分析——ストーリーとフレーム	レポーターによる発表および意見交換 ⑦
第 9 回	作品解釈——歴史的コンテキスト	レポーターによる発表および意見交換 ⑧
第 10 回	作品解釈——キャラクター	レポーターによる発表および意見交換 ⑨
第 11 回	作品解釈——語り	レポーターによる発表および意見交換 ⑩
第 12 回	作品解釈——視点	レポーターによる発表および意見交換 ⑪
第 13 回	作品解釈——象徴主義	レポーターによる発表および意見交換 ⑫
第 14 回	まとめ	レポーターによる発表および意見交換 ⑬

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等については必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。

翻訳を参考にしてかまわないが、演習各回ではあくまでテキスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。逆に、翻訳の限界というか、ミスリーディング misleading/misreading 問題についても考えてみたい。

作品と関係するアメリカン・ルネサンスの作家たちの作品を積極的に読む。

【テキスト (教科書)】

Paul Auster, *Ghosts*. プリントを配布。

【参考書】

渡辺利雄『講義アメリカ文学史』第3巻 研究社,2007 年
飯野友幸ほか『ポール・オースター』 彩流社, 現代作家ガイド1, 増補改訂版 2013 年
その他、折にふれて教室で提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポーター発表 (内容及びプレゼンテーションに対する評価) 40 パーセント
授業への積極的参加度 (予習と参加の度合い) 20 パーセント
期末ペーパー (試験に代替する可能性もある) 40 パーセント
以上の合計を百分法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生がさばらぬようにきちんと指導する。学生の積極的参加と議論を促す工夫をする。

【Outline (in English)】

Close reading of Paul Auster's novella, *Ghosts*(1986). Use research to deepen understanding text and to develop analytical thinking that demonstrate the connections between the primary and secondary sources.

LIT300BD

英米文学演習 (1) B

宮川 雅

授業コード：A2944 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの中篇小説を読む

- (1) レポーター制による発表・質疑応答により、
 - ①英文テキストを分析・解釈する営みを身につけるとともに、
 - ②読んだ内容・情報を自らのことばでまとめる能力を養い、
 - ③論理的思考力を養う。
- (2) レポーター以外も積極的に予習をして、
 - ④辞書を丁寧に引く習慣を身につけるとともに、
 - ⑤議論に参加する積極性を養う。
- (3) アメリカ作家とその作品について知識を得る。

【到達目標】

- 抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
- (2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。

具体的には、①アメリカ短篇小説の歴史と特徴についてある程度の知識を得る ②19世紀後半から現代の代表的なアメリカ短篇作家の作品について、アメリカ文学・文化における位置づけとともに理解している ③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる ④読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べたことを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

1 回 1 章（以上）を原則に読む。授業はレポーター制の演習形式で展開する。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べる必要がある。担当作品の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。

リアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ウィラ・キャザーと彼女の小説理論について／参考文献紹介／レポーター割り振り／プリント配布
第 2 回	Part One, Chapters 1 & 2	時代背景／レポーターによる発表および意見交換①〔教員がレポーター役を務める〕
第 3 回	Part One, Chapters 3 & 4	語りのスタイル／レポーターによる発表および意見交換②〔教員がレポーター役を務める〕
第 4 回	Part One, Chapter 5	自然主義と印象主義／レポーターによる発表および意見交換③
第 5 回	Part One, Chapter 6	シンボリズム／レポーターによる発表および意見交換④
第 6 回	Part One, Chapter 7	showing と telling /レポーターによる発表および意見交換⑤
第 7 回	Part One, Chapter 8	心理学的洞察／レポーターによる発表および意見交換⑥
第 8 回	Part One, Chapter 9	レポーターによる発表および意見交換⑦
第 9 回	Part Two, Chapters 1 & 2	レポーターによる発表および意見交換⑧
第 10 回	Part Two, Chapters 3 & 4	レポーターによる発表および意見交換⑨
第 11 回	Part Two, Chapters 5 & 6	レポーターによる発表および意見交換⑩
第 12 回	Part Two, Chapters 7 & 8	レポーターによる発表および意見交換⑪
第 13 回	Part Two, Chapter 9	レポーターによる発表および意見交換⑫
第 14 回	全体の議論	まとめとミニテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。

翻訳を参考にしてみたいが、演習各回ではあくまでテキスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ネブラスカ大学出版の Willa Cather Scholarly Edition を使用する。Willa Cather, [Historical Essay by Susan J. Rosowski; Explanatory Notes by Kari A. Ronning; Textual Editing by Charles W. Mignon & Frederick M. Link] (Lincoln: University of Nebraska Press, 1997).

【参考書】

ウェイン・ブース、米本弘一ほか訳『フィクションの修辞学』（水声社、1991）
E・M・フォスター『小説の諸相』（みすず書房、新潮文庫、ダビッド社ほか）
佐藤宏子『キャザー——美の祭司』（冬樹社、1977）
その他、教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価）40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い）20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある）40 パーセント
以上の合計を百分法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生がさぼらぬようにきちんと指導する。

【Outline (in English)】

Close reading of *A Lost Lady*, a novella by Willa Cather. Students will also examine literary and psychological theories to analyze and interpret the tale.

LIT300BD

英米文学演習 (3) A

迫 桂

授業コード：A2947 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界各地で人口高齢化に対する社会的関心が高まっていますが、文学・文学研究においても、ageing が関心を集めています。ageing は、「老年期 (old age)」を指すだけではありません。より広義には、人が生きる時間、つまり、「ライフコース (life course)」を含めて考えることができます。文学・文化テクニクスは、我々がライフコースをどのように解釈・理解し、経験するかに大きな影響をもちえます。

本授業では、1980 年代以降に (主に英語で) 発表された小説・短編・映画作品を読み、これらの作品がライフコースをいかに描いているか、ライフコースについてどのような示唆を含んでいるかを考えます。特に、子ども時代や思春期を探究する作品に注目します。例えば、児童文学は、子どもについての文化的概念をどのように反映しているのでしょうか。子供について書かれた大人向けの作品との違いはあるのでしょうか。人工知能をもった「子ども」は、我々が「人間の子ども」について抱くイメージをどのように問い直すのでしょうか。

授業では、ライフコースについての基本的な文化・学術的視点や議論を学びつつ、社会文化的背景を考慮しながら作品を読みます。

授業では英語の文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、形式面、ジャンル、歴史文化的文脈を考慮することができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。
4. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション (クラスまたはグループ単位)、グループ・個人での発表を組み合わせます。

講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介し、ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。個人・グループの発表では、テキスト分析と解釈を発表してもらう予定です。各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。(詳細は下記【授業時間外の学習】を参照)。

一部の作品について、800 字程度のレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序：文学とライフコース	ライフコースについて考える
第 2 回	文学と子ども	短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第 3 回	児童文学 作品：Roald Dahl, <i>Matilda</i> (1988)	児童文学、「子ども」論
第 4 回	児童文学 作品：Roald Dahl, <i>Matilda</i> (1988)	作品についてディスカッションを行う。
第 5 回	大人に向けた子どものお話 (?) Ewan McEwan, <i>The Daydreamer</i>	<i>Matilda</i> との比較。子ども観におけるジェンダー。
第 6 回	大人に向けた子どものお話 (?) Ewan McEwan, <i>The Daydreamer</i>	作品についてディスカッションを行う。
第 7 回	思春期 作品：Beryl Bainbridge, "Perhaps you should talk to someone" (1994)	思春期の子ども大人の像について考える
第 8 回	"Growing up" 作品 (映)：Richard Linklater (dir.) <i>Boyhood</i> (2014)	growing up の物語と映画という媒体の特性を考える。

第 9 回	"Growing up" 作品 (映)：Bo Burnham (dir.) <i>Eighth Grade</i> (2018)	growing up の物語と映画という媒体の特性を考える。
第 10 回	ポストヒューマニズムと子ども 作品：Kazuo Ishiguro, <i>Klara and the Sun</i> (2021)	SF ジャンルの特性、ポストヒューマニズムの基本的な思想について学び、それらを踏まえて子どもについて考える。
第 11 回	ポストヒューマニズムと子ども 作品：Kazuo Ishiguro, <i>Klara and the Sun</i> (2021)	作品についてディスカッションを行う。
第 12 回	児童絵本、文化、子ども観	日英の児童絵本を数点ずつ紹介する。絵本の特性、子ども観の文化的側面を考察する。
第 13 回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第 14 回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。

(目安：作品を読む・視聴する時間 + 1-2 時間)

1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語の翻訳があるので、翻訳を読んでも構いません。短編作品は日本語の翻訳がない場合があります。映画作品は、日本語字幕付きで視聴しても構いません。但し、授業内で参照するのは英語版です。
2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。
3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べろ。
4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書いておく。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト (教科書)】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品については、なるべく紙媒体の英語版を購入してください。

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法

平常点：

①ワークシート、ディスカッションへの参加度：50%

授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。

②授業内期末試験：50%

作品を読み (視聴し)、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートは大変だが有益、グループ・クラス単位でのディスカッションがよい、というフィードバックがありました。学生の負担が過度にならないように配慮しつつ、これらを上手く授業に取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解があることが望ましいと思います。

【Outline (in English)】

As populations age globally, there has been a growing social and scholarly interest in ageing. Ageing does not simply mean 'old age', however. More broadly, it concerns the life course as an experience of/in time. And cultural and literary narratives contribute to, and are a significant part of, the cultural discourse of the life course.

Reading selected texts from the UK that are published since the 1980s, we will consider how they explore the life course and help us to reconsider our conceptions of it. We will learn key cultural and scholarly perspectives on and debates about the life course and analyse the texts in close relation to social and cultural contexts.

Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures.

Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

- After the class discussion, students will be required to submit a response paper (approx. 800 characters).

Final grades will be decided on the following:
In-class participation & contribution (50%) and in-class term-end
examination (50%).

LIT300BD

英米文学演習 (3) B

迫 桂

授業コード：A2948 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界各地で人口高齢化に対する社会的関心が高まっていますが、文学・文学研究においても、ageing が関心を集めています。ただし、ageing は、「老年期 (old age)」を指すだけではありません。より広義には、人が生きる時間、つまり、「ライフコース (life course)」を含めて考えることができます。文学・文化テキストは、我々がライフコースをどのように解釈・理解し、経験するかに大きな影響をもちえます。

本授業では、1980 年代以降に (主にイギリスで) 発表された小説・短編・映画作品を読み、これらの作品がライフコースをいかに描いているか、ライフコースについてどのような示唆を含んでいるかを考えます。特に、adulthood 以降のライフステージやライフステージ全体を考えさせる作品に注目します。

授業では、ライフコースについての基本的な文化・学術的視点と議論を学びつつ、社会的背景を考慮しながら作品を読みます。

授業ではイギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、形式面、ジャンル、歴史文化的文脈を考慮することができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。
4. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション (クラスまたはグループ単位)、グループ・個人での発表を組み合わせます。

講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介し、ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。

個人・グループの発表では、テキスト分析と解釈を発表してもらう予定です。

各学生は、ディスカッションの前に作品を読み・視聴しておくことが必要になります。(詳細は下記【授業時間外の学習】を参照)。

一部の作品について、800 字程度のレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序：文学とライフコース	ライフコースについて考える
第 2 回	文学とエイジング 作品：Julian Barnes, "A Short History of Hairdressing" (1994)	短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第 3 回	文学とエイジング 作品：Hilary Mantel, "Learning to Talk" (1987)	短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第 4 回	女性のライフコース 作品：Anita Brookner, <i>Hovel du Lac</i> (1984)	女性にとっての仕事、結婚、自立について考える。
第 5 回	女性のライフコース 作品：Anita Brookner, <i>Hovel du Lac</i> (1984)	作品についてディスカッションを行う。
第 6 回	ライフコース、世代の時間、ポストモダンの語り 作品：Kate Atkinson, <i>Behind the Scenes of the Museum</i> (1996)	アイデンティティ、家族の歴史、記憶、ポストモダニズムについて考える
第 7 回	ライフコース、世代の時間、ポストモダンの語り 作品：Kate Atkinson, <i>Behind the Scenes of the Museum</i> (1996)	作品についてディスカッションを行う。
第 8 回	旅する中年女性 映画作品 (例)：Under the Tuscan Sun (2003), Eat, Pray, Love (2010), Letters to Juliet (2010)	女性にとっての「中年 (midlife)」、旅、映画という媒体の特性について考える

第 9 回 旅する中年女性 女性にとっての「中年 (midlife)」、旅、映画作品 (例)：Under the Tuscan Sun (2003), Eat, Pray, Love (2010), Letters to Juliet (2010)

第 10 回 老年期、環境、人間の時間 老年期についての文化観や学術的視点、ポストヒューマニズムの基本的な思想を学ぶ
作品：Margaret Drabble, *The Dark Flood Rises* (2016)

第 11 回 老年期、環境、人間の時間 作品についてディスカッションを行う。
作品：Margaret Drabble, *The Dark Flood Rises* (2016)

第 12 回 グラフィック・フィクション、人間の時間、地球の時間 Richard McGuire, *Here* (2014) を紹介する。グラフィック・フィクションが人間と環境の関係性をいかに描きうるかという問いを提起する。

第 13 回 復習と授業内期末試験 学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。

第 14 回 まとめとフィードバック 授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。

(目安：作品を読む・視聴する時間 + 1-2 時間)

1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説・短編作品は日本語の翻訳があるので、翻訳を読んでも構いません。映画作品は、日本語字幕付きで視聴しても構いません。但し、授業内で参照するのは英語版です。

2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。

3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。

4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書いておく。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト (教科書)】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品については、なるべく紙媒体の英語版を購入してください。

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法

平常点：

①ワークシート、ディスカッションへの参加度：50 %

授業準備ができているか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。

②授業内期末試験：50 %

作品を読み (視聴し)、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートは大変だが高、グループ・クラス単位でのディスカッションがよい、というフィードバックがありました。学生の負担が過度にならないように配慮しつつ、これらを上手く授業に取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解があることが望ましいと思います。

【Outline (in English)】

As populations age globally, there has been a growing social and scholarly interest in ageing. Ageing does not simply mean 'old age', however. More broadly, it concerns the life course as an experience of/in time. And cultural and literary narratives contribute to, and are a significant part of, the cultural discourse of the life course.

Reading selected texts from the UK that are published since the 1980s, we will consider how they explore the life course and help us to reconsider our conceptions of it. We will learn key cultural and scholarly perspectives on and debates about the life course and analyse the texts in close relation to social and cultural contexts.

Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures.

Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.
 - After the class discussion, students will be required to submit a response paper (approx. 800 characters).
- Final grades will be decided on the following:
In-class participation & contribution (50%) and in-class term-end examination (50%).

LIT300BD

英米文学演習 (5) A

小島 尚人

授業コード：A2951 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。春学期は、1960年代以降の SF・ファンタジーの新時代を切りひらいた Ursula K. Le Guin の代表作のひとつ *The Left Hand of Darkness* (1969) を一学期かけて読破する。そのうえで関連するテーマを扱った SF 映画を視聴し、比較して分析する。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・『闇の左手』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- ・アーシュラ・K・ルグインの生涯と作品、時代背景、米国 SF 小説史の概略を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメントーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	顔合わせ・自己紹介のあと、授業の進め方と発表の仕方を説明し、発表の分担を決定する
第 2 回	米国 SF 小説史概説講義	第二次大戦後の米国社会と SF 小説の関わり、および SF 小説史・米文学史におけるルグイン作品の新しさについての概説講義
第 3 回	思考実験としての SF —可能性を発明し、世界を書き換える	短篇 "The Ones Who Walk Away from Omelas" を読んでディスカッション
第 4 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解①——書き出しの分析、語りの特徴	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 5 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解②——〈ハイニッシュ・ユニバーズ〉の世界観	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 6 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解③——語り手の異文化観察、文化人類学的視点	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 7 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解④——両性具有の社会を描くこと	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 8 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解⑤——「冬の星」とフロンティア	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 9 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解⑥——愛の物語	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説

第 10 回	<i>The Left Hand of Darkness</i> 読解⑦——結末の分析	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 11 回	関連映像作品の視聴	<i>The Left Hand of Darkness</i> の内容に関連する SF 映画作品を視聴する
第 12 回	日本語論文の読解	<i>The Left Hand of Darkness</i> について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 13 回	英語論文の読解	<i>The Left Hand of Darkness</i> について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく (予習 4 時間以上)。授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト (教科書)】

Ursula K. Le Guin, *The Left Hand of Darkness*. Penguin Books, 2016. ISBN: 978-0143111597.

【参考書】

【作者と作品の紹介】

諏訪部浩一『薄れゆく境界線 現代アメリカ小説探訪』(講談社、2022 年)
 「アーシュラ・K・ルグインの世界——1929-2018」『ユリイカ』2018 年 5 月号 (青土社、2018 年)

【SF 小説史、ジャンル論】

ジャック・サドゥール『現代 SF の歴史』鹿島茂・鈴木秀治訳 (早川書房、1984 年)
 バトリック・バリンダー『SF 稼働する白昼夢』大橋洋一訳 (朝草書房、1985 年)

フレドリック・ジェイムソン『未来の考古学 ユートピアという名の欲望』秦邦生訳 (作品社、2011 年)

森下仁『思考する物語 SF の原理・歴史・主題』(東京創元社、2000 年)
 Hartwell, David G. *Age of Wonders: Exploring the World of Science Fiction*. Walker & Co., 1985.

Rieder, John. *Science Fiction and the Mass Cultural Genre System*. Wesleyan UP, 2017.

Vandermeer, Ann, and Jeff Vandermeer, editors. *The Big Book of Science Fiction: The Ultimate Collection*. Vitage Books, 2016.

【アメリカ文学・文化研究の手引き】

諏訪部浩一 (編)『アメリカ文学入門』(三修社、2013 年)
 杉野健太郎 (編)『アメリカ文化入門』(三修社、2010 年)
 竹内里矢・山本洋平 (編)『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』(ミネルヴァ書房、2021 年)
 巽孝之・宇沢美子 (編)『よくわかるアメリカ文化史』(ミネルヴァ書房、2020 年) ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への貢献度 (ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか) : 30 %
- ・プレゼンテーション (担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか) : 30 %
- ・4000 字程度の期末レポート (自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する) : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】

秋学期に英米文学演習 (5) B を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *The Left Hand of Darkness* and some related sci-fi movies, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 2) Final paper (40%)

LIT300BD

英米文学演習 (5) B

小島 尚人

授業コード：A2952 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。秋学期は、第二次大戦後の現代ゴシック作家 Shirley Jackson の代表作で、Stephen King が「過去百年の怪奇小説の中で最もすばらしい」と絶賛した古典的名作 *The Haunting of Hill House* (1959) を一学期かけて読破する。そのうえで映画版も視聴し、比較して分析する。

【到達目標】

- 作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- 他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- 自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- 自分の解釈を論理的に記述することができる。
- 多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- 『丘の屋敷』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- シャーリー・ジャクソンの生涯と作品、時代背景、アメリカにおけるゴシック小説の系譜の概略を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこなない、担当コメントターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。

発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／卒業論文中間発表会	授業内容の確認と発表分担者の決定決定のち、4 年生による卒論テーマ、章立て、概要についてのプレゼンテーション
第 2 回	アメリカ小説ブックトーク／作者と作品の紹介	3 年生によるブックトーク（夏休みに読んだおススメ作品の紹介）のち、シャーリー・ジャクソンとその作品について学ぶ
第 3 回	「アメリカ文学とゴシック」概説講義	アメリカにおけるゴシック文学の系譜の概略を学び、代表的作家を知るとともに、ジャクソンの作品読解に役立てる
第 4 回	<i>The Haunting of Hill House</i> 読解①——書き出しの分析、語り手と文体	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 5 回	<i>The Haunting of Hill House</i> 読解②——エレナの孤独	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 6 回	<i>The Haunting of Hill House</i> 読解③——母と娘	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 7 回	映画と小説の比較分析①	映画『たたり』（1963 年）の前半部を視聴してディスカッション
第 8 回	<i>The Haunting of Hill House</i> 読解④——ドッペルゲンガー	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 9 回	<i>The Haunting of Hill House</i> 読解⑤——屋敷と人間の精神	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説

第 10 回	<i>The Haunting of Hill House</i> 読解⑥——結末の解釈	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 11 回	映画と小説の比較分析②	映画『たたり』（1963 年）の後半部を視聴してディスカッション
第 12 回	関連作品の読解	Henry James, "The Turn of the Screw" を読んでディスカッション
第 13 回	批評文献の読解	<i>The Haunting of Hill House</i> について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】

Shirley Jackson, *The Haunting of Hill House*. Penguin Classics, 2009. ISBN: 978-0141191447.

【参考書】

【作者と作品の紹介】

諏訪部浩一『薄れゆく境界線 現代アメリカ小説探訪』（講談社、2022 年）
Ruth Franklin, *Shirley Jackson: A Rather Haunted Life* (Norton, 2016)
【ゴシック小説史、ジャンル論（米国のものを中心に）】
八木敏雄『アメリカン・ゴシックの水脈』（研究社出版、1992 年）
ドナルド・A・リンジ『アメリカ・ゴシック小説—19 世紀小説における想像力と理性』古宮照雄・小澤健志・谷岡朗・小泉和弘訳（松柏社、2005 年）
唐戸信嘉『ゴシックの解剖 暗黒の美学』（青土社、2020 年）
ロジャー・ラックハースト『[ヴィジュアル版]ゴシック全書』巽孝之監修、大槻敦子訳（原書房、2022 年）

【アメリカ文学・文化研究の手引き】

諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
竹内里矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021 年）
巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020 年）
ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献度（ちゃんと予習ができていないか、討議に積極的に参加しているか）：30 %
・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30 %
・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつけられるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】

春学期に英米文学演習 (5) A を履修しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *The Haunting of Hill House* as well as its film adaptation, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 2) Final paper (40%)

LIT300BD

英米文学演習 (6) A

小澤 央

授業コード：A2953 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、Mary Shelley の *Frankenstein* (1818, rev. 1831) を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。映画や先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みるのが目的である。

【到達目標】

- ・ *Frankenstein* を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 作品が扱う今日的テーマについて議論できる
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第 2 回	Shelley の生涯についての映画 (1)	前半の鑑賞と議論
第 3 回	Shelley の生涯についての映画 (2)	後半の鑑賞と議論
第 4 回	<i>Frankenstein</i> (1)	作品を 9 等分した場合の第 1 部の発表と議論
第 5 回	<i>Frankenstein</i> (2)	第 2 部の発表と議論
第 6 回	<i>Frankenstein</i> (3)	第 3 部の発表と議論
第 7 回	<i>Frankenstein</i> (4)	第 4 部の発表と議論
第 8 回	<i>Frankenstein</i> (5)	第 5 部の発表と議論
第 9 回	<i>Frankenstein</i> (6)	第 6 部の発表と議論
第 10 回	<i>Frankenstein</i> (7)	第 7 部の発表と議論
第 11 回	<i>Frankenstein</i> (8)	第 8 部の発表と議論
第 12 回	<i>Frankenstein</i> (9)	第 9 部の発表と議論
第 13 回	先行研究のレビュー	<i>Frankenstein</i> の批評に関する発表と議論
第 14 回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Mary Shelley, *Frankenstein*, ed. Maurice Hindle, Penguin Classics, 2003.

【参考書】

- ・ シュリー著、『フランケンシュタイン』、小林章夫訳、光文社新訳文庫、2010 年
- ・ 廣野由美子著、『批評理論入門——『フランケンシュタイン』解剖講義』、中公新書、2005 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 議論への貢献度：30%
- ・ 発表：30%
- ・ 期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に 3 分の 2 以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20 分以上の遅刻は欠席と見なす）。

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read Mary Shelley's *Frankenstein* (1818, rev. 1831) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also refers to films and studies on the author and her work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD

英米文学演習 (6) B

小澤 央

授業コード：A2954 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、William Golding の *Lord of the Flies* (1954) を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみなで議論する。映画や先行研究も参考にする。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みるのが目的である。

【到達目標】

- ・ *Lord of the Flies* を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 作品が扱う今日的テーマについて議論できる
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、長編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当を決め、その発表に基づいてみなで議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第 2 回	<i>Lord of the Flies</i> (1)	第 1, 2 章の発表と議論
第 3 回	<i>Lord of the Flies</i> (2)	第 3, 4 章の発表と議論
第 4 回	<i>Lord of the Flies</i> (3)	第 5, 6 章の発表と議論
第 5 回	<i>Lord of the Flies</i> (4)	第 7, 8 章の発表と議論
第 6 回	<i>Lord of the Flies</i> (5)	第 9, 10 章の発表と議論
第 7 回	<i>Lord of the Flies</i> (6)	第 11, 12 章の発表と議論
第 8 回	<i>Lord of the Flies</i> の 翻案映画 (1)	前半の鑑賞と議論
第 9 回	<i>Lord of the Flies</i> の 翻案映画 (2)	後半の鑑賞と議論
第 10 回	先行研究のレビュー (1)	<i>Lord of the Flies</i> の批評 (日本語) に関する発表と議論
第 11 回	先行研究のレビュー (2)	<i>Lord of the Flies</i> の批評 (英語) に関する発表と議論
第 12 回	先行研究のレビュー (3)	Golding の批評に関する発表と議論
第 13 回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い
第 14 回	今年度のまとめ	通年の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

William Golding, *Lord of the Flies*, Penguin Classics, 2006.

【参考書】

- ・ ゴールディング著、『蠅の王 [新訳版]』、黒原敏行訳、ハヤカワ epi 文庫、2017 年
- ・ 吉田徹夫、宮原一成編、『ウィリアム・ゴールドディングの視線——その作品世界』、開文社出版、1998 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 議論への貢献度：30%
- ・ 発表：30%
- ・ 期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に 3 分の 2 以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する (20 分以上の遅刻は欠席と見なす)。

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read William Golding's *Lord of the Flies* (1954) and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also refers to films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

LIT300BD

英米文学演習 (8) A

山崎 暁子

授業コード：A2957 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語で書かれた様々な小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現について学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

“the other side” をキーワードとして、様々な小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編 (または抜粋) を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、A. A. Milne, Mary Norton, Lucy Maud Montgomery, Agatha Christie の作品を扱う。授業では 1～2 回にわたって 1 つの作品を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。期末レポートはコメントをつけて返却する。対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する
第 2 回	ブレインストーミング	キーワード“the other side”についてディスカッション
第 3 回	イングランドの昔話 — 昔話の英語と物語の特徴	妖精が登場する 2 編の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの児童文学作家 ① (1) — 20 世紀初頭の子供像	A. A. Milne, <i>Winnie-the-Pooh</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの児童文学作家 ① (2) — 散文と韻文	A. A. Milne, <i>Winnie-the-Pooh</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 6 回	イギリスの児童文学作家 ② (1) — 枠物語	Mary Norton, <i>The Borrowers</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 7 回	イギリスの児童文学作家 ② (2) — 第二次世界大戦後のイギリス	Mary Norton, <i>The Borrowers</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 8 回	翻訳 (1) — 第 3～7 回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 9 回	カナダの作家 (1) — 20 世紀初頭のカナダ	Lucy Maud Montgomery, “Aunt Cynthia’s Persian Cat” 前半の発表とディスカッション
第 10 回	カナダの作家 (2) — キリスト教的価値観	Lucy Maud Montgomery, “Aunt Cynthia’s Persian Cat” 後半の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの推理小説作家 (1) — 20 世紀前半のイギリス	Agatha Christie, “Wireless”前半の発表とディスカッション
第 12 回	イギリスの推理小説作家 (2) — 伏線的作用	Agatha Christie, “Wireless”後半の発表とディスカッション
第 13 回	翻訳 (2) — 第 9～12 回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	春学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで、掲示板上のディスカッションに参加する。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。
 石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社 2014 年
 諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社 2013 年
 ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社 2016 年
 Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
 桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007 年

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と参加の割合 30 %、発表または司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り対面のディスカッションを継続し、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。
 学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届く。必要に応じて個別に連絡することもあるので、メールは随時チェックすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories (or chapters) in English that can be related to “the other side” and translate some passages into Japanese.

【Learning objectives】

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

LIT300BD

英米文学演習 (8) B

山崎 暁子

授業コード：A2958 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語で書かれた様々な小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

“the other side”をキーワードとして、様々な小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編 (または抜粋) を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Margaret Mahy, Joan G. Robinson, Oscar Wilde, Ursula K. Le Guin, Diana Wynne Jones, Janet Frame の作品を扱う。

授業では 1～2 回にわたって 1 つの作品を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。

期末レポートにはコメントをつけて返却する。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	夏休み課題報告 (3 年生)、卒論中間報告 (4 年生)、秋学期に扱う作品の紹介
第 2 回	ニュージーランドの児童文学作家 — ストーリーテリング	Margaret Mahy, "Two Sisters" の発表とディスカッション
第 3 回	イギリスの児童文学作家 ③ (1) — 20 世紀後半の子供像	Joan G. Robinson, <i>When Marnie Was There</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの児童文学作家 ③ (2) — リアリズム	Joan G. Robinson, <i>When Marnie Was There</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 5 回	翻訳 (1) — 第 2～4 回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 6 回	イギリスの作家 (1) — 19 世紀末のイギリス	Oscar Wilde, <i>The Importance of Being Earnest</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 7 回	イギリスの作家 (2) — 言葉遊び	Oscar Wilde, <i>The Importance of Being Earnest</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 8 回	アメリカの SF 作家 — インターテクスチュアリティ	Ursula K. Le Guin, "She Unnames Them" の発表とディスカッション
第 9 回	翻訳 (2) — 第 6～8 回のテキストの一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの児童文学作家 ④ (1) — ファンタジー	Diana Wynne Jones, <i>The Lives of Christopher Chant</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの代表的児童文学作家 ④ (2) — メタフィクション	Diana Wynne Jones, <i>The Lives of Christopher Chant</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 12 回	ニュージーランドの作家 — 意識の流れ	Janet Frame, "The Last Story" の発表とディスカッション

第 13 回 翻訳 (3) — 第 10～12 回の翻訳の発表とディスカッション
回のテキストの一部を翻訳・検討

第 14 回 まとめ 秋学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで、掲示板でのディスカッションに出席する。

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。

石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社 2014 年

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社 2013 年

ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社 2016 年

Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.

桂宥子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007 年

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と参加の割合 30 %、発表または司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り対面のディスカッションを継続し、自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届く。必要に応じて個別に連絡することもあるので、メールは随時チェックすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories (or chapters) in English that can be related to "the other side" and translate some passages into Japanese.

【Learning objectives】

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

ARS300BD

英米文学演習 (9) A

利根川 真紀

授業コード：A2959 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と食」です。食べることは、誰もが毎日経験する身近な行為ですが、文学作品の中に描かれる食のあり方に着目することによって、料理の種類やおいしさだけでなく、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることができます。誰といつ何を食べるのか、また食べないのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】

- 1 扱う作家・作品について理解を深める
- 2 感想や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- 3 ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スタインベック (1902-68)、ヘミングウェイ (1899-1961)、カーヴァー (1939-88)、ラヒリ (1967-)、マラマッド (1914-86) の作品に具体的に触れ、作品が提示する世界や諸問題に理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。担当箇所を決め、学生による発表、全員での討論、教員による補足説明という形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が読んで考察する、各 5 分程度のプレゼンテーションも予定しています。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。資料持ち込みテストについては、秋学期のはじめに全体的な講評を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	小説と「食」について
第 2 回	ジョン・スタインベック "Breakfast"	夜明けにテントのわきで
第 3 回	アーネスト・ヘミングウェイ "The Battler" (前半)	貨物列車のただ乗りを見つけて
第 4 回	"The Battler" (後半)	ポケットのハム・サンドイッチ
第 5 回	レイモンド・カーヴァー "A Small, Good Thing" (前半)	少年のパスデーケーキ
第 6 回	"A Small Good Thing" (後半)	繰り返される謎の電話
第 7 回	ジュンバ・ラヒリ "Mrs Sen's" (前半)	セン夫人の家で放課後を過ごす少年
第 8 回	"Mrs Sen's" (後半)	海辺の魚を買いに行く
第 9 回	ペーパーの書き方	短い引用・長い引用・要約の練習、パラグラフ・ライティング
第 10 回	バーナード・マラマッド "The Mourners"	マンハッタンの安アパートの住人たち
第 11 回	ブックトーク (スタインベック、ヘミングウェイ、カーヴァー)	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 12 回	ブックトーク (ラヒリ、マラマッド、マッカーラーズ、ダイベック)	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 13 回	ブックトーク (ブラウン、ペンダー、オースター)	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 14 回	資料持ち込みの試験とまとめ	春学期まとめ、夏休みのペーパー課題の説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。ハンドアウトの作成方法は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。授業後にはその日の振り返りを「学習支援システム」に提出します。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組むこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、発表 (35%)、資料持ち込みテスト (35%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまじく読んでいなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of food, dining and cooking scenes. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations. Before/after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), and term-end examination (35%).

ARS300BD

英米文学演習 (9) B

利根川 真紀

授業コード：A2960 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と食」です。食べることは、誰もが毎日経験する身近な行為ですが、文学作品の中に描かれる食のあり方に着目することによって、料理の種類やおしさだけでなく、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることができます。誰といつ何を食べるのか、また食べないのかなどについて、具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】

- 1 扱う作家・作品について理解を深める
- 2 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- 3 ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
- 4 文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

マッカーラーズ (1917-67)、ダイベック (1942-)、ブラウン (1956-)、ベンダー (1969-)、オースター (1947-) の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。また、夏休みに3冊の長編作品の中から1冊を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋げます。19世紀後半のニューヨーク社交界を舞台にした恋愛小説『エイジ・オブ・イノセンス』(1920年)、青年の視点から家族の物語を回想するブロードウェイ演劇の名作『ガラスの動物園』(1944年)、12歳の少女の揺れる心理を描く南部の物語『結婚式のメンバー』(1946年)の3冊を予定しています。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、全員での討論、教員による補足説明という形で進めていきます。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	短いペーパー提出、文献検索方法	図書館データベースの使い方を学ぶ
第2回	文献検索フォローアップ、グループ分け	文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ
第3回	カーソン・マッカーラーズ "A Tree, A Rock, A Cloud"	夜明けのカフェで新聞売りの少年が
第4回	スチュアート・ダイベック "Pet Milk"	22歳の誕生日にガールフレンドと
第5回	レベッカ・ブラウン "The Gift of Hunger" (前半)	メープルシロップの贈り物
第6回	"The Gift of Hunger" (後半)	ディスプレイのスイッチを入れて
第7回	エイミー・ベンダー "Marzipan"	祖母の葬式に出されたケーキのゆくえ
第8回	卒論を書くプロセス、卒論途中経過報告	テーマの設定と全体の構成
第9回	研究論文の読み方	ゼミで扱った作品について書かれた論文を読む
第10回	ポール・オースター "Auggie Wren's Christmas Story"	街角の葉巻屋とカメラとの出会い
第11回	イーディス・ウォートン 『エイジ・オブ・イノセンス』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第12回	テネシー・ウィリアムズ 『ガラスの動物園』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第13回	カーソン・マッカーラーズ 『結婚式のメンバー』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第14回	秋学期のまとめ、書き直した長めのペーパーの提出と自己評価	小説における「食」の扱われ方、ペーパーから卒論へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。また、図書館データベースを利用しての文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのフィードバックの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備も進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、発表 (35%)、ペーパー関連 (35%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んでことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of food, dining and cooking scenes. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations and papers. Before/after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), and papers (35%).

LIN300BD

英語教育学演習 A

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2961 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	Input	What is the role of input in L2 learning?
第 3 回	Output	What is the role of output in L2 learning?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Feedback	What is the purpose of feedback in L2 learning?
第 7 回	Implicit negative feedback	What is the role of implicit negative feedback in L2 learning?
第 8 回	Prompts and recasts	What are the effects of prompts and recasts in L2 instruction?
第 9 回	Interactional feedback	Effects of the instructional environment and feedback
第 10 回	Implicit and explicit feedback	Effects of feedback on learning L2 grammar
第 11 回	Focused and unfocused feedback	Effects of focused and unfocused feedback on L2 learning
第 12 回	Oral and written feedback	Effects of oral and written feedback on L2 learning
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
 Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
 Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final Exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Grading Criteria:

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final Exam: 25%

LIN300BD

英語教育学演習 B

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2962 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	From SLA to language pedagogy	Connections between second language acquisition and second language pedagogy
第 3 回	History of second language teaching methods	Traditional approaches to second language teaching
第 4 回	Identifying components of a language course	Key parts of a language course
第 5 回	Second language tasks	The use of tasks in second language teaching
第 6 回	Beginning to listen and speak	Teaching listening and speaking to beginning learners
第 7 回	Teaching listening	Approaches and research in teaching listening
第 8 回	Teaching speaking	Approaches and research in teaching speaking
第 9 回	Teaching reading	Approaches and research in teaching reading
第 10 回	Teaching writing	Approaches and research in teaching writing
第 11 回	Developing fluency	Approaches to and research on fluency development
第 12 回	Designing language tests	Types and purposes of language tests
第 13 回	Analyzing language tests	Methods of analyzing language tests
第 14 回	Research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation or report) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

LIT200BD

英米文学特殊講義 I

宮川 雅

授業コード：A2965 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◀ ジーン・ウェブスターから英米文学を考える——『あしながおじさん』から／へ ▶

マーク・トウェインの姪の娘で、彼が出資してつくった出版社 Charles L. Webster and Company の社主チャールズ・ウェブスターの娘でもあるのが『あしながおじさん *Daddy Long-legs*』(1912) の著者として有名な女性作家 ジーン・ウェブスター (Jean Webster, 1876-1916) で、ヴァッサー大学在学中に創作を始めて、作家デビューしたときには大叔父の大作家から激励の手紙をもらったりもしていて、文体的にも American vernacular と呼べる口語体のスタイルの作品を書いた。が、文学史的には、大衆作家——児童文学ないし少女小説ないしユーモア小説作家——として、まともにとりあげられることはなかったと言ってよい。大衆作家ないし少女小説作家として周縁に位置づけられた女性作家ウェブスターの小説を中心に据え、アメリカ文学の特性や英米文学一般について、あるいは小説論について語ることで、複層的に視野を広げてもらいたい。

【到達目標】

- ① 作品の構造を語れる。
- ② 書簡体と視点について語れる。
- ③ 文体について語れる。
- ④ テキストを丁寧に読む楽しみを味わえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してウェブスターの『あしながおじさん』を中心にしておこなっていく。作品テキストを丁寧に読んでもらうことが議論の前提となる。教師が注釈プリント（ハンドアウト）をこしらえるので、それと作品テキストを読むことができるので必要。

歴史的背景的文化的知識についても語る。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション——古い映画を観る	プロローグ／テキストと参考文献について／邦題『孤児の生涯』(1919) サイレント映画時代のスター Mary Pickford (1892-1979) 主演、Marshall Neilan (1891-1958) 監督、85 分。
第 2 回	"Blue Wednesday" を読む——枠構造	ジャンル問題——少女小説と児童文学と『滑稽文学』(ユーモア小説)、そしてフェミニズム小説——東健而と遠藤寿子、そしてエレイン・ショーウォルター
第 3 回	1 年生の手紙	文体問題—— American vernacular と Mark Twain / アメリカの大学について／北部と南部
第 4 回	書簡体	書簡体小説の伝統／一人称の語りと物語の時間
第 5 回	2 年生の手紙	小説の時間／カレンダー／建物のシンボリズム
第 6 回	空間のシンボリズム	devil down-heads と地獄のイメージ
第 7 回	ムカデ（百足）と詩脚	英詩の構造／電報
第 8 回	3 年生の手紙	冒険と小説
第 9 回	引用の織物	英文科の授業と読書
第 10 回	教養小説——芸術家小説	ピカレスク小説からの変容／小説のジャンル
第 11 回	4 年生の手紙	本について
第 12 回	恋愛小説とフェミニズム	あらためてジャンル問題を考える
第 13 回	社会問題	social reform への関心／フェビアン協会／『続あしながおじさん』における優生思想への批判
第 14 回	まとめ	エビローグ—— belong to の意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ 2 時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ（翻訳でもよいので）作品を読む、そのことに予習 2 時間復習 2 時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く（聴く）だけでよい（というくらいです）。

【テキスト（教科書）】

Elaine Showalter 編の Penguin Classics 版 *Daddy-Long-Legs and Dear Enemy* をプリントもしくは電子媒体で配布する。古い訳（たとえば『世界滑稽名作集』[1929] 所収の東健而の訳——その 10 年前の 1919 年、サイレント映画の『孤児の生涯』の出た年、の、たぶん暮れに出版された本邦初訳『滑稽小説 蚊とんぼスミス』のリプリント）も Hoppii の教材にのいる。

【参考書】

初回に参考書などのリストを提示する。折に触れて研究書・論文などを示す。教室での配布資料は、作品テキストとともに、そして配布できない資料とともに、Hoppii の「教材」になるべく蓄積するようにしたい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 パーセント）と授業への積極的参加度——抜き打ち小テスト、アンケート、リアクションペーパーなど（30 パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom のための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

[Objective] This lecture tries to consider several literary topics through reading closely Jean Webster's novel *Daddy-Long-Legs* (1912). Students will learn and think about the American-vernacular style; the narrative point of view; the "time" in narrative; literary allusions and quotations; symbolism of space; genres of bildungsroman and epistolary novel; English versification, and several kinds of "background" knowledge. [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (30%), final examination (70%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅱ

宮川 雅

授業コード：A2966 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

≪ゴシックから推理小説・SFへ——ポーを中核にしてミステリー属の文学を考える≫

おもてだった営みとしては、「近代 探偵小説の父」と呼ばれる Edgar Allan Poe (1809-49) の推理小説を読む。探偵オーギュスト・デュパンを主人公とした「モルグ街の殺人事件」「盗まれた手紙」「マリー・ロジェの謎」の3篇のほか、「お前が犯人だ」、暗号解読の物語「黄金虫」（以上5篇が通常ポーの推理小説とされる）、さらに、探偵小説のメカニズムを考えながら「群衆の人」と「アッシャー家の没落」を、マボット版全集を使用して読む。

それと並行して、ドロシー・セイヤーズやハワード・ヘイクラフトやラッセル・ナイなどの古典的な探偵小説論を読んで歴史的・構造的な視野を得る。いっぽう、18世紀にイギリスでおこったゴシック小説がポーの時代（まで）にどのように変容しえたのかを考え、さらに20世紀のたとえばトマス・ピンチオンやポール・オースター、さらに（突飛を承知の上で）フラナリー・オコナーといったSF的なないし探偵小説的なないしゴシック的作家に、「ミステリー」の感覚はどのようにつながっているのかを考えてみたい。それは、ボルヘスの短篇「アル・ムターシムへの接近」の言葉を使うなら「探偵小説のメカニズム」と「神秘主義の底流」がどのようにアメリカ文学の中にあるかを考えることになるのではないか、と思う。また、「神秘」「秘義」が「秘密」「謎」に、ちょうど magic が魔術から奇術・手品に格下げないし人間化されたように、意義が変わるのが近代だとすれば、そのような時代における mystery の意味を、アメリカ文学との関係で考えることになるのではないかとも思っている。

【到達目標】

- ①ゴシック・ロマンスの主題や方法についての概観的知識を得ること。
- ②ポーの "tales of ratiocination" を概念的に理解すること。
- ③ゴシックの変容について歴史的理解を得ること。
- ④ポーを読む楽しみを味わうこと。
- ⑤「ミステリー」の幅を考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してポーの探偵小説を中心にしつつもゴシック小説をあわせて読むことで、おこなっていく。

歴史的背景的文化的知識についても語る。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション——ボルヘス「アル・ムターシムへの接近」	プロローグ/テキストと参考文献について
第2回	短篇作家の出生	"Metzengerstein"; "Berenice" ほか初期短篇/ゴシックの流行とポーの選択
第3回	解かれるミステリーと解かれないミステリー——「アッシャー家の没落 The Fall of the House of Usher」(1839)とテキストの重層性	デュパン以前の代表作を読み、ゴシックの超自然と推理小説のメカニズムについて考える/この超自然小説と見える作品を推理小説的に読む批評を考える
第4回	「群衆の人 The Man of the Crowd」(1840)	ワルター・ベンヤミンによって探偵小説の原型として有名になったこの都市小説をポール・オースターと比べてみる
第5回	「モルグ街の殺人 The Murders in the Rue Morgue」(1841)	この最初の探偵小説の出版100年を記念して書かれたハワード・ヘイクラフトの『娯楽のための殺人』(1941)を紹介する。
第6回	「モルグ街の殺人」(1841) その2	テキストの精読/詩人批評家リチャード・ウィルバーのポー論を紹介する。

第7回	「マリー・ロジェの謎 The Mystery of Marie Roget」(1842)	現実のニューヨークの事件に基づいて作家ポーが推理を展開し、通好みかもしれない「マリー・ロジェの謎」——タイトルに mystery が入るが超自然について否定的な言葉がある——を読む。
第8回	「盗まれた手紙 The Purloined Letter」(1844)	デュパンもの第3作「盗まれた手紙」のテキストの精読/ double の問題を考える。
第9回	「黄金虫 The Gold-Bug」(1843)	テキストの精読/暗号解読とエジプト学・聖聖文字/フランスの批評家ジャン・リカルドゥーによる暗号解読的読み
第10回	「おまえが犯人だ Thou Art the Man」/ラッセル・ナイを読む	「盗まれた手紙」と同じ1844年の11月に発表された「お前が犯人だ」をさらっと読む/アメリカ大衆文化論の古典 Russell Nye, <i>The Unembarrassed Muse</i> のなかの探偵小説の章を読む。
第11回	ポーと科学と擬似科学	ゴシック・探偵小説・SF/ロマン主義と超自然
第12回	ドロシー・セイヤーズのアンソロジー序文/20世紀の「思想」状況	3冊の探偵小説・恐怖小説アンソロジーを編んだイギリスの学者作家 Dorothy Sayers の序文を読む。3つの序文の原文を配る。
第13回	アメリカ現代作家とポー	トマス・ピンチオン『競売品49の叫び』ほか
第14回	まとめ——「ミステリー」をあらためて考える	エピソード——『秘義の発生』（カーモド）、『秘義と習俗』（オコナー）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ（翻訳でもよいので）作品を読む、そのことに予習2時間復習2時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く（聴く）だけでよい（というくらいです）。

【テキスト（教科書）】

Thomas Olive Mabbott 編の *Collected Works of Edgar Allan Poe* をプリントもしくは電子媒体で配布する。翻訳も配れるだけ配る。

【参考書】

初回にポー作品の注釈書などのリストを提示する。折に触れて参考書（研究書・論文など）を示す。教室での配布資料は、作品テキストとともに、また配布できない資料とともに Hoppii の「教材」になるべく蓄積するようにしたい。

【成績評価の方法と基準】

期末ペーパー（70パーセント）と授業への積極的参加度——抜き打ち小テスト、アンケート、リアクションペーパーなど（30パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom のための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

Students learn to carry to a higher level the skillful analysis of language and text, by (participating in) close reading of Edgar Allan Poe's gothic fiction and "tales of ratiocination." Students also obtain knowledge about literary gothicism and about its developments.

[Objective] The principal objective of this class is to obtain a historical perspective of "mystery" in American literature, mainly through the consideration of tales by Edgar Allan Poe, who, while a gothic story-teller, originated the genres of science fiction and detective fiction.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (30%), final report [paper] (70%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅲ

吉田 裕

授業コード：A2967 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、カリブ文学を通史的に学ぶことで、代表的な文学作品やその背景についての知識を体系的に身につけることを目指します。英語で作品を読み解く基礎を身につけた上で、作品を批評的に読解する訓練も行います。音楽や映像も考察の対象とします。

本講義のもう一つの主眼は、カリブ文学を読むことを通じて、文学作品と現実の歴史や政治を行き来しながら考える習慣を身につけることです。特に、春学期の英米文学特殊講義Ⅲでは、カリブ海地域と近代世界の形成について、コロンブスの到来から 20 世紀前半までの歴史や政治を扱いつつ、関連する文学作品を紹介して、文学史の概要を学びます。カリブ文学のみならず、植民地以後の歴史が刻まれた作品には、フェミニズム、移動、人種、階級などの複合的な関係性（最近の言葉では「インターセクショナル」な関係性）を読み取ることができます。

文学作品は現実と関係がないと思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ、現実との葛藤のなかで書かれてきたものも数多くあります。その中で、皆さんなりの葛藤を見出してください。

【到達目標】

1. カリブ文学とは何かについて、とりわけコロンブスによるカリブ海地域の発見から 20 世紀前半までの歴史的・文化的な概要を身につけること。
2. カリブ文学がどのような背景から生まれて、どのような課題に直面しているのかを、自分の言葉で説明できるようになること。
3. 英語で書かれた文学作品を分析し、解釈することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出すること。授業の初めにリアクションペーパーの一部を紹介し、教員が質疑などに答える。

授業では既存の翻訳と英語での原著を交えて扱う。英語圏カリブ文学は翻訳が少ないので、どうしても原文と付き合うことが多いが、作品の未読者にも理解可能なように、こちらで作品の要約やキーワードの説明をするので心配はいらない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	カリブ文学の定義について学ぶ。 C.L.R. James, "From Toussaint L'Ouverture to Fidel Castro" (1963)
第 2 回	Vera Bell, "Ancestor on the Auction Block" (1948) Orland Patterson, <i>The Sociology of Slavery</i> (1967)	奴隷制度について学ぶ。砂糖の生産と労働の実態を知る。
第 3 回	C.L.R. James, <i>The Black Jacobins</i> (1938)	ハイチ革命の経緯と世界史的意義について学ぶ。ハイチ革命を演劇として描いた作品を比較する。

第 4 回	Mary Prince, <i>The History of Mary Prince</i> (1831)	奴隷解放に資本主義の発展が果たした役割、ジェンダーのちがいがいによる経験の差異について学ぶ。
第 5 回	Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i> (1966)	イギリスの家父長制度と不在地主制度がカリブ海地域の植民地統治に与えた影響について学ぶ。
第 6 回	Vic Reid, <i>New Day</i> (1949)	モラント湾の反乱 (1865) がカリブ海地域の歴史、イギリスの政治に与えたインパクトについて学ぶ。
第 7 回	Edgar Mittelholzer, <i>Corentyne Thunder</i> (1941) <i>Redemption Song</i> , BBC ドキュメンタリー	インド及び中国からの移民を中心に、年季奉公制度の世界史的な意義について学ぶ。
第 8 回	Jamaica Kincaid, <i>Annie John</i> (1985) Austin Clarke, <i>Growing Up Stupid Under Union Jack</i> (1980)	植民地教育に英文学が果たした役割について学ぶ。帝国統治の言説と人種差別との関係について学ぶ。
第 9 回	Marcus Garvey, <i>Speeches</i> , Eric Walrond, <i>Tropic Death</i> (1926)	合衆国やパナマへの移住経験と人種意識の関係について学ぶ。
第 10 回	Claude McKay, <i>Una Marson</i> , Louise Bennet	故郷を離れることと民衆語で詩を書くことの関係について学ぶ。
第 11 回	C.L.R. James, "Victory" (1929) Alfred Mendes, <i>Black Fauns</i> (1935)	バラック・ヤード・ジャンルと芸術運動について学ぶ。
第 12 回	Geroge Lamming, <i>In the Castle of My Skin</i> (1953) 音楽 Paul Robeson, "Let My People Go"	1930 年代のストライキとその後自治の獲得、物語での自我の揺れとの関連について学ぶ。
第 13 回	Aimé Césaire, <i>Return to My Native Land</i> (1956), Lorna Goodison, "I am Becoming My Mother" (1986)	ネグリチュード運動について学ぶ。「故郷」の発見と「母国」イメージの関係について学ぶ。
第 14 回	まとめ	講義の内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間はそれぞれ 2 時間ずつとする。
予習は、あらかじめこちらで指定及び配布した作品からの引用箇所について、分からない単語や表現を可能な限り辞書で調べてくること。分からない表現や気になった箇所についてメモをしてくること (2 時間)。復習は、授業で紹介した関連文献や引用について、積極的に読むこと。授業中に説明した内容で分からない部分について、質問を考えてくること (2 時間)。

【テキスト（教科書）】

テキストは購入する必要はない。授業の資料はこちらで作成する。必要な場合は、授業支援システムにて配布する。

【参考書】

川北稔『砂糖の歴史』岩波ジュニア新書、1996 年。
エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』ちくま学芸文庫、中山毅訳、2020 年。
エリック・ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492-1969(I) (II)』岩波現代文庫、川北稔訳、2014 年。
その他、詳しくは授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー (30%)
期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面授業だが、感染状況によっては受講生との相談の上、オンライン授業に切り替えることがある。

なお、この授業は単独でも受講可能であるが、秋学期の「英米文学特殊講義 IV」と内容が連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture deals with the history of Caribbean Literature. Students will learn famous works and their backgrounds. In reading a series of Caribbean fiction and poems, we learn the very basics of how to read fiction written in English language and, furthermore, a critical attitude to discuss and analyze fiction.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to get used to thinking about literary works in contrast to history and politics, and to learn complex phenomena involving feminism, migration, race, class—intersectionality in today's nomenclature—through reading fiction.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end exam: 70%

In class contribution and reaction papers: 30%

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

吉田 裕

授業コード：A2968 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、カリブ文学を文学史として学ぶことで、代表的な文学作品やその背景についての知識を学びます。後期では、20 世紀半ばから、2010 年代までに発表されたカリブ文学について扱います。音楽や映画も織り交ぜて考察の対象とします。英語で作品を読み解く基礎を身につけた上で、作品を批評的に読解する訓練も行います。

本講義のもう一つの主眼は、カリブ文学を読むことを通じて、文学作品と現実の歴史や政治を行き来しながら考える習慣を身につけることです。特に、秋学期の英米文学特殊講義Ⅳでは、カリブ海地域が植民地支配からの自治を獲得し、国として独立してゆく過程から、二十世紀後半に至る独立以後の困難、合衆国のブラック・パワーの影響、レゲエやカリプソなどの音楽などさまざまなトピックを扱います。関連する作品を紹介して、文学史の概要を学びます。

カリブ文学のみならず、植民地以後の歴史が刻まれた作品には、フェミニズム、移動、人種、階級などの複合的な関係性（最近の言葉では「インターセクショナル」な関係性）を読み取ることができ

ます。文学作品は現実と関係がないと思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ、現実との葛藤のなかで書かれてきたものも数多くあります。その中で、皆さんの葛藤を見出してください。

【到達目標】

1. カリブ文学とは何かについて自分の言葉で説明できること。とりわけ 20 世紀前半から 2000 年代に至る歴史的・文化的な概要を身につけること。
2. カリブ文学の作品を批評的な観点から理解すること。
3. 英語で書かれた文学作品を分析し、解釈することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出すること。授業の初めにリアクションペーパーの一部を紹介し、教員が質疑などに答える。

授業では既存の翻訳と英語での原著を交えて扱う。英語圏カリブ文学は翻訳が少ないので、どうしても原文と付き合うことが多くなるが、作品の未読者にも理解可能なように、こちらで作品の要約やキーワードの説明をするので心配はいらない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	カリブ文学における歴史をめぐる
	Derek Walcott, “The Muse of History” (1974)	問いについて考察する。
第 2 回	V.S. Naipaul, <i>Miguel Street</i> (1959)	カリプソという音楽ジャンルの社会的背景について学ぶ。
	Mighty Sparrow, “Jean and Dinah” (1956)	

第 3 回	Ralph de Boissière, <i>Rum and Coca Cola</i> (1954) Robert Antoni, <i>My Grandmother’s Erotic Folktales</i> (2000)	米軍基地の建設により生活と社会、セクシュアリティがどのように変化したかを学ぶ。
第 4 回	Martin Carter, “I am No Soldier”, “I Clench My Fist” (1954) Edwidge Danticat, <i>Krik? Krak!</i> (1995) 映画 <i>The Man by the Shore</i> (1993)	冷戦期の「熱戦」が文学にどのように描かれているかを学ぶ。
第 5 回	Samuel Selvon, <i>The Lonely Londoners</i> (1956) 音楽 Lord Kitchner, “London is the Place for Me” (1948) 映画『パディントン』(2015)	なぜロンドンがカリブ文学誕生の地と言われているのかを学ぶ。
第 6 回	Orland Patterson, <i>The Children of Sisyphus</i> (1968)	民間信仰と宗教を描くことがなぜ重要なのかを学ぶ。
第 7 回	Roger Mais, <i>Brother Man</i> (1954) Erna Brodber, <i>Jane and Louisa Soon Will Come Home</i> (1980)	ラストファリ運動とナショナル・イメージの関係について学ぶ。
第 8 回	Merle Hodge, <i>Crick Crack, Monkey</i> (1970) Zee Edgel, <i>Beka Lamb</i> (1982)	女性の成長と自立を描くことがナショナル・イメージの変容と結びついていることを学ぶ。
第 9 回	音楽 Bob Marley, “Redemption Song” (1980) Mutabarka, “dis poem” (1992) Jean Binta Breeze, “Can a Dub Poet be a Woman?” (1990) 映画『ハーダー・ゼイ・カム』(1972)	レゲエやダブなどの音楽と詩の世界が、日常とその変革と関連していることを学ぶ。
第 10 回	Beryl Gilroy, <i>Black Teacher</i> (1976)	移住の地（イギリス）での生活と教育がいかに描かれているかを学ぶ。
第 11 回	Earl Lovelace, <i>The Dragon Can’t Dance</i> (1979) Jamaica Kincaid, <i>Small Place</i> (1988)	ブラックパワーの影響、独立以後の不満がいかに作品に描かれているかを学ぶ。
第 12 回	Merle Collins, <i>Angel</i> (1987) Dionne Brand, <i>Chronicles of the Hostile Sun</i> (1984)	グレナダ革命及びグレナダ侵攻の経緯、現代的意義について学ぶ。
第 13 回	Marlene Noubese Philip, <i>Harriet’s Daughter</i> (1988) David Chariandy, <i>Brother</i> (2017)	カリブ文学第二の故郷と言われるカナダのトロントが作品にいか
第 14 回	まとめ	講義の内容についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間はそれぞれ2時間ずつとする。

予習は、あらかじめこちらで指定及び配布した作品からの引用箇所について、分からない単語や表現を可能な限り辞書で調べてくること。分からない表現や気になった箇所についてメモをしてくること（2時間）。復習は、授業で紹介した関連文献や引用について、積極的に読むこと。それでも分からない部分について、質問を考えてくること（2時間）。

【テキスト（教科書）】

授業の資料はこちらで作成する。必要な場合は、授業支援システムにて配布する。

【参考書】

川北稔『砂糖の歴史』岩波ジュニア新書、1996年。
エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』ちくま学芸文庫、中山毅訳、2020年。
エリック・ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492-1969(I)(II)』岩波現代文庫、川北稔訳、2014年。
その他、詳しくは授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー（30%）
期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面授業だが、感染状況によっては受講生との相談の上、オンライン授業に切り替えることがある。

なお、この授業は単独でも受講可能であるが、春学期の「英米文学特殊講義 III」と内容が連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture deals with the history of Caribbean Literature. Students will learn famous works and their backgrounds. In reading a series of Caribbean fiction and poems, we learn the very basics of how to read fiction written in English language and, furthermore, a critical attitude to discuss and analyze fiction.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to get used to thinking about literary works in contrast to history and politics, and to learn complex phenomena involving feminism, migration, race, class—intersectionality in today's nomenclature—through reading fiction.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end exam 70%

In class contribution and reaction papers: 30%

LIT200BD

文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
- 題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる 4 つの問い
第 2 回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは
第 3 回	作品解釈と歴史的コンテクスト	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第 4 回	解釈は推理で（も）ある ①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第 5 回	解釈は推理で（も）ある ②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第 6 回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第 7 回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第 8 回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第 9 回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第 10 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 11 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

LIT200BD

文学研究方法論B

小島 尚人

授業コード：A2970 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第2回	心理と無意識に着目する 精神分析批評①	理論の概要と実例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第3回	心理と無意識に着目する 精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第4回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクイア批評①	理論の概要と実例を知る ベケデル・テストを使いこなす
第5回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクイア批評②	エルサの物語をどう読むか プルートのジェンダー・アイデンティティ
第6回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第7回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第8回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評①	理論の概要と実例を知る オリエンタリズムとは
第9回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第10回	社会的・階級の意味に着目する マルクス主義批評①	理論の概要と実例を知る クラリッサの見えないタクシー
第11回	社会的・階級の意味に着目する マルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第12回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第13回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第14回	まとめ：文学・文化研究のススメ、ふたたび	他者を読み、自分を読みかえる経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）
- ③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリール・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50%
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50%
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時のみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論A」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final paper (50%)

BSP200BD

2 年次演習（1）

小澤 央

授業コード：A2971 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀の英国を代表する小説家 E. M. Forster の短編を精読し、書かれている内容や扱われているテーマや問題についてみながら議論する。映画や先行研究も参考にします。

文学を解釈するための基本的姿勢を身につけ、自分なりの解釈を試みることを目的とする。

【到達目標】

- ・ Forster の短編を読了し、その背景事情を含めて理解できる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 作品が扱う今日的テーマについて議論できる
- ・ 他人の意見を尊重しつつ、自分の意見をわかりやすく表現できる
- ・ 辞書を参照しながら、短編小説を読み通せるだけの英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に毎回レジュメ担当を決め、その発表に基づいてみながら議論する。学期末にはレポートを書く。

発表に対してはその場で、レポートに対しては返却時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認、作品の背景の説明
第 2 回	"The Machine Stops" (1)	第 1 部前半の発表と議論
第 3 回	"The Machine Stops" (2)	第 1 部後半の発表と議論
第 4 回	"The Machine Stops" (3)	第 2 部前半の発表と議論
第 5 回	"The Machine Stops" (4)	第 2 部後半の発表と議論
第 6 回	"The Machine Stops" (5)	第 3 部前半の発表と議論
第 7 回	"The Machine Stops" (6)	第 3 部後半の発表と議論
第 8 回	"The Celestial Omnibus" (1)	第 1 部の発表と議論
第 9 回	"The Celestial Omnibus" (2)	第 2 部の発表と議論
第 10 回	"The Celestial Omnibus" (3)	第 3 部の発表と議論
第 11 回	先行研究のレビュー	Forster 作品の批評に関する発表と議論
第 12 回	Forster の翻案映画 (1)	前半の鑑賞と議論
第 13 回	Forster の翻案映画 (2)	後半の鑑賞と議論
第 14 回	まとめ	作品と批評の総括、期末レポートのテーマについての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者はレジュメを必ず用意すること。レジュメには、要約のみならず論点や意見などの提示が必要である。発表にあたっていなくても、テキストをしっかりと読み、自身の考えをまとめてゼミに参加すること。

予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

E. M. Forster, *Selected Stories*, Penguin Classics, 2001.

【参考書】

E. M. フォースター著、『E. M. フォースター著作集 5 天国行きの乗合馬車 短篇集 I』、小池滋訳、みすず書房、1996 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 議論への貢献度：30%
- ・ 発表：30%
- ・ 期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

基本的に全回に出席することが望ましい。単位認定には学期中に 3 分の 2 以上の出席が必要である。この場合の「出席」とは、該当範囲を予習してきて、積極的にゼミに参加することを意味する（20 分以上の遅刻は欠席と見なす）。

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to carefully read E. M. Forster's short stories and discuss the text and its relevant themes and issues. The course also refers to films and studies on the author and his work. The goals of this course are to learn the basics of interpretation of literature and attempt a new interpretation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: participation in discussion (30%), presentation (30%) and term-end essay (40%).

BSP200BD

2年次演習（2）

山崎 暁子

授業コード：A2972 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C. S. Lewis の「ナルニア」シリーズの 1 巻である *The Magician's Nephew* を英語で精読し、このシリーズについての批評も読んで、小説を解釈し論じる方法を学習する。ディスカッションを通して多様な見方に触れることで作品への理解を深め、自分なりの解釈を論として文章で表現する。

【到達目標】

- ・英語を読む能力を向上させる。構文を正しく理解することに加え、社会的・文化的背景も考慮して読むことができるようになる。
- ・テキストを分析し、自分なりの解釈を、その妥当性を論証しながら、説得力をもって提示することができるようになる。
- ・プレゼンテーションやディスカッションをつうじて、口頭でのコミュニケーション力を向上させる。
- ・文学批評の方法論の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The Magician's Nephew を英語で精読する。授業は基本的に演習形式で進め、担当者が英語の解釈および内容の解釈について問題提起をおこなった後、グループでディスカッションし、結果を発表する。学期の最後には、期末レポートの準備として、批評論文の読解をおこなうとともに、調査・収集方法についても学ぶ。

発表や質問に対して口頭によるレスポンスをおこなうほか、レポートについてはフィードバックのコメントをつけたファイルを返却する。対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性がある。毎回の授業形態は、事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとブレインストーミング	授業の進め方を説明し、全員の自己紹介後、ブレインストーミングをおこなう。
第 2 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 1 章の読解とディスカッション（1）	教員が問題提起を担当し、ディスカッションをおこなう。第 3 回以降の分担任を決める。
第 3 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 2 章の読解とディスカッション（2）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 4 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 3 章～第 4 章の読解とディスカッション（3）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 5 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 4 章～第 5 章の読解とディスカッション（4）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 6 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 5 章～第 6 章の読解とディスカッション（5）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 7 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 7 章の読解とディスカッション（6）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 8 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 8 章の読解とディスカッション（7）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 9 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 9 章の読解とディスカッション（8）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 10 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 10 章の読解とディスカッション（9）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 11 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 11 章の読解とディスカッション（10）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 12 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 12 章の読解とディスカッション（11）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。
第 13 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 13 章の読解とディスカッション（12）	担当者が問題提起してディスカッションをおこなう。

第 14 回 批評論文の読解

「ナルニア」シリーズについて書かれた論文を読む。論文の調査、収集法についても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、毎週、指定範囲を読み、疑問点があれば下調べをしたうえで授業に参加する。下調べした内容や、読んでいて気になった点、興味を持った点をメモしておき、ディスカッションで共有できるようにしておく。授業後には学習支援システムからリアクションペーパーを提出する。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

C. S. Lewis, *The Magician's Nephew*

全員が同じ版を使う必要があるため、必ず指定のテキストを生協で購入すること。出版社等の詳細は学習支援システムに記載する。

【参考書】

安藤聡『ナルニア国物語解説—C. S. ルイスが創造した世界』（彩流社、2006 年）他、必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・発表 30 %

問題提起 30 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のグループワークがおおむねうまく機能したようなので、基本的に同じ形で実施する。声が聞き取りにくかったとの意見があったため、教室の状況を確認してマイクを使用する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google Document を、連絡、資料の配布、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。

学習支援システムからの通知や個別の連絡が法政 Gmail に届くので、随時チェックすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This seminar is an introduction to literary studies. Students will learn how to discuss literary texts in a critical way through the close reading of *The Magician's Nephew*.

【Learning objectives】

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyze literary texts and will be able to discuss them logically from their own viewpoint.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), discussion questions (30%) and final essay (40%).

BSP200BD

2年次演習（3）

小島 尚人

授業コード：A2973 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

F. Scott Fitzgerald の小説 *The Great Gatsby* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、小説について論じる方法を学習する。また、この小説を原作とした映画のうち 2013 年に公開された最新のものを、映画の分析の仕方学ぶ。小説の英語の精読と映像・小説の比較検討というやや趣きの異なる二つの分析方法に同時並行的に取り組むことで、受講者それぞれが作品への理解をより深めるとともに、自分の批評的関心のありかを考える機会をもつことができる。そうした関心を発展させて、期末レポートにまとめる。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・アメリカ文学を代表する作品の一つを原書で読みとおすことの達成感を味わうことで、さらなる読書への意欲を持つことができる。
- ・小説、映画の分析方法について、その基礎を学ぶことができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持てるようになる。
- ・文学作品を題材にした発表とディスカッションを通じて、自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに傾け理解する力を伸ばす。
- ・自分の解釈を、先行研究を踏まえてレポートにまとめる技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

小説 *The Great Gatsby* を精読する。基本的に授業は演習形式で進め、毎回二人の担当者が発表をおこなった後、受講者全員でディスカッションをする。小説の解釈にくわえて、映画の該当箇所を参照し、さまざまな異同とその意味についても吟味する。学期後半には批評論文の調査、収集、読解の実践を通じて、期末レポートに向けた準備をおこなう。発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／映画版を観る（1）	授業の進め方の説明のあと、映画『華麗なるギャツビー』を観始める。
第 2 回	映画版を観る／導入	映画『華麗なるギャツビー』を観終える。フィッツジェラルドの生涯とその作品についての概説。発表の分担を決定する
第 3 回	小説の読解、映画との比較（1）	<i>The Great Gatsby</i> の第一章を精読する。発表（初回は教員が担当）と質疑応答、ディスカッション
第 4 回	小説の読解、映画との比較（2）	<i>The Great Gatsby</i> の第二章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 5 回	小説の読解、映画との比較（3）	<i>The Great Gatsby</i> の第三章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 6 回	小説の読解、映画との比較（4）	<i>The Great Gatsby</i> の第四章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 7 回	小説の読解、映画との比較（5）	<i>The Great Gatsby</i> の第五章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 8 回	小説の読解、映画との比較（6）	<i>The Great Gatsby</i> の第六章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 9 回	小説の読解、映画との比較（7）	<i>The Great Gatsby</i> の第七章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 10 回	小説の読解、映画との比較（8）	<i>The Great Gatsby</i> の第八章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 11 回	小説の読解、映画との比較（9）	<i>The Great Gatsby</i> の第九章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 12 回	批評論文の読解（1）	<i>The Great Gatsby</i> について書かれた日本語論文を読む。日本語論文の調査、収集法についても学ぶ

第 13 回 批評論文の読解（2）

The Great Gatsby について書かれた英語論文を読む。英語論文の調査、収集法についても学ぶ

第 14 回 まとめ

受講者が各自レポートの計画について発表し、意見交換をする。その後、作品の主題を整理して、授業のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前には作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間）。

【テキスト（教科書）】

F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (Scribner, 2004). ISBN: 9780743273565

【参考書】

アンドルー・ターンブル『完訳 フィッツジェラルド伝』（こびあん書房、1988 年）

野崎孝（編）『フィッツジェラルド』（研究社、1966 年）

村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』（中央公論新社、2007 年）

リチャード・リーハン『偉大なギャツビー』を読む——夢の限界』（旺史社、1995 年）

他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表・議論への参加度：40%

期末レポート（3000 字以上）：60%

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to literary studies in seminar classes. Through the close reading of *The Great Gatsby* as well as one of its film adaptations, students will develop their skills to discuss literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and presentations (40%)

2) Final paper (60%)

BSP200BD

2 年次演習 (4)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2974 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

This course introduces key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by examining research, presenting research findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	L2 Fluency	How is L2 fluency developed?
第 6 回	Contexts of instructed L2 acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 7 回	Teaching reading	Approaches to and issues in reading instruction
第 8 回	Speaking and pronunciation	Issues in incorporating pronunciation instruction in L2 classes
第 9 回	Classroom-based assessment	How can L2 performance be assessed?
第 10 回	Communication and fluency	Issues in incorporating communication and fluency practice in L2 classes
第 11 回	Teaching listening	Intensive and extensive approaches to listening instruction
第 12 回	Individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

BSP200BD

2 年次演習 (5)

福元 広二

授業コード：A2975 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

語用論的な視点から調査・研究する方法を学びます。特に、言語コミュニケーションの観点から論文を書く方法について理解を深めていきます。

【到達目標】

語用論の基礎的な知識を身につけることにより、日常のコミュニケーションの意味を、言語学的に分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者が決めて発表してもらいます。また、語用論的視点からの研究法に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については [Hoppii](#) で連絡します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第 2 回	語用論の基礎の講義	語用論の基礎的な事柄についての説明
第 3 回	Part 1: Planning (1)	教科書 1.1 ~ 1.5
第 4 回	Part 1: Planning (2)	教科書 1.6 ~ 1.10
第 5 回	Part 2: Doing Research	教科書 2.1 ~ 2.4
第 6 回	Part 2: Doing Research	教科書 2.5 ~ 2.7
第 7 回	Part 2: Doing Research	教科書 2.8 ~ 2.11
第 8 回	Part 3: Writing a paper	教科書 3.1 ~ 3.3
第 9 回	Part 3: Writing a paper	教科書 3.4 ~ 3.7
第 10 回	Part 3: Writing a paper	教科書 3.8 ~ 3.10
第 11 回	個人調査課題発表会 (1)	学生による発表 (1)
第 12 回	個人調査課題発表会 (2)	学生による発表 (2)
第 13 回	個人調査課題発表会 (3)	学生による発表 (3)
第 14 回	まとめと今後の課題	研究の進め方についてのまとめと今後の課題、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で取り上げる教科書に関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

田中典子 (2018) 『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』(春風社)

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー 40 %、平常点 60 %)

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表のために、ワークショップやグループワークの時間を多くしたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。
- ・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。
- ・4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic concepts in Pragmatics.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to conduct research in Pragmatics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

BSP200BD

2年次演習（6）

川崎 貴子

授業コード：A2976 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2年

その他属性：

【Grading Criteria】

Presentation files, Reviews of in-class presentations, etc. … 30%

In-class participation … 30%

Presentations … 40%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の言語コミュニケーションの中でも、特に音声に関することについて学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによっては学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の説明・自己紹介
第2回	プレゼンテーション実践1	自己紹介プレゼンテーション
第3回	プレゼンテーション実践2	プレゼンテーションの相互フィードバック
第4回	音声学基礎	音声学の基礎を復習
第5回	音象徴1	音とイメージとのつながり
第6回	音象徴2	担当学生による発表－音象徴
第7回	音声と文字	担当学生による発表－音声と文字
第8回	音声と表記	学生による発表－音声と表記
第9回	調音音声学	調音音声学の導入講義
第10回	音声イリュージョン	学生による発表－音声イリュージョン
第11回	グループ調査課題	学生による調査課題の計画
第12回	言語学文献研究1	ビブリオバトル1
第13回	言語学文献研究2	ビブリオバトル2－発表公評
第14回	調査発表	グループ調査の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

－発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自2度の発表回数があります。（自己紹介除く。）

－毎回、授業で指示される文献を読むことが必要です。

－毎週、課題の文献を読んだり、議論したりする中で得た知識・浮かんできた問いを必ずノートに書き、メモを残していくこと。

－本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

発表スライド、発表のレビューなどの提出物… 30%

授業内参加… 30%

授業内発表… 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生による発表とグループでの調査課題が好評だったので、引き続き発表機会をできるだけ多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく3回を超えて欠席した場合には、D評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with human speech communication. Students are expected to find small problems regarding speech sounds and conduct a small experiment.

LIN200BD

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業は、文学作品を使って、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的としています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPT を使って、英語でプレゼンテーションができるようになる練習もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、基本的に対面です。変更する場合は、事前に Hoppii で連絡します。

それまでに生協などで、教科書を手に入れておいてください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Chapter 0：英文法の歩き方	学生のプレゼンテーション、文法の考え方について考える。
第 3 回	Chapter 1：主語・動詞・基本文型（1）	学生のプレゼンテーション、主語と動詞について考える。
第 4 回	Chapter 1：主語・動詞・基本文型（2）	学生のプレゼンテーション、基本文型について考える。
第 5 回	Chapter 2: 名詞（1）	学生のプレゼンテーション、可算名詞と不可算名詞について考える。
第 6 回	Chapter 2: 名詞（2）	学生のプレゼンテーション、限定詞・代名詞について考える。
第 7 回	Chapter 3: 形容詞（1）	学生のプレゼンテーション、前からの限定について考える。
第 8 回	Chapter 3: 形容詞（2）	学生のプレゼンテーション、後ろからの限定について考える。
第 9 回	Chapter 4: 副詞（1）	学生のプレゼンテーション、説明の副詞について考える。
第 10 回	Chapter 4: 副詞（2）	学生のプレゼンテーション、限定の副詞について考える。
第 11 回	Chapter 5: 比較（1）	学生のプレゼンテーション、同等レベルの比較について考える。
第 12 回	Chapter 5: 比較（2）	学生のプレゼンテーション、比較級・最上級について考える。
第 13 回	Chapter 6: 否定（1）	学生のプレゼンテーション、否定文の作り方について考える。
第 14 回	Chapter 6: 否定（2）	not について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大西泰斗・ポール・マクベイ著『一億人の英文法』（東進ブックス）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 80 %、課題 20 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は Hoppii の課題として添付ファイルで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターと、連続して履修してください。
・オフィスアワーは木曜 4 限です。事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class. The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

LIN200BD

英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】

英語と日本語の違いを知り、その奥に潜む考え方の共通点と相違点を深く考えて、英語の感覚を身につけます。英語の体幹を強化して、社会に出てから、自分で英語的に考えて、英語を使えるようになる力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業の予定ですが、状況によっては、リモートになるかもしれません。事前に Hoppii で連絡します。連絡事項や課題は前日までに Hoppii にアップロードするので、必ず見ながら授業に臨んでください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。可能ならば、少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。毎時間アクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Chapter 7: 助動詞 (1)	学生の発表、must, may, will について考える。
第 3 回	Chapter 7: 助動詞 (2)	学生の発表、can, shall, should について考える。
第 4 回	Chapter 8: 前置詞	学生の発表、前置詞の位置と機能について考える。
第 5 回	Chapter 9: WH 修飾 (1)	学生の発表、who, which について考える。
第 6 回	Chapter 9: WH 修飾 (2)	学生の発表、where, when、WH を使わない場合について考える。
第 7 回	Chapter 10: 動詞 -ing 形	学生の発表、-ing の位置と機能について考える。
第 8 回	Chapter 11: TO 不定詞	学生の発表、TO 不定詞の位置と機能について考える。
第 9 回	Chapter 12: 過去分詞 (1)	学生の発表、受動文について考える。
第 10 回	Chapter 12: 過去分詞 (2)	学生の発表、過去分詞による修飾について考える。
第 11 回	Chapter 13: 節	学生の発表、節の役割について考える。
第 12 回	Chapter 14: 疑問文 (1)	学生の発表、基本的な疑問文について考える。
第 13 回	Chapter 14: 疑問文 (2)	学生の発表、wh 疑問文について考える。
第 14 回	授業の振り返り	秋semester全体の授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大西泰斗・ポール・マクベイ『一億人の英文法』（東進ブックス）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験・レポート 80%、課題・プレゼンテーション 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII に添付資料で提出してもらいますので、自分用の PC があると良いと思います。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターを続けて履修してください。

・オフィスアワーは木曜 4 限です。前もって予約メールをください。授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class.

The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

BSP200BD

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見る形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とする。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に合ったデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の 3 つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように 1 枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明
第 2 回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第 3 回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第 4 回	ヒストグラム	ヒストグラム
第 5 回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第 6 回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフ
第 7 回	散布図	散布図
第 8 回	円グラフ	円グラフ
第 9 回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第 10 回	データを表にする	データを表にする
第 11 回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第 12 回	平均値と中央値	平均値と中央値
第 13 回	標準偏差	標準偏差
第 14 回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末課題（ポスター）

60%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

- ・ 授業での課題の未提出が 4 回に達した場合
- ・ 期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたらと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

※

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, students will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to do the followings:

- (1) Reading various types of graphs.
- (2) Making graph data according to specific cases.
- (3) Reporting data objectively in writing.
- (4) Summarizing some data in a poster

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 40%, Class Assignment 60%

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません。発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
ダクショ ン		
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起るのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農業、遺伝子組み換え食品など
第十回	デジタル・ファシズム	デジタル化と監視社会
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30%、授業への貢献度 30%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただき、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的現象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるためのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカの愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるためのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるためのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。(2 時間)
- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。(1 時間)
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。(1 時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）

アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）

ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %

グループ・プレゼンテーション 30 %

授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (30%)

2) Group presentation (30%)

3) Final exam (40%)

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第 3 回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第 4 回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第 7 回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第 8 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 9 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 10 回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第 11 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 12 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第 13 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）

必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

BSP200BD

Academic Writing A

中谷 安男

授業コード：A2984 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・説得力があり読者の心を掴む英文がかかるようになる。
 - ・TOEFL や IELTS などのエッセイを楽しみながら書けるようになる
 - ・英語で卒業論文を書く基礎を身に着ける
 - ・持続可能な発達目標（SDG s）の課題に対して理解を深め将来社会に貢献する
- ための当事者意識をたかめる

【到達目標】

- ・ Academic Writing Strategies を身に着け、Coherence や Cohesion を構築し
- 読みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
- ・「自分の意見を述べる」「比較対照を行う」「問題を解決する」という IELTS、TOEFL の 3 つの出題形式のエッセイが書けるようになる
- ・英語論文執筆の基礎を学ぶ
- ・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・アカデミックライティングの演習を行う
 - ・英語で積極的に SDG s の課題をディスカッションする
 - ・テーマによってアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でも
- フィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Flow of Sentences 1	Healthy food 1 SDG 3 Good health and well-being for people
第 2 回	Flow of Sentences 2	Healthy food 2 End focus strategy End weight strategy
第 3 回	Basic Paragraph 1	Food issues 1 SDG 12: Responsible consumption and production
第 4 回	Basic Paragraph 2	Food issues 2 Creating Unity, Topic sentence, Supporting sentence, Example
第 5 回	Developing Coherence 1	Mobile broadband network 1
第 6 回	Developing Coherence 2	Mobile broadband network 2
第 7 回	Guiding Readers 1	AI and Singularity 1
第 8 回	Guiding Readers 2	AI and Singularity 2
第 9 回	Hedges and Boosters 1	Ecotourism 1
第 10 回	Hedges and Boosters 2	Ecotourism 2
第 11 回	Generating Ideas 1	Convenient for who? 1
第 12 回	Generating Ideas 2	Convenient for who? 2
第 13 回	How to attract your readers 1	Starting your essay more attractively 1
第 14 回	How to attract your readers 2	Starting your essay more attractively 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを最低 2 時間予習する。
 授業の復習を最低 2 時間必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 中谷安男

【参考書】

『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』
 中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点（40 %）、小テスト（10 %）、レポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にも理解ができるようにベースを考える。

【学生が準備すべき機器他】

DVD 機器

【その他の重要事項】

出席を特に重視するので毎回出席のこと。

 〈重要〉

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours.

Your grade is evaluated by class contribution (40 %), quizzes (10 %), report (50 %).

BSP200BD

Academic Writing B

中谷 安男

授業コード：A2985 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・読者を効果的に誘導し説得力のある英文が書けるようになる。
- ・長い英文エッセイが書けるようになる
- ・卒業論文や論文を書くトレーニングを行う
- ・持続可能な発達目標（SDG s）の課題理解を通して将来社会に貢献するための問題意識を深める

【到達目標】

- ・論文構成の IMRD の構築方法を身に着ける。
- ・英語論文執筆の効果的な Writing Strategies を学ぶ
- ・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・英語のライティングの演習を行う
- ・英語論文の構成を学ぶ
- ・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Supporting Your Ideas 1	Developing supporting sentences 1
2	Supporting Your Ideas 2	Developing supporting sentences 2
3	Concluding Paragraphs 1	City and Environment 1
4	Concluding Paragraphs 2	City and Environment 2
5	Comparison and Contrast Paragraphs 1	Education for future 1
6	Comparison and Contrast Paragraphs 2	Education for future 2
7	Essay Structure 1	Decent Job 1
8	Essay Structure 2	Decent Job 2
9	Problem Solving Essay 1	Eco-friendly 1
10	Problem Solving Essay 2	Eco-friendly 2
11	The First Step for Academic Papers 1	Solutions and informing benefits 1
12	The First Step for Academic Papers 2	Solutions and informing benefits 2
13	Writing Introduction 1	IMRD
14	Writing Introduction 2	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani, Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店中谷安男

【参考書】

『オックスフォード最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点（40 %）、小テスト（10 %）、レポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎力の構築ができていない学生にも理解ができるようにベースを考える。

【学生が準備すべき機器他】

DVD 機器、インターネット接続

【その他の重要事項】

積極的な授業出席

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn how to write effective academic papers.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours individually.

Your grade is evaluated by class contribution (40 %), quizzes (10 %), report (50 %).

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies A

田中 裕希

授業コード：A2986 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「若者」をテーマに、様々な国の文学作品・映画を分析する。成長物語、ヒッピー文化など、若者まつわるジャンルや文化を学ぶ。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts, and conduct discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will also translate texts of their own choosing and discuss them in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	What is youth culture?
第2回	Elizabeth Bishop, "In the Waiting Room"	Self in the making
第3回	Beat Generation	Youth and freedom
第4回	Creative Writing Workshop	Coming-of-age poems
第5回	<i>The 400 Blows</i>	French New Wave
第6回	<i>The Graduate</i>	New Hollywood
第7回	<i>The Graduate</i>	Youth and experimentation
第8回	Youth and Subculture (1)	Presentations
第9回	Youth and Subculture (2)	Presentations
第10回	Youth and Subculture (3)	Presentations
第11回	Comparative Approach to Japanese Literature (1)	Comparing youth culture in Japan and the US.
第12回	Comparative Approach to Japanese Literature (2)	Japan in the 60s
第13回	Comparative Approach to Japanese Literature (3)	Youth and the city
第14回	Presentations	Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class we will explore the representation of youth culture in literature and film. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on assignments, presentations, and participation (60%) and the final paper (40%).

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies B

田中 裕希

授業コード：A2987 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市」をテーマに、ニューヨークにまつわる文学と映画を見ていく。ニューヨークの文化や歴史的背景をふまえつつ、都市に生きるとはどういうことなのか、また都市特有の文学とは何かを考える。授業後半では東京を舞台にした作品を通じて、都市文学への理解を深める。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	The city in literature and film
第2回	New York School (1)	Art in New York
第3回	New York School (2)	Walking in NYC
第4回	Elizabeth Bishop, "The Man-Moth"	The city and solitude
第5回	<i>The Apartment</i>	Working in the city
第6回	<i>The Apartment</i>	Continued
第7回	Bernard Malamud, "The Jewbird"	Immigrants in NYC
第8回	<i>The Face of Another</i>	Tokyo vs. NYC
第9回	<i>The Face of Another</i>	The crowd and the self
第10回	Sayaka Murata, <i>Convenience Store Woman</i>	The city vs. the countryside
第11回	<i>Convenience Store Woman</i>	Gender and the city
第12回	Thesis Presentations (1)	Presentations
第13回	Thesis Presentations (2)	Presentations
第14回	Conclusion	Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem. They are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will explore the theme of the city by analyzing literary texts and films set in New York City. What are some of the characteristics of city life and how are they represented in these texts? There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on assignments, presentations, and participation (60%) and the final paper (40%).

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島 尚人

授業コード：A2988 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester.

Students' writings will be picked and shared to the class the following week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第2回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第3回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's <i>On the Road</i>
第4回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第5回	Americalization	Family and national identity
第6回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第7回	Social Class	Migrant workers and <i>The Grapes of Wrath</i>
第8回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in <i>Thelma & Louise</i>
第9回	Slavery and African American culture	<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> as travel narrative
第10回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第11回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in <i>Lost in the Translation</i>
第12回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第13回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Family" and "Ethnicity"
第14回	Student Presentations (2)	Student presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)

2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.

Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.

King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%

Presentations: 20%

Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。

履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

LIN200BD

Public Speaking

権名 美智

授業コード：A2991 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3 年

備考（履修条件等）：定員 20 名を超える場合は抽選にて選抜する。

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on developing and improving students' public speaking skills in English by introducing basic technics of public speaking and also by assigning tasks of giving English speeches in the class. Students will deepen their understanding of the linguistic behaviours of public speaking in English by giving speeches themselves and observing their classmates' speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to acquire enough linguistic knowledge and skills to make speech in English themselves in the class, and also critical attitude to evaluate other people's speeches.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The style of the class will be announced by HOPPII. So please check HOPPII every week.

The course consists of lectures and presentations. Reading tasks and preparing a few speeches are required. Since this course mainly consists of students' presentations, the number of the students should be limited to 20 at maximum. Those who would like to take this class should attend the first class as there may be a selection.

You are required to submit a reaction paper every week and I will deal with some of them in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction of the instructor, handing out the syllabi, explanation of grading and attendance policies. Assignment of introductory speeches.
第 2 回	Basic Principles of Speech Communication	Focus class discussion on selected exercises. Explanation of introductory speeches.
第 3 回	Introductory Speeches I	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 4 回	Introductory Speeches II	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 5 回	Speaking to Inform	Assignment of informative speeches: guidelines for informative speaking
第 6 回	Choosing Topics and Purposes	Focus class discussion and lecture on topics and purposes of speeches
第 7 回	Organizing the Body of the Speech	Focus class discussion and lecture on organization of the body of the speech
第 8 回	Introductions and Conclusions	Focus class discussion and lecture on introductions and conclusions
第 9 回	Outlining the Speech	Focus class discussion and lecture on outlining the speech
第 10 回	Delivering the Speech	Focus class discussion and lecture on delivering the speech
第 11 回	Using Visual Aids	Focus class discussion and lecture on using visual aids
第 12 回	Informative Speeches I	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 13 回	Informative Speeches II	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 14 回	Informative Speeches III	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches, we will also review the previous classes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are responsible for doing required reading and tasks before and/or after each class. Preparation for the speech and presentations will be required for credit. You need two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

All the materials will be uploaded at HOPPII. Students need to download and print them as needed.

【参考書】

Any English textbooks related to public speaking

【成績評価の方法と基準】

50%: Classroom participation

50%: Presentation

【学生の意見等からの気づき】

I would like to spend more time for students' presentations.

【その他の重要事項】

The order of the classes above mentioned can be changed in order to accommodate the students' needs.

Office Hour: Thursday 4th period, please send an email for an appointment.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic competence in English so that students can make speeches or presentations in public situations confidently when they start working.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)**ブライアン ウィスナー**

授業コード：A2993, A2994 | 曜日・時限：木 2/Thu.2, 金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】**《重要》**

「英語表現演習 (総合)」の 4 コマに関しては、「事前登録」が 4 月頭 (初回授業日より前) に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2995, A2996 | 曜日・時間：木 2/Thu.2, 金 2/Fri.2
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (総合)」の 4 コマに関しては、「事前登録」が 4 月頭 (初回授業日より前) に実施されるので、受講希望者は必ず期限内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

LIN300BD

言語習得論演習 A

近藤 隆子

授業コード：A3001 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のさまざまな研究事例をみながら、母語の影響、インプットの役割、普遍文法の利用可能性、学習者要因、そして、指導と第二言語習得の関わりについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

【到達目標】

1. 母語獲得、および第二言語習得の理論について説明できる。
2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
3. 第二言語習得の研究事例を理論的枠組みを用いて、分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

基本的に、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイント、ハンドアウトを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。

リアクションペーパー等におけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明・自己紹介
第 2 回	卒論テーマ紹介、論文の執筆に際して	4 年生の卒論研究テーマ紹介、論文の執筆上の注意点など
第 3 回	母語獲得（1）	母語獲得における模倣、誤りの訂正、言語習得能力について（1）
第 4 回	母語獲得（2）	母語獲得における模倣、誤りの訂正、言語習得能力について（2）
第 5 回	学習者の習得順序と外国語の学習法	教科書の指導順序や教授法・学習法に関する 4 つの俗説について
第 6 回	学習者の誤り	学習者言語にまつわる俗説のうち、学習者の誤りについて
第 7 回	まとめ	前半のまとめ
第 8 回	学習者要因	「学習者要因」と言語習得能力の関連について
第 9 回	臨界期仮説（1）	第二言語習得における臨界期仮説に関わる問題について（1）
第 10 回	臨界期仮説（2）	第二言語習得における臨界期仮説に関わる問題について（2）
第 11 回	脳科学からのアプローチ	脳内のしくみと英語学習を結びつけている説について
第 12 回	まとめ	後半のまとめ
第 13 回	卒論中間発表（1）	4 年生の卒論中間発表
第 14 回	卒論中間発表（2）	4 年生の卒論中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと

発表担当者：発表の資料（パワーポイント、ハンドアウトなど）を作成し、二日前までに教員へ送ること

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

白畑知彦（編著）若林茂則、須田孝司（著）. (2004). 『英語習得の「常識」「非常識」』. 東京：大修館書店.

【参考書】

白畑知彦、富田祐一、村野井仁、若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第 3 版』. 東京：大修館書店.

その他、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物（40%）、授業への積極的な参加（担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど）（60%）による総合評価。

・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください

・特別な理由なく演習を 3 回欠席した場合、D 評価となります

【学生の意見等からの気づき】

ペア・グループワークが少なかったために、学生同士の議論があまり活発にできなかった。今年度は、ペア・グループワークをうまく活用し、学生がより主体的に授業に参加し、より深い学びに繋がるように工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・言語習得論演習 B と連続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する 4 年生は、必ず履修して下さい

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of first language acquisition and second language acquisition.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIN300BD

言語習得論演習 B

近藤 隆子

授業コード：A3002 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のさまざまな研究事例をみながら、母語の影響、インプットの役割、普遍文法の利用可能性、学習者要因、そして、指導と第二言語習得の関わりについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

【到達目標】

1. 母語獲得、および第二言語習得の理論について説明できる。
2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
3. 第二言語習得の研究事例を理論的枠組みを用いて、分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

毎回、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイント、ハンドアウトを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。

リアクションペーパーにおけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について、春学期の復習
第 2 回	第二言語習得における語彙・形態素の習得 (1)	第二言語学習者による語彙・形態素の習得に関する先行研究 (1)
第 3 回	第二言語習得における語彙・形態素の習得 (2)	第二言語学習者による語彙・形態素の習得に関する先行研究 (2)
第 4 回	第二言語習得における動詞の習得 (1)	第二言語学習者による動詞の習得に関する先行研究 (1)
第 5 回	第二言語習得における動詞の習得 (2)	第二言語学習者による動詞の習得に関する先行研究 (2)
第 6 回	第二言語習得における名詞の習得 (1)	第二言語学習者による名詞の習得に関する先行研究 (1)
第 7 回	第二言語習得における名詞の習得 (2)	第二言語学習者による名詞の習得に関する先行研究 (2)
第 8 回	まとめ	前半まとめ
第 9 回	卒論発表 (1)	4 年生による卒論研究発表 (1 週目)
第 10 回	卒論発表 (2)	4 年生による卒論研究発表 (2 週目)
第 11 回	教員の研究発表	担当教員による研究発表、質疑応答、フィードバック
第 12 回	3 年生の卒論テーマ発表 (1)	3 年生の卒論テーマ、アウトライン、先行研究の紹介 (1)
第 13 回	3 年生の卒論テーマ発表 (2)	3 年生の卒論テーマ、アウトライン、先行研究の紹介 (2)
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと

発表担当者：発表の資料（パワーポイント、ハンドアウトなど）を作成し、二日前までに教員へ送ること

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

白畑知彦, 富田祐一, 村野井仁, 若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第 3 版』. 東京: 大修館書店.

その他、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物 (40%)、授業への積極的な参加 (担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど) (60%) による総合評価。

・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください

・特別な理由なく演習を 3 回欠席した場合、D 評価となります

【学生の意見等からの気づき】

ペア・グループワークが少なかったために、学生同士の議論があまり活発にできなかった。今年度は、ペア・グループワークをうまく活用し、学生がより主体的に授業に参加し、より深い学びに繋がるように工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・原則として、春学期の言語習得論演習 A と継続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する 4 年生は、必ず履修して下さい

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language, and to provide an introduction to research methods, focusing on the acquisition of verbs.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of first language acquisition and second language acquisition. Furthermore, students will be able to read previous studies critically and design their own research experiment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paper and completed the required assignments. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

HIS100BE

日本史概説 I

古庄 浩明

授業コード: A3101 | 曜日・時限: 水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次: 1~4 年

その他属性: 〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では考古学の成果から復元された日本の原始・古代社会について概観する。受講者には当該期の概要をつかみ、考古学から見た日本の原始古代を大観してもらうことを目的とする。具体的には、旧石器時代から律令国家の成立までを概観して講義する。

【到達目標】

旧石器時代から律令国家の成立までを概観して講義とする。受講者は考古資料を中心として、日本の成り立ちを考古資料に加え『記紀』や当時の国際情勢も考慮して概観し、原始・古代の日本の社会像を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業です。ただし社会情勢などにより、学習支援システムを利用したビデオ配信を行う場合もあります。
 ・授業形態(講義)対面授業は教科書とビデオを見ながら講義ノートを作成していきます。
 ・講義ノートは「古庄浩明の講義ノート <http://wacoffee.blogspot.jp/>」でダウンロードできます。データにはプロテクトがかけられています。プロテクトキーは授業中にお知らせします。
 ・教科書は大学指定の生協で購入できます。お早めに入手なさってください。
 ・質問等に対するフィードバックは授業中に行います。また、学習支援システムによっても受け付けます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	先土器時代(旧石器時代) 1	日本の人骨化石 石器の特徴と編年
第 2 回	先土器時代(旧石器時代) 2	人々の生活 先土器時代の終わり
第 3 回	縄文時代 1	縄文時代の始まり
第 4 回	縄文時代 2	縄文時代の生活基盤
第 5 回	縄文時代 3	精神文化と埋葬
第 6 回	弥生時代 1	農耕のはじまり
第 7 回	弥生時代 2	鉄器と青銅器
第 8 回	弥生時代 3	ムラからクニへ 邪馬台国と卑弥呼
第 9 回	古墳時代 1	古墳とは何か 前方後円墳体制の背景
第 10 回	古墳時代 2	前期古墳 中期古墳 後期古墳
第 11 回	古墳時代 3	前方後円墳体制の終焉
第 12 回	飛鳥時代 1	東アジアの動向
第 13 回	飛鳥時代 2	聖徳太子と推古 大化の改新と天智
第 14 回	飛鳥時代 3	飛鳥時代の終わりと「日本」のはじまり 試験(60分)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストや参考文献などを事前に読んで予習・復習することが望ましい。「古庄浩明の講義ノート」から所定の講義ノートを事前にダウンロードして予習・復習に活用することが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。
 「古庄浩明の講義ノート」<https://wacoffee.blogspot.com/>

【テキスト(教科書)】

古庄浩明 2013 『「日本」のはじまり』(第 2 回改訂発行) 和出版 3000 円 + 税(生協で販売) *必ず改訂版をご購入ください。

【参考書】

古庄浩明 2012 『朝日おとなの学びなおし日本史 考古学が解き明かす古代史』朝日新聞出版社 1400 円 + 税(出版社では売り切れになったそうです。amazon で購入できます。できたら入手なさってください。)

その他、教科書の参考文献欄を参照。皆さんの学習に役立つ参考文献を多く掲載しています。Hiroaki FURUSHO 2022 『Beginning of Japan』wasyuppan ISBN978-9906476-7-4 英語・ロシア語版です。Amazon kindle でデータ版 1446 円・プリント版 3185 円(ドル円レートにより変動)を購入できます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント、テスト(またはレポート) 50 パーセント、合計 100 パーセントで採点する。
 ・講義への集中度や参加度・学習状況によって授業の平常点をつけます。
 ・本授業の最終授業時間に 60 分の期末試験を行います。試験は教科書・ノートは持ち込み可ですが、スマホ・PC などの電子デバイスは特別の事情がない限り持ち込み不可です。詳しくは授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

・プリントを配布して授業を進めるが、すこし作業しないと眠くなるという意見が出たので、穴埋め部分を作った。
 ・対面授業での説明漏れ、解説の間違いを極力減らすため、事前に収録した授業の YouTube を対面授業でも活用する。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・講義ノートのプリントアウト・ネット環境
 Printout of textbooks and lecture notes, Internet environment

【その他の重要事項】

世界史的視野に立った日本史を心がけて授業を進める。高校の世界史・日本史の教科書を理解していることが必要です。

1. 教科書を購入し、下記のアドレスからノートをダウンロードしてください。教科書は大学の生協で購入できます。英語・ロシア語版は kindle で購入してください

2. ノートは{<http://wacoffee.blogspot.com/>}にアクセスしてダウンロードしてください。プロテクトがかかっています。パスワードは授業中にお知らせします。

考古学者。1960 年、熊本県生まれ。法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了。東京国立博物館有史室事務補・土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム学芸員などを歴任。法政大学通信教育部・駒澤大学文学部・国士舘大学 21 世紀アジア学部講師などをつとめる。弥生時代から歴史時代までの、考古学からみる社会構造の研究を進める。近年では中央アジア・ウズベキスタン共和国でシルクロードの調査研究・遺跡保存も行っている。

著作・論文に『Beginning of Japan』wasyuppan 2022、『玄奘とシルクロード』三恵社 2020、『中央アジアの歴史と考古学』三恵社 2019、『考古学の世界』三恵社 2018、『文化財学の基礎』三恵社 2018、『「日本」のはじまり』和出版 2013、『朝日おとなの学びなおし 考古学が解き明かす古代史 日本のはじまりに迫る』朝日新聞出版 2012、『古代における鉄製農具の所有形態』『考古学雑誌』79-3 1994、『土井ヶ浜遺跡の祭祀と社会』『原始・古代日本の祭祀』同成社 2007、『中央アジア・ウズベキスタンにおける遺構保存の現状と課題』『21 世紀アジア学会紀要』7 2009 など、多数。

【Outline (in English)】

In this lecture, the primitive and ancient history of Japan is explained through archaeology. The aim of the lecture is to learn when and how Japanese society was formed.

The lecture will give an overview of the period from the Paleolithic Age to the founding of the Ritsuryo State. Students will be able to survey the formation of Japan by considering archaeological data as well as the chronicle of Japan and the international situation at that time, and understand the picture of the society of primitive and ancient Japan.

It is advisable to prepare for and follow up the lecture by reading the textbook and references. It is advisable to download the prescribed lecture notes from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" in advance and use them for preparation and follow-up. The standard preparation and review time for this course is 4 hours each. Lecture Notes by Hiroaki Furusho" <https://wacoffee.blogspot.com/>
 Grading is based on 50 percent of the regular grade and 50 percent of the test (or report), for a total of 100 percent.

Students will receive a regular grade based on their level of concentration, participation, and progress in the lecture.

A 60-minute final exam will be given during the last class period of this course. Students may bring textbooks and notebooks for the exam, but no electronic devices such as smartphones or personal computers unless there are special circumstances. Details will be explained in class.

HIS100BE

日本史概説Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3102 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法に親しむことを目的とする。

【到達目標】

平安時代後期から鎌倉時代の地理感覚や中国との経済的関係の実態について総合的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごと（第1章から第6章）に計6回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」の「テスト/アンケート」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東アジアの中の日本中世史（1）	履修のガイダンス
第2回	東アジアの中の日本中世史（2）	日本中世史の特質
第3回	東アジアの中の日本中世史（3）	小テスト1
第4回	中世の国土観と境界地域（1）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第5回	中世の国土観と境界地域（2）	小テスト2
第6回	唐船の往来と博多綱首（1）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第7回	唐船の往来と博多綱首（2）	小テスト3
第8回	唐船貿易の構造（1）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第9回	唐船貿易の構造（2）	小テスト4
第10回	平氏政権と唐船貿易（1）	平清盛の外交・貿易政策
第11回	平氏政権と唐船貿易（2）	小テスト5
第12回	銅銭の輸入と流通（1）	渡来銭の流通と社会の変化
第13回	銅銭の輸入と流通（2）	小テスト6
第14回	鎌倉幕府と唐船貿易	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。プリント、ノート等を用いて復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章毎にプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、2013年、初版1999年）
 榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、2010年）
 石井正敏『NHKさかのぼり日本史外交篇8鎌倉「武家外交」の誕生』（NHK出版、2013年）
 山内晋次『NHKさかのぼり日本史外交篇9平安・奈良 外交から貿易への大転換』（NHK出版、2013年）
 大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）
 村井章介・荒野泰典編『新体系日本史5 対外交流史』（山川出版社、2021年）
 その他は、授業の際、各章ごとに指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間が長すぎるといった意見があったため、時間配分に注意する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS100BE

日本史概説Ⅲ

松本 剣志郎

授業コード：A3103 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史は暗記物ではなく、思考を求めるものである。本授業の目的は、受講生が日本近世史について概略的な説明ができるようになることである。それは単なる事件の羅列ではなく、論理の説明でなければならない。歴史的思考力の鍛錬を求める所以である。本授業は日本近世史について概説するものである。戦国乱世を経て、およそ260年の泰平を享受した時代が対象である。とはいえ、仔細にこれを見るならば、そこにさまざまな矛盾を見出すことは容易い。それは表立った政治的な事件の場合もあれば、社会の深部でのうねりであることもある。近世の国家と社会が動いていく大きな方向を見定めていきたい。

【到達目標】

- ①日本近世の特徴を説明できる。
- ②われわれの常識や慣習が歴史につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
- ③江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを發し、受講生学生の意見を求める。Hoppii にアップされた教材を各自プリントアウトして授業に持参すること。あるいはタブレット端末等を持参し、画面上でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容や進め方について
第 2 回	天下人の時代	信長・秀吉・家康
第 3 回	百姓世界	百姓成立（なりたち）
第 4 回	武士の変容	戦士から官僚へ
第 5 回	元禄時代	西鶴の眼
第 6 回	大江戸の光と影	荻生徂徠と武陽隠士
第 7 回	享保改革	商品貨幣経済
第 8 回	宝暦—天明期	絶対主義への傾斜
第 9 回	文人の時代	漢詩・俳諧・和歌・絵画
第 10 回	金次郎と尊徳	関東農村荒廃
第 11 回	内憂外患の時代	天保期の事態
第 12 回	世直し	希求された世の中
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に適宜参考文献を示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書）
藤井謙治ほか『シリーズ日本近世史』1～5（岩波新書）
そのほか授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

声の大きさには気をつけますが、前の方に座ることを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces early modern history of Japan to students taking this course. At the end of the course, participants are expected to describe the characteristics of early modern history of Japan. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS100BE

日本史概説Ⅳ

内藤 一成

授業コード：A3104 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治維新から昭和の終わりまで、日本近現代史を概観する。政治、経済、外交をめぐる主要な出来事だけでなく、庶民の暮らしや、都市や農村の文化など、さまざまな側面に注目しながら多面的かつ重層的に論じることで、歴史に対する理解を深めていく。

【到達目標】

①日本史についての基本的な流れを理解する。②歴史を暗記中心でなく、各時代を生きた人々の哀歓に思いを寄せながら思考できるようになる。③歴史的な視点をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとり、板書とパワーポイントを併用する。適宜、史料等を配布し、参照する。授業の理解度を確認するため、小テストやレポートを課す場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	幕末	幕末の政治と社会について
第 3 回	明治（1） 復古と革新	明治維新と新政府の近代化政策について
第 4 回	明治（2） 近代化と世相	近代国家の建設をめぐる地域や人びとについて
第 5 回	明治（3） 立憲国家の創設	憲法制定をめぐる政府や民間の葛藤について
第 6 回	明治（4） 日清・日露戦争	明治国家が経験した二つの対外戦争について
第 7 回	明治（5） 「一等国」の栄光と不安	日露戦争後の政治と社会について
第 8 回	大正（1） 大正「デモクラシー」	第一次世界大戦後の政治と社会について
第 9 回	大正（2） 政党政治の光と影	大正後半から昭和前期にかけて展開された政党政治について
第 10 回	昭和（1） 世界大恐慌と激動する国際関係	恐慌と満州事変をめぐる国際関係の変化について
第 11 回	昭和（2） 戦争と人びと	盧溝橋事件から第二次世界大戦の終結まで
第 12 回	昭和（3） 戦後復興から高度成長へ	戦後政治のあゆみと経済復興について
第 13 回	昭和（4） 時代としての「戦後」	戦後日本社会の形成と展開について
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布するプリントには必ず目を通しておく、授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。本授業の準備学習、復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要なテキストがある場合には、適宜指示する。

【参考書】

『日本政治史』（有斐閣）、『シリーズ日本近現代史』全 10 巻（岩波新書）、『現代日本政治史』全 5 巻（吉川弘文館）※高校時代に使用した日本史の教科書を折に触れ読み返し、予習復習に役立ててもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できる IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
 ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
 ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course gives an overview of modern Japanese history from the Meiji Restoration to the end of the Showa era. I will focus not only on the main issues related to politics, economy, and diplomacy, but also on various aspects such as the lives of ordinary people and the culture of cities and rural areas. The purpose of this course is to deepen the understanding of history.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to understand the historical transition of Japan.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the text distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS100BE

東洋史概説 I

塩沢 裕仁

授業コード：A3105 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では東アジアにおける文明の発生から前漢の崩壊までの王朝の歴史や地域空間の変化を講じます。初めて東洋史を学ぶ学生にも、東洋史を学ぶことの意義を理解してもらいたいと思います。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸と“見える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋史の意義	現在の東アジア状況
第 2 回	東アジアの空間構成	東アジアの地域区分
第 3 回	文明とは	一元論と多元論
第 4 回	新石器時代の意義	新石器の集落展開
第 5 回	草創期の国家とは	王朝の誕生
第 6 回	邑制国家論	殷王朝の意義
第 7 回	封建国家とは	周と封建制度
第 8 回	地域観の成立	春秋時代の諸問題
第 9 回	分裂期の意義	戦国時代の諸問題
第 10 回	領域国家とは	都市国家と秦統一前史
第 11 回	統一国家とは	秦の統一と諸改革
第 12 回	漢帝国成立の意義	漢の登場とその性格
第 13 回	漢帝国拡大の影響	漢帝国の拡大と変容
第 14 回	秦漢代の社会	秦漢代の社会と民衆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮瀧・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On studying Chinese History and Customs change with the times from the beginning of civilization to the collapse of West Han-Dynasty, we will be able to understand importance of study on Oriental History.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS100BE

東洋史概説Ⅱ

塩沢 裕仁

授業コード：A3106 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では春学期（東洋史概説Ⅰ）の内容を踏まえ、後漢より三国、魏晋南北朝、隋の成立までの東アジア地域の歴史を講じます。東アジア地域の農耕・遊牧民族の性格や仏教文化などを再認識する場にしたいと考えています。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし「覚える歴史」ではなく「考える歴史」を講じていきたいと考えています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	豪族社会とは	後漢王朝の性格
第2回	曹操が構築したもの	曹操政権の性格
第3回	新時代の支配層とは	貴族制の成立
第4回	魏晋の民族問題	三国志の興亡と遊牧民族の登場
第5回	遊牧民族国家の意義	五胡十六国の興亡
第6回	鮮卑勃興の要因とは	部族制の克服
第7回	千年帝国論	北魏帝国の成立と変容
第8回	仏教の興隆	雲崗と龍門
第9回	隋唐時代への流れⅠ	北魏の分裂
第10回	隋唐時代への流れⅡ	北周から隋へ
第11回	江南王朝の意義	南朝諸王朝の興亡
第12回	貴族制の限界	南朝貴族制の変容
第13回	稀代の都建康	江南文化の熟成
第14回	東アジアの国際関係	古代日本と大陸交渉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上に不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮瀧・山田信夫著、法律文化社、1995年版）、『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）などに目を通して置いてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On studying the Chinese History and the Customs change with the times from East Han-Dynasty to the birth of Sui-Dynasty, we will be able to understand the difference between Agricultural and Nomadic cultures and realize the Buddhist culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS100BE

東洋史概説Ⅲ

宇都宮 美生

授業コード：A3107 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的な事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方学ぶ。質問に関しては授業中随時受け付け、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第 2 回	隋による国家統一	隋の成立と文帝の政治
第 3 回	隋の繁栄と衰退	煬帝の時代
第 4 回	隋と周辺民族	高句麗・西域との関係
第 5 回	隋から唐へ	唐王朝の成立とその背景
第 6 回	唐の成熟と国際文化	則天武后から玄宗へ
第 7 回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第 8 回	唐の衰亡	牛李党争から黄巢の乱へ
第 9 回	唐と周辺諸地域	遣唐使、羈縻支配、節度使
第 10 回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第 11 回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第 12 回	党派の争い	王安石と司馬光
第 13 回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第 14 回	遼・金の建国と華北支配	北宋との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントを配布する。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016 年
 富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016 年
 愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
 『中国の歴史（全集叢書）』4～7 巻、講談社、2005 年
 その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Sui to Northern Song Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end Examination (70%)

HIS100BE

東洋史概説Ⅳ

宇都宮 美生

授業コード：A3108 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。南宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニクを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方 歴史と日常生活
第 2 回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第 3 回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第 4 回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第 5 回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第 6 回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第 7 回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第 8 回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第 9 回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第 10 回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第 11 回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第 12 回	ヨーロッパの進出と戦乱	アヘン戦争から義和団事件へ
第 13 回	清の文化	中国の伝統とヨーロッパの科学
第 14 回	清の衰退	西太后から宣統帝へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016 年

富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016 年
愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) とレポート (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE

西洋史概説 I

内田 康太

授業コード：A3109 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メソポタミア文明とエジプト文明の誕生からローマによる統一に至るまでの地中海を取り巻く世界の歴史を概説し、古代地中海世界という歴史世界が形成されていく過程を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・古代オリエント世界、古代ギリシア世界、ヘレニズム世界それぞれの歴史に関する基礎的知識を習得する。
- ・それぞれの世界が相互に関連して古代地中海世界を作り上げていく経緯を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、講義内容の区切りの良いところでリアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	西洋古代史研究の方法と射程
第 2 回	古代オリエント世界（1）	メソポタミア文明の誕生と盛衰
第 3 回	古代オリエント世界（2）	エジプト文明の誕生と盛衰
第 4 回	古代オリエント世界（3）	二大文明の狭間で
第 5 回	古代オリエント世界（4）	アケメネス朝ペルシアの興亡
第 6 回	古代ギリシア世界（1）	エーゲ文明の誕生・繁栄・崩壊
第 7 回	古代ギリシア世界（2）	ポリス社会の成立と発展
第 8 回	古代ギリシア世界（3）	ペルシア戦争とポリス社会の隆盛
第 9 回	古代ギリシア世界（4）	ペロポネソス戦争とポリス社会の変質
第 10 回	ヘレニズム世界（1）	マケドニア王国の興隆
第 11 回	ヘレニズム世界（2）	アレクサンドロス大王の東方遠征
第 12 回	ヘレニズム世界（3）	ヘレニズム諸王国の成立と繁栄
第 13 回	ヘレニズム世界（4）	ローマの到来とヘレニズム世界の終焉
第 14 回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006 年。

本村凌二／中村のい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80 %）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the history of the ancient mediterranean world from the birth of Mesopotamia and Egypt to the establishment of Roman hegemony. It also helps students learn how this world was formed throughout its history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of the ancient Orient, ancient Greece and the Hellenistic world.
- Students are able to explain how the ancient mediterranean world was formed by these three affecting each other.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE

西洋史概説Ⅱ

内田 康太

授業コード：A3110 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ世界の誕生から終焉に至るまでの歴史をヨーロッパ中世世界への接続も射程に入れて学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・古代ローマの歴史に関する基礎的知識を習得する。
- ・古代ローマにおける社会構造の変質や転換を「断絶」だけでなく「連続」という観点からも説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、講義内容の区切りの良いところでリアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	古代ローマのはじまり
第2回	共和政（1）	王政の崩壊と共和政の誕生
第3回	共和政（2）	地中海世界の覇権をめぐって
第4回	共和政（3）	「内乱の1世紀」
第5回	共和政（4）	ユリウス・カエサルと共和政の終焉
第6回	元首政（1）	アウグストゥスと共和政の存続、あるいは、帝政の樹立
第7回	元首政（2）	ユリウス・クラウディウス朝からフラウィウス朝へ
第8回	元首政（3）	五賢帝の治世と「ローマの平和」
第9回	元首政（4）	軍人皇帝時代／3世紀の危機
第10回	専制君主政（1）	ディオクレティアヌス以後の帝国再編成
第11回	専制君主政（2）	キリスト教の迫害と保護
第12回	専制君主政（3）	ゲルマン人の進出と西ローマ帝国の滅亡
第13回	専制君主政（4）	古代ローマ世界の終焉とヨーロッパ中世世界の成立
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006年。

本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the history of ancient Rome from its birth to the end with an eye on the connection to the Medieval Europe.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of ancient Rome.

- Students are able to explain the structural changes in the Roman society, not only from the aspect of 'separation', but also from the aspect of 'continuity'.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE

西洋史概説Ⅲ

高澤 紀恵

授業コード：A3111 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アンシャン・レジーム社会からフランス革命に至る経緯を通して、主権国家、憲法、国民主権、政治的自由、政教分離など現代社会の基底にある諸制度が西ヨーロッパで成立した過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

ヨーロッパ近世・近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察できる複眼的視点の獲得を到達目標とする。具体的には、フランス革命がもたらした変化の意味を世界的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせる。ディスカッションは、事前に課題資料とテーマを提示するので、学生は自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめてグループ・ディスカッションにのぞむこと。レポートは、ディスカッション後に提出のこと。毎回、リアクションペーパーの提出を求める。レポート、リアクションペーパーへのフィードバックは、次の授業の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近世・近代ヨーロッパと現代社会との繋がり
第 2 回	近世ヨーロッパ政治社会	その複合性について
第 3 回	アンシャン・レジーム (1)	教会と王権
第 4 回	アンシャン・レジーム (2)	官僚制と暴力
第 5 回	アンシャン・レジーム (3)	お金のうごき
第 6 回	ディスカッション	特権の体系とその矛盾をめぐって
第 7 回	フランス革命への道	世論と身分制議会
第 8 回	フランス革命 (1)	議会と民衆運動
第 9 回	フランス革命 (2)	91 年体制と憲法
第 10 回	ディスカッション	国王処刑をめぐって
第 11 回	フランス革命 (3)	ヨーロッパのなかのフランス革命
第 12 回	フランス革命 (4)	独裁と暴力
第 13 回	フランス革命 (5)	終焉はいつ？
第 14 回	まとめ	フランス革命・ヨーロッパ・日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションについては、一週間前までに必要な資料が配付されるので、必ずよく読み、自分の意見を A4 一枚程度のレポートにまとめてディスカッションにのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず。適宜、資料を配付する。

【参考書】

高澤紀恵「『自由』をめぐる葛藤」歴史学研究会編『世界史 20 講』岩波書店、2014 年。
 歴史学研究会編『世界史史料集 6』岩波書店、2007 年。
 山崎耕一『フランス革命―「共和国」の誕生』刀水書房、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
 エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

リーディングを予め配布するスタイルでのディスカッションに加えて、史料を読む度に出来れば毎回短く学生同士でディスカッションすることが有益で授業を活性化することに気づきました。オンライン授業を余儀なくされた期間も、毎回、課題を出した上でのグループ・ディスカッションを行うことができました。2023 年度もできるだけこの方法を続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに課題などの提出を求めることがありますので、パソコンを使える環境が望ましいです。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to help students understand the European institutions that underpin the contemporary world by studying French history from the Ancient Régime to the Revolution. This course consists of lectures and discussions. I expect students to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the discussion. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・ Term-end examination (60%), and short reports and in-class contributions (40%)

HIS100BE

西洋史概説Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3112 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスを中心に 19 世紀ヨーロッパにおける社会的・経済的・政治的変動プロセスを通して、国民国家、ナショナリズム、帝国主義、ポピュリズムなど現代社会に連なる諸現象が西ヨーロッパで生じた過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

ヨーロッパ近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察しうる複眼的視点の獲得を到達目標とする。フランスを軸に、ナポレオンの登場から第三共和政の成立までにヨーロッパ世界の内外で生じた変化を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とグループ・ディスカッションを組み合わせる。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業の冒頭で口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近代ヨーロッパの形成とその遺産
第 2 回	ナポレオンの登場	ナポレオンとヨーロッパ
第 3 回	ウィーン体制と復古王政	ウィーン体制下のフランスとヨーロッパ
第 4 回	七月革命	出来事とインパクト
第 5 回	産業化と新しい思潮	自由主義と社会主義
第 6 回	ディスカッション	民衆の政治参加をめぐる
第 7 回	1848 年革命	出来事とインパクト
第 8 回	第二共和政	共和政は根付くのか
第 9 回	第二帝政	理念と変容
第 10 回	ディスカッション	幕末・明治の日本人は何を見たのか？
第 11 回	普仏戦争とパリ・コミューン	パリとフランス
第 12 回	第三共和政と国民統合	統合と排除
第 13 回	第三共和政と帝国主義	文明化の使命の行く末
第 14 回	まとめ	ヨーロッパからの視点、アジアからの視点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションについては、事前に資料を配付するので、資料を熟読の上、出された課題について自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめ、ディスカッションに持参すること。グループ・ディスカッション後にこのレポートは提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず。適宜、資料を配付する。

【参考書】

歴史学研究会編『世界史史料集 6』岩波書店、2007年。
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵（編）『新しく学ぶ西洋の歴史——アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年。
授業のスタイルに応じて課題などの pdf を Hoppi にアップすることがあります。注意して下さい。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40%）、エッセイ形式の期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

事前に配布した史料を読んでディスカッションするスタイルに加えて、毎回用いる史料を基に短くとも学生同士で議論することが、授業を活性化することに気づきました。今年度もその方式を続けたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course Outline & Learning Objectives)

This course, focus on French history in the 19th century, aims to help students understand the contemporary issues like nationalism, populism, imperialism, and so on. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the discussion. Your study time will be more than four hours for a class. (Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following: Term-end examination (60%), and short reports and in-class contributions (40%)

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3113, A3856 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学の歴史について理解することを目的とする。日本考古学がどのような学術をたどって成立してきたかを理解し、日本考古学の現状と課題を理解する。

【到達目標】

日本考古学の成り立ちを理解し、現在の考古学の学問的位置と状況について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は授業中および学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムで行う。授業では資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。プリントを授業中に配布する場合もある。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	近代以前の考古学	考古学以前
	近代日本考古学の誕生	大森貝塚とモース
第 3 回	民族論	コロボックルと 先住民族
第 4 回	実証主義の萌芽	層位学 弥生土器の発見 古墳時代
第 5 回	大正時代の考古学	鳥居龍藏 喜田貞吉
第 6 回	型式学のはじまり	濱田耕作 松本彦七郎
第 7 回	実証的研究	加曾利貝塚 姥山貝塚
第 8 回	旧石器論争	国府遺跡 直良信夫と明石原人
第 9 回	弥生文化の研究	様式論
第 10 回	科学的歴史研究	ひだびと論争 社会構成体論
第 11 回	縄文土器と弥生土器の編年研究	山内清男 森本六爾
第 12 回	戦後の日本考古学	岩宿遺跡と登呂遺跡 相沢忠洋
第 13 回	ニューアーケオロジー（プロセス考古学）と考古学の現在	ルイス・ビンフォード
第 14 回	総括 期末試験（60分）	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料やノート・参考書等をよく読み、各時代の研究の流れを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

勅使河原彰 1995 『日本考古学の歩み』 名著出版

古庄浩明 2013 『「日本」のはじまり－考古学から見た原始・古代』 和出版

Hiroaki FURUSHO 2022 『Beginning of Japan』 kindle

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料やノートをよく読み、時代背景も鑑みて学術を理解してほしい。現代の学術的解釈だけではなく、できるだけその時代の論文や図録を使って、当時の研究者の文章や図版に触れ、時代背景とともに解説するようにした。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど） 資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to understand the history of Japanese archaeology. To understand how Japanese archaeology has been established through its academic history, and to understand the current status and issues of Japanese archaeology.

Understand the origins of Japanese archaeology and be able to explain the current academic position and status of archaeology.

Classes will be conducted in lecture format. On-demand lectures may be given depending on the situation. Distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be conducted in class and through the learning support system. Specifically, students will be asked to submit assignments to the learning support system, and feedback will be sent back to each student via the learning support system. Questions and answers will be provided in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (<https://wacoffee.blogspot.com/>). They are protected, and the protection key will be provided in class. Printed materials may be distributed in class. Students are required to submit a small report after each class. Students should carefully read the distributed materials, notes, and reference books to understand the flow of research in each period.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each. 50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

HIS200BE

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身に付けましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容の説明
第 2 回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第 3 回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第 4 回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第 5 回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第 6 回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第 7 回	承和の変の前奏	淳和朝・仁明朝の政治状況
第 8 回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第 9 回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第 10 回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第 11 回	源氏と藤原氏	源氏の左大臣と藤原氏の右大臣
第 12 回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第 13 回	阿衡の紛議	昌泰の変へ
第 14 回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容は必ずぶん違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということ述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第 5 巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）
中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of "The Heian period and the aristocracy". This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における 16～17 世紀は中世から近世へと社会が変容する時期であり、日本における城郭もその時期に確立する。「普請」という言葉をキーワードとして、中世城郭から近世城郭への進化の過程を政治史的に跡付け、併せて当該期の日本の政治・社会の在り方を考える。

【到達目標】

16～17 世紀の城郭建設を通じて政治・経済・社会の変容を学び、併せて当該期史料の読解の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前もって城郭建設に関連する史料のプリントを配布し、参加者には史料の音読と解釈をしてもらう。それに対して訂正・補足説明（フィードバック）して、さらにその内容を参考史料を提示しながら解説する。併せてそれぞれの史料が持つ城郭史における意義を政治・社会の状況と関連付けて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業テーマ・進め方について説明する。
第 2 回	中世の「普請」	「普請」という言葉の原義などについて解説する。
第 3 回	戦国大名の城郭建設と「普請役」①	戦国大名武田氏の事例について解説する。
第 4 回	戦国大名の城郭建設と「普請役」②	その他の戦国大名の事例について解説する。
第 5 回	織田信長の城郭建設と「普請役」	織田信長の城郭建設と京都での普請について解説する。
第 6 回	豊臣秀吉の城郭建設と「普請役」	豊臣秀吉の国内での城郭建設（大坂城・肥前名護屋城・伏見城など）について解説する。
第 7 回	豊臣秀吉の朝鮮出兵と城郭建設	朝鮮半島南岸に建設された倭城について解説する。
第 8 回	徳川家康の天下統一	豊臣政権から徳川政権への移行を解説する。
第 9 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設①	江戸城の建設について解説する。
第 10 回	江戸城の巡見	江戸城の堀・石垣を実地見学する。
第 11 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設②	駿府城の建設について解説する。
第 12 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設③	名古屋城の建設について解説する。
第 13 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設④	大坂の陣後の大坂城再築について解説する。
第 14 回	まとめ	中世城郭から近世城郭への過程をおさらいする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料読解の予習・復習が必要である。（合計 2 時間程度）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、史料プリントを配布する。

【参考書】

及川亘「名古屋御城石垣絵図を読む」（名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告 3 史料調査研究報告書 1、2022 年）
同「「公儀御普請」―現場監督する大名」（『城郭史研究』41 号、2022 年）
北原糸子『江戸城外堀物語』ちくま新書、1999 年
斎藤慎一・向井一雄『日本城郭史』吉川弘文館、2016 年
白峰旬『日本近世城郭史の研究』校倉書房、1998 年
同『豊臣の城・徳川の城』校倉書房、2003 年
『日本名城集成 江戸城』小学館、1986 年
『日本名城集成 名古屋城』小学館、1985 年
『日本名城集成 大坂城』小学館、1985 年
『大御所徳川家康の城と町』（駿府城関連史料調査報告書）静岡市教育委員会、1999 年
など

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験（またはレポート）50 % で評価する。積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、参考史料なども提示しながらそれらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The 16th and 17th centuries in Japan was a period of social transformation from the Middle Ages to the modern age, and castles in Japan were also established during this period. With the word "fushin" as a keyword, We trace the process of evolution from medieval castles to modern castles in political history, and consider the state of Japanese politics and society during that period

【Learning Objective】

Through the construction of castles in the 16th and 17th centuries, learn about the transformation of politics, economy, and society, and at the same time learn the basics of reading historical materials of the period.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 2 hours of preparation and review of reading comprehension of historical materials is required.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on 50% of the average score and 50% of the final exam (or report).

Expect active class participation.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代人の記した文章を読み、そこから当時の生活や社会の仕組み、江戸時代人の常識や思考方法などを読み取ろうとする授業である。ここでは旗本森山孝盛（1738～1815）の記した「蟹の焼藻の記」を素材とする。学生には活字史料を読む訓練ともなるだろう。

【到達目標】

- ①活字史料を読みこなし、適切に現代語訳することができる。
- ②人名や語句について適切な辞書を用いて調べることができる。
- ③史料に基づいて旗本の生活について説明できる。
- ④史料に基づいて江戸時代の社会や制度について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用した形式の授業とする。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。学生は必ず予習として、日記の次回授業分を読み、人物や不明な語について調べておくこと。授業時に指名して発表してもらおう。質問等に対するフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	旗本と森山孝盛について
第 2 回	幼少期の学問	テキスト 201～205 頁
第 3 回	経済事情	テキスト 206～210 頁
第 4 回	養子と学問	テキスト 211～215 頁
第 5 回	出世と賄賂	テキスト 216～220 頁
第 6 回	御徒頭として	テキスト 221～225 頁
第 7 回	風雅の道	テキスト 226～230 頁
第 8 回	定信の登場と打ちこわし	テキスト 231～235 頁
第 9 回	目付として	テキスト 236～240 頁
第 10 回	目付として（続）	テキスト 241～245 頁
第 11 回	関東筋川々普請見分へ	テキスト 246～250 頁
第 12 回	火附盗賊改加役として	テキスト 251～255 頁
第 13 回	寛政 10 年の時点から	テキスト 256～263 頁
第 14 回	まとめと試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み込むこと。不明な人物は『寛政重修諸家譜』で、語句は『国史大事典』『日本国語大辞典』（第 2 版）で調べること。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「蟹の焼藻の記」（『日本随筆大成』2 期 22 巻、吉川弘文館、1995 年所収）

【参考書】

『自家年譜』上中下（内閣文庫影印叢刊、1994～5 年）

『日本都市生活史料集成』2 巻（学習研究社、1977 年）

『徳川幕臣人名辞典』（東京堂出版、2010 年）

小川恭一『江戸の旗本事典』（講談社、2003 年）

松本剣志郎「自家年譜（寛政 3 年正月～6 月）解題」（『法政史学』99 号、2023 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces documents of vassal of Tokugawa shogunate to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical document. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

HIS200BE

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、立憲政治の観点から、立法院を中心に読み解いていく。帝国議会は貴族院と衆議院により構成されるが、本講義では、特に貴族院に注目して考察をはかる。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史を立憲政治の観点から理解する。②帝国議会を構成する貴族院・衆議院について、特に前者の役割について理解を深める。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	日本における議会制の導入	欧米の議会制度と日本での導入をめぐる議論について論じる
第 3 回	憲法の制定と帝国議会の発足	大日本帝国憲法の制定と帝国議会について考察する
第 4 回	初期議会	初期議会の政府と帝国議会について考察する
第 5 回	藩閥と政党	藩閥政府と議会の関係を考察する
第 6 回	桂園時代	桂園時代の歴代政権と帝国議会の関係について考察する
第 7 回	転換期としての大正	大正政変とその後の政治の推移について帝国議会の見地から考察する
第 8 回	大正デモクラシー	原敬内閣の誕生を機に起きた帝国議会の変化を考察する
第 9 回	政党内閣期	第二次護憲運動後に到来した政党内閣期における帝国議会について考察する
第 10 回	昭和初期の政治	昭和初期、政党政治が揺らぐなかでの帝国議会のあり方を考察する
第 11 回	軍部の台頭と帝国議会	軍部が台頭するなか、帝国議会のあり方を考察する
第 12 回	大戦下の議会	第二次世界大戦下における帝国議会について考察する
第 13 回	帝国議会から国会へ	第二次世界大戦後、帝国議会から国会への変遷を考察する
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『議会制度百年史』全 12 巻、『貴族院』（同成社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」I）である。

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。

・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。

・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines the modern era of Japan with a focus on the Imperial Diet. In particular, I will focus on the character of the House of Peers and the role it played in history. What is particularly important in this course is the correct and historical understanding of the development of modern Japanese history and constitutional politics. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding modern Japanese history through the development of constitutional politics.

- B. Deepening understanding of the role of the Imperial Diet centered on the House of Peers.

- C. Get clues to think about the continuity of history.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「昭和」という時代 (1)	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第 2 回	「昭和」という時代 (2)	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第 3 回	「昭和」という時代 (3)	メディアと政治について討論する。
第 4 回	外務省と軍部 (1)	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第 5 回	外務省とメディア (2)	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第 6 回	昭和初期の外務省と外交官 (1)	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第 7 回	昭和初期の外務省と外交官 (2)	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第 8 回	山東出兵と日本外交 (1)	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第 9 回	山東出兵と日本外交 (2)	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第 10 回	満州事変と日本外交 (1)	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第 11 回	満州事変と日本外交 (2)	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第 12 回	満州事変と日本外交 (3)	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第 13 回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第 14 回	試験・まとめと解説：昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行い、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
 配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年））
 増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
 井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
 川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
 劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
 劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
 劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、平常点 3 割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
 Term-end examination: 50%, Short reports :30%, in class contribution: 20%.

HIS300BE

日本考古資料学 I

阿部 朝衛

授業コード：A3119 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。春学期では土器を中心に行います。

【到達目標】

土器の製作・使用にかかわる属性を理解し、先史時代人の細部の意識と行動を推定できる能力を身に付け、同時に土器の所属時期を判断できる基礎的基準を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

土器や石器などの実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や拓本、写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験も行います。これによって有用な情報を確認します。まさしく見る目を養います。遺物とは情報の集合体です。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な知識と技術を身に付けることとなります。

基本的に室内での作業です。室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。

作業中では常時、質問を受け付けます。また、各自の進行状況・達成度に従って適宜アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・土器研究方法・縄の撚り方
第 2 回	動作研究と縄づくり	縄の撚り方修得と縄・動作の名称
第 3 回	縄文原体作成 1	1・2 段の縄
第 4 回	縄文原体作成 2	3 段の縄、撚り戻し
第 5 回	縄文原体作成 3	合わせ撚り
第 6 回	縄文原体作成 4	結束・結節の縄
第 7 回	縄文原体作成 5	撚り糸文、組紐
第 8 回	土器の文様復元	縄文原体と圧痕の対応関係の確認、および土器片の模様の復元
第 9 回	土器の理解と表現 1	土器の観察と実測
第 10 回	土器の理解と表現 2	土器の外形と実測
第 11 回	土器の理解と表現 3	土器の模様の実測
第 12 回	土器片の理解と表現 1	土器片の観察
第 13 回	土器片の理解と表現 2	土器片の拓本
第 14 回	総括	レポート作成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館などで考古学資料の観察を行ってください。また、研究室にある発掘調査報告書の中で考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討してください。授業時間外で資料を用いた作業を行う場合、教員や史学科室員の指示にしたがって行動してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いませんが、必要な資料はコピーして配布します。参考文献などは随時、教室で紹介します。

【参考書】

参考文献などは随時、教室で紹介します。また参考とする資料はコピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果（縄文原体、実測図、拓本）およびレポートで評価し、平常点は 30 %、作業結果・レポートは 70 % とします。作業結果は各授業で製作したもの、レポートはそれら製作物についての記述とします。各テーマの作業量はかなり多いので、欠席が多いとレポートを提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

【学生の意見等からの気づき】

具体的資料の操作には慣れていないので、小テーマの最初の授業はゆっくり行います。抽出した要素とその意味は、論文等の関連で解説します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具等は各自が準備してください。

【その他の重要事項】

土器や石器は本物ですので、遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい資料ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。実測用具・トレス用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することになります。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明をし、その後、遺物や道具を使っての作業に入りますので、遅刻をして他者に迷惑をかけないようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this class is to learn the observation viewpoints and methods of relics, which are the basis of archeology. In the previous term, we mainly handle earthenware.

Learning objectives

The purpose is to understand the attributes related to the production and use of earthenware and to acquire the ability to estimate the consciousness and behavior of prehistoric people. It also aims to acquire the basic ability to judge when the pottery belongs.

Learning activities outside of classroom

Observe archaeological materials at museums. Also, refer to the archaeological research report in the Archaeological Laboratory to consider how the archaeological materials contain information.

Grading criteria/policy

Grades are evaluated based on normal points, work results (Jomon cord, figure, rubbing) and reports. Grades are distributed at 30% for normal scores and 70% for work results and reports.

HIS300BE

日本考古資料学Ⅱ

阿部 朝衛

授業コード：A3120 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。秋学期は石器を中心に行います。また、写真撮影技術・図版作成方法などの、論文における基礎的表現技術を学ぶことも目的とします。

【到達目標】

石器の製作、使用にかかわる属性を理解し、観察結果の表現方法（文章、図、写真）を修得します。それによって石器製作・使用にかかわる先史時代人の意識と行動を理解できる能力を身に付け、同時に石器の名称、所属時期を判断できる基礎的能力を修得します。

資料を直接観察する時間が少ない場合、石材獲得に係わる旧石器時代人・縄文時代人の行動形態にも焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験を行う予定です。これによって有用な情報を確認します。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な技術を身に付けることとなります。

室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを3、4時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。ある石器製作技術を習得するのに、手本を見せるだけと、手本を見せて同時に言葉で説明するという二つの方法で学習実験を行ったら、両者に差がなかったという結果が報告されています。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。なお、受講生が多い場合は、写真撮影等の時間は減らします。

オンライン授業が長引いた場合、石材の種類、日本列島での分布、獲得方法についても焦点をあてます。できるだけ写真資料等をオンライン授業では使います。

対面授業の作業では常時、質問を受けつけます。また、各自の進行状況・達成度にしたがって適宜アドヴァイスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画・石器研究方法
第2回	石器製作実験	原石の打ち割り
第3回	石器使用実験	剥片で切断作業
第4回	石核・剥片接合作業	原石（母岩）分類と石核・剥片の接合
第5回	剥片剥離の順番復元	接合剥片の打撃の順番の理解
第6回	剥離工程の理解	原石の粗割り、打面作成・調整、目的剥片剥離などの工程把握
第7回	剥片石器の実測 1	測量方法の原理
第8回	剥片石器の実測 2	図の展開と輪郭線の描き方
第9回	剥片石器の実測 3	剥離面の境界線の理解
第10回	剥片石器の実測 4	リング、フィッシャーの意味と表現
第11回	磨製石器の実測 1	製作工程の理解
第12回	磨製石器の実測 2	研磨痕、使用痕の抽出と表現
第13回	遺物写真撮影	簡易写真場での具体的資料の撮影
第14回	総括	作業結果の点検とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館を訪れ、考古学資料の観察を行ってください。研究室にある発掘調査報告書等を見て、石器資料の情報化の在り方を検討してください。授業時間外で実習室・資料を使う場合、教員ないし史学科室員の指示にしたがって作業してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

今年は大学内で実物資料を観察する時間が短くなると予想されますので、博物館等の見学をおすすめします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いませんが、必要資料はコピーして配布します。

【参考書】

適宜、指示します。関連資料はコピーし配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果およびレポートで評価します。配分は、平常点30%、作業結果・レポート70%です。作業結果は、実測図・トレース・写真を重視し、レポートはそれらで取り扱った石器の記述とします。欠席が多いとレポートは提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

【学生の意見等からの気づき】

実物の取り扱いに慣れていないので、小テーマの最初の授業の説明はゆっくりと行います。資料の観察と理解を重視しますので、受講人数によっては、写真撮影の時間は多めに取ります。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具等は各自で準備してください。

【その他の重要事項】

遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい遺物ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。しかし、実験石器は剃刀のように切れますので十分な注意が必要です。実測用具・トレース用具・撮影用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することにします。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明し、その後、遺物・道具を使つての作業となりますので、遅刻しないようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this class is to learn the observation viewpoints and methods of relics, which are the basic materials of archeology. In the second half, stone tools will be used as teaching materials.

Learning objectives

The purpose is to understand the attributes related to the production and use of stone tools and to learn how to express observation results. At the same time, the purpose is to acquire the ability to judge the name and age of stone tools.

Learning activities outside of classroom

Observe archaeological materials at museums. Also, refer to the archaeological research report in the Archaeological Laboratory to consider how the archaeological materials contain information.

Grading criteria/policy

Grades are evaluated based on normal points, work results and reports. Grades are distributed at 30% for normal scores and 70% for work results and reports.

HIS300BE

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『続日本紀の史科学』と題して講義を行います。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができる。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を条口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	続日本紀とはどのような史料か？
第 2 回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 3 回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第 4 回	天平二年の太政官奏（3）	わずか 31 文字の史料の“奥行”
第 5 回	慶雲元年の公解銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 6 回	慶雲元年の公解銀（2）	公解銀から見えてくるもの
第 7 回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第 8 回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対する理解
第 9 回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第 10 回	紫微内相と兵権（1）	天平宝字元年五月丁卯条の紹介
第 11 回	紫微内相と兵権（2）	紫微内相の性格分析
第 12 回	奈良から平安へ	藤原仲麻呂政権の評価
第 13 回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 14 回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事を含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はぜひぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に平凡社『続日本紀』、現代思潮社『続日本紀』があります。一般啓蒙書として、中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 % です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。“自分で考える”がキーポイントです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史
 〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制
 〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『謀反』の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi”. This course introduces “shokunihongi” and the way of wrestle Japanese history to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand how to make a new approach to problems. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read one of reference books introduced to tell the difference between it and my lecture. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS300BE

日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書読解入門	近世史科学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領取書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引ながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書読解辞典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ベリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書解読辞典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近代史料学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第 3 回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第 4 回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第 5 回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第 6 回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第 7 回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第 8 回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第 9 回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第 10 回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第 11 回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第 12 回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第 13 回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通して置く。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆隆編『近代日本研究入門 [増補版]』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史 30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全 5 巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何が出来るか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

（Course outline）

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials.

（Learning Objectives）

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

（Learning activities outside of classroom）

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和 12 年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係を何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第 2 回	史料で学ぶ日中戦争と外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第 3 回	史料で学ぶ日中戦争と外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第 4 回	史料で学ぶ外交官と戦争 (1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第 5 回	史料で学ぶ外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第 6 回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交 (1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第 7 回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交 (2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第 8 回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交 (3)	占領地政権問題を日記で考える。
第 9 回	史料で学ぶ終戦外交 (1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第 10 回	史料で学ぶ終戦外交 (2)	外交記録で終戦を読む。
第 11 回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第 12 回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交 (2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第 13 回	史料で学ぶ日中国交回復とアジア外交の新展開	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第 14 回	試験・まとめと解説：近代日本のアジア外交	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）

劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50%）、試験（50%）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS300BE

日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】

2 年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3 年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、レポートの研究発表も実施する。

毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。

レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第 2 回	論文講読発表 (1)	文献解題と討論 (1)
第 3 回	論文講読発表 (2)	文献解題と討論 (2)
第 4 回	論文講読発表 (3)	文献解題と討論 (3)
第 5 回	論文講読発表 (4)	文献解題と討論 (4)
第 6 回	論文講読発表 (5)	文献解題と討論 (5)
第 7 回	研究発表 (1)	卒業論文に関連する研究発表 (1)
第 8 回	研究発表 (2)	卒業論文に関連する研究発表 (2)
第 9 回	研究発表 (3)	卒業論文に関連する研究発表 (3)
第 10 回	論文講読発表 (6)	文献解題と討論 (6)
第 11 回	論文講読発表 (7)	文献解題と討論 (7)
第 12 回	論文講読発表 (8)	文献解題と討論 (8)
第 13 回	論文講読発表 (9)	文献解題と討論 (9)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
第 15 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
第 16 回	論文講読発表 (10)	文献解題と討論 (10)
第 17 回	論文講読発表 (11)	文献解題と討論 (11)
第 18 回	論文講読発表 (12)	文献解題と討論 (12)
第 19 回	論文講読発表 (13)	文献解題と討論 (13)
第 20 回	論文講読発表 (14)	文献解題と討論 (14)
第 21 回	研究発表 (4)	卒業論文に関連する研究発表 (4)
第 22 回	研究発表 (5)	卒業論文に関連する研究発表 (5)
第 23 回	研究発表 (6)	卒業論文に関連する研究発表 (6)
第 24 回	論文講読発表 (15)	文献解題と討論 (15)
第 25 回	論文講読発表 (16)	文献解題と討論 (16)
第 26 回	論文講読発表 (17)	文献解題と討論 (17)
第 27 回	論文講読発表 (18)	文献解題と討論 (18)
第 28 回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】

佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全 9 巻)、コリン・レンフルー、ポール・バーン/池田裕ほか訳 (2007) 『考古学 理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2 年生から 4 年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods.

Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

HIS300BE

日本古代史演習

小口 雅史

授業コード：A3129 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代国家の骨格が形成された 8 世紀の律令時代について、国家によって編纂された正史である『続日本紀』と、世界史の奇跡といわれる「正倉院文書」という二大史料群をもとに、それら文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。『続日本紀』については北方史関係史料を、「正倉院文書」については土地経営関係史料を主たるテーマにして実施します。

【到達目標】

二つの史料群を素材に、文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていますから、それをいかに取り除いて実態に迫れるかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは史料上に書かないという特徴があります。その時代の人間になりきって、いかにその古文書を読み解いて、当時の社会を再構成できるかが勝負です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に 1 回ごとに参加者 1 人が報告し、それをもとに参加者全員で議論を行います。個別の担当史料を律令法典や同時代の文学作品をも参考にしながら、その正確な読みから日本古代社会の実態を復原する方法を取得できるよう工夫してもらいます。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていることもありえるのでそれをいかに取り除くかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは書かないという特徴がありますから、いかにその時代の人間になりきって古文書を読めるようになるかが重要な論点となるはずですが。

発表へのフィードバックについては、次の授業の初めに、前回の授業で提出資料からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの運営方針、担当配分など
第 2 回	『続日本紀』解題	『続日本紀』の特徴について
第 3 回	史料 361 を読解する	送渤海使とは何か
第 4 回	史料 362 を読解する	唐使入朝について
第 5 回	史料 363 を読解する	渤海国王の書簡を検討する
第 6 回	史料 364 を読解する	古代の騎兵について
第 7 回	史料 365 を読解する	異民族鉄利について
第 8 回	史料 366、367 を読解する	陸奥税布について
第 9 回	史料 368 を読解する	渤海使の航路について
第 10 回	史料 369、370 を読解する	古代の通事について
第 11 回	史料 371 を読解する	古代の飛駅について
第 12 回	史料 372～374 を読解する	古代の胆沢について
第 13 回	史料 375 を読解する	配流について
第 14 回	まとめ	古代北方史の特質について
第 15 回	演習内容を理解する	正倉院文書の性格、担当割当確認
第 16 回	正倉院解題	正倉院文書の特徴について

第 17 回	史料集成 14 を読む	秦広人の特性について
第 18 回	史料集成 15 を読む	越前国司による取引について
第 19 回	史料集成 18 を読む	生江息嶋の経営について
第 20 回	史料集成 20 を読む	道守徳太理の経営について
第 21 回	史料集成 21 を読む	生江国立の役割について
第 22 回	史料集成 22 を読む	足羽郡書生の役割について
第 23 回	史料集成 25 を読む	古代の運送業者について
第 24 回	史料集成 26 を読む	画師池守の行動について
第 25 回	史料集成 27 を読む	道守徳太理の特性について
第 26 回	史料集成 47 を読む	古代の売券の特徴について
第 27 回	他田日奉部神護書簡を読む	古代の人事申請文書について
第 28 回	天平の社会改革の総括	古文書を通じてわかったこと、すなわち天平時代とはどのような時代であったのか、その特徴をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはかなり難解なので、発表者は言うまでもないが、他の参加者も事前に必ず担当テキストを熟読しておくこと。司会担当者、コメンテーターは、進行の仕方を事前に検討し、また発表内容についての疑問点をあらかじめリストアップしておくこと。本授業の準備・復習時間は標準的には各 2 時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『青森県史』資料編古代 I・『青森県史資料編古代 I 補遺』（いずれもコピーで可）

『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）

【参考書】

『続日本紀（前篇）』新訂増補国史大系（吉川弘文館）・新日本古典文学大系『続日本紀』（岩波書店）／『令義解』新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『律令』日本思想大系・新装版（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常のゼミ内での活動から判断する。発表内容では古典籍・古文書写真からの文字の解説・判定についての、パソコンを用いた正確な翻刻実習の成果も判定の対象とする。担当の史料を正確に読めるかどうかをもっとも重要なポイントとなる。それに加えて夏休みにはブレ卒論として、レポート作成に取り組んでもらう。ゼミでの発表内容が 75%、ゼミ内での質疑応答が 25% の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本古文学史の知識が予想以上に欠けているので、その点について配慮する

【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムにアップされたレジュメを画面に投影しながらゼミをすすめます。パソコンで古代史料を適切に組み上げる能力を鍛えてください。

【その他の重要事項】

このゼミは卒論を執筆するための準備の場です。全ての作業が卒論に直結しています。夏休みにはミニ卒論も書いてもらいます。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66
2007 年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : On the 8th century of Japan, based on the two major historical materials named "Shoku-nihongi" and "Shosoin documents", we will study.

Learning Objectives : For the "Shoku-Nihongi", we extract and analyze Northern History in ancient Japan. Regarding "Shosoin documents", we will carry out with the main theme of land management. We will aim to become readable.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting . Your study time will be more than five hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Grading will be decided based on lab reports (85 %), and the quality of the students' experimental performance in the lab (15 %).

HIS300BE

日本中世史演習

大塚 紀弘

授業コード：A3130 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世史料の日本漢文を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

日本漢文で書かれた中世の史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史跡や博物館を見学する機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」または「メール」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第2回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と調べ方の解説
第3回	『吾妻鏡』講読（1）	読解・考察の報告と議論
第4回	『吾妻鏡』講読（2）	読解・考察の報告と議論
第5回	『吾妻鏡』講読（3）	読解・考察の報告と議論
第6回	『吾妻鏡』講読（4）	読解・考察の報告と議論
第7回	『吾妻鏡』講読（5）	読解・考察の報告と議論
第8回	『吾妻鏡』講読（6）	読解・考察の報告と議論
第9回	『吾妻鏡』講読（7）	読解・考察の報告と議論
第10回	『吾妻鏡』講読（8）	読解・考察の報告と議論
第11回	『吾妻鏡』講読（9）	読解・考察の報告と議論
第12回	『吾妻鏡』講読（10）	読解・考察の報告と議論
第13回	『吾妻鏡』講読（11）	読解・考察の報告と議論
第14回	鎌倉幕府と都市鎌倉	講読・議論内容の総括
第15回	自由発表（1）	研究または論文批評の報告と議論
第16回	自由発表（2）	研究または論文批評の報告と議論
第17回	自由発表（3）	研究または論文批評の報告と議論
第18回	自由発表（4）	研究または論文批評の報告と議論
第19回	自由発表（5）	研究または論文批評の報告と議論
第20回	自由発表（6）	研究または論文批評の報告と議論
第21回	自由発表（7）	研究または論文批評の報告と議論
第22回	自由発表（8）	研究または論文批評の報告と議論
第23回	自由発表（9）	研究または論文批評の報告と議論
第24回	自由発表（10）	研究または論文批評の報告と議論
第25回	自由発表（11）	研究または論文批評の報告と議論
第26回	自由発表（12）	研究または論文批評の報告と議論
第27回	自由発表（13）	研究または論文批評の報告と議論

第28回 日本中世史研究の課題 報告・議論内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表1週間前までに論文をコピーおよびスキャン（またはダウンロード）し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。発表後、レジュメを修正し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。春学期末、秋学期末の2度、所定の課題についてのレポートを執筆し、期限内に「学習支援システム」の「課題」から提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『吾妻鏡』講読では、「学習支援システム」の「教材」から、講読する部分のコピー（PDFファイル）を配布する。自由発表では、担当者が「学習支援システム」の「掲示板」を通じて、対象論文（原則としてPDFファイル）を配布する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点56%（宿題提出28%、発言28%）、発表点22%（春学期11%、秋学期11%）、学期末レポート点22%（春学期11%、秋学期11%）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ5回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく1度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「掲示場」に発表レジュメ、対象論文等を掲示したり、ダウンロードしたりすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students read the medieval Chinese texts. The goals of this course are to train the ability to understand the contents deeply. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 22%, in class contribution: 78%.

HIS300BE

日本近世史演習

松本 剣志郎

授業コード：A3131 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることをまずは目的とする。ついで先行する研究論文の批判的な読解力を身につけることを目指す。そのうえで、学生がそれぞれに深めていく研究テーマを、論理的かつ適切な表現を用いて発表する能力を獲得することを最終的な到達目標とする。歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。そのみならず歴史学は積み重ねの学問であるから、先行研究の正確な理解のうえで、これに対する自らの立場を明らかにすることが必要である。こうして本授業は、適切に課題を把握し、これを実証的に解決していく能力の養成を図っていくものとなる。なお、夏休みには地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を、春休みには受講生全員の卒論報告会を実施する合宿を予定している。

【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。
- ⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
- ⑥研究論文を批判的に読むことができる。
- ⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。春学期は、まず『江戸町触集成』の史料についてグループ毎に発表する。つぎに概ね 2000 年以降の学術雑誌掲載の近世史の論文をグループ毎に講読する。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。発表の際に教師は課題に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの説明
第 2 回	近世史研究入門	研究テーマの見つけ方
第 3 回	図書館の使い方	図書館ガイダンス
第 4 回	史料講読（1）	江戸町触集成 1 号
第 5 回	史料講読（2）	江戸町触集成 2 号
第 6 回	史料講読（3）	江戸町触集成 3 号
第 7 回	史料講読（4）	江戸町触集成 4 号、ほか
第 8 回	論文講読（1）	政治史研究
第 9 回	論文講読（2）	社会史研究
第 10 回	論文講読（3）	文化史研究
第 11 回	論文講読（4）	村落史研究、ほか
第 12 回	個人発表（1）	4 年生の卒論発表
第 13 回	個人発表（2）	3 年生の卒論構想発表
第 14 回	個人発表（3）	2 年生の夏休みレポート発表
第 15 回	3 年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第 16 回	3 年生研究発表（2）	先行研究の取扱い
第 17 回	3 年生研究発表（3）	史料批判の方法
第 18 回	3 年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第 19 回	3 年生研究発表（5）	論理展開の方法
第 20 回	3 年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第 21 回	3 年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり
第 22 回	2 年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第 23 回	2 年生研究発表（2）	先行研究の取扱い
第 24 回	2 年生研究発表（3）	史料批判の方法
第 25 回	2 年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第 26 回	2 年生研究発表（5）	論理展開の方法
第 27 回	2 年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第 28 回	2 年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『江戸町触集成』（塙書房）。購入する必要はなく、図書館や史学科書庫にあるものから該当ページをコピーすればよい。

【参考書】

『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】

1 報告（40%）。担当者は、レジュメを作成し、出席者に配布する。2 レポート（40%）。3 質疑応答（20%）。グループ割りをするので、第 1 回および第 2 回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the early modern history of Japan. It also enhances the development of student's skill in making oral presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following presentation:40%, report:40%, and in class contribution:20%.

HIS300BE

日本現代史演習

柏木 一郎

授業コード：A3134 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代史に関する史料と論文を読解し、日本近現代史の理解を深め、歴史の研究方法を学ぶ。

【到達目標】

- * 史料の読解力と先行研究をまとめて整理する力を身につける。
- * 図書館、博物館、文書館等が所蔵する史料・文献をリサーチする方法を身につける。
- * レジューメ、レポート、論文を作成するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大正期から戦後の高度経済成長期にかけての近現代日本の政治、軍事、外交、社会、経済、教育、文化の諸問題について検討する。

テキスト『岩波講座 日本歴史 近現代 1-5』掲載の大正・昭和時代に関連する論文を輪読する。

【春学期】受講生はグループに分かれ、それぞれ担当する論文について報告をおこなう。

【秋学期】受講生自らテーマを設定し研究、発表をおこなう。受講生の報告に対する講評、改善方法などの指摘、助言をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス【春学期】	自己紹介、年間スケジュール、役割分担の確認 班分け 報告の順番決定
第 2 回	学術論文講読	指定した『講座 日本歴史 近現代』所収論文を輪読する。
第 3 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告①	グループ発表 質疑応答
第 4 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告②	グループ発表 質疑応答
第 5 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告③	グループ発表 質疑応答
第 6 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告④	グループ発表 質疑応答
第 7 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑤	グループ発表 質疑応答
第 8 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑥	グループ発表 質疑応答
第 9 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑦	グループ発表 質疑応答
第 10 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑧	グループ発表 質疑応答
第 11 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑨	グループ発表 質疑応答
第 12 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑩	グループ発表 質疑応答
第 13 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑪	グループ発表 質疑応答
第 14 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑫	グループ発表 質疑応答
第 15 回	ガイダンス【秋学期】	秋学期スケジュール確認、報告順番決定
第 16 回	個別報告①	報告と質疑・討論
第 17 回	個別報告②	報告と質疑・討論
第 18 回	個別報告③	報告と質疑・討論
第 19 回	個別報告④	報告と質疑・討論
第 20 回	個別報告⑤	実地見学・調査
第 21 回	個別報告⑥	報告と質疑・討論
第 22 回	個別報告⑦	報告と質疑・討論
第 23 回	個別報告⑧	報告と質疑・討論
第 24 回	個別報告⑨	報告と質疑・討論
第 25 回	個別報告⑩	報告と質疑・討論
第 26 回	個別報告⑪	報告と質疑・討論
第 27 回	個別報告⑫	報告と質疑・討論
第 28 回	個別報告⑬	報告と質疑・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- * 受講生は、選択論文の精読、論点の整理など討論に参加する準備を整え授業にのぞむこと。
- * 本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 『岩波講座 日本歴史 近現代 1-5』（第 15-19 巻）岩波書店、2014・2015 年
- * 法政大学図書館所蔵
- * グループで選択した論文及び関連論文を参照。

【参考書】

- 山内昌之他編『日本近現代史講義』中央公論新社、2019 年
- 小風秀雅編『大学の日本史 4 近代』山川出版社、2016 年
- 古川隆久『昭和史』筑摩書房、2016 年
- 筒井清忠編『昭和史講義 2』筑摩書房、2016 年
- 筒井清忠編『昭和史講義』筑摩書房、2015 年
- 伊藤隆他編『近代日本研究入門（増補版）』東京大学出版会、2012 年
- 鳥海靖他編『日本近現代史研究事典』東京堂出版、1999 年
- その他、授業内で適宜、紹介。

【成績評価の方法と基準】

- 授業態度（意欲・授業にのぞむ姿勢・積極性）30 %
- 担当した報告の内容 30 %
- 平常点（予習復習、質疑応答、討論への参加）40 %

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文の指導は、個別指導の他、ゼミの時間内に団体指導として適宜おこないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンなどの情報機器

【その他の重要事項】

必要に応じて学習支援システムを適宜利用する。

【Outline (in English)】

We will read papers on modern Japanese history, deepen understanding of it and learn how to study history.

Acquire the ability to read historical materials and group and organize previous research.

Acquire the ability to research historical materials and literature in libraries and museums.

Acquire the skills to create resumes, reports and papers.

Students should prepare to participate in the class, such as reading the elective thesis carefully and organizing the issues.

Basically, the time for class preparation and review is 2 hours each.

Class attitude "Motivation, attitude for class, Aggression" 30%

Contents of the report which you are charged in. 30%

Normal points "preparation and review for class, Q and A, participation in discussions." 40%

HIS200BE

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。

現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第 8 回	中国考古学の成果、検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第 9 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 10 回	ボロロ族の集落構造	レヴィ・ストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 11 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 12 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 13 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第 14 回	春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。

また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

毎回、学習支援システムの課題欄に提出された 200 字程度の小レポート、および回数提出を課すレポート（600 字）で評価する。前者・後者をそれぞれ 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することと心がけます。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けず。また学習支援システムの「お知らせ」欄に E メールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋中世史

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニクを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	水問題	水問題と学習の意義
第 2 回	河川史 1	黄河
第 3 回	河川史 2	長江
第 4 回	河川史 3	渭水
第 5 回	河川史 4	洛水
第 6 回	運河史 1	運河の構造
第 7 回	運河史 2	運河の発展
第 8 回	穀倉	穀物の運搬と保管
第 9 回	船舶史	船舶の種類と発展
第 10 回	水軍史	水上の軍事行動
第 11 回	農業史	灌漑と水車
第 12 回	庭園 1	庭園の種類と発展
第 13 回	庭園 2	皇室庭園
第 14 回	水害	災害と防災

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS300BE

東洋史外書講読 I

塩沢 裕仁

授業コード：A3139 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

[Outline (in English)]

[Course outline and Learning Objectives] On reading basic and various Chinese historical records for doing research on Chinese history, we will aim to gain more understanding on Chinese history and be able to see an issue from various perspectives.

[Learning activities outside of classroom] Need two hours in a day.

[Grading Criteria /Policy] Based on class performance 70 percent and term paper 30 percent.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東洋史を研究していく上で不可欠な漢文史料読解の訓練を行います。

基本的かつ様々な種類の漢文史料講読を通じて、東洋史研究への理解を深めることが目的です。東洋史研究で用いる史料に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方ができるようになります。

【到達目標】

史料として馴染みの薄い漢文の史料ですが、単に史料を読み進めていくだけでなく近年増加する考古資料との関わりを考えることによって、より身近なものにすることができます。また、初期段階にある個人が、史料の講読練習を積み重ねることによってより高みを目指すとともに、東洋史への興味関心を増大させ、特講や演習への理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

史料の読解練習と近年増大する考古学の成果などを踏まえた解説とを交互に行います。史料は『三国志』関羽列伝、『睡虎地秦簡』法律答問、『水経注』という異なる性格の史料を用いますが、平易かつ歴史的に有名なところを選定していますので、興味を持って参加していただくことを勧めます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講読に必要な入門書・辞書類の紹介並びに訓読基本の解説
第 2 回	テキスト（正史）講読 I	『史記』の史料性について
第 3 回	テキスト（正史）講読 II	『史記』の講読 1
第 4 回	テキスト（正史）講読 III	『史記』の講読 2
第 5 回	テキスト（正史）講読 IV	『史記』の講読 3
第 6 回	テキスト（正史）講読 V	『史記』の講読 4
第 7 回	テキスト（簡牘）講読 I	簡牘に関する説明と研究の現状
第 8 回	テキスト（簡牘）講読 II	『睡虎地秦簡』法律答問の講読 1
第 9 回	テキスト（簡牘）講読 III	『睡虎地秦簡』法律答問の講読 2
第 10 回	テキスト（地理書）講読 I	『水経注』の解説
第 11 回	テキスト（地理書）講読 II	『水経注』黄河編の講読 1
第 12 回	テキスト（地理書）講読 III	『水経注』黄河編の講読 2
第 13 回	テキスト（地理書）講読 IV	『水経注』黄河編の講読 3
第 14 回	テキスト（地理書）講読 V	『水経注』黄河編の講読 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を活用することで漢文を学んだことがなくとも十分に対応ができると思いますので、積極的な予習を期待します。また、史料の読解と内容への理解を深めるため、博物館や展示会には頻繁に出掛け自分の目で遺物を観察してもらいたいと思います。

特定の教科書は使用しませんが、『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）と『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）には目を通しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

専門書や大型の辞書などの書籍については個人で購入することは困難です。授業中に収蔵場所などを示しますので、図書館などを積極的に活用し予習するようにしてください。

【その他の重要事項】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅱ

宇佐美 久美子

授業コード：A3140 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における移民史研究に関する英語文献を輪読していく。さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。
単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようになる。
特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身に付ける。
移民史研究についての基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業形式で、インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を講読する。

毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。

さらに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト紹介	テキスト配布など
第 2 回	英文論文読解の基本事項の説明	テキスト講読
第 3 回	インド洋西海域史研究の概略	テキスト講読
第 4 回	移民史研究の概略	テキスト講読
第 5 回	インド洋の自然環境と航海技術	テキスト講読
第 6 回	14 世紀までのインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 7 回	15～16 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 8 回	17～18 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 9 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト講読
第 10 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト講読
第 11 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (3)	テキスト講読
第 12 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト講読
第 13 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト講読
第 14 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (3)	テキスト講読／小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。
進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。
固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。
和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。
復習時には類出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は第 1 回の授業で決定し配布する。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006 年
古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会 2000 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80 %) と最終講義における小テスト (20 %) を総合して成績を決定する。

平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。

小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。

単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

【学生の意見等からの気づき】

「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」という意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。

難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。

教員との連絡用メールアドレスは下記のとおり。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The students are required to read an English thesis dealing the historical development of community networks and the maritime trade activities in the western part of the Indian Ocean.

They are provided the opportunity to speculate historiography, especially on the historical studies of the immigrant communities or 'slavery/ slave trade' in various areas.

At the end of the course, students are expected to read the English thesis from the perspective of historians, examining its context carefully.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the text. Your study time will be about four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(20%) and in-class contribution(80%).

HIS200BE

西洋古代史

内田 康太

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前 6 世紀～前 1 世紀）における公職選挙」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた公職選挙のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。
・共和政ローマにおける公職選挙について基礎的知識を習得する。
・一次資料の扱い方を習得し、公職者の選出に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第 12 回・第 13 回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、適宜リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ローマ共和政と公職選挙
第 2 回	公職のしくみ	諸公職の機能と公職階梯（クルスス・ホノーラム）
第 3 回	公職選挙のしくみ（1）	トリプス民会／平民会
第 4 回	公職選挙のしくみ（2）	ケントゥリア民会
第 5 回	クリエンテラ	庇護する者（パトロヌス）と庇護される者（クリエンス）
第 6 回	選挙運動（1）	固定票の保持をめぐる
第 7 回	選挙運動（2）	浮動票の獲得をめぐる
第 8 回	選挙不正	賄賂の分配とその効果
第 9 回	対立候補	共和政末期（前 1 世紀）における競争の激化と票の分散
第 10 回	秘密投票	導入の経緯とその効果
第 11 回	優先投票	優先投票ケントゥリア（ケントゥリア・プラエロガティウァ）の役割
第 12 回	投票者（1）	だれが投票したのか？
第 13 回	投票者（2）	どのように投票したのか？
第 14 回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳）、岩波書店、1978 年。
島田誠『世界史リブレット 3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997 年。
長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80 %）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of elections in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning elections in the Roman Republic.
- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of elections.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋中世史

大貫 俊夫

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ヨーロッパ中世社会においてシトー会が果たした役割とその意義を包括的に論じるものである。シトー会は 1098 年にフランス・ブルゴーニュ地方に創建されたシトー修道院を母体とし、12 世紀を通じて爆発的に拡大した修道会である。ベネディクト戒律を遵守する修道士は、理念としては禁域内で祈りの生活を送るものとされたが、実態としては農村・都市の別なく様々な領域で社会と接触し、社会の構成要素として不可欠の役割を果たしていた。講義では毎回、そうした様相を最新の研究と具体的な史料によってわかりやすく提示していきたい。

【到達目標】

1. ヨーロッパ中世史に関する基礎的知識を習得する。
2. シトー会を通じてキリスト教修道制がヨーロッパ中世社会に及ぼした影響を考察する。
3. 社会の各領域の変化が相互に関連していることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第 2 回	キリスト教修道制とは何か	キリスト教修道制とは何かについて論じます。
第 3 回	シトー会の成立とその問題 (1)	シトー会の成立とその問題について論じます。
第 4 回	シトー会の成立とその問題 (2)	シトー会の成立とその問題について論じます。
第 5 回	修道会としてのガバナンス	修道会としてのガバナンスについて論じます。
第 6 回	クレルヴォーのベルナルとシトー会の拡大	クレルヴォーのベルナルとシトー会の拡大について論じます。
第 7 回	シトー会修道院での修道生活	シトー会修道院での修道生活について論じます。
第 8 回	シトー会修道院と教会権力	シトー会修道院と教会権力の関係について論じます。
第 9 回	シトー会修道院と世俗権力	シトー会修道院と世俗権力の関係について論じます。
第 10 回	シトー会修道院とグランギア	シトー会修道院が経営する所領（グランギア）について論じます。
第 11 回	シトー会修道院と農村社会の関係	シトー会修道院と農村社会の関係について論じます。
第 12 回	シトー会修道院と都市社会の関係	シトー会修道院と都市社会の関係について論じます。
第 13 回	シトー会と司牧	シトー会と司牧の関係について論じます。
第 14 回	シトー会と女性	シトー会と女性の関係について論じます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：授業内容を振り返る。

本授業の復習時間は 1 回あたり 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

杉崎泰一郎『修道院の歴史』（創元社、2015 年）

K. S. フランク『修道院の歴史』（教文館、2002 年）

ルイス・J. レッカイ『シトー会修道院』（平凡社、1989 年）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）

中間課題（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will discuss the role and significance of the Cistercian Order in European medieval society.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand the Cistercian Order in European medieval society, and consider the interrelationship between monasticism and secular social life.

Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

HIS200BE

西洋近代史

島田 顕

授業コード：A3145 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を理解するうえで、欠かすことのできないロシアの、近現代における政治・社会的発展を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国からロシア革命を経て第二次世界大戦に至るまでのロシア近現代史を概観する。

【到達目標】

ロシアの近代化過程を、主に政治・社会史の観点から検討し、さらにロシアの近代化がその後の政治・社会、国際関係・国際社会に与えた様々な影響を理解する。ロシアという国家の歴史的に積み重ねられてきた特徴を理解し、他国と比較・考察する視角を習得するとともに、ロシア近現代史の経験を近代世界全体の中に位置づける作業を通じて、現代の国際関係・国際社会における問題を考える土台とすること。本講義で身につけた知識をもとに、現代の国際関係・国際社会における問題を現在だけでなく、将来においても自分自身で考え、主体的に学び続けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まずロシアの非西欧的特質について触れる。つづいて、ロシアが近代化の過程の中で得たもの（資本主義的生産、市民社会）、また前近代の克服（農奴制、共同体）の過程、社会主義思想の受容と独自の運動の展開を紹介する。第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての国際社会の動きのなかで、ロシアが果たした役割、ロシアの行動の影響について概括する。

関連のビデオ教材も使用する。講義レジュメは、学習支援システム Hoppii を通じてあらかじめ配布する。受講生はレジュメをダウンロードし、講義中に利用できるようにしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、近代とは何か	近代とは何かを概観する。
第 2 回	ロシアの非西欧的性格	ロシアの非西欧的性格を概観する。
第 3 回	共同体・農奴制と農奴解放	ロシアの農村共同体と農奴制、農奴解放について概観する。
第 4 回	社会主義・共産主義とは何か	社会主義の系譜、インタナショナル、空想的社会主義と科学的社会主義、社会主義と共産主義の違いについて概観する。
第 5 回	ロシアの革命思想とロシアの社会主義運動	ロシアの革命思想とロシアの社会主義運動、特にナロードニキとロシア・マルクス主義について概観する。
第 6 回	帝国主義と第一次世界大戦	ロシアの資本主義の発展、帝国主義的進出、第一次世界大戦におけるロシアの動きについて概観する。
第 7 回	レーニンとロシア革命	ロシア革命と内戦・干渉戦争、ロシア革命以降のソ連の状況について概観する。
第 8 回	革命後のロシアと世界	レーニンの死からスターリン主義化までのロシアの動きについて概観する。
第 9 回	ロシア革命以降のソ連外交	戦間期ソ連外交について概観する。
第 10 回	コミンテルン	コミンテルンと人民戦線戦術、ソ連外交との関連について概観する。
第 11 回	スターリン主義と大粛清	スターリンの独裁と大粛清について概観する。
第 12 回	リトヴィノフと集団安全保障外交	リトヴィノフと集団安全保障外交、そしてその終焉、独ソ不可侵条約までのソ連の動きを概観する。
第 13 回	第二次世界大戦とソ連・ロシア	第二次世界大戦でやったこと、ソ芬戦争、ポーランド分割、カチンの森事件、シベリア抑留、戦後復興を概観する。
第 14 回	まとめ：冷戦と社会主義体制の強化	これまでの講義の流れをまとめ、戦後冷戦期におけるソ連の動き、さらにポスト冷戦期の動きを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントを読み、わからない語句等を参考書、インターネット等で調べておくこと。

講義の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

授業中、もしくはプリントにおいて全体に対するフィードバックを行う。また各講義開始前、もしくは終了後に質問を受けつける。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布する資料プリントを使用する。

【参考書】

参考文献は随時講義中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

講義中に課する課題の提出（60%）と学期末定期試験（40%）により総合的に評価する。

なお成績評価の割合（%）は一応の目安であり、詳細は受講状況を見ながら講義中に提示する。受講者の学習意欲、積極性を大いに評価するので、任意のレポート、講義・ビデオの感想等を歓迎する。講義中の携帯と私話を禁止する。単位認定には定期試験の受験を要件とする。定期試験期間中の試験となるため、試験日に受験できるようにすること。

7 回以上の欠席、課題 7 回以上の未提出は定期試験受験資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

In order to understand the current international situation, we will study the political and social development of Russia in modern times from various perspectives. This lecture provides an overview of the modern history of Russia, from the Russian Empire through the Russian Revolution to World War II.

(Learning activities outside of classroom)

Read the handouts and look up any words or phrases you do not understand in reference books or on the Internet.

Work on the assignments presented in the lectures, review and prepare for them. The standard time for preparation and review for this lecture is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Comprehensive evaluation is based on the submission of assignments given during lectures (60%) and final examinations at the end of the semester (40%).

Note that the grade evaluation ratio (%) is only a guideline, and details will be presented during the lecture while observing the attendance status. We highly value the willingness and enthusiasm of the students to learn, so we welcome any reports, impressions of the lectures and videos, etc. Mobile phones and private conversations are prohibited during lectures.

Taking regular exams is a requirement for credit certification. Since the exam will be held during the regular exam period, please be prepared to take the exam on the exam date.

If you are absent 7 or more times and do not submit 7 or more assignments, you will lose your eligibility to take the regular examination.

HIS200BE

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史の変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義、ファシズム等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。

・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。

・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通じて全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明
第 2 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 3 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 4 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国 (1)	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国 (2)	アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
・小沢弘明『東欧における地域とエトノス』歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.

・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40 %）および筆記試験（60 %）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2 冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価をしないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.

HIS300BE

西洋史外書講読 I

内田 康太

授業コード：A3147 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた西洋史関係の学術文献を精読することにより、読解に必要な様々な基礎的技術・知識を学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。
・英文の意味を正確に理解できること。
・学術文献の構造や論理展開を正確に理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、古代ギリシアの民主政と現代の民主主義を比較して論じた英語文献を精読する。各受講生は、自身の担当として割り当てられたテキストの指定箇所について事前に日本語訳を作成・提出する。訳読担当以外の受講生は、提出された日本語訳を検討したうえで授業に臨み、訳語・訳文の正確性や文献の内容、あるいは、他の疑問点等に関して質問・コメントする。そのため、訳読担当者だけでなく受講生全員が毎回、訳読予定の範囲について十分に予習しておくことが必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明と訳読担当箇所の決定
第 2 回	序論	文献の概要と目的
第 3 回	民主政の価値基準（1）	古代民主政の場合
第 4 回	民主政の価値基準（2）	現代民主主義の場合
第 5 回	民主政の価値基準（3）	「平等」の解釈をめぐって
第 6 回	民主政の諸制度（1）	アテナイ民主政の国制（1）
第 7 回	民主政の諸制度（2）	アテナイ民主政の国制（2）
第 8 回	民主政の実践（1）	アテナイ民主政の民衆と政治家（1）
第 9 回	民主政の実践（2）	アテナイ民主政の民衆と政治家（2）
第 10 回	民主政の比較	古代民主政と現代民主主義の相違点
第 11 回	古代民主政研究の現代的意義（1）	「民主政の価値基準」の観点から
第 12 回	古代民主政研究の現代的意義（2）	「民衆の政治参加」の観点から
第 13 回	古代民主政研究の現代的意義（3）	「民主政の多様性」の観点から
第 14 回	まとめ	到達度の確認とレポート課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習時間は4時間以上となる。授業に臨むにあたっては英語文献の所定箇所について訳文を準備し、授業後には自身の訳文を再検討することが求められる。

【テキスト（教科書）】

P. Liddel, 'Democracy Ancient and Modern', in R. K. Balot (ed.), *A Companion to Greek and Roman Political Thought*, Malden / Oxford, 2009, pp. 133-148.

【参考書】

橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波新書、2022年。

M・I・フィンリー『民主主義——古代と現代』（柴田平三郎訳）、講談社学術文庫、2007年。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する予習度（30%）
英語文献読解の精度（30%）
期末レポート（20%）
質問やコメント等、授業への積極的参加度（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course helps students acquire the basic skills and knowledge to read academic texts on western history written in English, by reading them closely.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to understand accurately the meaning of English sentences.
- Students are able to understand accurately the structure and argument of academic texts.

Learning activities outside of classroom: Students' study time will be at least four hours for a class. They are expected to make a translation of the assigned English text before each class meeting, and after the class to review their own translation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on the preparation for each class meeting (30%), the reading comprehension of English texts (30%), term-end paper (20%), and in-class contribution (20%).

HIS300BE

西洋史外書講読Ⅱ

古川 高子

授業コード：A3148 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎文献を講読し、内容を解説しながら歴史学の基礎概念についての解説も行う。

【到達目標】

基本的な英語文献を丁寧に精読し、歴史学の基礎概念を身につけ、歴史学の研究に必要な英文史料や英語研究文献の読解力を養成する。英文を理解して、訳せるようにすることが最大の目標である。その際、英文の註表記なども使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008) (タラ・ザーラ『誘拐された魂 ポヘミア地方における国民的冷淡さと子どもをめぐる闘争 1900年-1948年』)の第3章「戦争、福祉と帝国の終わり」を精読する。本著作はオーストリア＝ハンガリー二重君主国内ボヘミア（＝チェコ）地方において、将来の国民の源泉として地域に住む子どもをいかにしてチェコ人あるいはドイツ人にするかをめぐって行われたチェコ人ナショナリストとドイツ人ナショナリストの相克についての研究書である。多言語地域における住民の生活や教育を学ぶことを通じて国民形成がいかになされるのかを教えてくれるこの本は、近現代史を学ぼうとする学生には好適書だと考えられる。

・テキストは学習支援システムを通じて配布する。

・テキストを一文ずつ毎回、各人にあてるゆえ、学生は、音読後、その場で日本語に訳す必要がある。その際、英語の脚注も読むため、併せて読んでおくこと。

・期末テスト以外に一ヶ月に一度程度、口頭の読解の小テスト（計3回）を行う。口頭読解試験となる期末テストおよび3回の口頭読解小テストの際にはZoomを利用したオンライン授業となる。変則的になるので留意すること。各テスト日の前日までに、Zoomアドレスを学習支援システムを通じて送付するので、必ず、確認して、参加すること。

・授業中に疑問に感じたことについては授業の最後に質問時間を設定するので、そこで回答する。できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答を送付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Zoom 利用オンライン授業：ガイダンス	英語文献の読み方・調べ方、歴史学についての概論、テキスト・著者の紹介などを書いたガイダンス
第2回	一文ずつのテキスト精読(1)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 78-81 を精読
第3回	一文ずつのテキスト精読(2)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp.82-83 を精読
第4回	Zoom 利用オンライン授業：口頭読解小テスト(1) および一文ずつのテキスト精読(3)	第2回と第3回で読んだ部分の口頭読解小テストおよび Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 84-86
第5回	一文ずつのテキスト精読(4)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp.87-88 を精読
第6回	一文ずつのテキスト精読(5)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 89-90 を精読
第7回	Zoom 利用オンライン授業：口頭読解小テスト(2) および一文ずつのテキスト精読(6)	第4回から第6回で読んだ部分の口頭読解小テストおよび Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 91 を精読
第8回	一文ずつのテキスト精読(7)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 92-94 を精読
第9回	一文ずつのテキスト精読(8)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 95-96 を精読
第10回	Zoom 利用オンライン授業：口頭読解小テスト(3) および一文ずつのテキスト精読(9)	第7回から第9回で読んだ部分の口頭読解小テストおよび Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 97-98 を精読
第11回	一文ずつのテキスト精読(10)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp.99-101 を精読

第12回	一文ずつのテキスト精読(11)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 102-103 を精読
第13回	一文ずつのテキスト精読(12)	Chap. 3, Warfare, Welfare, and the End of Empire, pp. 104-105 を精読
第14回	Zoom 利用オンライン授業：まとめと口頭読解の期末テスト	精読した部分全範囲の口頭読解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

数回毎に口頭読解の小テストを行うので、授業のための予習・復習が必要。そのために各回、それぞれ最低2時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)

【参考書】

タラ・ザーラ著、三時真貴子/北村陽子監訳/岩下誠/江口由布子訳『失われた子どもたち 第二次世界大戦後のヨーロッパの家族再建』（みすず書房、2019）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献・平常点（20%）、学期中3回行われる小テスト（30%）、期末テスト（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

・重要：学習支援システムを通じてテキスト配布を行うので、必ず学習支援システムに仮登録してください。それをしないと授業に参加できません。

・授業に出席して、テキストの文章の意味を理解しておかないと、小テストを受けても点が取れず、テスト範囲が長い期末テストにも追いつけなくなるという悪循環に陥るので、予習を十分した上で、必ず出席してノートを取り、テスト前にしっかり復習・口頭読解の練習をしておくこと。

・最初の授業、小テストおよび期末テストは口頭読解試験となるので、Zoomを利用したオンライン授業で行う。

・通常の読解の授業は対面授業となる。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Enhancing the abilities to reading books and materials in English. And learning basic concepts of history.

【Learning objectives and methods】

Intensive reading an English basic book and translating sentence by sentence.

【Learning activities outside of classroom】

Positive preparation and review for several oral tests in the classroom (by Zoom).

【Grading criteria/policy】

20% from contributing through positive attitude in class, 30% from small oral tests and 50% from the term-end oral tests.

HIS300BE

西洋現代史演習

大澤 広晃

授業コード：A3149 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023 年度は、「第二次世界大戦」を演習のテーマとし、とくに戦争を文化の側面から考える。春学期は、関連する日本語文献を読み、テーマの多角的理解につとめる。秋学期は、英語文献を講読し、テーマについての理解をさらに深めるとともに、英語論文の読み方やその構造を学ぶ。また、卒業研究や自主研究にかんする発表の機会を設け、受講生が関心をもつテーマについてみで議論する。

【到達目標】

- ・西洋現代史の主要なトピックを多角的に検討し、対象を総体としてみる姿勢を身につける。
- ・歴史学の研究に必要な基礎的スキルを習得する。
- ・研究成果を学術的作法に即して正確かつ明快に発表する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行う。文献講読も研究発表も受講生が主体なので、積極的な授業参加が求められる。授業内容や課題に対するフィードバック・コメントは、授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の授業計画の確認と役割分担の決定。
第 2 回	日本語文献講読①	『野戦郵便から読み解く「ふつうのドイツ兵」』（以下、日本語文献）序章を読む。
第 3 回	日本語文献講読②	日本語文献第 1 章を読む。
第 4 回	日本語文献講読③	日本語文献第 2 章を読む。
第 5 回	日本語文献講読④	日本語文献第 3 章を読む。
第 6 回	日本語文献講読⑤	日本語文献第 4 章を読む。
第 7 回	日本語文献講読⑥	日本語文献第 5 章を読む。
第 8 回	日本語文献講読⑦	日本語文献終章を読む。
第 9 回	自主研究の発表①	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 10 回	自主研究の発表②	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 11 回	自主研究の発表③	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 12 回	自主研究の発表④	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 13 回	自主研究の発表⑤	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 14 回	自主研究の発表⑥	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 15 回	イントロダクション	秋学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 16 回	英語文献講読①	An Imperial World at War（以下、英語文献）Introduction を読む。
第 17 回	英語文献講読②	英語文献 Chapter 3 を読む。
第 18 回	英語文献講読③	英語文献 Chapter 4 を読む。
第 19 回	英語文献講読④	英語文献 Chapter 5 を読む。

第 20 回	英語文献講読⑤	英語文献 Chapter 6 を読む。
第 21 回	英語文献講読⑥	英語文献 Chapter 9 を読む。
第 22 回	英語文献講読⑦	英語文献 Chapter 10 を読む。
第 23 回	自主研究の発表①	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 24 回	自主研究の発表②	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 25 回	自主研究の発表③	受講生による自主研究の発表と質疑・討論。
第 26 回	卒論構想案の発表①	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第 27 回	卒論構想案の発表②	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。
第 28 回	卒論構想案の発表③	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読については、課題文を精読し、あらかじめ問いや質問を準備して授業に臨む。研究発表については、図書館やデータベースを活用して自主的に準備を進める。レジュメは事前に提出する。なお、文献講読・研究発表ともに、質疑応答で回答できなかった点については、追加の調査をして、翌週の授業で改めてフィードバックをする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小野寺拓也『野戦郵便から読み解く「ふつうのドイツ兵」—第二次世界大戦末期におけるイデオロギーと「主体性」』山川出版社、2012 年
Ashley Jackson [et.al.] eds., An Imperial World at War: Aspects of the British Empire's war experience, 1939-1945, London; New York: Routledge, 2017.

【参考書】

木村靖二編『ドイツ史』（世界各国史）山川出版社、2001 年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への取り組み、発表や質疑応答の質などを評価）：60 %
- ・期末課題：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes in contemporary western history. For academic year 2023, focus is placed on the World War II. Students read relevant literature on the theme written in Japanese and in English, examining varied aspects of the war. Meanwhile, students are required to give presentations about their graduation research and/or independent research projects.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to understand key issues of contemporary western history through analysing them from various perspectives.
- 2) Students are able to acquire basic skills of historical research.
- 3) Students are able to present their research outcome in precise and articulate manners.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. In preparation, students are required to take on every assignment seriously. After the class, they have to review what they have learned in the class and, when necessary, prepare feedbacks to questions/comments they were not able to give proper answer in the class.

< Grading policy >

Class participation, assignments, oral presentation: 60% Final essay: 40%

HIS300BE

西洋前近代史演習

内田 康太

授業コード：A3150 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋前近代史の卒業論文執筆に必要な基礎的技術・知識を習得する。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・各自の関心に沿った学術文献の収集ができること。
- ・日本語・英語で書かれた学術文献を正確かつ批判的に読解できること。
- ・自身の研究を進展させるとともに、研究について論理的かつ説得的な報告ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、共和政期ローマの民衆と政治をテーマとした英語文献を精読する。授業は受講生がテキストを日本語に訳出するかたちで進め、これを教員と受講生全員で検討することにより、西洋前近代史関係の英語文献を読み解くために必要となる様々な技術を学ぶ。あらかじめ訳読の担当者を決めることはしないため、受講生全員が十分な予習を毎回してくることが求められる。

秋学期は、受講生による研究報告とそれに対する質疑応答・討論のかたちで授業を進める。3年生は、自らの研究テーマに関する先行研究・研究史と問題の所在を明らかにしたうえで、どのような方法でその問題を解決する見通しであるかについて報告する。2年生は、自らの研究テーマを絞り込み、関連する研究文献を収集するとともに、その中から少なくとも一点を精読したうえで、自由研究発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のイントロダクション	研究テーマの探し方・研究文献の探し方
第2回	英語文献講読（1）	共和政期ローマにおける民衆と政治の問題をめぐって
第3回	英語文献講読（2）	古典学説
第4回	英語文献講読（3）	新学説
第5回	英語文献講読（4）	ポリュビオスの混合政体論にみるローマ共和政
第6回	英語文献講読（5）	ポリュビオスの混合政体論とその問題点
第7回	英語文献講読（6）	理念と実体
第8回	英語文献講読（7）	理念としての民衆
第9回	英語文献講読（8）	「民衆の自由（リーベルタース）」の柔軟性
第10回	英語文献講読（9）	「民衆の自由（リーベルタース）」の重要性
第11回	英語文献講読（10）	「民衆の自由（リーベルタース）」の問題点
第12回	英語文献講読（11）	実体としての民衆
第13回	英語文献講読（12）	共和政期ローマにおける民衆と政治の問題を解決するために
第14回	春学期のまとめ	到達度の確認と秋学期までの課題の発表
第15回	秋学期のイントロダクション	自由研究発表・卒業論文報告の概要説明とスケジュール確認
第16回	発表・報告の準備	口頭発表の方法・レジュメの作成方法
第17回	卒業論文報告（1）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第18回	卒業論文報告（2）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第19回	卒業論文報告（3）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第20回	卒業論文報告（4）	3年生による卒業論文中間報告と質疑応答・討議
第21回	卒業論文の完成にむけて	3年生による卒業論文中間報告の総括
第22回	自由研究発表（1）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第23回	自由研究発表（2）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第24回	自由研究発表（3）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議

第25回	自由研究発表（4）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第26回	自由研究発表（5）	2年生による自由研究発表と質疑応答・討議
第27回	卒業論文報告にむけて	2年生による自由研究発表の総括
第28回	秋学期のまとめ	到達度の確認と次年度春学期までの課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習時間は4時間以上となる。

春学期は、授業に臨むにあたっては英語文献の所定箇所について訳文を準備し、授業後には自身の訳文を再検討することが求められる。

秋学期は、自身の研究を進めるとともに、自らの研究についての報告準備を行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

H. Mouritsen, *Plebs and Politics in the Late Roman Republic*, Cambridge, 2001, pp. 1-17.

【参考書】

ヘンリック・ムーリツェン「民衆／民会の権力 ローマ政体論への新しいアプローチ」（高橋亮介／鷲田睦朗訳）『パブリック・ヒストリー』7, 2010年, 86-104頁。

砂田徹「共和政期ローマの社会・政治構造をめぐる最近の論争について——ミラーの問題提起（1984年）以降を中心に——」『史学雑誌』106-8, 1997年, 63-86頁。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する予習度（40％）

英語文献読解の精度（40％）

質問やコメント等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course helps students acquire the basic skills and knowledge to write their graduation thesis on pre-modern western history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to gather academic texts necessary for their research.

- Students are able to read accurately and critically academic texts written in Japanese or English.

- Students are able to progress their research and to make a logical and convincing presentation on it.

Learning activities outside of classroom: Students' study time is at least four hours for a class.

(Spring term) They are expected to make a translation of the assigned English text before each class meeting, and after the class to review their own translation.

(Autumn term) They are expected to progress their own research and prepare to make a presentation on it.

Grading Criteria: Grading will be decided based on the preparation for each class meeting (40%), the reading comprehension of English texts (40%), and in-class contribution (20%).

HIS300BE

西洋近代史演習

高澤 紀恵

授業コード：A3151 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023 年度春学期は、背景を調べつつトマス・ペイン『人間の権利』を丁寧に読み、その主張と内容を正確に理解することを目指す。主として日本語版を用いるが、オリジナルの英語版を常に参照し、古典の翻訳という知的営為についての理解を深める。

秋学期は Joanna Innes & Mark Philip, *Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860*, Oxford UP, 2018 を読む。春学期の学びが秋学期の読解に役立つはずなので、1 年を通して主体的に学んで欲しい。

【到達目標】

古典と呼ばれるテキストを精読できる力の習得を到達目標とする。春学期は、ヨーロッパ史、政治学、思想史など広範な専門領域で読み継がれてきたトマス・ペインのテキストを、彼が生きた時代のコンテキストの中で読み解く。秋学期は、英語の新しいテキストに慣れ、よくわからない言葉、概念、出来事に出会ったときに、徹底的に調べる方法を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業である。学生たちの間で分担を決め、レジュメを用意して報告をすること。レジュメは前日お昼までに [hoppii](#) にアップすること。毎回、短くグループ毎に議論する時間を設ける。報告へのフィードバックは、毎回の授業の後半を当てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	今、ペインを読む意味について考える
第 2 回	『人間の権利』(1)	トマス・ペインとは誰か
第 3 回	『人間の権利』(2)	第一部第一章まで
第 4 回	『人間の権利』(3)	第一部第二章、第三章
第 5 回	『人間の権利』(4)	第一部第四章
第 6 回	『人間の権利』(5)	第一部第五章、第六章
第 7 回	『人間の権利』(6)	第一部第七章、第八章
第 8 回	『人間の権利』(7)	第二部第二章まで
第 9 回	『人間の権利』(8)	第二部第三章
第 10 回	『人間の権利』(9)	第二部第四章
第 11 回	『人間の権利』(10)	第二部第五章 (1)
第 12 回	『人間の権利』(11)	第二部第五章 (2)
第 13 回	『人間の権利』(12)	第二部第五章 (3)
第 14 回	まとめ	総括討論
第 15 回	クラスの導入	著者、Joanna Innes & Mark Philip について
第 16 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (1)	講読/討論/解説
第 17 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (2)	講読/討論/解説
第 18 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (3)	講読/討論/解説
第 19 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (4)	講読/討論/解説
第 20 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (5)	講読/討論/解説
第 21 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (6)	講読/討論/解説
第 22 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (7)	講読/討論/解説
第 23 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (8)	講読/討論/解説
第 24 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (9)	講読/討論/解説

第 25 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (10)	講読/討論/解説
第 26 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (11)	講読/討論/解説
第 27 回	Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860 (12)	講読/討論/解説
第 28 回	民主主義を考える	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、担当者を決めるが、全員がテキストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期：Thomas Paine（西川正身訳）『人間の権利』岩波書店、1971.

秋学期：Joanna Innes & Mark Philip, *Re-Imaging Democracy in the Mediterranean, 1780-1860*, Oxford UP, 2018

【参考書】

適宜授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + 期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

通年のゼミの良さを最大限に生かすためには、学生たちの主体性を尊重して授業をすすめることが大切であると気がつくことができました。今年度も引きつづき、上級生と下級生が議論し、グループ・ワークをする機会を設けたいと考えています。

【Outline (in English)】

(Course Outline & Learning Objectives)

This course aims to get an academic skill to read Japanese and English books and deepen the knowledge of European Modern History. This year we will study on Thomas Paine. I expect students to read assignments in advance and participate in the discussion actively. (Learning activities outside of classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the seminar. Your study time will be more than four hours for a workshop at least.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation and performance in the seminar.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3152, A3855 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックは学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムを利用して行う。授業には資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	考古学とは何でしょう	考古学の定義
第 2 回	世界考古学の大まかな歴史	世界考古学史
第 3 回	日本考古学の大まかな歴史	日本考古学史
第 4 回	考古学の資料収集 1	遺跡の発見
第 5 回	考古学の資料収集 2	遺跡の発掘
第 6 回	何が残っているか	考古資料とその種類
第 7 回	時代決定法 1	層位学
第 8 回	時代決定法 2	型式学
第 9 回	科学的年代測定法	放射性炭素年代測定法 年輪年代測定法 磁気年代測定法
第 10 回	分布論 1	ミクロの研究
第 11 回	分布論 2	マクロの研究
第 12 回	製作技法	石器の製作技法 土器の製作技法
第 13 回	用途論 遺跡の保存	機能と用途 遺跡保存の実例 文化財保護
第 14 回	授業の総括	期末テスト 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、教科書・参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第 2 版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社

ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

To be able to explain the process of academic development of archaeology, especially in Japan.

To be able to understand the process of development of archaeological methods.

To be able to understand the relationship between archaeology and related sciences.

Students will understand the methods and ideas of archaeology mainly from the perspective of academic history, and consider the broad historical picture that can be assembled from material culture.

The class will be conducted in a face-to-face lecture format. The class may be conducted on-demand depending on the situation. The distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be done through the learning support system and other means. Specifically, students will be asked to submit assignments to the Learning Support Office system, and feedback will be sent back to each student via the Learning Support System. Questions and answers to them will be given in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (<https://wacoffee.blogspot.com/>). They are protected, and the protection key will be provided in class.

Students will be asked to submit a small report after each class.

50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

An internet environment and a terminal (computer, smart phone, pad, etc.) are required. I will use a learning support system or other means to distribute materials and submit assignments.

HIS200BE

史学概論／歴史思想（史学概論）

高澤 紀恵

授業コード：A3153, A2274 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学とはどのような学問なのだろうか。過去に向き合うことに、どのような意味があるのだろうか。そのために必要な作法は何だろうか。この授業は、東西の歴史家の営みに学びながらこうした問題と向き合い、歴史的思考を育み、自ら研究する基礎を獲得することを目標とする。授業の全体はA) 史学史篇とB) 実践篇にわけられる。この授業を通して、受講生は歴史学の方法論をめぐる書物を読み、報告し、議論することを期待されている。

【到達目標】

この授業は3つの目標掲げる。

- ①歴史学を専門に学ぶ上で必要な史学史的な基礎を理解する。
- ②歴史学が今、直面する課題について考える。
- ③歴史学を主体的に学ぶための技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、報告、ディスカッション、講義の組み合わせで進める。受講生は、学期中に一回、設定した十のテーマから一つを選び、指定された文献を読んでレジュメを用意して報告をする。報告に基づいてグループ・ディスカッションを予定している。授業では、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。フィードバックは、次回授業の冒頭に口頭で行う。最後に、本文4000字（+注、参考文献表）のレポートの提出を求める。交通機関の遅延など特別の事情がない限り、20分以上の遅刻は出席と認めない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明、テーマ毎グループ分け。
第2回	今、歴史学では？	ウクライナ戦争をめぐる議論から
第3回	歴史修正主義を考える	映画『否定と肯定』から歴史修正主義を考える。
第4回	史学史篇① 制度としての歴史学	制度としての歴史学が形成されるプロセスを学ぶ。
第5回	史学史篇② 日本における展開	日本において、日本史・東洋史・西洋史の三区分が生まれた経緯を考える。
第6回	史学史篇③ 戦後歴史学の挑戦	敗戦後の日本の社会科学と歴史学の展開を考える。
第7回	史学史篇④ アナルの挑戦	1970年代に日本に大きな影響を与えたアナルの挑戦について考える。
第8回	史学史篇⑤ 記憶と歴史	1980年代以降の記憶をめぐる議論について考える。
第9回	史学史篇⑥ 現代歴史学への「転回」	英語圏で展開した言語論的転回と新しい文化史について考える。
第10回	史学史篇⑦ グローバル・ターン？	グローバル化の進展に伴う観察尺度の変化を考える。
第11回	実践篇① 史料を読む	史料の探し方、読み方を学ぶ。
第12回	実践篇② 事実と解釈	歴史研究の現場から、事実と解釈について考える。
第13回	実践篇③ 歴史を書く	自分で歴史を書くために必要な作法を考える。
第14回	総括討論	これまでの学びを通して見えてきた論点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではグループ・ディスカッションを多用するので、課題テキストを読んだり、事前準備を求められることが多い。報告は、グループ報告となるので、他のメンバーと一緒に作業することになる。担当週に向けて集中して準備することになるが、平均すると各週の準備ならびに復習には週4時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず。適宜プリントなどを配布する。

【参考書】

- ・リン・ハント（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019。
 - ・E.H. カーク（近藤和彦訳）『歴史とは何か（新版）』岩波書店、2022。
 - ・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003。ほか。
- 初めに参考文献表を配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(40%) + レポート(60%)
レポートは本文4000字 + 脚注 + 参考文献表

【学生の意見等からの気づき】

毎回のグループ報告に際しては、学生から活発な質問が寄せられた。二年生から四年生まで、日本史、東洋史、西洋史の多様な分野を学ぶ学生から構成されていたことがよかったと思う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを最大限利用するため、パソコンがあることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

What characterizes history as an academic discipline? What does it mean to confront the past? What skills and attitudes should we learn? This course aims to offer students opportunities to think about these problems through reading works of previous historians of the East and the West, nurture historical thinking, and acquire the ability to conduct historical research.

The course consists of two parts; the first treats historiography (A), and the second treats practical skills required in historical research (B). Students are expected to read, do presentations about, and discuss books and articles about historical methodology.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%) and the final report (60%).

HIS200BE

日本史特講 I

中山 学

授業コード：A3154 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

(Learning Objectives)

Be able to explain the content of the drug distribution policy implemented in the middle of the 18th century and the factors behind it.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀前期から中期にかけて、江戸幕府は支配の再強化を目的とした一連の政策を実施した。徳川吉宗（8 代将軍）の親裁によって実施された享保改革がそれである。当科目では、当時実施された政策うち、吉宗が特に意を注いだと考えられる医薬分野の政策に注目し、この政策が強力に推し進められた要因を考察する。近世日本が自己完結しえない世界の中に位置づいていたが故の政策展開であったという点に注視したい。

【到達目標】

享保改革期に実施された医薬政策の内容と実施要因を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を行う。よって、史料読解を深めるために学習支援システムを利用してレポート学習を併用する。なお、質問や小レポート等へのフィードバックも、学習支援システムを介して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	徳川吉宗の出自と将軍職就任の事情
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	吉宗の自覚-将軍家の正統性観念と救済の秩序-
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (3)	吉宗の自覚-将軍家の正統性観念と救済の秩序 (続) -
第 4 回	徳川吉宗の人物像 (4)	吉宗の自覚-将軍家の正統性観念と救済の秩序 (続) -
第 5 回	享保改革期の医薬政策 (1)	政策実施の社会的背景（都市社会の形成と薬材需要の高まり）
第 6 回	享保改革期の医薬政策 (2)	特殊人材の採用と薬草調査
第 7 回	享保改革期の医薬政策 (3)	特殊人材の採用と薬草調査 (続)
第 8 回	享保改革期の医薬政策 (4)	和薬種改めの実施
第 9 回	享保改革期の医薬政策 (5)	和薬種改めの実施 (続)
第 10 回	享保改革期の医薬政策 (6)	和薬種改めの実施 (続)
第 11 回	医薬政策の展開要因 (1)	「にせ薬種」問題
第 12 回	医薬政策の展開要因 (2)	「にせ薬種」問題 (続)
第 13 回	医薬政策の展開要因 (3)	「にせ薬種」問題 (続)
第 14 回	医薬政策の展開要因 (4)	「にせ薬種」問題 (続) / 享保改革期医薬政策の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習、小レポートの作成等（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料配付）

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985 年）
 安田 健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社（1987 年）
 田代和生『江戸時代 朝鮮薬材調査の研究』慶應義塾大学出版会（1999 年）
 新村 拓『日本医療史』吉川弘文館（2006 年）

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

史料読解の際には現代語訳（意識）を行い、学生側の史料の内容把握を補助する。

【学生が準備すべき機器他】

教材配付や課題提出のために学習支援システムを使用する。よって各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

テーマ関連科目：日本史特講IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

From the early to mid 18th century, the Edo Shogunate implemented a series of policies aimed at re-strengthening of dominance.

In this course, we will focus on the policy on drug distribution that Shogun Yoshimune Tokugawa showed enthusiasm among the policies implemented at that time, and consider the factors that strongly promoted this policy.

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世前期（平安時代後期から南北朝時代）の日中文化交流についての理解を深めるため、中国（南宋）文化に関係する題材を取り上げ、伝記や図像なども活用して多角的に学ぶ。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

経済的関係に起因する日中間の交通が、中世前期の社会・国家に及ぼした影響の実態について、文化交流史の視点から説明することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごと（第1章から第6章）に計6回の小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中世前期の唐船貿易と文化交流	履修のガイダンスと概説
第2回	鎌倉時代における宋式喫茶の展開（1）	喫茶文化の伝播と受容
第3回	鎌倉時代における宋式喫茶の展開（2）	喫茶文化の伝播と受容
第4回	鎌倉仏教と印刷メディア（1）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第5回	鎌倉仏教と印刷メディア（2）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第6回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（1）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第7回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（2）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第8回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（3）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第9回	渡唐天神説話と神仏習合（1）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第10回	渡唐天神説話と神仏習合（2）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第11回	渡唐天神説話と神仏習合（3）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第12回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（1）	特異な舍利塔図像の伝播と受容
第13回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（2）	特異な舍利塔図像の伝播と受容
第14回	鎌倉時代の唐物と文化伝播	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。プリント、ノート等を用いて復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史21 鎌倉時代4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）
その他は、授業の際、各章ごとに指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE

日本史特講Ⅲ

稲田 奈津子

授業コード：A3156 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の貴族といえば、藤原道長がすぐに思い浮かぶであろう。望月の歌で知られるように、道長の時代は摂関政治の絶頂期を迎えたのであるが、その前提として、父・兼家の存在を忘れることはできない。恵まれた条件のもとで成功を取めた子・道長が、鷹揚な性格として肯定的に語られることが多いのに対して、度重なる挫折を味わいながらも虎視眈々と権力の座を狙い続けた父・兼家は、一般的に粗暴・傲慢不遜といった否定的なイメージが持たれている。だが一方で、逆境を乗り越える不屈で逞しい姿は、魅力的にも映るのである。本講義では、兼家に関する史料群の読解を中心に、彼の生きた平安貴族社会の様相を、様々な角度から垣間見ていくことにしたい。

【到達目標】

1. 歴史書・日記・文学作品といった様々な歴史資料に触れ、その特質を理解するとともに、それらを読み解く力を身につける。
2. 教科書的な知識から一歩すすみ、具体的な史料読解を通して、平安時代像をより鮮明に捉え直すことができる。
3. 史料批判を通じて批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義スタイルで進めます。
- ・講義中には、指名によって史料を音読してもらうことがあります。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加してください。
- ・講義中には、画像も提示する予定ですが、提示した画像をすべてレジュメとして配布するわけではありません。毎回の出席が肝要となります。
- ・毎回授業の冒頭で、前回授業に関する小テストを実施します（10分程度、第1回を除く）。期末試験・期末レポートは予定していません。
- ・やむを得ず休講とする際には、レポートを課す場合があります。また授業進捗をみた上で、授業スケジュールに一部変更を加える場合があります。
- ・質疑応答は授業内や授業前後に口頭で、または授業後に提出してもらうリアクションペーパーで受け付けます。受講者全員の参考になるような質問・意見は、次回授業の冒頭に紹介・回答します。リアクションペーパーでクイズに回答してもらう場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、出自と官歴
第2回	内裏焼亡	若き日々
第3回	安和の変	969年
第4回	兄・兼通との確執（1）	972年
第5回	兄・兼通との確執（2）	977年
第6回	兼家をめぐる女性たち（1）	正妻と妾
第7回	兼家をめぐる女性たち（2）	蜻蛉日記
第8回	兼家をめぐる女性たち（3）	娘の入内
第9回	花山天皇の出家	その裏幕
第10回	栄華の絶頂	摂政就任
第11回	六十算賀	儀式の風景
第12回	老いと死	仏教への傾倒、葬儀
第13回	こどもたち	詮子、道隆、道長
第14回	まとめ	兼家の時代

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前学習 次回講義に関するレジュメを配布するので、事前に目を通しておいてください。（2時間程度）
- ・事後学習 レジュメを読みなおし疑問を残さないようにして、小テストに備えてください。（2時間程度）

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布します。Hoppii にアップするので、各自印刷して手元に用意してください。教室での紙媒体による配布はいたしません。

【参考書】

古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥ 摂関政治』（岩波新書、2011年）

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・レポート（100%）…小テストは授業時間の冒頭に実施します。レポートの提出は授業支援システムを利用します。
- ・授業の積極性（加点要素）…リアクションペーパー、授業内での音読・発言など。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン向けに変更した評価方法（毎回の小テスト実施、期末試験の廃止）が好評であったので、今年度も継続する予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will study about Fujiwara-no-Kaneie, a famous politician of Heian period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students' interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and prepare for the quizzes.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Quizzes and Short reports : 100%, and in-class contribution

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸幕府第8代の将軍であった徳川吉宗は、行財政方面の再建・強化を中心とした幕政改革の主導者として注目されてきた。だが、実はこの人物が将軍職に就任することが決まって最も早期に着手していたのは、将軍家文庫（御文庫）の書籍目録の閲覧であった。そして、この書籍目録の閲覧以降、20年以上にわたって御文庫所蔵の書籍の校合、校勘に尽力していた。この授業では、吉宗が実施したこの事業がいったい何のために行われたものであるのか検討する。

【到達目標】

史料に基づき、徳川吉宗が実施した将軍家蔵書の校合・校勘の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を行う。よって、史料読解を深めるため、学習支援システムを利用してレポート学習を併用する。なお、質問や小レポート等へのフィードバックも、学習支援システムを介して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	徳川吉宗の人物像(1)	徳川吉宗の出自と将軍職就任の事情
第2回	徳川吉宗の人物像(2)	「徳川実紀」にみる吉宗の個性
第3回	将軍家の文庫(1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第4回	将軍家の文庫(2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第5回	将軍家の文庫(3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第6回	吉宗と書物(1)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態
第7回	吉宗と書物(2)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第8回	吉宗と書物(3)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第9回	吉宗と書物(4)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第10回	吉宗と書物(4)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)
第11回	吉宗と書物(5)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第12回	吉宗と書物(6)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第13回	吉宗と書物(7)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第14回	まとめ	吉宗政権の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習、小レポートの作成等（56時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）

福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）

大石 学『徳川吉宗—日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012年）

小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

史料読解の際には現代語訳（意訳）を行い、学生側の史料の内容把握を補助する。

【学生が準備すべき機器他】

教材配付や課題提出のために学習支援システムを使用する。よって各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

テーマ関連科目・日本史特講Ⅰ

【Outline (in English)】

(Course outline)

Yoshimune Tokugawa, the 8th shogun of the Edo period, is known as the driving force behind the administrative and financial reforms of the shogunate. In fact, the first thing this person did after taking office was to browse the shogun family's library catalog. Yoshimune, who saw this library catalog, spent more than 20 years proofreading the collection. This subject examines the purpose of this project by Yoshimune.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

宮間 純一

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本の発端として位置づけられてきた明治維新の具体相を学ぶことで、近世・近代移行期における日本社会の歴史像を構築する力を身につける。

【到達目標】

講義で解説された明治維新に関するさまざまな事象を単に暗記するのではなく、日本史上における明治維新の位置づけを把握し、独自の歴史意識を持てるようになる。また、その歴史意識を言語化し、明瞭に論述できるようになる。具体的なテーマとしては、天皇・武士・公家・ジェンダー・被差別民等の問題を扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。折に触れてショートレポートの提出を求め、その内容に対して次の授業時間にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	明治維新像の変遷	戦前以来の明治維新像の変遷を歴史研究の動向を踏まえながら解説する。
第 2 回	天皇と明治維新	近世には「みえない」存在であった天皇が国家元首となるまでの過程を解説する。
第 3 回	公家の明治維新	公家の明治維新について鷲尾隆聚という下級公家を中心に解説する。
第 4 回	大名の明治維新	大名の明治維新について下総佐倉藩堀田家を中心に解説する。
第 5 回	武士の明治維新	旧秋田藩士・旧幕臣を中心に武士の明治維新について解説する。
第 6 回	志士の明治維新	幕末維新期に現れた志士の動向について解説する。
第 7 回	外交儀礼と明治維新	明治初期における日本の外交儀礼の形成について解説する。
第 8 回	宗教と明治維新	明治政府の神道国教化政策、キリスト教の黙許などについて解説する。
第 9 回	書物・記録と明治維新	幕府が管理していた文庫や明治政府が設置した書籍館について解説する。
第 10 回	文明開化と明治維新	文明開化について違式註違条例など生活に関わる問題を中心に解説する。
第 11 回	遊女の明治維新	吉原の明治維新を芸妓解放令を中心に解説する。
第 12 回	被差別民の明治維新	被差別民の明治維新を「身分解放令」や新政反対一揆を中心に解説する。
第 13 回	記憶にみる明治維新	明治維新の顕彰による集合的記憶の形成について新選組などを事例に解説する。
第 14 回	まとめと成果確認	達成度を確認するための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布するテキストに事前に目を通すこと。
準備・復習時間は講義 1 回につき 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、毎回レジュメを配付する。

【参考書】

都度紹介するが、さしあたり以下の文献をあげておく。
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12（有志舎、2010 年～2018 年）
宮地正人『幕末維新変革史』上・下（岩波書店、2012 年）
井上清『明治維新』（日本の歴史 20、中央公論新社、2006 年）
松尾正人『維新政権』（吉川弘文館、1995 年）
井上勲『王政復古』（中公新書、1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）・ショートレポート（20％）・授業に対する取り組み方（10％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学を専攻していない学生も理解できるよう、基本的な事項についても丁寧に解説する。また、できるだけ現代との結びつきを念頭においた授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付、リアクション・ペーパーの提出に際して、学習支援システムを利用することがある。

【Outline (in English)】

This course introduces Meiji Restoration to students taking this course. The goal of this course is to understand the Meiji Restoration. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%、Short reports: 20%、in class contribution: 10%.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝えています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝えてきた意義を理解します。
- ・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解読、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解読し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第 2 回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第 3 回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第 4 回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第 5 回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第 6 回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第 7 回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質
第 8 回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第 9 回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第 10 回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第 11 回	村の祭りや若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第 12 回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第 13 回	村社会と家族の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第 14 回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配布します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980 年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987 年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000 年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003 年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015 年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

史料（活字にした近世の地方文書）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

事前の史料の配布、課題の提出は学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として日本史（特に戦国時代）を概観していくことで、二つのことを学生の皆さんが理解できるようにしていく。まずひとつは「歴史学とは何をする学問か」ということである。

よく「歴史学は、過去を解明する学問だ」といわれるが、それは誤りである。歴史学の目的は、過去を知り、この過去を使って「現代をより深く知る」ということである。私たちは現代に生きている。それゆえ「現代をよく知らない」というのは危険なことである。だが、現代はあまりにも当たり前すぎるので、私たちに現代が意外に見えにくい。そこで、過去を使うのである。たとえば、過去を知ることによって現代に生起しているさまざまな問題の「はじまり」を問い、過去から現代までの変化の筋道を明らかにしていく。あるいは、過去を知り、その過去を現代と比較することで現代の特徴をあぶり出していく。このような方法によって、現代を見ているだけでは見えにくい、現代の姿に気づく——これが歴史学という学問なのである。本講義ではこのことを、戦国時代の日本と現代の世界とを比較することを通じて説明していく。

本講義で取りあげるもうひとつのテーマは「歴史学の研究は、どのように進めていくのか」ということである。歴史学研究は「疑問を見つける」⇒「史料を集め、正しく分析する」⇒「自分なりの仮説を立てる」⇒「他者と議論して仮説を修正する」⇒「事実によって裏づけられ、かつ、論理的につじまの合った結論を導きだしていく」という手順で進めていく。このうちとくに重要なのが史料のあつかい方で、歴史学では「この史料は信用できるのか」、「どのようなことを読み取ることができるのか」といったことを考えながら結論を導きだしていくのである。本講義では、こういった歴史学の手法を学生諸君が身につけることのできるよう、わかりやすく解説していく。なぜならば、こうした歴史学の手法——自分で問題を見つけ、データを正しくあつかい、そこから事実と論理に基づいた結論を導きだす、という手法は、さまざまな情報が氾濫する現代社会で生きていくうえで、きっと強力な武器になっていくだろうからである。

歴史学は、法学や経済学にくらべればメジャーな学問ではない。しかし、だからこそ学生諸君にとって、歴史学を学んだことは社会に出たあとで「強み」になろう。なぜならば、人と違うことを学んでこそ、人と違う新しい発想ができ、イノベーションを創出することができるようになるからである。但し、ただ単に、何百年も昔の出来事を知るだけでは意味がない。そうではなく、歴史学の目的を理解したうえで、その考え方・やり方の「型」を身につけることが大事である。本講義では、こうした「型」を学生の皆さんが習得できるようにしていく。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識するとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取り扱い方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえで、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。具体的には、まず第1～3回において、歴史学とは何を目的とする学問なのか、ということを示すとともに、歴史学の研究はどのように進めていくのか、といった、歴史学のいわば「型」を解説していく。次いで第4～8回において「過去を知ることで現代を知る」ということを、戦国時代の日本と現代の世界とを比較しながら具体的に説明していく。そして第9～13回において、この「過去を知ることで現代を知る」ことをよりいっそう理解することができるよう、戦国時代から近代にいたるさまざまな事柄を歴史学の手法を使いながら分析し、議論していく予定である。

なお、配布プリントを使って解説する。出席カードやリアクションペーパー記入された疑問点については、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史学の目的は何か——「当たり前」を疑い、「当たり前」から自由になる。	何百年も昔の過去を知って、現代に生きる私たちに何か役に立つのか。過去を知れば、教訓や得たり、未来を見通したりすることができるのか……。ここでは、歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのか、といった、歴史学の「存在意義」を説明していく予定である。

第2回	歴史学は「型」は、どのようなものなのか（前編）。	歴史学の研究は、どのように進めていくのか。歴史学の根幹である「論理整合性」と「事実立脚性」とは何か……。ここでは、「疑問をもち、データを集めて分析し、自分なりの仮説を立て、他人と議論してこの仮説を修正していく」という、歴史学の基本的な「型」を伝授していく予定である。
第3回	歴史学は「型」は、どのようなものなのか（後編）。	どうしたら自分で問題を探ることができるのか。史料の正しい取りあつかい方とはどのようなものか。なぜ他人と議論しあう必要があるのか。歴史学と「歴史修正主義」とはどう違うのか……。ここでは前回に引き続き、歴史学の基本的な「型」を説明していく予定である。
第4回	戦国時代の足利将軍とは何だったのか（前編）。	戦国時代、将軍はどこで、何をしていたのか……。戦国期においても、将軍はなお「日本列島全体の存在」であった。それゆえ戦国日本を知るためには、将軍を理解することが欠かせない。そこでここでは、戦国時代に活躍した将軍7人をとりあげ、その生涯を概説していく予定である。
第5回	戦国時代の足利将軍とは何だったのか（後編）。	戦国期に生きた将軍たちは、いずれもさまざまな事件に巻き込まれ、時には京都から地方に流浪した。しかし、それでもしぶとく生き残り、京都・畿内に一定の平和をもたらすこともあった。ここでは前回に引き続き、こうした戦国期将軍7人の生涯を概説していく。
第6回	「信長包囲網」がうまくいかなかったのはなぜか。	足利義昭や毛利・武田・上杉・本願寺といった反織田信長の連合は、なぜ信長の封じこめに失敗したのか……。ここでは、現代でも当てはまる「対等な者同士が団結しつづける」ことの困難さを、心理学や行動経済学、社会学の知見も援用しながら考えていく予定である。
第7回	なぜ足利将軍はすぐには滅亡しなかったのか。	足利将軍が戦国末まで存続しえた理由は何だろうか……。ここでは、「大名たちにとって、将軍にはいかなる利用価値があったのか」という問題を考えていくことによって、将軍がすぐに滅亡しなかった謎を解き明かしていく予定である。
第8回	戦国社会について、どのような「全体の見取り図」を描けるのか。	戦国期日本列島は、全体としてどのような姿をしていたのだろうか……。ここではまず、戦国社会の「構造」（＝骨組み）に注目していくことで、全体の見取り図を描き出していく。そしてそのうえで、戦国社会と現代世界とをくらべ、現代世界の特徴をあぶり出していく予定である。
第9回	戦争はなぜ起きるのか、協調が成立するのはなぜか——大名同士の「つき合い方」から考える。	なぜ大名たちの間では、大規模な戦争がそれほど起きなかったのだろうか……。ここでは、「情報の非対称性」など、戦争を引き起こす諸要因を紹介するとともに、大名たちが近隣の者同士でそれなりに協調しあうことができたのはなぜか、といった問題を考えていく予定である。
第10回	「文化の相違」は、いかなる問題を引き起こすのか——キリスト教の伝来と禁教から考える。	キリスト教が戦国末に禁止されるのはなぜか……。ここでは、戦国の人たちがキリスト教という「異文化」をどのように「誤解」したのか、そしてその誤解を正そうとして宣教師たちは何をしていたのか、といったことを見ていくことで、現代でもしばしば紛争を引き起こす「文明の衝突」を考える。
第11回	天皇はなぜ生き残ったのか——英仏の王権と比較する。	武家政権は、なぜ天皇を存続させたのだろうか……。ここでは、「歴代武家政権と天皇との関係」を「中世における英・仏王権と教会との関係」と比較しながら考察し、「権威があったからだ」といったことで片づけられがちな、天皇存続の謎を解き明かしていく予定である。
第12回	トップダウンとボトムアップのどちらがよいのか。	現場の指揮官がトップの指示通りに動かないことは是なのか非なのか……。ここでは、戦国大名の軍隊、江戸時代の藩、戦前の軍部、戦後直後の半導体やデジカメ開発などの事例をとりあげながら、現代における組織のあり方についてあらためて考えていく予定である。

- 第 13 回 歴史学が直面する問題とは何か。 歴史学の研究成果は、なぜ一部のマニアだけのものになりつつあるのか…
…ここでは、専門化・細分化し、一般人はもとより他分野の研究者にとっても難解すぎて理解不能になっている歴史学の現状を説明し、なぜこのような事態にいたっているのかを考えていく予定である。
- 第 14 回 まとめ これまでのまとめ、または試験を実施する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、合計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

山田康弘『足利義輝・義昭——天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、2019年）。その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数 70%、レポート 20%、平常点 10% の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline (in English)】

Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

The goals of this course are to learn historical research.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%、Short reports : 20%、in class contribution: 10 %

HIS200BE

東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。
甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文字史料を読み込む力をつける。
家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第 2 回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里头文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。
第 3 回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第 4 回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第 5 回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第 6 回	殷代の「家族」に関する諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第 7 回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10 個の太陽）との関連を紹介する。
第 8 回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第 9 回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第 10 回	殷代青銅器銘文分類のうちの宝貝賜与金文の構造	宝貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。
第 11 回	殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法、青銅器鑄造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第 12 回	殷代青銅器作器者問題を考える実例紹介	鬲・尊の比較から青銅器作器者問題を考える。
第 13 回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。
第 14 回	秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

毎回、学習支援システムの課題欄に提出された 200 字程度の小レポート、および数回提出を課すレポート（600 字程度）で評価する。前者・後者をそれぞれ 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。
現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また学習支援システムの「お知らせ」欄に E メールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・ 東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・ 東南アジア史の特徴を理解すること
- ・ 東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン授業に移行した場合、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行います。提出された課題はクラス内で（匿名で）共有します。期末レポートについては個別にコメントをお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第2回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第3回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から9世紀
第4回	中世国家の展開	10～14世紀
第5回	交易の時代前期	15～16世紀前半
第6回	交易の時代後期	16世紀前半～17世紀
第7回	近世国家群の展開と再編	18～19世紀前半
第8回	植民地支配の進展	19世紀後半
第9回	東南アジア経済の再編成	19世紀後半～1930年代①
第10回	ナショナリズムの勃興	19世紀後半～1930年代②
第11回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940年代～1950年代
第12回	冷戦への主体的対応	1950年代半ば～1970年代半ば
第13回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970年代半ば～1990年代
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書、新赤版1883）2021年、岩波書店

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社

池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社

その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、期末レポート（60%）

期末レポートの詳細は別途配布します。

期末レポートについては第10回の授業が終わるころまでに予定しているテーマと関連する文献を報告していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポート作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」（<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>）を参考にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時にはZoomを使用します。

【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Your final grade will be calculated according to the following process: In-class writing assignments (40%), final report (60%). Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy.

The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

[Outline (in English)]

[Course outline and Learning Objectives] On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

[Learning activities outside of classroom] Need two hours in a day.

[Grading Criteria /Policy] Based on written test 100 percent.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三國・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化 1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化 2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景德鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせて適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

HIS200BE

東洋史特講 V

宇佐美 久美子

授業コード：A3166 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。

ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。

学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

【到達目標】

海洋史研究の方法論を習得する。

遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。

環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材プリントを使う対面授業での講義形式をとる。授業内での受講生からの積極的な質問を歓迎するとともに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。DVD や VHS などの視覚教材も活用する予定。課題として史料を配布し、受講生の分析結果を後日まとめて紹介するなど双方向型の取り組みも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋史入門（その 1）	海上交流の捉え方など
第 2 回	海洋史入門（その 2）	ヒト・モノの移動について
第 3 回	インド洋交流史の枠組（その 1）	自然条件など
第 4 回	インド洋交流史の枠組（その 2）	ダウ船について
第 5 回	インド洋交流史の枠組（その 3）	時代区分・特産品など
第 6 回	スワヒリ社会の成立	スワヒリ社会の成立
第 7 回	スワヒリ地域とインド洋（その 1）	スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシア湾岸地域との交流
第 8 回	スワヒリ地域とインド洋（その 2）	『キルワ年代記』
第 9 回	ポルトガルの進出（その 1）	スワヒリ地域の事例
第 10 回	ポルトガルの進出（その 2）	インド洋西海域の事例
第 11 回	スワヒリ地域とオマーン（その 1）	ザンジバルへの進出
第 12 回	スワヒリ地域とオマーン（その 2）	インド洋奴隷貿易
第 13 回	インド人移民（その 1）	19 世紀まで
第 14 回	インド人移民（その 2）	20 世紀

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。

準備学習としては、地図や年表を活用し、事前に対象地域の概略を押さえる。復習としては、必修項目を確認し身に付けるとともに課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006 年

富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』（世界史リブレット）山川出版社 2008 年
 この他にも講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

不定期に実施する小テストなどの平常点（40 %）と期末レポート（60 %）の評価を総合して成績を決定する。

小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。

期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱ききっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。

また、「東洋とは？」「東洋史とは？」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室において質問を受け付ける。

もしくは下記メールアドレスに連絡する。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This lecture deals with the historical development of maritime activities in the western part of the Indian Ocean.

It introduces how the long-distance maritime trade using dhows contributed to develop the vibrant interregional connections in the Indian Ocean World, from the Red Sea, the Arabian Peninsula, the Persian Gulf, to the west coast of the Indian Sub-Continent and to the east coast of Africa also known as Swahili coast.

Focuses are set on the historical development of East African coastal communities.

It also deals with the various effects of arrival of European Powers, Portuguese and British and others in the Indian Ocean World.

The students will be provided the opportunity to speculate historiography further comparing their majoring subjects with the history of Indian Ocean World.

At the end of this lecture, students are expected to learn the methodology of historical studies of oceans, and to explain the historical development of interregional movements and connections in the Indian Ocean World.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

HIS200BE

西洋史特講 I

内田 康太

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前 6 世紀～前 1 世紀）における立法」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた立法のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。
・共和政ローマにおける立法について基礎的知識を習得する。
・一次資料の扱い方を習得し、法律の制定に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第 12 回・第 13 回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、適宜リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ローマ共和政と立法
第 2 回	立法のしくみ	法案の起草から民会での票決まで
第 3 回	元老院	立法における元老院の役割とその時代的変遷
第 4 回	政治集会（コンティオ）（1）	開催・運営の制度と特質
第 5 回	政治集会（コンティオ）（2）	参加者の構成
第 6 回	政治集会（コンティオ）（3）	議論の内容
第 7 回	情報の公開	「ローマ民主政論」
第 8 回	票決のゆがみ	法案の可決、法案の否決と撤回
第 9 回	立法プロセスの再検討（1）	法案の起草から公示まで
第 10 回	立法プロセスの再検討（2）	政治集会（コンティオ）における議論をめぐって
第 11 回	立法プロセスの再検討（3）	法案の公示から民会での票決まで
第 12 回	投票者（1）	だれが投票したのか？
第 13 回	投票者（2）	どのように投票したのか？
第 14 回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳、岩波書店、1978 年）
島田誠『世界史リブレット 3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997 年。
長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80 %）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of legislation in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning legislation in the Roman Republic.
- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of lawmaking.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

大貫 俊夫

授業コード：A3169 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

The goals of this course are to understand Christian monasticism, understand religious spirituality in medieval society through monasticism, and consider the interrelationship between monasticism and secular social life.

Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古代から中世後期におけるキリスト教修道制の展開とその歴史的意義について論じる。

【到達目標】

1. キリスト教修道制について包括的に理解できる。
2. 修道制を通して中世社会における宗教的心性のあり様を理解できる。
3. 修道制と世俗の社会生活との相互関係について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第 2 回	キリスト教修道制の起こり	キリスト教修道制の起こりについて論じます。
第 3 回	西欧の修道制とベネディクト戒律	中世ヨーロッパの修道制の基礎といえるベネディクトゥスの『戒律』について論じます。
第 4 回	フランク王国における修道制改革	フランク王国における修道制改革について論じます。
第 5 回	クリュニー修道院の成立	クリュニー修道院の成立について論じます。
第 6 回	クリュニー修道制の宗教的・社会的意義	クリュニー修道制の宗教的・社会的意義について論じます。
第 7 回	シトー会の成立とその特徴	シトー会の成立とその特徴について論じます。
第 8 回	シトー会と世俗社会	シトー会と世俗社会について論じます。
第 9 回	プレモントレ会とカルトゥジオ会	プレモントレ会とカルトゥジオ会について論じます。
第 10 回	托鉢修道会の成立	托鉢修道会の成立について論じます。
第 11 回	托鉢修道会とその意義	托鉢修道会とその意義について論じます。
第 12 回	後期中世における修道制	後期中世における修道制について論じます。
第 13 回	修道制と女性	修道制と女性について論じます。
第 14 回	まとめ	本授業を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：授業内容を振り返る。

本授業の復習時間は 1 回あたり 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

杉崎泰一郎『修道院の歴史』（創元社、2015 年）

K. S. フランク『修道院の歴史』（教文館、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

中間課題（20%）

期末レポート（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will discuss the development of Christian monasticism and its historical significance from ancient times to the late Middle Ages.

Learning Objectives:

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

吉岡 潤

授業コード：A3170 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中・東欧諸国、特にポーランドにおける歴史認識問題について検討する。

言語、宗教、政治文化などを異にする様々な国家・民族が複雑に入り組み、起伏に富んだ歴史を歩んできた中・東欧において、歴史認識の相違は国家・民族間の対立をもたらすだけでなく、近年では同一国民を分断するようにもなっている。特に激動の現代史をくぐり抜けてきたポーランドでは、現在、第二次世界大戦期や社会主義期の記憶をめぐって「過去をめぐる戦争」と称しうる国内対立が展開され、国論を二分している。

本講義では、冷戦後の中・東欧諸国をめぐる国際関係を踏まえつつ、主にポーランドにおける歴史認識をめぐる諸問題について検討していく。具体的な検討課題として、第二次世界大戦期と社会主義期の記憶、旧社会主義国における「移行期正義」、歴史博物館と公共史（パブリック・ヒストリー）、歴史政策と記憶の政治などを予定している。

【到達目標】

過去や歴史が政治化・紛争化する構造を、実際に展開している歴史認識問題の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。歴史認識問題に対して、専門知としての歴史学が何をなすのか、また何をなすべきかを考察するための手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	歴史認識問題とは何か、歴史認識問題を検討する意義とは何か、考察する。
第 2 回	前提 (1)	歴史学・歴史研究におけるキーワードの一つ「記憶」について解説する。
第 3 回	前提 (2)	検討対象としての中・東欧諸国の歴史、特にポーランドの現代史を概観する。
第 4 回	歴史認識と国際関係 (1)	冷戦後のポーランドとドイツとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。
第 5 回	歴史認識と国際関係 (2)	冷戦後のポーランドとロシアとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。
第 6 回	歴史認識と国際関係 (3)	冷戦後のポーランドとウクライナなどとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。
第 7 回	記憶の政治 (1)	中・東欧諸国、特にポーランドにおける第二次世界大戦期および社会主義期の記憶について解説する。

第 8 回	記憶の政治 (2)	ポーランドにおける「移行期正義」について解説する。
第 9 回	記憶の政治 (3)	ポーランドにおける「過去をめぐる戦争（第一次）」について解説する。
第 10 回	記憶の政治 (4)	ポーランドにおける「過去をめぐる戦争（第二次）」について解説する。
第 11 回	歴史認識問題と公共史 (1)	歴史と社会とを結ぶメディアについて考察する
第 12 回	歴史認識問題と公共史 (2)	歴史認識問題の現場としての歴史博物館について考察する。
第 13 回	歴史認識問題と公共史 (3)	専門知としての歴史学が果たす役割について考察する。
第 14 回	まとめ	改めて、歴史認識をめぐる対立と相互理解について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージで 35：65 ないし 40：60 とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ（特に東ヨーロッパ）の近現代史、日本も決して無縁ではない歴史認識問題などに関心のある方の受講を歓迎します。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of historical consciousness in Central and Eastern European countries (CEEC), especially in Poland, after the Cold War. Students are expected to learn about such topics as collective memory of communist past in CEEC, transitional justice in CEEC, and politics of memory in CEEC.

Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%), participation to the discussion (20%), and the final report (40%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という4つの視角から検討する。対象とする時期は16世紀から18世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2つの到達目標をもつ。ひとつは、16世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会史とはなにか
第2回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第3回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第4回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第5回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第6回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第7回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第8回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第9回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第10回	緊張と排除（1）	魔女
第11回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第12回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第13回	ディスカッション（2）	近代と排除
第14回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えをA4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験を教室で実施する（40%）

【学生の意見等からの気づき】

2019年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、分厚すぎて受講生はあまり活用していないことに気がつきました。2020年度以降、リストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思ひ改善しました。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

(Learning activities outside of the classroom)

HIS200BE

西洋史特講V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2023 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で生まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次の授業冒頭でまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤論吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸—— 伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、ほぼ対面で授業を行うことができました。また、学生の希望を聞いて「市ヶ谷を歩く」という特別セッションを行いました。都市史への理解を深めたと思います。今年度も学生の要望を聞いた上、シラバスを変更して同様のフィールドワークを行う可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・ Final examination (60%), and short essays and in-class contributions (40%)

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

大鳥 由香子

授業コード：A3173 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は 19 世紀以降のアメリカ史についての理解を深めることを目的とする。ジェンダーギャップという点からすると、日本よりもアメリカ社会の方が「進んでいる」という評価を下されることが多い。例えば大学に関していうと、ジェンダー研究やセクシュアリティ研究などの分野は日本よりもアメリカ合衆国の方がずっと盛んであり、キャンパス内における性暴力防止などの取り組みも進んでいる。このような事情を踏まえ、今年度は 19 世紀以降のアメリカ史について、特にジェンダーと高等教育の視点から論じる。

【到達目標】

アメリカ社会におけるジェンダーについての基礎的な知識を得る。
 英文の史料を解釈する能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、演習形式を取り入れる場合もあるが、リアクションペーパーの提出は必須となる。また、日本語訳のない英語の史料の講読を課題とする週もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の紹介
第 2 回	19 世紀アメリカにおける女性と高等教育	アメリカ合衆国において女子教育はどのように始まったのか
第 3 回	教師としての白人女性たち	女子教育は人種とどう関わっていたのか
第 4 回	20 世紀前半のアメリカにおける女性と高等教育	女性たちはどのように科学に携わっていったのか
第 5 回	黒人女性と高等教育	黒人女性はどうして高等教育へのアクセスを得ていったのか
第 6 回	公民権運動とフェミニズム	公民権運動は女性たちの歩みをどう変えたのか
第 7 回	タイトル・ナイン	フェミニズムはなぜ教育の平等を求めたのか
第 8 回	覇権国家とアメリカ女性	アメリカの覇権は女性たちの歩みをどう変えたのか
第 9 回	タイトル・ナイン	高等教育におけるジェンダーの平等とは何か
第 10 回	女性と大学スポーツ	女性学生の増加は何をもたらしたのか
第 11 回	女性と大学スポーツ	アメリカの事例から私たちは何を学ぶことができるのか
第 12 回	キャンパスにおける多様性	キャンパスにおける多様性はどのように考えられてきたのか
第 13 回	キャンパスにおける性暴力防止の取り組み	タイトル・ナインは何をもたらしているのか
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。学生は授業の復習のほか、授業内で取り上げる文献に関する課題を行っていただきます。課題については次週の授業で解説を行う、また皆さんのコメントを取り上げるなどの形でフィードバックを行います。また、教科書を活用し、アメリカ史の基本的な流れを各自で抑え、基本的な事項の定着を図ります。

【テキスト（教科書）】

遠藤泰生・小田悠生『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房(2022)

このテキストは秋学期開講のアメリカ史の授業（西洋史特講Ⅶ）と共通である。そのほかの資料については、適宜配布する。

【参考書】

リンダ・K・カーバー、ジェーン・シエロン・ドゥハート編著、有賀夏紀 [ほか] 編訳『ウイメンズアメリカ 資料編』（2000）

エレン・キャロル・デュボイス、リン・デュメニル著、石井紀子 [ほか] 訳『女性の日からみたアメリカ史』（2009）

有賀夏紀、小槍山ルイ『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（2010）

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題（履修者数によってディスカッションへの参加と貢献）：30 %
 小テスト：30 %

期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業ではアメリカの大学事情に関するコメントが寄せられており、今年度はジェンダーと高等教育についてより広範に取り扱う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出、小テスト実施等のために学習支援システム等を利用する予定。

【Outline (in English)】

This course explores modern US history, with an emphasis on gender and higher education. Women's educational advancements served as cornerstones of gender equality in the United States, creating gender/sexuality studies as established disciplines and promoting sexual violence prevention programs on campus and beyond. Students will gain basic knowledge of gender and education in the United States. They will also learn how to interpret English-language primary sources.

This will be a lecture course. Every week students will submit response papers in Japanese. Some of the reading materials are available only in English.

Approximately four hours of study and preparation are required. Students need to do weekly readings and submit response papers as some of them will be discussed in class. Students are also expected to study on their own for weekly quizzes in Japanese.

A breakdown of the final grade will be:

Weekly Assignments:30%

Quizzes:30%

Final Exam:40%

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる社会規範の生成と変成を学ぶ。2023 年度は、とくに、アメリカ社会を今なお強く規定する人種規範の歴史に注意を払いながら、アメリカの近代史を学ぶ。政治文書にとどまらず、文学表象、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の相貌に触れることで、立体的で興行きのある歴史理解の習得を目指す。また、諸外国における人種問題に目を配ることで、アメリカ合衆国の歴史に対する理解を相対化させる。

【到達目標】

人種・民族規範の歴史構築性が指摘されるようになって久しいにもかかわらず、その規範の起源を読み解き、あらたな未来に向けて因習を読み替える作業は容易ではない。アメリカ合衆国の近代史を学びながら、その困難に丁寧に向き合い、多文化共生の基盤形成に不可欠な人種・民族規範への理解を深める。その一方で、アメリカ合衆国以外の国の例も参照しながら、多文化共生の選択肢が幾通りも存在することを学ぶ。

課題図書や読書レポートを準備する過程で、論文を記すための文章の構成や言葉遣いを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は行う。学生とのインターアクティブな会話を重視し、各授業内に質疑の時間を必ず設ける。提出してもらった読書レポートやリアクションペーパーにはコメントを付けて返却する。図像史料の読み解きはパワポイント画像などを使って行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ合衆国の歴史と文化を学ぶ視点	アメリカ近代史を徹底する歴史観として「有用なる過去」の概念を紹介する。
第 2 回	アメリカ先住民の世界	“アメリカ近代史”が始まる以前から存在した先住民の歴史とその遺産を確認する。
第 3 回	ピューリタニズムの遺産	英領北米植民地における多元社会構築の原理を、ピューリタンの入植の歴史を事例に学ぶ。
第 4 回	近代アメリカにおける寛容の発生	「政教分離」のアメリカ合衆国における意味を、フランス近代の経験などと対比しながら学ぶ。
第 5 回	合衆国独立の論理	18 世紀の西洋政治思想の文脈において、アメリカの「独立」が何を意味し得たのか学ぶ。
第 6 回	合衆国連邦憲法の成立	アメリカ合衆国が国家の体裁を整えるために準備した最大の文書、連邦憲法の制定の歴史を確認する。
第 7 回	南北アメリカにおける奴隷制社会の誕生	アメリカ近代史における最悪の逆説と言われる黒人種奴隷制度に着目し、その英領植民地への導入の歴史を学ぶ。そもそも奴隷とはいかなる存在であったのかを、「差別」の問題を視野に入れながら考える。
第 8 回	近代アメリカにおける黒人種奴隷制度の発展	独立宣言で「全ての人間の平等」をうたったアメリカ合衆国は、実体としては奴隷制国家として発展を遂げる。そのダイレンマを概観する。
第 9 回	南部社会論の系譜	映画『それでも夜は明ける』が描く 19 世紀前半のアメリカ南部社会を学ぶ。
第 10 回	良心の呵責？：反奴隷制運動の展開と限界	大西洋世界にひろがった反奴隷制思想とアメリカ合衆国における奴隷制廃止運動の共振を学ぶ。
第 11 回	セクショナリズムの時代	領土の西への拡大とともに深刻化した南北セクショナリズムの対立を学ぶ。
第 12 回	南北戦争	未曾有の内戦を経ることで国民国家への変貌を遂げたアメリカ合衆国の体験を理解する。

第 13 回 占領と再建

南北戦争後に試みられた連邦再建の試みとそこで生まれた新たな人種間関係に焦点を当て、19 世紀後半のアメリカ合衆国の歴史を俯瞰する。南北戦争の記憶と南北の和解が必然とした人種正義の後退と現代への歴史遺産を学ぶ。

第 14 回 二つのゲティスバーグ演説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一学期の間に 2 本の読書レポートを課す。テキストとなるのはいずれもアフリカ系アメリカ人文化史における古典と呼ばれる作品である。歴史の史料として自伝や評論が持つ意味を考える作業にもなる。このほか、白地図への書き込みを通じたヴィジュアルな歴史理解の醸成も図る。本授業の準備・復習時間は、各 3 時間とします。

【テキスト（教科書）】

・フレデリック・ダグラス著/専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳『アメリカの奴隷制を生きるーフレデリック・ダグラス自伝』（彩流社、2016）

・W.E.B. デュボイス著/木島始・鮫島重俊・黄寅秀訳『黒人のたましい』（岩波文庫、1992）

【参考書】

遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）

【成績評価の方法と基準】

提出物を期限までに必ず提出すること。読書レポートは、テーマ設定のオリジナリティ、形式、論理性、文章の練度の各視点から評価される。授業におけるリアクションペーパーの議論も評価の対象とする。

成績の配点は以下。白地図（20%）、読書レポート（60%）、リアクションペーパー（10%）、小テスト（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

パワポイントによる教材提示は、情報量が増えて考える時間が不足するという意見が聞かれるので、板書も取り入れつつゆっくり議論を進めることにする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

他国の歴史と比較しながらアメリカ合衆国の歴史の特性を議論したいので、イギリス史や日本史などの歴史を学ぶ学生の受講も歓迎する。

【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This year, the racial and ethnic norms and their influence on life and experience of contemporary America will be examined with special care. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to differences of race and ethnicity.

In this class, in preparing book reports, students are expected to learn how to write academic writing: format, vocabulary, and logic.

Two book reports are required. One is on Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave (1845) and another on The Souls of Black Folk (1903). Both of them are the classics of African American Intellectual History. Students are expected to learn how to read literary text and social criticism as historical documents. Besides these two reports, students must submit a few historical maps during the semester. Reaction papers to weekly lectures are required too. Students are expected to spend about 3hrs a week in out of class study.

Book reports and reaction papers will be returned with comments. Grading are based on Map Studies (20%), Book Reports (60%), Reaction Papers (10%), Short Quiz (10%).

HIS200BE

美術史（日本）A／美術史（日本）A（資格）

稲本 万里子

授業コード：A3176, A3857 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3857）。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。

視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握する。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、美術史概説	授業内容の説明
第2回	美術史概説	美術史の研究手法・ジャンル・時代区分
第3回	展覧会の見方	独立行政法人化と指定管理者制度の問題
第4回	絵巻概説、「源氏物語絵巻」I	絵巻の形態、鑑賞法、「源氏物語絵巻」概説
第5回	「源氏物語絵巻」II	「源氏物語絵巻」柏木第一段～御法段、情景選択法
第6回	「源氏物語絵巻」III	「源氏物語絵巻」竹河第一段～橋姫段、早蕨段～東屋第二段
第7回	「源氏物語絵巻」IV	「源氏物語絵巻」蓬生段・関屋段、若紫段、諸問題の検討
第8回	「信貴山縁起絵巻」I	「信貴山縁起絵巻」概説、飛倉巻
第9回	「信貴山縁起絵巻」II	「信貴山縁起絵巻」延喜加持巻、尼公巻
第10回	「信貴山縁起絵巻」III	「信貴山縁起絵巻」諸問題の検討、レポートの書き方
第11回	「伴大納言絵巻」I	「伴大納言絵巻」概説、上巻、中巻
第12回	「伴大納言絵巻」II	「伴大納言絵巻」下巻、諸問題の検討
第13回	授業のまとめI	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめII	各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、「源氏物語」の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した「すぐわかる源氏物語の絵巻」が便利。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントはHoppiiにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】

入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵巻』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜—平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思いっきり味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80%、リアクションペーパー 20%。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、Hoppiiから連絡する。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client.

Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria /Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE

美術史（日本）B／美術史（日本）B（資格）

稲本 万里子

授業コード：A3177, A3858 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3858）。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。

この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	美術史概説、絵巻概説	美術史の研究手法、ジャンル、時代区分、絵巻の形態、鑑賞法
第3回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第4回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第5回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第6回	「華厳宗祖師絵伝」	「華厳宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第7回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第8回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第9回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第10回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第11回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第12回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見とくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントはHoppiiにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】

入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80%、リアクションペーパー 20%。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、スライドを映写するため、PCからの受講を推奨する。対面授業の場合は、教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、Hoppiiから連絡する。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period to Kamakura period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client. In the fall semester, lectures will focus on the question of what kind of society created what kind of visual image.

Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.

Become able to explain what kind of society produced what kind of visual image.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria /Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE

日本史特講区

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに明治 41 年を追体験する。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようにすることをめざす。

【到達目標】

①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	明治 41 年 7 月の弥彦と啄木 (1)	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第 3 回	明治 41 年 7 月の弥彦と啄木 (2)	近代青年をめぐる友情の世界など
第 4 回	明治 41 年 8 月の弥彦と啄木 (1)	避暑と避暑地の世界など
第 5 回	明治 41 年 8 月の弥彦と啄木 (2)	都市生活の諸相など
第 6 回	明治 41 年 9 月の弥彦と啄木 (1)	スポーツをめぐる国際交流など
第 7 回	明治 41 年 9 月の弥彦と啄木 (2)	地方出身者の上京生活など
第 8 回	明治 41 年 10 月の弥彦と啄木 (1)	米艦隊の来日とその反響など
第 9 回	明治 41 年 10 月の弥彦と啄木 (2)	明治の文学者の生活など
第 10 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木 (1)	陸上競技の国際化への道のりなど
第 11 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木 (2)	園遊会と社交をめぐる世界など
第 12 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木 (1)	明治の大学生生活など
第 13 回	明治 41 年 12 月の弥彦と啄木 (2)	明治青年の日常など
第 14 回	まとめ	総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史料等には必ず目を通して置く。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特には用いない。

【参考書】

『三島弥彦—伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
 ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
 ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their 1908 diaries, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本経済史について、研究史上、重要な課題とされてきた問題を軸に理解を深める。

【到達目標】

本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について、理解を深めることを目標とする。日本の近現代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

近現代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら、時系列的に講義を進める。

毎回、リアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業について。近代日本経済史について。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	日本資本主義論争	「日本資本主義論争」について、論争の過程で提出された論点について考える。
第 3 回	華族資本	華族が日本の工業化・資本主義化に対して果たした役割について考える。
第 4 回	松方財政	激しいデフレを招いた松方財政について、その意義と社会との関連について考える。
第 5 回	日清戦争と戦後経営	1 日清戦争と財政について考える。
第 6 回	日清戦争と戦後経営	2 日清戦争と戦後経営の特徴と内閣・政党との関連を考える。
第 7 回	日露戦争と戦後経営	1 日露戦争と国際情勢について考える。
第 8 回	日露戦争と戦後経営	2 日露戦争と日露戦後経営の特徴について考える。
第 9 回	第一次世界大戦と戦後恐慌	第一次世界大戦時の経済状況と、戦後恐慌について考える。
第 10 回	金融恐慌	金融恐慌の実状と日本銀行の役割、財閥の形成について考える。
第 11 回	昭和恐慌	昭和恐慌の実状と政府・軍部・財閥の関連について考える。
第 12 回	占領期の日本経済	1 第二次世界大戦後の占領期の経済政策について考える。
第 13 回	占領期の日本経済	2 第二次世界大戦後の占領下の経済政策について考える。（財閥解体、等）
第 14 回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

資料レジュメを配布する。

【参考書】

教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と、学期末の試験 1 回（60%）による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン回は、ディスカッションタイムを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とします。

【Outline (in English)】

This course aims for students to study modern Japanese economic history, focusing on issues that have been regarded as important issues in research history. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as the role of Aristocratic Capital in Japan's Industrialization, the formation of Zaibatsu, Economic policy after World War II, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

HIS300BE

日本近代史演習

内藤 一成

授業コード：A3203 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を研究する上では、史料（資料）や文献を博捜し、内容を深く読み込まなければならぬ。また先行研究を正しく「批判」し、自らの創造的な意見を打ち立てなければならない。本授業では、こうした能力の習得をめざす。

【到達目標】

日本近代史を研究するのに必要な能力の習得を目標とする。特に以下の 4 点を重視する。①一次史料の解読能力を身につける。②多様な史料（資料）の特徴を理解する。③学術論文を「批判的に」読み込む能力を身につける。④発表を通じてプレゼンテーションやディスカッションの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式をとる。史料読解および、個人またはグループによる発表を基本とする。春学期の発表では、グループによる①課題報告（テーマはあらかじめ提示した候補の中から選択）、②史料（資料）の紹介、③学術論文の論評、を行う。秋学期の発表は自由形式をとるが、3 年生以上は卒論作成を視野に入れたものとする。

※なお、受講生の人数や授業の進捗状況等によって弾力的に授業内容を組み替えることがある。史料読解のテキストは教員より配布する。このほか、状況が許せば博物館等の見学や専門家からレクチャーを受ける機会を設けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	ガイダンス 1	史料読解テキストの説明
第 3 回	ガイダンス 2	発表の方法に関する説明
第 4 回	史料読解 1 発表 1	グループ発表（学術論文の論評 1）
第 5 回	史料読解 2 発表 2	グループ発表（史料紹介 1）
第 6 回	史料読解 3 発表 3	グループ発表（課題報告 1）
第 7 回	史料読解 4 発表 4	グループ発表（学術論文の論評 2）
第 8 回	史料読解 5 発表 5	グループ発表（史料紹介 2）
第 9 回	史料読解 6 発表 6	グループ発表（課題報告 2）
第 10 回	史料読解 7 発表 7	グループ発表（学術論文の論評 3）
第 11 回	史料読解 8 発表 8	グループ発表（史料紹介 3）
第 12 回	史料読解 9 発表 9	グループ発表（課題報告 3）
第 13 回	史料読解 10 発表 10	グループ発表（学術論文の論評 4）
第 14 回	史料読解 11 発表 11	グループ発表（史料紹介 4）
第 15 回	史料読解 12 発表 12	グループ発表（課題報告 4）
第 16 回	史料読解 13 発表 13	個人発表 1
第 17 回	史料読解 14 発表 14	個人発表 2
第 18 回	史料読解 15 発表 15	個人発表 3
第 19 回	史料読解 16 発表 16	個人発表 4
第 20 回	史料読解 17 発表 17	個人発表 5
第 21 回	史料読解 18 発表 18	個人発表 6
第 22 回	史料読解 19 発表 19	個人発表 7
第 23 回	史料読解 20 発表 20	個人発表 8
第 24 回	史料読解 21 発表 21	個人発表 9
第 25 回	史料読解 22 発表 22	個人発表 10
第 26 回	史料読解 23 発表 23	個人発表 11
第 27 回	史料読解 24 発表 24	個人発表 12
第 28 回	まとめ	全体総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習は平素よりコンスタントに進めておく。発表では発表者以外の学生も積極的な議論が行えるようレジュメの内容を予習しておく。論文評も同様に、対象論文を事前に熟読しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

史料読解でテキストとして使用する「河井弥八日記」（個人蔵）は学習支援システムを通じて配布する。※授業の進度に応じて、新たな史料を追加する場がある。本授業に限らず、古文書解読のため、児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂書店）を準備しておくことが望ましい。

【参考書】

『シリーズ日本近現代史』（岩波新書）全 10 冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

史料読解への取り組みや、発表内容、ディスカッションへの参加度などをともに総合化し、これを平常点（100 %）として評価する。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is twofold. The first is to search for historical materials and scholarly books in modern Japan and read the contents deeply. The second is to properly criticize previous research and establish one's own creative opinion. Through this course, I aim for students to acquire such abilities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the ability to decipher historical materials, read academic papers critically, and presentations and discussions.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grades are calculated according to the process of presentation, discussion and in-class contribution. Combine all elements to make 100%

HIS300BE

日本古代史科学Ⅱ a

山口 英男

授業コード：A3204 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正倉院文書と木簡を中心に、日本古代史料研究の課題、古代史料の特徴、歴史情報抽出の方法を学び考えます。史料のどこに注目したらよいかを知ること、史料の背後の世界へと視野が広がります。日本古代史を研究するための材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。何よりも、正倉院文書や木簡など、当時の実務の現場で用いられた書面が大量に残されていることが、日本古代史料の特質です。現代に引きつけていけば、お役所の内部書類が外部に流出したようなものです。まさに「宝の山」といってよい史料群であり、見つけ出されることを待っている情報がまだまだたくさんあります。そうした情報にどうやれば接近できるのか。記載内容（文字）を読み取るだけではなく、史料を「もの」として分析することで、古代史科学・古文書学の新たな知見が蓄積されて来ている。より多くの情報を史料から抽出することで、古代史研究の地平をさらに広げていくことが期待できます。本講義では、古代史料の「すがた・かたち」を検討しながら、史料の分類と分析の視角・手法を考え、古代史研究の新たな視野を展望します。

【到達目標】

古代史料研究の課題について理解する。
 古代史料の特徴を知り、歴史情報に接近するための視角と方法を身につける。
 史料に対する目のつけどころ、問いかけ方を学ぶことで、史料の持つ豊かで多様な情報に近づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。
 配布した史料プリントを使いながら、史料の分析とはどのような作業であるのか、その結果がわかるのか、具体的な例を挙げながら解説します。
 3 回程度の講義のまとめごとに、小レポートを提出してもらうことで、理解と認識の深まりを確かめながら進めます。小レポートについては、下記も参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらいと進め方
第 2 回	古代の実務文書の面白さ	正倉院文書と木簡
第 3 回	古代史科学の課題と視角①	古代史料の概要と「史料批判」
第 4 回	古代史科学の課題と視角②	古代史料の特徴と分析視角
第 5 回	古代史科学の課題と視角③	実務官司の仕事と書面
第 6 回	古代史料に見る情報の定着と移動①	情報の記録・伝達と「書類学」という考え方
第 7 回	古代史料に見る情報の定着と移動②	仕事に用いる文書とメモ
第 8 回	古代史料に見る情報の定着と移動③	仕事の進行とともに役割を変えていく書面
第 9 回	木簡と帳簿①	木簡と古代史科学の関係
第 10 回	木簡と帳簿②	紙の書面と木簡
第 11 回	木簡と帳簿③	「食口」という方法と木簡
第 12 回	口頭伝達と書面の関係①	書面の背後に見える口頭伝達
第 13 回	口頭伝達と書面の関係②	口頭伝達の記録
第 14 回	口頭伝達と書面の関係③	「口状」の発見からわかった業務の実態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストに目を通しておいください。また、講義の内容を、自分なりに文章に整理しておくことをすすめます。参考書や、講義中に紹介した研究文献にもできるだけ目を通してください。
 本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、講義に必ず持参してください。教科書は使用しません。

【参考書】

柴原永遠男『正倉院文書入門』（角川学芸出版、2011 年）
 市川理恵『正倉院写経所文書を読みとく』（同成社、2017 年）
 山口英男『日本古代の地域社会と行政機構』（吉川弘文館、2019 年）
 山口英男「装演小治田人公口状とその背景」（古瀬奈津子編『古代日本の政治と制度—律令制・儀式・史料—』同成社、2021 年）
 山口英男「正倉院文書に見える「口状」について」（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018 年）
 山口英男「写経所の機構」（犬飼隆編『古代の文字文化』竹林舎、2017 年）
 山口英男「正倉院文書から見た「間食」の意味について」（『正倉院文書研究』13、2013 年）
 東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』（中公新書、2014 年）
 山口英男「正倉院文書に見える文字の世界」（国立歴史民俗博物館他編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014 年）
 正倉院文書マルチ支援（多元的解析支援）データベース SHOMUS・奈良時代大日本古文書フルテキストデータベース（東京大学史料編纂所 SHIPS データベース <http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>）
 奈良文化財研究所 木簡庫データベース <http://mokkanko.nabunken.go.jp/en/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期間中に提出してもらう複数の小レポートの内容によって行います。講義の進行に合わせて課題を出します。小レポートでは、講義の受講を前提に、講義内容の整理とその批判的論評を求めます。理解力（40%）、調査・考察力（30%）、文章力・独創性（30%）を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートは、提出の翌週にコメントと評価を付して返却しますので、次のレポート作成の参考にしてください。これを繰り返すことで、文章のレベルや内容、説得力が確実にアップします。

【その他の重要事項】

インターネット等から文章を「剽窃」したレポートに対しては厳格な措置を取ります。他人の文章を盗み、あたかも自分の文章であるかのように人を欺く行為が許されないことを十分認識してください。

【Outline (in English)】

Learn research subjects on ancient historical documents, and the method of historical information extraction, focusing on Shosoin Document and Wooden Tablet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grades are determined by multiple reports on lecture content. Evaluation criteria of the report are 40% comprehension, 30% research and consideration, and 30% originality.

HIS300BE

日本古文書学Ⅰ

大塚 紀弘

授業コード：A3206 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【到達目標】

法令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に日本漢文を訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	古文書学とは	履修のガイダンス
第 2 回	検非違使別当宣	古文書に親しむ
第 3 回	紛失状	古文書に親しむ
第 4 回	公式様文書 宣命・詔	様式・機能の解説と訓読
第 5 回	公式様文書 符（1）	様式・機能の解説と訓読
第 6 回	公式様文書 符（2）	様式・機能の解説と訓読
第 7 回	公式様文書 移	様式・機能の解説と訓読
第 8 回	公式様文書 牒	様式・機能の解説と訓読
第 9 回	公式様文書 解	様式・機能の解説と訓読
第 10 回	公式様文書 宣旨	様式・機能の解説と訓読
第 11 回	公家様文書 官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第 12 回	公家様文書 院庁下文	様式・機能の解説と訓読
第 13 回	公家様文書 摂関家政 所下文	様式・機能の解説と訓読
第 14 回	公式様文書と公家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書、プリント等を用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）
 苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS300BE

日本古文書学Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3207 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

【到達目標】

公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	公家様文書 国司庁宣	様式・機能の解説と訓読
第3回	公家様文書 綸旨	様式・機能の解説と訓読
第4回	公家様文書 院宣	様式・機能の解説と訓読
第5回	公家様文書 御教書	様式・機能の解説と訓読
第6回	武家様文書 下文	様式・機能の解説と訓読
第7回	武家様文書 下文	様式・機能の解説と訓読
第8回	武家様文書 下知状	様式・機能の解説と訓読
第9回	武家様文書 下知状	様式・機能の解説と訓読
第10回	武家様文書 鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第11回	武家様文書 室町幕府の奉書	様式・機能の解説と訓読
第12回	武家様文書 室町幕府の直状	様式・機能の解説と訓読
第13回	起請文・売券・讓状	様式・機能の解説と訓読
第14回	公家様文書と武家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書、プリント等を用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）

苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で判定する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「中国・香港・台湾からみる東アジア近現代史」をテーマとする。東アジアにおいて、中国・香港・台湾はそれぞれ重要な地域であり、日本とも政治・経済・文化など多方面にわたって深い交流がある。この三地域は「兩岸三地」と総称され、同じ中華文化圏として一括りに捉えられることが多い。しかし、歴史的には異なる背景を持ち、特に近代以降は植民地統治や政治的対立の時代を経て、互いに複雑な関係の下に置かれてきた。その過程は今日の東アジア、ひいては世界的な国際関係にも、大きな影響を及ぼしている。

本授業では、こうした近現代における中国・香港・台湾の交流／対立の歴史をたどりながら、それぞれの国家や地域社会・文化がどのように形成されてきたかを概観する。その上で、現在の三地域および東アジアの国際関係をめぐる、外交、経済発展、地域アイデンティティ、政治的民主化といった様々な問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代の中国・香港・台湾の歴史をたどりながら、それぞれの国家や地域社会・文化の成り立ちについて、知識と理解を深めるとともに、現在の三地域および東アジアの国際関係をめぐる諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジア近現代史入門	東アジア近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	中国の近代①	アヘン戦争と清末の変動
第 3 回	中国の近代②	辛亥革命と中華民国の成立
第 4 回	香港の近代	イギリス統治下の都市発展
第 5 回	台湾の近代	日本統治下の近代化と社会統合
第 6 回	戦時の中国・香港・台湾	日本の軍事侵攻と地域社会
第 7 回	戦後東アジアの冷戦構造	国共内戦と台湾海峡危機
第 8 回	社会主義国家としての中国①	中華人民共和国の成立
第 9 回	社会主義国家としての中国②	文化大革命から改革開放へ
第 10 回	戦後の香港	経済成長と中国への返還
第 11 回	戦後の台湾	国民党独裁から民主化へ
第 12 回	グローバル化時代の東アジア	地域社会の交流と変容
第 13 回	現在の中国・香港・台湾	東アジア国際関係の現状と行方
第 14 回	東アジア近現代史の課題と展望	東アジア近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国・香港・台湾に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）』東京大学出版会、2019 年。

中村元哉・森川裕貴・関智英・家永真幸『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。

吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店（岩波新書）、2010～17 年。

倉田徹・張瑛啓『香港——中国と向き合う自由都市』岩波書店（岩波新書）、2015 年。

若林正丈『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』筑摩書房（ちくま新書）、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末試験 70 %

授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern east Asia focusing on China (People's Republic of China), Hong Kong and Taiwan (Republic of China) area.

The goal of this course is to understand the present various issues about international relations of east Asia from a historical perspective.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第5回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせて適宜紹介しますが、写真や図版が多用されているので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

HIS300BE

東洋史物質資料演習

塩沢 裕仁

授業コード：A3210 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア物質資料への理解

【到達目標】

中国考古・美術・建築に関するテキストの講読を通じて物質資料の性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得することができま

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）をテキストとして用い、その講読と内容発表を行います。各自が興味をもつテーマをテキストの中から選び、そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、報告資料を作成の上、発表を行ってまいります。物を見る力を養い、関連する資料を如何に見出し資料の性格を理論的に組み立てていくかという問題を互いに議論していく必要があります。

前半では、まずテキストを読み解き、特別な用語に慣れることに主眼をおきます。テキストは現代中国語ですので、読解に慣れた上級生と不慣れた下級生との組み合わせで担当するテーマについて、内容の要約と説明を行ってまいります。後半では各自の研究計画テーマに沿ってテキストよりテーマを選択し発表してまいります。互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していくことを期待します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 1	年間計画・テキストの説明と配布
第 2 回	導入 2	基本書籍・工具書の紹介
第 3 回	図書館ガイダンス	物質文化関連書籍の閲覧と図書館利用法
第 4 回	テキストの講読 1	『漢代物質文化資料図説』講読第 1 回
第 5 回	テキストの講読 2	『漢代物質文化資料図説』講読第 2 回
第 6 回	テキストの講読 3	『漢代物質文化資料図説』講読第 3 回
第 7 回	テキストの講読 4	『漢代物質文化資料図説』講読第 4 回
第 8 回	テキストの講読 5	『漢代物質文化資料図説』講読第 5 回
第 9 回	テキストの講読と発表 1	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 1 回
第 10 回	テキストの講読と発表 2	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 2 回
第 11 回	テキストの講読と発表 3	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 3 回
第 12 回	博物館見学	東京国立博物館見学
第 13 回	研究発表 1	4 年生対象 1
第 14 回	研究発表 2	4 年生対象 2
第 15 回	テキストの講読と発表 4	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 1 回
第 16 回	テキストの講読と発表 5	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 2 回
第 17 回	専門図書館の見学	東洋文庫
第 18 回	テキストの講読と発表 6	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 3 回
第 19 回	テキストの講読と発表 7	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 4 回
第 20 回	テキストの講読と発表 8	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 5 回
第 21 回	テキストの講読と発表 9	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 6 回
第 22 回	テキストの講読と発表 10	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 7 回
第 23 回	テキストの講読と発表 11	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 8 回
第 24 回	テキストの講読と発表 12	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 9 回
第 25 回	研究計画発表 1	3 年生対象 1
第 26 回	研究計画発表 2	3 年生対象 2
第 27 回	研究計画発表 3	2 年生対象 1
第 28 回	研究計画発表 4	2 年生対象 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で見学する博物館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会などに積極的に出掛け、物を見る目を培ってほしいと思います。

研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにしてください。

なお、提携先の世界文化遺産龍門石窟での課外学習を予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いますが、プリントして授業にて配布します。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介していきますが、研究所蔵の資料を積極的に活用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

興味の対象は多岐にわたると思いますが、学習を進める中で自分のテーマが明確に見えてくると思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On reading various Historical records and doing research about the Oriental Archaeology, Art and Architecture, we will aim to gain the method for doing research on the Oriental Material Culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on class performance 70 percent and term paper 30 percent.

HIS300BE

東洋史文献史料演習

齋藤 勝

授業コード：A3211 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東洋史研究のための基礎の習得と実践

自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

【到達目標】

東洋史の研究に必要となる文献史料（漢文）と先行研究（日本語・中国語・英語）の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていききたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていききたい。なお、課題に対するフィードバックは、文献を読み進めていくなかでやっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の概要	進め方、テキストについて
第 2 回	先行研究及び史料	論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方
第 3 回	史料講読	先秦儒家文献（1）『孟子』
第 4 回	史料講読	先秦儒家文献（2）『荀子』
第 5 回	史料講読	先秦諸子文献（1）『墨子』
第 6 回	史料講読	先秦諸子文献（2）『韓非子』
第 7 回	史料講読	正史（1）『史記』
第 8 回	史料講読	正史（2）『史記会注考証』
第 9 回	史料講読	正史（3）『漢書』
第 10 回	史料講読	正史（4）『漢書補注』
第 11 回	史料講読	正史（5）『三国志』
第 12 回	史料講読	正史（6）『三国志集解』
第 13 回	史料講読	編年史書『資治通鑑』
第 14 回	先行研究の整理	中国史
第 15 回	先行研究の整理	中国史以外
第 16 回	文献学の基礎	書誌学について
第 17 回	文献学の基礎	漢籍の成立と伝世について
第 18 回	史料講読と考証	考証学・顧炎武・『日知録』について
第 19 回	史料講読と考証	『日知録』の講読・考証
第 20 回	史料講読と考証	『塩鉄論』について
第 21 回	史料講読と考証	『塩鉄論校注』の講読・考証
第 22 回	史料講読と考証	『白居易集』について
第 23 回	史料講読と考証	『白居易集』諸本の比較
第 24 回	中文研究書の講読	陳寅恪の研究
第 25 回	中文研究書の講読	陳垣の研究
第 26 回	英文研究書の講読	近現代中国もしくは諸地域について
第 27 回	卒論準備	卒論の書き方について
第 28 回	卒論準備	卒論の準備状況の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート類 50 %

講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。

レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

万一オンライン実施に変更となった場合、Zoom や学習支援システムにより授業を行う予定です。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic skills to study ancient Chinese history.

Learning objects: The goal of this course is to acquire skills to write a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

HIS100BE

東洋史序説

宇都宮 美生

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】

中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交1	倭国の対外関係1
第2回	古代の外交2	倭国の対外関係2
第3回	古代の外交3	遣隋使
第4回	古代の外交4	遣唐使1
第5回	古代の外交5	遣唐使2
第6回	古代の外交6	遣唐使3
第7回	中世の外交1	日宋貿易
第8回	中世の外交2	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易1	日明貿易
第10回	近世の貿易2	日清貿易1
第11回	近世の貿易3	日清貿易2
第12回	近世の貿易4	日清貿易3
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	学習のまとめ	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税
簗原俊洋・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税
田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

出席 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。
身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。
パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1 年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近世まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようになることを目指します。

また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、これまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。

毎回、出席確認を兼ねたりアクションペーパーや授業内小レポートの提出、ないし簡単な小テストへの解答を求める予定です。提出には学習支援システムを活用します。

授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーや小レポートからいくつかを紹介し、少しでも双方向の授業となるよう努めるつもりです。それに従い、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ歴史を学ぶのか？
第 2 回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ
第 3 回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第 4 回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第 5 回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：平和とは何か？
第 6 回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」「アナール学派」
第 7 回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第 8 回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第 9 回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第 10 回	文明の衝突？：中世シチリア王国と「12世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える

第 13 回 16 世紀：ハプスブルク 中世から、近世・近代への転換の時代

第 14 回 授業の総括 授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

準教科書として、以下を挙げます。大学で歴史を学ぶにあたり、また本授業の内容をより深く理解するためにも、是非手にとって読んでください。東京大学教養学部歴史学部会編『歴史学の思考法』岩波書店、2020 年。参考書としては以下を挙げます（いずれもミネルヴァ書房）。金澤周作監修『論点・西洋史学』2020 年。長谷川岳男編著『はじめて学ぶ 西洋古代史』2022 年。その他、参考文献授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価、随時実施する小テストの点数（60%）、および学期末の筆記試験ないしレポート（40%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出・授業後の確認小テストに学習支援システムを使用する予定です。パソコンの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuichi@rku.ac.jp までメールをください。授業の進行は、受講生の理解度や関心に応じ多少前後し、シラバス通りとならないことがあります。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the early modern period.

Learning Objectives:

The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

Learning activities outside the classroom:

Before and after each class, students are expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Policy:

Overall grade will be decided based on the following:

Short reports/Quiz/in class contribution: 60%

Term-end examination or Report: 40%

HIS200BE

日本史特講 XI

遠藤 慶太

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本最初の公式な歴史書である六国史について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』をはじめとする六国史は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。この講義では六国史の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。

【到達目標】

六国史各自の成り立ちや特色について、史料の根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト（写本、刊本、注釈）を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、受講生の質問にも応えながら進行します。実際に史料を読んでもらうことや、調べてもらったことを発表してもらうこともあります。受け身ではなく意欲ある受講が、より深い学びにつながると考えるからです。前回の授業のリアクションペーパーからいくつか取り上げて授業内で紹介し、さらなる議論に活かしてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	六国史について	ガイダンス／六国史についての概説
第 2 回	日本書紀の成立と受容	日本紀講と写本のながれ
第 3 回	日本書紀と神話	神代巻の構成と神社の伝承
第 4 回	日本書紀の対外交渉記事	外国史料との対応関係
第 5 回	日本書紀と壬申の乱	戦乱の叙述方法
第 6 回	続日本紀の成立	桓武天皇をめぐる修史事業
第 7 回	続日本紀と大仏開眼	大仏開眼記事にみる奈良時代の仏教
第 8 回	日本後紀とその復原	失われた歴史書の探索と出版
第 9 回	日本後紀の薨卒伝	官人の伝記と歴史叙述
第 10 回	続日本後紀と宮廷の安定	仁明天皇と「国風文化」をめぐる
第 11 回	日本文徳天皇実録と春秋	六国史と中国史書との影響関係
第 12 回	日本三代実録と儀式書	平安前期の儀礼と史書
第 13 回	日本三代実録と類聚国史	菅原道真の学問と歴史記事の部類について
第 14 回	国史を継ぐもの	六国史の後の歴史叙述／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義資料を事前に web で公開するので、各自事前に読んでおいてください。とくに質問する項目については、各自で調べておいてください。この講義の準備・復習時間は各 1 時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要資料は配布する。

【参考書】

坂本太郎『史書を読む』（中公文庫、1987 年）、遠藤慶太『六国史——日本書紀に始まる古代の「正史」』（中公新書、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、発言や発表など意欲ある講義参加（30%）、小テストやレポート課題（70%）を総合して行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間内で典籍や史料の画像や江戸時代の木版本の実物をみてもらい、関係書籍を紹介するなかで、受講生がより分かりやすく、さらに学ばすきっかけを提供できるよう心がける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to teach students basic knowledge and methods of research about the old Japanese history book, 'Rikkokushi' (Chronicles of the Japan). 'Rikkokushi' is not only a basic historical source of ancient history, but has been read as a classic for a long time. Behind the Type text and Electronic text that we see today, there are books that have been transcribed, published, and even unique annotations. In this lecture, we will take a concrete article on 'Rikkokushi' and consider the meaning of writing History while paying attention to the characteristics of each Text.

Students are expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour he in class.

The overall class grade will be determined by the following criteria: Report: 70%, Contribution during class: 30%

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

徳留 大輔

授業コード：A3217 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】 東アジア陶磁史——中国陶磁史を中心に

【目的・意義】 東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】

陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2～3 回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも 1 回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	第 1 回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第 2 回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。
第 3 回	陶磁器の分類・枠組	イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炆器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第 4 回	東西交流のはじまり	いまから 2000 年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。

第 5 回	チャイナインパクト—世界に影響を与えた中国陶磁器①	8 世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第 6 回	チャイナインパクト—世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時期の東西交流の様子を紐解く。
第 7 回	「青花」の誕生	14 世紀前半、突如として流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。
第 8 回	明清陶磁の展開	明清時代には景徳鎮にて官窯が設置され、皇帝・宮廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。
第 9 回	大航海時代と陶磁器	大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。
第 10 回	唐物茶碗と茶の湯	茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。
第 11 回	日本における陶磁器鑑賞の歴史	日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いられてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することに主眼をおく見方が生まれる。それによりそれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。
第 12 回	日本における近現代陶芸の世界	明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心する陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のバイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。
第 13 回	博物館見学	実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を感じてもらう。
第 14 回	まとめ	本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次回の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】

講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】

葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019 年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 唐物茶碗』淡交社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各講義時に課す課題（宿題）20 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】

<専門領域>考古学・東洋陶磁史
<研究テーマ>中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史
<主要研究業績>
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 第一巻 唐物茶碗』淡交社、2021 年
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019 年
徳留大輔編集『宋磁—神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018 年

【Outline (in English)】

【Outline】 The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.

【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

【Learning activities outside of the classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (report) : 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解していくこととなります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。提出されたペーパーについては次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的な位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べるのが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書
 小杉奈, 『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016 年。
 菊地達也編著, 『図説イスラームの歴史』, 河出書房新社, 2017 年。
 ・工具書
 大塚和夫ほか編, 『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002 年。
 その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（50%）、期末試験（50%）
 ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積をもとに評価します。期末試験は論述試験となる予定です。毎回のペーパーも試験も、ともに学生各自の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートより、図像等を用いてイメージをやすくしてほしいとの声がありました。特に地図などはできるだけ示しながら授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は Hoppii にて PDF で配布し、それをスクリーンで映しながら講義する予定です。配布資料は板書の代わりです。それを印刷して持参するか、あるいは自身の端末で閲覧するなどして、書き込みをしながら受講しましょう。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE

西洋史特講Ⅹ

大澤 広晃

授業コード：A3219 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、救貧・福祉の視座から近現代イギリスの歴史を考える。具体的には、貧民や貧困にかかわる制度の変遷とともに、人々の日常生活に現れる助け合いのかたちとその変容にも注目することで、思想および実践としての救貧・福祉を検討する。そうすることで、近世から現代に至るイギリスの政治・社会・文化の特質を探っていききたい。

【到達目標】

・救貧・福祉という視点から、近現代イギリス史を理解する。
 ・現代の重要な社会課題のひとつである貧困や福祉という問題を、歴史に即して批判的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	近世の救貧①：法と制度	近代以前の救貧と福祉の法制度について学ぶ。
第 3 回	近世の救貧②：貧民たちの戦略	近代以前の貧民のありようと共助や生存戦略について学ぶ。
第 4 回	改革の時代と新救貧法	新救貧法の内容とその特質を学ぶ。
第 5 回	「自由放任」の時代の救貧と福祉	19 世紀中葉における救貧と福祉の複合的なかたちを学ぶ。
第 6 回	貧民の世界	19 世紀の貧民たちの生活について学ぶ。
第 7 回	貧民の生存戦略	19 世紀の貧民たちの生存戦略について学ぶ。
第 8 回	貧困観の転回	19 世紀後半における貧困観の変化を、社会調査や社会主義、ニューリベラリズムの興隆と関連づけながら学ぶ。
第 9 回	福祉とナショナリズム	「外国人」への姿勢という観点から、福祉とナショナリズムの関係を学ぶ。
第 10 回	第一次世界大戦と福祉	第一次世界大戦が福祉の思想と実践に与えた影響を学ぶ。
第 11 回	帝国と福祉	イギリスの帝国支配と福祉の関係を学ぶ。
第 12 回	第二次世界大戦と福祉国家	第二次世界大戦期における福祉をめぐる議論と福祉国家の成立について学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

高田実・中野智世編『近代ヨーロッパの探求 福祉』ミネルヴァ書房、2012 年

長谷川貴彦『イギリス福祉国家の歴史的源流—近世・近代転換期の中間団体』東京大学出版会、2014 年

金澤周作『チャリティとイギリス近代』京都大学学術出版会、2008 年

金澤周作『チャリティの帝国—もうひとつのイギリス近現代史』岩波新書、2021 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %

・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course examines poverty and welfare in modern and contemporary British history. It covers various topics including system and ideology of poor relief and welfare, charity and philanthropy, mutual aid of ordinary people, makeshift economy, and so on.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about poverty and welfare in modern and contemporary British history.

2) Students are able to acquire critical views on poverty and welfare in contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100BE

日本史序説

齋藤 智志

授業コード：A3226 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1 年

備考(履修条件等)：2022 年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ (A3213)」を履修する。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業(第 2 回～第 12 回)は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。

レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題(史料読解など)にも取り組んでもらいます。

毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料/歴史を学ぶ意味
第 2 回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観 1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話の古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第 3 回	古代の国家と社会	・時代の概観 2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第 4 回	中世社会の成立	・時代の概観 3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第 5 回	中世社会の諸相	・時代の概観 4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第 6 回	幕藩体制の成立	・時代の概観 5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第 7 回	幕藩体制の動揺	・時代の概観 6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第 8 回	近代国家の形成	・時代の概観 7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第 9 回	近代国家の展開	・時代の概観 8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勲業博覧会
第 10 回	近代の社会と文化	・時代の概観 9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第 11 回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観 10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第 12 回	戦後日本の歩み	・時代の概観 11 戦後改革と高度経済成長 ・戦後の戦争観
第 13 回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識

第 14 回 授業内試験

・授業内試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前に学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。

授業終了後はレジュメを読み返して復習し、内容の理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。配布するレジュメ等を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000 年

『大学の日本史：教養から考える日本史へ』(全 4 巻) 山川出版社、2016 年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40% (リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます)

期末レポート 30%

期末試験 30%

※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。

※期末レポートの課題は第 1 回の授業で発表する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについての説明に不十分なところがありましたので、1 回目の授業で具体的に説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、学習支援システム (Hoppii) の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器 (ノート PC、タブレット、スマートフォンなど。いずれか) を持参してください。なお、第 4、7、9、11 回はノート PC かタブレットの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。

また、授業期間中、学習支援システムの掲示板およびメールで常時質問を受け付けています。

【Outline (in English)】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports: 30%, in class contribution: 40%

HIS200BE

歴史特講

大澤 広晃、内藤 一成、宇都宮 美生

授業コード：A3227 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の3分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないかな。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。

今年度の主題は、「帝国」である。中国（清朝）、日本、イギリスの事例を比較することで、帝国とはなにか、それが歴史にいかなる影響を及ぼしたのかを考えてみたい。

【到達目標】

- ・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
- ・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総合的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：大澤
第2回	帝国について：概要と論点	帝国についての概要を学び、この授業でとくに考察したい論点（帝国の構造と統治、君主の立場と称号、帝国間の相互関係）を示す。 担当：大澤
第3回	清朝①	中国の帝国（王朝）の概要について学ぶ。 担当：宇都宮
第4回	清朝②	清朝の統治体制と内部構造について学ぶ。 担当：宇都宮
第5回	清朝③	清朝の盛衰にかかわる諸外国との対外関係について学ぶ。 担当：宇都宮
第6回	日本①	日本の呼称について学ぶ。 担当：内藤
第7回	日本②	天皇の住居である皇居を通じて大日本帝国の核心について学ぶ。 担当：内藤
第8回	日本③	天皇行幸を通じて大日本帝国の周縁について学ぶ。 担当：内藤
第9回	イギリス①	イギリス帝国の概要について学ぶ。 担当：大澤

第10回	イギリス②	帝国統治におけるイギリス国王の役割と呼称について学ぶ。 担当：大澤
第11回	イギリス③	イギリス帝国が同時代の日本と中国をどうみていたのかを学ぶ。 担当：大澤
第12回	帝国をめぐるディスカッション	授業で学んだことや課題資料に基づき、帝国をテーマに受講生どうしで議論する。 担当：大澤
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。 担当：大澤
第14回	授業内試験	期末試験。 担当：大澤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。課題資料についての宿題も出す予定である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

山本有造編著『帝国の研究—原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年
岡本隆司編著『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年
鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course aims to explore history of empires in comparative perspectives. It pays particular attention on empires in China, Japan and Britain.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about empires in history.
- 2) Students are able to analyze history in comparative perspectives.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

GEO100BF

地理学概論（1）

前卒 英明

授業コード：A3401 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「地理」から「地理学」へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

【到達目標】

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身につけ、今後の学年進行に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と自然地理学	地理学と自然地理学について説明する。本学期的のシラバスについて確認する。地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。
第 2 回	気候①<大気大循環と気候要素・因子>	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する。
第 3 回	気候②<世界の気候区分と日本の気候区分>	ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第 4 回	気候③<最終氷期以降の気候変動>	最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。
第 5 回	地形①<世界と日本の大地形>	大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。
第 6 回	地形②<平野と海岸の地形>	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。
第 7 回	地形③<変動地形>	内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。
第 8 回	地形④<第四紀と氷期>	第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。
第 9 回	水文①<水循環と流域、陸水>	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。
第 10 回	水文②<水循環と流域、海洋>	水循環と水収支、海洋循環と気候変動などについて講義する。
第 11 回	土壌と植生<土壌の基礎・植生景観・文化>	土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら講義する。
第 12 回	自然災害	さまざまな自然災害について、自然地理学との関連で講義する。
第 13 回	環境問題	地球環境史のふり返りとこれからの地球環境について講義する。
第 14 回	本学期的の講義内容の振り返り	本学期的の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で使用した地図帳があれば、授業理解に役立つ。授業中に配布したプリントを見直したり、プレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。プリントもしくはスライドの PDF を配布する。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）：地理学基礎シリーズ2「自然地理学概論」、朝倉書店。
 小野映介・吉田圭一郎（2021）：みわたす・つなげる自然地理学、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

試験 90%、平常点 10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。開講回数 2/3 以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】

地理学科の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、(変動)地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前卒英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 - 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2. Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific discipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
- B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF

地理学概論（2）

伊藤 達也

授業コード：A3402 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学でも特に人文地理学分野のテーマを中心にした全体的な概要把握が授業概要と目的です。

【到達目標】

授業で行う一つ一つのテーマ、内容が人文地理学細分野の入門となっており、今後、学生が地理学を学んでいく上での基礎となることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学とは何か	人文地理学とは何かについて、系統地理と地誌の関係、地域概念、地域スケール、を中心に説明します。
第 2 回	多様な国家	古典国家、現代国家の違い、現代国家の役割について説明します。
第 3 回	国境を超える政治経済	経済のグローバル化、政治のブロック化の中での社会変容について説明します。
第 4 回	アジア	アジアの特徴、多様性について説明します。
第 5 回	アジアの経済発展	アジアの経済発展について説明します。
第 6 回	地域を構成する経済、行政、文化	地域を構成する 3 要素について説明します。
第 7 回	地域経済の論理	地域経済の発展について説明します。
第 8 回	都市と農村	地域を構成する都市と農村について説明します。
第 9 回	中心商店街とショッピングセンター	消費形態の変化と都市内商業地域の変化について説明します。
第 10 回	工場の立地と海外移転	工業による経済発展について説明します。
第 11 回	農業地域の経済力	日本農業の変化と農業問題について説明します。
第 12 回	水資源開発と山村	日本の水資源開発と山村集落の問題について説明します。
第 13 回	文化と歴史の地理学	文化からの地域把握について説明します。
第 14 回	まとめ	講義全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房

山崎 朗ほか（2016）『地域政策』中央経済社

藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

浮田典良（2010）『地理学入門改訂版－マルチ・スケール・ジオグラフィ－』原書房

R.J. ジョンストン著／立岡裕士訳（1997、1999）『現代地理学の潮流（上・下）』地人書房

【成績評価の方法と基準】

定期試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

(Course outline) The outline and purpose of the course is to grasp the overall outline centered on the theme of human geography.(Learning Objectives) Each theme and content of the class is an introduction to the subfield of human geography, and the goal is to serve as a foundation for students to study geography. (Learning activities outside of classroom) Connect content of the class to the events in real life. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) Regular Exam 100%

GEO100BF

地理実習（1）

前巻 英明

授業コード：A3403 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：1年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が偶数の学生。2～4年はクラス分けなし。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。簡単な道具で簡易地形測量ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第2回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第3回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第4回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第5回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第6回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第7回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第8回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第9回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第10回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第11回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第12回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第13回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第14回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90%）、平常点（10%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。（大学でも用意する）

※対面形式でできない場合に備え、各自PC（※Word等インストール済み）を用意する。PDFファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【Outline (in English)】

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF

地理実習（1）

前巻 英明

授業コード：A3404 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 備考（履修条件等）：1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が奇数の学生。2～4 年はクラス分けなし。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。簡単な道具で地形測量ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第 2 回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 3 回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 4 回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第 5 回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第 6 回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第 7 回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第 8 回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第 9 回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第 10 回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第 11 回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 12 回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 13 回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 14 回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90%）、平常点（10%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。（大学でも用意する）
 ※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【Outline (in English)】

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF

地理実習（2）

小原 文明

授業コード：A3405 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 備考（履修条件等）：1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字がの偶数の学生。2～4 年はクラス分けなし。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第 10 回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第 11 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第 12 回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第 14 回	講評・総括	全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

- 野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）：『ジオ・バル NEO —地理学・地域調査便利帖—（第 2 版）』海青社、2,500 円（税抜）。
- その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30%，各種課題：70%で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進捗の違いに対応できるよう留意します。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking. Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70 %) and in-class contribution (30 %).

GEO100BF

地理実習（2）

小原 文明

授業コード：A3406 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

備考（履修条件等）：1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が奇数の学生。2～4 年はクラス分けなし。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第 10 回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第 11 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第 12 回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第 14 回	講評・総括	全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）：『ジオ・バル NEO —地理学・地域調査便利帖—（第 2 版）』海青社、2,500 円（税抜）。

●その他に、担当でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30%，各種課題：70%で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進捗の違いに対応できるよう留意します。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70 %) and in-class contribution (30 %).

GEO200BF

現地研究

地理学科教員

授業コード：A3407 | 曜日・時限：**集中・その他/intensive・other courses**

年間授業/Yearly・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現地研究」は、他の学科にはない地理学科特有の科目です。いわゆる「野外調査（フィールドワーク）実習」を、法政大学の地理学科ではこう呼んでいます。地理学は、「地域」と密接に関係した学問です。地理学の研究に当たっては、ふだん教室で学んだことがらを、直接、「地域」の現地（＝現場）におもむいて確認・検証することが必要です。また現地で種々の手法を用いてデータを収集することも大切ですし、そうした過程で現地ならではの新しい発見も得られることとなります。さらに、4年生になると、必修科目としての卒業論文の作成が課されますが、卒業論文の執筆に際しては、一般に現地調査を必要とする場合が多くあります。そのための調査技術の訓練をおこない、各自が主体的に現地調査ができるようになることが、この科目の目標です。

【到達目標】

教室で学んだことがらを「地域」の現地（＝現場）で確認・検証し、さらにはデータを収集する方法を併せて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各専任教員が、それぞれ年1～2回、いろいろな地域において「現地研究」を実施します。テーマとしては、自然地理学的な「現地研究」では地形調査、土壤調査、植生調査、気候調査、水文調査等が、人文地理学的な「現地研究」では農牧業、水産業、あるいは工業、交通などの経済活動、村落、都市などの社会生活、地域文化などについての調査が主となります。それらのテーマにしたがって、観察・観測・測定、聞き取り調査や質問票調査などが実施されます。したがって、休日以外に実施されることが多くあります（欠席せざるをえなかった授業の担当教員宛に、地理学科では、「現地研究参加証明書」を発行していますが、その取り扱いはいずれの担当教員に任されています）。

各「現地研究」の実施案内と参加者募集の要領は、その都度掲示を通じて学生諸君にはお知らせしますので、掲示板確認を怠らないようにした上で、掲示の指示通りに参加手続きをとってください。卒業論文作成に生かすためにも、なるべく早い学年のうちに、「現地研究」を履修することを勧めます。現地研究は必修科目です。従って単位不足で卒業できないという事態にならないようにして下さい。

各「現地研究」の前には、事前に「説明会」が必ず実施されます。「説明会」では、参加希望者と教員相互で、フィールドワークの企画を行います。それは、準備し、仮説を立て、詳細な地域設定、調査の実施、まとめに至るという過程を確認、実行するためのものです。フィールドワークの実施のためには、事前に文献、地図・地形図、史資料の収集整理が必要ですが、それについては教員が概略を説明し、参加者は企画に基づいてさらに詳細な文献・地図・史資料を収集整理していきます。参加者はそれらを読みこなした上で、調査項目の検討を行います。得たそれら資料を予め地図図化しておくことも必要です。実施日程やおおよその実施地域は教員が決定する場合がありますが、それから先の詳細は参加者が主体的に企画に参加、実行していくこととなります。したがって参加者募集は現地研究実施の数ヶ月前に行い、参加者が主体的に企画それ自体から積極的に参加できるように、「説明会」も複数回実施される場合が出てきます。説明会に出席しなければ、「現地研究」への参加は当然、認められません。

それらの上に「現地研究」本番、つまりフィールドワークの実施に臨むこととなります。具体的には、それぞれの企画に従って観察・測定・面接等を行います。しかし、いくら参加者の主体性が重視されるとはいつても、機器を使った測定、観測等においては、教員が適切な機器使用方法を一から指導していかねばならないこともあります。

「現地研究」終了後には、フィールドワークのまとめとして、指示に従ってレポートを作成、提出します。そのためには事前に収集整理した文献・地図・史資料等を使って、その上にフィールドワークで得た結果を図表化・分析・仮説検証することが必要になります。当然、報告会などに出席する必要があります。これらをすべてクリアして初めて、単位の認定が受けられることとなります。この報告会などで、フィードバックが行われる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	参加者の募集	募集通知は掲示を通じて行なう。これを見て、各自が参加を申し込む。宿泊施設や交通手段の関係などから定員が設けられるのが通常であるから、確実に参加するためには日ごろから掲示板によく注意していることが大切である。

第2回	事前説明会	各「現地研究」のおおまかな内容、実施時期、注意点などについて説明し、同時に「現地研究」実施のための企画を行う。これに欠席すると、当該「現地研究」への参加は認められない。
第3回	現地研究本番	集合（現地集合となることが多い）から解散まで、各教員の指導のもとに観測・観察、計測、聞き取り調査などを行ない、それらの結果を現地でとりまとめて議論する。
第4回	レポート作成・報告会	帰学後、現地研究の成果についてのレポートを作成し提出する。その上で報告会も実施する。 以上のような過程をすべて経たうえ、単位認定がなされることになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業の概要と方法を参照して下さい。通常の授業では予習、復習時間、各2時間を標準としますが、この現地研究においては、上記のように準備、本番、リポート作成・報告会等をそれぞれ行っていくしますので、通常授業の予習復習各2時間ではなく、各現地研究ごとに、各段階でその数倍の時間を費やすことが求められます。

【テキスト（教科書）】

各「現地研究」ごとに指示します。

【参考書】

各「現地研究」ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

参加申し込み、説明会への参加、「現地研究」本番への参加、事後のレポート提出および報告会等への参加が、それぞれの現地研究の単位認定の必須条件であり、それらを総合して成績評価します。また、「現地研究」の単位は、4年次にまとめて認定されます。履修登録は4年次に必ず行って下さい。2～4年次の間に合計2回以上、履修して、総合した成績が合格基準に達していることを条件として、必修2単位が認定されます。各自の認定された参加回数は1年に2回、地理学科掲示板に掲示されますので、各自必ず確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

各現地研究ごとに指示します。

【その他の重要事項】

現地研究は、2年生以上が参加可能です。各現地研究ごとに参加条件等が異なる場合もありますので、掲示に注意して下さい。参加申し込みは、BT12階の地理学科事務室で各学期、受け付けます。参加申し込みは、必ず本人が行って下さい。現地研究への参加は、各学期、1回を原則とします。申込時に「参加予約金」を徴収する場合があります。なお、参加費用は全て自己負担です。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course(field work, excursion) is to enable each student to conduct field survey independently by training in survey technics.

Learning Objectives

You will learn how to check and verify what you have learned in the classroom at the "region" (= site), and also how to collect data.

Learning activities outside of classroom

Please refer to the lesson outline and method. In regular lessons, preparation, review time, and 2 hours each are standard, but in this field study, preparation, production, report preparation, debriefing, etc. will be conducted as described above, so preparation for regular lessons. It is required to spend several times as much time at each stage for each field study, instead of 2 hours for each review.

Grading Criteria /Policy

Participation application, participation in briefing sessions, participation in "field research" production, post-report submission, participation in debriefing sessions, etc. are essential conditions for credit recognition of each field research, and the overall results Evaluate. In addition, the credits for "field research" are collectively accredited in the 4th year. Please be sure to register for the course in the 4th year. Two compulsory credits will be accredited on condition that you have taken a total of two or more courses between the 2nd and 4th years and your overall grades have reached the passing criteria. The number of certified participations will be posted on the Geography Bulletin Board twice a year, so please be sure to check each one.

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2022 年度以前入学生（2023 年度以降入学生は「地誌学概論（A3901）」を履修）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GIS の活用など、技術的なものも身に着ける。

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第 2 回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第 3 回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第 4 回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第 5 回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第 6 回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第 7 回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第 8 回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第 9 回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第 10 回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第 11 回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第 12 回	自分誌	自分誌の定義と事例
第 13 回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第 14 回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。
 自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』、古今書院
 ・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫（1994）：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』、大明堂
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』、大明堂
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-、大明堂
 その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
 平常点3割、課題3割、試験4割とする。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の結果からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine".

Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology.

Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF

地球科学概論 I

宍倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 備考（履修条件等）：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期授業/Fall の「地球科学概論 II」も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていられると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
 泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
 宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
 大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
 2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
 全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 80 名程度とし、第 1 回の授業において 80 名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、合否は第 2 回授業までに教員より連絡する。また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけでなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

【Learning Objective】

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
 2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
 Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO100BF

地誌学概論

南 春英

授業コード：A3901 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「地誌学概論（2）（A3409）」を履修する（配当年次は2～4）。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学的アプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌的アプローチを組み合わせ対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義形式で進めていく。講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	授業内容の説明
第2回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第3回	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
第4回	身近な事例	原宿：歴史と若者の街
第5回	世界の多様性①	生活と環境
第6回	世界の多様性②	世界の食肉文化
第7回	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
第8回	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
第9回	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
第10回	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
第11回	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
第12回	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
第13回	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
第14回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。
 可見弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
 河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房
 菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
 国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版
 高井潔司・藤野彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院
 帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々 < 9 > 世界各地の生活と環境』帝国書院
 藤野彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店
 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
 立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）：40%、期末試験（持ち込み不可）：60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline (in English)】

Outline and objectives (概要目的)

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%).

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

宍倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期授業/Spring の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらい、また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や急激様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 8 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 9 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 10 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第 11 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第 12 回	侵食と堆積 3	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。

第 13 回 グループワーク（気象災害） 水害や土砂災害など気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第 14 回 防災教育と地球科学 地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店
<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>
 宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
 矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
 2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
 全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。
 本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
 教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

【Learning Objective】

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to tsunamis, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
 2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
 Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO300BF

地質・岩石学及び実験

宇津川 喬子

授業コード：A3416 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の中でも岩石学と堆積学に関する基本的な知識や理論について体系的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 地球科学の基礎を岩石学や堆積学と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる
- 2) 岩石の成因やその理論の基礎を理解し、岩石の種類をおおよそ判別することができる
- 3) 堆積学の基礎を理解し、堆積構造からおおよその堆積環境を推定することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めつつ、授業内で標本観察やスケッチ等の簡単な実習・実験作業を授業内課題として行う。課題へのフィードバックは次回の授業で行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・導入：映像から捉える地質学	授業概要と注意事項
第 2 回	地質学史	地質学の歴史（一部、英文テキストを用いる）
第 3 回	鉱物	鉱物の基礎（結晶系や造岩鉱物）
第 4 回	マグマと火成岩	火成岩の成因と種類
第 5 回	続成作用と堆積岩	堆積岩の形成過程と種類
第 6 回	変成作用と変成岩	変成岩の形成過程と種類
第 7 回	日本列島と地質図	日本列島の地質、地質図の読み方
第 8 回	岩石の利用と社会	身の回りの石材利用
第 9 回	堆積学の基礎	堆積物とは、堆積学の基礎用語
第 10 回	陸域～河口の堆積学	陸域～河口の堆積構造
第 11 回	浅海～深海の堆積学	浅海～深海の堆積構造
第 12 回	シークェンス層序学	気候変動を堆積学的に捉える
第 13 回	地層観察実習	大学近隣で、あるいは剥ぎ取り標本を用いた地層観察
第 14 回	偏光顕微鏡実習	偏光顕微鏡の使い方、岩石剥片

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

岩石学や地質学を中心とした地質学や地球科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（適宜レジュメを配布）

【参考書】

主要な参考書は以下の通り。その他にも授業中に適宜紹介する。
黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と岩石鉱物 第 2 版』1983 年。共立出版。
日本堆積学会監修・伊藤 慎総編集『フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界』2022 年。朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート（30%）、授業内課題（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course focuses on the basis knowledge of Petrology and Sedimentology in Geology.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) understand the basics of Earth Science in relation to Petrology and Sedimentology, and be able to explain them in own words,
- B) understand the origin of rocks and the basics of their theory, and be able to roughly distinguish the type of rocks,
- C) understand the basics of Sedimentology, and be able to roughly estimate the sedimentary environment from the sedimentary structure.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the quality of the student's performance and presentation (20%), report (30%) and short tasks (50%).

GEO200BF

自然環境論

宇津川 喬子

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。毎回スライドを投影し、授業資料は Hoppii で公開する。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・導入：河川とは	授業の概要、計画、評価方法を説明する。また、河川（特に地形）の基礎的な事項を復習する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境を概説する。
第 3 回	岩石と自然景観	岩石の分類を学び、主要な自然景観との関係を探る。
第 4 回	堆積物と環境変遷	様々な地層から読み取れる自然環境の変遷を学ぶ。
第 5 回	河川がつくった暮らし（1）	多摩川水系を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 6 回	河川がつくった暮らし（2）	米代川流域を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 7 回	自然災害と社会（1）	安倍川と常願寺川を例に、土石流を中心とした自然災害と地形発達を考える。
第 8 回	自然災害と社会（2）	相模川水系を例に、火山災害と土地利用を考える。
第 9 回	自然環境と人間生活（1）	天竜川水系を例に、海岸侵食と沿岸保全について考える。
第 10 回	自然環境と人間生活（2）	熊野川・信濃川水系を例に、地形発達と河川管理について考える。
第 11 回	自然環境と人間生活（3）	琉球列島・小笠原諸島を例に、地形・地質と水や土地の利用を考える。
第 12 回	海外の自然環境（1）大陸河川	大陸河川周辺の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 13 回	海外の自然環境（2）島嶼	海外島嶼域の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 14 回	まとめ	自然環境に関わる時事問題を取り上げながら、これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。

日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。時事問題を取り上げた記事や書籍に目を通す癖をつけておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業資料は Hoppii で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。地図帳の持参を推奨する（高校までに使用していたもので構わない）。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントシート（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は専門科目であり、また「概説」ではありませんので、教員の視点と専門性が強めに反映された授業内容になっています。授業では扱っていないが関連して興味をもっている内容は自分自身で調べて学びを深めてもらいつつ、適宜教員に相談してもらえれば学びへのアドバイスはできます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course focuses mainly on the geomorphological perspective of natural environment around drainage basin and coastal zone in Japan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) Understand the formation of natural environment and relationship with the living people in various regions.

- B) Consider the relationship between yourselves, the people around them, and the familiar natural environment.

Before/after each class meeting students will be expected to

spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-report (30%), final report

(50%) and short comments (20%).

GEO200BF

地形学及び実験 I

前卒 英明

授業コード：A3418 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。地形形成過程について理解することにより、土砂災害や地震災害などについてその本質を理解することができ、地域防災のリーダー的役割を担えるようになる。

【到達目標】

いつも漠然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形の発達、変化を地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。受講希望学生は第 1 回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるのを、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。日本の地形・地質学の特徴、地形学と自然地理学の関係。
第 2 回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、地形を変化させるエネルギー
第 3 回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第 4 回	マス・ムーブメントと斜面	さまざまな集塊移動のメカニズムについて。斜面の基本分類。
第 5 回	河川による作用	河川の形成、侵食・運搬・堆積作用の基本
第 6 回	河川地形	侵食作用、堆積作用によって形成される地形
第 7 回	海岸における作用	波の種類。波の作用、沿岸流など海岸で地形を変化させる作用
第 8 回	海岸地形	海岸でのさまざまな堆積地形、侵食地形について
第 9 回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第 10 回	周水河作用と周水河地形	周水河作用によるさまざまなスケールの地形
第 11 回	水河作用と水河地形	水河の形成と流動。水河が地形を変化させるメカニズムや地形、および第四紀の環境変動
第 12 回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成メカニズム
第 13 回	人間の活動と地形変化	人間の活動による地形変化について、地形災害という観点からも解説する
第 14 回	春学期授業の振り返り	春学期授業の振り返りとして、確認のための試験などを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD 教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。質問等は学習支援システムを通して行う。学習支援システムには毎回授業で使用した資料 PDF をアップする。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『地形学入門』A.L. ブルーム、樫根 勇訳、1970 年
 『写真と図で見る地形学』（複製版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007 年
 『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998 年
 『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010 年
 『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011 年

『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977 年
 『建設技術者のための地形図読図入門 1～4 巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
 『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013
 『地形学』松倉公憲、朝倉書店、2021

【成績評価の方法と基準】

試験（90～%）、平常点（～10%）から総合的に判断する。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の出席しないと、自動的に E 評価とする。14 回授業ならば 10 回以上の出席が必須。第 1 回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度を調整し、シラバス通り消化できるようにする。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

自然地理学、(変動) 地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代水床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前卒英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 - 106, AGU,

【Outline (in English)】

The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology. The goals of this course are to understand landform processes and to recognize geological time scale. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

GEO200BF

地形学及び実験 II

前巻 英明

授業コード：A3419 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識や考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形と災害（特に内作用による）の関係を理解し、地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最近の地球科学の成果をまず最初に概説し、そこから地球内部の構造が地球表面の形態とどのような関係にあるのかを考えていく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用と、地球環境変動による地形変化への影響について取り上げる。受講希望学生は第 1 回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるため、それを利用して予習復習を行ってほしい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクスと大陸の配置、プレームテクトニクスの研究を紹介する。地形のスケールと発達。
第 2 回	プレートテクトニクスと大地形（2）	内作用の種類、変動地形と変動帯の研究を紹介する。曲隆、曲降運動と山地の地形などを紹介する。日本の地形と地質の特徴についてふれる。
第 3 回	プレートテクトニクスと大地形（3）	大地形とプレートテクトニクス、資源との関係などについて
第 4 回	断層変位地形	断層、褶曲、撓曲などによる変動地形の研究を紹介する
第 5 回	活断層と地震	地震の発生と断層運動の研究を紹介する
第 6 回	津波の原理と過去の津波	津波の原理と堆積物の研究を紹介する。古津波研究の紹介も行う。
第 7 回	火山の原理と火山地形	火山地形の形成過程と噴火様式、マグマの関係。地形と自然災害。
第 8 回	気候変動と氷河性海水準変動	氷河性海水準変動の理論の研究を紹介する。第四紀の環境変動。
第 9 回	氷河性海水準変動と海成段丘	氷河性海水準変動と海成段丘の形成過程について
第 10 回	最後の海進と沖積平野	沖積平野の地下構造と後氷期海進の関係について
第 11 回	地震性地殻変動と過去の巨大地震	海成段丘の変形と広域的に地殻変動や地震性地殻変動の研究を紹介する。地形と地震災害。
第 12 回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	氷河性アイソスタシーによる隆起海岸地形と大陸氷床変動の研究を紹介する
第 13 回	火山灰・年代測定と地形研究	地形研究に大きな進歩をもたらしたテフラ研究や年代測定法の概説の概要
第 14 回	秋学期授業の振り返り	秋学期授業の振り返りとして、目的到達の確認として試験等を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに授業で使用したプレゼンや解説をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントもしくはスライド PDF を配布する。

【参考書】

『変動地形を探る I・II』太田陽子、古今書院、1999 年

『環太平洋の自然史』米倉伸之、古今書院、2000 年

『地震と断層』島崎邦彦/松田時彦、東大出版会、1994 年

『写真でみる火山の自然史』町田洋/白尾元理、東大出版会、1998 年
『プレート収束帯のテクトニクス学』木村学、東大出版会、2002 年

【成績評価の方法と基準】

試験（～ 90%）、平常点（～ 10%）から総合的に判断する。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の出席しないと、自動的に E 評価とする。14 回授業ならば 10 回以上の出席が必須。第 1 回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス通りの授業内容を完遂できるよう時間配分を熟慮する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、(変動) 地質学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前巻英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in *Climates, Landscapes, and Civilizations*, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 - 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge on fundamental geomorphology II.

At the end of the course, students are expected to imagine dynamic landform processes and to recognize geological timescale.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の動植物を取り上げ、その分布や生態を気候や地質、地形、人間生活などとの関係から考える。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていけば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な動植物が分布することを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから動植物の分布を考えられるようになること、あるいはその分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。オンライン授業は、ミーティングアプリ Zoom を用い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	動植物の地理学とはどのような分野なのか。
第 2 回	動植物の分布と生態	動植物の分布に影響を及ぼす要因について解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴。世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 5 回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第 6 回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第 7 回	アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 8 回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴。フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 9 回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例のもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第 12 回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第 13 回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a （小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して学習支援システムから提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフシアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

野外実習は 5 月中に行う（変更あり）。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of vegetation geography.

Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant region from the text and map book. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 II

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質と構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらおうのが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか。講義の内容と目標を紹介。
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成。土壌はどのように生まれるのか。
第 4 回	土壌とは何か③（実験実習 1）	室内で土壌鉱物を観察。
第 5 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第 6 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第 7 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第 8 回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第 9 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第 10 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第 11 回	土壌と農業④（実験実習 2）	様々な環境下の土壌を診断。
第 12 回	野菜の地理学①	アジアの伝統農業とは、東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第 13 回	野菜の地理学②	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか、野菜の伝播について解説。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回の内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポート等、50 点満点）で評価する。

小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に学習支援システムで提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

実験実習：10 月と 11 月に地理学実験室あるいは野外で行うことを予定している。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of soil geography.

Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant word and region from the text and map book. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院。144p。¥2,600 + 税

今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおもしろい』。産業編集センター。208p。¥1,600 + 税

稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店。203p。¥2,200 + 税

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。なお、実験等があるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける 秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履修して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院、144p。¥2,600 + 税
今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおもしろみ』。産業編集センター、208p。¥1,600 + 税
稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店、203p。¥2,200 + 税

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。本科目「I」を履修していることが望ましい。履修選抜は本科目「I」の初回授業（4 月 1 回目）で実施する。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course. The goals of this course are to understand today's issues such as global warming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験 I

飯泉 佳子

授業コード：A3424 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識と調査・解析方法を学習する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎的な手法を修得する。また、水試料の分析や結果を主題図として表現する方法を学び、具体的な水問題に取り組む基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水圏、大気圏、岩石圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水を対象に、水量、水質、水循環・水収支について概説する。視覚教材を利用し、簡単な実験や実習などを適宜交えて講義する。復習課題やレポート等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水、浸透、流出、蒸発散
第 2 回	海洋の循環	地球の熱収支、海洋・大気の循環、海水の水質
第 3 回	河川の水収支	土地利用、流域環境
第 4 回	降雨-流出過程	ハイドログラフ、水害
第 5 回	水系の規則性と河川水温・水質	ホートンの法則、雪氷、人間活動
第 6 回	湖沼の特徴と成因	湖・沼の定義、形態
第 7 回	湖沼の水収支	水位変動
第 8 回	湖沼の水温構造	躍層、温帯湖・熱帯湖
第 9 回	地下水のあり方	帯水層、不圧・被圧地下水、地下水流動、湧水、宙水
第 10 回	地下水の流れ	地下水面図、ダルシー則、透水係数、間隙率
第 11 回	地下水と地表水の交流	失水河川、得水河川
第 12 回	調査計画の立て方	水質調査、流量調査
第 13 回	調査結果の整理と解析	ヘキサダイアグラム、トリリニアダイアグラム
第 14 回	総括	春学期授業のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに授業で使用した資料をアップするので、予習・復習に活用してほしい。インターネットや新聞を利用した水に関する情報の収集、水に関連する研究集会やシンポジウムへの参加を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（プリントまたはスライドの PDF ファイルを配布する）。

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会。
 ・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院。
 ・森和紀・佐藤芳徳（2015）『図説 日本の湖 第 1 版』、朝倉書店。
 ・日本地下水学会・井田徹治（2009）：『見えない巨大水脈—地下水の科学—（BLUE BACKS） 第 1 版』、講談社。
 ・林健太郎ほか編（2021）：『図説 窒素と環境の科学』朝倉書店。
 その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70%、課題・レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布する。情報機器（パソコン）、白衣を使用する場合があります。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する内容を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識の修得に寄与する。あわせて海洋・陸水学および実験Ⅱ、自然地理学演習（2）、地学実験、地理情報システム（GIS）などを履修することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>水文学・陸水学・自然地理学

<研究テーマ>

- 1) 水循環と物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境の変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. Acquire basic knowledge of ocean / limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information. In addition, you will learn how to sampling to analysis of water, analyze the results, and then express it as a thematic figure, and acquire the basic ability to tackle specific water environment problems. Collect and organize information on the overall water environment. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 70% for examination, 30% for assignments and reports.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

飯泉 佳子

授業コード：A3425 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、国内外の具体的な課題を学習し系統的な知識と応用力を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水圏、大気圏、岩石圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水の循環過程における河川、湖沼、地下水などのあり方を、人間活動との関係を中心に、水収支、水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。視覚教材を利用し、簡単な実験や実習などを適宜交えて講義する。復習課題やレポート等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	概要と授業計画 グローバルな水循環、世界の水資源
第 2 回	土壌環境と水	土壌の種類、鉱物の風化
第 3 回	古陸水学	古環境の復元、堆積速度の指標
第 4 回	火山地域の地下水	温泉、地下水資源
第 5 回	地下水の年齢と流動	滞留時間、涵養年代、トレーサー
第 6 回	地下水の塩水化と地下水開発	地下ダム、淡水レンズ
第 7 回	地下水汚染と地盤沈下	人間活動、土壌汚染
第 8 回	越境大気汚染と水環境	酸性雨
第 9 回	気候変動と自然災害	災害、防災・減災
第 10 回	生態系サービス	生物多様性、グリーンインフラ
第 11 回	化学物質による汚染	マイクロプラスチック
第 12 回	陸水の調査法	水環境調査
第 13 回	調査データの表現と解析法	GIS による分布図、解析と考察
第 14 回	総括	秋学期授業のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに授業で使用した資料をアップするので、予習・復習に活用してほしい。インターネットや新聞を利用した水に関する情報の収集、水に関連する研究集会やシンポジウムへの参加を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（プリントまたはスライドの PDF ファイルを配布する）。

【参考書】

- ・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会。
 - ・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院。
 - ・森和紀・佐藤芳徳（2015）『図説 日本の湖 第 1 版』、朝倉書店。
 - ・日本地下水学会・井田徹治（2009）：『見えない巨大水脈—地下水の科学—（BLUE BACKS） 第 1 版』、講談社。
 - ・林健太郎ほか編（2021）：『図説 窒素と環境の科学』朝倉書店。
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70%、課題・レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布する。情報機器（パソコン）、白衣を使用する場合があります。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する内容を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識の修得に寄与する。あわせて海洋・陸水学および実験Ⅱ、自然地理学演習（2）、地学実験、地理情報システム（GIS）などを履修することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉水文学・陸水学・自然地理学
〈研究テーマ〉

- 1) 水循環と物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境の変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic and widely knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. Acquire basic and widely knowledge of ocean / limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic and widely abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information. In addition, you will learn how to sampling to analysis of water, analyze the results, and then express it as a thematic figure, and acquire the basic and widely ability to tackle specific water environment problems. Collect and organize information on the overall water environment. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 70% for examination, 30% for assignments and reports.

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には、発生場所や時代、内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し、その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】

本講義を通じて、地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また、都市問題を考えることを通じて、都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を、地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。前述の通り、都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では、受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。

なお、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について／都市の概念・定義
第 2 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 3 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 4 回	都市問題①	都市問題の種類、発生場所
第 5 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 6 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 7 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 8 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 9 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 10 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 11 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 12 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 13 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 14 回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では、実際に調査を行ってもらい、その上で分析・考察することを求めます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート課題・授業外課題等）：30 %、筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPT を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第 2 回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します。
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します。
第 6 回	水資源問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します。
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します。
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します。
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します。
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第 13 回	カップパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカップパ等妖怪の果たす役割について説明します。
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中での出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房 2023 年

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】

Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.

Learning Objectives

HUG200BF

社会経済地理学（3）

佐々木 達

授業コード：A3428 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生構造と国土利用	近代的産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、試験（50%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

GEO400BF

自然地理学演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3434 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあつて、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を中心に運営していきます。4年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取り組んでいくとともに、3年生にアドバイスをすることで、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第1回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に研究室で指導を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について説明・決定
第2回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第3回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第4回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第5回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第6回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第7回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第8回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第9回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第10回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第11回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第12回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第13回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第14回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第15回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第16回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第17回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第18回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第19回	グループ発表	グループごとに中間発表
第20回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第21回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第22回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第23回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第24回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第25回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第26回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第27回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第28回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3もしくはA4 1枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』古今書院、120 p.

【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」（30%）、「討論への参加と応答」（30%）、「発表内容」（40%）などを重視します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やします。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline (in English)】

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

The aim and positioning of this seminar is to enhance each student's ability to think and be creative through the exchange of opinions and presentations in a small group, unlike a mere lecture course in the learning environment of a university. In addition, the ultimate goal is to complete an original "graduation thesis" and obtain a bachelor's degree. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Each student or group is expected to prepare for the exercises in each class. Students are expected to decide and submit their papers at least two weeks prior to the presentation/introduction.

Final grade will be calculated according to the following process presentation(50%), and Discussion(50%).

GEO400BF

自然地理学演習（2）

小川 滋之

授業コード：A3435 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は動植物地理学、地形学、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域について自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは3年生を中心に運営する予定である。4年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを計画に組み込むことにより、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回と第15回のガイダンスで紹介し、話し合う予定である。プレゼンテーションは、レジュメを用いた発表とプレゼンソフトを用いた発表で行う。スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介。1年間のゼミ運営について議論・説明する。
第2回	アカデミックプレゼンテーションの方法	研究発表の方法について指導する。
第3回	卒論構想1	4年生が春休みにまとめた構想を発表する。
第4回	卒論構想2	4年生が春休みにまとめた構想を発表する。
第5回	卒論構想3	4年生が春休みにまとめた構想を発表する。
第6回	論文紹介1	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第7回	論文紹介2	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第8回	論文紹介3	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第9回	地域研究1	3年生が自分が興味ある地域の研究について紹介し、議論する。
第10回	地域研究2	3年生が自分が興味ある地域の研究について紹介し、議論する。
第11回	地域研究3	3年生が自分が興味ある地域の研究について紹介し、議論する。
第12回	卒論中間発表1	4年生の卒論中間発表（合宿形式の予定）
第13回	卒論中間発表2	4年生の卒論中間発表（合宿形式の予定）
第14回	卒論中間発表3	4年生の卒論中間発表（合宿形式の予定）
第15回	ガイダンス	秋学期のゼミ運営について議論・説明する。
第16回	フィールド調査1	3年生が卒論に向けて、フィールド調査の方法について発表し、議論する。
第17回	フィールド調査2	3年生が卒論に向けて、フィールド調査の方法について発表し、議論する。
第18回	フィールド調査3	3年生が卒論に向けて、フィールド調査の方法について発表し、議論する。
第19回	卒論発表1	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第20回	卒論発表2	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第21回	卒論発表3	4年生が卒業論文の内容について発表する。
第22回	統計解析	卒業研究のデータをまとめるための統計解析の方法を指導する。
第23回	論文紹介1	3年生が卒業研究の構想に向けて学術論文を紹介し、議論する。

第24回 論文紹介2

第25回 論文紹介3

第26回 卒論構想1

第27回 卒論構想2

第28回 卒論構想3

3年生が卒業研究の構想に向けて学術論文を紹介し、議論する。

3年生が卒業研究の構想に向けて学術論文を紹介し、議論する。

3年生が卒業研究の構想について発表する。

3年生が卒業研究の構想について発表する。

3年生が卒業研究の構想について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、人前でプレゼンテーションを行うこと、他人のプレゼンテーションを聞くことが基本となる。人に伝えるための工夫を行い、人の考えを理解するための教養を身に付ける。そのために必要な準備学習・復習時間は、各2時間以上である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。演習に必要な資料は、前日までに学習支援システムでアップする。各自、持参すること。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

少人数のゼミナールのため、すべての出席を原則とする（平常点100%）。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。1/3以上の欠席の場合は成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見、相談については時間の許す限り応じる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プロジェクター

【その他の重要事項】

受講に際しては、「生物・土壌地理学及び実験Ⅰ」や「生物・土壌地理学及び実験Ⅱ」など自然地理学関連の科目を履修していることが望ましい。また、就職活動や大学院への進学を目指す学生など進路相談にも応じます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、植生地理学、植物生態学、民族植物学、土壌地理学、地生態学
<主な研究テーマ>

地すべり地形などの地表面の攪乱と植生分布に関する研究を行っており、その中でもカバノキ林の立地条件と更新様式に関する研究を主としている。近年では、地域資源活用に関する研究として、在来作物の探索や保全に関する研究もテーマとしている。

<近年の主な研究業績>

小川滋之ほか（2023）本州中部丘陵域におけるハンゴンソウの分布確認とその生育環境。埼玉県立自然の博物館研究報告 17, 81-84.

小川滋之（2022）上武山地の急峻な尾根にみられるオノオレカンバ林の立地条件と更新様式。植生学会誌 39, 77-84.

小川滋之（2021）本州中部、山梨県乙女高原にみられる発達したミズナラーヤエガワカンバ林のサイズ構造。中部森林研究 69, 89-92.

小川滋之（2020）種苗交換会の可能性と課題：埼玉県日高市の農家ネットワーク「たねのわ」を事例に。E-Journal GEO 15, 165-172.

小川滋之（2020）西上州、下仁田町周辺にみられる在来キュウリの産地分布と形態的な特徴。下仁田町自然史館研究報告 5, 35-40.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Physical Geography. The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting. Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%)

GEO400BF

自然地理学演習（3）

前卒 英明

授業コード：A3436 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは3年生を中心に運営して行く予定である。4年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について議論・説明する
第2回	卒論構想発表1	4年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第3回	卒論構想発表2	4年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第4回	学生文献発表1	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第5回	学生文献発表2	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第6回	学生文献発表3	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第7回	学生文献発表4	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第8回	学生文献発表5	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第9回	学生文献発表6	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第10回	学生文献発表7	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第11回	学生文献発表8	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第12回	学生文献発表9	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第13回	卒論中間発表1	4年生の卒論中間発表
第14回	卒論中間発表2	4年生の卒論中間発表
第15回	ガイダンス	秋学期のゼミ運営について議論・説明する。
第16回	学生文献発表10	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第17回	学生文献発表11	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第18回	学生文献発表12	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第19回	学生文献発表13	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第20回	卒論中間発表3	4年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第21回	卒論中間発表4	4年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第22回	学生文献発表14	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第23回	学生文献発表15	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

第24回	学生文献発表16	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第25回	学生文献発表17	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第26回	学生文献発表18	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第27回	3年生卒論構想発表1	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）
第28回	3年生卒論構想発表2	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%
発表、議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず1/3以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（もしあれば）、powerpoint

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、(変動)地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前空英明ほか(2005)：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
Maemoku, H. et.al. (1997)：Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 - 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Physical Geography.

The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%).

HUG400BF

人文地理学演習（1）

佐々木 達

授業コード：A3437 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、人文地理学の中でも経済地理・農業地理・地域経済の卒業論文を作成するために、当該分野の研究上の関心や学術論文作成において必要とされるスキルを学びます。3 年生は卒業論文のテーマや問題意識の醸成につとめ、4 年生は卒業論文の作成と報告に取り組みます。

【到達目標】

- (1) 既存研究や該当する研究の位置づけを踏まえて、卒業論文のテーマを自ら設定することができる。
- (2) 研究上必要となる資料や統計、データを加工し、分析・考察できる。
- (3) 論理構成を明確にした卒業論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は卒業論文のテーマ設定や構想に向けて、テキストを輪読し、各研究領域に習熟して問題意識を明確にしていきます。また、グループワークによるゼミ論文の作成に取り組んでもらいます。4 年生は卒業論文の進捗状況を報告し、完成に向けて論理構成を固めていきます。

授業形態は演習形式ですので、ゼミ生の発表が中心となります。また、授業以外でも卒業論文の個別相談や学習方法について相談を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、報告順番の決定など
第 2 回	地理学論文の読み方	研究テーマ、研究目的、文献収集の方法
第 3 回	地理学論文の作成に向けて	調査方法、図表の作成方法
第 4 回	4 年生の卒業論文テーマ発表①	研究テーマ、問題意識、研究目的と方法、章構成について発表する。
第 5 回	4 年生の卒業論文テーマ発表②	研究テーマ、問題意識、研究目的と方法、章構成について発表する。
第 6 回	3 年生によるテキストの輪読①	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 7 回	3 年生によるテキストの輪読②	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 8 回	3 年生によるテキストの輪読③	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 9 回	3 年生によるテキストの輪読④	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 10 回	3 年生によるテキストの輪読⑤	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 11 回	4 年生による卒業論文の進捗状況の報告①	卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。
第 12 回	4 年生による卒業論文の進捗状況の報告②	卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。
第 13 回	4 年生による卒業論文の進捗状況の報告③	卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。
第 14 回	3 年生によるゼミ論文の研究テーマの報告、概要の説明	3 年生が各自役割分担し、任意の地域の統計資料を用いたゼミ論文のテーマを報告します。
第 15 回	夏季休暇中の成果報告	4 年生および 3 年生による報告
第 16 回	4 年生による卒業論文の中間報告①	夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の中間報告②	夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の中間報告③	夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析
第 19 回	3 年生による学術論文の輪読①	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 20 回	3 年生による学術論文の輪読②	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 21 回	3 年生による学術論文の輪読③	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。

第 22 回	3 年生による学術論文の輪読④	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 23 回	3 年生による学術論文の輪読⑤	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文の論理構成、結論の見直しを立てる。
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文の論理構成、結論の見直しを立てる。
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文の論理構成、結論の見直しを立てる。
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマ発表①	卒業論文作成にむけて先行研究の整理と研究テーマの発表。
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマ発表②	卒業論文作成にむけて先行研究の整理と研究テーマの発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は、卒業論文にむけて、ゼミ以外でも自分の研究テーマと内容を深めるために多くの時間を割いて、文献購読、資料収集・整理に取り組むこと。3 年生はゼミ論文の作成にあたって、授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に、こちらから提示します。

【参考書】

演習中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加意欲と態度による参加状況（50%）、発表内容（50%）により評価します。出席が最も重視されます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もよろしくお祈りします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合があります。

【その他の重要事項】

卒業論文の進捗状況について、時間外に面談を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The goal of this seminar is to write a senior thesis of academic and practical research.

【Learning Objectives】

1. To set the theme of the senior thesis.
2. To process, analyze, and consider the data required for research.
3. To create a senior thesis with a clear logical structure.

【Learning activities outside of classroom】 : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 : Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation and Discussion : 50%, in class contribution: 50%

HUG400BF

人文地理学演習（2）

村田 陽平

授業コード：A3438 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミは、人文地理学のなかでも、とりわけ社会文化地理学をテーマとする。このゼミの目的は、受講生が関心のあるテーマを発表し、他の受講生と議論する能力をつけ、オリジナルな卒業論文を作成することである。

【到達目標】

受講生が自らの関心のあるテーマを選定し、卒業論文に向けてオリジナルな論述力を身につけることが大きな目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の発表と議論を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	発表順の確定
第 2 回	先行研究の検討 (1)	4 年生発表 (1)
第 3 回	先行研究の検討 (2)	4 年生発表 (2)
第 4 回	先行研究の検討 (3)	4 年生発表 (3)
第 5 回	先行研究の検討 (4)	4 年生発表 (4)
第 6 回	先行研究の検討 (5)	4 年生発表 (5)
第 7 回	先行研究の検討 (6)	4 年生発表 (6)
第 8 回	先行研究の検討 (7)	3 年生発表 (1)
第 9 回	先行研究の検討 (8)	3 年生発表 (2)
第 10 回	先行研究の検討 (9)	3 年生発表 (3)
第 11 回	先行研究の検討 (10)	3 年生発表 (4)
第 12 回	先行研究の検討 (11)	3 年生発表 (5)
第 13 回	先行研究の検討 (12)	3 年生発表 (6)
第 14 回	オリジナルな研究の検討	4 年生卒業発表
第 15 回	はじめに	発表順の確定
第 16 回	卒論構想 (1)	4 年生発表 (1)
第 17 回	卒論構想 (2)	4 年生発表 (2)
第 18 回	卒論構想 (3)	4 年生発表 (3)
第 19 回	卒論構想 (4)	4 年生発表 (4)
第 20 回	卒論構想 (5)	4 年生発表 (5)
第 21 回	卒論構想 (6)	4 年生発表 (6)
第 22 回	卒論構想 (7)	4 年生発表 (7)
第 23 回	卒論構想 (8)	3 年生発表 (1)
第 24 回	卒論構想 (9)	3 年生発表 (2)
第 25 回	卒論構想 (10)	3 年生発表 (3)
第 26 回	卒論構想 (11)	3 年生発表 (4)
第 27 回	卒論構想 (12)	3 年生発表 (5)
第 28 回	総まとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、メディアや SNS などを通じて社会のニュースを積極的に認識してほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

発表レジュメ (50%) とディスカッションへの参加 (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HUG400BF

人文地理学演習（3）

小原 文明

授業コード：A3439 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には、3 年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4 年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】

上記のように、本授業を通じて、人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに、各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。

具体的には、4 年生には適切な問題意識、課題設定、知識（地理学・関連学問）、資料、方法、論理展開、図表作成、文章作成、既往研究上の位置づけの下で、オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また、3 年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて、4 年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

●本授業はゼミ形式で行います。上記のように 3 年生と 4 年生とでは到達目標が異なることから、2 つのゼミに分けて（木 5：3 年生用、木 6：4 年生用）演習を行います。ただし、受講生は全員シラバスの記載通り、木曜日 5 時限目に受講登録をして下さい。

●3 年生用ゼミでは、春学期には学術書の講読、各自が関心のある学術論文の紹介、研究における方法論についての概観、秋学期には調査方法や分析方法の検討、グループによる地域調査（グループワーク）および現地案内、卒業論文に向けての構想など各自が関心のあるテーマについての発表を予定しています。

●4 年生用ゼミでは、一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は春秋学期ともに 3 回ずつの発表を行い、皆で討論を展開します。

●3・4 年生全員が集まる合同ゼミも開催し、学年間の交流も図りたいと考えています。また、4 年生も 3 年生ゼミのグループワークに参加してもらい、3 年生をサポートしてもらいます。

●なお、4 月最初の時間には具体的なスケジュールなどを相談の上で決めますので、必ず出席するようにしてください。

●本授業は演習（ゼミナール）形式ですので、課題等のフィードバックは適宜行います。

●今年度、本授業は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、Zoom によりリアルタイムオンライン形式やハイフレックス形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	3 年生：ガイダンス	3 年生：ゼミの進め方の説明
	4 年生：ガイダンス	4 年生：ゼミの進め方の説明
第 2 回	3 年生：グループワーク	3 年生：グループワークのテーマ決定の作業
	4 年生：卒論中間発表 1 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 3 回	3 年生：学術書の講読	3 年生：講読・討論
	4 年生：卒論中間発表 1 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 4 回	3 年生：学術書の講読	3 年生：講読・討論
	4 年生：卒論中間発表 1 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 5 回	3 年生：学術書の講読	3 年生：講読・討論
	4 年生：卒論中間発表 1 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 6 回	3 年生：学術書の講読	3 年生：講読・討論
	4 年生：卒論中間発表 2 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 7 回	3 年生：学術書の講読	3 年生：講読・討論
	4 年生：卒論中間発表 2 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

第 8 回	3 年生：グループワークの作業	3 年生：調査の準備
	4 年生：卒論中間発表 2 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 9 回	3 年生：学術論文の紹介	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 2 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 10 回	3 年生：学術論文の紹介	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 3 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 11 回	3 年生：学術論文の紹介	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 3 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 12 回	3 年生：学術論文の紹介	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 3 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 13 回	3 年生：学術論文の紹介	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 3 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 14 回	3 年生：グループワークの作業	3 年生：調査の準備
	4 年生：総合討論	4 年生：卒論研究に関する意見交換
第 15 回	3 年生：グループワークの作業	3 年生：調査の展開
	4 年生：卒論中間発表 4 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 16 回	3 年生：グループワークの作業	3 年生：調査の展開
	4 年生：卒論中間発表 4 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 17 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討	3 年生：調査・分析の再検討
	4 年生：卒論中間発表 4 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 18 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討	3 年生：調査・分析の再検討
	4 年生：卒論中間発表 4 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 19 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討	3 年生：調査・分析の再検討
	4 年生：卒論中間発表 5 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 20 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討	3 年生：調査・分析の再検討
	4 年生：卒論中間発表 5 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 21 回	3 年生：グループワークの作業・報告	3 年生：調査の中間報告
	4 年生：卒論中間発表 5 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 22 回	3 年生：グループワークの作業・報告	3 年生：調査の中間報告
	4 年生：卒論中間発表 5 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 23 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表	3 年生：プレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 5 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 24 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表	3 年生：プレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 6 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 25 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表	3 年生：プレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 6 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 26 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表	3 年生：プレゼン・討論
	4 年生：卒論中間発表 6 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 27 回	3 年生：グループワークの作業・報告	3 年生：調査の報告
	4 年生：卒論中間発表 6 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 28 回	3 年生：グループワークの作業・報告	3 年生：調査の報告
	4 年生：卒論中間発表 6 回目	4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当然のことですが、ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また、自分の興味・関心事項に限らず、平日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって、本授業の授業外学習の時間は各 4 時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・バル NEO —地理学・地域調査便利帖—（第 2 版）』海青社。

→ 本書は地理学を学び、研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて、研究を行う上での方法論を学びます。
● 学術書の講読（3年生ゼミ）の際に用いるテキストは、ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】

人文地理学分野の文献に限らず、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・課題・成果：60％、討論：40％で評価します。当然ながら、ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で、発表内容や討論への参加などゼミへの取り組み姿勢・意欲を重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数により、受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The fourth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: making a presentation (60 %) and in-class contribution (40 %).

HUG400BF

人文地理学演習（4）

伊藤 達也

授業コード：A3440 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年生は卒業論文を作成します。3 年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】

4 年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3 年生は次年度からの卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行います。4 年生と 3 年生一緒のゼミ実施を前提とし、講義は 2 時間連続を予定しています。4 年生は春学期 3 回、秋学期 3 回の発表を行い、卒論制作に備えます。夏季休暇期間にゼミ合宿を行います。3 年生は論文等の講読、卒論構想の発表を行います。また夏季休暇のゼミ合宿時に地域調査を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます。
第 2 回	文献検索法	文献の探し方を学びます。
第 3 回	卒論発表 1 回目 (1) - テーマの決め方 -	4 年生の 1/3 が 1 回目の発表をします。卒論のテーマの決め方について学びます。
第 4 回	卒論発表 1 回目 (2) - 客観性の確保① -	4 年生の 1/3 が 1 回目の発表をします。論文作成上の客観性の確保において、文献提示について学びます。
第 5 回	卒論発表 1 回目 (3) - 客観性の確保② -	4 年生の 1/3 が 1 回目の発表をします。論文作成上の客観性の確保において、データの収集について学びます。
第 6 回	卒論発表 2 回目 (1) - 引用の仕方 -	4 年生の 1/3 が 2 回目の発表をします。引用の仕方について学びます。
第 7 回	卒論発表 2 回目 (2)、地域調査の準備 (1) - テーマの決定 -	4 年生の 1/3 が 2 回目の発表をします。3 年生が行う地域調査の準備を行います。テーマを決定します。
第 8 回	卒論発表 2 回目 (3)、地域調査の準備 (2) - フィールド、調査担当の決定 -	4 年生の 1/3 が 2 回目の発表をします。地域調査の準備を行います。フィールド、調査担当を決定します。
第 9 回	卒論発表 3 回目 (1) - 参考文献の提示 -	4 年生の 1/3 が 3 回目の発表をします。参考文献の提示について学びます。
第 10 回	卒論発表 3 回目 (2) - アンケート票の作成① -	4 年生の 1/3 が 3 回目の発表をします。アンケート票の作成について学びます①。
第 11 回	卒論発表 3 回目 (3) - アンケート票の作成② -	4 年生の 1/3 が 3 回目の発表をします。アンケート票の作成について学びます②。
第 12 回	3 年生の発表 (1) - 統計データ収集 -	3 年生の 1/3 が発表をします。統計データの収集について学びます。
第 13 回	3 年生の発表 (2)、地域調査の準備 (3) - 調査内容の決定 -	3 年生の 1/3 が発表をします。地域調査の調査内容を決定します。
第 14 回	3 年生の発表 (3)、地域調査の準備 (4) - 調査の具体的日程の決定 -	3 年生の 1/3 が発表をします。地域調査の具体的日程を決定します。
第 15 回	後期のゼミガイダンス	4 年生は卒論制作の発表、3 年生は地域調査の報告書と卒論構想の発表をします。
第 16 回	卒論発表 4 回目 (1) - アンケート票の集計 -	4 年生の 1/3 が 4 回目の発表をします。アンケート票の集計について学びます。
第 17 回	卒論発表 4 回目 (2) - 単純集計 -	4 年生の 1/3 が 4 回目の発表をします。単純集計について学びます。
第 18 回	卒論発表 4 回目 (3) - クロス集計 -	4 年生の 1/3 が 4 回目の発表をします。クロス集計について学びます。
第 19 回	卒論発表 5 回目 (1) - 検定 -	4 年生の 1/3 が 5 回目の発表をします。検定について学びます。

第 20 回	卒論発表 5 回目 (2) - 報告書のまとめ方 -	4 年生の 1/3 が 5 回目の発表をします。報告書のまとめ方について学びます。
第 21 回	卒論発表 5 回目 (3) - 漢字とひらがな -	4 年生の 1/3 が 5 回目の発表をします。論文における漢字とひらがなの使い分けについて学びます。
第 22 回	卒論発表 6 回目 (1) - 読点 -	4 年生の 1/3 が 6 回目の発表をします。読点の使い方について学びます。
第 23 回	卒論発表 6 回目 (2) - 段落 -	4 年生の 1/3 が 6 回目の発表をします。段落の作り方について学びます。
第 24 回	卒論発表 6 回目 (3) - 細かな規則 -	4 年生の 1/3 が 6 回目の発表をします。西暦と元号、英数字の半角等について学びます。
第 25 回	3 年生の発表 2 回目 (1) - 図表現① -	3 年生の 1/3 が 2 回目の発表をします。表の作成について学びます。
第 26 回	3 年生の発表 2 回目 (2) - 図表現② -	3 年生の 1/3 が 2 回目の発表をします。図の作成について学びます。
第 27 回	3 年生の発表 2 回目 (3) - 理論とは -	3 年生の 1/3 が 2 回目の発表をします。地理学の理論について学びます。
第 28 回	ゼミのまとめ	4 年生の卒論のまとめと 3 年生の卒論の準備を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定します。4 年生は卒論制作に打ち込みます。本演習の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房 共著 2020 年 6 月 352 頁 3,850 円

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編 (2017)『よくわかる環境社会学（第二版）』ミネルヴァ

書房

山崎 朗ほか (2016)『地域政策』中央経済社

竹中克行編 (2015)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

藤井 正・神谷浩夫編 (2014)『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

富田和暁 (2006)『地域と産業（新版）- 経済地理学の基礎』原書房

【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容 (50%) と討論への参加程度 (50%) で行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

【Outline (in English)】

Course outline

4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.

Learning Objectives

The goal of the 4th grade is to complete an excellent bachelor thesis full of originality. The goal of third graders is to acquire sufficient knowledge and techniques for writing a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom

Third graders will pursue research in their area of interest, improve common sense, and finalize the theme of their graduation thesis. Fourth graders devote themselves to bachelor thesis production. The preparation/review time for this exercise is 4hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the content of the presentation at the seminar (50%) and the degree of participation in the discussion (50%).

HUG400BF

人文地理学演習（5）

米家 志乃布

授業コード：A3441 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人文地理学の卒業論文を書くことができるように、学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。4 年生は卒業論文作成を中心にを行います。担当教員の専門は歴史地理・観光地理分野ですが、人文地理学分野全般で卒業論文の作成ができるように、地理学の基礎的な知識や方法論もゼミで学びます。

【到達目標】

- (1) 学術論文（卒業論文）のテーマを自ら設定し、そのもとになるデータの取り方、その扱い方や分析ができること。
- (2) グループワークを通して、史資料からのデータ収集・分析方法や学術論文のまとめ方について学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループワークを通して、テーマの設定、データの収集、分析、まとめの方法を学びます。さらにその成果をレジュメやパワーポイントにまとめて発表して議論します。4 年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。随時、卒業論文の調査結果とまとめを行います。授業の文献・資料・レジュメはすべて Google ドライブあるいは Google クラウドで共有します。アップされた課題について授業内に教員から修正や改善についてコメントします。感染予防対策のため紙での配布はしません。3 年生はゼミ中にデータ収集を行ったり、グループで Google 内で分析を行ったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	グループの決定、発表順番の決定など
第 2 回	人文地理学の学術論文について①	研究テーマの設定、文献収集の方法
第 3 回	人文地理学の学術論文について②	調査の方法・データの分析方法
第 4 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	歴史地理学の卒論の発表・進捗状況の報告
第 5 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	観光地理学の卒論の発表・進捗状況の報告
第 6 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	社会地理学の卒論の発表・進捗状況の報告
第 7 回	4 年生による卒業論文の進捗報告④	その他、人文地理学の卒論の発表・進捗状況の報告
第 8 回	3 年生による論文発表①	「江戸の名所研究」に関する文献を読む
第 9 回	3 年生による論文発表②	「東京の名所研究」に関する文献を読む
第 10 回	3 年生による論文発表③	「東京のツーリズム」に関する文献を読む
第 11 回	3 年生によるデータ収集①	授業内で様々なデータベースにアクセスし、情報を収集する
第 12 回	3 年生によるデータ収集②	エクセル表にどのようにデータをまとめるか、議論する
第 13 回	3 年生によるデータ収集③	エクセル表にデータを入力し、まとめる
第 14 回	夏季休暇前の最終報告およびグループワークの計画について	4 年生および 3 年生の発表
第 15 回	夏季休暇中の成果報告について	4 年生および 3 年生の発表
第 16 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	夏季休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	夏季休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	夏季休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 19 回	3 年生によるグループワークの発表①	「東京の坂」名所に関する史資料分析の結果報告
第 20 回	3 年生によるグループワークの発表②	「神楽坂」に関する資料分析の結果報告
第 21 回	3 年生によるグループワークの発表③	その他、江戸東京の歴史地理に関する資料分析の結果報告
第 22 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文のストーリーを組み立て、書き提出に向けて発表する

第 23 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文のストーリーを組み立て、書き提出に向けて発表する
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文のストーリーを組み立て、書き提出に向けて発表する
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告④	卒業論文のストーリーを組み立て、書き提出に向けて発表する
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告⑤	卒業論文のストーリーを組み立て、書き提出に向けて発表する
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマの発表①	卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマの発表②	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。4 年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークではレジュメの作成などを授業外で準備してください。担当者の授業「歴史地理学（1）・（2）」は受講するようにしてください。なお、ゼミ内での作業に必要なため、「地理情報システム・GIS」関連の授業の受講もおすすめします。

【テキスト（教科書）】

3 年生のグループワークは「東京の名所研究」が共通テーマです。論文リストは配布しますので、そこから発表論文を選んでください。利用するデータや資料は、年度初めにゼミで相談してすすめていきます。大学の近くにある「神楽坂」へのフィールドワークもグループワーク作業として授業中に行います。

【参考書】

適宜、3 年生のグループワークおよび 4 年生の卒論テーマに即して、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。）特にグループワークでは、メンバーで協力して作業して、発表するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

3 年生のグループワークを共通テーマ「東京の名所研究」とし、他の班の作業や発表にも関心がもてるように情報共有していくようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

3 年生は、グループワークの作業時間を授業時間内に定期的に設けますので、必ずノート PC を持参してください。

【その他の重要事項】

3,4 年生の 2 学年が履修するゼミのため、正規の時間内では終わりません。卒論中心のサブゼミを 6 限に行いますので、積極的に参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course examines building foundation skills to write papers in human geography, especially historical geographies and tourism.

[Learning Objectives] The goals of this course are to collect materials or interviews, analyze dates and write academic paper in human geography.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution:100%

GEO200BF

世界地誌（1）

堤 純

授業コード：A3443 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界で最も美しく暮らしやすい国の一つといわれるオーストラリア。「温暖な気候に恵まれ、豊富な農産・鉱物資源に恵まれ、陽気でフレンドリーなオージーの暮らす大らかで豊かな国」という印象の強いオーストラリアだが、1970年代中盤までは、白豪主義を掲げ、アジア系移民を受け付けない、全くの「別人」だった。そのオーストラリアが、日本と「相思相愛」の関係になるまでの道は決して平坦ではなかった。この授業では、自然条件、歴史、文化的背景、経済状況、そして国際社会における役割など多様な視点から地誌学（地域地理学）的に、この国の素顔に迫る。

【到達目標】

1. オーストラリアの自然、歴史、文化的な特徴を説明できる。
2. オーストラリア建国時と今日の外交上のスタンスの変化を説明できる。
3. オーストラリアの都市社会が抱える諸問題とその解決策について一例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による授業を予定していますが、担当教員の都合により4～7回のオンライン（当該授業時間中にライブ配信+有効期限のあるオンデマンド動画併用予定）の回がある見込みです。詳細は、初回の授業日にアナウンスします。詳細は、法政大学のルールに従うことにします。どの回が対面で、どの回がオンラインになるかは、初回の授業時（9月26日：初回は必ず対面）にアナウンスします。リアクションペーパー（500字未満）は毎回書く事を求めます。詳しくは、【成績評価の方法と基準】欄も併せて参照して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オーストラリアとはどんな国か？	オリエンテーション
第2回	オーストラリアの自然環境の特殊性（5500万年の大陸移動と厳しい乾燥）	乾燥が激しいオーストラリアの自然環境は、人が住む大陸の中で最も厳しい一方で、固有の動植物を生み出してきた重要な条件となってきた背景について講義する。
第3回	多様な気候条件と固有種（なぜコアラとカンガルーが大繁殖したか）	自然環境と固有種の関係について、前回授業の内容をさらに深掘りする。
第4回	映画に描かれたオーストラリア社会の表象① -Harsh History of Immigrants-	移民によって作られたオーストラリアにおいても、イングランド系移民とアイルランド系移民の間で厳しい対立があった背景について講義する。
第5回	映画に描かれたオーストラリア社会の表象② -Stolen Generations-	先住民のアボリジニの子供を強制的に親から離し、白人社会の中で育てていた政策について講義する。
第6回	広大な大地と Dreaming Story -アボリジニの文化-	文字をもたない文化ゆえに優れた芸術性をもったアボリジナル・アートについて講義する。

第7回	植民地の成立とオーストラリア政治 -ゴールドラッシュと白豪主義-	白豪主義が成立した背景と、1970年代に白豪主義が撤廃されるに至った経緯について講義する。
第8回	イギリスとの「決別」とアジア・太平洋地域への接近 -国家アイデンティティの確立-	オーストラリアがなぜアジアの一員になったのかについて、社会・経済条件の観点から講義する。
第9回	オーストラリアの農牧業 -もはや「羊の背中のつた国」ではない？-	オーストラリアの農業の特徴について講義する。
第10回	オーストラリアの都市社会①（鉄鉱山へのFIFO「飛行機通勤」で発展するパース）	パースとその周辺地域の特徴について講義する。
第11回	オーストラリアの都市社会②（グローバル都市・シドニー）	シドニーとその周辺地域の特徴について講義する。
第12回	オーストラリアの都市社会③（伝統と最新が調和する都市・メルボルン）	メルボルンとその周辺地域の特徴について講義する。
第13回	Lovely Aussie Lifestyle (wagyu, バーベキュー, LOHAS な休日, LGBTQ 社会, 観光など)	豊かでゆっくりと時間が流れるオーストラリアの休日の風景について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	試験実施（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使うパワーポイントのスライド（空欄穴埋め式）はおおむね当該授業の前週の授業日まではLMS上にアップされているので、次週の授業までの間にあらかじめ目を通して、空欄に入る用語を学習した上で当日の授業に臨むとよい（2時間）。パワーポイントの内容と、授業時の教官の口頭説明や板書内容を書き取った自筆ノートとを比較しながら復習する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

堤 純 編（2018）『変貌する現代オーストラリアの都市社会』筑波大学出版会、ISBN 4904074467
竹田いさみ（2000）『物語オーストラリアの歴史：多文化ミドルパワーの実験』中央公論社、ISBN 9784121015471

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーで50%、期末試験（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）にて50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの授業が4～7回ある予定のため、オンライン動画を視聴できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料、授業動画）は、LMS上で公開します。

担当教官は非常勤講師ゆえ、オフィスアワーはありません。質問・連絡事項がある場合は、メール（jtsu@geoenv.tsukuba.ac.jp）で受け付けますが、その際、必ず「PCのメールアドレス（GmailなどのWebmail可）」から送信して下さい。未着トラブルが多いので、携帯ドメイン（docomo, ezweb, softbank等）からのメールには返信しません。

【Outline (in English)】

Australia is considered one of the most beautiful and comfortable countries in the world. Australia has a strong impression of being "a generous and prosperous country blessed with a warm climate, abundant agricultural and mineral resources, and cheerful and friendly Aussie people," but until the mid-1970s, Australia was a completely different country with a White Australia policy that did not accept Asian immigrants. Australia's path to a "honeymoon relationship" with Japan was by no means smooth. In this lecture, we will approach the real face of Australia from diverse perspectives, such as, including its natural environment, history, cultural background, economic situation, and role in international society, and so on.

Goal

1. Students will be able to explain the nature, history, and cultural characteristics of Australia.
2. Students will be able to explain changes in the diplomatic stance of Australia between the time of the beginning and today.
3. Students will be able to explain the urban social problems in Australia by giving some concrete examples.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The PowerPoint slides (filling-blank-space type) to be used in the class are subject to be uploaded on the LMS by the week before the class, so it is recommended that students read through the slides before the next class and try to find the terms that fits blanks before attending the class (2 hours).

Review the contents of the PowerPoint slide by comparing your answer with the instructor's oral explanations (2 hours).

Grading criteria

50% on the reaction paper assigned in each class, and 50% on the final exam (report will be submitted to the LMS).

GEO200BF

世界地誌（2）

小原 文明

授業コード：A3444 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学とは、特定の地域の様々な事象について、有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え、理解する学問です。本授業では北米各国・各地域の歴史・文化や産業、都市の発展に焦点を当てて授業を行います。とりわけ、国境を越えて展開される産業（アグリビジネス、製造業など）について学びます。

【到達目標】

本授業を通じて、世界における北米地域の位置づけや同地域の産業の展開を理解することができるようになります。また、本授業では、北米地域の地誌についての知識を修得するだけでなく、それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、北米地域全体の自然環境や人口分布、世界における位置づけ、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性などについて学びます。それらを踏まえて、各国の歴史・文化や産業などについて考えます。そして最後に、都市ならびにエスニックマイノリティ（日本人）に焦点を当て、都市・都市圏構造や都市開発、エスニックビジネスなどについて考えていきます。

なお、小レポート課題等のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／北米の概略①	授業の進め方／自然環境
第 2 回	北米の概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第 3 回	アメリカ合衆国の地誌①	歴史・文化／人口
第 4 回	アメリカ合衆国の地誌②	産業①：農業の展開
第 5 回	アメリカ合衆国の地誌③	産業②：工業の展開
第 6 回	カナダの地誌①	歴史・文化／人口
第 7 回	カナダの地誌②	産業①：農業の展開
第 8 回	カナダの地誌③	産業②：工業の展開
第 9 回	メキシコの地誌①	歴史・文化／人口
第 10 回	メキシコの地誌②	産業：農業の展開
第 11 回	メキシコの地誌③	産業：工業の展開
第 12 回	北米における都市発展	都市・都市圏／都市システム／都市開発
第 13 回	北米における日本人	エスニックタウン／エスニックビジネス
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

なお、本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

【参考書】

- ・小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—13 アメリカ・カナダ』朝倉書店。
- ・国本伊代編著（2011）：『現代メキシコを知るための 60 章』明石書店。
- ・坂井正人・鈴木 紀・松本栄次編（2007）：『朝倉世界地理講座 14 ラテンアメリカ』朝倉書店。
- ・田辺 裕監修（1997）：『図説大百科世界の地理 1・2 アメリカ合衆国 I・II』朝倉書店。
- ・田辺 裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理 4 中部アメリカ』朝倉書店。
- ・田辺 裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ ベラン世界地理体系 17』朝倉書店。
- ・矢ヶ崎典隆編（2011）：『世界地誌シリーズ 4 アメリカ』朝倉書店。
- ・矢ヶ崎典隆（2010）：『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会。
- ・矢ヶ崎典隆ほか編著（2003）：『アメリカ大平原—食糧基地の形成と持続性—』古今書院。

・その他の参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験：70％。それぞれの事象の背景や要因、結果について総合的かつ論理的に考える力を重視します。なお、期末試験は論述形式の筆記試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces the regional geography of the north American counties to students taking this course. The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the area, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

GEO200BF

世界地誌（3）

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中心のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

講義を踏まえて、具体的な地域を選定して自然誌を作成し、地誌を記述する上での技術についても学ぶ。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現状を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第 2 回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第 3 回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第 4 回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第 5 回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第 6 回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第 7 回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第 8 回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第 9 回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第 10 回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第 11 回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第 12 回	中央アジア（1） 中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第 13 回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第 14 回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全体の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。

毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ 2 時間、小レポートに関しては 3 時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

多田文男（1972）：『世界地誌 I（アジア）』、法政大学通信教育部、291p。
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

河野通博編（1991）：世界地誌ゼミナール I 『新訂 東アジア』、大明堂、242p。
岩田慶治編（1972）：世界地誌ゼミナール II 『南アジア』、大明堂、212p。など。
講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み 3 割、課題 3 割、試験 4 割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当であるため）

ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. Based on the understanding of "natural magazines" focusing on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, we will also understand cultural and social characteristics and learn how to write geographies.

Lectures on regional geography of each region and individual country from an overview of Asia as a whole. While utilizing old materials, it also introduces the latest research results and shows the current state of old and new Asia.

In addition, we will also devise ways to understand ourselves from specific data, etc., and instruct them to deepen their understanding of the "description of the geography".

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer. I would like you to keep an eye on movements throughout Asia and always be aware of problems in TV news and newspaper articles. Please pay particular attention to the review.

For each lecture, it is desirable to secure 2 hours for preparation and review, 3 hours for small reports, and several hours or more for the final report.

Comprehensive evaluation based on class initiatives, assignments, and exams. In principle, 30% of efforts, 30% of tasks, and 40% of tests are conducted, but other quizzes may be conducted.

GEO300BF

地理学読図演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3449 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地形図や地質図、植生図、気候図から、環境に関する情報を読み取るとともに作図方法を学ぶ。

【到達目標】

地形図や気候図から環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行ない、提出する。提出された課題は、すべてコメントをつけて返却する。

11～14 回については、6 月下旬もしくは 7 月上旬の週末（1 日）に高尾山を訪問する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	気候・気象データ	気候・気象データを統計解析し、作図する。
第 3 回	アイソプレス	アイソプレス図を作成し、考察する。
第 4 回	器差補正	移動観測結果を作図し、考察する。
第 5 回	1:25,000 地形図における起伏の把握	等高線を読み取り、尾根と谷を把握し、地形断面図を作成する。
第 6 回	ハザードマップの作成	等高線を読み取りの応用として、ハザードマップを作成する。
第 7 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（1）	水系図を作成する。
第 8 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（2）	水文環境の応用として、ダムの集水マップを作成する。
第 9 回	植生図	植生図の読図方法について学ぶ。
第 10 回	地質図	東京の立体地質図を作成し、考察する。
第 11 回	現地踏査（1）	地形図を確認しながら現地踏査。
第 12 回	現地踏査（2）	植生図を確認しながら現地踏査。
第 13 回	現地踏査（3）	地質図を確認しながら現地踏査。
第 14 回	現地踏査（4）	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
 授業時間内にできなかった課題は宿題とする。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。
 ※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する。PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】

現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。

【Outline (in English)】

Learn how to read and draw information about the environment from topographic, geological, vegetation, and climatic maps. The goals of this course are to read the environment from topographic and climatic maps. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Assignments that cannot be completed during class time will be assigned as homework. Final grade will be calculated according to the following process work effort(50%), and submission of assignments(50%).

GEO300BF

地理学読図演習（2）

宇津川 喬子

授業コード：A3450 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般図および自然科学や人文地理学の主題図から特定の地域に関する情報を読み取る技術を養い、その地域の地理的な特徴を捉え、他者に伝える能力を身につける。

【到達目標】

- 1) 地形図や空中写真、ほかの主題図から自然環境に関する情報を正確に得られるようになる
- 2) 土地利用図や用途地域図、ほかの主題図から都市・街に関する情報を正確に得られるようになる
- 3) 複数の地図を用いて、ある地域について複合的に捉え、地理的な特徴を述べるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。第 9～12 回については 12 月上旬の週末に現地踏査（日帰り）を行う。行先は授業内で決定する。提出された課題に対するフィードバックは適宜授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・導入：地域の地理的情報を読む	授業の概要、グループ分け
第 2 回	地域の自然地理環境を読む (1)	新旧の地形図を用いた地形の読図を行う
第 3 回	地域の自然地理環境を読む (2)	地形図と空中写真を用いた植生判読を行う
第 4 回	地域の人文地理情報を読む	用途地域図を用いた読図を行う
第 5 回	グループ作業 (1)	現地踏査の候補地をグループごとに検討し、行先（地域）を決定する
第 6 回	グループ作業 (2)	踏査する地域の地図を判読し、地理的な特徴をまとめる
第 7 回	グループ作業 (3)	引き続き準備した地図を判読し、候補地の地理的な特徴をレジュメとしてまとめる
第 8 回	グループ作業 (4)	グループ別に読図した事項の概要と具体的な行先を紹介し、現地踏査のルートを決める
第 9 回	地理的な情報をつかむ	地理写真について学び、地理的な情報収集を行う
第 10 回	現地踏査 (1)	読図結果を現地で確認する
第 11 回	現地踏査 (2)	読図結果を現地で確認する
第 12 回	現地踏査 (3)	読図結果を現地で確認する
第 13 回	現地踏査 (4)	読図結果を現地で確認する
第 14 回	現地踏査の振り返り	現地踏査でわかったことを個人／グループでまとめて共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時間内にできなかった課題は宿題とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業資料は Hoppii で公開し、読図に用いる地図類（紙媒体）は授業時に適宜配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としない。
- ・現地踏査に参加していない場合は評価の対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので自主的に相談すること）
- ・授業内課題（50 %）とレポート（50 %）の合計得点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ただ毎回読図（作図）をするのではなく、「読図をするための様々な視点」に気が付き、読図の手法そのものを自ら考えてもらう授業構成になっています。やや難易度の高い作業も含まれていますが、評価は作業結果が正解かどうかではなく、授業時の積極性と思考したことを表現できているかどうかの点を特に重視しています。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、30 cm 程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの読図作業に必要なとされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】

現地踏査 (1)～(4) は、土曜日または日曜日を利用して日帰りを実施します。日程は授業内で決定します。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、人数超過の場合は初回授業で選抜します。地理学読図演習 (1) を履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

This course focuses on map reading using general and thematic maps with fieldwork to understand the perspective and basis knowledge of physical and human geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tasks (50%) and final report(50%).

GEO300BF

自然地理学特講（3）

丸本 美紀

授業コード：A3453 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、気候変動と日本の気象災害の歴史について扱います。特に、日本の奈良・平安時代にあたる中世気候異常期と現在深刻さを増している地球温暖化を取り上げ、これらの2つの温暖化の時代の気象災害について、地理学の観点から学んでいきます。また、これらを通して、地理学における役割についても考えていきます。

【到達目標】

1. 気候変動と日本の気象災害の歴史について理解することができる。
2. 地球温暖化に対して、どのような気象災害が起こるのかを予測し、行動することができる。
3. 地理学、気候学の理解に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回はオンライン、2回目以降は対面で行う予定です。パワーポイントと配布資料で講義を行い、各回ミニレポートを授業内に提出してもらいます。提出してもらったミニレポートは翌授業以降にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要紹介 地理学における気候学の視点
第2回	気候の構造	気候のスケールと複合構造 気象災害の構造、モデル
第3回	気候変動の歴史	気候変動の歴史と気候の復元方法
第4回	歴史時代の気候	中世気候異常期（MCA）の特徴
第5回	日本の歴史時代の気候①	奈良・平安時代の気象災害と瀬戸内気候
第6回	日本の歴史時代の気候②	奈良時代の干ばつと奈良の自然環境
第7回	日本の歴史時代の気候③	平安時代の大雨・洪水害と京都の自然環境
第8回	歴史時代の気候④	貞観時代の自然災害と人びとの生活
第9回	地球温暖化	地球温暖化の現状とメカニズム
第10回	地球温暖化と極端現象①	地球温暖化と猛暑
第11回	地球温暖化と極端現象②	地球温暖化と集中豪雨
第12回	地球温暖化と極端現象③	地球温暖化と台風
第13回	地球温暖化のその他への影響	地球温暖化と都市気候
第14回	まとめ	気候変動と気象災害についてまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】

各回の講義内で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60% + ミニレポート（平常点）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の観点も取り入れて授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climate change and climatic disasters in Japan. And we will consider the significance of climatology in geography. At the end of the course, students are expected to understand histories of climate change and climatic disasters in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and short reports in each class(40%).

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理的見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。学習支援システムを通じた小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業立地論の基本概念—距離と拡がり	産業活動にとっての距離と拡がりについて考えます。 → テキスト：序章、第 1 章 1 節
第 2 回	産業立地論の古典 (1) —チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (1)
第 3 回	産業立地論の古典 (2) —ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。 → テキスト：第 1 章 2 節 (2)
第 4 回	産業立地論の古典 (3) —クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (3)
第 5 回	集積と外部経済の理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 3 節、第 10 章 1 節
第 6 回	グローバル化のなかでのローカリゼーション— ICT およびコンテンツ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 → テキスト：第 5 章 2 節 (1)、第 7 章 2 節 (3)、第 10 章 2 節 (1)、第 13 章
第 7 回	工業分散と企業内地域間分業—前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 → テキスト：第 1 章 3 節 (2)、第 5 章 1 節
第 8 回	グローバル生産ネットワークの形成—対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介します。 → テキスト：第 5 章 2 節 3 節、第 11 章
第 9 回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 → テキスト：第 6 章
第 10 回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追ひ、それに伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 11 章
第 11 回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 → テキスト：第 2 章 2 節および第 9 章 2 節
第 12 回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 8 章および第 9 章 1 節
第 13 回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 → テキスト：第 7 章 2 節 (4) および第 10 章
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。

このテキストの、序章、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 13 章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年。

小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年。

竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本 (第 9 版)』東洋経済新報社、2014 年。

貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年。

杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年。

青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年。

菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年。

加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年。

矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店、2018 年。

サクセニアン, A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経 BP、2009 年。

サクセニアン, A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年。

フロリダ, R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題 (60%) と最終の到達度確認テスト (40%) より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。ファイリングすると、小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

The goals of this course are to understand the impacts and effects of industrial location on regional economic growth and decline.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

Final grade will be calculated according to the following process in-class report (60%) and term-end examination (40%).

HUG300BF

人文地理学特講（3）

松井 圭介

授業コード：A3457 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学とは、人間の営む生活文化の諸特性について、とくに環境との相互作用から考える学問である。なかでも文化地理学は、人間と場所との関わりに強い関心を有してきた。人間は所与の環境条件の制約のもと、場所を資源として利用してきた。その結果、人間生活には多様な地域性が生み出されてきたといえる。本講義において受講生は、ある場所が特別な意味をもち、価値づけがなされ、商品化されていくプロセスに関する講義を通して、人間による場所に働く力へのダイナミズムを理解することを学ぶ。なかでも文化の商品化をめぐる現状と課題について、講義と事前事後学習を通して、理解を深めていくことが期待される。なお講義で取り上げるトピックスについては、履修者の関心にも留意したうえで決定する。

【到達目標】

本講義では次の3段階の達成目標を設定する。

第1段階：受講生はまず初めに、文化地理学・人文地理学の学説史の流れを理解することが求められる。古典理論（20世紀初頭）から現代の潮流（21世紀）を学ぶことを通じて、履修者は文化地理学的なモノの見方・考え方の基礎を修得する。

第2段階：複数の具体的なトピックスに関して、文化地理学研究の具体的な内容紹介を通して、受講生は場所の政治学にかかわる文化地理学的な知の営みの一端を理解することが期待される。

第3段階：以上を通じて受講生は、文化地理学に関わる批判的・創造的思考力、文化的現象の分析力、文化的課題への対応力などに関わる知識や思考様式を身につけることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、対面講義を主に必要に応じて、オンデマンド教材（講義）を活用しながら進める。対面講義については、教員による説明が主となるが、オンデマンド教材を活用した講義においては、テーマに沿った文献調査やリアクションペーパー作成が求められる。提出されたリアクションペーパー等のフィードバックを対面講義で行いながら、講義内容の理解を深化させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに・Introduction	オリエンテーション（本講義の目的と概要）を説明、文化地理学の枠組み（地理学の見方・考え方）
第2回	文化地理学の展開（1）	文化地理学の古典理論（文化生態・文化伝播・文化景観など）
第3回	文化地理学の展開（2）	現代地理学への道（計量主義・新しい文化地理学の勃興）
第4回	景観と環境から読み解く地域社会（1）	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態①
第5回	景観と環境から読み解く地域社会（2）	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態②
第6回	文化景観をめぐるポリティクス（1）	文化遺産をめぐる場所のポリティクス
第7回	文化景観をめぐるポリティクス（2）	都市景観にみる権力と政治性①
第8回	文化景観をめぐるポリティクス（3）	都市景観にみる権力と政治性②

第9回	世界遺産と宗教ツーリズム①	インバウンドツーリストは熊野古道に何を求めるのか？
第10回	世界遺産と宗教ツーリズム②	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ 長崎におけるカトリック
第11回	世界遺産と宗教ツーリズム③	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ ホスト地域の観光動態と戦略
第12回	世界遺産と宗教ツーリズム④	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 世界遺産への動き 教会を訪れる人びと
第13回	世界遺産と宗教ツーリズム⑤	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 創造される聖地巡礼
第14回	世界遺産と宗教ツーリズム⑥	場所の商品化は何をもたらすのか？ 信仰か観光か 持続可能なツーリズムとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は準備学習として、関連文献の探索・精読や地域情報の収集を行う。各授業回ではリアクションペーパー・小課題の提出が求められるので、授業内容の復習とともに宿題作成を授業時間外に行う。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

松井圭介（2017）：『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化』筑波大学出版会。
 山中 弘編（2013）：『宗教とツーリズム』世界思想社。
 竹中克行ほか（2009）：『人文地理学』ミネルヴァ書房。
 森 正人・中川 正（2022）：『文化地理学ガイダンス（改訂版）』ナカニシヤ。
 講義の中で必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートもしくは筆記試験（50%）および講義終了後に提出させるリアクションペーパー・小課題（50%）の比率で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目（授業担当者変更）のため、アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

シラバス作成時点では、全授業を対面講義で実施する予定であるが、感染症の状況や教員の都合などにより、オンライン（オンデマンド）講義になる場合がある。その時には、講義中に周知する。

【Outline (in English)】

Geography is the study of the characteristics of human life and culture, especially in terms of their interaction with the environment. Cultural geography, in particular, has been strongly interested in the relationship between humans and places. Human beings have used places as resources under the constraints of given environmental conditions. As a result, we can say that a variety of local characteristics have been produced in human life. In this course, students will learn to understand the dynamism of human power over places through lectures on the processes by which places take on special meaning, are given value, and are commodified. In particular, students are expected to deepen their understanding of the current situation and issues surrounding the commodification of culture through the lectures and pre and post-lecture studies. The topics to be covered in the lectures will be determined based on the interests of the students. Students are expected to search for and read relevant literature and collect information on the region as preparatory study. Students are required to submit a reaction paper and a small issue in each class session, so they should review the contents of the class and prepare homework assignments. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The evaluation will be based on the ratio of the end-of-term report or written exam (50%) and the reaction paper or small issue (50%) to be submitted after the lecture.

GEO200BF

地図学 I

若林 芳樹

授業コード：A3459 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】

地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・活用するための GIS の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。

課題等の提出は、基本的に「学習支援システム」を通じて行い、課題に対する解説や講評は授業内で行う。

なお、対面形式の実施を想定しているが、状況によってオンライン形式での実施に切り替える場合もある。その際は、事前に通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第 2 回	地図の歴史と空間情報伝達の変化	地図の歴史、メディアと伝達様式の変化
第 3 回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第 4 回	地図の分類と基本要素	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第 5 回	地図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第 6 回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第 7 回	さまざまな主題図	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第 8 回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第 9 回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック
第 10 回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第 11 回	地図の収集と評価	既存の地図を収集し、グループで討論する
第 12 回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第 13 回	地図と GIS	空間データの構造、空間データの視覚化
第 14 回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（プリントを配布）

【参考書】

『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983 年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984 年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999 年）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018 年）、『地図リテラシー入門』（羽田康祐著、ベレ出版、2021 年）、『デジタル社会の地図の読み方作り方』（若林芳樹著、筑摩書房、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題 80 %、小テスト 20 %で総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to the increasing use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (80%) and term-end examination (20%). Students are expected to complete the required assignments after each class. Your study time will be more than two hours for a class.

GEO200BF

地図学Ⅱ

宇津川 喬子

授業コード：A3460 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地図学や地理学との関わりのなかで地理情報科学や地理情報システム（GIS）をめぐる基本的事項と適用事例を講義する。これにより、地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、GIS の概念と構成要素、空間データの構造とその操作、空間データの視覚化、そして地図表現のもつ社会的意義と課題を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
- 2) 地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
- 3) 地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式。一部作業を行いながら授業を進める。授業内容に関連し、各自のノート PC やスマートフォン、タブレット端末等を使用して WebGIS を活用する。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要と注意事項、地理情報科学とは
第 2 回	地理情報システム (1)	地図と GIS、地図学や地理学との関係、地図投影法
第 3 回	地理情報システム (2)	GIS の歴史、ベクタ型とラスタ型
第 4 回	地理空間情報 (1)	「数値地図」「国土数値情報」「地球地図」
第 5 回	地理空間情報 (2)	「基盤地図情報」「電子国土基本図」等
第 6 回	地理空間情報の取得と作成 (1)	印刷地図・GNSS
第 7 回	地理空間情報の取得と作成 (2)	リモートセンシング・レーザ計測・デジタル地形測量
第 8 回	地理空間データの視覚化	地図表現、総描、地図レイアウトと出力の基本
第 9 回	地理情報システムによる分析 (1)	空間検索、オーバーレイ、バッファリング、空間分割
第 10 回	地理情報システムによる分析 (2)	ネットワーク分析、点パターン
第 11 回	地図表現と社会 (1)	GIS の利用：行政分野、防災分野
第 12 回	地図表現と社会 (2)	GIS の利用：ビジネス分野、教育・研究分野
第 13 回	地理情報社会と未来社会 (1)	グループワーク
第 14 回	地理情報社会と未来社会 (2)	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地図学と地理情報科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。授業時に図書や論文講義の指示を課す予定。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（レジュメを配布）

【参考書】

『地理情報科学 GIS スタンダード』（古今書院、2015）
 『地理情報科学事典』（朝倉書店、2004）
 『地図と測量の Q&A』（一財）日本地図センター、2013）
 『地図の事典』（朝倉書店、2021）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（30 %）とレポート（70 %）の合計得点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続でき、Web 地図を閲覧できる端末（ノート PC かタブレット）を持参するように指示することがある。その他、適宜必要な文房具の持参を指示することがある。

【Outline (in English)】

This course focuses on geographic information system(GIS) and geographical space to understand the perspective and basis knowledge of geographic information science, cartography and geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tests (30%) and final report (70%).

GEO300BF

測量学及び測量実習 I

菅 富美男

授業コード：A3461 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3~4 年

備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習 I」を履修する場合は、「測量学及び測量実習 II」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義、測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。

課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び講義中に適宜、講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	測量とは	写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する
第 2 回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格、法律に定められた作業規程について講義する
第 3 回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ、形と測量の原理について講義する
第 4 回	誤差の種類	誤差の種類と対処方法について講義する
第 5 回	最確値の計算法	誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う
第 6 回	各種測量とその原理	角測量、距離測量、GPS 測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する
第 7 回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器について講義する
第 8 回	水準測量の機器の使用方法	レベルの使用法を習得する
第 9 回	水準測量の観測方法	観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ
第 10 回	水準測量の往路観測	構内において水準測量の往路の観測実習を行う
第 11 回	水準測量の復路観測と観測値の点検方法	構内において水準測量の復路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する
第 12 回	水準測量の観測データの整理法	観測データの整理方法について講義する
第 13 回	水準測量実習データを用いたデータ整理	実習で行った観測データの整理する
第 14 回	標高の最確値の計算	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までまでに必ず提出すること。

授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂第 3 版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。

中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第 2 版』日本加除出版

斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習 I を履修する場合は、測量学及び測量実習 II も同時に履修すること。測量学及び測量実習 I だけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第 1 回授業から出席すること。

また、使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する。

コロナ感染症拡大状況次第によって、授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoom を使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

【Outline (in English)】

This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spatial information regarding position, especially focusing on levelling survey.

In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅱ

菅 富美男

授業コード：A3462 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
 備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は、「測量学及び測量実習Ⅰ」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量である GNSS 測量を中心に講義・実習する。

【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS 測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GNSS 測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。

課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第 2 回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第 3 回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第 4 回	基準点測量の観測 1	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第 5 回	基準点測量の観測 2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第 6 回	基準点測量の実習 1	構内においてトータルステーションを用いた観測点 1 の観測を実習する
第 7 回	基準点測量の実習 2	構内においてトータルステーションを用いた観測点 2 の観測を実習する
第 8 回	基準点測量の実習 3	構内においてトータルステーションを用いた観測点 3 の観測を実習する
第 9 回	基準点測量データの処理 1	観測データ整理を行う
第 10 回	基準点測量データの処理 2	距離補正計算を行う
第 11 回	基準点測量データの処理 3	標高計算を行う
第 12 回	基準点測量データの処理 4	座標計算を行う
第 13 回	GNSS 測量 1	GNSS 測量の原理及び測量について講義する
第 14 回	GNSS 測量 2	GNSS 受信機を用いてネットワーク型 RTK 測量を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。
 授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂第 3 版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
 齊藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂
 飯村友三郎ほか著『公共測量教程 TIS-GPS による基準点測量 三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第 1 回授業から出席すること。

また、使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓（度分秒単位の 60 進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意）および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する。

コロナ感染症拡大状況次第によって、授業がオンライン実施に変更となった場合は、Zoom を使用してリアルタイムで実施する。なお、実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする。

【Outline (in English)】

In succession of [surveying and survey training I], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF

写真判読 I

八木 浩司

授業コード：A3463 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地殻変動や気候変動の重合現象として地表は形成されてきた。地表が3次元的に配列された形成年代の異なる地形面から成り立っていることを視覚的に認知することは、地表が隆起したり侵食された結果発達してきたことを考える第一歩となる。この講義では地形図の判読から始まり空中写真を用いた地表の3D判読を学び、実際の地形を空間的に連続する3次元現象であることを認識可能とする。

【到達目標】

地表の3D判読を通して、身近な場所はもちろん遠く離れた場所に関しても地表の3次元的な空間構成を理解し、それらの場所の成り立ちを掘り下げて考えられることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で用語等の解説をした後、過去の河床・海岸平野として形成された地形面が高低差を持ちながら地表に配列されていることを空中写真判読で実際に認識・把握するためのトレーニングを行う。

授業で判読した地形面を実際に現地を確認するため、6月初旬に土曜日を用いて集中講義形式で、東京駅を起点に都内中心部における地形面や段丘崖の分布を自分の足で確認するための野外学習を行う。実施日については履修者と協議して決めたい。

自身の関心の深い地域について空中写真判読を行い、その結果を地形発達史的に理解するためのプレゼンテーションを行うことで、理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地形景観を読む	環境の基層構造として地形を如何に認識するかを学ぶ。
第2回	地理院地図を使いこなす	身近に利用できる地図サイトに入り、その活用法を学ぶ。
第3回	地形面とは何か	景観の中に隠れた段差を読み取る。地形図に示された浸食面、段丘崖、段丘面を読み取る。 事例：東京、大阪、仙台西部
第4回	地形面を読み取る	地形図上に示された扇状地を読み取る。 事例：札幌、山形、松本、富山
第5回	空中写真判読による地表の3D認識1	空中写真判読の原理を理解し、実際に地表の凹凸を確認する。
第6回	空中写真判読による地表の3D認識2	東京首部の空中写真の実体判読によりそこに存在する段差を確認し、それを地形図上に正確にプロットする。
第7回	東京首部の地形を歩く1 東京駅-皇居東御苑-千鳥ヶ淵-憲政記念公園-日本水準原点	空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。

第8回 東京首部の地形を歩く2
日本水準原点-溜池山王-赤坂見附-市ヶ谷見附
空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。

第9回 東京首部の地形を歩く3
市ヶ谷見附-東池袋-飛鳥山-田端
空中写真判読結果を参照しながら東京首部を歩き、普段何気なく登り降りしていた坂道が連続する段丘崖であることを確認する。

第10回 地形図上で活断層を読み取る
扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る。
事例：京都、富山平野・呉羽山断層

第11回 空中写真で活断層を読み取る1
扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。
事例：福島盆地西縁、長野盆地北西縁

第12回 空中写真で活断層を読み取る2
扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。
事例：琵琶湖西岸、山崎断層

第13回 空中写真判読による地域の地形判読
自身の関心のある地域について空中写真判読を用いた段丘区分や活断層判読を行う。

第14回 地形判読結果のプレゼンテーション
前回行った空中写真判読結果をゼミ形式で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した課題を毎回与えられます。自宅でもインターネットに接続されたパソコンで地理院地図を開きながら課題に対処することが望まれる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配付する。
テキストは指定しない。

【参考書】

貝塚ほか「写真と図で見る地形学」東大出版
 貝塚塚平「東京の自然史」講談社学術文庫
 岡田・八木「図説日本の活断層」朝倉書店
 五百沢「新・歩いていよう東京」岩波ジュニア新書

【成績評価の方法と基準】

提出された各回の授業での課題の評価を素点として合計するとともに、最終回のプレゼンとそのレポートの評価を総合する。その比率はそれぞれ60%および40%とする。
総得点の60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅での学習のためインターネットに接続されたパソコンが必要です。
一部の授業ではマルチメディア室を使用します。

【Outline (in English)】

Topography is the most basal structure of environments. Topographic evolution has occurred according to global climatic change and regional tectonic movement since the middle Pleistocene. Outline of this class is to learn geomorphic evolution.

Objectives of this class is to realize the geo-surface is phenomena of 3D by topographic maps and interpretation of aerial photos.

Learning activities outside of the class room will be done in the down town area of Tokyo on a specific Saturday, in May or June.

Presentation of a study report on a specific region where each student is interested in and chooses to deepen its understanding at the final stage of this class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading policy is according to understanding level of geomorphic evolution based on results of subjects given at each class including the field study report and the presentation. The weighting ratio of the grading is 60% for the reports and 40% for the presentation, respectively. More than 60% of the total score is required to pass in this class.

GEO300BF

写真判読Ⅱ

郭 栄珠

授業コード：A3464 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストデジタル情報時代に求められる社会人を育成するため、写真判読の最先端技術を通して DX 人材に求められるスキルや育成アプローチについて紹介・説明する。具体的には、航空写真及び人工衛星画像からどのような情報が読み取れるのか、目視による判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から地理学で重視する地域ごとに異なる空間的異質性・地域性・歴史性を結びつことが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、効率的な災害状況把握など衛星画像の応用例の可視化や実務スキルにも役に立つ画像判読などの手法を学ぶ。

【到達目標】

本講義で使用する高分解能光学衛星画像は、航空写真と同様に目視判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、航空写真や衛星画像等のさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術の原理を深く理解し、地理情報システム (GIS) 学をもとに簡便に計算できるデータ分析方法や判読力、応用スキルなどを身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本として行います。ただし、感染状況の変化によっては方針を変更する場合があります。講義の前半は、理論講座（オンライン型式）で地形判読において衛星画像の原理について学ぶこと、講義の後半は自主学習講座（対面型式）で GIS ソフトウェアとデジタル画像解析による地形判読の実習トレーニングを行う。実習トレーニングは、日本全国を対象に、各自で興味ある地域を選定し、デジタル空中写真や衛星画像等の実習データをダウンロードしつつデジタル写真判読や画像判読が可能になるよう課題解決の企画能力及び分析力を身につけるアクティブラーニング手法である。実習トレーニング結果は、授業内でのリアクションファイルやレポート（課題）を提出しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	衛星リモートセンシングとは？	航空写真と衛星画像との違いを理解する。
第 2 回	画像処理の基礎：電磁波	衛星画像の原理を理解及び把握する。
第 3 回	画像処理の基礎：投影法	衛星画像のマッピング原理（座標系）を理解及び理解する。
第 4 回	画像処理の基礎：幾何補正	統合型 GIS 上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。
第 5 回	宇宙から撮った画像から地形判読（1）：地形分類	高地地形、低地地形、海岸地形
第 6 回	宇宙から撮った画像から地形判読（2）：可視化	地形の可視化（リニアメント）から断裂系の分布を判読する。
第 7 回	衛星データ準備：データダウンロード	JAXA の ALOS 衛星画像と NASA の Landsat, MODIS 衛星画像の実習データをダウンロードする。
第 8 回	3 次元地形判読：数値標高モデル (DEM) データ分析実習	地形判読に重要な数値標高モデル (JAXA W3D, SRTM, ASTER) の理解およびその 3 次元分析できる技術を習得する。
第 9 回	衛星画像を用いた土地被覆分類	衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。
第 10 回	水災害による地形判読：洪水氾濫	国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。
第 11 回	土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊	国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。

第 12 回	植生指標による地形判読	衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標 (NDVI) による植生分類図を試作する。
第 13 回	GIS データの変換	衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせて使うため GIS 標準フォーマットのデータ変換手法を習得する。
第 14 回	実習による各自の成果発表	実習で学んだ内容を基に応用力向上のための各自 1 分スピーチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ESRI ArcGIS Pro や Q-GIS のような地理情報関連ソフトウェアの基礎を十分にマスターし、日本の国土地理院や JAXA などの最近技術動向に興味を持ちながら写真判読の関連情報を調べておく必要がある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。資料は各講義・実習中に配布

【参考書】

- 1) JAXA と NASA のウェブサイト
- 2) 改訂版 図解リモートセンシング 日本リモートセンシング研究会編 (社) 日本測量協会
- 3) Q-GIS <https://qgis.org/ja/site/>
- 4) ArcGIS Pro <https://www.esri.com/products/arcgis-desktop/>

【成績評価の方法と基準】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本として行い、実習による成果のスピーチ (60%)、レポート (20%)、出席・平常点 (20%) により評価する。ただし、感染状況の変化によっては (WEB) オンラインで評価を行う場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【学生が準備すべき機器他】

該当なし

【Outline (in English)】

This lecture course introduces and explains the skills and training approaches required of DX personnel through the latest technology in photo interpretation in order to develop the working adults required in the post-digital information age. Specifically, what kind of information can be read from aerial photographs and satellite images will be practiced, from visual interpretation to the application of simple image processing.

【Goal】 The high-resolution optical satellite imagery used in this course, like aerial photographs, can be easily extracted by visual interpretation, enabling terrain interpretation over a wider area. In addition, the importance of terrain interpretation is emphasized through the use of multiple images, not just a single image, so that students can acquire basic knowledge of terrain change and interpretation techniques. This course aims to provide students with a deep understanding of the principles of remote sensing technology using various digital data such as aerial photographs and satellite images, and to acquire data analysis methods, interpretation skills, and application skills that can be easily computed based on geographic information system (GIS) studies.

【Learning activities outside of classroom】

With the fundamentals of geographic information-related software such as ESRI ArcGIS Pro and Q-GIS, It is necessary to research relevant information on photographic decipherment with interest in recent technological trends from Japan's GSI, JAXA, and other organizations. Standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Classes will be evaluated by speeches (60%), reports (20%), and attendance/ordinary points (20%) resulting from the practical training.

GEO200BF

数理地理学（1）

永保 敏伸

授業コード：A3465 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なデータの特徴を理解し、研究目的に応じた解析を行う。その際の、解析方法や視覚化方法などの基礎的な技術を習得する。

【到達目標】

地域的な分布や経年的傾向の特徴を見出すために、現地調査の結果や、既存の統計資料など、様々なデータから統計処理を行い、解析結果を求められるような必要手順を習得する。そして、多変量解析などより高度な解析を行う準備ができるようにする。

また、各自が地域特性分析の方針をたて、求める結果に到達できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パソコンを用いた実習形式で講義を行う。その際、地理学に関わるデータを用いて基本的な統計解析を行う。

これらの実習は、主に表計算ソフト（Excel）を用いて作業・解析した結果を可視化（図化）する。

授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	統計と地域統計	「統計リテラシー」概要と、地理学で扱う各種統計の概要。
第 2 回	調査・観測方法	現地調査でのデータ収集に先立って、必要事項の整理。
第 3 回	データの種類と特徴	データの種類（質的・量的）を知り、それぞれの特徴を理解する。
第 4 回	基礎統計量①	質的データの扱い方。 度数分布表。
第 5 回	基礎統計量②	パレート分析。 量的データの扱い方。 度数分布表。
第 6 回	データの可視化	ヒストグラム。 地理学に関するデータを用いた基礎統計量算出の実習。また、主題図としての統計地図を知る。
第 7 回	基礎統計量とグラフ表現	その特性に合わせたデータの可視化方法の検討。
第 8 回	サンプリングと調査法	適切なデータ収集のための質問票の作成と現地調査の概要。
第 9 回	データの要約	複数の変数を持つデータを用いて、クロス集計など、属性間の関係を見る。
第 10 回	時系列データ	時点変化の記述と時系列データの変動成分の分析方法を知る。
第 11 回	相関係数と散布図	2つの変数の関係の強さを見る。
第 12 回	回帰分析	説明変数を用いて、目的変数を求める方法を知る。
第 13 回	地域の分類	統計量を用いた地域特性の解析。
第 14 回	地域変化と予測	ある時間を経た前後における同一地域の状況を比較し、今後の変化を予測する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内で紹介した話題や技術の習熟度を確保するために、各回終了後に小課題を課す。内容は各回の到達状況によって変わるが、基本的に講義で習得した技術を各自が深める努力を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じて、適宜紹介する。

【参考書】

柏木吉基 2012.『明日から使えるシンプル統計学』. 技術評論社, 175p.
高橋麻奈 2015.『統計学』. 技術評論社, 220p.
村上和也 2014.『ビジネスで本当に使える超統計学』. 秀和システム, 243p.
吉岡茂・千歳壽一 2006.『地域分析調査の基礎』. 古今書院, 158p.

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（60 %）

実習を中心に講義を行う。その際、講義に臨む姿勢（実習への取り組みや作業進行具合など）も重要である。

また、テーマ毎にその講義終了後、講義内で扱った事項に関する小課題を課す。その課題を提出してもらい、講義の習熟度を確認する。

最終試験（演習）（40 %）

期末に、講義内で扱った内容の総合的な習熟度をみる。

【学生の意見等からの気づき】

講義と実習のバランス、進捗や難易度、講義資料の提示方法、実習時間などは、出来る限り学生のレベルに応じて調整する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題提出は、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

情報科学実習等の科目で、既に Excel の扱いに慣れていることを求める。特にオートフィルタや並べ替え、基本的な関数が扱えること。またそれら関数をネストし、計算式を組み立てられること。

作図をする場合、GIS ソフトを用いるので、GIS に関わる電算科目は履修済みであること。本講義では、GIS の扱い方自体の紹介は行わない。

☆☆★重要☆☆☆☆★☆☆

初回講義時に、受講希望者の技術的な到達度確認試験を行うので、履修希望者は必ず出席すること。

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。また、問い合わせフォームを常設する。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

To understand the characteristics of various data(especially Geographical) and analyze according to research purpose. for that , to acquire basic techniques such as analysis method and visualization method is aquired and that is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution and short reports: 60%,Term-end examination: 40%

GEO300BF

外書講読（1）

小寺 浩二

授業コード：A3469 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、自然地理学を構成する主要な柱とも言える気候、地形、水文などの各分野に関する外国語（主として英語）の文献をバランスよく読み、その内容を適正に理解することにある。また英語で書かれた論文をまとめ、レビューを行い、その内容を英語で発表することができるようになる。

授業の前半では、指定した範囲の日本語訳を提出し、講義中に発表する形式をとり、後半では、英語の論文レビューと英語での発表を行う。

【到達目標】

本授業を受講する学生のすべてが、英語で書かれた基本的な自然地理学分野の教科書を自ら読むことができ、英語で書かれた論文をレビューし、その内容を英語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを利用して自習・課題提出型のオンデマンド形式で行う。地理学の基本である自然地理学の各分野に関連する基礎的な外国語の文献を、学習支援システム上に教材・課題として授業開始時間までに毎回アップロードし、受講者に配布する。受講者は指定された課題を期日までに学習支援システム上で提出する。また、英語で書かれた論文を検索し、リストを作成した上で、レビューし、英語で内容を発表できるようにする。提出された課題に関しては、毎回評価を示し、模範的な解答も示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然地理学分野の文献購読（1）	自然地理学分野の文献を読んで読解能力をつけるとともに、毎回のテーマに関する課題に英語で解答する。
第 2 回	自然地理学分野の文献購読（2）	第 1 回と同様
第 3 回	自然地理学分野の文献購読（3）	第 2 回と同様
第 4 回	自然地理学分野の文献購読（4）	第 3 回と同様
第 5 回	自然地理学分野の文献購読（5）	第 4 回と同様
第 6 回	自然地理学分野の文献購読（6）	第 5 回と同様
第 7 回	自然地理学分野の英語文献検索とリスト化	自然地理学分野の英語論文の検索方法を学び、一覧リストを作成する
第 8 回	自然地理学分野の英語文献のカード化	選択した英語論文のカード化を行う
第 9 回	自然地理学分野の英語文献のレビュー	選択した英語論文のレビューを行う
第 10 回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（1）	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答

第 11 回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（2）	第 10 回と同様
第 12 回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（3）	第 11 回と同様
第 13 回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（4）	第 12 回と同様
第 14 回	まとめ	授業を通じての課題と今後の学習についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを通じて配布する文献を読み、和訳した上で課題として与えられた問題を解く。このためには関連する事柄について調べたり、質問事項をまとめておくことが望ましい。学習支援システムに課題提出締切後に解答例をアップするので、各自予習復習に利用して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アメリカの自然地理学の大学生レベルの教科書、およびワークブックを使用する。これを学習支援システムを通じて pdf で配布するので、受講者がテキストを購入する必要はない。

【参考書】

MxKnight's Physical Geography, Darrel Hess, ISBN 978-0-321-82043-3

【成績評価の方法と基準】

本科目の性格上、課題を提出することを前提とする。14 回の課題を 1 回 10 点満点で評価し、最終的に換算することで評価する。最低 10 回以上課題を提出しない場合は、評価せず E とする。講義内での発表を 30 %、提出された課題を 70 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、パソコン、タブレット（学習支援システムを画面で見える場合）。ネットで検索しながら解く課題もある。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to read well-balanced foreign-language (mainly English) texts in fields such as climate, topography, and hydrology, which can be said to be the main pillars of physical geography, and to fully understand the content. In addition, students will be able to review papers written in English and present them in English.

All students taking this class will be able to read basic physical geography textbooks written in English, review academic papers written in English, and present their findings in English.

This class will use a learning support system, but will be conducted face-to-face. Basic foreign language materials related to each field of physical geography, which is the basis of geography, will be uploaded in advance to the learning support system as teaching materials and assignments and distributed to students. Students submit assigned assignments through the learning support system by the deadline. In class, the results will be announced, followed by a question and answer session, followed by model answers.

Each class requires at least 3 hours of preparation and review, and grades will be assessed as 40% for each assignment, 30% for class presentations, and 30% for final presentations.

GEO300BF

外書講読（2）

村田 陽平

授業コード：A3470 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、受講生の英語読解の能力を高めることである。主に人文地理学の英語論文を読解していくことで、現在の研究状況を把握できるようになることを目指したい。

【到達目標】

テキストとする英語論文の内容を正しく理解するとともに、自らの卒業論文執筆に資するよう取り組み、地理学の幅を広げることが目標である。入学時の英語の学力をさらに発展させることを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

下記の文献を中心に取り上げる。

Valentine, G. 1998. "Sticks and Stones May Break My Bones": A Personal Geography of Harassment. *Antipode*, Volume30(4)
 Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. *Emotional Geographies*. Routledge.

受講生の人数にあわせて担当を決め、担当箇所を翻訳・発表して議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	輪読するテキストについての説明
第 2 回	Valentine, G. 1998. "Sticks and Stones May Break My Bones": A Personal Geography of Harassment. <i>Antipode</i> , Volume30(4) (1)	テキストを翻訳する。
第 3 回	Valentine, G. 1998. "Sticks and Stones May Break My Bones": A Personal Geography of Harassment. <i>Antipode</i> , Volume30(4) (2)	テキストを翻訳する。
第 4 回	Valentine, G. 1998. "Sticks and Stones May Break My Bones": A Personal Geography of Harassment. <i>Antipode</i> , Volume30(4) (3)	テキストを翻訳する。
第 5 回	Valentine, G. 1998. "Sticks and Stones May Break My Bones": A Personal Geography of Harassment. <i>Antipode</i> , Volume30(4) (4)	テキストを翻訳する。
第 6 回	Valentine, G. 1998. "Sticks and Stones May Break My Bones": A Personal Geography of Harassment. <i>Antipode</i> , Volume30(4) (5)	テキストを翻訳する。
第 7 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (1)	テキストを翻訳する。

第 8 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (2)	テキストを翻訳する。
第 9 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (3)	テキストを翻訳する。
第 10 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (4)	テキストを翻訳する。
第 11 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (5)	テキストを翻訳する。
第 12 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (6)	テキストを翻訳する。
第 13 回	Davidson, J., Bondi, L. and Smith, M. 2007. <i>Emotional Geographies</i> . Routledge. (7)	テキストを翻訳する。
第 14 回	総まとめ	読み進んできた論文に関する総括と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自は、レポート作成に当って、テキストについて英和辞書などを用いた単語などの下調べはもちろんのこと、登場する術語や人物についてもしかるべき事典を用いて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回時にテキストのコピーを配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

和訳の質（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ただ単にテキストを読むだけでなく、その内容に関しての「議論」を実施したい。

【Outline (in English)】

This course deals with English Geographical papers. It also enhances the development of students' skill in English Geographical papers. The aims and the goals of this course are to brush up students' ability in English, and also to know new current themes and topics in western Human Geography written in English. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）I

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：春学期の「地理情報システム（GIS）I」を履修する場合は、春学期「地理情報システム（GIS）II」も同時に履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS Pro を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス・GIS の基本的な操作 1	授業ガイダンス・GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	GIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001) 『地理情報学入門』、古今書院。
佐土原ほか (2005) 『図解!ArcGIS 一身近な事例で学ぼう』、古今書院。
高橋ほか (2005) 『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』、古今書院。
村井ほか (2005) 『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』、日本測量協会。
橋本雄一 (2019) 『5訂版 GIS と地理空間情報: ArcGIS 10.7 と ArcGIS Pro 2.3 の活用』、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%)、平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートは GIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために 16GB 程度の USB メモリを用意するのが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 時間割上は春学期金曜 1 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）、春学期金曜 2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）となっているが、実際には 4 月・5 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）を実施し、6 月・7 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、春学期開講の「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は秋学期開講の「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）および「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の春学期開講「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までに Hoppii に自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には秋学期の受講を指定することがある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline (in English)】**【Outline】**

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

[Work to be done outside of class]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）II

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：春学期の「地理情報システム（GIS）II」を履修する場合は、春学期「地理情報システム（GIS）I」も同時に履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS Pro を用いて、GIS の応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PBL (Problem Based Learning) を行う。2 名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第 3 回	計画書の作成	作業方針を決定
第 4 回	作業 1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第 5 回	作業 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第 6 回	作業 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	作業 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第 8 回	作業 5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	作業 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	作業 7	キャッチアップ
第 11 回	作業 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	作業 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	作業 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	作業 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。プリントを公開する。

【参考書】

プリントを公開する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 1 回（最終報告書、100 点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために 16GB 程度の USB メモリを用意するのが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 時間割上は春学期金曜 1 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）、春学期金曜 2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）となっているが、実際には 4 月・5 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）を実施し、6 月・7 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、春学期開講の「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は秋学期開講の「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）および「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の春学期開講「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までに Hoppii に自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には秋学期の受講を指定することがある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).

The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

HUG200BF

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第 3 回	文化地理学とセクシュアリティ (1)	LGBT の空間経験 (1)
第 4 回	文化地理学とセクシュアリティ (2)	LGBT の空間経験 (2)
第 5 回	文化地理学とセクシュアリティ (3)	「女性専用車両」の意味
第 6 回	文化地理学とポリティクス (1)	政治という場所
第 7 回	文化地理学とポリティクス (2)	男性・同性愛の空間構造
第 8 回	文化地理学と広告 (1)	自然な風景
第 9 回	文化地理学と広告 (2)	身体と空間
第 10 回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第 11 回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第 12 回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第 13 回	文化地理学と現象学 (1)	空間の認識論
第 14 回	文化地理学と現象学 (2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100 %）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）I

中山 大地

授業コード：A3903 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：秋学期の「地理情報システム（GIS）I」を履修する場合は、秋学期「地理情報システム（GIS）II」も同時に履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS Pro を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス・GIS の基本的な操作 1	授業ガイダンス・GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	GIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001) 『地理情報学入門』、古今書院。
佐土原ほか (2005) 『図解!ArcGIS 一歩近な事例で学ぼう』、古今書院。
高橋ほか (2005) 『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』、古今書院。
村井ほか (2005) 『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』、日本測量協会。
橋本雄一 (2019) 『5訂版 GIS と地理空間情報: ArcGIS 10.7 と ArcGIS Pro 2.3 の活用』、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%)、平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートは GIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために 16GB 程度の USB メモリを用意するのが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 時間割上は秋学期金曜 1 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）、春学期金曜 2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）となっているが、実際には 9 月・10 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）を実施し、11 月～1 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、秋学期開講の「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は春学期開講の「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）および「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の秋学期開講「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までに Hoppii に自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には受講できない場合がある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

[Work to be done outside of class]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

HUG200BF

文化地理学（2）

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】

文化地理学のさまざまな知識や概念、方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、順に読解しながら、文化地理学のさまざまなトピックを学び、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的
第 2 回	文化地理学の視点	空間・環境・景観
第 3 回	文化地理学研究の手順	視点としての空間
第 4 回	空間と環境と景観	さまざまな環境論
第 5 回	言語の文化地理学	言語と空間・環境・景観
第 6 回	自然と生業の文化地理学	自然・生業と空間・環境・景観
第 7 回	宗教の文化地理学	宗教と空間・環境・景観
第 8 回	民俗の文化地理学	民俗と空間・環境・景観
第 9 回	政治の文化地理学	政治と空間・環境・景観
第 10 回	都市の文化地理学	都市と空間・環境・景観
第 11 回	観光の文化地理学	観光と空間・環境・景観
第 12 回	性の文化地理学	性と空間・環境・景観
第 13 回	文化地理学の前線と現代の文化	デジタル文化
第 14 回	文化地理学の応用	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森正人・中川正 (2022)：『文化地理学ガイダンス [改訂版]』（ナカニシヤ出版）¥2400 + 税

【参考書】

中俣均編 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥4180

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100 %）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）II

中山 大地

授業コード：A3904 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：秋学期の「地理情報システム（GIS）II」を履修する場合は、秋学期「地理情報システム（GIS）I」も同時に履修すること。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS Pro を用いて、GIS の応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PBL (Problem Based Learning) を行う。2 名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第 3 回	計画書の作成	作業方針を決定
第 4 回	作業 1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第 5 回	作業 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第 6 回	作業 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	作業 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第 8 回	作業 5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	作業 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	作業 7	キャッチアップ
第 11 回	作業 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	作業 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	作業 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	作業 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。プリントを公開する。

【参考書】

プリントを公開する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 1 回（最終報告書、100 点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために 16GB 程度の USB メモリを用意するのが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 時間割上は秋学期金曜 1 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）、春学期金曜 2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）となっているが、実際には 9 月・10 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）を実施し、11 月～1 月の金曜 1 限・2 限に「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3904）を実施する。
2. 本授業を履修する場合には、秋学期開講の「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）も同時に履修すること。本授業のみの履修は認めない。
3. 本授業を履修する場合は春学期開講の「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3471）および「地理情報システム（GIS）II」（授業コード A3472）の履修は認めない。
4. 本授業の単位が取得できなかった場合は、本年度の秋学期開講「地理情報システム（GIS）I」（授業コード A3903）の単位も取得できない。
5. 受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までに Hoppii に自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。
6. 情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には受講できない場合がある。
7. 遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).

The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

GEO300BF

自然地理学特講（1）

藁谷 哲也

授業コード：A3500 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に、地形変化が生じる前に地形を構成する物質（地形物質）は、風化プロセスによる強度低下を起こす。強度低下によって、地形はより侵食されやすくなると考えることができる。すなわち風化プロセスは、地形変化の準備段階として重要な意味を持っている。この講義で学生は、さまざまな風化プロセスとそれらのメカニズム、地形変化との関係性について学修し、地形変化に関する理解を深めることができる。

【到達目標】

学生は、地形変化の仕組みに風化作用がかかわっていることや身近に豊富な事例のあることが説明できる。地形の形成・変化と岩石の風化プロセスの関連性について、いくつかの事例をもとに説明することができる。また、講義を通じて得た経験や学修から得られた豊かな知識と教養を基に、自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。入手した客観的な情報を基に、論理的・批判的な思考をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。パワーポイントのスライドや配布教材をもとに説明し、レポート作成や小テスト等も適宜実施する。授業に対する質疑応答、および小テスト・レポート等の課題に対するフィードバックは、いずれも教室あるいは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のテーマや到達目標および講義の方法について説明する。 【事前学習】シラバスを事前に確認し、地形学の学習内容を確認する。(2 時間) 【事後学習】学習支援システムの教材を復習し、不明箇所を参考資料から調べる。(2 時間)
第 2 回	地形を構成する岩石の物性	地形構成物質の物理的・化学的性質を説明する。 【事前学習】地形学実験のテキストを確認する。(2 時間) 【事後学習】岩石物性についてノートに整理する。(2 時間)
第 3 回	熱風化プロセス	熱疲労と熱衝撃破砕について説明する。 【事前学習】乾燥地域の分布をノートにまとめる。(2 時間) 【事後学習】岩石の熱破砕についてノートに整理する。(2 時間)
第 4 回	乾湿風化プロセス	乾湿風化プロセスと粘土鉱物について説明する。 【事前学習】大谷石について調べておく。(2 時間) 【事後学習】粘土鉱物の特徴をノートに整理する。(2 時間)
第 5 回	塩類風化プロセス	塩類風化プロセスと微地形形成について説明する。 【事前学習】塩類について知識を得ておく。(1 時間) 【事後学習】タフォニと塩類風化の関係をノートに整理し、関連文献をもとにレポートを作成する。(3 時間)
第 6 回	凍結風化プロセス	凍結風化プロセスと周氷河地形について説明する。 【事前学習】周氷河地形について調べる。(2 時間) 【事後学習】凍結風化プロセスと地形変化についてノートに整理する。(2 時間)

第 7 回	シーティングおよび生物の物理的風化プロセス	シーティングおよび生物活動由来の風化プロセスについて説明する。 【事前学習】インゼルベルクについて調べておく。(2 時間) 【事後学習】生物風化の事例をノートに整理する。(2 時間)
第 8 回	化学的風化プロセスおよび溶食地形	化学的風化プロセスおよび溶食地形について説明する。 【事前学習】カルスト地形について調べる。(2 時間) 【事後学習】鉱物の科学的風化の順位を整理する。(2 時間)
第 9 回	風化殻	風化殻の形成と発達について説明する。 【事前学習】土壌化のプロセスについて調べる。(2 時間) 【事後学習】風化とマスマーブメントの関係を整理する。(2 時間)
第 10 回	風化環境	気候と風化プロセスおよび風化制約環境と運搬制約環境について説明する。 【事前学習】気候区分図を地図帳で確認する。(2 時間) 【事後学習】風化制約の地形変化を整理する。(2 時間)
第 11 回	風化速度	岩石の風化速度について説明する。 【事前学習】石造文化財の劣化について調べる。(1 時間) 【事後学習】風化速度の特徴を整理し、指定文献をもとにレポートを作成する。(3 時間)
第 12 回	石造文化財の保存・修復に対する風化研究の貢献	カンボジア・アンコール遺跡に囚われる風化プロセスを例に風化研究の貢献を説明する。 【事前学習】アンコール遺跡についてインターネットで調べる。(2 時間) 【事後学習】アンコール遺跡の風化の特徴を整理する。(2 時間)
第 13 回	組織地形と岩石制約論	組織地形と岩石制約論について説明する。 【事前学習】地形変化と風化の関係をまとめる。(2 時間) 【事後学習】風化プロセスについて整理する。(2 時間)
第 14 回	試験・総括	期末試験を行うとともに、これまでの学習内容の解説を行い、授業の理解を深める。 【事前学習】第 1 回から第 13 回までの講義内容を復習する。(2 時間) 【事後学習】試験内容を振り返り、学修課題を見つける。(2 時間)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の各回ごとに記載。事前に、授業計画に示した講義テーマに関する基礎知識を参考図書やインターネットなどから得ておくこと。また、講義後は質問や参考資料などで疑問点を解消し、講義内容をノートにまとめること。これら事前、事後の準備学習（予習、復習）には 1 回につき 4 時間以上かかる想定されます。

【テキスト（教科書）】

使用しない。講義資料を配布します。

【参考書】

松倉公憲 『地形変化の科学－風化と侵食－』朝倉書店 2008 年 第 1 版
 松倉公憲 『地形学』朝倉書店 2021 年
 上記を推薦します。その他、講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート・課題に対する内容の充実度、提出状況等を見て評価します (40%)。授業内テスト・授業内及びオンライン等により実施し、評価します (50%)。授業参画度:授業時間中の質問に対する回答などから評価します (10%)。成績評価は、これら講義中に行う小テスト、期末テスト、課題レポートなどをもとに総合評価します。期限を過ぎたレポートなど提出物については評価対象外です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等では、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

授業計画を参考に、参考書やインターネットなどから授業の前に基礎知識を獲得して準備する。授業後は、講義内容を整理してノートにまとめる。講義内容に対する質問や意見をするようにしてください。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will gain an understanding of the different weathering processes, their mechanisms and their relationship to landform changes. Students can explain the involvement of weathering processes in the mechanisms of landform change and the abundance of familiar examples. Students can explain the link between the formation and change of landforms and the weathering process of rocks, based on some examples.

Students are also able to apply their own sense of ethics to ethical issues, based on the wealth of knowledge and education they have gained from their experience and studies through this lecture. They are able to think logically and critically on the basis of objective information obtained. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF

地学実験(1) (コンピュータ活用含む)

吉岡 美紀

授業コード：A3510 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：1～4 (2023 年度以降
 入学者は 2～4) 年
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地学のうち、主に地形学に関わる内容を、野外での簡易測量、実際の地形の観察、簡易地形模型の作製、3D判読などにより、総合的に学習する。これらの実習を通して各人が地形学の基礎を体得することを目標とする。

【到達目標】

地学、特に地形学に関わる内容を、この実習を通してより深く理解し、自分のものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・この授業では教室内での説明の後に、屋外作業をおこなう回と、室内作業を行なう回とがあります。
 ・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
 ・前回の課題について、授業の始めにフィードバックします。
 ・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明、簡易測量の準備
第 2 回	PC の地図	ネット地図の活用
第 3 回	野外地形観察 1	キャンパス周辺の地形観察、九段方面
第 4 回	地球の大きさを測る	GPS 計測 (GW)
第 5 回	野外地形観察 2	キャンパス周辺の地形観察、市ヶ谷方面
第 6 回	簡易測量 (1)	コンパスと歩測で計測
第 7 回	簡易測量 (2)	計測値を元に作図
第 8 回	実体視	アナグリフによる地形実体視
第 9 回	地形模型	簡易地形模型の作製
第 10 回	防災地図	地図で防災情報を入手
第 11 回	地盤液化化実験	実験ボトル作製と知識の伝え方
第 12 回	石と鉱物	簡易鉱物標本作製
第 13 回	展望と地図	高所からの展望で地理情報入手
第 14 回	天体望遠鏡	天体望遠鏡の使用方法和天体観察

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業実習で会得した方法を、日常の場面でも活用してみること。
 本授業の準備学習・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教員作成の資料プリントを配付する。

【参考書】

授業内で必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】

実習授業なので、毎回の作業を重視します。
 評価は毎回の提出課題が 70%、授業への積極的な貢献度 (出席等) が 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、情報がありません。

【学生が準備すべき機器他】

野帳を 1 人 1 冊、持参する (例えば「コクヨ、セ-Y3」等)。すでに他の授業で使用しているものがあればそれで可。

【Outline (in English)】

This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. The goals of this course for each student are to acquire a basic understanding of geomorphology and make them their own.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading will be decided based on each report (70%) and class contribution (30%).

GE0100BF

地学実験 (2) (コンピュータ活用含む)

加藤 美雄

授業コード：A3511 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：1～4 (2023 年度以降入学者は 2～4) 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の 1 つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の 3 つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行なう。

授業内容の 1 例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3 回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を十分に理解することが求められるので、出席を確認する。

なお、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第 2 回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第 3 回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第 4 回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第 5 回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第 6 回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第 7 回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第 8 回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第 9 回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第 10 回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第 11 回	アイソプレスの作成	2次元上での 3 変数の同時表現方法 (アイソプレス) の習得とその見方を学習する。
第 12 回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成し、考察する。
第 13 回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第 14 回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第 II 編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組みめる。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限内までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法 (自然編) 東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著、法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。

評価の配分は、各実習課題の報告物が 70 %、平常点が 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆 (12 色程度の硬質が望ましい)、定規 (15～30 cm 程度)、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールで受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用する。その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は 2～3 人 1 組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、天気などを分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

The following three goals are to be achieved.

To acquire the knowledge for understanding natural phenomena by creating charts which are used in studies of climatology.

To acquire the skills to express the results of observational surveys conducted in climatological research.

To develop the required attitude to engage in observation practice, such as cooperating with co-observers to ensure successful observations and obtaining accurate data.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%, in Class Participation: 30%

GEO300BF

地理学史

村田 陽平

授業コード：A3513 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、人文地理学の潮流を学ぶことである。受講生が、戦後の地理学の歴史を把握し、自己の関心を地理学の中で位置づけることを目指す。

【到達目標】

地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどういったところに位置付けられるのかを自覚できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の人文地理学の代表的な学術誌『人文地理』の学会展望の「学史」を現代から過去に遡って読解することで、地理学史を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	学史 (1)	2022 年～2018 年
第 3 回	学史 (2)	2017 年～2013 年
第 4 回	学史 (3)	2012 年～2008 年
第 5 回	学史 (4)	2007 年～2003 年
第 6 回	学史 (5)	2002 年～1998 年
第 7 回	学史 (6)	1997 年～1993 年
第 8 回	学史 (7)	1992 年～1988 年
第 9 回	学史 (8)	1987 年～1983 年
第 10 回	学史 (9)	1982 年～1978 年
第 11 回	学史 (10)	1977 年～1973 年
第 12 回	学史 (11)	1972 年～1963 年
第 13 回	学史 (12)	1962 年～1952 年
第 14 回	まとめ	戦後の人文地理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容を、かならず振り返って整理しておくこと。各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよみから読んでみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

とくに使用しない。

【成績評価の方法と基準】

授業毎に提出するリアクションペーパー（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the brief history of human geography. It also enhances the development of students' skill in the brief history of human geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of history of geography. At the end of the course, Students are expected to place their own concern to history of geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

PHY900BF

物理学概論 I

石川 壮一

授業コード：A3514 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野のうち、力学、熱力学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけでなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

運動、熱等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	物理学の世界	授業内容全般の説明
第 2 回	力学（1）力	力のつり合い・合成、ベクトルの考え方について学ぶ。
第 3 回	力学（2）運動の記述	運動の記述の基礎である速度、加速度について学ぶ。
第 4 回	力学（3）運動法則	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を学ぶ。
第 5 回	力学（4）万有引力の法則	万有引力の法則についてその成立過程も含めて学ぶ。
第 6 回	力学（5）エネルギー	仕事の定義とエネルギーの概念を学ぶ。
第 7 回	力学（6）運動量	運動量の定義と運動量が保存されることの意味を学ぶ。
第 8 回	力学（7）円運動	例題を解きながら円運動について理解する。
第 9 回	力学（8）いろいろな運動	これまで学んできたことを基に自然界のいろいろな運動を理解する。
第 10 回	熱学（1）熱現象	温度、圧力など熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
第 11 回	熱学（2）熱の正体	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
第 12 回	熱学（3）熱と仕事	熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
第 13 回	熱学（4）分子運動	熱に関する現象を、原子・分子の運動で微視的（ミクロ的）に理解することを学ぶ。
第 14 回	まとめ	力学と熱学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

【参考書】

・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）
・「社会人のための物理学 I 古典物理学」 志村史夫著（牧野出版、2015）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、小テスト等の平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of Newtonian mechanics and thermal dynamics, which are fundamental fields in physics.

The goal of this course is to understand not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY900BF

物理学概論Ⅱ

石川 壮一

授業コード：A3515 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野のうち電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけでなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

電磁気、波動、光等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	電磁気学（1）電荷と電流	電気やその流れである電流の基本的な事項について学ぶ。
第 2 回	電磁気学（2）回路	電気機器の基本である電源、配線、電気抵抗等から構成される回路の基礎について学ぶ。
第 3 回	電磁気学（3）電場と磁場	電磁気学の基本的な考え方となる電場・磁場について学ぶ。
第 4 回	電磁気学（4）電流と磁場	電磁石（電流の作る磁場）とモーター（磁場中の電流に力が働く）の原理について学ぶ。
第 5 回	電磁気学（5）電磁誘導と電磁波	電磁誘導（磁場が電流を作り出す）と電磁波の予言について学ぶ。
第 6 回	波動（1）波動の基本	波動現象の基礎について学ぶ。
第 7 回	波動（2）光の屈折	光が屈折するときの法則性と屈折が起こる理由、屈折が起こす現象について学ぶ。
第 8 回	波動（3）光の波動性	偏光・干渉といった光のもつ波の性質について学ぶ。
第 9 回	現代物理学（1）熱放射	物の色と温度との関係が表す光の粒子性について学ぶ。
第 10 回	現代物理学（2）光の粒子性	光電効果と原子スペクトルという現象が光の粒子性を示していることを学ぶ。
第 11 回	現代物理学（3）原子モデルと光の本質	原子モデルを説明するために明らかにされたミクロ世界の法則と光の正体について学ぶ。
第 12 回	物の色と光（1）いろいろな光	電磁波としての光、自然界の光と色の現象について学ぶ。
第 13 回	物の色と光（2）天体の光	天体の光からわかることについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

【参考書】

・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）
・「社会人のための物理学 I 古典物理学」 志村史夫著（牧野出版、2015）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、小テスト等の平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of electromagnetism, waves, and light, which are fundamental fields in physics. Also, some selected topics in modern physics will be presented.

The goal of this course is to understand not only the contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law. Before and after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in-class contribution including short reports (40%),

CHM900BF

化学概論 I

中島 弘一

授業コード：A3516 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】

化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で扱う物理化学、無機化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を十分に理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。

講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。なお、科した課題については翌週の講義の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の歴史	元素とは何か？ 発見に至る過程から学ぶ
第 2 回	原子の構造（1）	原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ
第 3 回	原子の構造（2）	原子量と同位体、モルの概念について学ぶ
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道が解明される過程から電子配置の考え方を学ぶ
第 5 回	電子配置と化学的性質	電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ
第 6 回	物質の構成と結合	化学結合の種類と反応性について学ぶ
第 7 回	物質の三態（1）	単位、並びに温度と圧力の考え方を学ぶ
第 8 回	物質の三態（2）	固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ
第 9 回	気体の性質（1）	気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ
第 10 回	気体の性質（2）	理想気体と実在気体の違いは何か
第 11 回	濃度表示法	濃度の種類とそれらの違いを学ぶ
第 12 回	溶液の性質	溶液の振る舞いについて学ぶ
第 13 回	熱力学と反応	化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ
第 14 回	反応速度と平衡	平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テキストの章末問題、並びに、近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】

「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】

「検定外 高校の化学」坪村 宏ほか著（化学同人）

「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】

単元ごとに行う練習問題の正答率（30%）と期末試験の結果（70%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケート未実施

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules. After learning units of a text, students solve many questions related on the unit. Learning activities outside of classroom is about 2 hours for these exercises. The grade point is evaluated from the score of the final exam (70%) and homework (30%).

CHM900BF

化学概論Ⅱ

中島 弘一

授業コード：A3517 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】

化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で扱う物理化学、無機化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を十分に理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。

講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。なお、科した課題については翌週の講義の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	酸と塩基 (1)	酸と塩基の種類と定義について学ぶ
第 2 回	酸と塩基 (2)	水素イオン濃度指数の概念を学ぶ
第 3 回	酸化還元 (1)	酸化還元反応の考え方を学ぶ
第 4 回	酸化還元 (2)	電池と電気分解を学ぶ
第 5 回	無機化学 (1)	金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 6 回	無機化学 (2)	非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 7 回	有機化合物 (1)	有機化合物の構造の特徴を学ぶ
第 8 回	有機化合物 (2)	官能基による化合物の分類について学ぶ
第 9 回	有機化合物 (3)	異性体の考え方と特徴を学ぶ
第 10 回	有機化合物 (4)	脂肪族化合物と芳香族化合物の反応性の違いを学ぶ
第 11 回	有機化合物 (5)	合成高分子化合物の種類と特徴を学ぶ
第 12 回	生化学 (1)	糖質の構造と種類とその生体内での働きを学ぶ
第 13 回	生化学 (2)	アミノ酸とタンパク質の生体内での働きを学ぶ
第 14 回	生化学 (3)	遺伝子の構造と生体内での働きを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テキストの章末問題、並びに、近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】

「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】

「検定外 高校の化学」坪村 宏ほか著（化学同人）
「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】

単元ごとに行う練習問題の正答率（30%）と期末試験の結果（70%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケート未実施

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules. After learning units of a text, students solve many questions related on the unit. Learning activities outside of classroom is about 2 hours for these exercises. The grade point is evaluated from the score of the final exam (70%) and homework (30%).

BIO900BF

生物学概論 I

宇野 真介

授業コード：A3518 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、主に細胞を中心としたミクロレベルの生命現象を取り上げ、DNA やタンパク質などの生体分子の働きによって実現される生命機能・活動を学びます。また、医療や科学技術との関連性も取り上げ、私たちの暮らしと生物学の接点についても考えます。

【到達目標】

分子や細胞というミクロレベルの生物学について基礎知識を取得すると共に、医療やバイオテクノロジーなどの応用分野についても理解・考察する基盤を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を活用した、対面方式のゼミ・対話形式を基本としつつ、必要に応じて講義を行います。各回のリアクション・質問、課題を通して理解度を測りつつ、授業内または Hoppii を介して補足・フィードバックを行いながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物の基本概念（ミクロな視点）	生物学の学習の導入として、生物の二つの対立した特性、すなわち多様性と共通性について見ていきます。また、生物の基本的な属性である膜、増殖、遺伝、代謝、恒常性と環境応答などについて概観します。
第 2 回	生体膜と細胞の構造	生体膜は細胞と外界を隔て、細胞内にも多様な膜区画を作ります。また、物質の輸送やシグナル伝達など重要な機能にも関わります。生体膜の構造とはたらきを理解し、原核生物と真核生物の違いについても学びます。
第 3 回	代謝と生体エネルギー生産	生命活動に必要なエネルギーを生み出し、生体物質の合成や分解をする過程を代謝といいます。細胞内における基本的な代謝の流れを理解し、さらに、代謝の要になる解糖系、クエン酸回路、呼吸鎖について学びます。
第 4 回	核酸の構造・DNA の複製	DNA は、遺伝情報の担い手であり、細胞増殖の際には正確に複製・分配されなくてはなりません。この DNA の構造と複製のしくみを学びます。
第 5 回	遺伝子の発現	遺伝情報が DNA、mRNA、タンパク質という流れで発現する概念をセントラルドグマと呼びます。この一連の流れに沿って、情報が写し取られアミノ酸配列に変換されるしくみを学びます。

第 6 回 遺伝子の発現制御

生物は、持っている多くの遺伝子全てを常に利用しているわけではなく、環境や時期に応じて適した遺伝子が発現したり、不向きな遺伝子の発現が抑制されたりしています。この調節を引き起こす分子メカニズムを概説します。

第 7 回 タンパク質と酵素

タンパク質は生体有機化合物の中で最も量が多く、あらゆる生命活動で重要な役割を果たしています。また、酵素タンパク質は、生物のほぼ全ての化学反応を触媒します。タンパク質の構造と酵素が働くしくみを学びます。

第 8 回 細胞内輸送・分解

細胞の中では、その構成成分が絶え間なく取り込まれ、もしくは合成され、細胞内外の適所へと輸送され、そして分解されています。ここでは、細胞内で物質を「運ぶ」しくみと「壊す」しくみについて解説します。

第 9 回 細胞骨格・運動

全ての真核細胞は、運動を発生する共通のメカニズムを持っています。細胞骨格と呼ばれるタンパク質繊維の上をモータータンパク質が滑走することで、筋肉の収縮や染色体の分配などが起こるしくみを学びます。

第 10 回 細胞間シグナル伝達系

多細胞生物が一つの個体として行動したり内部環境を一定に保つためには、細胞間で情報をやりとりすることが重要になります。ホルモンや神経伝達物質などを介した細胞間のコミュニケーションについて学びます。

第 11 回 細胞内シグナル伝達系

細胞は、細胞表面の受容体と呼ばれるタンパク質でシグナル分子を受け取ります。それをきっかけにして細胞内のタンパク質がさまざまに変化し、情報が伝えられます。ここではそのしくみを、ヒトの細胞を例に解説します。

第 12 回 神経系の機能と生体恒常性

神経細胞は、イオンの移動によって細胞膜の電位を変化させることで非常に速い情報伝達を行うことを可能にしています。その巧みな機構と恒常性への寄与を概説します。

第 13 回 がん

近年、がんにおけるさまざまな異常が、遺伝子、タンパク質、細胞、個体レベルで明らかになっています。がんの原因や進展にいたる経緯、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について学び、がん治療の発展についても見ていきます。

第 14 回 バイオテクノロジー

生命現象に関わる新しい知見は新しい技術を生み出し、それによって更なる知見が得られるというサイクルがあります。画期的な進歩をもたらした技術を学ぶことで、現代に至る生命科学の発展の歴史を感じてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週までの課題を提示します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『理系総合のための生命科学 第 5 版 分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』 東京大学生命科学教科書編集委員会/編 羊土社 定価 3,800 円+税

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業参加、課題による理解度チェックに基づく平常点（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course addresses micro-scale biological phenomena, with a particular focus on the molecular and cellular scales. In addition, medical applications and biotechnologies will also be covered and their relevance to our lives will be considered.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic understanding of molecular and cellular biology; and to acquire foundation for understanding/analyzing the state of technology in applied fields.

[Learning activities outside of classroom] There will be weekly assignments. Students are expected to spend two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Student performance will be evaluated on the basis of class participation and in-class performance.

BIO900BF

生物学概論Ⅱ

宇野 真介

授業コード：A3519 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、主に「個体」以上のマクロレベルの生命現象を取り上げ、遺伝や進化、生態系などについて学びます。また、環境問題や感染症対策などとの関連性も取り上げ、私たちの暮らしと生物学の接点についても考えます。

【到達目標】

個体以上の生命現象に注目したマクロレベルの生物学について基礎知識を取得すると共に、環境保全や感染症対策などの応用分野についても理解・考察する基盤を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を活用した、対面方式のゼミ・対話形式を基本としつつ、必要に応じて講義を行います。各回のリアクション・質問、課題を通して理解度を測りつつ、授業内または Hoppii を介して補足・フィードバックを行いながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物の基本概念（マクロな視点）	生物学習におけるマクロな視点について見ていきます。個体を中心とした階層構造や生物種などの重要な概念について考えます。
第 2 回	生物の増殖と恒常性	細胞生物も多細胞生物も、自分と同じ形をした生物体を生み出して数を増やしていきます。また、外部の環境に適切に回答して体の内部環境を一定に保っています。生物にとって重要なこれらのしくみの基礎を学びます。
第 3 回	有性生殖・個体の遺伝	形質を親から子へと継承する遺伝という現象は、メンデルの法則の発見に始まり、モルガンの染色体説などを経て、現代の遺伝学へと発展を遂げました。この生命情報伝承の法則性と、そのプロセスについて解説します。
第 4 回	細胞周期	太古の昔から、一個の親細胞が分裂して二個の娘細胞になるというサイクルが繰り返されて今の生物世界があります。このサイクルが進むしくみと、それが間違いなく正確に進むために何重にも制御されている機構を学びます。
第 5 回	動物の発生	動物の体は、たった一個の受精卵が分裂を繰り返し、細胞が特殊化し、正しい場所と形に配置されて機能するようになることで作り出されます。この複雑な構造と機能を持つ動物の体が自律的に作られるしくみを解説します。

第 6 回 植物の発生

植物は、太陽光という無限のエネルギー源を利用し、動物とはまったく異なる戦略をとって地球上に繁栄しています。種子植物の基本構造と形づくりを学び、個体として理に適った営みを実現していることを理解していきます。

第 7 回 光合成

地球上の生命を支える究極的なエネルギー源は太陽光です。ここでは、現在の地球の光環境を理解した上で、植物が行う光合成のプロセスを学びます。

第 8 回 ゲノムと進化

遺伝情報全体の一セットをゲノムと言います。ゲノム情報の解読技術の向上は、分類学や進化学の分野に対し、大きなインパクトを与えてきました。ここでは、その歴史と方法を学び、生命科学の今後について考えます。

第 9 回 個体・環境相互作用

生物は環境から影作用響を受け、逆に生物も環境に影響を与えています。そして生物同士も相互に関わりあっています。ここでは、自然選択の作用や生物の環境への応答・適応について学びます。

第 10 回 生物群集と生態系

生物はそれぞれ独立して生きていくわけではなく、他の多くの生物と相互に関係しながら生きています。生物群集における種間の関係と共に、生態系の基本的特徴について学びます。

第 11 回 生物多様性

生物界における変異性の総体を「生物多様性」といいます。それは具体的にどのようなものか、生態系の保全に対する重要性も視野に入れて解説します。

第 12 回 生活・環境と微生物

微生物には、人間生物の役に立つものや逆に害をなすもの、ほぼヒトとは関与しない微生物もあり、多様な生物世界を形成しています。微生物と人との関わり、微生物の多様性のとらえ方、微生物学の現状と課題について学びます。

第 13 回 感染と免疫

免疫学の発展の歴史はヒトと感染症との戦いの歴史でもあります。ここでは、ペニシリンの発見から始まる 20 世紀の医学生物学における重要な発見を紹介します。さらに、免疫とその応答の基本的なしくみについて解説します。

第 14 回 脳

脳は環境から入力された情報を処理・統合し、出力するための情報処理装置とみなすことができます。一方、我々ヒトの「意識」と脳の関係は未だ深い謎に包まれています。これまでの知見と方法論、脳研究の現状を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週までの課題を提示します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『理系総合のための生命科学 第 5 版 分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会/編 羊土社 定価 3,800 円+税

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業参加、課題による理解度チェックに基づく平常点（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course addresses macro-scale biological phenomena, with a particular focus on the organismal, evolutionary, and ecological fields. In addition, topics in applied fields, such as environmental issues and infectious disease control, will also be covered, and their relevance to our lives will be considered.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic understanding of macro-scale biology; and to acquire foundation for understanding/analyzing issues related to the course materials, such as environmental issues and infectious disease control.

[Learning activities outside of classroom] There will be weekly assignments. Students are expected to spend two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Student performance will be evaluated on the basis of class participation and in-class performance.

PHY900BF

物理学実験 I (コンピュータ活用含)

吉田 智

授業コード：A3520 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、重力、波動、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要な知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行います。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際にフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	身近な量の測定	身近な量を測定してみることで、器具の使用方法を学ぶ。
第 2 回	誤差、近似	誤差や近似について理解を深める。
第 3 回	重力について	第 4 回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。
第 4 回	落体実験	落体実験を行う。
第 5 回	波動について	第 6、7 回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。
第 6 回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定実験を行う。
第 7 回	音の振動数の測定	音の振動数の測定実験を行う。
第 8 回	光の波動性について	第 9 回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。
第 9 回	レンズの曲率半径の測定	レンズの曲率半径の測定実験を行う。
第 10 回	光の粒子性について (エネルギー量子)	第 12、13 回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。
第 11 回	光の粒子性について (光子量子仮説)	第 10 回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。
第 12 回	光電流の測定	光電流の測定実験を行う。
第 13 回	プランク定数の測定	プランク定数測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	第 1 回から第 13 回までに実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した、各回の課題 (20%) と実験レポート (80%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特になしでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on gravity, wave, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%), and short examinations (20%).

PHY900BF

物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

吉田 智

授業コード：A3521 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、熱、電気や光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要な知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行います。また、講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際に、フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	熱・エネルギーについて	第 2、3 回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。
第 2 回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定実験を行う。
第 3 回	金属の比熱の測定	金属の比熱の測定実験を行う。
第 4 回	分子運動について	第 5 回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。
第 5 回	線膨張係数の測定	線膨張係数の測定実験を行う。
第 6 回	電気について	第 7 回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。
第 7 回	平行板コンデンサーの電気容量の測定	平行板コンデンサーの電気容量測定実験を行う。
第 8 回	原子・原子核について	第 9 回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。
第 9 回	電子の比電荷の測定	電子の比電荷の測定実験を行う。
第 10 回	レーザーについて	第 11 回に実施する実験で使用するレーザーについて、理解を深める。また、干渉実験の解析方法を理解する。
第 11 回	光の干渉実験	光の干渉実験を行う。
第 12 回	剛体について	第 13 回に実施する実験に関連する剛体について、理解を深める。
第 13 回	振り子による重力加速度の測定	ボルタの振り子による重力加速度の測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	この授業で実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した、各回の課題 (20%) と実験レポート (80%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特になしでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on heat, electricity, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%) and short examinations (20%).

CHM900BF

化学実験 I (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3522 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています (第 11 回)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	炎色反応	炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。
第 3 回	秤量と測容	質量と体積の測定における器具の選定や大気圧、温度の影響について。
第 4 回	測容器の精度	いくつかの測容器の精度を、純水を使って求める。
第 5 回	溶液の濃度	様々な濃度の計算方法と、その換算方法について。
第 6 回	溶液の調製	中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。
第 7 回	酸と塩基	酸と塩基の定義の種類、pH についての講義。
第 8 回	中和滴定実験 1	シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。
第 9 回	pH 変化のシミュレーション	中和滴定における pH 変化を Excel で計算する。
第 10 回	中和滴定実験 2	pH メーターを用いた、滴下量と pH 変化の関係。
第 11 回	実験レポートの点検	これまでの実験レポートの見直し。
第 12 回	金属イオンの沈殿生成	金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。
第 13 回	金属イオンの系統分析 1	金属イオンの分属と分離について。
第 14 回	金属イオンの系統分析 2	未知試料に含まれる金属イオンの分析。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価：レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

pH 変化のシミュレーションを行うときに PC を使います。

【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline (in English)】

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

CHM900BF

化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3523 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

対面授業で開講します。実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています (第 14 回)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	有機化合物と無機化合物	有機化学と無機化学の違いについて
第 3 回	化学構造式	有機化合物の略式表記と化学構造式描画ソフトの使い方
第 4 回	分子模型 1	有機化合物の立体構造と、構造異性体について。
第 5 回	分子模型 2	共役二重結合を持つ分子の立体構造について。
第 6 回	分子模型 3	立体異性体、分子構造可視化ソフトの利用について。
第 7 回	アルコールの性質	アルコールの特徴とその反応について。
第 8 回	アルコール発酵	酵母を用いた糖の分解実験。
第 9 回	エステルの合成	脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。
第 10 回	アミンの性質	アミノ基を持つ化合物、特にアニリンの特徴とその反応。
第 11 回	アセトアニリドの合成	アニリンと無水酢酸の反応、反応生成物の精製。
第 12 回	アゾ染料の合成	ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。
第 13 回	ナイロンの合成	ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。
第 14 回	まとめ	これまでの実験レポートの見直し。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

資料を配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価：レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

化学構造式の描画や 3D 分子モデリングなどのソフトウェアを使った学習の際、PC を使います。

【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline (in English)】

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of your skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

BIO900BF

生物学実験 I (コンピュータ活用含)

島野 智之

授業コード：A3524 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深め、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実際に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

メール添付などの方法を利用して、課題等についてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	顕微鏡の使用方法 (含マイクロミクロメーターの使用法)	顕微鏡の使用法の説明。顕微鏡の手入れと道具の作成
第 2 回	細胞・気孔の観察と顕微鏡での計測	植物細胞の観察。顕微鏡での計測方法。
第 3 回	原形質流動と原形質分離の観察	植物細胞の観察。顕微鏡での生細胞の観察。
第 4 回	細胞分裂と染色体の観察	細胞分裂の観察。染色体の観察。
第 5 回	昆虫の採集及び観察	野外にてで節足動物を調査する。レポートの作成
第 6 回	無脊椎動物の解剖	無脊椎動物 (大型節足動物) の生理を学び、体の仕組みを理解する。
第 7 回	プランクトンの採集と観察	野外に出てプランクトンを採集し、顕微鏡観察するテクニックを学び、同定する方法を理解する。レポートの作成
第 8 回	土壌動物の抽出法	野外での土壌の観察と土壌動物の採集方法を学ぶ。
第 9 回	土壌動物の採集・分類と観察 (コンピュータを使用した統計処理)	土壌動物とはなにか、図鑑の使い方、調査方法概説
第 10 回	群生生態学的解析 (コンピュータを使用した統計処理)	コンピューターの統計解析ソフトを使って、土壌動物の群集データを統計処理する方法を学ぶ。
第 11 回	細菌の観察 (コンピュータを使用した統計処理)	細菌数を計測し、成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く
第 12 回	真菌 (不完全菌、接合菌、担子菌) の観察	真菌を採集し同定する。レポートの作成
第 13 回	植物の葉の内部構造の観察	単子葉、双子葉の茎頂などを観察し、植物の生長点について学ぶ。
第 14 回	試験、まとめ (レポートの書き方)	試験、まとめ (レポートの書き方)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。

次回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと (その方法なども伝えます)。また、実験の後には、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の 4 点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%) と試験 (30%) に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し (30%)、総合的に判断する。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかった

との意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

【Outline (in English)】

This course is designed to lead to a teaching license and can only be taken by students who have taken a course leading to a teaching license. In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

Observations and biological experiments are conducted on contemporary issues, topics, and problems in biology and the life sciences, using familiar materials whenever possible.

Students will acquire the ability to construct experiments that can be applied in educational settings, as well as deepen their awareness of nature and enhance their ability to explore things biologically.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO900BF

生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

島野 智之

授業コード：A3525 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深め、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものが多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

メール添付などの方法を用いて、課題等に対するフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	光学顕微鏡と電子顕微鏡の比較	光学顕微鏡と電子顕微鏡の仕組みを理解する。
第 2 回	植物組織と動物組織の観察	動物細胞 (類の粘膜細胞、その他、動物細胞) と、植物細胞の違いを学ぶ。
第 3 回	呼吸 [酵母の無気呼吸 (発酵) による二酸化炭素の測定]	呼吸 [酵母の無気呼吸 (発酵) による二酸化炭素の測定]
第 4 回	細胞運動 [魚鱗色素胞の観察]	魚鱗色素胞の観察
第 5 回	プランクトンの観察	多細胞性のプランクトンの体の構造や、クマムシのクリプトビオシスについて観察し理解する
第 6 回	カタラーゼとアマラーゼ (酵素活性測定実験)	酵素活性の測定
第 7 回	図鑑の使い方：学名の仕組み	苦手にされやすい、学名の構造について理解し、図鑑の使い方を学ぶ。
第 8 回	図鑑を作る：大学周辺の動物 (コンピュータを使用したデータベース作成)	大学周辺の動物の写真を撮影し同定後、データベースを作成する
第 9 回	図鑑を作る：大学周辺のコケ (コンピュータを使用したデータベース作成)	大学周辺のコケの写真を撮影し同定後、データベースを作成する。
第 10 回	図鑑を作る：大学周辺の維管束植物 (コンピュータを使用したデータベース作成)	大学周辺の維管束植物を撮影し同定後、データベースを作成する。
第 11 回	無菌操作の習得	クリーンベンチを用いた無菌操作の習得
第 12 回	プラスミド DNA の調製	プラスミド DNA と遺伝子組換えについて学ぶ
第 13 回	アガロースゲル電気泳動	得られたプラスミド DNA とゲノム DNA について、アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ。
第 14 回	試験、まとめ (レポートの書き方)	試験、まとめ (レポートの書き方)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。

次回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと (その方法なども伝えます)。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景、方法、結果、考察の 4 点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%) と試験 (30%) に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し (30%)、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べるのが大切です。

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

【Outline (in English)】

This course is designed to lead to a teaching license and can only be taken by students who have taken a course leading to a teaching license. In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

Observations and biological experiments are conducted on contemporary issues, topics, and problems in biology and the life sciences, using familiar materials whenever possible.

Students will acquire the ability to construct experiments that can be applied in educational settings, as well as deepen their awareness of nature and enhance their ability to explore things biologically.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

EDU200BF

理科教育法（1）

狩野 真規

授業コード：A3527 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】

教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらい、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第 2 回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 5 回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第 6 回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第 7 回	中学理科の科目研究・その 1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第 8 回	中学理科の科目研究・その 2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第 9 回	中学理科の科目研究・その 3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT 教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。
第 10 回	中学理科の科目研究・その 4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第 11 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第 12 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 1 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第 13 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 2 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。
第 14 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 3 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

基本的には各回ごとに課題等に取り組んでもらうので、それらの客観評価で 50%、期末に実施してもらう模擬授業で 50%とする。特に模擬授業については受講者同士の相互評価も実施し、担当教員と受講者同士の相互評価で 25%ずつの割合で評価する予定である（ただし、受講者の人数によってはその限りとはならないこともある）。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているので、検討してみたい。

【学生が準備すべき機器他】

事態が変化すれば、オンラインに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppii については必ず利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(15%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（2）

狩野 真規

授業コード：A3528 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけでなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT 教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第 2 回	地学分野の発展的学習内容について（1）	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第 3 回	地学分野の発展的学習内容について（2）	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第 4 回	地学分野の発展的学習内容について（3）	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR 図を中心に天文の話題をみていく。
第 5 回	地学分野の発展的学習内容について（4）	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの 3 法則について扱っていく。
第 6 回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 1 回）	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 2 回）	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 3 回）	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 4 回）	ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探る必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業出席に伴う要素（議論への参加姿勢などで 20%）、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答（15%）、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）と模擬授業の内容（25%）、模擬授業についての他の受講者の評価（15%）も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけでなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii は必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを旨とする。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（3）

狩野 真規

授業コード：A3530 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを旨とする。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT 教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。
第 2 回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 5 回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進路指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第 6 回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第 7 回	中学理科の発展的学習・その 1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 8 回	中学理科の発展的学習・その 2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 9 回	中学理科の発展的学習・その 3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 10 回	中学理科の発展的学習・その 4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 11 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 1 回）	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 12 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 2 回）	生徒の実態（認識力・思考力・学力など）に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 13 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 3 回）	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第 14 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 4 回）	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答（15%）、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）、模擬授業の内容（25%）、授業内討論での発言等（20%）を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価（15%）も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使った行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりである。

また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法（1）及び同（2）の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同（1）～（4）の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（4）

狩野 真規

授業コード：A3531 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを旨とする。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけでなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第 2 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ICT 教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第 3 回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第 4 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第 5 回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第 6 回	SSH について	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール (SSH) について、その取り組みから実態を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 1 回）	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 2 回）	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 3 回）	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対応法を考える。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 4 回）	ICT 機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使った行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。

また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりである。

また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法 (1) 及び同 (2) の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同 (1) ~ (4) の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom: In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(25%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PSY100BG

心理学概論／心理学 1（心理学概論） 1

伊藤 尚枝

授業コード：A3601, A2254 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学は、人がなぜそのような感じ振る舞うのかを、科学的に分析する学問です。本講座では、身近なトピックを取り上げながら、人の行動と心の働きに関する心理学的知見を学びます。

【到達目標】

心理学の基礎的な知識を得ることができます。心理学の歴史、古典的研究（知覚心理学や学習心理学など）の基礎的な知見、最近の研究（認知神経科学、脳と行動に関する研究など）の紹介を通じて、心理学の全体像を掴むことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に講義形式で行います。
- ・教科書を毎回の授業で使用しますので、持参してください。
- ・学習内容の理解を促進するために、適宜ディスカッションを入れる予定です。
- ・「Google Classroom」を通じて、課題などの提出・小テストの実施・資料の配付を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・心理学の成り立ち
第 2 回	感覚・知覚 (1)	感覚情報の処理過程・知覚のメカニズム
第 3 回	感覚・知覚 (2)	視覚と身体運動の協応
第 4 回	学習 (1)	古典的条件づけ・道具的条件づけ
第 5 回	学習 (2)	さまざまな学習（観察学習・洞察学習）
第 6 回	記憶 (1)	記憶のメカニズム
第 7 回	記憶 (2)	記憶障害と脳損傷
第 8 回	発達	幼児期・児童期の発達
第 9 回	言語・思考	問題解決・推論
第 10 回	動機づけ	動機づけ理論（動因論と誘因論）
第 11 回	社会の中のこころ (1)	社会的認知（印象形成・態度）
第 12 回	社会の中のこころ (2)	社会的影響（多数派への同調・集団意思決定）
第 13 回	こころの個人差	知能・性格
第 14 回	最終試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教科書や授業中に配布する資料を読み返して、授業内容の理解を深めてください（1 時間）。
- ・この授業では、自分でノートをとることを大切に考えています。最終試験にむけて、ノートのまとめをきちんと行いましょう（1 時間）。

【テキスト（教科書）】

福田由紀（編） 2022 心理学要論 心の世界を探る 培風館

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（80%）、平常点（課題や小テストなどの提出状況とその内容）（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the foundations of psychology by considering from a psychological perspective what behavioral characteristics people exhibit when they see objects or socialize with other people.

【Learning Objectives】

The aim of this course will help students broadly acquire a basic understanding of psychology.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review each class using handouts to deepen your understanding of the class content (1 hour per class).

Students are strongly expected to take notes and to summarize what they learned in preparation for the term-end examination (1 hour per class).

【Grading Criteria】

Grading will be based on (1) term-end examination (80%) and (2) usual performance score (assignments and quizzes) (20%).

GEO200BF

日本地誌

村田 陽平

授業コード：A3902 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

備考(履修条件等)：2022 年度以前入学生は「日本地誌(1)(A3410)」を履修する(配当年次は 2～4)。

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

1964 年と 2020 年の日本の地図帳を比べながら、時代の変化と地域の変遷を読み解く。受講生は身近な地域の問題を理解できるようになることを目標とする。

【到達目標】

日本という地域の自然、環境と生活、文化、生業と産業、国土開発などのありようや風土、人口、交通、観光/ツーリズム、まちづくりなどが抱える矛盾・問題点を認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を利用して、さまざまな資料や情報を検索し、リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の説明
第 2 回	北海道地方	北海道の地域問題
第 3 回	東北地方(1)	青森県、秋田県、岩手県の地域問題
第 4 回	東北地方(2)	宮城県、福島県、山形県の地域問題
第 5 回	関東地方(1)	茨城県、群馬県、栃木県、埼玉県の地域問題
第 6 回	関東地方(2)	東京都、千葉県、神奈川県
第 7 回	甲信越地方	新潟県、長野県、山梨県の地域問題
第 8 回	北陸地方	富山県、石川県、福井県の地域問題
第 9 回	東海地方	静岡県、愛知県、岐阜県、三重県の地域問題
第 10 回	関西地方(1)	滋賀県、京都府、奈良県の地域問題
第 11 回	関西地方(2)	大阪府、兵庫県、和歌山県の地域問題
第 12 回	中国地方	岡山県、広島県、山口県、鳥取県、島根県の地域問題
第 13 回	四国地方	香川県、徳島県、愛媛県、高知県の地域問題
第 14 回	九州・沖縄地方	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の地域問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

新聞や SNS などのメディアで取り上げられる出来事などへも目配りすることを忘れないようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

松井秀郎編(2020)『1964 年と 2020 年くらべて楽しむ地図帳』山川出版社、¥2200

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業毎に提出するリアクションペーパー(100%)を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the regional geography of JAPAN. It also enhances the development of students' skill in the regional geography of JAPAN. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the regional geography of JAPAN. At the end of the course, Students are expected to place their own concern to the regional geography of JAPAN. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the short reports.

PSY100BG

心理学史／心理学 1 (心理学史) 2

矢口 幸康

授業コード：A3602, A2255 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前ものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学ばなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の 3 大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料は [hoppii](#) に事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の 3 要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の 3 要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の 3 大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の 3 大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の 3 大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理学研究成果の社会還元について
第 14 回	まとめ	授業内容の再確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使いません。各回資料 PDF は [Hopii](#) で閲覧可能です。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣
アルマ
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步 (改訂電子版) アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

1 年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料 (PDF) は [Hoppii](#) にあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through [Hoppii](#) to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

PSY200BG

心理学測定法 I

[W 組]

押尾 恵吾

授業コード：A3611 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを探り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、班構成、受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と、結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）、北大路書房、1998 年）他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
 「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40%）…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20%）…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 14 名のうち、授業の進め方についての強い改善要求は「班活動の授業であるものの、班活動にたくさんの時間を割けなかった」でした。教員からの説明を予習としてオンデマンド授業で配信する等して、授業中により長く班活動に割けるように授業のやり方を変えることとします。現状の授業の進め方において、調査計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法 I としては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を秋学期以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshidejikken[at]yahoo.co.jp です（[at] を @マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
2. Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
3. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
4. Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40%, group activities 20%.

PSY200BG

心理学測定法 I

[X 組]

押尾 恵吾

授業コード：A3612 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを探り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、班構成、受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原簿作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と、結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）、北大路書房、1998 年）他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および H'etudes の掲示板上ではほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40%）…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20%）…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 14 名のうち、授業の進め方についての強い改善要求は「班活動の授業であるものの、班活動にたくさんの時間を割けなかった」でした。教員からの説明を予習としてオンデマンド授業で配信する等して、授業中により長く班活動に割けるように授業のやり方を変えることとします。現状の授業の進め方において、調査計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法 I としては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を秋学期以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshidejikken[at]yahoo.co.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
2. Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
3. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
4. Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, group activities 20%.

PSY200BG

心理学測定法 II

[W 組]

押尾 恵吾

授業コード：A3613 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

1. 心理尺度の構成を説明できる。
2. 因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
3. 適切な統計分析を実施できる。
4. 研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
5. 質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5 人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認、グループ分け
第 2 回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 3 回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 4 回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成
第 5 回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第 6 回	質問項目の作成・選定 2、質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成
第 7 回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第 8 回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 9 回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 10 回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 11 回	データ分析・検討 2 相関分析、確証的因子分析、重回帰分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 12 回	報告会レジュメ、スライドの作成	実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1	研究成果の発表
第 14 回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著)、北大路書房、1998 年)

【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法 I」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。

「大学基礎講座」(藤田哲也(編)、北大路書房、2006 年)

また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文、東京図書、2008 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40%) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20%) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 8 名のうち、授業の進め方についての強い改善要求は班分けの方法についてでした。班活動の質はメンバーによって大きく左右されることがあるため、具体的に成績や所属等バランスが取れるように構成するよう心掛けたいと思います。現状の授業の進め方において、調査計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法 II としては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を 3 年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

JASP がインストールされた PC

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshidejikkken[at]yahoo.co.jp です ([at] を @マークに置き換えてください)。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand structures of psychological scales.
2. Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
3. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
4. Students can communicate research results accurately and efficiently.
5. Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, group activities 20%.

PSY200BG

心理学測定法 II

[X 組]

押尾 恵吾

授業コード：A3614 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

1. 心理尺度の構成を説明できる。
2. 因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
3. 適切な統計分析を実施できる。
4. 研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
5. 質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5 人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認、グループ分け
第 2 回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 3 回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 4 回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成
第 5 回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第 6 回	質問項目の作成・選定 2、質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成
第 7 回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第 8 回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 9 回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 10 回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 11 回	データ分析・検討 2 相関分析、確証的因子分析、重回帰分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 12 回	報告会レジュメ、スライドの作成	実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1	研究成果の発表
第 14 回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著), 北大路書房, 1998 年)

【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法 I」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。

「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)

また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文, 東京図書, 2008 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40%) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料 (レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20%) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 8 名のうち、授業の進め方についての強い改善要求は班分けの方法についてでした。班活動の質はメンバーによって大きく左右されることがあるため、具体的に成績や所属等バランスが取れるように構成するよう心掛けたいと思います。現状の授業の進め方において、調査計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、測定法 II としては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を 3 年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

JASP がインストールされた PC

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshidejikkken[at]yahoo.co.jp です ([at] を @マークに置き換えてください)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand structures of psychological scales.
2. Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
3. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
4. Students can communicate research results accurately and efficiently.
5. Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research 40%, group activities 20%.

PSY300BG

心理検査法 I

[W 組]

森 彩乃

授業コード：A3615 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】

- ①心理検査に関する基礎知識を身につける。
- ②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めています。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第 2 回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第 3 回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第 4 回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第 5 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 6 回	YG 性格検査①	実施と採点
第 7 回	YG 性格検査②	解釈と解説
第 8 回	NEO-FFI 人格検査①	実施と採点
第 9 回	NEO-FFI 人格検査②	解釈と解説
第 10 回	P-F スタディ①	実施と採点
第 11 回	P-F スタディ②	解釈と解説
第 12 回	SCT	実施と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房

上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と、試験 (60%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4 回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

資料の見やすさ向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution (40%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

心理検査法 I

[X 組]

森 彩乃

授業コード：A3616 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】

- ①心理検査に関する基礎知識を身につける。
- ②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めています。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第 2 回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第 3 回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第 4 回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第 5 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 6 回	YG 性格検査 ①	実施と採点
第 7 回	YG 性格検査 ②	解釈と解説
第 8 回	NEO-FFI 人格検査 ①	実施と採点
第 9 回	NEO-FFI 人格検査 ②	解釈と解説
第 10 回	P-F スタディ ①	実施と採点
第 11 回	P-F スタディ ②	解釈と解説
第 12 回	SCT	実施と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と、試験 (60%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4 回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

資料の見やすさ向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution (40%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

[W組]

森 彩乃

授業コード：A3617 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、発達検査を中心に取り上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。発達検査を用いた実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めています。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第2回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第3回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第4回	描画法	実習と解説
第5回	新版 K 式発達検査①	概要説明と実習
第6回	新版 K 式発達検査②	結果の分析と解釈
第7回	WPPSI-Ⅲ ①	概要説明と実習
第8回	WPPSI-Ⅲ ②	結果の分析と解釈
第9回	WISC-Ⅳ ①	概要説明と実習
第10回	WISC-Ⅳ ②	結果の分析と解釈
第11回	WAIS-Ⅲ	概要説明と実習、結果の分析、解釈
第12回	生涯発達と心理検査	主に成人期以降の心理検査の種類と活用
第13回	振り返り	試験
第14回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

資料の改善およびより細かな指示を意識していきます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナウイルスの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.

(2) Know the basics of how to conduct and interpret developmental tests.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

[X組]

森 彩乃

授業コード：A3618 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、発達検査を中心に取り上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。発達検査を用いた実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めています。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第2回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第3回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第4回	描画法	実習と解説
第5回	新版 K 式発達検査①	概要説明と実習
第6回	新版 K 式発達検査②	結果の分析と解釈
第7回	WPPSI-III ①	概要説明と実習
第8回	WPPSI-III ②	結果の分析と解釈
第9回	WISC-IV ①	概要説明と実習
第10回	WISC-IV ②	結果の分析と解釈
第11回	WAIS-III	概要説明と実習、結果の分析、解釈
第12回	生涯発達と心理検査	主に成人期以降の心理検査の種類と活用
第13回	振り返り	試験
第14回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第2版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第2版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

資料の改善およびより細かな指示を意識していきます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナウイルスの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.

(2) Know the basics of how to conduct and interpret developmental tests.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY100BG

脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学と精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するのかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行を進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内でできる限り紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳、橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳、延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能、構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説、グリーンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。第 2 回～14 回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

リタ・カーター（著）養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第 3 版）みえる脳 南江堂

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50%）と期末試験（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

91 人の受講者のうち 30 名から回答者を頂きました。授業の工夫では 4-5 の段階が、75% 近くの評価でした。毎回課題を課しましたが、課外学習時間はほとんど行っていなかった人が 25% と多く認められました。自由記述では、「脳に関するビデオを見た授業は興味深かった。今後も脳に関する動画を見たい」と嬉しい。「他の学部だったら学ぶ機会がなかなかなかった内容だったのでとても面白かったです。」「脳については難解なイメージがあったが、想像以上に面白くてさらに興味が湧いた」「脳の機能や役割について基礎的なところを学ぶことが出来て面白かった。」「実際に経験された患者さんの例やご自身の研究などに言及して下さって、とても興味深いお話で勉強になりました。」などのコメントの一方で、「5 限だとお腹が空くので 5 限より前の時間にしてほしい。」「学生同士のディスカッションがあると嬉しい。」「心理学とのかわりがなど具体的なイメージがしにくく、何のために聞いているのか見失うことがあった。」のコメントも寄せられました。脳についてはこの授業で初めて接する専門用語が多く、知識内容も多く取りつき難かったかもしれません。少しでも復習などに役立つように達成度テスト、Hoppii への録画の掲載などを行っています。最後の授業で、脳の科学と他の心理学の科目の関連について触れました。もう少し講義形式を少なくし、友達とのディスカッションや動画視聴などを多くします。時限については、なかなか他の科目の関係や大学の方針で受講生の多い科目の教室をとるのが難しいのですが、検討してみます。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

【重要】初回の授業には必ず出席して下さい。

実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】 Web 上の【在学生用】文学部授業関連情報まとめ内、3. 授業関係の 02. オフィス・アワーをご覧ください。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline (in English)】

From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation each class on to health and clinical practice.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY200BG

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究方法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、高次な認知機能に関連した情報処理を中心に概説していく。加えて、認知心理学は実験的な研究手法を重視しているため、講義の中ではこの研究手法についても解説する。人間の感覚情報処理が実験を主な研究方法の1つとして研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

認知心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する（受講者数確認のため、第1回はオンライン授業として授業動画をアップロード予定）。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	認知心理学の歴史についての解説
第2回	記憶の機能 (1)	物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説
第3回	記憶の機能 (2)	記憶したことの忘却や変容の過程についての解説
第4回	感情の機能 (1)	感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説
第5回	感情の機能 (2)	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第6回	注意の機能 (1)	情報処理における「注意」の機能についての解説
第7回	注意の機能 (2)	視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説
第8回	感覚の基本特性	順応や恒常性といった感覚全般のもつ基本特性について解説
第9回	異種感覚間相互作用	異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説
第10回	感性とデザイン	感性の認知とその工学デザインへの応用に関する解説
第11回	心的イメージ	心的イメージの機能についての解説
第12回	意思決定	選択や選好を含めた意思決定の過程についての解説
第13回	問題解決と推論	問題解決および推論を行う過程についての解説
第14回	期末試験と全体の総括	期末試験を行ったうえで、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版] ——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の度合いやコメントペーパーによる理解度を併せた平常点を評価の40%とし、60%を学期末に行う期末試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から新規担当者になった科目ですが、理解度は4.18と全科目平均よりやや高かったのです。一方、履修してよかったかについては4.18と全科目平均より低い結果でした。授業内容については数年かけて検討する予定で、今年度は昨年度から一部変更します。また、受講生がノートを取る時間を考えて話すスピードを落としています。遅いという意見が出ていたのでこも調整したいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

【Learning objectives】

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end examination (60%).

PSY100BG

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、様々な学問的視点から追究する認知科学について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験などを踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成したりすることで、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考、推論、問題解決
第 12 回	情動	情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望
第 14 回	試験、授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】

行場次郎・箱田祐司（編）（2014）. 新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線― 福村出版.

鈴木宏昭（2016）. 教養としての認知科学 東京大学出版会.

内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）.

はじめての認知科学 新曜社.

大津由紀雄・波多野諄余夫（編著）（2004）. 認知科学への招待 ―心の研究の面白さに迫る― 研究社.

都築啓史（編）（2002）. 認知科学パースペクティブ ―心理学からの 10 の視点― 信山社.

大島尚（編）（1986）. ワードマップ：認知科学 新曜社.

【成績評価の方法と基準】

平常点：課題 25%、中間テスト 25%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンライン形式）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。

65 名の回答者のうち、「履修してよかった」と回答してくれた人が 61 名（94%、前々年 90%）、「理解できた」が 53 名（81%、前々年 77%）、「工夫されていた」が 61 名（94%、前々年 93%）でした。いずれも前々年と大きな違いはなく、高い評価をいただきました。授業外学習時間については「1-2 時間」が 37%、「30 分-1 時間」が 46%、「ほとんど行っていない」が 9%でした。オンライン授業になっても満足度はほぼ変わらず、逆に毎週課題を出すようにしたため授業外学習をほとんどやらない人が以前より減ったことは喜ばしいことだと思います。リアルタイムとオンデマンドのバランス、Zoom のブレイクアウトルームと Google ドキュメントを使ったグループ活動、投票機能や画面共有・音声共有機能を使ったミニ実験、Hoppii で毎回取り組む課題、いずれについても肯定的なコメントをたくさんいただきました。「オンラインの良さを存分に発揮している講義だった」「オンラインではありませんでしたが、満足感がすごかったです。受講して本当に良かったと思いました！」といった嬉しいコメントをいただきました。教室で座る位置が固定化しがちな対面授業に比べて、グループがランダムに生成されるブレイクアウトルームでは毎回色々な人と交流できることも好評でした。その一方で、心理学科 1 年生が同学年の人同士で交流できる場がもっと欲しかった、という声もありました。オンラインでは難しいですね。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand and explain based on their own experiences the mechanisms underlying mental processes such as visual and auditory perception, language, memory, reasoning, and social cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：他学科公開の受講年次は3～4
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第10回	意欲・動機づけの発達	やる気メカニズム：勉強嫌い、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。

第11回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第12回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第13回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第14回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各2時間（合計4時間）をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する。
 『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020
 『発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021
 『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ10回（正答かどうかによって配点が異なる）と課題2回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は70%。課題の評価は30%。ただし、成績評価の対象はミニクイズを6回以上かつ課題を2つとも締め切り内に提出した人のみ。それ以外の場合は成績を評価しない。また課題の提出ミスなどは考慮しませんので正確に提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
 ・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
 ・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
 ・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG

教育心理学

梶井 直親

授業コード：A3623 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育に関わる様々な心理学的知見を応用する学問です。ここでの教育とは、一般的な学校教育だけでなく、家庭や社会などあらゆる場面でされる学習や訓練などが含まれています。本講義ではそういった様々な場面での教育に関する、発達心理学、学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を紹介していきます。また、実社会が必要となってくる「他者の話を聞きながら、階層構造を意識したノート（メモ）を取る」スキルもこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- (1) 教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- (2) 他者の話を聞きながらメモを取る。
- (3) 階層構造を意識したノート（メモ）を取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は対面での講義形式です。教科書は毎回使用します。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。また、Hoppii を通じて課題を出す予定ですので、授業の前までに提出してください。こちらの回答に関しても全体にフィードバックを行う予定です。なお、COVID-19 感染症の蔓延状況によってはオンライン講義に変更する回もあるので、Hoppii からのお知らせに注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	講義の進め方の説明と、教育心理学を学ぶためのベースとなる部分を概説する。
第 2 回	言語力と心の理解の発達	円滑なコミュニケーションの実現に関わる、言語力や心の理解の発達などについて概説する。
第 3 回	教える人と教わる人の関係	「教える—教わる」の関係性が築かれる、親子・友人・教師との関係などについて概説する。
第 4 回	学習理論と記憶理論	学習理論や記憶理論などについて概説する。
第 5 回	記憶理論と深い理解	記憶理論や深い理解などについて概説する。
第 6 回	読み書きからの学習	文章を読む/書くことからの学習や読解力、文章理解理論などについて概説する。
第 7 回	上手に学ぶ	上手に学ぶための学習者の工夫などについて概説する。
第 8 回	上手に教える (1)	授業過程や伝統的な授業法などについて概説する。
第 9 回	上手に教える (2)	最近の授業法や教師側の工夫などについて概説する。
第 10 回	知能と認知スタイル	知能検査や認知スタイルなどについて概説する。
第 11 回	学力と評価	学力の測定法や評価などについて概説する。
第 12 回	学校不適応と予防	学校不適応やいじめのメカニズムなどについて概説し、その予防法についても触れる。
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がいやその支援法などについて概説する。
第 14 回	期末テストとまとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習：次回の授業の内容について、事前に教科書を読んだり、書籍等で調べるなどをして、概要を把握しておく。また、前回の講義の最後に出された宿題に回答する。

復習：講義で取ったノートや教科書を読み返し、学んだ概念の具体例を自分自身の中に探す。また、講義で紹介する文献や資料を読む。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」原田・福田・森山（編） 大学教育出版 2022 年

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

評価は、リアクションペーパーと宿題の提出による平常点 20%と期末テスト (80%) の配分で総合的に決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容や自分で教科書を読んだ内容などをベースとした内容が問われます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の担当が初年度のため、特にありません。

【その他の重要事項】

授業のテーマにもあるように、教育心理学は応用心理学の一つですので、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考慮しています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces educational psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. understand about basic of educational psychology
- B. take memos while hearing
- C. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に活用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つける機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気メカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の 1 章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識を持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に 2 回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学 [第 2 版] 実践の理論、理論の実践」藤田哲也 (編)(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也 (編)(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろっている場合に、その授業回分の平常点を付与します。

期末レポート (60%) …授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に活用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートから：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」は 4.87 と、高評価をいただきました。「理解度」も以前より大幅 UP し 4.83 となりました。実は今年度から予習課題の事前提出を平常点の対象に変更したのに伴い、「授業外学習時間」の最頻値も週 1 時間～2 時間未満 (60.9%) で予習を実質化できたことが大きかったと理解しています。「予習課題が大変だったが、意味のあるものだったのでやりがいがあった」という自由記述に、受講生の皆さんの受講態度が集約されていますね。学んだことを日常生活でもどんどん活用してください。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2 回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.
2. Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG

社会心理学／心理学2（社会心理学） 1

越智 啓太

授業コード：A3625, A2256 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などという難しい感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのかいやなのか、勉強してきたせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」というのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買い続けるのか、なぜ本屋とCDショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けられない人がいるのか、いらいらするといじわるしたくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。

授業の目的・意義

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】

- (1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようにになる。
- (2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようにになる。
- (3) 効果的なプレゼンテーションレポート作成を経験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。

授業方法：講義形式、記憶する必要がある用語のリストや印刷資料、動画資料は授業支援システムからダウンロードできる。

フィードバック：毎回リアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初で講評および追加解説を行う。また、レポート等については講評、個人指導など Hoppii 等で追加の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究方法
第2回	対人印象形成（1）	中心特性、初頭効果
第3回	対人印象形成（2）	ステレオタイプ、ステレオタイプの形成、ステレオタイプの維持
第4回	外見的魅力	美人、ハンサム、外見的魅力を規定する平均顔仮説
第5回	恋愛行動（1）	恋愛行動の形成、進展、SVR理論、情動と恋愛、錯誤帰属、恋愛のスキル
第6回	恋愛行動（2）	恋愛の類型論、恋愛と情動、恋愛進展
第7回	恋愛行動（3）	恋愛の個人差、愛の結晶化現象、愛の再確認傾向と恋愛
第8回	ノンバーバルコミュニケーション	表情、動作、しぐさ、うその見破り
第9回	セルフ（1）自己呈示、自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第10回	セルフ（2）セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第11回	攻撃行動（1）メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響
第12回	攻撃行動（2）	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム
第13回	援助行動（1）	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第14回	援助行動（2）	社会的インパクト理論と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、あらかじめ授業支援システムから該当する講義のプリントをダウンロードして読んでおくこと。ただし、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）を提示するので、この用語を記憶し、使いこなせるようしておくこと。指定した授業に関する動画視聴と事前、事後課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリントを使用する。プリントは授業支援システムで配布する。

【参考書】

越智啓太（編）私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科 社会心理学編 創元社
中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。

レポート（80%）+ 授業コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。昨年に比べ、ウェブを通じて配付する資料や動画資料をさらに充実させました。また、授業で取り上げる、具体的な事例等を最新のものに刷新しました。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

授業で取り上げられなかった部分は動画で補足する。

【その他の重要事項】

- (1) 「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。
- (2) 他の教員の授業に比べて、A+、Aは少ない。毎年、D評価のものが5%程度でているので、楽勝科目ではないと思う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues within and between individual social behaviors.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.
- (2) You will be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.
- (3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG

学校心理学

原田 恵理子

授業コード：A3626 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校におけるすべての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整、校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められています。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、IoT 社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

「3つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになることを目標とします。また、発達障がいなどのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について考えることができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式、オンライン及び資料・動画等の配信型講義を組み合わせ実施します。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

・リアクションペーパーや準備学習レポート等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。その中で、課題やレポート等に対して講評します。

・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションなどの技法を体験し、不登校やいじめなど具体的な事例に即して、有用な視座や方法論について学びます。

・学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史	講義内容や評価方法など/学校教育臨床の歴史を説明しつつ学校心理学の意義を解説する
第 2 回	現在の学校教育と課題	IoT 社会に向けたこれからの学校教育の動向について理解する（資料・動画等配信型授業）
第 3 回	3 段階の心理的援助サービス	援助する対象と 4 つの援助/3 段階の心理的援助サービスについて理解する
第 4 回	心理教育的アセスメント	子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて理解する
第 5 回	学校心理学に基づく実践 (1) カウンセリング	カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 6 回	学校心理学に基づく実践 (2) コンサルテーション	学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ディスカッションを通して理解する
第 7 回	学校心理学に基づく実践 (3) チームとしての学校	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについて理解し、チーム援助の在り方について考察する（資料配信・課題提出型授業）
第 8 回	心理教育的援助の実践 (1) 不登校	子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例を通して支援の在り方やその工夫について話し合う
第 9 回	心理教育的援助の実践 (2) いじめ	いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方やその工夫について話し合う
第 10 回	心理教育的援助の実践 (3) 発達障がいの特徴と援助	発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う
第 11 回	心理教育的援助の実践 (4) 家庭・地域社会	虐待など家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を話し合う
第 12 回	心理教育的援助の実践 (5) 学校・教師	教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める

第 13 回 心理教育的援助の実践 (6) 予防的・開発的教育 予防的・開発的教育について説明し、実際に体験してみる

第 14 回 心理教育的援助の実践 (7) 援助の課題と展望 心理教育的援助およびチーム学校での効果的な援助の課題と今後の展望について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習の課題に取り組むことで授業準備を行ってください。また、事後学習として課題に取り組み、理解をさらに深めて知識の定着をはかってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ及び資料を配布します。

【参考書】

生徒指導提要改訂 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf

石隈利紀 学校心理学 誠心書房

渡辺弥生・西山久子編 生徒指導・教育相談 北樹出版

これ以外にも、必要に応じて参考書や図書、資料文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

準備学習・フィードバックのレポート (40%)、話し合いやロールプレイなどの参画度 (30%)、課題レポート (30%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例の紹介や体験が理論を学ぶ上で参考になったという学生アンケートの感想を踏まえ、各回ではテーマに即した事例の紹介、ロールプレイや話し合い等を取り入れた授業をします。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器、ネット環境を整えておいてください。ICT を活用した授業を行います。資料配布・課題提出などのために授業支援システム等を使用します。

【その他の重要事項】

個別的な配慮を希望する学生は授業者まで相談をしてください。また、対面形式の授業の実施においては、諸事情に応じた学習形態に対応します。諸連絡は、「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of school psychology.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

— Be able to understand the main terms and concepts of school psychology.

— Be able to explain the methods and theories of major support services.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on reports (40%), participation degree of (30%), and Issue report (30%).

PSY200BG

演習 I (1)

高橋 敏治

授業コード：A3627 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 * 例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 * 英語論文の選択を次回に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワーポイントによる発表）レジュメの提出
第 12 回	英語論文 2	発表（パワーポイントによる発表）レジュメの提出
第 13 回	英語論文 3	発表（パワーポイントによる発表）レジュメの提出
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通して、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
- 第 14 回 講義を通してのまとめと授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

13 人の受講者のうち 10 名から回答者を頂きました。週 2 時間以上の授業外学習が 60% 以上と授業だけでなく発表の準備や文献検索のために学習していた様子を把握できました。まだコロナ禍の問題がありましたが「ペアワークや全体での話し合い等があればさらにまともにも出来たのではないかと感じた。」という意見もあり、次年度の課題とさせていただきます。「実践的な授業で、その時々で分析や方法などの説明をして下さり、この先とても役に立つと感じた。」「自分で論文を選んで読む経験ができてよかった。他の人が発表していた論文も興味深く、今後の研究テーマを選ぶうえでの参考になった。」など論文の選択やその興味など演習 I の意義を把握してくれてうれしく感じました。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。

【文献、図表などの書き方】

この演習 I を含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。昨年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I (2)

渡辺 弥生

授業コード：A3628 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得 (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 *和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） *英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
予習復習には各 2 時間をかけることとする。
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
- 第 14 回 講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は、授業外学習に能動的に取り組んでくれたようであり、和文も英文のプレゼンも積極的に参加してくれていました。専門の資料を理解することが楽しくなるように支援していきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス感染の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I (3)

三浦 大志

授業コード：A3629 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、
 (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
 (2) 論文の構成や約束ごとを理解する、キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
 (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける
 (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する
 (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する
 以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取り入れます。発表に関しては、授業内およびメールでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第 2 回	論文の種類、論文の構成	論文の構成についての説明（題名、キーワード、抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する
第 6 回	和文論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 7 回	和文論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	和文論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	和文論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える
第 11 回	英語論文の個人発表 1	発表（パワポによる発表）
第 12 回	英語論文の個人発表 2	発表（パワポによる発表）
第 13 回	英語論文の個人発表 3	発表（パワポによる発表）
第 14 回	英語論文の個人発表 4 全体統括	発表（パワポによる発表） 全体の振り返りも行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

第 1 回 自己紹介とシラバスに課題の準備
 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
 PsycINFO ID の獲得
 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門的キーワードの準備

第 4 回 PsycINFO による検索

第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える

第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行う

第 10-14 回 英語論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出（講義を通してのまとめ改善点のアンケート）

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40%、和文論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は特に、質問や議論が活発になされたクラスでした。

この授業は、ディスカッションの仕方を学べるのも 1 つの特長なので、議論のしやすい雰囲気を作っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンライン対面も新型コロナウイルス感染症の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.
 ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.

・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I (4)

下山 晃司

授業コード：A3630 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

- 具体的な目標として、
- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
 - (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
 - (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
 - (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
 - (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
- 以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 * 例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 * 英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
- 第 14 回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに 13 名中 3 名の回答がありました。その 3 名全てが「授業の工夫」、「理解度」、「履修して良かったか」について、4 以上の評定をしていました。「授業外学習」については、2 名が「週 1 時間以上 2 時間未満、1 名が「週 30 分以上 1 時間未満」を選択していました。また、以下のような自由記述がありました（一部修正）。

- ・とても難しい授業で、大変でしたが、先生のおかげで何とかついていけています。
- ・少数人数というのが、ご時世的にも発表者としてもやりやすくてよかった。
- ・今まで読んだことのなかった論文を読むきっかけになった。他の人の発表を聞くことで自分の興味のない分野にも関心をもつことができた。
- ・発表の仕方に対してもう少しフィードバックがほしい。

以上の結果を踏まえた担当者の気づきとしては、回答者数が例年より少なかったものの、回答者は演習 I の内容に満足していると考えられます。しかし回答者の「授業外学習時間」は少ないと思われ、+ a の課題を検討します。また、短いフィードバック時間の中で、「論文について」と「プレゼンテーションについて」の配分を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【オフィスアワー】 初回授業で説明します。

【文献、図表などの書き方】

この演習 I を含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学研究の投稿の手引きに準じて行います。昨年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。

<https://psych.or.jp/manual/>

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I (5)

梶井 直親

授業コード：A3631 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得する。
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得する。
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 * 例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 * 英語論文の選択を次回に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性があります）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意、PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
- 第 14 回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40 %、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30 %、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30 %、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。
初回で担当の順番を決めます。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する状況を考慮して授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。

【文献、図表などの書き方】

この演習 I を含め、卒業論文など他の教科も文献、図表などの書き方は、すべて日本心理学会の投稿の手引きに準じて行います。授業でも説明しますが、昨年度改定がされていますので、新しい手引きを入手しておいてください。以下の HP から入手できます。https://psych.or.jp/manual/

【オフィスアワー】

シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY300BG

研究法 I (1)

高橋 敏治

授業コード：A3643 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論を含めた心理学研究の方法（問題提起、目的・仮説設定、方法、統計分析、結果の表示、考察の仕方など）について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

【到達目標】

教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し、できるだけ早い時期に研究テーマを設定し、実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙や実験方法の作成、実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究計画発表 【1-1】	順番を決めた上で各自の計画の検討 1
第 3 回	研究計画発表 【1-2】	順番を決めた上で各自の計画の検討 2
第 4 回	研究計画発表 【1-3】	順番を決めた上で各自の計画の検討 3
第 5 回	研究計画発表 【1-4】	順番を決めた上で各自の計画の検討 4
第 6 回	研究計画吟味 1	予備研究の実施 1
第 7 回	研究計画吟味 2	予備研究の実施 2
第 8 回	研究計画吟味 3	予備研究の実施 3
第 9 回	研究計画発表 【2-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 10 回	研究計画発表 【2-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 11 回	研究計画発表 【2-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 12 回	研究計画発表 【2-4】	順番を決めた上で計画の吟味検討 4
第 13 回	研究計画実施 1	手順や方法の確立
第 14 回	研究計画実施 2	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア
	総括・まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 1
- 第 2 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
- 第 3 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
- 第 4 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
- 第 5 回 予備研究の実施要領作成
- 第 6 回 予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
- 第 7 回 予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
- 第 8 回 予備研究実施による問題点のレポート作成
- 第 9 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成
- 第 10 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
- 第 11 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
- 第 12 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
- 第 13 回 研究計画の手順や方法のレポート作成
- 第 14 回 研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成
卒論問題提起を夏休み前に完成し提出

【テキスト（教科書）】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、発表 (40%)、レポート課題 (20%) によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ、発表後に振り返りレポートとして提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

15 名の受講者中 1 名の回答を頂きました。新型コロナの流行の問題がありますが、もっと交流する機会や時間を設けることを検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイントを使用しますので、ノート PC 準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席して下さい。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、必ず精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わってきています。この経験を生かし、一緒に考えていきます。

【Outline (in English)】

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG

研究法 I (2)

竹島 康博

授業コード：A3644 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身の興味関心に基づき、人間の感覚情報処理に関する研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

3年次生は、関心のある研究テーマに対してグループで実験計画の選定、実験の実施を通して実証的研究の計画を作り上げる準備をします。4年次生は、実証的な研究を進めるために必要な思考を身につけることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次生と4年次生の合同で授業を行います。基本的には3年次生と4年次生で異なる実習を行います。必要に応じて合同で議論を行います。両学年ともに発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。なお、受講者の人数や状況等によって授業内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明 4年：春期休暇中の進捗を報告 3年：興味のあるテーマを発表
第2回	研究を進めるための事前準備	文献の検索方法や内容を読み込む際のポイントについて解説 研究倫理についての説明
第3回	研究準備1	4年：実験計画の検討 3年：グループ分け、テーマ決め
第4回	研究準備2	4年：実験計画の検討 3年：実験計画の検討
第5回	研究準備3	3年次生がグループごとに実験計画を発表。4年次生は発表を聞いてコメント。
第6回	研究準備4	4年：プログラム作成等の実験準備 3年：実験計画の修正
第7回	研究準備5	4年：プログラム作成等の実験準備 3年：実験の準備
第8回	研究準備6	4年：プログラム作成等の実験準備 3年：実験の準備
第9回	研究準備7	4年：プログラム作成等の実験準備 3年：実験の準備
第10回	実践活動	3年次生はグループごとに実験を実施。4年次生は参加者として協力。
第11回	実験実施準備	4年：研究倫理申請書の書き方を学ぶ 3年：実験データを集計
第12回	実験実施準備	4年：実験実施に必要な書類の作成 3年：実験データの解釈
第13回	実験データの解釈	3年次生はグループごとに実験結果を報告。全体で質疑応答を行う。
第14回	まとめ	春学期の授業を振り返り、各人が秋学期に向けての課題を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。文献の読み込み、実験の準備、発表資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

各人の研究テーマや課題に応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

共通：平常点 40%、他者の発表へのコミットメント 20%
 4年次生：春学期中の実験開始を到達目標とした進捗評価 40%
 3年次生：グループ別実験の報告レポートの評価 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業改善アンケートの回答がありませんでした。内容は数年かけて検討する予定で、今年度も昨年度から変更します。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて自分のPCを持参してください。

【その他の重要事項】

この科目は3年次生と4年次生の合同授業です。重複履修を原則としていませんので、3年次と4年次に同じ教員の研究法I・IIを受講してください。初めに授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。4年次生はシラバスの各回の内容に縛られず、自身の進捗にあわせて作業を進めてください。3年次生はグループ活動となるので、メンバーに迷惑をかけないよう各自が意識してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

【Learning objectives】

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG

研究法 I (3)

渡辺 弥生

授業コード：A3645 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業研究を対象とした専門演習です。2 年次、3 年次の演習の成果をふまえて、各自研究の計画を立案します。最新の論文を収集し、興味をもった研究の動向を明らかにします。先行研究の理解をもとに、問題点を明確にし、改善するオリジナリティのある理論的展開や方法について検討します。また、研究にとどまらず、社会人として与えられた課題をこなし、成果を広く発表し、伝えていくためのソーシャルスキルも学びます。

【到達目標】

論文を書くことだけでなく、各自が社会にでて活かせるような力として、論理的思考、創造力、情報収集能力、計画遂行力をふくむソーシャルスキルを育てることを目標とします。

- (1) 専門の論文を検索できる。
- (2) 論文から研究の流れを理解する。
- (3) 先行研究の目的から考察の内容を理解できる。
- (4) 先行研究を批判し、オリジナリティを加えられる。
- (5) 具体的に自分の研究計画を立案する。

こうした、研究のスキルだけでなく、ゼミのネットワークを強める貢献をし、互いにペアやグループワークを活用し、相互に研究力だけでなく人間力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学習内容：自分の決めたテーマにかかわる文献を集め整理し、問題意識を明らかにします。そこから、仮説を立て研究計画を完成させます。その際、発達や臨床にかかわる研究の難しさや倫理的な配慮、モラルについても学びます。毎回、全員が何かしら発言し、互いの考えを共有できるようにアットホームな形で進んでいきます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

授業方法：演習・実習方式

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の枠組みについて確認	スキーマの獲得:研究のイメージをつかむことができるようになることを目標とする。
第 2 回	研究計画 1	テーマ決定：一口に心理学と言っても、かなりバリエーションがある。どのようなテーマがあるかを概観したうえで、興味あるテーマを決定する。
第 3 回	研究計画 2	先行研究のリスト：興味あるテーマを絞ったとしても、その歴史は長く、研究の経緯がある。まずは、リストをつくる。
第 4 回	研究計画 3	先行研究の理解：これまでの研究の流れを、理解 → 批判 → 問題提起という作業の枠組みを通して考える。
第 5 回	研究計画 4	先行研究の理解：前の時間をさらに継続する。
第 6 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：ビジュアルに理解できるように、ノートを工夫してまとめる作業をする。
第 7 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：先の作業を完成させる。
第 8 回	問題提起の作成	論理的な構造作り：マッピングした流れを、文章に書いてみる。論文の書き方を体験する。
第 9 回	問題と目的を書く 1	論理的な構造で書けているかをチェックする。
第 10 回	問題と目的を書く 2	ライティングの完成
第 11 回	方法について検討	その目的を実行するためにどのような方法が必要かを考える。協力者へのお願いの手紙など、協力者を得るための手続きも確認する。
第 12 回	発表	プレゼンテーション
第 13 回	発表	プレゼンテーション
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、各授業内で消化できないことが出てくるので、授業時間外で予習復習に各 2 時間を補っておく。互いに、意見を交換したり、質問しあったり、活動レベルを高められるよう工夫します。研究論文を読みながら研究の流れを知ることと同時に、レビュー本を読んで研究論文で扱われている問題が、広い領域のなかのある一部だということを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業開始時に適宜紹介する。

【参考書】

授業開始時に適宜紹介する。論文の書き方をタイトルとした本を一冊準備する。改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために単行本—2010/7/13 松井 豊(著) などこの種の本を 1 冊読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題遂行(70%)とプレゼンテーション(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

かなり勉強したと評価している人がいるので、このペースで。「判断力」「苦手克服」という点がのびるようにしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントやDVDなど。

【その他の重要事項】

上記計画は、研究の進み具合によって、多少変更します。研究法をコアにした授業外のゼミ活動(ゼミ行事、合宿)で総合力を養ってほしい。授業支援システムに登録する。新型コロナウイルス感染症の状況によって、オンラインに変更する可能性はある。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline (in English)】

The aim of this course is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students are expected to collect the latest theses and formulate their interest in researching trends. From the knowledge obtained from the collected theses, students will have to determine currently existed issues. Furthermore, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, not stopping at researches, this training will also provide the necessary social skills for students to correctly convey the outcomes of the study which they conducted, helping students to become more confident as a member of the society.

・ The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ Grading will be decided based on each class assignment (70%) and presentations (30%)

PSY300BG

研究法 I (5)

田嶋 圭一

授業コード：A3647 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめ発信していくことを目指します。春学期は研究計画の立案と研究実施の準備までを行います。

【到達目標】

1. 論文検索を適切に行うことができ、論文の内容を正確に読解し、批判的に読めるようになること。
2. 1 の活動を踏まえて先行研究のレビューができ、心理学的研究に値する独自の問題点が提示できること。
3. (3 年生) タネ論を基本とした「追試 + α 」の研究計画を立案できるようになること。(4 年生) 複数の先行研究を基に独自の問題意識に基づく研究計画を立案できるようになること。
4. 研究計画を基に研究の実施に向けて素材・装置・倫理審査書類等が適切に準備できること。
5. 自分の研究成果を効果的に発表できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用した学生相互のピアレビュー、授業内および掲示板での教員からのフィードバックなど取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、達成目標の設定
第 2 回	レビュー発表 (1)、各自のテーマの決定	【4 年生】卒論を見据えたテーマ設定と文献講読 1・発表。【3 年生】関心のあるテーマの選定と文献講読 1、4 年生へのコメント。
第 3 回	レビュー発表 (2)	【4 年生】文献講読 2、3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 2・発表。
第 4 回	レビュー発表、研究計画の立案 (1)	【4 年生】文献講読 3、問題点の精査、発表。【3 年生】文献講読 3、問題点の精査、4 年生へのコメント。
第 5 回	レビュー発表、研究計画の立案 (2)	【4 年生】文献講読 4、問題点の精査、3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 4、問題点の精査、発表。
第 6 回	研究計画発表 (1)	【全員】研究計画書の作成。【4 年生】発表。
第 7 回	研究計画発表 (2)	【全員】研究計画書の作成。【3 年生】発表。
第 8 回	研究計画の具体化	変数の整理、刺激・材料等の準備
第 9 回	問題の設定、研究倫理	問題意識と研究目的の設定、研究倫理について
第 10 回	4 年生成果発表 (1)	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備、4 年生へのコメント。
第 11 回	4 年生成果発表 (2)	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備、4 年生へのコメント。
第 12 回	3 年生成果発表 (1)	【4 年生】倫理審査書類提出、3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 13 回	3 年生成果発表 (2)	【4 年生】倫理審査書類提出、3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 14 回	まとめと展望	春学期の総括、秋学期に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画など）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し、授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワーなどを活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。また、研究の「お作法」を解説した文献を必要に応じて読んでもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介いたします。

【参考書】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）. 心理学研究法入門 ―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会。
 高野陽太郎・岡 隆（編）（2004）. 心理学研究法 ―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ。
 松井豊（2006）. 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、発表 60%の割合で評価します。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合または無断で発表を怠った場合は、単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンライン形式）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。
 7 名の回答者全員が「履修してよかった」「工夫されていた」と回答し、1 名を除く全員が「理解できた」と回答してくれました。授業外学習時間は「週 3 時間以上」が 43%、「2～3 時間」が 29%、「1～2 時間」が 14%でした。授業のよかった点として、発表に対してブレイクアウトルームやレジュメへの書き込みを通して他の人からたくさんの意見や質問をもらえたこと、意見交換やアドバイスの出し合いが盛んだったことが挙げられていました。一方で、改善してほしい点として、発表が一回終わるごとに話し合いの時間を設けてほしいというコメントもあり、話し合いの量やタイミングに改善の余地があると感じました。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法 I・II を受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will help students acquire the knowledge and skills necessary to plan and carry out psychological research, and effectively present their accomplishments. The spring semester focuses on research planning and preparation.

【Learning objectives】

Through this course, students should become able to:

1. Search and critically read research articles.
2. Provide a thorough literature review and devise original research questions.
3. Construct a detailed research plan based on the research questions.
4. Prepare research materials, equipment, and ethical review documents necessary to carry out the research plan.
5. Give an effective presentation of one's research goals and progress.

【Learning activities outside of classroom】

Students will set appropriate goals and strive to achieve those goals by the next class meeting. Presentation materials should be prepared as needed. Students are also expected to provide feedback to other students' work through peer-review activities. For each class, students will be expected to spend at least 4 hours outside of class to make progress in their research.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (40%) and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to present in class without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY300BG

研究法 I (6)

藤田 哲也

授業コード：A3648 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文に向けて、心理学の研究計画の立て方から論文の書き方まで、実践的・体系的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

<4 年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。

2. 複数の先行研究をレビュー (概観) し、批判的な読み方をする。

3. 1, 2 をふまえて、独自性のある研究計画を立てること。

4. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。

<3 年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。

2. 1 をふまえて、先行研究の追試を基本とした研究計画を立て、実施し、適切な方法で分析できること。

3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。

4. 研究成果を論文形式でまとめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生と 4 年生が合同で授業をします。研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが、この授業の具体的な作業目標となります。まず、自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を、心理学の研究分野 (記憶、認知、動機づけ、自己など) に関連づけて整理しましょう。その上で、自分の興味に近い先行研究がないか、探してみましょう (必ず見つかるはずです)。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め、実験・調査の実際の方法、得られたデータを適切に分析する方法まで、一通りの過程を、先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。4 年生は複数の先行研究を概観するレビュー発表と、そのレビューによって明確になった問題意識を発展させた卒論中間発表の 2 回の発表機会があります。3 年生は一つの先行研究を熟読し、改善点などの自分なりのオリジナルな視点を加え、実際に研究を行った成果発表を行った上で、発表によって明らかになった改善点を踏まえ、ミニ論文として論文形式で研究成果をまとめてもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、卒論とは何かについての概説、受講上の注意、発表順の決定
第 2 回	それぞれの研究課題	4 年：レビューの仕方、3 年：研究テーマの決定と先行研究の選定
第 3 回	レビュー発表 1	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、実験材料・調査用紙の作成

第 4 回	レビュー発表 2	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、実験・調査の準備および実施開始
第 5 回	レビュー発表 3	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の研究の実施と平行して分析法の確認、結果の分析
第 6 回	研究実施	4 年と 3 年：3 年生の調査実施
第 7 回	中間まとめ	4 年：これまでのレビュー発表総括、3 年：研究中間報告
第 8 回	卒論中間報告 1	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表用資料の構成
第 9 回	卒論中間報告 2	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表用資料の作成
第 10 回	卒論中間報告 3	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表練習
第 11 回	3 年生研究発表 1	4 年：発表へのコメント、3 年：発表
第 12 回	3 年生研究発表 2	4 年：発表へのコメント、3 年：発表、論文の構成について
第 13 回	ミニ論文仮提出	4 年と 3 年：受講生同士によるミニ論文の相互評価
第 14 回	総括とミニ論文本提出	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に定めません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよびミニ論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」(藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年)。

【成績評価の方法と基準】

4 年生：

平常点 (40%) …授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表 (60%) …自分で選択したテーマに沿ったレビュー発表と、自分自身の研究の中間計画を発表してもらいます。それぞれの発表において、発表の内容と発表のしかた、発表資料 (レジュメ) の正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

3 年生：

平常点 (40%) …授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表 (30%) …研究内容に加え、レジュメの体裁、プレゼンの仕方、質疑応答がそれぞれ評価対象となります。

ミニ論文 (30%) …研究内容と論文の体裁が評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートから：「履修してよかった」の評価は 4.78、「理解度」は 4.44 で、ほぼ例年通りの高評価となりましたが、授業外学習時間は全体として高めですが、個人差がありました。「週 3 時間以上」が最頻値で 44% でした。発表課題の設定については特に改善要求がありませんでしたので、今後も継続させたいと思います。自由記述には「資料が詳しくすぎて回りくどい」と「詳しくて助かった」の両方がありますが、基本的に資料は「時間が経ってから読み返しても理解できるように」書いていますので、ご理解ください。授業では重要な部分をかいつまんで説明するように配慮します。各自、授業で課せられた課題だけでなく、自主的に自分の研究を進めるための課題を見つけて進めてください。

【その他の重要事項】

研究法Ⅰ・Ⅱは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのかは、原則として4年生は3年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3年生は2年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will learn how to set up psychology research plans and how to write papers in a practical and systematic manner with the goal of approaching graduation theses.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.
- 3.Students can make a unique research plan based on 1 and 2.
- 4.Students can make an effective presentation.

< 3rd grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Based on 1, students can formulate and implement a research plan based on the follow-up examination of previous research, and analyze it by an appropriate method.
- 3.Students can make an effective presentation.
- 4.Students can summarize research results in the form of a dissertation.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, research presentation 60%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, research presentation 30%, mini-thesis 30%.

PSY300BG

研究法 I (7)

島宗 理

授業コード：A3649 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。受講生は、それぞれ自分の問題意識から研究テーマを選び、標的となる行動を決め、その制御変数を実験によって見つけながら、この方法論を習得します。卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で卒業後にも役立つ技術を習得することを目指します。

【到達目標】

研究法 I で主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：特定の標的行動として具体化すること、解決に役立つ関連情報を調べること、行動の制御変数の候補を複数推定し、その中から実験で検討する変数を選び、先行研究を元に実験計画を立案すること、実験計画書を作成し、発表すること、実験装置や測定システムなどを準備し、予備実験からそれを改善すること、本実験を実施し、データを分析し、まとめて図表や文章、口頭発表などでコミュニケーションすること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のための研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業および Moodle/Slack で行います。3 年次には卒論の準備として小実験に取組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使います。積極的に参加して下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。実験計画のプレゼン方法、注意すべきこと、研究倫理 (倫理委員会に提出する書類など) について解説します。 3 年次生： 小実験の候補を紹介しします。
第 2 回	実験計画の発表 (1)	全員： 独立変数と従属変数、変数の統制、実験計画法、行動の観察と記録、仮説の立案や変数の探索などを学びます。 3 年次生： 小実験について討論し、予備実験の準備を進めます。 4 年次生： 各自、実験計画を発表し、討論します。GO サインがでたら予備実験に移れるように、実験計画は「概要」ではなく、刺激や記録用紙なども用意してプレゼンして下さい。
第 3 回	実験計画の発表 (2)	同上
第 4 回	実験計画の発表 (3)	同上
第 5 回	予備実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善 (本実験の計画) などを学びます。 3 年次生も 4 年次生も、予備実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第 6 回	予備実験の報告 (2)	同上
第 7 回	予備実験の報告 (3)	同上

第 8 回	先行研究をまとめる (1)	全員： 先行研究や参考書、統計資料などを読み、現在の研究の流れや社会のニーズの中に自分の実験を位置づけます。研究のストーリーをまとめてあげられる方法について解説します。
第 9 回	先行研究をまとめる (2)	同上
第 10 回	先行研究をまとめる (3)	同上
第 11 回	本実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善 (継続実験の計画) などをさらに学びます。 3 年次生も 4 年次生も、本実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。

第 12 回	本実験の報告 (2)	同上
第 13 回	本実験の報告 (3)	同上
第 14 回	まとめ (1)	全員： 各自、自分の研究のセールスポイントを抜き出し、これを伝える題目を考えて発表します。卒論のストーリーを端的に伝える練習をします。 3 年次生は小実験、4 年次生は本実験のレポートを提出します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

- 興味がある実験について標的行動 (従属変数)、介入方法 (独立変数)、実験計画法の 3 つを考え、提案するための資料を作成する。
- 実験計画について予測する結果を作図する。
- 5 つ以上の先行研究を表にまとめる。

【テキスト (教科書)】

○島宗 理 (2019)。ワードマップ 応用行動分析学 ―ヒューマンサービスを改善する行動科学― 新曜社

【参考書】

○研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

○授業参加 (40%) および授業課題の遂行度 (60%) から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から課題の提出期限をゆるゆるにしましたが、そのせいか 3 年生で実験を完了できた人の数が激減してしまいました。提出期限はゆるゆるなまま 3 年生のうちに実験を完了する手段を考えてみます。

【その他の重要事項】

- この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としておりますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法 I・II を受講してください。
- 研究テーマは受講生の興味を最優先して決めます。行動分析学は研究対象を限定しません。基本的に何でも研究できると考えて下さい。ただし、大学生活のかなりの部分をかけて取り組む研究ですから、自分の得意なこと、興味があること、これだけは人に負けないぞと自信があること、そういう自信をつけたいことなどを選んで下さい。こんなことでも実験できるのだろうか？ と思いとどまらず、ぜひ一度相談して下さい。卒論ですから、大がかりな実験はできませんが、世界に二つとない実験を共につくりましょう。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室 (富士見坂校舎 6F9 号室) です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including functional analyses of behavior, systematic observation and recording procedures, single-case designs, and visual inspection of time series data to evaluate effectiveness of an intervention. Students will select their own research topic, conduct a literature review, develop a research proposal, and run experiments.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) identify behavioral objectives, 2) design and conduct experiments, 3) analyze data, and 4) present research outcomes.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY300BG

研究法 I (8)

越智 啓太

授業コード：A3650 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>

いまで学んできた知識を総合して自ら心理学研究を行う！

本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法 I では、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画を立て、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法 II では、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法 I と II は同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

<学習目標>

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【到達目標】

自分で心理学の研究を出来るようになる。具体的には以下の点である。

研究のテーマ選択
 先行文献の検索と整理
 実験計画の作成
 実験結果の分析
 レポート・論文の作成
 オーラルでの発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各自の研究報告とディスカッションを行う。

1～2 回程度土曜日か日曜日に長時間の補講を行う。

コメントや意見、レポートに対してのフィードバックについては、講評および補足解説を行う。方法については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、研究ポリシー、研究倫理などについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、文献収集指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 3 回	研究発表 2、文献収集指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 4 回	研究発表 3、文献収集指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 5 回	研究発表 4、実験調査指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

第 6 回	研究発表 5、実験調査指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 7 回	研究発表 6、実験調査指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 8 回	研究中間発表会	自分の研究の現状について 15 分でプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 10 回	研究発表 8、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 11 回	研究発表 9、実験調査指導 5	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 12 回	研究発表 10、実験調査指導 6	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 13 回	研究発表 11、実験調査指導 7	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 14 回	研究発表 12、実験調査指導 8	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、自分の研究の進行状況について説明してもらいますので、説明用資料を作成してください。

その前提として、毎週必ず、自分の研究を少しずつでも進展させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

共通の参考書は指定しない。各自のテーマに従って個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法と基準>

授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

例年、高く評価されています。本年度もさらに興味深くスキルの身につく演習になるようにがんばります。とくにプレゼンテーションの指導に力を入れます。

【その他の重要事項】

楽しい授業にしたいと思います。そのため、各自が積極的に発言するなどの参加をお願いします。

この授業は出席することが重要である。出席が規定日数に達しない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもありますが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, empirical experimental research on psychology and presentation training will be conducted. In particular, it focuses on research on social psychology and criminal psychology.

【Learning Objectives】

You will be able to study psychology yourself. Specifically, the following points.

Research theme selection

Searching and organizing prior literature

Design of experiments

Analysis of experimental results

Creating reports and dissertations

Oral and poster presentation

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (50%) + class contribution (50%)

PSY300BG

研究法Ⅱ（1）

高橋 敏治

授業コード：A3651 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに、卒業研究を実施する上で必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を、ゼミ形式で検討します。

【到達目標】

実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。まとめに至る段階で何回か、議論し、修正し、卒論を準備します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 3 回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 4 回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 5 回	データ整理	Excel の使い方、データの扱い方など
第 6 回	研究相談 1	問題点や疑問点の整理
第 7 回	データ処理	データ処理、統計分析など
第 8 回	研究相談 2	問題点や疑問点の整理
第 9 回	図表のまとめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第 10 回	研究相談 3	論文の記載上の問題
第 11 回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 12 回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2、 卒論仮提出
第 13 回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 14 回	よく見かける論文記載上の間違い（実例） 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

第 1 回	3 回目研究発表の原稿作成 1
第 2 回	3 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回	3 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回	3 回目研究発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回	卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成 1
第 6 回	卒論データの統計上の問題点レポート作成
第 7 回	卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
第 8 回	卒論図表作成上の問題点レポート作成
第 9 回	卒論作成上の問題点レポート作成 1
第 10 回	4 回目研究発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
第 11 回	4 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
第 12 回	4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
第 13 回	4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 14 回	卒論仮提出用原稿修正版の作成 要旨原稿の作成

【テキスト（教科書）】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、発表（40%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映した振り返りレポートとして、それを提出して下さい。必要に応じて、次の授業で議論します。

【学生の意見等からの気づき】

15 名の受講者中 2 名から回答を頂きました。4-5 の段階は授業の工夫ではほとんどがここに回答してくれていました。授業外学習は週 3 時間以上の人がほとんどでした。3 年は卒論の準備、4 年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を別々に進行了ました。自由記述では、「大変でしたがとてもやりがいのあるゼミでした！」のコメントがありました。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイントを使用しますので、ノート PC 準備係とプロジェクトアワーを決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席して下さい。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かして、一緒に考えて行きます。

【Outline (in English)】

Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.

Lively discussions will be held on problems and corrections based on actual survey and experimental data. Discuss and modify it many times to complete your bachelor thesis.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG

研究法Ⅱ（2）

竹島 康博

授業コード：A3652 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の感情情報処理に関する実証的研究を、自身の力で設計・実施・考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

3 年次生は、自身の関心ある研究テーマについて実証的な研究の計画を作り上げることを目標とします。4 年次生は、自身が計画した実証的研究を実施、取得したデータを整理、解釈、まとめあげるための一連の能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次生と 4 年次生の合同で授業を行います。3 年次生は研究計画を策定するために文献の検索と講読、発表を行い議論します。発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。4 年次生は、実施した研究についてまとめる作業を段階的に行います。なお、受講者の人数や状況等によって授業内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明 夏季休暇中の進捗の報告
第 2 回	研究テーマの検討 (1)・データの整理	3 年：各自が読んできた論文の報告と議論 4 年：取得したデータを分析に適した形式に整理
第 3 回	研究テーマの検討 (2)・データの解析 (1)	3 年：各自が読んできた論文の報告と議論 4 年：メインとなる解析を実施
第 4 回	研究テーマの検討 (3)・データの解析 (2)	3 年：各自が読んできた論文の報告と議論 4 年：データを確認した上で副次的な解析を実施
第 5 回	研究テーマの検討 (4)・データの解析 (3)	3 年：各自の研究テーマを決定 4 年：データを確認した上で副次的な解析を実施
第 6 回	文献の講読 (1)・結果の解釈 (1)	3 年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 4 年：解析の結果を問題と目的と照らし合わせて解釈
第 7 回	文献の講読 (2)・結果の解釈 (2)	3 年：研究テーマに関連した論文を読んで報告 4 年：解析の結果を問題と目的と照らし合わせて解釈
第 8 回	文献の講読 (3)・結果の解釈 (3)	3 年：自身の研究のベースとする論文を決定 4 年：解析の結果を問題と目的と照らし合わせて解釈
第 9 回	研究計画策定 (1)・執筆と発表準備 (1)	3 年：関連する論文を参考に研究計画を検討 4 年：実施した研究について執筆と発表の準備
第 10 回	研究計画策定 (2)・執筆と発表準備 (2)	3 年：関連する論文を参考に研究計画を検討 4 年：実施した研究について執筆と発表の準備
第 11 回	研究計画策定 (3)・執筆と発表準備 (3)	3 年：関連する論文を参考に研究計画を確定 4 年：研究報告を書き上げて仮提出
第 12 回	発表時の注意点	聴衆に理解してもらえるような発表をするために気をつけるべき点を解説
第 13 回	成果発表 (3 年次生)	3 年次生が自身の研究計画を発表し、全員で検討する
第 14 回	成果発表 (4 年次生)	4 年次生が卒論発表会に向けて研究の成果について発表を行い、全体で質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。文献の読み込み、発表資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業時間内では、行った作業の成果の発表と全員での議論を行います。また、授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

各人の研究テーマに応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

共通：平常点 40%、他者の発表へのコミットメント 20%
4 年次生：卒論への取り組み姿勢および成果発表の評価 40%
3 年次生：実験計画の完成を到達目標とした進捗評価 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から新規担当者となった科目で、内容は数年かけて検討していく予定です。昨年度に 3 年次生向けに行った内容は春学期の研究法Ⅰに回し、研究法Ⅱは卒論執筆に向けた準備段階の内容に変更します。4 年次生は引き続き各自のペースに合わせて進めていきますが、昨年度は提出前が慌ただしかったので、余裕をもって提出できるようなスケジュールを進める予定です。4 年次生と 3 年次生で異なる実習のためになかなか交流の機会が作れないのですが、4 年次生が 3 年次生に教えるような内容ができないか検討します。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていませんので、3 年次と 4 年次に同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。初めに授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。4 年次生はシラバスの各回の内容に縛られず、自身の進捗にあわせて作業を進めてください。3 年次生は必ず英語論文を 1 本読んでいただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

【Learning objectives】

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG

研究法Ⅱ（3）

渡辺 弥生

授業コード：A3653 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究をめざした専門演習の最終ステップ。研究法Ⅰで完成させたプランを実行にうつす。問題と目的のもとにどのような方法を実行するかを決定します。対象者、調査・観察・実験などの確定。実施する時期やデータの収集方法や手続きについて計画を練り、結果の分析方法および考察の進め方などについても学びます。研究の遂行とともに推敲ともに各自論文の作成を実行します。

【到達目標】

心理学研究の論文の書き方について習得し集大成できる力を獲得します。同時に、プレゼンテーションなどについてのスキルや研究協力者を得たり、フィードバックできるソーシャルスキルを獲得します。すなわち、論文を書くということが、課題をくりくりタイプに考えだし、効果的な方法で探求し、結果を適切に分析し、なぜそのような結果が得られたのか深く考察するといった総合力を身につけることにつながり、結果的にキャリア形成に必要なスキルを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

一人一人の予習・復習がベースになり、授業では集団の良さを生かした演習方式をとります。他人の考えを聞き、自分の考えを述べるができるようにします。ペアワーク、グループワークなどをもとに、課題解決をしていきます。全員が意見や質問を発言できることをめざします。アクティブラーニングを基本とする。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画のまとめ	全体の確認 問題と目的のライティング
第 2 回	方法論について	方法の確認：方法をライティング
第 3 回	材料および手続きの決定	ライティング
第 4 回	分析方法の想定	問題と目的で書いた仮説を検討するためにどのような方法が望ましいか決定。
第 5 回	分析方法について 1	分析を始める。データセットを確認してメインの分析をする。その結果を図表にしライティングする。
第 6 回	分析方法について 2	前の授業の継続
第 7 回	結果 1	結果についてライティングする。
第 8 回	結果 2	前の時間の継続
第 9 回	考察	結果を考察し、ライティングする。引用文献を入れて考察する。
第 10 回	研究発表 1 4 年生発表	プレゼンテーション
第 11 回	研究発表 2 4 年生発表	プレゼンテーション
第 12 回	研究発表 3 3 年生発表	プレゼンテーション
第 13 回	研究発表 4 3 年生発表	プレゼンテーション
第 14 回	シェアリング 予備	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、各時間に消化できなかったことを補います。個人差が生じると予想されるが、遅れている人は時間外に補うようにします。個人、ペア、グループなどを効果的に用いて、応用力を伸ばせるようにします。予習復習に各2時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】

適宜授業時に伝える。

【参考書】

研究Ⅰで紹介。論文を書くためのテキストで読みやすい本を一読しえおく。

【成績評価の方法と基準】

質問や意見をいうなど参加態度を含む平常点（50%）とプレゼンテーション（50%）

【学生の意見等からの気づき】

個人の進行の差があるが、個人及び全体の観点からも充実した内容にしたい。また、議論が積極的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVDなど。

【その他の重要事項】

上記の進行は多少状況によって変化します。授業外のゼミ活動、研究協力者へのフィードバックを重視します。新型コロナウイルスの感染状況によってオンラインに変更する可能性がある。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline (in English)】

This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, this training will also provide the necessary writing skills for students to correctly organize, discuss, and write the outcomes of the study which they conducted.

The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Grading will be decided based on Ordinary points (50%) and presentation (50%), including attitude toward participation such as asking questions and expressing opinions.

PSY300BG

研究法Ⅱ（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3655 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた心理学の知識を活かし、高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し、みずから設定したテーマに沿って研究を行い、成果としてまとめていくことがテーマです。秋学期は計画に沿って研究を実施し、研究成果を口頭発表および論文としてまとめます。

【到達目標】

1. 心理学的に意義があり倫理的に適切な研究計画を立案できること。
2. 自分が立案した研究計画に沿って研究を的確に遂行できること。
3. 収集したデータを図表にまとめ、適切な統計的手法を用いて分析・解釈できること。
4. 研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できること。4 年生は卒業論文を、3 年生はミニ論文を完成させることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み、授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく、他者の取り組みにも関心を寄せ、建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって、個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用した学生相互のピアレビュー、授業内および掲示板での教員からのフィードバックなど取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、研究計画の確認、発表順の決定
第 2 回	研究の準備	実験・調査の準備、倫理審査
第 3 回	研究の実施、論文執筆：目的、方法（1）	研究の実施、研究目的から方法までの書き方
第 4 回	研究の実施、論文執筆：目的、方法（2）	研究の実施、進捗状況報告
第 5 回	3 年生中間発表（1）、研究の実施	【3 年生】中間発表、論文前半提出。 【全員】ピアレビュー。
第 6 回	3 年生中間発表（2）、データの整理・加工	【3 年生】中間発表、論文前半提出。 【全員】ピアレビュー。
第 7 回	4 年生中間発表（1）、記述統計量の計算	【4 年生】中間発表、論文前半提出。 【全員】ピアレビュー。
第 8 回	4 年生中間発表（2）、推測統計の実施	【4 年生】中間発表、論文前半提出。 【全員】ピアレビュー。
第 9 回	結果の解釈、論文執筆：結果、考察	効果的な図表の作成、結果（事実）と考察（解釈）の書き方
第 10 回	論文執筆：導入から引用文献まで	問題と目的、引用文献などの書き方、論文全体の執筆・推敲
第 11 回	3 年生成果発表（1）	【3 年生】成果発表。【4 年生】論文仮提出。【全員】ピアレビュー。
第 12 回	3 年生成果発表（2）	【3 年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。
第 13 回	4 年生成果発表（1）	【4 年生】成果発表。【3 年生】ミニ論文提出。【全員】ピアレビュー。
第 14 回	4 年生成果発表（2）、総括	【4 年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究の流れ（テーマの設定、論文の講読、問題提起、実験・調査の計画・実施、データの分析、発表）に沿って、ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を必要に応じて事前に準備し、授業にて適宜配布・説明してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワーなどを活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため、ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。また、研究の「お作法」を解説した文献を必要に応じて読んでもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）. 心理学研究法入門 ―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会。
高野陽太郎・岡 隆（編）（2004）. 心理学研究法 ―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ。
松井豊（2006）. 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、発表 60% の割合で評価します。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合または無断で発表を怠った場合は、単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンラインと対面のブレンド）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。

12 名の回答者のうち、10 名（83%）が「工夫していた」、11 名（92%）が「理解できた」「履修してよかった」と回答してくれました。授業外学習時間は、やはりゼミなので過半数の人が「3 時間以上」と回答していました。授業外でも先生に気軽に相談できたこと、学生間のピアレビューや対面授業でのグループディスカッションができたのが好評でした。一方、ピアレビューの提出率が低かったりコメントが少なかったりしたのが残念だったというコメントもありました。その通りですね。私もピアレビューをもっと積極的にしたくなるような工夫を考えたいです。また、（テーマを）ゼロから考えるのが大変だったので、よりよい論文・研究が実施できるように過去に高い評価を受けた先輩方のスライドや論文を参考にしたい、というコメントをいただいたので、検討したいと思います。また、卒論チェックシートや論文の書き方などの資料を提供してくれたのはよかったものの、Hoppii 上の置き場が分散して見つけにくかったようなので、今後は見つけやすくなるような工夫をしたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていすので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

なお、授業計画や運営方針の説明などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will help students acquire the knowledge and skills necessary to plan and carry out psychological research, and effectively present their accomplishments. The fall semester focuses on carrying out the research according to the research plan and effectively presenting the research findings.

【Learning objectives】

Through this course, students should become able to:

1. Construct a detailed, meaningful, and ethically acceptable research plan.
2. Conduct the research according to the research plan.
3. Process and analyze data using appropriate visualization and statistical techniques.
4. Present research findings effectively through oral presentations and academic papers/theses.

【Learning activities outside of classroom】

Students will set appropriate goals and strive to achieve those goals by the next class meeting. Presentation materials should be prepared as needed. Students are also expected to provide feedback to other students' work through peer-review activities. For each class, students will be expected to spend at least 4 hours outside of class to make progress in their research.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (40%) and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to present in class without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY300BG

研究法Ⅱ（6）

藤田 哲也

授業コード：A3656 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を視野に入れ、心理学の研究の実施方法を実践的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

<4 年生>

1. 先行研究を踏まえ、妥当性の高い方法で実験や調査を行えるようになること。
2. 得たデータに適した正しい分析を行えること。
3. 客観的かつ正確な文章および的確な図表によって研究成果を表現できるようになること。
4. 研究成果について、わかりやすく魅力的なプレゼンテーションを行えること。

<3 年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー（概観）し、批判的な読み方をする。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 他者の発表に対する的確なコメントを行い、他者の書いた論文に対し有益な改善アドバイスをすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生と 4 年生が合同で授業をします。4 年生は、実際に研究を行うことでデータを収集し、分析をしながら、適切な解釈ができるように発表および討論を 2 回行います。研究法の時間は、実験や調査、分析を行うための時間ではなく、それらについての議論を行う時間だと理解してください。3 年生は、次年度に行く研究に向けて、a. 論文紹介＋批判的コメントの発表、b. 自分が選択したテーマに関するレビュー論文の紹介＋自分の問題意識の発表を行います。全員、ほかの受講生の発表内容に対して、適切にコメントをしてください。また、首尾一貫した論文を書くためのポイントについてアドバイスします。研究論文は、作文やレポートとは質・量ともに別物です。第三者に的確に情報を伝えるために、十分に推敲するためのポイントを把握してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期のスケジュール	全員：シラバス記載事項の確認と補足説明、授業内容と目標の明確化
第 2 回	卒論中間発表 1	4 年：発表と研究準備、3 年：発表へのコメントと先行研究の選定
第 3 回	卒論中間発表 2	4 年：発表と研究準備、3 年：発表へのコメントと選定した論文の読解
第 4 回	3 年生論文発表 1	4 年：発表へのコメントと研究実施、3 年：発表と発表へのコメント
第 5 回	3 年生論文発表 2	4 年：発表へのコメントと結果分析、3 年：発表と発表へのコメント
第 6 回	卒論最終発表 1	4 年：発表と結果の分析、3 年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第 7 回	卒論最終発表 2	4 年：発表と結果の考察、3 年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第 8 回	卒論最終発表 3	4 年：発表と卒論の執筆、3 年：発表へのコメントと自分の発表準備
第 9 回	3 年生レビュー論文発表 1	4 年：発表へのコメントと卒論執筆、3 年：発表と発表へのコメント
第 10 回	3 年生レビュー論文発表 2	4 年：発表へのコメントと卒論推敲、3 年：発表と発表へのコメント
第 11 回	卒論学生相互コメント	4 年：卒論の推敲、3 年：卒論に対するコメント
第 12 回	卒論仮提出	4 年：卒論の改稿、3 年：卒論に対するコメント
第 13 回	卒論要旨集原稿確認	4 年：要旨集原稿の修正、3 年：要旨集原稿へのコメント
第 14 回	総括と卒論発表会準備	全員：授業の振り返り、到達状況の確認、4 年：プレゼンテーションの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよび卒業論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

4 年生：

平常点（40 %）：授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うこと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象）
卒論計画発表（20 %）：発表内容 10 %、レジュメ 5 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）

卒論最終発表（40 %）：発表内容 20 %、レジュメ 15 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）
各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

3 年生：

平常点（40 %）：授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うことと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象）
論文発表（20 %）：発表内容 10 %、レジュメ 5 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）

レビュー論文発表（40 %）：発表内容 20 %、レジュメ 15 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）
各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートから：「この授業を履修してよかった」では 8 名が 5、2 名が 4 の回答でした。まだ少し改善の余地があると感じている人がいると理解しました。「授業外学習時間」は 4 人が 3 時間超、4 人が 2 時間以上と、十分に取り組んでいる人がほとんどでしたが、1-2 時間と 1 時間未満が 1 名ずついたのが気になります。「理解度」は全員 4 以上（6 名が 5）でしたので、あまり問題は無いのかもしれませんが、3 年生と 4 年生、そして院生のみんなが自分の役割と課題を果たしたおかげで、よい授業になったと思います。よい意味での「お互い様」が続くよう、今後も働きかけていきますので皆さんも積極的によろしく。

【その他の重要事項】

研究法Ⅰ・Ⅱは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのかは、原則として 4 年生は 3 年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3 年生は 2 年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students practically learn how to prepare psychology research plans, analysis methods, how to write papers, etc. with the goal of approaching graduation thesis.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

- 1.Students can conduct experiments and surveys using highly relevant methods based on previous research.
- 2.Students can perform correct analysis suitable for the obtained data.
- 3.Students can express research results with objective and accurate sentences and accurate charts.
- 4.Students can give an easy-to-understand and attractive presentation about research results.

< 3rd grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.
- 3.Students can make an effective presentation.
- 4.Students can make accurate comments on other student's presentations and give useful improvement advice to papers written by others.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, graduation thesis plan presentation 20%, graduation thesis final presentation 40%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, presentations on papers 20%, presentations on review papers 40%.

PSY300BG

研究法Ⅱ（7）

島宗 理

授業コード：A3657 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。研究法Ⅱでは、3 年次生は小実験の報告書と卒論の実験計画書、4 年次生は卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で、論理的な文章作成や根拠に基づいた提案、プレゼン、討論の練習をしていきます。

【到達目標】

研究法Ⅱで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：自分の実験を社会的、学術的な文脈に位置づけること、実験から得られたデータを分析し、わかったこと、わからなかったことを整理し、わからなかったことはどうすればわかるようになるかを提案すること。わかったことを数量化し、図表にまとめ、読み手や聞き手にわかりやすいように発表すること、論理的に一貫した、読みやすい文章を書くこと。詳細な規定にきめ細かく対応した校正を行うこと。締切から逆算して計画をたて、遂行すること。自分では解決できない問題について仲間や指導教員から助言をもらうこと、助言すること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業および Moodle/Slack で行います。3 年次には研究法Ⅰで行った小実験と次年度に行う卒論実験を題材に課題に取り組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使いますので積極的に参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容与方法、約束事を説明します。 3 年次生は小実験、4 年次生は卒論実験の内容を 1 分間でプレゼンする練習をします。
第 2 回	論文を書く： アウトラインを書く	全員： アウトラインを書いてから本文を書く方法を解説します。卒論の方法の章を使って練習をします。日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の参照方法も解説します。 3 年次生は小実験のレポートを執筆します。4 年次生は卒論実験を論文にしていきます。
第 3 回	論文を書く： データの視覚的な提示	全員： 実験の中心的なデータを選び、それを視覚的に伝える図を描きます。独立変数と従属変数の関係性がわかりやすく提示できているかどうか、「手引き」やゼミの「チェックリスト」にそって行っているかどうかを確認します。
第 4 回	論文を書く： 推敲する (1)	全員： 方法の章の完成版を提出し、チェックリストに基づいて推敲します。方法の章で最も重要なのは読み手がその実験を追試できるように書かれているかどうかです。読み手の立場から自分の論文を読み直して推敲する練習をします。
第 5 回	論文を書く： 事実を書く	全員： アウトラインから書く方法を結果の章を使って練習します。読み手に自分の研究のセールスポイントをわかりやすく伝えるために、順序や論理展開を工夫する練習です。

第 6 回	論文を書く： 先行研究をまとめる	全員： 春学期にまとめた先行研究を表にし、「手引き」に即した作表方法を学びます。先行研究を紹介する段落を書き、文献引用の作法を練習します
第 7 回	論文を書く： 研究を位置づけるアウトラインを書く	全員： 第 6 回でまとめた先行研究の展望を活かし、また春学期に作成したストーリーを振り返り、序論のアウトラインを作成します。パラグラフ・ライティング法（段落をトピック文とサポート文で構成する手法）を解説し、練習します。
第 8 回	論文を書く： 推敲する (2)	全員： 第 5 回で作成したアウトラインに肉付けをして結果の章をまとめます。データの分析や統計が適切に、かつ充分に行われているかどうかを確認します。
第 9 回	論文を書く： 推敲する (3)	全員： パラグラフ・ライティング法を使って序論を完成させます。日本語の作文技術について確認し、推敲の練習をします。さらに、チェックリストを使って、「執筆・投稿の手引き」にそって推敲します。
第 10 回	論文を書く： 執筆ルールに基づいて校正する	全員： 引用文献一覧を作成します。「執筆・投稿の手引き」にそって推敲します。また、本文と見合わせて、引用の方法が適切かどうかを確認します。
第 11 回	論文を書く： 推敲する (4)	全員： 小実験レポート、卒論のゼミ内提出の前の最終確認とチェックリストを使った推敲の練習をします。また、自分で書いた文章を自分で推敲するのは困難であることを自覚するために、他の受講生の卒論を校正する練習もします。校正に使う一般的な記号を習得しましょう。
第 12 回	研究計画 (1)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。
第 13 回	研究計画 (2)	4 年次生： 卒論を推敲し、提出します。
第 14 回	研究計画 (3)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。
		4 年次生： 卒論の要旨を作成して提出します。要旨は卒論のストーリーをわかりやすく伝える文章です。セールスポイントの抽出と伝達、文字数が限られている場合の推敲方法について解説し、練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

- 春学期に実施した実験の発表資料を作成し、練習をする。
- 自分の研究の社会的意義を示す資料を収集し、発表資料としてまとめる。
- 日本心理学会の「執筆・投稿の手引き」およびゼミの論文推敲チェックリストを用いて、「結果」の章を推敲し、提出する。

【テキスト（教科書）】

島宗 理 (2019). ワードマップ 応用行動分析学 新曜社

【参考書】

- 論理が伝わる世界標準の「書く技術」 倉島保美 (2012) 講談社
- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手引き 日本心理学会 (2015)

【成績評価の方法と基準】

○授業参加 (40%) および授業課題の遂行度 (60%) から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から課題の提出期限をゆるゆるにしましたが、そのせいか 3 年生で実験を完了できた人の数が激減してしまいました。提出期限はゆるゆるなまま 3 年生のうちに実験を完了する手段を考えてみます。

【その他の重要事項】

○この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。本年度は旧カリの 4 年次生と新カリの新 3 年次生の合同授業となります。

○ オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including evaluation of single-case design data with visual inspection, and interpretation of functional relationship between dependent and independent variables. Student will also aim to master how to write a research paper, by learning about paragraph writing, Japanese Psychological Association's publication manual, and other miscellaneous rules in academic writing.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) prepare figures and tables, 2) cite research papers, and 3) write logical sentences, and 4) complete their own research paper.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY300BG

研究法Ⅱ（8）

越智 啓太

授業コード：A3658 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）

<テーマ>

心理学研究を形にしていく！

本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

【到達目標】

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回各自の研究の進展状況をパワーポイントで発表し、ディスカッションを行う。実験や調査を授業外で行ってもらうほか、2～3回程度土曜か日曜に集中的な補講を行う。授業時におけるコメントや意見、レポートに対する回答、講評および補足解説については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、採点ポリシーなどについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、分析方法指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 3 回	研究発表 2、分析方法指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 4 回	研究発表 3、図表レイアウト指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 5 回	研究発表 4、図表レイアウト指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 6 回	研究発表 5、参考文献記法指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。参考文献リストの作成についての指導

第 7 回	研究発表 6、論文の構成指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。論文作成に当たっての構成についての個別指導を行う。
第 8 回	研究中間発表	各自の研究を 15 分間で効果的にプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、論文指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 10 回	研究発表 8、論文指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 11 回	研究発表 9、論文指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 12 回	研究発表 10、論文指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 13 回	プレゼンテーション演習 1	各自の研究発表について個別に指導する
第 14 回	プレゼンテーション演習 2	各自の研究発表について個別に指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、その週に行った研究活動について報告してもらいますので、その準備をしてくること。

その前提として、毎週、少しずつでも自分の研究を進展させること。パワーポイントの使い方、オーラルでの発表について、毎回、練習しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。個別の研究テーマに従った文献を紹介する。

【参考書】

使用しない。各自の研究テーマに従った文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

例年、高い評価を得ています。本年度はさらに受講者に興味深く、スキルの修得が出来るような演習にするようにがんばります。とくに後半はプレゼンテーションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

各自、パワーポイントのスキルをあらかじめ、つけておくこと。

【その他の重要事項】

大学 4 年間の総仕上げの授業なので、全力でがんばろう！

この授業は出席をもっとも重視する。出席が規定日数に達しない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもありますが例外的な措置であるのでそのつもりで。

正規の授業時間以外に 1～2 回、土曜 1～5 限を使用した集中授業（研究のための集中作業日）を行う。1 月には、同様に 1 日かけて、口述試験用のプレゼンテーション練習会を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, empirical experimental research on psychology and presentation training will be conducted. In particular, it focuses on research on social psychology and criminal psychology.

【Learning Objectives】

You will be able to study psychology yourself. Specifically, the following points.

Research theme selection

Searching and organizing prior literature

Design of experiments

Analysis of experimental results

Creating reports and dissertations

Oral and poster presentation

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (50%) + class contribution (50%)

PSY200BG

精神生理学特講

高橋 敏治

授業コード：A3659 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。専門医として臨床経験を活かし、睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学領域の研究を再現し、論文作成に活用できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら、精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら、睡眠の基礎から、睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠、過眠、リズム障害をキーワードにして、24 時間社会の問題点を最新の論文、トピックスなどから取り上げます。授業内で行った試験、課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第 2 回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM 睡眠・NREM 睡眠の違い
第 3 回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第 4 回	睡眠測定法 1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第 5 回	睡眠測定法 2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際
第 6 回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第 7 回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）
第 8 回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第 9 回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第 10 回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第 11 回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当に REM 睡眠に関係するのか？
第 12 回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第 13 回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群、むずむず脚症候群、REM 睡眠行動障害など
第 14 回	睡眠とメンタルヘルス 総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？ うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 睡眠に関する精神生理学の基礎知識確認レポート作成
- 第 2 回～第 10 回 授業内容で扱う睡眠全般に関連したレポート作成
- 第 11-13 回 期末レポートに関する質問や参考事項
- 第 14 回 期末試験（時期は授業内で指示）

【テキスト（教科書）】

教科書は用いませんが、事前に文献・プリントを配布します。

【参考書】

堀忠雄（2008）. 睡眠心理学 北大路書房
 福田一彦, 他（2022）. 心理学と睡眠 金子書房

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出を含む平常点（50 %）、期末試験（50 %）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

20 人の受講者のうち 8 名から回答を頂きました。自由記述では、「毎回の、課題のフィードバック（得点）が知りたかったです。授業内容はとても面白く参加出来ました。」「hoppii に上がるファイル名を統一してほしいと感じました。」があり、課題のフィードバックや、授業のごとのファイルの統一した提示を心がけます。また、「一般的な睡眠の知識を学べただけでなく、自分自身の睡眠についても考え直すことができました。」「日常生活に活かしやすい授業内容で学んでよかったです。また資料に図が多く分かりやすかったです。」など、自分の生活習慣を見直すきっかけとしてくれた意見が多くありました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや学習支援システム（資料配布、課題提出、お知らせのため）を使用します。学習支援システムには、必ず普段よく使用するメールを登録してください。

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】 Web 上の【在学生用】文学部授業関連情報まとめ内、3. 授業関係の 02. オフィス・アワーをご覧ください。
 担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing an article.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final examination (50%).

PSY200BG

言語学特講 I / 日本語学特殊研究 A

田嶋 圭一

授業コード：A3660, A2557 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間に特有の能力とされる言語がどのような原理によって成立しているのかを科学的に追究する言語学について概観します。春学期では、言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。

【到達目標】

言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある知識を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論）、単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、言語と言語学	シラバスの説明、言語とは、「真の言語」の特徴
第 2 回	言語知識	2 種類の言語、言語に関する様々な知識、言語学の諸分野
第 3 回	形態論への導入	心内辞書と一般辞書、形態論と形態素、形態素の種類
第 4 回	語形成過程 (1) : 様々な語形成過程	語形成過程の種類、偶発的な語形成、少し規則的な語形成、規則性の高い語形成：複合
第 5 回	語形成過程 (2) : 複合、派生	複合語の意味、主要部の考え方、派生語
第 6 回	語形成過程 (3) : 派生、転換、屈折	複雑な派生語の構造、語の樹形図、転換、屈折・活用
第 7 回	形態素解析 (1)、異形態	形態素解析の方法と練習問題、異形態とは
第 8 回	形態素解析 (2)、語彙範疇、格	形態素解析の練習問題つづき、日英語の語彙範疇格とその種類
第 9 回	統語論 (1) : 導入	構成素、句構造、句の主要部
第 10 回	統語論 (2) : カテゴリー、意味役割、マージ	言語の階層構造、文を作り上げるための材料：カテゴリー、項と意味役割、文を組み立てる仕組み：マージ、様々な種類の句
第 11 回	統語論 (3) : 文の組み立て	英語の文・日本語の文の組み立て、VP の組み立て、屈折辞と格、一般的な句の構造
第 12 回	統語論 (4) : 補文	VP の拡張、補部と指定部、文の中の文 = 補文
第 13 回	統語論 (5) : 補文つづき、授業のまとめ	課題の復習、授業のまとめ
第 14 回	期末試験、授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を授業支援システム経由で配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。

西光義弘（編集）（1999）. 日英語対照による英語学概論：増補版 くろしお出版.

上山あゆみ（1991）. はじめての人の言語学 ―ことばの世界へ― くろしお出版.

星浩司（2006）. 言語学への扉 慶應義塾大学出版会.

大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）. 言語研究入門 一生成文法を学ぶ人のために― 研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files*, 9th edition. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 25%、中間テスト 25%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。

言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し、授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また、課題や中間テストを通して、内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンライン形式）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。

15 名の回答者のうち、「履修してよかった」が 14 名（93%、前々年 89%）、「理解できた」が 10 名（67%、前々年 86%）、「工夫されていた」が 15 名（100%、前々年 100%）でした。理解度が少し低下しましたが、オンライン授業になったからなのか、原因はよく分かりません。授業外学習時間については「1-2 時間」が 53%、「2-3 時間」が 27%、「30 分-1 時間」が 13%で、対面授業の頃より全体的に増えていました。授業の良かった点として、ブレイクアウトルームで他の学生と話し合いの時間があつたこと、宿題を提出したらフィードバックが表示されたこと、説明を何度も聞き直せるという点でオンデマンド授業がかなり役に立ったこと、Google ドキュメントを使うことで他のグループの意見も見ることができたことなどが挙げられていました。一方、改善の余地がある点として、その場ですぐに先生に質問できたらもっと理解に繋がったかもしれないこと、グループ内で理解度・進捗の個人差が大きいとグループワークがやりにくいこと、Google ドキュメントの動きがたまに遅くなることなどがありました。グループワークは単に答え合わせをする場ではなく、教え合い・共同学習の場でもあることをより強調するとよいかもしれないと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The spring semester focuses on examining the structure of words (morphology) and phrases and sentences (syntax).

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of morphology and syntax, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG

言語学特講Ⅱ／日本言語学特殊研究 B

田嶋 圭一

授業コード：A3661, A2559 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間に特有の能力とされる言語がどのような原理によって成立しているのかを科学的に追究する言語学について概観します。秋学期では、言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。

【到達目標】

言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び、その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し、問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して、無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し、言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な言語音の発音方法や表記方法（音声学）、日本語や英語など色々な言語の音の特徴や決まり（音韻論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、音声学と音韻論	シラバスの説明、音声学と音韻論の違い
第 2 回	音声学への導入、発話のメカニズム	音声学とは、発話のメカニズム、音声器官、音声学の直観を磨く：母音
第 3 回	母音	母音の調音的記述：有標性、音声学の直観を磨く：子音
第 4 回	子音	子音の調音的記述：有標性、自然音類
第 5 回	言語音を書き起こす方法	日本語の音素表記と音声表記
第 6 回	日本語の発音	長音、促音、撥音、ガ行鼻音化、母音無声化など
第 7 回	英語の発音	英語の音素表記と音声表記
第 8 回	音韻論への導入、音素	音と意味との関係、音素、ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性、音素分析
第 9 回	日本語の音韻変化	撥音の同化、ハ行音の同化、母音の融合・交替、連濁など、音素分析の練習問題
第 10 回	音象徴	音象徴、オノマトペ、音素分析の練習問題つづき
第 11 回	リズム	日本語のリズム、モーラ、英語のリズム、音節
第 12 回	アクセント	アクセントとは、東京方言のアクセント、アクセントの規則と表記法
第 13 回	アクセントと方言、複合語のアクセント、イントネーション、授業のまとめ	アクセントの方言差、複合語のアクセント変化、イントネーション
第 14 回	期末試験、授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定範囲を読んだり、出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して、授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。レジュメ等を学習支援システムから配布します。

【参考書】

参考書として以下を挙げておきます。
 西光義弘（編集）（1999）. 日英語対照による英語学概論：増補版 くろしお出版.
 上山あゆみ（1991）. はじめての人の言語学 ―ことばの世界― くろしお出版.
 星浩司（2006）. 言語学への扉 慶應義塾大学出版会.

大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）. 言語研究入門 一生成文法を学ぶ人のために― 研究社.

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.

Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 25%、中間テスト 25%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。

言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また、積み重ねの要素が大きく、授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業資料を利用して内容理解に努めてください。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて課題が未提出の場合、または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンライン形式）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。

16 名の回答者のうち、全員（100%）が「工夫していた」、15 名（94%）が「理解できた」「履修してよかった」と回答しており、大変高い評価をいただきました。授業外学習時間は過半数の人が「1-2 時間」でした。本年度は対面、オンデマンド、Zoom、そしてハイフレックスを織り交ぜて授業を行いました。どの授業形態がよかったと感じたかは人によってまちまちでした。授業形態に関わらず毎回講義動画を公開し、Hoppii のテスト/アンケート機能を使って課題の出題とフィードバックを行ったこと、資料に Q&A を載せて疑問点をすぐに解消できるようにしたこと、Google スライドや投票機能などオンラインならではの機能を使ってインタラクティブな授業になるように努めたことが好評だったようです。一方、レジュメが回によって Word だったりスライド縮小版だったりして戸惑ったというご意見もあったので、改善を検討したいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the field of linguistics, the scientific study of language. The fall semester focuses on examining the sounds of language and how they are produced (phonetics) and organized (phonology).

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand the basic principles of phonetics and phonology, and develop problem-solving skills. They should be able to develop greater awareness of language-related phenomena and problems in their daily lives.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG

認知科学特講

田嶋 圭一

授業コード：A3662 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を「話す」または「聞く」能力を 3-4 歳までにある程度習得しますが、「読む」または「書く」能力はより時間と労力を要します。また、人間と同じ水準で流暢に会話ができるコンピュータは未だ完成していません。これはなぜでしょう？ 本授業ではこのような疑問を出発点に、人間にとって最も自然なコミュニケーション手段といえる音声言語の認知処理過程について学びます。具体的には、音声言語の発話と知覚の仕組み、音声の物理的な特徴、乳幼児による母国語の知覚能力の発達、成人による外国語音声の学習などについて、音声科学、音響学、心理学といった分野の知見を学びます。

【到達目標】

話し言葉が話し手にどのように産出され、音としてどのような特徴を持ち、聞き手にどのように知覚されるのかについて、他者に説明できるようになることが目標です。音声分析ソフトを使って話し言葉の特徴を分析できるようにすることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成したりする時間も取り入れる予定です。さらに、音声分析ソフト Praat を使った演習も実施する予定です。課題に関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明, コミュニケーションの手段, 音声言語と文字言語, 「言葉の鎖」
第 2 回	音声とは	音声の確実性と速さ, 音声産出のメカニズム, 母音と子音
第 3 回	音響音声学の基礎 (1)	音の正体, 音の種類, 音を可視化する方法, 音声のデジタル化
第 4 回	音声の音響分析	Praat を使った音声の録音・可視化・編集・分析
第 5 回	音響音声学の基礎 (2)	フィルタ, 音声産出の音源フィルタ理論, 基本周波数, フォルマント周波数
第 6 回	母音の知覚	分節音とプロソディー, 聴覚器官, 母音の特徴と知覚, 母音の正規化
第 7 回	子音の知覚 (1)	音響的不変性の欠如, ローカス理論, 音声の符号化
第 8 回	音声の再合成	Praat を使った音声の録音・分析・再合成
第 9 回	子音の知覚 (2), カテゴリー知覚	調音点の知覚, 声の有無の知覚, カテゴリー知覚とは, 同定と弁別
第 10 回	音声知覚の実験	Praat を使った同定課題と弁別課題の演習
第 11 回	音声知覚の発達	生得と学習, 乳児の音声知覚, 満 1 歳までに起こる変化
第 12 回	外国語の音声知覚	成人でも外国語が聞き取れるようになるか, 知覚と産出との関係, 外国語音の知覚的同化
第 13 回	文脈の影響	トップダウン処理とボトムアップ処理, 音声知覚と単語認知のモデル
第 14 回	音声と社会的認知, 総括	話し方と対人認知の関係, 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。また、音声分析用フリーソフト Praat を使った演習課題を学期中に数回行いますので、課題を行い成果を提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の本を授業で参照したり、関係する章を宿題として読んでもらったりします。該当部分を学習支援システムにアップしますので、各自保存・印刷してください。

ジャック・ライアルズ（著）、今富稔子他（訳）（2003）。音声知覚の基礎 海文堂。

【参考書】

音声科学、言語心理学などの入門書として、以下を挙げておきます。

北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳（2017）。音声学を学ぶ人のための Praat 入門 ひつじ書房。

石川圭一（2005）。ことばと心理 くろしお出版。

針生悦子（編）（2005）。朝倉心理学講座 5 言語心理学 朝倉書房。

廣谷定男（編著）（2017）。聞くと話すの脳科学 コロナ社。

川崎恵里子（編著）（2005）。ことばの実験室 プレイン出版。

森 敏昭（編著）（2001）。おもしろ言語のラボラトリー 北大路書房。

重野 純（2003）。「音の世界の心理学」ナカニシヤ出版。

ダニー・スタインバーグ（著）、竹中龍範、山田純（訳）（1995）。「心理言語学への招待」大修館書店。

Denes, P. & Pinson, E. (1993). *The Speech Chain: The Physics and Biology of Spoken Language*, W H Freeman & Co.

【成績評価の方法と基準】

平常点・一般課題 30%、Praat 課題 30%、期末レポート 40%の割合で評価する予定です。原則として、授業を 4 回を超えて欠席した場合、期末レポートの提出がなかった場合、あるいは Praat 課題の提出がなかった場合は、単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンライン形式）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。

7 名の回答のうち、6 名 (86%) が「工夫していた」、4 名 (57%) が「理解できた」、5 名 (71%) が「履修してよかった」と回答してくれました。授業外学習時間はほとんどの人が「30 分-1 時間」または「1-2 時間」と回答していました。例年、理解度が低めなのが残念ですが、内容がやや難しいので致し方ないですね。自由記述にも「知らない言葉がたくさん出てきてむずかしかった。でも身近なことなのに知らないことが多く楽しかった。」とありました。講義動画で復習できたり資料やスライドが Hoppii にまとめて置いてあったりしたのが好評でした。しかしレジュメの公開が授業前日で印刷が大変だったというコメントがあったので、次回はもっと早く公開するように努めます。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

People can learn to talk by the time they are 3-4 years old, but learning to read and write takes more time and effort. Meanwhile, building computers that can talk as fluently as people has been a continuing challenge. Why is this so? Taking these questions as a starting point, this course introduces students to the fundamental principles and cognitive mechanisms that underlie the processing of spoken language.

[Learning objectives]

Through this course, students should be able to describe the physical properties of spoken language and the mechanisms underlying how it is produced and perceived by humans. Students should also be able to analyze speech using appropriate software.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. They should also gain hands-on experience with Praat, a speech analysis software, by individually doing assigned homework using this software. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

[Grading criteria/policy]

Your overall grade will be determined based on class participation and regular homework (30%), homework using Praat (30%), and final take-home test (40%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or fail to submit the final test or the Praat homework without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG

認知心理学特講

竹島 康博

授業コード：A3663 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚や関連する様々な認知機能に焦点を当て、その機能の重要性および心理学的な研究を行う意義について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、まずは初期の機能である知覚処理を中心に概説していく。加えて、様々な知覚現象が日常生活のどのような場面で観察されるのかについて考えることで、単なる知識を学ぶだけでなく自身の体験として応用できる思考能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、授業の中で取り上げる様々な知覚現象が日常のどのような場面で体験されるのかについて考える機会を設け、学んだ内容を自身で活用することも重視して授業を実施する。各授業の最後に理解度の確認を兼ねてリアクションペーパーを提出してもらう。書かれた内容については、次回以降の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	感覚の種類や分類法、知覚理論の解説
第 2 回	感覚の測定法	心理物理学的測定を中心とした知覚経験を測定する方法についての解説
第 3 回	視覚の仕組み	眼の構造を含めた初期の視覚処理についての解説
第 4 回	色の知覚	色を感じる仕組みや人間の色覚の多様性についての解説
第 5 回	物体の認識	パターン認知を中心とした物体を認識する仕組みについての解説
第 6 回	運動の知覚	物体の動きを認識する仕組みについての解説
第 7 回	奥行き知覚	外界を立体的に認識する仕組みについての解説
第 8 回	空間知覚	周囲の空間をどのように認識して理解する機能についての解説
第 9 回	聴覚・触覚の仕組み	耳や皮膚の構造を含めた聴覚と触覚の処理についての解説
第 10 回	味覚・嗅覚の仕組み	味覚や嗅覚の処理と香り環境や風味についての解説
第 11 回	多感覚による知覚	複数の感覚を扱う研究の知見や研究方法についての解説
第 12 回	空間認知	身の回りにある案内図について、人間の認知地図の機能の観点から解釈する
第 13 回	知覚・認知に関する実証研究	人間の知覚や認知といった機能についてどのように研究するかについて講演
第 14 回	全体の総括とレポート課題の説明	講義全体の総括と期末レポートについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

行場次朗（編）『感覚・知覚心理学』2018 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の度合いとリアクションペーパーによる理解度確認の平常点を評価の 50%とし、50%を学期末に課す期末レポートの成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から新規担当者が変わった科目で、授業内容は数年かけて検討していく予定です。今年度も昨年度から一部変更しておりますが、好評だった授業内のワークは引き続き積極的に取り入れていく予定です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with human information processes, especially with perceptual system.

[Learning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of perception.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (50%) and term-end examination (50%).

PSY200BG

スポーツ心理学特講

荒井 弘和

授業コード：A3664 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、スポーツ心理学の基本的なテーマ（スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ）を学習することです。

【到達目標】

運動やスポーツを含む身体活動は、私たちの「こころ」と深い関わりをもっています。スポーツ心理学の研究や知見を理解することによって、「こころの仕組み」に関する理解を深め、身体活動・運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目標とします。また、スポーツを通じて現代社会のあり方を考え、スポーツを通じて広い視野を養い、良識ある市民となることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、仮説構築力、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力）」と「状況判断・行動力（主に、環境変革力、共同行動力）」の育成に貢献することを旨とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、運動学習や運動の習慣化に関連する理論モデルから、メンタルトレーニングやスポーツパーソナリティまで、幅広い内容を扱います。さらに、欧米で注目されている最新のトピックや、実際のスポーツ場面で生じた事例についても触れます。

以上のことによって、現代社会においてスポーツ心理学が果たす役割について具体的に考え、心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。授業は、講義形式が中心となります。ただし、一方向的な講義ではなく、講義の内容に基づいて、実習を採用したり、グループワークにおいて意見交換を行ったり、プレゼンテーションを行ったりしながら、課題の解決を考え、実践します。

なお、この授業は、スポーツに関心のない学生にも履修を勧めます。なぜなら、スポーツ心理学の知識・技法は、就職活動などにも適用できるためです。授業中の課題に対するフィードバックは、次の回の授業の序盤に、受講生全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ心理学とは何か？ を学ぶ	スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (1)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 3 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (2)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 4 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (3)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 5 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ	チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 6 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ	チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 7 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (1)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第 8 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (2)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。

第 9 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ	健康のために実施する身体活動の機能を説明できるようになる。
第 10 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ、2) 身体活動を促進する方法を学ぶ	健康のために実施する身体活動の機能と、身体活動を促進する方法を説明できるようになる。
第 11 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 3) パラスポーツの心理を学ぶ	障がいのある人が行うスポーツ活動の特徴を理解し、心理的な支援を実践できるようになる。
第 12 回	スポーツの仕組みの心理学を学ぶ	スポーツの技術を身につけて、実践する際のメカニズムを学び、説明できるようになる。スポーツ場面で生じる現象のメカニズムを学び、説明できるようになる。
第 13 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリートを全人的な視点から考える	デュアルキャリアを理解し、実践できるようになる。
第 14 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリートを全人的な視点から考える	アスリートの価値について考え、自分の考えを表明できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

荒井弘和（編著）「アスリートのメンタルは強いのか？ —スポーツ心理学の最先端から考える—」晶文社
日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店
平野裕一・土屋裕陸・荒井弘和（編）「グッドコーチになるためのココロエ」培風館

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業の到達目標と対応した期末レポートが 60%、(2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40% です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】

「また話を聴く時間とプリントに記入する時間が分けられていて、メリハリをつけて受講することができた」「コーピングを考えるなど、日常生活にも活かせるような内容が多く、面白かったです」という意見がありました。受講生から多くの意見を引き出し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。アクティブ・ラーニングを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to enable doctoral students to independently conduct research, prepare and submit a paper, and practice the series of processes until the paper is accepted.

(Learning Objectives)

Physical activities, including exercise and sports, have a deep relationship with our "mind". By understanding the research and findings of sport psychology, we aim to deepen our understanding of the "mechanism of the mind" and to be able to provide psychological support in physical activities, exercise, and sports situations. We also aim to think about the state of modern society through sports, cultivate a broad perspective through sports, and become a sensible citizen.

(Learning activities outside of classroom)

In order to be able to practice and apply the lecture contents, please come to class after gathering information so that you can work on the report assignment presented during each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% will be based on the final report corresponding to the class objectives, and (2) 40% will be based on your participation in assignments, presentations, group work, and exchanges of opinions during the class. Absence or tardiness will result in a lower grade.

PSY200BG

生理心理学

松田 いづみ

授業コード：A3665 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学では一般に、主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え、生理の側面を知ること、心をより多角的にとらえることができる。本講義では、中枢・末梢神経系のしくみと機能を学んだうえで、心理学研究においてそれらがどのように活用されるかを学ぶ。

【到達目標】

- (1) 中枢・末梢神経系のしくみと機能を理解する。
- (2) 心理学において生体信号がどのように測定・解析されるかを理解する。
- (3) 感情・認知と生体信号とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基礎的な知識を学んだのち、実際に生体信号を観察して理解を深める。また、関連する心理学研究について学び、知識を体系化する。毎回、授業中に出される課題への回答や、授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出する。それに対し、次の授業の冒頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学における生体信号測定の意義と高校公民の教育における本授業の意味について学ぶ。
第2回	中枢神経系の基礎知識	中枢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第3回	末梢神経系の基礎知識	末梢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第4回	皮膚電気活動	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第5回	呼吸	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第6回	心拍数・心拍変動	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第7回	血圧・脈波	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第8回	瞬き・眼球運動・筋電	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第9回	脳波	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第10回	事象関連電位	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第11回	NIRS・fMRI	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第12回	まとめ	半期の内容の復習・まとめをする。
第13回	生理指標を用いた実験計画の作成	これまで学んできた生理指標を用いて、心理学実験を計画する。
第14回	生理指標を用いた実験計画の発表	作成した実験計画を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習予定の生理指標の予習をし、疑問点を明確にしておくことが望ましい。各授業後に課題が出ることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】

堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房、2017

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出された課題への回答（40%）と期末レポートの内容（60%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

提出課題に対してはできるだけはやくフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムをとおして資料を配布し、課題の提出を求める。授業中にパソコンの利用を求めることがある。

【その他の重要事項】

生理機器の個数の都合上、受講希望者が多数の場合は抽選となる場合がある。初回の授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course introduces physiological measures to understand mind more deeply. The goal of this course is that students understand what each physiological measure reflects and how to measure it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on assignments for each lecture (40%), and the quality of the final report in the end of the class (60%).

PSY200BG

生理心理学実習

松田 いづみ

授業コード：A3666 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学では一般に、主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え、生理の側面を測ることで、心をより多角的にとらえることができるようになる。本講義では、実際に生理指標を測定して心理状態を推定することで、心理生理学的なアプローチを体験的に学ぶ。

【到達目標】

- (1) 心理学研究でよく用いられる生理指標を正しく測定できるようになる
- (2) 心理状態と生理反応との関係を理解できるようになる
- (3) 心理状態を測るのに適切な実験手続き・生理指標を選択できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はグループまたは個別での実習形式で行う。レポートはコメントをつけて返却するとともに、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の進め方について説明する。高校公民の教育における本授業の意義を学ぶ。
第 2 回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験：計画の立案	実験計画を立案する。刺激や教示など、実験に必要な資料を作成する。
第 3 回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験：データ収集	生理反応データを取得する。
第 4 回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験：データ分析	データの分析を行う。
第 5 回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験：まとめ	レポートの作成を行う。
第 6 回	心拍変動と呼吸によるストレス計測：計画の立案	実験計画を立案する。刺激や教示など、実験に必要な資料を作成する。
第 7 回	心拍変動と呼吸によるストレス計測：データ収集	生理反応データを取得する。
第 8 回	心拍変動と呼吸によるストレス計測：データ分析	データを分析を行う。
第 9 回	心拍変動と呼吸によるストレス計測：まとめ	レポートの作成を行う。
第 10 回	脳波の測定：計画の立案	実験計画を立案する。刺激や教示など、実験に必要な資料を作成する。
第 11 回	脳波の測定：データ収集	生理反応データを取得する。
第 12 回	脳波の測定：データ分析	データの分析を行う。
第 13 回	脳波の測定：まとめ	レポートの作成を行う。
第 14 回	まとめ	これまでの実験をまとめ、論文執筆時の注意事項について再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に実習予定の生理指標について復習し、不明点などを明らかにしておくことが望ましい。各実験の最後にレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】

堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第 I・II 巻」北大路書房、2017

【成績評価の方法と基準】

レポート（80%）と授業への積極的な参加態度（20%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

提出したレポートに対するフィードバックはなるべく早く行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にパソコンを利用することがあります。資料の配布・レポートの提出は学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期の生理心理学を受講し基礎的な知識をすでに学んでいることが望ましい。受講希望者は初回授業に必ず参加すること。受講希望者が許容範囲を超える場合は制限を行うことがある。

【Outline (in English)】

This course measures physiological indices to understand mind more deeply. The goal of this course is that students practically learn what each physiological measure reflects and how to measure it. Students will be expected to submit a report for each experiment. The study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided based on reports (80%), and the quality of the students' performance in the class (20%).

PSY200BG

言語心理学

菊池 理紗

授業コード：A3667 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人間が「ことば」を使うときにどのような処理をしているのかについて、言語心理学・認知心理学・教育心理学などで培われた知見・考え方を理解することを目的とします。また、学んだことを踏み台に、どうすれば自分の「言語力」をさらに育てていくのかを考えていきましょう。

【到達目標】

- (1) 言語がどのように理解・産出されるのかを理解し、その概要を説明することができる。
- (2) 言語がどのように発達するのかを理解し、その概要を説明することができる。
- (3) 日常生活における経験を、授業で理解した考え方で捉え、適切な例を挙げるることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心で、適宜、近くの席の人とグループワークを行います。授業では、毎回、Hoppii を使った課題の提出と授業後の小テストへの解答を求めます。提出された課題や小テストについては、次の授業の最初に全体に向けてフィードバックを行います。また、教科書は毎時間使用しますので、必ず購入し、持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、	授業の進め方および成績評価に関する説明、言語心理学の研究目的
第 2 回	「言語心理学」とは コミュニケーションを 考える	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、コミュニケーションの難しさ
第 3 回	話し言葉の発達	子どもが話し言葉を身に付けていく様子
第 4 回	書き言葉の発達	子どもが書き言葉を身に付けていく様子
第 5 回	心的辞書とは 1	知識の多様性、単語の意味の構造
第 6 回	心的辞書とは 2	心的辞書の活用事例、単語の認知処理、頻度と親密度
第 7 回	文の理解	ガーデンパス理論、ワーキングメモリの働き
第 8 回	文章の理解 1	文章を読むときの認知プロセス、推論
第 9 回	文章の理解 2	文章の理解に影響するもの（スキーマ、スクリプト、視点）
第 10 回	文章の産出 1	文章を書くときの認知プロセス、書き言葉の特徴
第 11 回	文章の産出 2	コミュニケーションの中の文章、「伝える」文章を書くには
第 12 回	第二言語学習	第二言語学習に関する理論、第二言語学習過程
第 13 回	言語力の育成	「言語力」とは何か、書き言葉と話し言葉の違い、「言語力」を育てるには
第 14 回	期末テストと解説	期末テストの実施とその解説、授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業の内容に関連する簡単な課題を出します。Hoppii で解答を提出してください。その解答の提出と、教科書の関連ページを読んでいただくことが事前学習になります。

授業後には、Hoppii で授業内容に関する小テストを出題しますので、解答してください。また、第 14 回の試験に向けて、随時、教科書で学習を行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

福田由紀（編著）（2012）「言語心理学入門—言語力を育てる—」ISBN：978-4-563-05231-7、2,970 円（税込）

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出+毎回の小テスト 20%、第 14 回の期末テスト 80%の合計点で評価します。なお、期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行います。期末テストでは、授業で紹介した内容だけでなく、自分で教科書を読んで学習する内容と、応用問題も出題します。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は Hoppii を通して行います。また、メモを取れるようにノートやルーズリーフを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

質問は、授業の前後に直接話しに来るか、第 1 回の授業で伝える連絡先に連絡してください。

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査の参加者を募集する学生が来ることがあります。授業で知識を学ぶだけでなく、他の人の実験や調査をぜひ積極的に体験してみてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to enable students to acquire knowledge of the Psychology of Language and relate it to their own daily life. Also, using what you have learned as a stepping stone, think about how you can further develop your own “language skills.” We will be using textbooks, so be sure to bring them with you to class. In the 14th class, there will be a final exam. In addition to working on preparation and review assignments, please study the contents of the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades are evaluated at 20% for submission of assignments and answers to quizzes, and 80% for final exams. If you are absent more than 5 times, no credit will be given.

PSY200BG

行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は「人はなぜどのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード A3670）の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。

【到達目標】

以下の 3 つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC 分析や AB 分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

発達臨床（自閉症や ADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックは Google クラスで行います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義をします。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。
第 3 回	発達臨床 II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。
第 4 回	「理解」の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激一般化、刺激等価性、関係フレーム理論。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。
第 7 回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。
第 9 回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、一般化、意味による一般化、刺激クラス。
第 10 回	「記憶」の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。
第 11 回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。
第 12 回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。
第 13 回	「動機づけ」の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。

第 14 回 まとめ

・学期を振り返り、質疑応答をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業中に取り組む課題を出します。授業時間では終わらなかった課題を、講義や参考書を参考にして、授業後に宿題として取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定するテキストはありません。

【参考書】

○『ワードマップ：応用行動分析学』島宗 理（著）2019 年新曜社

【成績評価の方法と基準】

○授業参加（40%）および授業課題の遂行度（60%）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生は少なかったですが、そのぶん色々な演習を時間をかけて実施でき、楽しかったという感想をいただきました。教科書を読んで学ぶ課題は負担が大きそうなので、来年度は減らし、授業中の演習にかかる時間を増やします。

【その他の重要事項】

○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。

○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) interpret "cognition" as behaviors, and 4) read literature in behavior analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG

行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】

- 基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC 分析、AB 分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
- 標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
- 日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックは Google クラスで行います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容与方法、約束事を説明します。 ・解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。
第 2 回	「問題」とは？ 心と行動の区別	・個人攻撃の罠について学びます。
第 3 回	好子と嫌子	・じぶん実験の標的行動を決定します。 ・生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第 4 回	強化と弱化	・基本的な行動随伴性について学びます。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第 5 回	課題分析	・標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第 6 回	シェイピング	・新しい行動レパトリーを教えるシェイピングの技法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第 7 回	ABC 分析#1	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。
第 8 回	ABC 分析#2	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第 9 回	AB 分析#1	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。

第 10 回 AB 分析#2

・情動の条件づけや知覚学習について学びます。
・じぶん実験で介入の効果を目視化し、検証します。

第 11 回 ABC 分析#3

・ABC 分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。
・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。

第 12 回 観察法

・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。

第 13 回 行動分析学の実験計画

・じぶん実験の結果を発表します。

第 14 回 まとめ

・授業で学んだ行動分析学の考え方を使得って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、web クイズに取り組んで予習してきます。

最終回までに、行動分析学を用いた「じぶん実験」の演習に取り組み、レポートを提出します。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○『パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学—第 2 版』島宗理（著）2022 年 米田出版
*教科書は第 2 版を使います。ご注意ください。

【参考書】

- 『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗理（著）2014 年 ちくま書房
- 『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗理（著）2010 年 光文社新書
- 『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
- 『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】

○課題の遂行度（60 %）およびテストの得点（40%）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「じぶん実験」の演習を復活させました。それぞれ色々なテーマに楽しみながら取り組めたようで嬉しかったです。ABC 分析をもっと学びたかったという声もいただきましたので、来年度は演習を少し増やします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Google クラスへのアクセスや課題の作成、提出などに PC やスマホ/タブレットを多用します。

【その他の重要事項】

- 本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) measure target behaviors, and 4) visualize data.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG

人工知能

市瀬 龍太郎

授業コード：A3674 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です。この授業では、人間の知能を機械で実現する方法を通して、人間の知能を考えていきます。

【到達目標】

人工知能を通して、人間や機械の知能の仕組み、考え方についての説明ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人工知能の仕組みを紹介することによって、人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点、相違点についての理解を深め、知能について考えていきます。授業は、主に講義形式で行います。また、適宜、ビデオなどの視聴覚教材も使用します。授業の最後に小テストを行い、次の授業時に、その回答からいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは？	人工知能の概要
第 2 回	人工知能の研究分野	人工知能研究全体像の概観
第 3 回	知的エージェント	人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論
第 4 回	認知アーキテクチャ	知的動作を実現するための内部構造を解説
第 5 回	問題解決・探索	問題解決を行う方法を解説
第 6 回	ゲーム	知能の一つとしてゲームを取り上げ、機械の知能の実現方法を解説
第 7 回	中間まとめ	人工知能の授業についての中間まとめ
第 8 回	推論	論理を使った思考方法について解説
第 9 回	知識の表現	知識の表現方法について解説
第 10 回	機械学習	機械が学習する手法について解説
第 11 回	データマイニング	データからの知識発見手法について解説
第 12 回	自然言語処理	言語をどのように機械が理解するかについて解説
第 13 回	人工知能と社会	人工知能技術の応用と社会的影響について解説
第 14 回	まとめ	人工知能の授業についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の内容に応じて、文献調査、復習のためのレポート作成などの課題を行う。本授業の学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

人工知能 改訂 2 版、本位田監修、松本、宮原、永井、市瀬著、オーム社、2016
その他、授業の内容に則して、適宜、参考文献を紹介しします。

【参考書】

エージェントアプローチ人工知能、第 2 版、Russell ら著、古川監訳、共立出版、(2008)

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（30%）、レポート課題（30%）、期末試験またはレポート（40%）の合計により評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容・配布資料の改善、および、授業における復習の強化。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを閲覧できる環境、および、学習支援システムに投稿できる文書の作成環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of artificial intelligence. The goal of this course is for students to be able to explain the mechanisms and concepts of human and machine intelligence through artificial intelligence. Students will be required to do a literature survey or write a report according to the content of the class. Your study time will be more than four hours for a class. Evaluation will be based on the total of quizzes in class (30%), report assignments (30%), and final exam or report (40%).

PSY200BG

情報処理技法 I

[W 組]

山口 剛

授業コード：A3675 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。なお、受講生の PC 環境や希望によっては、コードエディタの操作や、プログラミングの実施、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。

（上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用方法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

< Word >

ページレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。

< Excel >

基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

< PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にまとめてられ、次回の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認、初歩的な情報リテラシーの確認
第 2 回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Word の基本操作の確認、論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど

第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。

・セメスター課題（60%）：2 回に分けて出題される。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。

注) 4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

教室の PC 環境と受講生の PC 環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるように資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

情報処理技法 I

[X組]

山口 剛

授業コード：A3676 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。なお、受講生の PC 環境や希望によっては、コードエディタの操作や、プログラミングの実施、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。

（上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、本格的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用方法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

< Word >

ページレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。

< Excel >

基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

< PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にまとめてられ、次回の授業の冒頭でフィードバックされる。

教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認、初歩的な情報リテラシーの確認
第 2 回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Word の基本操作の確認、論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど

第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。

・セメスター課題（60%）：2 回に分けて出題される。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。

注) 4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

教室の PC 環境と受講生の PC 環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるように資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

情報処理技法 II

[W 組]

山口 剛

授業コード：A3677 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば lab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。なお、受講生の PC 環境や希望によっては、コードエディタの操作や、プログラミングの実施、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。
 <実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy など）>
 適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。
 （PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）
 <統計解析ソフトウェア（JASP など）>
 研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次の授業の冒頭でフィードバックされる。
 教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	(実験) 実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第 3 回	(実験) 刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第 4 回	(実験) 実験に必要な「操作」	操作とは何か、その留意点、実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	(実験) 分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	(統計) 記述統計の出し方	統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	(統計) 相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 8 回	(統計) 平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	(統計) 偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第 10 回	(統計) 分散分析と主効果	分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	(統計) 分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	(統計) 分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	(統計) 因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式とは何か把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。
 ・セメスター課題（60%）：2 回に分けて出題される。本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。
 注）4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

教室の PC 環境と受講生の PC 環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるように資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy (or lab.js, jsPsych) which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

情報処理技法 II

[X 組]

山口 剛

授業コード：A3678 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば lab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。なお、受講生の PC 環境や希望によっては、コードエディタの操作や、プログラミングの実施、情報リテラシーなどにも触れる可能性がある。（扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。
 <実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy など）>
 適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。
 （PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）
 <統計解析ソフトウェア（JASP など）>
 研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画と対面の両方を活用して授業は展開される。受講者は該当授業前に、予習動画を通して、基本的な操作とその操作の根拠や理論的な背景を学習する。授業時間中には応用的な操作への取り組みや、基本操作の確認など、知識・技術の向上と定着が目的とした演習が行われる。各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるように準備される。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめられ、次回の授業の冒頭でフィードバックされる。教室での授業時間では、受講生は以下のように準備してください。まず、授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	(実験) 実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第 3 回	(実験) 刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第 4 回	(実験) 実験に必要な「操作」	操作とは何か、その留意点、実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	(実験) 分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	(統計) 記述統計の出し方	統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	(統計) 相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 8 回	(統計) 平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	(統計) 偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第 10 回	(統計) 分散分析と主効果	分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	(統計) 分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	(統計) 分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	(統計) 因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式は何かを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求める。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。必要な場合は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求める。どのような課題かは、各授業で伝えられる。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができる。なお、課題の提出の際に、感想も求められる。
 ・セメスター課題（60%）：2 回に分けて出題される。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題となる。提出期日の一ヶ月前までに詳細な内容が受講者に伝えられる。
 注）4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

教室の PC 環境と受講生の PC 環境が異なることが多かったため、動画を導入しました。また、授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

成果物としてファイルの提出があります。そのため、ファイルの管理が必要となります。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy (or lab.js, jsPsych) which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (60%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

発達心理学特講

渡辺 弥生

授業コード：A3680 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の発達過程のうちの幼児期から青年期に焦点を当て、子どもの社会性や道徳性の発達を中心に最新の発達心理学研究に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説する。したがって、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

【到達目標】

発達心理学研究の知識を身につけ、どのようなことを解明するためにどういった研究方法の工夫が必要かを考え、実際に自分が発達心理学の研究を行うのに必要な知識の獲得をめざす。いまだ解明されていないことも多く、問題提起しそれを研究する意欲を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式。人間の発達の奥深さを実感できるように、できるだけビデオや DVD などの視聴覚教材を用いる。ペア・ワークやグループ・ワークなどアクションラーニングを盛り込みながら、発達心理学研究のテーマやさまざまな研究アプローチがあることを理解できるようにする。受講希望者は初回時には必ず出席する。課題などのフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発達心理学への誘い 「発達」と「成長」はどう違うのか。	今後の授業の方針と評価の仕方について説明。発達心理学とは何か、歴史的な展開、遺伝か環境か、発達の意味について学ぶ。
第 2 回	発達心理学の研究方法の特徴 人の心の発達をどのようにして科学的に理解しようとするのか。	横断研究と縦断研究。観察法、実験法、面接法、質問紙法など。また検査の用い方。関連領域と仕事との関係。
第 3 回	胎児・乳児の心理学 赤ちゃんってすごいな！ 親子関係の始まり。	乳幼児期の愛着、養育態度：親になるということはどういうことなのか、親子の愛情のきずなはどのように形成されるのかを理解する。
第 4 回	幼児期を育ちゆく子ども 「自分」という意識はどのように獲得していくのか。	自己意識をどのように獲得していくのか。また幼児期の認識の発達を学ぶ。
第 5 回	幼児期に身につける力 言葉を獲得していくこと によって、気持ちも表現できるようになる。	自分の気持ちを理解できるようになること、コントロールできるようになること、自分を抑制したり、主張したり、マネジメントできるようになることを学ぶ。遊びの大切さ。
第 6 回	児童期の誕生 「学校」に行くことで変化すること、求められることは何か。	児童期における認知発達のプロセスを学ぶ。自分の視点からのみ理解していたところ方、他人の視点を予測できるようになる、と言った視点取得について学ぶ。
第 7 回	児童期の対人関係の広がり：自己理解が進み、他者の気持ちを想像できるようになると、どんな世界が広がるのか。	友達関係を築き、維持するためには、社会性や道徳性などが必要になるが、どのように発達するかを学ぶ。生じるトラブルや問題についても考える。
第 8 回	中学生・高校生の心理学。 大人でもなく、「もう、子どもじゃない！」という気持ちが生じるこの時期の変化とは。	自己嫌悪感や嫉妬、など発達するからこそみえる思春期の特徴を学ぶ。
第 9 回	中学生・高校生の心理 中 1 ギャップって何？ 自尊心はどうすれば高まるのか。	思春期の思いやりや規範意識の発達について学ぶ。いじめはなぜ起きるのか、どうすれば予防できるかについても学ぶ。
第 10 回	大学生・有職青年の心は。 進路と仕事についてどのように考えていくのか。	就職すること、人生について考えるようになるが、個性化と社会化について葛藤するプロセスを学ぶ。ポジティブに生きる力について学ぶ。

第 11 回	成人の心理学 中年期以降、人生をどのように俯瞰し、生きるようになるのか。	年齢を重ねるからこそ、見出せる能力や幸福感について考える。時間軸、対人関係、社会や文化との関連について学ぶ。
第 12 回	時間的展望の発達 時間の概念を獲得し、過去を振り返り、現在を生き、未来を予測することができるとは、何に影響を及ぼすか。	昨日も明日もわからなかった赤ちゃんが、30年ローンなどを考えるようになることが、生きることにどのような影響を及ぼすか。
第 13 回	対人関係が広がること 多くの人を助ける人、自分だけではない、多くの人のことを考えるようになることは、生き方にもどのような影響を及ぼすか。	人を助ける人もあれば傷つける人もいる。この違いは何かを考えてみる。対人関係の広がりもたらすことについて考える。
第 14 回	総括の時間。人が自身を客観的に俯瞰し、悩む意味は何か。	発達心理学が生きることに役立つだけでなく、社会にどのように役立つか仕事を通して考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ミニテストを実施し、各授業のポイントを押さえているかを確認する。試験や課題については、授業時に説明する。予習復習に各2時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】

『発達心理学 シリーズ 心理学と仕事』二宮克己・渡辺弥生編著 北大路書房

【参考書】

『子どもの10歳の壁とは何か？』渡辺弥生著（光文社新書）2020

『感情の正体—発達心理学で気持ちをマネジメントする』（ちくま新書）2020

『よくわかる発達心理学』渡辺弥生著（ナツメ社）2021

【成績評価の方法と基準】

授業への出席は単位修得の前提条件であり、成績評価は、アクティブな参加（ミニ課題で正答を考えること）と、課題への能動的な取り組みとする。具体的には、毎回のミニクイズ（70%）と課題2つ（30%）の両方を評価する。ただしミニクイズは6回以上かつ課題2つを最低提出しないと成績の評価対象にならない。クイズは正答かどうか評価する。授業に出席することによってクイズや課題の得点が高くなるような内容を考える。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムからの質問や感想などから、テキストを踏まえた授業と、それを応用するミニクイズや課題などは楽しいとあったので、継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムや Google Classroom などの活用

新型コロナウイルスの感染状況によって、授業形態が変更しうる。

シラバスの授業の内容の順番が変更することもありうる。

【Outline (in English)】

The aims of this course are to understand a developmental perspective including the background, challenges, and methodology of related research, focusing on infancy, childhood, and adolescence, and to understand the diversity and variability of human development.

By the end of the course, students will be expected to acquire knowledge of developmental psychology research, think about what kind of research methods need to be devised to elucidate what issues, and aim to acquire the knowledge necessary to actually conduct their own developmental psychology research.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%) will be evaluated. The mini-quizzes will be graded on both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%). The quizzes will be graded on correct answers.

PSY200BG

学習心理学特講

藤田 哲也

授業コード：A3682 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習の中でも中核をなす「記憶」について学ぶことを通じて、自分自身を客観的に見つめ直すことがこの授業の目的です。

【到達目標】

授業を通じて、以下の要素について理解を深め、自分自身の日常生活との関連をふまえて説明できるようになることが到達目標です。

1. 人間の記憶は、その種類や特徴によって多面的に捉えることが可能であること。
2. それぞれの記憶が、自分自身を含めた人間の認知活動において重要な役割を果たしていること。
3. そのような記憶を研究するためには、適切な実験法を用いることが有効であること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

「人間の記憶」についての心理学研究の歴史的流れをふまえながら、記憶の多様性について、具体的な実験データに基づいて説明します。人間の記憶には様々な特徴があり、果たしている機能の違いによって分類され、研究されているということを理解します。そのために、ほぼ毎回の授業で、簡単な記憶実験のデモンストレーションを行います。積極的に参加することで、それぞれのトピックおよび実験法についての理解を深めてください。実験のデモは行いますが、基本的には講義形式の授業です。授業内では理解深化のために学生同士のペアワークを行います。また授業終了時には振り返りを行った上で感想を記入し、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第2回	短期記憶と作動記憶	両者の重要な違い
第3回	意味記憶	意味記憶ネットワーク
第4回	エピソード記憶	最も一般的な実験とは
第5回	目撃証言	記憶の歪み
第6回	偽りの記憶	記憶は簡単に作れる
第7回	展望的記憶	未来の行為も記憶
第8回	潜在記憶	無意識的な記憶
第9回	自動的 vs. 意図的記憶	潜在記憶の応用
第10回	メタ記憶	自分の記憶を把握する
第11回	自伝的記憶	記憶こそが人生の要
第12回	レポート回収と解説	レポート自己評価
第13回	脳と記憶	実際の事例による理解
第14回	レポート返却と総括	到達度の自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習は、基本的には準備学習を兼ねた実験に取り組むのが1時間程度と、以前の授業内容との関連を考えながら復習をすることに3時間程度取り組んでもらいます。各回の授業後には、レポートに備えて、授業内容を自分自身の日常生活・認知活動と関連づけて考えておきましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也（編）(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…授業に出席し、実験に参加するだけでなく、「自分にとっての記憶」について考えを深めた結果を、毎回の授業終了時に学習支援システムの掲示板に書き込んでください。

期末レポート（60%）…授業内容について基本事項を理解しているかどうか、その内容を自分自身の問題意識に適切に結びつけているかどうか、そして適切な先行研究を参照することで、授業で学んだ内容を、自分でさらに発展させることができているかどうかを主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2022年度の授業改善アンケートから：正規の受講生全員が回答してくれ、「履修してよかったか」で10名が5、1名が4をつけてくれましたが、1名が1（よくなかった）でした。減多にない評価ですが、自由記述等を確認してもその理由が書かれていなかったため、何とも改善のしようがないのが残念でした。ただし、ほとんどの回答者は「これでよし」といってくれているため、次年度以降も同じ方針で授業を行うつもりです。授業外学習時間が短いのが気になります（ほとんど行っていないのが6名）が自主的な復習を求めることには限界がありそうなので、より取り組む意義を感じてもらえる課題を考えてみます。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。授業の前に行う実験自体が授業内容を理解するための教材となっていますので、毎回、積極的に事前の課題に取り組むことを求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students objectively reconsider themselves through learning about "memory" which is the core of learning.

【Learning Objectives】

The goal is to deepen the understanding of the following elements through the class and to be able to explain them based on their relationship with their own daily life.

1. Human memory can be grasped from multiple perspectives depending on its type and characteristics.
2. Each memory plays an important role in human cognitive activities, including ourselves.
3. It is effective to use appropriate experimental methods to study such memories.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students spend about an hour on an experiment that doubles as preparatory learning. After each class meeting, students are expected to spend about 3 hours understanding the content of the course.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG

発達臨床心理学 I

桜井 美加

授業コード：A3683 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ひとの発達過程においては、様々な課題が想定される。それらをひとつはどのように向き合い、問題解決していくか、発達臨床心理学の観点から学ぶ。

【到達目標】

発達プロセスにおける課題と解決方法について、発達臨床心理学の理論から理解することができる。
 発達臨床心理学の知識を習得することで、自己他者理解を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で知識習得し、授業内のグループディスカッションや発表で応用力を体得する。授業の予習、復習で主体的に取り組む態度を養う。また、課題等に対するフィードバック方法は、オンラインのみの場合には G メールで、対面が含まれる場合には授業前後に個別に対応するので、遠慮せずに質問や相談をしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学の歴史・概念	臨床心理学とは？ 歴史や定義について学ぶ。
第 2 回	心理アセスメント	発達理論におけるアセスメントについて学ぶ。
第 3 回	心理検査	心理検査の種類や臨床場面の適用について学ぶ。
第 4 回	心理カウンセリング・心理療法	基礎的なカウンセリングや心理療法について学ぶ。
第 5 回	子どもを対象とした心理療法	子どもを対象とした心理療法について学ぶ。
第 6 回	日本が発祥の心理療法	森田療法、内観法について学ぶ。
第 7 回	家族療法・集団心理療法	家族療法、集団心理療法について学ぶ。
第 8 回	臨床心理学をとりまく概念	臨床心理学をとりまく概念について学ぶ。
第 9 回	子どもをとりまく問題	子どもをとりまく問題、不登校、発達障害、児童虐待について学ぶ。
第 10 回	思春期・青年期をとりまく問題	摂食障害や自傷行為について学ぶ。
第 11 回	成人期をとりまく問題	不安障害、気分障害について学ぶ。
第 12 回	高齢期をとりまく問題	高齢者の心理的課題と援助方法について学ぶ。
第 13 回	臨床心理学の倫理の問題	臨床心理学に関連する法律や倫理の問題について学ぶ。
第 14 回	まとめ テスト	これまで学んできた発達臨床心理学を講義ノートや教科書のキーワードを中心に学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、教科書を読んでおく。復習としては、学んだキーワードに関連する論文を 1 本読んだり、質問をメモしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

横田正夫編 津川律子・篠竹利和・山口義枝・菊島勝也・北村世都著 2016
 ポテンシャル臨床心理学 サイエンス社

【参考書】

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

小テストまたはアクションペーパー 1 回 5 点満点 ×13 回 = 65 点満点
 課題レポート 1 回 35 点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業が可能になるように準備していきたいと思います。

【Outline (in English)】

There are many obstacles to overcome in developmental process for human being. The aim for this course is to learn psychological approaches how people can solve problems.

Students are required to read text books to prepare for classes. Students are required to read articles and/or books regarding keywords that students learned in classes. In addition, students are required to take notes whatever they need to clarify. Each two hours required to complete those tasks before and after classes.

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 65%, Reports 35%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PSY200BG

発達臨床心理学 II

桜井 美加

授業コード：A3684 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。また、各理論をベースとした心理療法について学ぶ。

【到達目標】

生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章で適切に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態はオンデマンド型オンライン授業である。指定されている教科書を購入し、内容についてはスライドを随時示す。履修生は、知識を習得しつつ、リアクションペーパーや課題レポート作成により、各テーマについての理解を深める。また課題などのフィードバック方法は、オンラインのみの場合は G メールで、対面が含まれる場合は授業前後で、遠慮なく質問や相談に来てほしい。対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 心理療法の意義と学び	教科書第 1 部心理療法の定義、効果、構造について、また臨床心理学における、援助とはなにかについても併せて学ぶ。
第 2 回	クライアント中心療法	教科書第 2 部 1 章クライアント中心療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ
第 3 回	分析心理学	教科書第 3 章分析心理学の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 4 回	アドラー心理学	教科書第 4 章アドラーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 5 回	行動療法	教科書第 5 章行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 6 回	認知行動療法	教科書第 6 章認知行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 7 回	ゲシュタルト療法	教科書第 9 章ゲシュタルトの理論と技法、効用と限界について学ぶ
第 8 回	ブリーフセラピー	教科書第 15 章ブリーフセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 9 回	ナラティブセラピー	教科書第 16 章ナラティブセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 10 回	家族療法	教科書第 17 章家族療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 11 回	遊戯療法	教科書第 18 章遊戯療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 12 回	芸術療法	教科書第 19 章芸術療法について学ぶ。
第 13 回	エンカウンター・グループ	教科書第 21 章エンカウンター・グループの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 14 回	総まとめ	発達臨床心理学について振り返り、重要なポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。

復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を 1 本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

【参考書】

渡辺弥生・榎本淳子編 2012 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 1 回 5 点満点 × 13 回 = 65 点満点 + 期末レポート 1 回 = 35 点満点で評価する。こつこつとすべての回にオンラインでアクセスし、リアクションペーパーなどを提出することで総合評価は高まるので、履修生はそれを意識し授業に臨んでほしい。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を早めに 2 冊指示するので、授業開始と同時に準備しておく、スムーズに履修できます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレットほか、オンライン授業に必要とされる機器。

【Outline (in English)】

(Course outline) Goal to achieve is to understand psychological issues from childhood through adulthood including midlife crisis and aging. There are many theoretical backgrounds to utilize counseling skills to solve problems. (Learning Objectives) Participants should be able to enhance skills to solve problems such as bullying. They are able to learn acknowledgements, assessments and counseling skills to address those issues. (Learning activities outside of classroom) They are required to read the textbooks and write down questions, so that students are able to ask clarify problems. (Grading Criteria /Policy) Students need to take Minute Papers and final test to earn 100%.

PSY200BG

精神保健学 I

高橋 敏治

授業コード：A3685 | 曜日・時限：火 6/Tue.6
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】

メンタルヘルスの基礎、重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律、実例を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また、どのような種類の異常な状態があるのかを、なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。適宜、視聴覚教材などを用います。できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説します。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験、課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	精神保健の基礎知識	ICD-10 と DSM-IV など診断基準、心理の正常異常
第 3 回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題（幼児、青年期、成人、老人）
第 4 回	精神保健主要症候学 1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第 5 回	精神保健主要症候学 2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第 6 回	精神保健主要症候学 3	意識のレベルの問題の種類（せん妄など）
第 7 回	精神保健主要症候学 4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第 8 回	自殺	自殺の種類、日本の現状や問題点、予防法
第 9 回	ターミナルケア	がん患者の心理、そのケアの方法
第 10 回	法律と精神保健	精神保健福祉法、触法精神障害の歴史や問題点
第 11 回	精神保健治療学総論 1	薬物療法の概観（種類、副作用など）
第 12 回	精神保健治療学総論 2	非薬物療法の概観（心理療法、リハビリテーション技法など）
第 13 回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第 14 回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

第 1 回	精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
第 2 回	ICD と DSM による診断課題
第 3 回	達成度の確認（診断基準）
第 4 回	達成度の確認（ライフサイクル精神保健）
第 5 回	達成度の確認（幻覚妄想）
第 6 回	達成度の確認（気分）
第 7 回	達成度の確認（せん妄など）
第 8 回	達成度の確認（自殺）
第 9 回	達成度の確認（ターミナルケア）
第 10 回	達成度の確認（精神保健福祉法）
第 11 回	達成度の確認（薬物療法の種類、副作用）
第 12 回	達成度の確認（心理療法など）
第 13 回	達成度の確認（リハビリテーション技法）
第 14 回	達成度の確認（春学期期全般）

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

尾崎 紀夫 (2021). 標準精神医学 (第 7 版) 医学書院

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点 (30%)、数回の課題レポート (20%)、期末試験 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年は開講時間を 3 限から 6 限に移したことで、受講者が 23 名に減りました。受講者のうち 5 名から回答を頂きました。自由記述では、「時々マイクをせずに授業されていることがあり、聞き取りづらく困りました。」などがあり、この点は改善します。「ただ、授業資料がわかりやすかったの、おそろくついていくことはできたのかなと思います。」「専門的な内容にもかかわらず、自分ごととして聞けるように内容が組まれていて、受講していて面白かったです。」などの意見を頂きました。今後も、次回の授業の予習になるような課題や多種類のメディアの活用などの工夫を継続して行きたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.

The goals of this course are to understand the importance of mental health and to be able to explain examples related to mental disorders.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG

精神保健学Ⅱ

高橋 敏治

授業コード：A3686 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いろいろな種類の精神障害を、他の障害と比べながら、症状の特徴、治療法を学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】

メンタルヘルスの各論を通して、人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が、どのような特徴を持ち、どのように診断を受けるのかを理解しながら、精神保健の実態を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。適宜、視聴覚教材を用い、最新の知見を紹介します。春学期と同じく、できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したいと思います。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験、課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	症状性を含む器質性精神障害 (F0-1)	脳の感染症、外傷、身体障害時の精神症状
第 3 回	老人性器質性障害 (F0-2)	アルツハイマー型、脳血管性の痴呆
第 4 回	薬物使用による精神および行動の障害 (F1-1)	大麻、覚せい剤、麻薬、コーヒー、ニコチンなど
第 5 回	アルコールによる精神および行動の障害 (F1-2)	アルコール依存やその周辺の障害、家族問題
第 6 回	統合失調症とその関連障害 (F2-1)	統合失調症の歴史、原因や診断の基準
第 7 回	統合失調症とその関連障害 (F2-2)	統合失調症の症状や主な病型、予後、問題点
第 8 回	統合失調症とその関連障害 (F2-3)	統合失調症の治療法（薬物療法、リハビリテーション）
第 9 回	気分障害とその関連障害 (F3-1)	気分障害の症状（そうとうつ）、病型、原因
第 10 回	気分障害とその関連障害 (F3-2)	気分障害の治療（薬物療法、認知行動療法）
第 11 回	神経症障害、ストレス関連障害 (F4)	ストレスに関連した病態の種類、原因、治療法
第 12 回	摂食障害と睡眠障害 (F5)	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類、原因
第 13 回	人格の障害 (F6)	人格障害の歴史、種類、問題点
第 14 回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 精神保健学に関する基礎知識レポート作成
- 第 2 回 達成度の確認（摂食障害）
- 第 3 回 達成度の確認（器質性精神障害）
- 第 4 回 達成度の確認（老人性痴呆）
- 第 5 回 達成度の確認（物質常用障害）
- 第 6 回 達成度の確認（アルコール精神障害）
- 第 7 回 達成度の確認（統合失調症 1）
- 第 8 回 達成度の確認（統合失調症 2）
- 第 9 回 達成度試験の勉強（統合失調症 3）
- 第 10 回 達成度の確認（気分障害 1）
- 第 11 回 達成度の確認（気分障害 2）
- 第 12 回 達成度の確認（ストレス関連障害）
- 第 13 回 達成度の確認（摂食障害と睡眠障害）
- 第 14 回 達成度の確認（人格障害および全体のまとめ）

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

尾崎 紀夫 (2021). 標準精神医学 (第 7 版) 医学書院

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点 (30 %、数回の課題レポート (20 %)、期末試験 (50 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

15 名の受講者のうち 2 名から回答を頂きました。授業外の学習時間は 72 % の人が 1 時間から 3 時間実施していたようでした。この授業を履修してよかったかについては、ほとんどの人が大変良かったと回答してくれていました。自由コメントでは、「実際の体験談は、大変勉強になりました。」「実用的な知識を学ぶことが出来た。」などの一方で、「遅い時間すぎる」(6 限に実施)と開講時間の問題の意見も出されました。時限については、検討してみます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業中や学習支援を用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。

担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn characteristics of symptoms and treatment.

The goals of this course is to be able to explain how to understand the mystery of human heart through various pathology of mental disorders. It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG

社会心理学特講

島宗 理

授業コード：A3687 | 曜日・時限：土 3/Sat.3, 土 4/Sat.4, 土 5/Sat.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考え方を持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。

本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】

様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主体的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は変則的な隔週のオムニバス形式の授業として開講します。2～3回の授業時限を1単元とし、単元ごとに1つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。

レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

第01回（2023/9/30：対面）持続可能な社会と心理学：講義（島宗）3, 4, 5時限

第02回（2023/10/14：対面）現代社会における家族と心理学：講義（高橋）3, 4, 5時限

第03回（2023/10/28：オンライン）異文化・言語と心理学：講義（田嶋）3, 4, 5時限

第04回（2023/11/18：対面）対人環境の心理学：講義（竹島）3, 4時限

第05回（2023/12/09：オンライン）危機予防の心理学：講義（渡辺）3, 4, 5時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第2回	持続可能な社会と心理学(1)	資源や環境問題について、持続可能な社会を実現するための行動分析学からのアプローチについて解説する。
第3回	持続可能な社会と心理学(2)	持続可能な社会を実現するための方法論についてチーム内で議論し、各自がレポートのアウトラインを作成する。
第4回	現代社会における家族と心理学(1)	戦後の家族規範の変化、夫婦制家族・核家族化への変化、父系から母系家族への変化など、日本の家族の歴史的変遷について考える。
第5回	現代社会における家族と心理学(2)	家族の変化に伴い精神保健的な家族問題がいろいろと顕在化している。具体的には、アダルトチルドレンの問題、EE (Emotional Expression) 研究、家族学習会（家族ネット）、痴呆ケアの家族の問題、虐待と家族など危機に瀕した家族の問題を取り上げ、チームで発表議論する。
第6回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。
第7回	異文化・言語と心理学(1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が重要なのかを考える。
第8回	異文化・言語と心理学(2)	共有された世界を構築するために、どのような活動が必要かを体験を通して考える。

第9回 テーマ別調べ学習とレポート作成

ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。

第10回 対人環境の心理学(1)

「自分の周囲に他者がいる」という対人環境が個人に与える様々な影響について、影響の受けやすさに関連する個人特性も含めて解説する。

第11回 対人環境の心理学(2)

自分の個人特性を理解し、対人環境からの影響の受けやすさを理解した上で、そのような環境下でどのように行動するかを受講生同士で議論する。

第12回 危機予防の心理学(1)

いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。

第13回 危機予防の心理学(2)

心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。

第14回 テーマ別調べ学習とレポート作成

ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にも調べ学習などの時間をとってありますが、単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。各単元のレポートにかかる時間は各単元ごとの復習6時間とレポート作成6時間の計12時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

○ Chance, P., & Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. *The Behavior Analyst*, 33, 197 - 206.

○ Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., & Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. *Journal of Environmental Psychology*, 25, 273-291.

○ 山崎勝幸・戸田有一・渡辺弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房

○ Brock, S.E., & Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). *Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition*, National Association of School Psychologists.

○ 石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会

○ 井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学（第1巻）異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全5題）をそれぞれ20点満点で採点し、合計得点が満点（100点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

(2022年度は未開講でした)

【その他の重要事項】

代表として島宗のオフィスアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィスアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。

○ オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and can coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication, and cross-cultural understanding.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to discuss, in their own words, the research-based psychological solutions to today's social issues covered in this class.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to 1) read the materials distributed in class, 2) search and read relevant papers and articles, and 3) write and submit reports. 2 hours of study per class is expected.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the total score of five reports (20% x 5 = 100%).

PSY200BG

臨床心理学／心理学3（臨床心理学） 1

杉山 崇

授業コード：A3690, A2258 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理-社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経-生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実際に関わっているが、この 10 数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第 2 回	臨床心理学総論②	目的と対象
第 3 回	力動的アプローチ	精神分析とユング心理学
第 4 回	人間性と欲求	欲求とパーソナリティ
第 5 回	生物・心理・社会モデル	効果的なカウンセリングのためのアセスメント
第 6 回	関係構築と願望	カウンセリングの 3steps モデル
第 7 回	心を整える方法	認知再構成法とマインドフルネス
第 8 回	行動を整える方法	セリフモニタリングと活動記録
第 9 回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第 10 回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第 11 回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第 12 回	事例研究①	適正に悩む女性の事例
第 13 回	事例研究②	不安、強迫観念、抑うつ
第 14 回	事例研究③	うつ病からの復職支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定した専門用語について 2 時間ほど調べてくること。

復習：2 時間程度の復習レポートを書き下ろす。

【テキスト（教科書）】

『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版

臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版

心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

【成績評価の方法と基準】

平常点（復習課題+授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見に基づきオンライン参加のサポート、プロジェクトの適正な起動手など、学習環境の円滑な整備を試みたい。今年度もみなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合があります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline (in English)】

Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

Goal : Ability to express self-understanding, understanding of others, and understanding of modern society based on clinical psychology in one's own words.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) : Preparation: Look up the specified specialized terminology for about 2 hours.

Review: Write a review report for about 2 hours.

Grading Criteria /Policy : Normal score (review assignment + class attitude) 30% and report (achieving target) 70%

PSY200BG

犯罪心理学／心理学3（犯罪心理学）2

越智 啓太

授業コード：A3691, A2259 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪者の行動を科学的に分析する

犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBI の捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

【到達目標】

- (1) 犯罪についての科学的研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
- (2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
- (3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回 Hoppii でリアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時、あるいは掲示板内で追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第 2 回	連続殺人 (1)	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第 3 回	連続殺人 (2)	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第 4 回	連続殺人 (3)	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第 5 回	大量殺人 (1)	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第 6 回	大量殺人 (2)	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第 7 回	テロリズム (1)	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第 8 回	テロリズム (2)	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第 9 回	テロリズム (3)	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第 10 回	子どもに対する性犯罪 (1)	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第 11 回	子どもに対する性犯罪 (2)	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第 12 回	子どもに対する性犯罪 (3)	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第 13 回	非行	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割、非行の原因に関する諸理論
第 14 回	司法心理学	離婚、養育権、ハーグ条約、子どもの面会交流、子どもの奪い合い裁判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ、テキスト（プログレスのほう）の該当する章の予習問題をやっておく。復習としては、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておく。授業とは別に課題の動画を視聴する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房

越智啓太 progress and application 司法犯罪心理学 サイエンス社

【参考書】

法と心理学会（編） 入門司法犯罪心理学 有斐閣

越智啓太ほか（編著） 法と心理学の事典 朝倉書店

越智啓太 ワードマップ 犯罪捜査の心理学 新曜社

越智啓太 桐生正幸（編著） テキストブック司法犯罪心理学 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

レポート（80%）+授業コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、要望に応え、本年は新しい事例をくわえました。また、動画、配付コンテンツなどを充実させ、これを hoppel より利用できるようにしてあります。さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用する。印刷資料は hoppel 等で配布する。

【その他の重要事項】

- (1) 本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるので、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
- (2) 例年、5%～10%が D 評価になります。他の教員に比べて S,A+はつきにくいので楽勝科目ではありません。
- (3) 講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどと関連付けながら講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of criminal and forensic psychology. In particular, I will explain issues criminal behavior, For example, serial murderer, mass murderer, terrorist, domestic violence offender.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of forensic psychology and basic research related to the concept.
- (2) To be able to explain these concepts in connection with real crimes.
- (3) To be able to discuss crime scientifically

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY100BG

心理統計法 I

三浦 大志

授業コード：A3701 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

【到達目標】

この授業の目標は
 ・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる
 ・これらの値を算出できる
 ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・心理統計とは	授業内容・方針についてのガイダンス、心理統計について
第 2 回	記述統計とは・尺度水準	記述統計・尺度水準
第 3 回	分布と代表値	度数分布、代表値
第 4 回	分布と散布度	分散、標準偏差
第 5 回	標準化	標準得点
第 6 回	2 つの変数の関係 1	相関と散布図
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	2 つの変数の関係 2	共分散・相関係数
第 9 回	2 つの変数の関係 3	相関係数とその性質
第 10 回	2 つの変数の関係 4	連関
第 11 回	推測統計とは	母集団と標本
第 12 回	標本から母集団を推測する 1	正規分布
第 13 回	標本から母集団を推測する 2	点推定と区間推定
第 14 回	ここまでの事項の確認	期末テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法<第 3 版>」サイエンス社
 吉田寿夫「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
 2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
 以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

後半になると難易度が増すというコメントが一定数ありました。高校の授業で統計を既習の学生にとっては前半部分は易しいかもしれませんが、それで油断して期末テストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学習に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with descriptive statistics.

At the end of the course, students are expected to understand the concepts of descriptive statistics such as level of measurement, representative value, dispersion, and correlation coefficient and be able to calculate the values mentioned above. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY100BG

心理統計法Ⅱ

三浦 大志

授業コード：A3702 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

【到達目標】

この授業の目標は

- ・ t 検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
- ・ これらの検定を実行できる

ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法Ⅰを受講したことを想定して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容、方針についてのガイダンス
第 2 回	統計的仮説検定 1	検定とは・二項検定
第 3 回	統計的仮説検定 2	仮説、有意水準、2 種類の誤り
第 4 回	統計的仮説検定 3	適切な検定の選択
第 5 回	t 検定 1	独立した標本の検定
第 6 回	t 検定 2	対応のある標本の検定
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	分散分析 1	対応のない 1 要因
第 9 回	分散分析 2	対応のある 1 要因
第 10 回	分散分析 3	交互作用
第 11 回	分散分析 4	2 要因
第 12 回	その他の検定 1	相関係数の検定・回帰分析
第 13 回	その他の検定 2	カイ二乗検定
第 14 回	ここまでの事項の確認	期末テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法<第 3 版>」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房
森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

「心理学における統計の必要性が分かった」「数字の見方が変わった」といったコメントをいくつかいただきました。推測統計は非常に利用頻度の高い重要なものなので、知的好奇心がかき立てられ、かつ最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with inferential statistics.

At the end of the course, students are expected to understand statistical hypothesis tests such as the t-test, analysis of variance, and chi-square test and be able to perform such tests. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY200BG

心理統計法実習 I

[W 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3703 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】

到達目標は、以下の4点です。

- (1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
 - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量、グラフの作成
第 2 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 3 回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1 変数）
第 4 回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2 変数）
第 5 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 6 回	統計的仮説検定	統計的仮説と判定、片側検定と両側検定
第 7 回	対応のない t 検定 1	対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定
第 8 回	対応のない t 検定 2	結果の整理
第 9 回	対応のある t 検定 1	対応のある t 検定の考え方と手順
第 10 回	対応のある t 検定 2	結果の整理
第 11 回	一元配置の分散分析 1	対応のない分散分析の考え方と手順
第 12 回	一元配置の分散分析 2	対応のある分散分析の考え方と手順
第 13 回	単回帰分析	散布図の作成、相関係数の算出
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（30%）、授業への取り組み・小テスト（30%）で評価します。

出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
- ・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing.

During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY200BG

心理統計法実習 I

[X 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3704 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】

到達目標は、以下の4点です。

- (1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①~③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
 - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量、グラフの作成
第 2 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 3 回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1 変数）
第 4 回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2 変数）
第 5 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 6 回	統計的仮説検定	統計的仮説と判定、片側検定と両側検定
第 7 回	対応のない t 検定 1	対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定
第 8 回	対応のない t 検定 2	結果の整理
第 9 回	対応のある t 検定 1	対応のある t 検定の考え方と手順
第 10 回	対応のある t 検定 2	結果の整理
第 11 回	一元配置の分散分析 1	対応のない分散分析の考え方と手順
第 12 回	一元配置の分散分析 2	対応のある分散分析の考え方と手順
第 13 回	単回帰分析	散布図の作成、相関係数の算出
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（30%）、授業への取り組み・小テスト（30%）で評価します。

出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
- ・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing.

During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

[W 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3705 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
 ・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
 ・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下の4点です。

- (1) 実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出します。
 - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
 - ・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	二元配置の分散分析 1	2 要因とも対応がない場合
第 2 回	二元配置の分散分析 2	2 要因とも対応がある場合
第 3 回	二元配置の分散分析 3	1 要因に対応がなく、1 要因に対応がある場合
第 4 回	二元配置の分散分析 4	まとめと解説
第 5 回	重回帰分析 1	重回帰分析の考え方と手順
第 6 回	重回帰分析 2	変数の選択
第 7 回	重回帰分析 3	多重共線性の問題と対策
第 8 回	重回帰分析 4	結果の整理
第 9 回	因子分析 1	因子分析の考え方と手順
第 10 回	因子分析 2	因子数の決定
第 11 回	因子分析 3	軸の回転
第 12 回	因子分析 4	結果の整理
第 13 回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの考え方と手順
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
 授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房
 その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40%）、最終テスト（30%）、授業への取り組み・小テスト（30%）で評価します。

出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
 ・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・心理統計法実習Ⅰの内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習Ⅰをあらかじめ履修しておいてください。
 ・質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will

- ・ learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and
- ・ learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

[X 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3706 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
 ・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
 ・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下の4点です。

- (1) 実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出します。
 - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
 - ・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	二元配置の分散分析 1	2 要因とも対応がない場合
第 2 回	二元配置の分散分析 2	2 要因とも対応がある場合
第 3 回	二元配置の分散分析 3	1 要因に対応がなく、1 要因に対応がある場合
第 4 回	二元配置の分散分析 4	まとめと解説
第 5 回	重回帰分析 1	重回帰分析の考え方と手順
第 6 回	重回帰分析 2	変数の選択
第 7 回	重回帰分析 3	多重共線性の問題と対策
第 8 回	重回帰分析 4	結果の整理
第 9 回	因子分析 1	因子分析の考え方と手順
第 10 回	因子分析 2	因子数の決定
第 11 回	因子分析 3	軸の回転
第 12 回	因子分析 4	結果の整理
第 13 回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの考え方と手順
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は 1 時間・復習時間は 2 時間を標準とします。
 授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください。授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
 授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房
 その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 (40%)、最終テスト (30%)、授業への取り組み・小テスト (30%) で評価します。
 出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。

・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・心理統計法実習Ⅰの内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習Ⅰをあらかじめ履修しておいてください。
 ・質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will
 ・learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and
 ・learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY100BG

心理学基礎実験 I

[W 組]

島宗 理

授業コード：A3707 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」に従って作成することを学びます。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックには Google クラスと Slack を使います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。
第 2 回	知覚その 1	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 3 回	知覚その 2	知覚に関する実験のレポートを作成します。
第 4 回	記憶その 1	記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 5 回	記憶その 2	記憶に関する実験のレポートを作成します。
第 6 回	学習その 1	学習に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 7 回	学習その 2	学習に関する実験のレポートを作成します。
第 8 回	実験その 1	実験 1-3 から自分たちで再現する実験を選び、実施します。
第 9 回	実験その 2	自分たちの実験の準備をして実施します。
第 10 回	実験その 3	自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。
第 11 回	実験その 3	自分たちの実験のレポートを作成します。
第 12 回	研究発表その 1	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 13 回	研究発表その 2	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 14 回	研究発表その 3	自分たちの実験について発表し、質疑応答します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word, Excel, PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会 (2015)
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会 (2001) 二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
- 実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫 (2005) サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成 (2011) ナツメ社
- この 1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭 (2012) 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- 実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50%で成績をつけます。
- 欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
- 実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業に戻りました。話し合い、協力しながら実験をしたり、レポートを書いたことを有意義に感じた受講生が多かったです。自分たちで実験を計画し、刺激を準備して、データを収集し、分析する活動も楽しかったという感想をいただきました。来年度も受講生同士の協働で実験を楽しめるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

- この授業で必要になる PC やアプリの操作技術を以下にまとめました。参照し、履修するかどうかの判断に使ってください。 <https://onl.sc/mNTQVUW>
- W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria / Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (60%).

PSY100BG

心理学基礎実験 I

[X 組]

島宗 理

授業コード：A3708 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」に従って作成することを学びます。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックには Google クラスと Slack を使います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。
第 2 回	知覚その 1	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 3 回	知覚その 2	知覚に関する実験のレポートを作成します。
第 4 回	記憶その 1	記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 5 回	記憶その 2	記憶に関する実験のレポートを作成します。
第 6 回	学習その 1	学習に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 7 回	学習その 2	学習に関する実験のレポートを作成します。
第 8 回	実験その 1	実験 1-3 から自分たちで再現する実験を選び、実施します。
第 9 回	実験その 2	自分たちの実験の準備をして実施します。
第 10 回	実験その 3	自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。
第 11 回	実験その 4	自分たちの実験のレポートを作成します。
第 12 回	研究発表その 1	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 13 回	研究発表その 2	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 14 回	研究発表その 3	自分たちの実験について発表し、質疑応答します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word, Excel, PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会 (2015)
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会 (2001) 二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
- 実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫 (2005) サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成 (2011) ナツメ社
- この 1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭 (2012) 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- 実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50%で成績をつけます。
- 欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
- 実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業に戻りました。話し合い、協力しながら実験をしたり、レポートを書けたことを有意義に感じた受講生が多かったようです。自分たちで実験を計画し、刺激を準備して、データを収集し、分析する活動も楽しかったという感想をいただきました。来年度も受講生同士の協働で実験を楽しめるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

- この授業で必要になる PC やアプリの操作技術を以下にまとめました。参照し、履修するかどうかの判断に使ってください。<https://onl.sc/mNTQVUW>
- W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria / Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (50%).

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

[W 組]

竹島 康博

授業コード：A3709 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究方法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について見つけることも引き続き重視します。

【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の目的や結果の考察が論理的に行われる科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と同様にグループに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、グループで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容（実験）を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出は Hoppi を通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明
第 2 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 3 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(2)	実験の実施と実験データの集計、グラフの作成
第 4 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(3)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 5 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 6 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(2)	実験プログラムの作成
第 7 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(3)	実験の実施とデータの集計（前半）
第 8 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(4)	実験の実施とデータの集計（後半）
第 9 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(5)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 10 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 11 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(2)	実験プログラムの作成
第 12 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(3)	実験の実施とデータの集計（前半）
第 13 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(4)	実験の実施とデータの集計（後半）
第 14 回	まとめ	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様に Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本心理学会 『2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき』 2015
 心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 2001 二瓶社
 北村英哉・坂本正浩（編）『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』 2004 ナカニシヤ出版
 心理学実験指導研究会 『実験とテスト：心理学の基礎（実習編）』 1985 培風館
 杉本敏夫 『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』 2005 サイエンス社
 石井一成 『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』 2011 ナツメ社
 石黒圭 『この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』 2012 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

実習への作成とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の 60%、作成したレポートへの評価を 40% とします。ただし、レポートの未提出が 1 回でもある場合、欠席が 5 回以上の場合には自動的に E 評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも欠席扱いとしますので注してください。また、レポートにおける文献引用に基づかないコピー、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、受講生同士での共有はどのような事情であっても該当者全員を E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から授業担当者が変わった科目で、内容は数年かけて検討していく予定です。昨年度は、人によっては授業中の実習内容が早く終わってしまったり手持無沙汰の時間が出来てしまった一方で、レポートの執筆は時間が取れず苦労した受講生が出てしまったのが反省です。今年度は、レポートのひな型を早い段階で配布して、授業中に時間が出来た時に自主的に取り組めるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

クラス授業で、W クラスが受講対象です（W・X クラスで内容は同じです）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (60%) and reports (40%).

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

[X組]

竹島 康博

授業コード：A3710 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究方法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について見つけることも引き続き重視します。

【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の目的や結果の考察が論理的に行われる科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と同様にグループに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、グループで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容（実験）を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出は Hoppi を通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明
第 2 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 3 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(2)	実験の実施と実験データの集計、グラフの作成
第 4 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(3)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 5 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 6 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(2)	実験プログラムの作成
第 7 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(3)	実験の実施とデータの集計（前半）
第 8 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(4)	実験の実施とデータの集計（後半）
第 9 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(5)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 10 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 11 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(2)	実験プログラムの作成
第 12 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(3)	実験の実施とデータの集計（前半）
第 13 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(4)	実験の実施とデータの集計（後半）
第 14 回	まとめ	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様に Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本心理学会 『2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき』 2015
心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 2001 二瓶社
北村英哉・坂本正浩（編）『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』 2004 ナカニシヤ出版
心理学実験指導研究会 『実験とテスト：心理学の基礎（実習編）』 1985 培風館
杉本敏夫 『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』 2005 サイエンス社
石井一成 『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』 2011 ナツメ社
石黒圭 『この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』 2012 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

実習への作成とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の 60%、作成したレポートへの評価を 40%とします。ただし、レポートの未提出が 1 回でもある場合、欠席が 5 回以上の場合自動的に E 評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病氣、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも欠席扱いとしますので注してください。また、レポートにおける文献引用に基づかないコピー、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、受講生同士での共有はどのような事情であっても該当者全員を E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から授業担当者が変わった科目で、内容は数年かけて検討していく予定です。昨年度は、人によっては授業中の実習内容が早く終わってしまったり手持無沙汰の時間が出来てしまった一方で、レポートの執筆は時間が取れず苦労した受講生が出てしまったのが反省です。今年度は、レポートのひな型を早い段階で配布して、授業中に時間が出来た時に自主的に取り組めるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

クラス授業で、X クラスが受講対象です（W・X クラスで内容は同じです）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (60%) and reports (40%).

PSY200BG

演習Ⅱ（1）

押尾 恵吾

授業コード：A3711 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を探ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25%、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 7 名のうち「この授業を履修してよかった」で 5 が 6 名、4 が 1 名となりました。「理解度」は 5 が多く 5 名、4 は 2 名でしたが、3 以下の人はいなかったため、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。例年に比べると授業外学修時間も確保できていた様子です（最頻値は 1-2 時間で 3 名）。授業の進め方についての強い改善要求はありませんでした。現状の授業の進め方において、実験計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、演習Ⅱとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を 3 年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは oshidejikken[at]yahoo.co.jp です [at] を @マークに置き換えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（2）

藤巻 峻

授業コード：A3712 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	計画発表	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 1	実験の実施
第 9 回	本発表準備 2	データ分析
第 10 回	本発表準備 3	考察
第 11 回	本発表準備 4	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表準備 5	実験の発表
第 13 回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 11 名のうち「この授業を履修してよかった」で 5 が 4 名、4 が 3 名、3 が 4 名となりました。「理解度」は 4 が多く 7 名、5 は 1 名、3 が 3 名であり、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。授業外学修時間も半数以上が 1 時間以上確保できていた様子です。授業の進め方についての強い改善要求はなく「説明が分かりやすく、実験を行う上で何ができていないか、どう問題なのか理解できた。」という意見をもらいました。その他「教材資料の印刷の上の持参を全ての回で求める必要がないと感じた。個人の必要に応じて教材資料の形態を変化させるべき」という意見があり、タブレット端末や PC 上での閲覧も併用していくことの是非を検討します。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは fujimaki1026[at]gmail.com です（[at] を @マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ (3)

竹島 康博

授業コード：A3713 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法 (手続き) を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習 (PBL) に取り組みます。基本的に班活動 (グループワーク) によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤 (編著)「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25%、ミニ論文 20% の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ (本発表ではスライドも含む) の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートでは、履修してよかったが「5」の回答が 87.5% とおおむね満足いただけようです。また、理解度については「3」の方が 1 名いましたが、「5」が 62.5% と大半の方が授業内容を理解できたようです。授業時間外の予習や課題が多い科目ですが、しっかりサポートしますので諦めずに取り組んでいただけたらと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは [takeshimat\[at\]hosei.ac.jp](mailto:takeshimat[at]hosei.ac.jp) です [at] を @マークに置き換えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（4）

藤田 哲也

授業コード：A3714 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定

第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていくことを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるのと同時に、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25%、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含まれます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケートに回答してくれた 10 名のうち「この授業を履修してよかった」で 5 が 8 名、4 が 2 名となりました。「理解度」は 4 が多く 7 名、5 は 3 名でしたが、3 以下の人はいなかったため、内容の定着は一定水準に達していたのだと思います。例年に比べると授業外学修時間も確保できていた様子です（最頻値は 1-2 時間で 5 名）。授業の進め方についての強い改善要求はなかったのですが「授業時間は足りないのは分かるが論文を書く時間や計画を立てる時間などをもう少し増やしてほしいと思った」という意見をもらいました。現状の授業の進め方において、実験計画にあまり時間を確保できていないのは確かなのですが、演習Ⅱとしては「これで完璧」という状態を最初から目指すよりも、試行錯誤しながら自ら問題発見・解決に向かうことを重視していますので、この授業での経験を 3 年次以降の研究活動に活かしてもらえればと思います。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは [fujita009\[at\]hosei.ac.jp](mailto:fujita009[at]hosei.ac.jp) です（[at] を @マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.

2. Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.

3. Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.

4. Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.

5. Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（5）

田嶋 圭一

授業コード：A3715 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を探ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に担当した 2021 年度の授業改善アンケートの結果を基に気づきを書きます。

回答者 13 名のうち、10 名（77%）が「工夫していた」「履修してよかった」、11 名（85%）が「理解できた」と回答してくれました。授業外学習時間は個人差が大きく、「1-2 時間」「2-3 時間」「3 時間以上」におおよそ 3 等分されていました。反転授業形式が効果的だったようで、他のメンバーと意見交換がたくさん出来たこと、Zoom での班活動中のファシリテーター役になることでグループワークを円滑に進行させる練習ができたことについて肯定的なコメントをいただきました。一方で、授業外学習時間の顕著な個人差にも現れていますが、班活動内での発言量などの個人差が大きく、誰がどの程度の貢献をしたかが明確でなく不平等ではないか、といったコメントもありました。グループワークにおける各自の貢献を正確に評価するのは難しいですが、ミニ論文は各自が独立して執筆するので、それを基に個々の学生の達成度を評価することが可能です（実際に同じ班でもミニ論文の完成度が異なることがよくあります）。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは fujita009[at]hosei.ac.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY300BG

研究法 I (9)

荒井 弘和

授業コード：A3716 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(1) 心理学の問いを設定すること、(2) 心理学の研究を実施する計画を立てること。

【到達目標】

4 年生は、心理学の研究計画を立て、研究実施の実施について倫理委員会から承認されることを目標とする。3 年生は、心理学の問いを設定できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 研究論文を読んで発表したり、(2) 意見交換をしたりして、いくつかの研究のパターンを身につけることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。

課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自分の関心を洗い出す (1)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	自分の関心を洗い出す (2)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	自分の関心を洗い出す (3)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	先行研究を読み、内容をまとめる (1)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	先行研究を読み、内容をまとめる (2)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	先行研究を読み、内容をまとめる (3)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 7 回	先行研究を読み、内容をまとめる (4)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 8 回	先行研究を読み、内容をまとめる (5)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究計画を立てる (1)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究計画を立てる (2)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究計画を立てる (3)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究計画を立てる (4)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 13 回	研究計画を立てる (5)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 14 回	研究計画を完成させる	研究計画申請書を完成させ、倫理委員会に提出する。 (提出後、研究を実施する)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 文献検索、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】

2010 年度～2022 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「より少数のグループに分けるなどして、ゼミ生同士の関わりをもっと増やしてほしい」などのコメントをもらいました。教員が幹組みを定めた上で、意見交換・議論を中心に授業を展開するよう改善します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

(1) To formulate a psychological question; (2) To plan to conduct a psychological study.

(Learning Objectives)

(1) to be able to formulate psychological questions (this is a major goal for 3rd year students), and (2) to be able to formulate a research plan in psychology (this is a major goal for 4th year students).

(Learning activities outside of classroom)

Students will work on (1) literature search, (2) assignments given in class, and (3) preparation of presentation materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG

研究法 I (10)

林 容市

授業コード：A3717 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究のレビュー、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し、情報を取りまとめる（レビュー）ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て、研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究課題の設定、文献のレビュー、研究仮説の設定、研究計画書の作成、実験計画、実験・調査の遂行、統計解析、レポートの作成、プレゼンテーションなどの各方法を学び、実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、研究計画書の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ中の感覚認知/心理的情報と生理的状態の対応
- 体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
- 瘦身指向に関与する性格・意識の特徴
- 高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して議論する。
第 5 回	研究計画の立案 2	前回到続き、この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して議論する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	前回到続き、卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ）、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成、発表準備をしてきてください。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

浦上昌則、脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：50%、2) 最終的な個人研究の研究計画書の内容：20%、3) 授業への参画状況（出席・発言など）：30%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度前半は、3、4 年生混合でのグループ活動を中心としましたが、4 年生においては、卒論の研究計画の立案に向けた活動が充実しなかったように感じています。

2023 年度は、学年を超えたグループ活動の充実を踏まえつつ、各学年に必要な学習内容を明確化した上で活動を充実させていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、GPA および「演習 II 事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This class aims to develop a research study with a view to paper preparation by raising problems and solving them through reviews of previous research, experiments, surveys, and data analysis.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. search for and summarize (review) papers containing interest data.
2. understand the experimental and research methods and analysis methods described in the papers.
3. Develop a research plan and prepare a research protocol.
4. To prepare presentation materials and give presentations that are easy to understand for the audience.

【Learning activities outside of the classroom】 Students will be required to search and review the literature, prepare presentations, and write research proposals in most sessions. For both individual and group research, it is necessary to set aside time outside of class for experiments, surveys, and preparation for presentations. Therefore, this class's standard preparation and review time is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be as follows:

1. Contents of experiments, surveys, and presentations(50%)
2. Contents of final research plan for individual research(20%)
3. Participation in class such as attendance, comments(30%)

PSY300BG

研究法Ⅱ（9）

荒井 弘和

授業コード：A3718 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 心理学の研究計画を実施すること、(2) 心理学の研究論文を執筆すること。

【到達目標】

4 年生は、研究法Ⅰで立案した研究計画を実施することを目標とする。そして、実施した結果を論文化する。3 年生は、研究法Ⅰで設定した問いに基づいた研究計画を立案し、研究計画申請書の概要を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) データ分析の結果を報告したり、(2) その解釈について意見交換をしたりして、論文を執筆することができるようになることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の実施経過を報告する	実施経過を報告し、その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	データを分析する (1)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	データを分析する (2)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	データを分析する (3)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	データを分析する (4)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	データを分析する (5)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 7 回	研究論文を完成させる (1)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 8 回	研究論文を完成させる (2)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究論文を完成させる (3)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究論文を完成させる (4)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究論文を完成させる (5)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究論文を完成させる (6)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。

第 13 回 研究内容を口頭発表する (1) 研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。

第 14 回 研究内容を口頭発表する (2) 研究論文を元に発表資料を作成し、口頭発表を行う。その後、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 研究の実施（データ収集やデータの分析も含む）、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】

2010 年度～2022 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「とても自分のためになる授業でした。先生も自分如く相談に乗って一緒に考えていただいて卒論に向けて考えやすかったです」「昨年よりもグループワークや発表の時間が多く設定されたことで、ゼミに来る意義や価値を感じやすかったです。また、ゼミ合宿や発表へのフィードバックを通して 3 年生との距離も近くなり、自分の知識を伝えられる場面は嬉しかったです」などのコメントをもらいました。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

(1) To implement a research plan in psychology; (2) To write a research paper in psychology.

(Learning Objectives)

Based on the research plan developed in Research Methods I, students will (1) implement the research plan, and (2) write a paper on the results of the implementation. (2) Write a paper on the results of the research (research report for 3rd year students, graduation thesis for 4th year students).

(Learning activities outside of classroom)

Students will work on (1) conducting research (including data collection and data analysis), (2) assignments presented in class, and (3) preparing presentation materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG

研究法Ⅱ（10）

林 容市

授業コード：A3719 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を活かして、卒業論文を作成できる能力を身につけること。

【到達目標】

- ・研究テーマ・課題を設定でき、適切な研究計画を立案できる。
- ・適切な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
- ・得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
- ・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
- ・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、研究計画について発表し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表を行い、履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。
第 2 回	研究計画発表	研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第 3 回	収集データ・分析結果の発表（1）	この回の担当者が、実験や調査で収集したデータを分析して発表し、全体で論議する。
第 4 回	収集データ・分析結果の発表（2）	前回到続き、この回の担当者が、実験や調査で収集したデータを分析して発表し、全体で論議する。
第 5 回	収集データ・分析結果の発表（3）	全体までの論議を踏まえて、4 年生全員が卒業論文で使用する結果発表し、全体で論議する。
第 6 回	次年度に向けた 3 年生の構想発表	3 年生が次年度の卒業論文執筆に向けたテーマや方法について発表し、論議する。
第 7 回	論文の執筆：方法・結果	論文の「方法」と「結果」を執筆し、全体で推敲・論議する。
第 8 回	論文の執筆：考察	論文の「考察」を執筆して全体で推敲・論議する。
第 9 回	論文の執筆：全体（1）	執筆された卒業論文を、分担任してピアレビューし、意見交換を行う。
第 10 回	論文の執筆：全体（2）	前回の意見交換に基づいて修正した卒業論文を再度ゼミ生間でピアレビューする。
第 11 回	プレゼンテーション（1）	この回の担当者が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。
第 12 回	プレゼンテーション（2）	前回到続き、この回の担当者が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。
第 13 回	次年度に向けた進捗状況の確認（1）	翌年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の 3 年生が進捗状況を発表し、論議する。
第 14 回	次年度に向けた進捗状況の確認（2）	前回到続き、次年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の 3 年生が進捗状況を発表し、論議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、各回のテーマ・内容に沿って、授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。なお、各授業における準備および復習等の時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

・松井豊（2010）心理学研究法改訂新版 心理学論文の書き方 - 卒業論文や修士論文を書くために、河出書房新社
 ・酒井聡樹（2007）これからレポート・卒論を書く若者のために、共立出版

【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%、2) 発表・質疑応答の内容 20%、3) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、ほぼ全て対面での授業が実施できたが、4 年生の卒業論文の執筆に向けた計画書の作成に対しては、有益な活動ができなかったと感じている。また、卒論執筆時および発表会の準備に際して、4 年生から使用するソフトの使い方、分析の方法などについて、授業中にもっと学びたかったという意見が複数得られた。2023 年度はこの点に注力して授業を進めたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】

・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
 ・授業の運営方針や受講に際しての注意点を説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this class is to create a graduation thesis through the conduct of collecting data, analyzing, sentence writing with the aid of the knowledge, experience, and methods learned while one is still in university.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Set a research theme and problem and formulate an appropriate research plan.
2. Collect and analyze data using appropriate methods and present the results using suitable figures and tables.
3. Interpret the results obtained logically.
4. Write scholarly texts.
5. Present the content of the results obtained effectively.

【Learning activities outside of the classroom】Students are required to prepare materials and presentations according to the assignments given in class. It is also necessary to perform the necessary tasks according to the theme and content of each session. The standard time for preparation and review in each class is two hours.

【Grading Criteria/Policy】The overall evaluation will be as follows:

1. Status of the research and the content of the research paper(70%)
2. Content of the presentation and the question-and-answer session(20%)
3. Status of the questions to the presentation and the participation in the discussion(10%)

PSY200BG

心理学英語 I

常深 浩平

授業コード：A3720 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる
第 2 回	Nature and Nurture	生まれか育ちかを巡る心理学小史の英文読解例を聞き、今後の発表形式を理解する
第 3 回	Contemporary psychological perspectives	自分の関心のある心理学の領域についての小文を和訳して発表する
第 4 回	Attachment (1)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 5 回	Attachment (2)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第 6 回	Obedience to Authority (1)	ミルグラムの服従の研究の読解（なぜこのような研究を行ったかを理解する）
第 7 回	Obedience to Authority (2)	ミルグラムの服従の研究の読解（この研究の社会的影響を考察する）
第 8 回	Identity Development (1)	アイデンティティの発達に関する英文の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 9 回	Identity Development (2)	アイデンティティに関する内容に基づいて考察し、簡単な英文で表現する
第 10 回	Identity Development (3)	アイデンティティに関する内容を相互に発表し合う
第 11 回	Brain and Neuron	脳と神経細胞に関する英文の読解
第 12 回	Brain and Area	脳領域に関する英文の読解および読解内容に基づくディベート
第 13 回	A study of Infant Memory	乳児の記憶についての小文を読み、元となった論文について知る
第 14 回	学術論文を読む練習	論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英和辞典等（高校までに使っていたもの等で可）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題）60%
発表（担当箇所のレジュメ作成・発表）40%

【学生の意見等からの気づき】

リーディング課題は下読みの時間に余裕が取れるよう早めに提示する。

【その他の重要事項】

シラバス執筆時点では対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス等の感染状況が悪化した場合には授業形式を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

【Learning Objectives】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【Learning activities outside of classroom】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Short reports in each time: 60%

Japanese translation of one's part of text and in-class Presentation : 40%

PSY200BG

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。

新型コロナウイルス感染拡大状況にもよりますが、2023 年度は授業内演習を取り入れることを計画しています。授業計画に変更がある場合には、Google Classroom を使って連絡します。学習支援システムのこの授業科目のトップページで Google Classroom の登録コードなどを案内しますので確認し、登録してからこの授業を受講してください。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント）、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第 5 回	テーマパークその 2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティ
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介し、これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率など）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力報酬不均等モデル、日本の雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パプロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

- 第 13 回 グローバリゼーションと ローカリゼーション 日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
- 第 14 回 まとめと振り返り 今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
- 授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。
- 本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

- 研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
- 山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
 - リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
 - 森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
 - 鳥宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- 毎回行われるクイズ (50%) と授業内演習の得点 (50%) で成績を評価します。
- 授業を欠席したときには授業内演習を補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内演習の得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は対面授業を再開しましたが、オンデマンド型の動画や教材も配信したせいか、教室に来る受講生の数が少なかったように感じました。この授業ではビジネスとビジネスにおける心理学の基礎知識を学ぶことを目標にしているため、どちらかという用語を覚える形態の学習が多くなってしまっているのですが、来年度はもう少し「考える」活動を増やそうと考えています。

【その他の重要事項】

- 本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

PSY200BG

心理学特殊講義 I

島宗 理

授業コード：A3722 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる、刺激提示や行動測定、データの視覚的分析の方法を学びます。言語としては Python（パイソン）を用い、プログラミングの基本を学びます。

【到達目標】

Python を使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。

- ①画像や文字、音声などの刺激をディスプレイに提示する。
- ②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
- ③その他の外部入力装置を用い、より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画、音声データを測定して数量化するなど）。
- ④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。

さらに、プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や、困ったときに他の人に相談したり、困っている人に助言したりするスキルなど、研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要な知識や技術を練習する機会も提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業はオンラインで実施します。毎週プログラミングの課題を用意しますので、各自で自主的に取り組んでください。課題に関する質問や相談、課題へのフィードバックは Slack を使って行います。随時、質問や相談を書き込んでください。

プログラミングの習得や実技にかかる時間には大きな個人差があります。人によっては課題を完成させるために週 6 時間以上かかることもあります。全ての課題を事前に公開していますから、ゆっくり、じっくり時間をかけて取り組みたいと思う人、どうしても時間がかかってしまう人は、あらかじめ計画をして時間を確保した上で履修してください。

課題#10 以降はプログラムを自作するか、それまでと同様に課題に取り組んでプログラミングをさらに学ぶかを選択してもらいます。以下の授業計画には自作する場合のスケジュールを記載しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Python の基本と開発環境	○課題と課題の進め方、提出方法、評価について説明します。 ○ Python と PyCharm をインストールし、開発環境をセットアップします。
第 2 回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第 3 回	刺激制御	○ Kivy をインストールし、ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第 4 回	刺激制御	○ Kivy を使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。
第 5 回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第 6 回	刺激制御	○音源データを提示し、キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第 7 回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第 8 回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第 9 回	データの視覚化	○ Matplotlib をインストールし、データからグラフを作成するプログラムを作成します。

第 10 回	プログラム開発 (1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し、開発計画を立案します。
第 11 回	プログラム開発 (2)	○自作プログラムを開発します。
第 12 回	プログラム開発 (3)	○自作プログラムを開発します。
第 13 回	プログラム開発 (4)	○自作プログラムを開発します。
第 14 回	プログラム開発 (5)	○自作プログラムを発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○全 14 回ぶんの課題を学期開始前に公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。

○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。ただし、プログラミングには、予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまうと時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

何冊か例示しますが、図書館や書店に足を運んで、自分でページをめくり、読みやすそうなもの、必要な情報の例が多い本を選びましょう。

- プログラミング演習 Python 2019 喜多一 (2020) <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698> からダウンロードできます(無料)。
- 東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Python で手を動かして学ぶデータ分析~ 塚本ら マイナビ出版 (2019)
- エキスパート Python プログラミング 改訂 2 版 Jaworski ら ドワンゴ (2018)
- 入門 Python 3 (日本語) Lubanovic オライリー・ジャパン (2015)
- 独学プログラマー ~Python 言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経 BP (2018)
- Python 実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~ 陶山 技術評論社 (2020)

【成績評価の方法と基準】

○全 14 課題の課題得点中の獲得割合 (%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度はプログラムを自作することを選択した受講生も、課題に取り組むことを選択した受講生も、ほぼ全員コースを完走できました。来年度は完全オンライン制になります。時間割上のコマがなくなるので、課題の提出期限を守れるように支援できるかどうか鍵になると考えています。提出前日にリマインドを送るなどの方法を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

○大学のノート PC には管理者権限がなく、自分でソフトなどをインストールできないので、自分の PC を使うことをお勧めします。マイ PC を持っていないかた、用意できなければ事前に相談してください。

【その他の重要事項】

○本授業では民間のソフトウェア開発会社でプログラマー・SE として勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.”

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) write and debug codes in python, 2) read/write data files, 3) use python libraries, and 4) visualize data.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly assignments (100%) .

PSY200BG

人格心理学

杉山 崇

授業コード：A3724 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。

人格には 1) 人間の心理的な個人差（特徴）、2) 個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3) 生得的な生理・反応・行動傾向、4) 後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について事例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

【到達目標】

- 1) 「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身につける
- 2) 人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語れるようになる。
- 3) 人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め、自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「学習支援システム Hopii」を活用します。授業時間に必ず Hopii にアクセスし、「お知らせ」の支持に従って学修を進めて下さい。
 - ・担当教員が配布した講義動画の視聴、または講義資料を熟読した後、課題を提出する形で行います。
 - ・課題には「より深く学ぶための質問」も可能にしています。このシステムを活用して双方型授業として行います。
 - ・課題の提出がない場合は欠席とみなします。
- なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人格とは	ガイダンスと人格心理学の人間観
第 2 回	人格の理論①	精神分析的アプローチ
第 3 回	人格の理論②	学習理論、自己理論
第 4 回	人格の病理	パーソナリティ障害
第 5 回	類型論①	ユングのタイプ論：パーソナリティと職業
第 6 回	類型論②	ミロンの類型論
第 7 回	特性論①	因子分析と特性 5 因子論
第 8 回	特性論②	生物学的特性論
第 9 回	パーソナリティと欲求、恋愛	パーソナリティの偏り
第 10 回	人格の発達と統合①	遺伝行動学と生涯発達心理学
第 11 回	人格の発達と統合②	人格（スキーマ）形成と初期経験、スキーマ療法と人格の最適化
第 12 回	人格の発達と統合③	心理-社会的要因による情動調整
第 13 回	人格と進化論①	扁桃体の 3F とその統制の進化論
第 14 回	人格と進化論②	日本文化と謙遜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】次回授業のキーワードを 2 時間ほど調べ理解しておくこと。なお、キーワードを事前に知らせます。

【事後学習】人格心理学を通した 2 時間程度の自己理解の課題を毎回課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。
 なお、資料は web で配布するので学習支援システムにアクセスできる環境が必須である。

【参考書】

『心理学要論』培風館
 『心理学ビジュアル百科』創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点（各授業における課題の提出）50%とレポート（到達目標の達成度）50% レポートは授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合があります。詳しくは学習支援システムで指示します。

【その他の重要事項】

この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。

人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経-生理心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。

担当教員 HP : sugys-lab.com

【Outline (in English)】

（Learning Objectives）

You will learn the normal and abnormal state of the personality and the mechanism of the mind, and will be able to express self-understanding, understanding of others, and understanding of human society in your own words through personality psychology.

（Learning activities outside of classroom）

Preparation: Read the specified range of handouts and texts, and search for technical terms for about 2 hours.

Review: A review task of about 2 hours will be imposed each time, and a report for review will be imposed as needed.

（Grading Criteria/Policy）

Normal score (review task + class attitude) 30% and report (achievement of achievement goal) 70%

PSY200BG

集団社会心理学／心理学2（集団社会心理学）2

越智 啓太

授業コード：A3725, A2303 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集団社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング（キャラを作っていくこと）、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすればいいのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国どおしが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。

<学習目標>

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

<到達目標>

(1) 社会心理学の基本的な用語、概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようになる。

(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

<授業内容>

我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。授業後には毎回リアクションペーパーを、hopiiの掲示板に書き込む。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時 hopii 上で講評および追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	集団社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第2回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第3回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第4回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第5回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第6回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第7回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第8回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第9回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第10回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第11回	集団意思決定（1）	社会的な手抜き現象
第12回	集団意思決定（2）	集団意思決定におけるバイアス、リスクシフト
第13回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM理論
第14回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス＝ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）使いこなせるようにするとともに、あらかじめ提示する設問を解いておくこと。授業で十分でないところは、動画資料を視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリントを使用する。プリント（パワーポイントの抄録版）は、授業支援システムからダウンロードできるようにしておく

【参考書】

越智啓太（編）私たちはなぜ傷つけ合いながら助け合うのか：心理学ビジュアル百科 社会心理学編 創元社

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版

を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには3/5以上の出席を前提とする。

レポート（80%）+コメント（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！昨年比、ウェブを通して配付する資料、動画をさらに充実させました。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】

(1) 「社会心理学」（哲学科は心理学2社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。

(2) D評価のものが毎年5%～10%程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues communication process and group dynamics.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.

(2) to be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.

(3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG

カウンセリング心理学

下山 晃司

授業コード：A3726 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（対象者・創始者の哲学）や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようにすることを目標とします。

授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけでなく、対人援助における「実践の技（アート）」としても理解することを目指します。

【到達目標】

各理論の基礎的な内容（理論・対象者等）を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。

ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って、講義形式で解説していきます。

ロールプレイングでは、各自が Co（カウンセラー）、Cl（クライエント）、Ob（オブザーバー）役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。

毎回の授業でリアクションペーパーを回収し、次回授業冒頭でいくつかを紹介し（匿名）、質問・意見・要望等に対して全体にフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント	授業の進め方 各理論の共通基盤
第 2 回	精神分析 1	理論と対象者
第 3 回	精神分析 2	防御機制・転移感情
第 4 回	パーソン・センタード・アプローチ	カウンセラーの態度とグループエンカウンター
第 5 回	行動療法	基盤となる理論と対象者
第 6 回	行動変容	基盤となる理論と対象者
第 7 回	認知行動療法	理論と対象者
第 8 回	中間試験	前半部分の理解度測定
第 9 回	ロールプレイング 1	4 種類のサポート実習
第 10 回	ロールプレイング 2	テーマが決められた面接 1
第 11 回	ロールプレイング 3	テーマが決められた面接 2
第 12 回	ロールプレイング 4	テーマが決められた面接 3
第 13 回	ロールプレイング 5	テーマが自由な面接 1
第 14 回	ロールプレイング 6	テーマが自由な面接 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習・復習すること（4 時間以上）。

ロールプレイングで習得した内容を実践すること（4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

矢澤美香子（編） 2018 基礎から学ぶ心理療法 株式会社ナカニシヤ出版

【参考書】

W. ドライデン & J. ミットン著 酒井汀訳 2005 カウンセリング／心理療法の 4 つの源流と比較 北大路書房

ポール・ワクテル著 杉原保史訳 2002 心理療法の統合を求めて 精神分析・行動療法・家族療法 金剛出版

【成績評価の方法と基準】

主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します（50%）。

反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します（50%）。レポートの評価の観点は、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに 23 名中 15 名の回答がありました。「授業の工夫」についての最頻値=7 は「大変工夫していた」であり、「履修してよかったか」についての最頻値=8 は「大変よかった」でした。「理解度」については、12 名が 4 以上の評定をしていました。以上の結果からの気づきとして、回答者の満足度は高かったと考えられます。

自由記述は、「講義部分」と「ロールプレイング部分」に分けます。

<講義部分>

・スライド 6 枚で 100 分は冗長。

・出席は成績に含めないとはいえ、レポートや試験の持ち込みについての情報が一切 Hoppii で一切配信されないのはおかしいと思う。

→ カウンセリングは聴覚情報がメインで進んでいくことを説明し、「講義部分」と「ロールプレイング部分」が連動していることをオリエンテーションで説明します。レポート課題は Hoppii にアップロードしたので回答者の見落としですが、中間試験の情報もアップロードするようにします。

<ロールプレイング部分>（一部）

・カウンセラー役とクライエント役で実際にロールプレイをする機会はこの授業を取らないとなかったのでも良い機会となりました。実際に経験しないといけないことが多く、勉強になりました。

・毎回時間に限りがありますが、先生もシェアリングに参加して頂き、その場で疑問を解決できたのが良かったです。

・3 役それぞれの立場に立ったロールプレイングを複数回体験することができてよかったです。自己流でしかなかった話の聞き方が、役やシェアリングを通して、少しでも根拠のあるものになったのではないかと思います。

・カウンセリングを 5 回もできる授業はなかなかないので、毎回新鮮な気持ちで授業に臨める珍しい授業でした。またカウンセリングを通して自分の得意不得意が理解できたことも良かったです。個人的にレポート提出は電子提出でもいいのかなと思います。

・コロナ禍であまり機会がなかったので、実際にロールプレイを体験できたことが貴重なことだと思いました。ロールプレイを通じて話したことの無い人と話す機会になってよかったです。ロールプレイを通じてクライアントとしっかりと向き合うということができたと思います。先生のスライドも見やすく、重要どころがどこかとてもわかりやすかったです。授業を工夫してください。

・体験型のカウンセリングロールプレイを継続的にできるのがとてもよかったです。良かった点と改善点を振り返りできるのも、実践的な学習に非常に効果的なものだと思う。

・ロールプレイング以外の部分で、授業内の話が長く感じた。感想に対するフィードバックや一つの内容に関連する話を膨らませすぎているように思う（授業時間内に終わらせてくれるのはありがたいが）。

→ 実践を通して、講義だけでは伝わらない「カウンセリング」を、実体験として理解できたと思います。2022 年度は受講生が多く、時間配分がシビアでしたが、この点を改善します。また、「あらゆる人間の発話は、『要約』スキルの練習台になる」ことを説明します。

【学生が準備すべき機器他】

連絡や課題（リアクションペーパー）は授業支援システム（Hoppii）を通して行われますので、確実に登録してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the major counseling methods. It also enhances the development of students' skill in listening to others. Through consecutive role-playing, participants are expected to understand counseling as an 'art,' as well as theory of human understanding. Grading Criteria / Policy is as follows. Intermediate exam:50%, Term end report:50%.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

PSY200BG

心理学特殊講義 II

越智 啓太

授業コード：A3727 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：マーケティング心理学を通じて心理学の研究方法を学ぶ
この授業では、おもにマーケティング心理学、消費者行動論などの研究を用いて、調査、実験、ビッグデータ解析、多変量解析、機械学習、生理心理学的方法、ケース研究などのさまざまな人間行動についての研究手法を理解し、身につけることを目標とする。ペット茶飲料、スターバックス、デイズニールドまでさまざまな具体例をとりあげる

【到達目標】

(1) マーケティング心理学の基本概念と心理学の研究手法について理解し、記憶し、使いこなせるようになる。
(2) 実際の場面における人間行動について、さまざまな方法を用いて分析し、エビデンスに基づいた提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的には講義形式で行うが、授業内で調査の実習や分析の実習、企画の立案などの演習も何回か取り入れる。
毎回リアクションペーパーを授業支援システムなどで提出させ、直接または WEB 上でフィードバックを行う。また、発表などの際にはその場、あるいは授業終了後に詳細なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業方針についての説明など
第 2 回	プライシング (1)	価格設定についての実験心理学的研究、店舗内行動解析、眼球運動指標、サーモグラフィー
第 3 回	プライシング (2)	価格設定についての質問紙調査と行動経済学的な研究
第 4 回	プライシング (3)	ID-POS などのビッグデータを使用した分析、機械学習（教師なし学習）
第 5 回	プライシング (4)	価格設定、価格戦略についてのケース研究、ゲーム理論
第 6 回	マーケットセグメンテーション (1)	市場についての調査研究とその分析手法、主要な理論、定点分析、調査におけるバイアス
第 7 回	マーケットセグメンテーション (2)	コレスポンデンス分析や因子分析を用いた市場や消費者の分析、二次元マップピング、ケース研究
第 8 回	ブランディング (1)	ブランディングについての諸理論、ブランドイメージの測定、SD 法、生理心理学的手法、ニューロマーケティング
第 9 回	ブランディング (2)	ブランドパーソナリティ理論とその測定、分析、ケース研究
第 10 回	アドバタイジング	広告媒体の種類と心理学的特徴、ランダムフォレスト、到達率、認知率の予測
第 11 回	デザイン (1)	パッケージデザインの評価手法と分析感性的マーケティング手法、デザインと心理変数についての実験的研究、ブライミング、潜在学習とマーケティング
第 12 回	デザイン (2)	受講生によるデザイン分析の実習と発表（受講人数が多い場合には、講義での講評などに変更する）
第 13 回	コンシューマーパーソナリティ	消費者行動の個人差、心理尺度の構成、因子分析、行動によるマーケットセグメンテーション、重回帰分析、機械学習、ランダムフォレスト
第 14 回	全体のレビューとまとめ	エビデンスに基づいたマーケットリサーチと提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、2 時間以上の準備と 2 時間程度の復習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。プリントを WEB を通じて配布する。

【参考書】

各自、適切なものを自分で選択する。選択のサポートは行う。第 1 回の授業で文献と資料の収集方法について詳述する。

【成績評価の方法と基準】

レポート (80%) + 授業内での発言、ディスカッション (20%)

【学生の意見等からの気づき】

具体的なマーケティングの事例やデモンストレーションが多く、この点で非常に身近に感じてもらえたようです。レポートも全体的に良くできていたので、学習目標は達成できていると思います。本年度にはさらにあたらしいケース研究などを紹介して（特にデジタルマーケティングについてと機械学習によるマーケティングデータ分析）より、時代にマッチした授業にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自己所有の PC

【その他の重要事項】

(1) 広告や市場調査、商品企画、に興味のある学生、その種の業界に就職を希望する学生、パッケージデザインなどの商業デザインに興味のある学生、消費行動に関連したテーマで卒論を書きたい学生などに向いている。
(2) 受講に当たっては統計の基本的な知識を習得していることが望ましいが（1 年次の統計法で学んだ範囲）だが、それほど難しくはない。どうしてもわからない場合は個別指導する。統計的な内容に触れる場合も数学的な証明などは省略し、統計ソフトの使用とデータの読み方を中心に講義する。
(3) できるだけたくさん、具体的ケースや心理学の実験を紹介する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Theme: Learn how to study psychology through marketing psychology
The goal of this class is to acquire various psychological methods such as questionnaire, experiments, big data analysis, multivariate analysis, machine learning, psycho-physiological method and case studies, mainly using marketing psychology and consumer behavior study.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain the definition of the basic concept of marketing psychology and psychological research methods.
(2) To be able to analyze human behavior in real-life situations using various methods and make evidence-based proposals.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (80%) + contribution to class (discussion and comments) (20%)

PSY200BG

心理学英語Ⅱ

常深 浩平

授業コード：A3730 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【Learning activities outside of classroom】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Short reports in each time: 60%

Term-end report : 40%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	各自今学期の到達目標を決める
第 2 回	長文読解になれる（1）	記憶に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第 3 回	長文読解になれる（2）	言語発達に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第 4 回	英語論文の探し方	授業後半で使う英語論文の探し方
第 5 回	英語論文を読む（1）	英語論文の構成をつかむ 見出しの名称と内容
第 6 回	英語論文を読む（2）	タイトルとアブストラクトから何が分かるか
第 7 回	英語論文を読む（3）	メソッドの読み取り方
第 8 回	英語論文を読む（4）	リザルトとディスカッション、全体の構成
第 9 回	アカデミックライティング①	読みから書きへ
第 10 回	アカデミックライティング②	一文の英作文①
第 11 回	英語論文を読んで、それをレポートする（1）	一文の英作文②
第 12 回	英語論文を読んで、それをレポートする（2）	一段落の英作文
第 13 回	英語論文を読んで、それをレポートする（3）	長文の英作文を書くために
第 14 回	英語レポート発表	作成した英語レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英和辞典・和英辞典等

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題） 60%

期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で論文を扱う回を前年度より増やすこととする。

【その他の重要事項】

シラバス執筆時点では対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス等の感染状況が悪化した場合には授業形式を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

【Learning Objectives】

PSY200BG

身体運動の心理と生理

林 容市

授業コード：A3738 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、身体運動の基礎となる心理的・生理的基礎を学び、様々な身体活動やスポーツ実践時における身体動作の学習や発達について理解することを目的とします。

【到達目標】

- ・身体運動に関わる心理的・生理的基礎を学習する。
- ・様々な身体運動の制御や発達に関する知識・情報を学習する。
- ・自身の身体運動についてそのメカニズムを理解し、必要に応じて改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体運動に関連した心理的・生理的知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を、日常における自らの身体運動時にどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業内容に関連した個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とします。なお、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動に関わる諸要因について学ぶ
第 2 回	身体運動時における骨格筋の働き	骨格筋の構造・機能や筋力・筋パワーについて学ぶ
第 3 回	身体運動時における神経系の働き・調節 1	身体運動時の神経系の基礎的な働きについて学ぶ
第 4 回	身体運動時における神経系の働き・調節 2	神経系による身体動作の調節、運動と様々な反射について学ぶ
第 5 回	身体運動の知覚と運動の意図	身体運動時の感覚に関するメカニズムを学ぶ
第 6 回	身体運動の制御と学習	身体運動制御に関する 2 つのアプローチについて学ぶ
第 7 回	身体運動とイメージ	身体運動や身体のイメージの知覚に関する基礎を学ぶ
第 8 回	身体運動の動作を分析する	スポーツの動作を分析する手法や解釈を学ぶ
第 9 回	複雑な身体運動の獲得	複合運動学習について学ぶ
第 10 回	姿勢制御のメカニズム	姿勢を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 11 回	移動性機能制御のメカニズム	歩行等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 12 回	物品操作時の身体運動制御のメカニズム	把握やリーチ等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 13 回	身体運動の感覚と個人差	子供の身体運動感覚と発達における個人差について学ぶ
第 14 回	身体運動の発育・発達と幼児期の身体運動の考え方	幼児期・児童期における身体の発育・発達と身体運動のあり方について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また、ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておいてください。なお、これらの授業に向けた準備および復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%、2) ミニレポート：30%、の配分で総合評価する。
 ※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、開講以来初めて全ての回を対面で実施できました。しかし、教室の広さに問題があり、様々な身体動作を体験する機会を設けにくい状況でした。今年度の授業では、一方向的な知識提供の内容に加えて、受講生の皆さんが実際に身体を動かせる機会をできるだけ多く設け、内容の理解が深まるように授業を展開して行きたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to learn the psychological and physiological factors underlying body movements and exercise and understand the learning and development of body movements and physical activities during various physical activities and sports.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Study the psychological and physiological basis of physical activities.
2. Learn the knowledge and information about the control and development of various body movements.
3. Understand the mechanisms of one's body movements and improve them as necessary.

【Learning activities outside of the classroom】 Please gather information about the class contents described in the syllabus at the library before attending the class. In addition, students are expected to review the contents of each class and summarize their thoughts and opinions to prepare a mini-report. The standard time for preparation and review for these classes is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be as follows:

1. Class participation and understanding such as evaluated through reaction papers for each class(70%)
2. Mini-report(30%).

If a student is absent or late for class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

